

Threatened Wildlife of Fukui Pref.
Fukui Red Data Book

改訂版

福井県の
絶滅のおそれのある
野生動植物



2016 福井県

Threatened Wildlife of Fukui Pref. Fukui Red Data Book

改訂版

**福井県の絶滅のおそれのある
野生動植物**

2016

福井県

目次

発刊にあたって

総論

1 はじめに	1
2 「福井県の絶滅のおそれのある野生動植物」について	
(1) 作成の目的	2
(2) 調査・検討体制	3
(3) 評価の基準	9
(4) 選定結果	15
(5) 凡例	34
哺乳類	35
鳥類	45
爬虫類	97
両生類	105
淡水魚類	115
昆虫類	135
陸産貝類	231
淡水産貝類	257
維管束植物	271
索引	523

発刊にあたって

福井県は、豊かな山並みと日本海、これによる豊富な水、四季の変化に富んだ気候に加えて、水源となる広葉樹林、複雑に入り組んだ谷筋、よく手入れの行き届いた水田や畑地等が山間部にまで広がり、古くから人と自然が共生する美しい里地里山の景観が広がっています。

また、奥山から里山、農地、川、海、湖といった多様なタイプの自然環境が比較的まとまった地域に広がっており、私たちの身近なところで多様な生物や生態系をみることができます。

さらに、本県は日本列島のほぼ中央に位置し、国内での分布の北限または南限となる生物や、北方系と南方系の生物がみられるなど、生物学的にも特徴的なものとなっています。これら豊かな自然環境や生物多様性は地域固有のものであり、ここから生みだされる水や食べ物など様々な自然の恵みは、古来より本県に暮らす人々にとって当たり前のものであり、享受されてきました。

しかし、近年、都市化の進展や開発行為に伴う環境改変、また、人口減少にともなう里地里山の荒廃により、かつてあったような人と生物との共生の仕組みが失われつつあります。さらに、本来その地域にいない外来生物の侵入による在来生物の捕食や生息場所の奪取等により、地域固有の生態系や生物多様性が失われようとしています。

福井県では、1985年に本県の豊かな自然環境や在来生物を保全するため、県内に生息する動植物の分布状況等を取りまとめた「みどりのデータバンク」を作成し、定期的な調査によるデータ収集と更新を行ってきました。その後、2002年および2004年には、本県の絶滅の恐れのある動植物の現状について評価した「福井県レッドデータブック（2002）動物編」および「福井県レッドデータブック（2004）植物編」をはじめとして作成し、本県の動植物の保全対策に役立ててきました。

このたび、2012年から2014年にかけて、絶滅の恐れのある野生動植物の現地調査と文献調査を実施し、その成果として最新の知見を盛り込んだ「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」を発刊いたします。

本書が多くの県民の皆様により野生生物への理解と関心を深めていただくとともに、本データが希少な野生動植物の保護やその生息域となっている地域固有の自然環境の保全のための基礎資料として活用されることを願っております。

終わりに、本書の作成にあたりまして、多大な御協力をいただきました福井県レッドデータブック改訂事業検討委員会および関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 28 年 3 月

福井県安全環境部自然環境課

総論

1. はじめに

地球上に生息する生物は約 200 万種と言われている。もっとも、この 200 万との数字は「学名を持ち生物学的に正式に認知されている」生き物の種数にすぎない。実際には 1 千万とも 2 千万種とも言われる生物が地球には生息していると言われる。これは福井県でも同じ事で、我が県に一体何種の生物が生息しているか、との問いに誰もが正確な数字を示す事はできない。世界、県内を問わず、まだまだ未知の生き物が潜んでいるのである。

このように生き物に満ち溢れた地球であるが、約 6500 万年前の白亜紀の終わりに生物の大絶滅があった事は周知の事実だ。そして平成の現在もまた生物の大絶滅の時代である。改めて記すまでもないが、現下の生物絶滅の主たる原因は人間の文明活動である。

古き良き日本の農村の景観を今に伝える里山と太古そのままの荒波押し寄せる越前海岸。山と海両方の自然に恵まれた福井県と言えど、昨今の生物多様性の激しい衰亡とは無縁ではおられない。約 10 年前の福井県版レッドリストでは、県内の動物 371 種と維管束植物 458 種が絶滅種ないしは絶滅危惧種に指定されていた。しかし、今回の改定では動物種 533 種、維管束植物 731 種がレッドリストに挙げられた。単純に計算して、絶滅が心配される種の数がかつて 10 年で約 1.5 倍になった事になる。

この絶滅危惧種の増加の背景には県内生物種の調査が進んだがゆえの知見の蓄積との一面もあるが、第一義的には自然環境の悪化に他ならない。私自身、絶滅危惧種の野外調査で直面したのは里山、とりわけ陸水域の動植物の著しい減退である。具体的例を出すなら、湖沼や水田を住処とするガムシやゲンゴロウ類の個体数の減少ぶりが半端ではないのである。ため池の外観そのものは 10 年前と殆ど変わっていないと感じられるのに、そこに生息する水生昆虫類の数が急減している事実は、結局は生き物を育む里山の“体力”が絶対的に落ちている事を意味する。

もっとも悲観材料ばかりではない。日本海側に位置する他の府県版レッドデータブックと比較すると、福井県版ではより多くの種が絶滅危惧種として挙げられている事がわかる。これは福井県の自然環境が他地域と比べて特別悪化しているというわけではなく、希少種の調査が徹底して行われた結果である。県立の自然史博物館がなく、また県内の大学に理学部や農学部もない中、今回これだけ多くの絶滅危惧種を発掘できた事は誇りに思っており、関係者各位の尽力に深く敬意を表すところである。

言わずもがなの事であるが、レッドデータブック作成は出発点に過ぎない。市町や県の行政が主体となって県内の自然環境の保全を進めるのはもちろんだが、一人一人の県民ができる事もまた少なからずある。

県人口 80 万人の我が県が東京を目標にするのは全く無意味である。我々は“環境立県”で生きていくしかないという良い意味で諦観すればよい。郷土に愛着ある多くの県民の皆さまと一体となった自然回復活動の実現を切に願う。

平成 28 年 3 月

福井県レッドデータブック改定事業企画委員 保科 英人

2. 「福井県の絶滅のおそれのある野生動植物」について

(1) 作成の目的

福井県では、2002年に福井県レッドデータブック(動物編)を、2004年に同(植物編)を発行した。これらレッドデータブック掲載種は、各種開発事業が実施される際に、保全上重要な種として必ず選定されるなど、本県の生物多様性の保全に重要な役割を果たしてきた。また、自然環境行政の施策として、絶滅危惧種が集中する里地里山を福井県重要里地里山として選定、公表し、地域住民による保全活動を推進するなど、レッドデータブックは生物多様性の必要性を県民に伝え、保全再生への道標としても活用されてきた。

一方、発行から10年以上が経過した現在、本県の自然環境にも大きな変化がみられる。例えば、嶺南地方では生息数が増加したホンシュウジカの食害による森林植生の衰退が、2000年代前半からに急激に進んでいる。林床植生が消滅し、森林の生物多様性に深刻な影響を与えている。このような現象は、最近になって嶺北地方でもみられるようになり、今後、県内全域に広がることも危惧されている。

また、外来生物による生態系への影響も看過できない。ラムサール条約湿地となっている三方五湖や中池見湿地では外来生物の侵入により在来種の存続がおびやかされている。三方五湖の一つ三方湖では、2009年にブルーギルの侵入が確認され、その後、瞬く間に個体数が増加して優占種となっている。貴重な魚種をはじめ多くの在来魚が繁殖等に大きなダメージを受けていると考えられる。また、中池見湿地ではアメリカザリガニが、希少植物をはじめ、水生昆虫を食害することで湿地生態系に甚大な影響を及ぼしている。両湿地とも研究者、住民、行政等による自然再生のための協議会が立ち上げられ、外来生物への様々な対策も講じられているが、根本的解決は道半ばである。

しかし、2015年10月に本県において飼育繁殖したコウノトリの放鳥に象徴されるように、絶滅危惧種の保護に向けた活動も、この10年ほどで確実に進んでいる。本県の固有種であるヤシャゲンゴロウの生息域外保全が2006年から開始されたが、現在は自然保護センターなど複数施設での分散飼育で一定の成果を収めるに至っている。シャープゲンゴロウモドキ、アベサンショウウオ、オオキンレイカなども地域住民が中心となった保全活動が各地で活発化している。さらに、保全対象は絶滅危惧種にとどまらず、それらを含む地域固有の生態系を守る活動にも広がり、例えば、身近な生物の代表ともいえるメダカやドジョウ、カエルなど水田生態系の生物、普通種であっても地域のシンボルとなるカタクリ、ホタルなど、様々な生物種を対象に生物多様性の保全が一般化する兆しがみえ始めている。

今回のレッドデータブック改訂事業は、このように本県をとりまく自然環境、社会環境が変化する中で、改めて野生生物の状況を調査し、それぞれの種が抱える絶滅の危険性について再評価することが目的である。現状に即したレッドデータブックを公表することは、県や市町の自然環境行政に新たな指針をもたらし、県民の皆様にも本県の生物多様性の現状と保全への理解を促し、さらには多様な主体の“共動”による自然再生の実践に役立つものとする。

(2) 調査・検討体制

委員

福井県レッドデータブック改訂事業企画委員

担当部会	氏名	所属
鳥類・哺乳類	酒井 敬治	日本野鳥の会福井県 代表
	小嶋 明男	日本野鳥の会福井県 理事
両生・爬虫類・貝類	長谷川 巖	福井県両性爬虫類研究会 会長
	冨田 照代	株式会社 北陸環境科学研究所
魚類	田原 大輔	福井県立大学海洋生物資源学部 准教授
	松田 隆喜	福井県立福井農林高等学校 教諭
昆虫	保科 英人	福井大学地域政策講座生物学 准教授
	梅村 信哉	福井市自然史博物館 学芸員
植物	横山 俊一	元 福井大学教育地域学部 助教授
	松本 淳	越前町立福井総合植物園プラントピア 園長

専門部会委員

●鳥類・哺乳類部会

担当部会	氏名	所属	執筆	写真提供
部会長	酒井 敬治	日本野鳥の会福井県 代表	○	
副部会長	小嶋 明男	日本野鳥の会福井県 理事	○	
調査員	井尻 雅巳	日本野鳥の会福井県 理事		
	宇野 秀夫	日本野鳥の会福井県	○	
	宇野 竜司	日本野鳥の会福井県 理事	○	
	納村 力	日本野鳥の会福井県		
	大塚 智樹	日本野鳥の会福井県 理事		
	大西 五十二	日本野鳥の会福井県 理事	○	
	大橋 正明	日本野鳥の会福井県		
	香川 正行	日本野鳥の会福井県 理事	○	
	組頭 五十夫	日本野鳥の会福井県 副代表	○	○
	鈴川 文夫	日本野鳥の会福井県	○	○
	鈴木 聡	福井市自然史博物館 学芸員	○	
	須本 一郎	日本野鳥の会福井県 理事		
	武田 真澄美	日本野鳥の会福井県 理事	○	○
	辻 義次	日本野鳥の会福井県 副代表	○	○
	土田 孝幸	日本野鳥の会福井県 副代表		
	西垣 正男	福井県安全環境部自然環境課 主任	○	○
	長谷川 祐一	日本野鳥の会福井県		○
	藤本 尚子	日本野鳥の会福井県	○	○
	平城 常雄	日本野鳥の会福井県 理事	○	○
	堀田 統大	福井希少鳥類調査事務所	○	
	堀田 雅貴	Wild-Wings	○	○
	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長	○	○
	三原 学	日本鳥類標識協会	○	○
門前 孝也	日本野鳥の会福井県 事務局長			
柳町 邦光	日本野鳥の会福井県 顧問	○	○	
横山 大八	日本野鳥の会福井県	○		
吉田 一朗	日本野鳥の会福井県		○	
事務局	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長		

(調査協力) 小澤 俊樹 田川 亨 吉田 麻里子 渡 岳男 (写真提供) 上野山 雅子 北川 博正 山根 眞一

●両生類・爬虫類・貝類部会

担当部会	氏名	所属	執筆	写真提供
部会長	長谷川 巖	福井県両生爬虫類研究会 会長	○	○
副部会長	多田 照代	株式会社 北陸環境科学研究所	○	
調査員	浅利 裕美	NPO 法人 エコプランふくい	○	
	岡 友章	福井県両生爬虫類研究会	○	○
	岡井 貴洋	株式会社 ホクコン	○	
	奥野 宏樹	南越前町立南条小学校		
	川内 一憲	福井県両生爬虫類研究会	○	○
	川崎 隆徳	福井県淡水魚研究会	○	○
	杭出 義也	シラサワ建機 株式会社		
	児玉 晃治	福井県農林水産部水産課		
	小山 拓央	福井県土地改良事業団体連合会		
	樟本 好嗣	株式会社 サンワコン		
	白澤 照久	シラサワ建機 株式会社		
	竹中 靖康	株式会社 ビオ		
	田中 俊之	福井県両生爬虫類研究会	○	
	梨木 之正	小松市立博物館		
	藤井 豊	福井大学		
	藤野 勇馬	滋賀大学 学生	○	○
	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長		○
	事務局	百崎 孝男	すみだ水族館	
森田 ともえ		有限会社 下西農園	○	
森田 弘樹		株式会社 サンワコン		
渡 智美		福井県農林水産部食料産業振興課		
	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長		

(調査協力) 浅利 裕太 佐藤 汰樹 和田 千代 (写真提供) 越前松島水族館 大垣 内宏 大橋 健 金尾 滋史
 近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所 近畿地方整備局福井河川国道事務所 小堀 徳広 和田 千代

●魚類部会

担当部会	氏名	所属	執筆	写真提供
部会長	田原 大輔	福井県立大学海洋生物資源学部 准教授	○	
副部会長	松田 隆喜	福井県立福井農林高等学校	○	○
調査員	浅利 裕美	NPO 法人 エコプランふくい	○	
	岡 友章	福井県淡水魚研究会	○	○
	岡井 貴洋	株式会社 ホクコン		
	奥野 宏樹	南越前町立南条小学校		
	川内 一憲	福井県両生爬虫類研究会		
	川崎 隆徳	福井県淡水魚研究会	○	○
	杭出 義也	シラサワ建機 株式会社		
	児玉 晃治	福井県農林水産部水産課	○	
	小山 拓央	福井県土地改良事業団体連合会		
	樟本 好嗣	株式会社 サンワコン		
	白澤 照久	シラサワ建機 株式会社		
	竹中 靖康	株式会社 ビオ		
	多田 照代	株式会社 北陸環境科学研究所	○	
	田中 俊之	福井県両生爬虫類研究会		
	梨木 之正	小松市立博物館		
	古川 ともえ	有限会社 下西農園		
	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長		
森田 弘樹	株式会社 サンワコン	○		
渡 智美	福井県農林水産部食料産業振興課			
事務局	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長		

(調査協力) 芦田 裕樹 片山 暢 福井県立福井農林高等学校環境土木部

●昆虫部会

担当部会	氏名	所属	執筆	写真提供
部会長	保科 英人	福井大学教育地域科学部 准教授	○	○
副部会長	梅村 信哉	福井市自然史博物館 学芸員	○	○
調査員	伊藤 勝幸	福井市自然史博物館 非常勤職員	○	
	伊藤 哲男	株式会社 リコー 福井事業所	○	○
	井上 重紀	日本甲虫学会	○	
	岩佐 康平	福井市農林水産部	○	
	奥野 宏	福井生物研究会、日本蜂類同好会	○	
	岸本 修	福井県立武生高等学校 定時制	○	
	黒川 秀吉	日本蜂類同好会、福井生物研究会	○	
	齊藤 貞幸	日本トンボ学会、福井県農林水産部	○	○
	斎藤 昌弘	日本甲虫学会	○	○
	酒井 哲弥	福井県立藤島高等学校	○	
	柴田 智広	株式会社 福井環境分析センター	○	
	下野谷 豊一	福井市自然史博物館友の会 名誉会長	○	
	陶山 治宏	福井県立鯖江青年の家 主任	○	
	高津 琴博	大野市文化財保護審議会委員	○	○
	田埜 正	日本蜂類同好会、福井生物研究会	○	
	西 治敏	日本昆虫学会	○	
	野坂 千津子	日本蜂類同好会、福井生物研究会		
	羽田 義任 (故人)	元 日本蜂類同好会		
	福田 健	日本昆虫学会	○	○
	藤丸 陽子	株式会社 北陸環境科学研究所	○	
松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長	○	○	
室田 忠男	日本蜂類同好会、福井生物研究会	○	○	
和田 茂樹	日本トンボ学会	○	○	
事務局	松村 俊幸	福井県自然保護センター 所長		

(調査協力) 木村 富至 富沢 章 中島 淳 野一色 麻人 (写真提供) 富沢 章

●植物部会

担当部会	氏名	所属	執筆	写真提供
部会長	横山 俊一	元 福井大学教育地域学部 助教授	○	
副部会長	松本 淳	越前町立福井総合植物園 園長	○	
調査員	安達 誘	福井陸水生物研究会		
	石本 昭司 (故人)	元 福井県立大野高等学校		
	榎本 博之	福井県農業試験場 主任	○	
	北川 博正	元 勝山市立荒土小学校 校長	○	
	國永 知裕	福井県自然保護センター	○	
	黒田 明穂	福井県立丹生高等学校	○	○
	小林 則夫	元 勝山市立勝山南部中学校 校長	○	○
	斎藤 芳夫	日本シダの会	○	
	澤崎 孝也	福井県立武生東高等学校		
	中村 幸世	福井市自然史博物館	○	
	吉岡 俊人	福井県立大学 生物資源学部教授	○	
	吉村 洋子	日本シダの会		
	若杉 孝生	越前町立福井総合植物園 名誉園長	○	○
渡辺 定路	元 福井市自然史博物館 館長	○		
事務局	多田 雅充	福井県安全環境部自然環境課	○	○

(調査協力) 赤井 賢成 石塚 之彦 大川 善雄 阪本 英樹 白井 伸和 初田 利雄 松田 栄彦

(3) 評価の規準

改訂版 福井県レッドデータブックのカテゴリーと判定基準

■ 県域絶滅

- ・ 福井県内で野生では絶滅したと考えられるもの

過去に福井県に生息・生育したことが確認されているが、福井県において野生ではすでに絶滅したと考えられる種

【確実な情報があるもの】

- (1) 信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。
- (2) 信頼できる複数の調査によっても、生息・生育が確認できなかった。

【情報量が少ないもの】

- (3) 過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息・生育の情報が得られていない。

■ 県域絶滅危惧Ⅰ類

- ・ 絶滅の危機に瀕しているもの
- ・ 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

次のいずれかに該当する種

【確実な情報があるもの】

- (1) 既知のすべての個体群で危機的水準にまで減少している。
- (2) レッドデータブック第 1 版（注）以降の減少率が 50%以上ある。
- (3) 既知の生息・生育地が 1～2 箇所である。
- (4) 既知のすべての生息・生育地で、生息・生育条件が著しく悪化している。
- (5) 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。
- (6) ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。

【情報量が少ないもの】

- (7) それほど遠くない過去（30 年～50 年）の生息・生育記録以後確認情報がなく、その後信頼できる調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。

■ 県域絶滅危惧Ⅱ類

- ・ 絶滅の危険が増大しているもの
- ・ 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

次のいずれかに該当する種

【確実な情報があるもの】

- (1) 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。
- (2) レッドデータブック第 1 版以降の減少率が 30%～50%である。
- (3) 大部分の生息・生育地で生息・生育条件が明らかに悪化しつつある。
- (4) 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。
- (5) 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。

■ 県域準絶滅危惧

- ・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息・生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
- ・種の存続への圧力は強まっていないが、存続基盤が脆弱と判断されるもの

分布域の一部において (1) ~ (4) のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがある種、もしくは (5) ~ (7) の理由から存続基盤が脆弱と判断される種

- (1) 個体数が減少している。
- (2) 生息・生育条件が悪化している。
- (3) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。
- (4) 交雑可能な別種が侵入している。
- (5) 食物連鎖の上位に位置する。
- (6) 個体群サイズが小さい。
- (7) 分布域が限られている。

■ 要注目

- ・評価するだけの情報が不足しているもの

環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には (1) ~ (4) のいずれかの要素）を有しているが、生息・生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種、もしくは国のレッドリストに選定されるなど全国的に減少し、今後の個体数変動や分布変化に注意を要する種

- (1) どの生息・生育地においても密度が低く希少である。
- (2) 生息・生育地が局限されている。
- (3) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。
- (4) 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。

■ 絶滅のおそれのある地域個体群

- ・地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

次のいずれかに該当する地域個体群

- (1) 生息・生育状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息・生育域が孤立しており、地域レベルで見た場合、絶滅に瀕しているかその危険性が存在すると判断されるもの。
- (2) 地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているかその危険性が存在すると判断されるもの。

注：第1版（動物編）…1999～2001年に調査、2002年に発行
第1版（植物編）…2001～2003年に調査、2004年に発行

環境省レッドリストのカテゴリーと判定基準（2013）

カテゴリー及び基本概念		定性的要件	定量的要件	
絶滅 Extinct (EX) 我が国ではすでに絶滅したと考えられる種 (注1. 以下同じ)		過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、我が国ではすでに絶滅したと考えられる種	—	
野生絶滅 Extinct in the Wild (EW) 飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種		過去に我が国に生息したことが確認されており、飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態では存続しているが、我が国において本来の自然の生息地ではすでに絶滅したと考えられる種 【確実な情報があるもの】 ①信頼できる調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認されている。 ②信頼できる複数の調査によっても、生息が確認できなかった。 【情報量が少ないもの】 ③過去 50 年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。	—	
絶滅危惧 T H R E A T E N E D	絶滅危惧 I 類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN) 絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 ①既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 ②既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 ③既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 ⑤それほど遠くない過去（30 年～50 年）の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 Critically Endangered (CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。	A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。 1. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間（注 2. 以下同じ）を通じて、90%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、80%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長期間を通じて、80%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間において 80%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 B. 出現範囲が 100 km ² 未満もしくは生息地面積が 10 km ² 未満であると推定されるほか、次のうち 2 つ以上の兆候が見られる場合。 1. 生息地が過度に分断されているか、ただ 1 か所の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

カテゴリー及び基本概念	定性的要件	定量的要件
絶滅危惧 T H R E A T E N E D		<p>C. 個体群の成熟個体数が 250 未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 3 年間もしくは 1 世代のどちらか長い期間に 25%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 50 以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1 つの下位個体群中に 90%以上の成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が 50 未満であると推定される個体群である場合。E. 数量解析により、10 年間、もしくは 3 世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が 50%以上と予測される場合。</p>
		<p>絶滅危惧 I B 類 Endangered (EN) I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。</p> <p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、70%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長期間を通じて、50%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間において 50%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が 5,000 km²未満もしくは生息地面積が 500 km²未満であると推定されるほか、次のうち 2 つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、5 以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。

カテゴリー及び基本概念	定性的要件	定量的要件
		<p>C. 個体群の成熟個体数が 2,500 未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5 年間もしくは 2 世代のどちらか長い期間に 20%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 250 以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1 つの下位個体群中に 95%以上の成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少 <p>D. 成熟個体数が 250 未満であると推定される個体群である場合。</p> <p>E. 数量解析により、20 年間、もしくは 5 世代のどちらか長い期間における絶滅の可能性が 20%以上と予測される場合。</p>
<p>絶滅危惧 T H R E A T E N E D</p>	<p>次のいずれかに該当する種【確実な情報があるもの】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 ②大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 ③大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 ④分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。 	<p>A. 次のいずれかの形で個体群の減少が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、50%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっており、且つ理解されており、且つ明らかに可逆的である。 2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 3. 今後 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長期間を通じて、30%以上の減少があると予測される。 4. 過去と未来の両方を含む 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間において 30%以上の減少があると推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 <p>B. 出現範囲が 20,000 km²未満もしくは生息地面積が 2,000 km²未満であると推定され、また次のうち 2 つ以上の兆候が見られる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。 2. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等について、継続的な減少が予測される。 3. 出現範囲、生息地面積、成熟個体数等に極度の減少が見られる。 <p>C. 個体群の成熟個体数が 10,000 未満であると推定され、さらに次のいずれかの条件が加わる場合。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間に 10%以上の継続的な減少が推定される。 2. 成熟個体数の継続的な減少が観察、もしくは推定・予測され、かつ次のいずれかに該当する。 <ol style="list-style-type: none"> a) 個体群構造が次のいずれかに該当 <ol style="list-style-type: none"> i) 1,000 以上の成熟個体を含む下位個体群は存在しない。 ii) 1 つの下位個体群中にすべての成熟個体が属している。 b) 成熟個体数の極度の減少

カテゴリー及び基本概念	定性的要件	定量的要件
		D. 個体群が極めて小さく、成熟個体数が 1,000 未満と推定されるか、生息地面積あるいは分布地点が極めて限定されている場合。 E. 数量解析により、100 年間における絶滅の可能性が 10%以上と予測される場合。
準絶滅危惧 Near Threatened (NT) 存続基盤が脆弱な種現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。	次に該当する種生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 a) 個体数が減少している。 b) 生息条件が悪化している。 c) 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 d) 交雑可能な別種が侵入している。	—
情報不足 Data Deficient (DD) 評価するだけの情報が不足している種	次に該当する種環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性（具体的には、次のいずれかの要素）を有しているが、生息状況をはじめとして、カテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 a) どの生息地においても生息密度が低く希少である。 b) 生息地が局限されている。 c) 生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 d) 生活史の一部又は全部で特殊な環境条件を必要としている。	—
絶滅のおそれのある地域個体群 Threatened Local Population (LP) 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。	次のいずれかに該当する地域個体群 ①生息状況、学術的価値等の観点から、レッドデータブック掲載種に準じて扱うべきと判断される種の地域個体群で、生息域が孤立しており、地域レベルで見た場合絶滅に瀕しているかその危険が増大していると判断されるもの。 ②地方型としての特徴を有し、生物地理学的観点から見て重要と判断される地域個体群で、絶滅に瀕しているか、その危険が増大していると判断されるもの。	—

(注1) 種：動物では種及び亜種、植物では種、亜種及び変種を示す。

(注2) 過去 10 年間もしくは 3 世代：1 世代が短く 3 世代に要する期間が 10 年未満のものは年数を、1 世代が長く 3 世代に要する期間が 10 年を超えるものは世代数を採用する。

(4) 選定結果

①カテゴリー別選定種数

福井県レッドリスト一覧

第1版：福井県レッドデータブック動物編 2002 / 植物 2004
改訂版：福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016

分類群	県域絶滅		県域絶滅 危惧Ⅰ類		県域絶滅 危惧Ⅱ類		県域 準絶滅危惧		要注目		地域 個体群	計	
	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂		第1版	改訂
哺乳類	2	2			2	3	4	7	2	2		10	14
鳥類	1	1	21	25	27	17	29	32	11	48	6	89	129
爬虫類			1		3	1		2	4	3		8	6
両生類		1	2	1	1	1	1	4	1	3		5	10
淡水魚類			8	8	17	20	7	4	1	6	1	33	39
昆虫類	2	4	34	35	34	43	34	47	78	129		182	258
陸産貝類	3	3	4	9	16	15	6	6		21		29	54
淡水産貝類	3	3	3	3	5	8	3	5	1	4		15	23
維管束植物	13	20	159	235	130	199	76	119	80	158		458	731
総計	24	34	232	316	235	307	160	226	178	374	7	829	1264

福井県レッドリスト一覧（環境省カテゴリー該当種）

第1版：福井県レッドデータブック動物編 2002 / 植物 2004
改訂版：福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016

分類群	絶滅		野生絶滅		絶滅危惧 ⅠA類		絶滅危惧 ⅠB類		絶滅危惧 Ⅱ類		準絶滅危惧		情報不足		地域個体群		計	
	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂	第1版	改訂
哺乳類	1	2			1				2		2	1					6	3
鳥類			1	1	5	9	9	10	16	23	11	15	4	4			46	62
爬虫類							1	1	2			1	1	1			4	3
両生類					1	1		1	1	1	1	4					3	7
淡水魚類					2	3		5	4	9	1	7		2	1	3	8	29
維管束植物	1				6	4	31	18	63	62	12	47					113	131
昆虫類						5		14										
					絶滅危惧Ⅰ類(注)				12		35		11		68		6 36	
					第1版		改訂										35 158	
陸産貝類								2	7	11	9	19	3	6			19	38
淡水産貝類						2		2	2	7	6	9		2			10	20
総計	2	2	1	1	Ⅰ類第1版計 64		Ⅰ類改訂版計 75		109	148	53	171	14	51	1	3	244	451

注)：第1版発行時の環境省第2次レッドリストでは、無脊椎動物はⅠA類、ⅠB類の区別をせずⅠ類にまとめていたが、現行の第4次レッドリストから昆虫類がⅠA類とⅠB類に区分された。

②選定種一覧表

■福井県 RL：改訂版および第1版福井県レッドデータブックのカテゴリー

- ・絶滅（県域絶滅）・I類（県域絶滅危惧I類）・II類（県域絶滅危惧II類）・準絶（県域準絶滅危惧）・要注（要注目）
- ・地域（絶滅のおそれのある地域個体群）

■国 RL：環境省第4次レッドリストのカテゴリー

- ・野生（野生絶滅）・IA類（絶滅危惧IA類）・IB類（絶滅危惧IB類）・II類（絶滅危惧II類）・準絶（準絶滅危惧）
- ・情不（情報不足） ・地域（絶滅のおそれのある地域個体群）

■表中の○は、文献、現地調査等により確認情報が得られた市町。公表による悪影響が懸念される種については未記載。

●は、過去に記録があるが、絶滅したと考えられる市町。

哺乳類（14種）

No.	和名	福井県RL		国RL	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
		改訂	1版																			
1	ニホンオオカミ	絶滅	絶滅	絶滅																		
2	ニホンカワウソ	絶滅	絶滅	絶滅																		
3	ヒナコウモリ		II類	II類						○												
4	コテングコウモリ		II類							○			○									
5	テングコウモリ		II類	II類						○			○			○				○	○	○
6	カワネズミ		準絶	要注									○								○	○
7	モモジロコウモリ		準絶	要注	○					○					○	○	○			○	○	○
8	ユビナガコウモリ		準絶	準絶	○					○			○		○	○	○	○			○	○
9	ニホンモモンガ		準絶	準絶								○	○					○			○	○
10	ヤマネ		準絶	準絶	○	○							○	○						○	○	○
11	カヤネズミ		準絶		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
12	ホンデオコジョ		準絶	準絶	準絶																○	○
13	ニホンウサギコウモリ			要注																		○
14	ムササビ			要注		○				○		○	○		○	○		○	○	○	○	○

鳥類（129種）

No.	和名	福井県RL		国RL	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
		改訂	1版																			
1	トキ	絶滅	絶滅	野生																		●
2	カリガネ	I類	準絶	IB											○		○					
3	亜種オオヒシクイ	I類	I類	準絶	○										○							
4	コウトリ	I類	I類	IA	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○
5	サンカノゴイ	I類	I類	IB	○					○					○							
6	ヨシゴイ	I類	II類	準絶	○				○	○					○	○	○					○
7	オオヨシゴイ	I類	I類	IA	○						○											○
8	ミソゴイ	I類	II類	II類						○						○			○	○		○
9	クロツラヘラサギ	I類	I類	IB											○							○
10	ヒクイナ	I類	I類	準絶	○					○												○
11	シロチドリ	I類	II類	II類			○										○					○
12	カラフトアオアシシギ	I類	I類	IA											○							
13	ヘラシギ	I類	I類	IA											○							
14	タマシギ	I類	II類	II類	○					○						○						○
15	コアジサシ	I類	I類	II類											○							○
16	イヌワシ	I類	I類	IB																		
17	オジロワシ	I類	I類	II類	○							○			○		○					○
18	オオワシ	I類	I類	II類	○				○													○
19	オオタカ	I類	I類	準絶	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	クマタカ	I類	I類	IB	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21	ヤマセミ	I類	準絶			○						○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
22	フッポウソウ	I類	II類	IB	○				○			○							○			○
23	ヤイロチョウ	I類	I類	IB					○			○										○
24	チゴモズ	I類	II類	IA											○							○
25	アカモズ	I類	I類	IB	○					○					○							
26	イワヒバリ	I類	II類																			○
27	ウズラ	II類	要注	II類	○	○										○						○
28	マガン	II類	II類	準絶	○				○							○	○					○
29	コクガン	II類	II類	II類	○										○							
30	オシドリ	II類	準絶	情不	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
31	トモエガモ	II類	II類	II類	○				○						○	○	○	○	○	○	○	○
32	ササゴイ	II類	準絶			○			○	○					○	○	○	○	○	○	○	○
33	コサギ	II類			○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
34	ヨタカ	II類	II類	準絶	○	○			○	○		○	○			○	○	○	○	○	○	○
35	オオジシギ	II類	II類	準絶																		○
36	ホウロクシギ	II類	II類	II類	○			○	○						○		○	○				○
37	アカアシシギ	II類	II類	II類	○										○							○

No.	和名	福井県RL		国RL	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
		改訂	1版																			
538	ワチガイソウ	準絶											○								○	
539	ギンバイソウ	準絶	準絶		○	○		○	○	○												
540	ウメガサソウ	準絶	要注				○	○								○	○				○	○
541	ミヤマホツツジ	準絶																	○		○	○
542	ベニドウダン	準絶	準絶		○	○		○		○						○						
543	サツキ	準絶	要注					○		○	○				○					○	○	
544	シロヤシオ	準絶	要注													○					○	○
545	コケモモ	準絶																			○	○
546	リンドウ	準絶	要注		○	○	○	○		○	○					○	○			○	○	○
547	タテヤマリンドウ	準絶										○	○								○	○
548	テングノコヅチ	準絶	I類	準絶																	○	○
549	シロバナカモメヅル	準絶								○						○		○		○	○	○
550	コバナカモメヅル	準絶			○	○		○		○						○	○	○				○
551	オオマルバノホロシ	準絶			○			○	○	○					○	○	○	○				○
552	アブノメ	準絶	II類		○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○				○
553	フトボナギナタコウジュ	準絶				○		○				○										○
554	メハジキ	準絶			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○
555	タテヤマウツボグサ	準絶											○	○								○
556	デフノタツナミソウ	準絶				○			○	○					○	○	○	○				○
557	トモエシオガマ	準絶										○										○
558	イヌタヌキモ	準絶		準絶	○			○	○	○	○	○				○	○		○	○	○	○
559	オクノフウリンウメモドキ	準絶	要注										○								○	○
560	ハクサンシャジン	準絶											○									○
561	シデシャジン	準絶	要注																			○
562	ミツガシワ	準絶	準絶					○		○	○											○
563	オケラ	準絶	準絶			○	○	○		○	○						○	○				○
564	ミヤマコウゾリナ	準絶																				○
565	カセンソウ	準絶	準絶		○	○	○	○	○	○					○		○					○
566	レンブクソウ	準絶	II類		○				○		○	○	○			○					○	○
567	カンボク	準絶	要注															○	○	○	○	○
568	オトコヨウゾメ	準絶	要注			○			○													○
569	ハクサンオミナエシ	準絶											○									○
570	タカネマツムシソウ	準絶																				○
571	セリモドキ	準絶			○							○										○
572	ハマボウフウ	準絶	II類				○	○		○	○				○		○					○
573	オオカサモチ	準絶																				○
574	カノツメソウ	準絶														○						○
575	ミスズギ	要注			○			○	○	○	○					○	○					○
576	タチクラマゴケ	要注	準絶								○			○	○							○
577	アカハナワラビ	要注	要注			○	○			○	○				○							○
578	ヒメコケシノブ	要注									○	○										○
579	オウレンシダ	要注	要注																			○
580	マツザカシダ	要注	II類		○	○			○		○											○
581	カミガモシダ	要注			○	○			○		○											○
582	イヌチャセンシダ	要注	II類		○	○		○	○				○									○
583	テバコワラビ	要注		II類									○									○
584	タカネサトメシダ	要注										○	○									○
585	ヘラシダ	要注	要注		○	○		○	○						○							○
586	フモトシケシダ	要注	準絶						○													○
587	シマシロヤマシダ	要注	II類			○		○	○			○			○		○					○
588	ミヤマノギリシダ	要注			○	○	○	○	○		○				○							○
589	ナガバヤブソテツ	要注	II類		○	○	○		○	○	○			○								○
590	ミサキカグマ	要注								○		○										○
591	マルバベニシダ	要注			○	○		○	○	○	○		○	○								○
592	シノブ	要注			○	○	○		○	○		○	○									○
593	ナガオノキシノブ	要注	要注			○			○	○		○										○
594	ホテイシダ	要注	要注		○	○						○	○			○						○
595	ヒメノキシノブ	要注	要注			○	○	○			○											○
596	ミヤマノキシノブ	要注	要注			○			○		○	○										○
597	ヒメサジラン	要注			○	○		○	○			○	○		○	○						○
598	コウヤマキ	要注	要注			○																○
599	フタバアオイ	要注	要注							○			○									○
600	ウスバサイシン	要注	要注				○						○									○
601	ゼニバサイシン	要注													○							○
602	カゴノキ	要注			○	○	○		○	○												○
603	ショウブ	要注	要注		○					○				○	○	○	○					○
604	ヒロハテンナンショウ(アシウテンナンショウ型)	要注	要注			○			○	○			○	○	○	○						○
605	ミズバショウ	要注	要注																			○
606	ナベクラザゼンソウ	要注		II類								○										○
607	ハナゼキショウ	要注	II類							○						○						○
608	エビアマモ	要注	II類	準絶																		○
609	オオアマモ	要注		II類							○											○
610	スゲアマモ	要注		準絶											○							○
611	アマモ	要注	要注			○		○		○												○
612	コバノヒルムシロ	要注	I類	II類	○																	○
613	コバケイソウ	要注											○	○								○
614	ホトギス	要注															○		○			○

No.	和名	福井県RL		国 RL	若 狭 町	お お い 町	高 浜 町	美 浜 町	小 浜 市	敦 賀 市	越 前 町	南 越 前 町	池 田 町	永 平 寺 町	坂 井 市	越 前 市	あ わ ら 市	鯖 江 市	勝 山 市	大 野 市	福 井 市	
		改訂	1版																			
615	ツチアケビ	要注			○	○	○			○											○	
616	カキラン	要注			○	○	○	○		○	○			○	○	○	○			○	○	○
617	アケボノシュラン	要注			○	○		○	○			○	○			○	○			○	○	○
618	クモキリソウ	要注								○			○	○	○	○		○		○	○	○
619	コケイラン	要注			○	○	○	○	○				○		○	○	○			○	○	○
620	トンボソウ	Ⅱ類	Ⅱ類		○			○												○		
621	オヒガンギボウシ	要注			○				○												○	
622	イヌノヒゲ	要注				○		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○
623	ドロイ	要注	準絶			○		○		○	○				○							○
624	クモマスズメノヒエ	要注		準絶																○	○	
625	セイタカヌカボシソウ	要注		ⅠB					○											○		
626	アサギズズメノヒエ	要注			○	○		○												○	○	○
627	ミヤマズズメノヒエ	要注																		○	○	
628	イトテンツキ	要注		準絶																		○
629	マツバスケ	要注							○								○			○		
630	チャシバスケ	要注				○								○						○		
631	タニガワスケ	要注												○		○				○	○	
632	イトキンスゲ	要注																			○	
633	ハタバスケ	要注		ⅠB																○		
634	センダイスケ	要注				○		○	○	○					○		○					○
635	タチスケ	要注	要注		○		○	○	○	○						○	○			○		○
636	ノゲヌカスケ	要注			○		○	○	○					○								○
637	イトヒキスケ	要注	Ⅰ類	Ⅱ類																		○
638	ヒメモエギスケ	要注			○		○			○				○		○					○	○
639	ヒメガヤツリ	要注			○						○					○						○
640	オオヌマハリイ	要注				○			○	○	○									○	○	
641	イソヤマテンツキ	要注			○	○	○	○	○						○							○
642	イトイヌノハナヒゲ	要注		Ⅱ類						○	○	○					○			○	○	
643	イヌノハナヒゲ	要注			○			○		○	○					○	○	○	○	○	○	○
644	ミヤマホタルイ	要注	要注							○	○									○	○	
645	フトイ	要注			○			○	○		○		○		○		○			○	○	○
646	テンキグサ	要注	準絶				○	○	○	○	○				○		○					○
647	セイタカヨシ	要注	要注		○		○								○	○	○			○		○
648	ルイヨウショウマ	要注	要注																		○	○
649	アズマイチゲ	要注	Ⅰ類										○								○	○
650	リュウキンカ	要注	要注									○			○						○	○
651	コボタンツル	要注				○			○												○	○
652	トウゴクサバノオ	要注	Ⅱ類										○									○
653	ツゲ	要注	要注			○		○		○						○						○
654	ヒュウガミズキ	要注	要注		○	○	○			○	○					○	○					○
655	コマガタケスグリ	要注																				○
656	コガネネコノメソウ	要注	要注										○									○
657	チヂツバベンケイ	要注	Ⅱ類				○						○			○						○
658	ホザキノフサモ	要注	要注		○				○					○	○		○			○		○
659	モメンツル	要注												○								○
660	ニワフジ	要注							○		○				○		○				○	○
661	ツルフジバカマ	要注							○						○					○		○
662	オオバクサフジ	要注	要注																			○
663	エビラフジ	要注											○									○
664	ミヤマチヨウジザクラ	要注	要注								○	○										○
665	オオウラジロノキ	要注			○	○		○	○	○		○				○					○	○
666	ミツモトソウ	要注	要注																			○
667	ミチノクナシ	要注		ⅠB	○	○					○		○								○	○
668	コジキイチゴ	要注	準絶		○	○			○			○	○								○	○
669	ユキヤナギ	要注				○															○	○
670	ヨコグラノキ	要注	要注						○	○												○
671	エゾノクロウメモドキ	要注	Ⅱ類								○	○		○		○				○	○	○
672	ハルニレ	要注	準絶																			○
673	ヒメイタビ	要注								○												
674	ツクバネガシ	要注			○	○		○	○	○												○
675	シラカンバ	要注	要注																			○
676	ノウルシ	要注	Ⅱ類	準絶						○												○
677	ヒメナツトウダイ	要注																				○
678	コガンピ	要注																				
679	ミゾハコベ	要注	要注		○			○	○	○			○		○	○	○				○	○
680	ヒコスミレ	要注	要注			○			○													○
681	アカネスミレ	要注	要注								○	○					○				○	○
682	オクヤマオトギリ	要注											○	○							○	○
683	シナノオトギリ	要注																				○
684	ビッチュウフウロ	要注	要注										○									
685	メタカラコウ	要注	要注																			○
686	ミズキカシグサ	要注	Ⅰ類	Ⅱ類	○	○			○			○										○
687	ケゴンアカバナ	要注																				○
688	アシボソアカバナ	要注																				○
689	ミヤマアカバナ	要注																				○
690	ホソバアカバナ	要注																				○
691	ミズユキノシタ	要注	Ⅱ類		○	○			○	○		○		○	○	○	○					○

(5) 凡 例

種名																	学名 目名・科名
【福井県カテゴリー】新：注1					旧：注2					【環境省カテゴリー】注3							
選定理由										分 布							
希少性、減少傾向など、本書の対象種として選定した主な理由を記載した。										日本および福井県内における分布状況について記載した。							
種の特徴										生息を脅かす要因							
種の特徴を示す形態、生態、生息・生育環境などについて記載した。										絶滅種については「絶滅に至った要因」を、その他は「種の存続を脅かす要因」について記載した。							
																	参考文献
																	記載にあたり参考にした主な文献の著者（発表年）。詳細は各分類群巻末にある文献リストを参照。
注4																	
市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

- 注) 1：改訂版福井県レッドデータブックのカテゴリー
 2：第1版福井県レッドデータブック（動物編・植物編）のカテゴリー
 3：環境省第4次レッドリストのカテゴリー
 4：○ 文献・現地調査等により確認情報が得られた市町
 ● かつて生存していた記録のある市町
 ※公表による悪影響が懸念される種については記載していない



福井県市町位置図

哺 乳 類

概 説

本県の陸生哺乳類相については、「福井の鳥とけものたち」（福井県自然環境保全調査研究会、1998）およびレッドデータブック（2002）により、7目19科48種の陸生哺乳類の分布・生息が記録されている。このうち、絶滅種2種（ニホンオオカミ、ニホンカワウソ）、確認が必要な2種（イイズナ、ヤチネズミ）および外来種9種（ドブネズミ、ハツカネズミ、クマネズミ、ヌートリア、アライグマ、ハクビシン、ノイヌ、ノネコ、チョウセンイタチ）、を除き、2002年以降、新たに生息が確認されたコテングコウモリを加えると、福井県に現在生息する在来の哺乳類は7目15科36種となる。これらの種の分類群毎の内訳は、モグラ目2科6種、コウモリ目2科9種、サル目1科1種、ウサギ目1科1種、ネズミ目3科9種、ネコ目3科7種、ウシ目3科3種となっている。これらの多くは大陸に分布する種の日本亜種であるが、ヒメヒミズ、ヒミズ、ヤマネは日本固有属、アズマモグラ、ニホンザル、ニホンリス、ホンドモモンガ、スミスネズミ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、ニホンイタチ、ニホンカモシカは日本固有種である。白山山系で生息が確認されているホンドオコジョは、本県が日本の西限となっている種である。また、ニホンカモシカも、本州の連続した分布の中では、本県がほぼ西限となっている。その他、カグヤコウモリ、ヤマコウモリ等も本州の連続した分布の中で隣県の石川県が西限であり、本県でも記録される可能性はある。

本県の哺乳類の現状について特筆すべきこととしては、近年、嶺南地方が主な生息場所であったニホンザル、ホンシュウジカ、イノシシが全県的に分布域を拡大、個体数も急激に増加している。嶺南地域ではホンシュウジカによる森林の下層植生の食圧により希少な植物が消失する等の生態系被害が、県内全域でイノシシによる農作物被害が発生している。また、近年、敦賀以西の伊吹、比良山系のニホンカモシカの生息情報がほとんどなく、個体数が増加したホンシュウジカの直接的またはホンシュウジカによる環境変化の影響と考えられる。さらに、外来生物であるアライグマが県内全域に生息し、水生動物や鳥類の卵・ヒナなどの在来生物を捕食するといった生態系被害が、ヌートリアについても高浜町、おおい町、小浜市に生息し農作物を食害する被害が発生している。

本県に生息する哺乳類については、奥越地方から石川県と岐阜県にまたがる白山山系の山岳地帯に分布する小型哺乳類（コウモリ類やモグラ類、ネズミ類）の調査が不十分な状況であり、今後の調査が待たれる。

選定種の基準

絶滅のおそれのある哺乳類について、種の選定およびランク付けを行う場合、各種の生息現状の客観的評価を行なうために、過去から現在までの個体数と分布域を継続的にとらえていく必要がある。しかし、本県の哺乳類においては、個体数はもとより、分布域における情報さえ不足している。このような現状の中、今回の選定においては、以下の基準で選定した。すなわち、環境省のレッドリスト「哺乳類」のうち、福井県で生息しているか、または、生息していたことが確認されている種として、ニホンオオカミ、ニホンカワウソ、ホンドオコジョの1目2科3種を、環境省レッドリストの指定からは外れるが、本県において、特に絶滅の恐れがあると判断される種として、カワネズミ、モモジロコウモリ、ヒナコウモリ、ウサギコウモリ、ユビナガコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、ホンドモモンガ、ムササビ、ヤマネ、カヤネズミの4目5科11種を選定した。これにより、今回選定された福井県の絶滅の恐れのある哺乳類は5目7科14種となり、これは本県に生息する哺乳類（外来種および絶滅種、要確認種を除く）36種の約39%となった。なお、いずれの選定種についても、現状において早急な対策を講じなければ絶滅に至る状況ではない。コウモリ類をはじめ多くの選定種は情報不足であり今後の生息環境の改変によっては、絶滅に至るおそれがあると判断される。また、今回新たに選定した2種（カヤネズミ、ムササビ）については、本県には比較的広く分布、生息しているが、局所的でかつ人為の影響を受けやすい種であり、今後の環境改変には配慮が必要であるという観点で、警鐘を鳴らす意味で選定した。このほかにも、アズマモグラ、ヒメヒミズが、情報不足であり判断困難な種としてあげられるが、両種ともに隣接する石川県の白山山系の個体群と連続しており、石川県では今のところ絶滅のおそれがないと判断されていることや、本県でも生息域の大きな改変が考えられないことを考慮し今回は、選定外とした。

また、アズミトガリネズミ、ミズラモグラ、ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、ヤマコウモリは、本県での

確実な生息情報はないが、石川県あるいは岐阜県では確認されており、連続した生息分布の中で、本県でも今後調査を行うことにより、生息が確認される可能性は十分にあり、この場合、選定種としてリストアップされることになる。
以上の選定基準を鑑み、暫定版として、今後においても見直しが不可欠であることを強調しておきたい。

(西垣 正男、鈴木 聡)

ニホンオオカミ

Canis lupus hodophilax Temminck
ネコ目・イヌ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅

選定理由

本県を含め 50 年以上、生息記録がない。

種の特徴

頭胴長 95 ～ 114cm、尾長 30cm。群れとなってシカやイノシシ、ノウサギ等を捕食し、草食動物の個体数増加を抑制していたと考えられる。

分 布

本県をはじめ、かつては、本州、四国、九州に広く生息していた。1905 年に奈良県鷲家口での捕獲記録が国内最後となっている。

絶滅した要因

家畜を襲う等により有害獣として捕獲されたことや、ジステンパー等の感染症が絶滅の要因とされている。

参考文献 阿部永 (2008)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

ニホンカワウソ

Lutra lutra nippon Imaizumi & Yoshiyuki
ネコ目・イタチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅

選定理由

本県では 50 年以上、生息記録がない。

種の特徴

頭胴長 55 ～ 58cm、尾長 35 ～ 56cm。河川の中下流部～沿岸部に生息し、水中で魚類、甲殻類を、陸上でネズミ類、鳥類を捕食する。川岸に巣穴を掘り家族単位で生活する。

分 布

北海道～九州まで、河川の下流部に広く生息していた。高知県南西部において 1979 年以降に確実な生息記録がなく、絶滅したと考えられている。

絶滅した要因

良質な毛皮を目的とした乱獲とともに、全国的な河川改修による生息地の消失と河川環境の悪化による餌となる魚の減少等が挙げられる。

参考文献 福井県 (1999)、阿部永 (2008)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

ヒナコウモリ

Vespertilio sinensis (Peters)
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県での既知の生息場所は 1 か所であり、生息状況は不安定である。

種の特徴

本来は樹洞をねぐらにすると考えられているが、神社等の家屋や人工建造物等の利用も知られている。初夏になると雌親ばかりの出産哺育集団を形成し、2 子を出産する。餌となる昆虫類が減少する冬期には冬眠するが、詳細は不明である。

分 布

北海道、本州、四国、九州で広く生息が確認されている。敦賀市では数百頭からなる繁殖集団が唯一みつかっているが、現在の状況は不明である。

生息を脅かす要因

伐採等による自然林の消失により、本来のねぐらである樹洞及びねぐら周辺の餌となる昆虫類の発生場所の消失が挙げられる。

参考文献 福井県 (1999)、保科 (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

モモジロコウモリ

Myotis macrodactylus (Temminck)
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息洞穴内及び周辺の環境悪化により生息地が消滅する危険性があり、生息状況は不安定である。

分布

北海道、本州、四国、九州及び幾つかの島嶼部で生息が知られている。本県では8市町で確認されている。

種の特徴

洞穴をねぐらとしているコウモリで、数百から数千頭の群を形成する。また、コキクガシラコウモリやユビナガコウモリと混群を作る。初夏に1子を出産し、幼獣は生後30日ぐらいで飛翔できるようになる。餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する。

生息を脅かす要因

生息洞穴内に人が立ち入りゴミを投棄する等による環境悪化や懸下しているコウモリに人間が触れる等の行為が挙げられる。

参考文献 阿部永 (1994)、福井県 (1998)、日高敏隆 (1996)、林敏之 (2002)、保科英人・蓑輪隆範 (2005)、保科英人ほか (2008)、百崎孝男 (2009)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○	○	○		○	○	○

ユビナガコウモリ

Miniopterus fuliginosus (Hodgson)
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息洞穴内及び周辺の環境悪化により生息地が消滅する危険性があり、生息状況は不安定である。

分布

本州、四国、九州及び幾つかの島嶼部で生息が知られている。本県では8市町で確認されており、若狭町には数千頭の冬眠集団が確認されている。

種の特徴

洞穴をねぐらとしているコウモリで、数百～数万頭の大群を形成する。初夏になると雌親ばかりの出産哺育集団を形成し、1子を出産する。幼獣は生後30～40日ぐらいで飛翔できるようになる。餌となる昆虫類の飛翔が減少する冬季には冬眠する。

生息を脅かす要因

生息洞穴内に人が立ち入りゴミを投棄する等による環境悪化や懸下しているコウモリに人間が触れる等の行為が挙げられる。

参考文献 阿部永 (1994)、福井県 (1998)、日高敏隆 (1996)、保科英人・蓑輪隆範 (2005)、保科英人ほか (2008)、百崎孝男 (2009)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○				○		○		○	○	○		○

ニホンモモンガ

Pteromys momonga Temminck
ネズミ目・リス科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

巣となる樹洞ができる大径木が自然林の伐採等により消失していることから、生息環境が悪化している。

分布

日本固有種。本州、四国、九州に分布している。本県では4例（大野市上打波嵐谷、鯖江市上戸口町、池田町の足羽川上流、南越前町）での情報があるのみである。

種の特徴

低山～亜高山の森林に生息する。夜行性で主に樹上で活動し、被膜を用いて木々間を滑空し移動する。樹洞を巣にするほか、テングス病の針葉樹の枝の中や樹上に小枝を集めて巣を作る。植物食性で、樹木の芽、葉、花、樹皮、種子、果実のほか、キノコも採食する。

生息を脅かす要因

自然林の伐採による生息環境の分断、縮小が挙げられる。

参考文献 福井県 (1998)、福井県 (1999)、日高敏隆 (1996)、松村俊幸 (1995)、大迫義人 (1996)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○					○		○	

ヤマネ

Glirulus japonicus (Schinz)
ネズミ目・ヤマネ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の生息情報は少なく、生息密度は低いと考えられる。ひそみ場所や繁殖場所となる樹洞の減少や餌となる昆虫が多数生息する自然林及び落葉広葉樹林の伐採等により、生息環境が悪化している。

種の特徴

国指定天然記念物。低山帯～亜高山帯の広葉樹林に生息する。果実や種子のほか昆虫もよく捕食する。夜行性で、主に樹上で活動し、日中は樹洞等で休息する。昆虫がいなくなる冬は冬眠する。繁殖は、春～秋に1～2回で、産子数はふつう3～6子。

分布

日本固有種。本州、四国、九州のほか、隠岐島後に分布している。県内7市町で生息が確認されているが、生息情報は少ない。

生息を脅かす要因

繁殖やひそみ場所となる樹洞及び餌となる多くの昆虫が生息する自然林の伐採による生息域の縮小や分断が挙げられる。

参考文献 福井県（1998）、福井県（1999）、日高敏隆（1996）、阿部永（1994）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○						○	○					○	○	○	

カヤネズミ

Micromys minutus (Pallas)
ネズミ目・ネズミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息場所は局所的または限定的で、生息・繁殖場所となっている水田、休耕地、河川敷、湿地等にあるイネ科の高径草地は、土地改良事業や河川の護岸工事、土地開発により減少している。

種の特徴

頭胴長5～8cm、尾長6～8cm、体重7～14g程度で、ネズミ科の中では体サイズが最小の種である。イネ科植物の優占する草地、河川敷、堤防や水田等に生息する。

分布

本州の太平洋側では宮城県以南、日本海側では新潟県及び石川県以南、四国、九州及び隠岐諸島、淡路島等に分布する。本県では、15市町で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

生息・繁殖場所となる水田、休耕地、河川敷、湖沼や湿地等において、イネ科の高径草地環境の土地改良、土地開発、河川湖沼の護岸工事等による消失が挙げられる。

参考文献 福井県（1998）、福井県（1999）、日高敏隆（1996）、阿部永（1994）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○

ホンドオコジョ

Mustela erminea nippon Cabrera
ネコ目・イタチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生息地は、1か所で情報はほとんどない。生息場所となる亜高山帯の環境は限定的であり、生息状況は不安定である。

種の特徴

山地帯上部～高山帯に生息する。夏は亜高山帯の岩場で活動するほか、低木の多い森林内でもみられる。鳥類やその卵、ネズミ類、昆虫等の小動物を捕食する。出産期は春で、樹洞や石のすき間等につくった巣で子を産む。

分布

本州の中部以北に分布し、北海道には別亜種のエゾオコジョが分布する。本県では、勝山市北谷町で生息が確認されているだけである。

生息を脅かす要因

主な生息地である亜高山帯の環境変化が挙げられる。

参考文献 阿部永（1994）、福井県（1998）、福井県（1999）、大迫義人・角照美（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ニホンウサギコウモリ

Plecotus sacrimontis G. M. Allen
コウモリ目・ヒナコウモリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では、1例の確認があるだけで、情報不足である。

分布

北海道、本州、四国に生息している。県内では勝山市北谷で1例が確認されているだけである。

種の特徴

ねぐらとして、自然洞窟、廃坑、隧道や家屋、樹洞を利用することが知られている。落葉広葉樹や針広混交林を生息場所としている。

生息を脅かす要因

主な生息地となる落葉広葉樹林や針広混交林の伐採が影響を及ぼすと考えられる。

参考文献 阿部永（1994）、東洋編蝠研究所（2005）、百崎（2009）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

ムササビ

Petaurista leucogenys (Temminck)
リス目・リス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

繁殖や休息場所として不可欠な樹洞ができる大径木のある森林の伐採により生息環境が消失または孤立している。

分布

北海道を除く本州、四国、九州、沖縄に生息している。県内では樹木の伐採で幼獣が保護されるケースにより生息が確認されることが多い。

種の特徴

低山～亜高山の樹洞ができる自然林や二次林に生息する。夜行性で完全に樹上で活動し、被膜を用いて木々間を滑空し移動する。植物食性で、樹木の芽、葉、花等を採食する。ねぐらや繁殖場所として、樹洞のほか人家の屋根裏も利用する。

生息を脅かす要因

繁殖や休息場所に不可欠な樹洞のある大径木を有する自然林や発達した二次林の減少が挙げられる。また、生息場所が樹上に限定されていることから道路等による森林の分断は、生息場所を孤立させ個体群の存続に重大な影響を及ぼす。

参考文献 阿部永（1994）、日高敏隆（1996）、福井県（1998）、福井県（1999）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○		○	○		○	○		○	○	○	○

文献一覧

- 阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 1994. 日本の哺乳類. 東海大学出版会.
- 阿部永 (監), 2008. 日本の哺乳類, 改訂2版. 東海大学出版会.
- 福井県, 1998. 福井県の鳥とけものたち. 福井県.
- 福井県, 1999. 福井県のすぐれた自然動物編. 福井県.
- 林敏之, 2002. 福井県における洞穴性コウモリの生息状況. *Ciconia*, 10 : 41-45.
- 日高敏隆 (監), 1996. 日本動物大百科1 哺乳類 I. 平凡社.
- 保科英人, 2011. 福井県大野市で捕れたカワネズミ. 日本海地域の自然と環境, (18) : 123-124.
- 保科英人・松田智子・中本新之助, 2008. 福井県内の防空壕における洞穴性コウモリ類の分布に関する知見. 福井市自然史博物館研究報告, (55) : 69-72.
- 保科英人・蓑輪隆範, 2005. 福井県における洞穴性コウモリ類の分布に関する知見. 福井市自然史博物館研究報告, (52) : 75-82.
- 環境庁自然保護局, 1993. 第4回自然環境保全基礎調査, 動植物分布調査報告書 (哺乳類). 環境庁自然保護局.
- 環境庁編, 1993. 日本産野生生物目録—本邦産野生動植物の種の現状—脊椎動物編. 日本野生生物研究センター
- 前田喜四雄, 1979. 日本の哺乳類 (16) 翼手目, テングコウモリ属, コテングコウモリ. *哺乳類科学*, (37) : 1-16.
- 前田喜四雄, 1984. 日本産翼手目の採集記録 (1). *哺乳類科学*, (49) : 55-78.
- 松村俊幸, 1995. 福井県におけるホンシュウモモンガの生息状況. *Ciconia*, 4 : 65-69.
- 三原学・大迫義人, 1999. 1998年福井県大野市で捕獲されたカワネズミ. *Ciconia*, 8 : 35-37.
- 百崎孝男, 2009. 福井県の人工洞窟とそこで確認されたコウモリ類及びチビゴミムシ類. 福井市自然史博物館研究報告, (56) : 21-30.
- 日本哺乳類学会編, 1997. レッドデータ日本の哺乳類. 文一総合出版.
- 大迫義人, 1996. 福井県鯖江市で記録されたホンドモモンガの幼獣. *Ciconia*, 5 : 103-106.
- 大迫義人・角照美, 1995. 1994年福井県で観察されたオコジョ. *Ciconia*, 4 : 71-72.
- 東洋蝙蝠研究所, 2005. 月刊蝙蝠, 第1巻. こうもり博物館.

鳥類

概 説

1. 福井県産鳥類の生活史および生息環境

2016年2月現在、福井県において記録されている鳥類は334種である。これらの種を生活史で分類すると、留鳥75種(22.5%)、夏鳥41種(12.3%)、冬鳥112種(33.5%)、旅鳥84種(25.1%)、迷鳥17種(5.1%)、外来種5種(1.5%)となり、冬鳥の比率が最も高く旅鳥が続く。これは本県が日本海を挟んで大陸に面し、大陸からの渡り鳥が飛来することに起因している。

また、生息環境で分類すると、山野を主な生息地にしている種が178種(53%)、水辺を主な生息地にしている種が156種(47%)である。また、生息環境をさらに詳しく分類※した上で、それぞれの環境を利用している種の比率を算出すると、樹林34%、草原14%、水際25%、水面20%、市街地3%、空中と崖地が2%ずつで、水辺に棲む種の割合(45%)が最も高い。

※分類した環境は次のとおりである

樹林、草原(亜高山・河川)、水面(海域・河川・湖沼)、水際(砂浜・水田・湿地・ヨシ帯)、空中、崖、市街地

2. 改訂レッドリストの選定方法

(1) 選定対象種

今回の改訂にあたり選定の対象としたのは、福井県産鳥類334種の内、外来種5種(コジュケイ、コブハクチョウ、ドバト、ソウシチョウ、ガビチョウ)と迷鳥17種(ナベコウ、タンチョウ、ノガン、クロハゲワシ、カラフトワシ、アカハラダカ、太平洋性の海鳥11種)を除く、312種である。この種の中から、以下の目標と手順、基準により選定した。

(2) 作成目標と作業手順

<目標>

改訂版においては、第1版よりもランク評価の客観性を高める。

<手順>

上記目標を達成するため、以下の手順により作業を進める。

①カテゴリーの定義を見直す(別紙参照)。

②第1版選定種に、福井県で記録がある国レッドリスト選定種、北陸地方や近隣県での選定種、調査員からの提案を加え、調査対象種案を作成する。

③過去の記録の見直しや活用、環境アセスメント調査データの活用、過去の記録地における現地調査を行う。ただし現地調査は、すべての種において行うことは時間的、経済的に困難であるため、部会内の協議により、現地調査対象種を選定する。

④調査結果のデータベース化により、種毎の確認記録件数を算出して過去の記録との比較を行い、これに調査員の経験値を加えて増減傾向を把握した。

⑤最後は以下の基準に基づき、改訂レッドリスト選定種とそのランクを決定した。

<選定基準>

①本県において個体数が少ないか、もしくは減少しているもの

②本県における存続基盤が脆弱なもの

③本県において局地的な分布をする個体群を有しているもの

④本県が国内における分布限界に位置している等の生物地理学的に重要な個体群を有するもの

⑤本県における記録が少なくても、日本海側の各県、特に近隣県の記録を参考にしながら、本県において通過もしくは生息している可能性のあるもの

(3) 評価の基準となったデータ件数、モニタリング地点数等

- ・過去の記録の洗い出しや現地調査による記録 (2,456 件 +305 件=2,761 件)
- ・日本野鳥の会福井県の野鳥情報による記録 (5,547 件)
- ・ガンカモ科鳥類生息調査 (1970 年以降の県内個体数の変動データ)
- ・環境アセスメント調査による猛禽類のモニタリング調査記録 (14 地域)
- ・日本イヌワシ研究会や猛禽類調査研究者による猛禽類の生息繁殖状況調査
- ・日本野鳥の会福井県による三方五湖の海ワシ調査 (1988 年～ 2014 年)

3. 改訂版レッドリスト選定種数と新旧比較

表 2016 年福井県改訂版レッドリスト (鳥類) の選定種数とその増減

ランク	第 1 版リスト	改訂リスト	増 減
県域絶滅	1	1	—
県域絶滅危惧 I 類	2 1	2 5	4
県域絶滅危惧 II 類	2 7	1 7	-1 0
県域準絶滅危惧	2 9	3 2	3
要注目	1 1	4 8	3 7
地域個体群	—	6	6
合 計	8 9	1 2 9	4 0
ランク外	—	1	

(1) 概要 (表、カテゴリーランカー一覧表)

改訂版レッドリストの選定種数は 129 種 (福井県産鳥類リストの 38.6%) あり、第 1 版に比べ 40 種増加した。またランクに変更がない種は 57 種あったが、ランクアップした種が 55 種もあり、そのうちの 41 種は第 1 版では選定外だったが、今回新たに選定された種であった。一方、今回ランクダウンしたのは 18 種に留まった。これらのことから、第 1 版を発行した 2002 年段階と比較して、本県における鳥類の生息状況は悪化しているのではないかと推察される。このことは、今回レッドリストには選定されなかった普通種の個体数が減少しているとのデータ (国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所, 2014. 九頭竜川河川水辺の国勢調査 (鳥類) 報告書データの解析による) から伺える。つまり、鳥類全体として個体数が減少している種が多く、その結果、レッドリストに選定される種の数が増えたのではないかとということである。さらに、生息状況が明らかになるに従い、第 1 版では選定外であった種の新たな選定やランクアップした種があった。

一方、上位カテゴリーからランクダウンした種は 18 種あった。その理由は、個体数が増えた種、調査が進み生息状況が明らかになった種、国選定種のランクと県ランクとの整合性を図らなかつたためランクダウンした種などであった。この国選定種のランクと県ランクの整合性を図らなかつた理由については、次の通りである。第 1 版レッドデータブックでは、本県で記録がある国選定種に関しては、必ず県選定種にリストアップし、なおかつ県ランクも国ランク以上のランクに位置付けるといった基準を設けていた。しかし今回は、国選定種であっても本県での記録が迷行的な種についてはリストアップから外し、またたとえリストアップしたにしても、本県での生息状況を最優先にしたランクの選定を行った。その結果、今回の改訂ではランクダウンした種の多くが要注目にリストアップされた。

その他、ランクダウンした種の中には、亜種チュウダイサギのようにレッドリストから選定外となった種もあった。

(2) 改訂リストのランク毎の傾向 (表)

II 類から I 類に移行した種が 7 種、準絶滅から I 類に移行した種が 2 種あり、合計 9 種が I 類にランクアップした。一方、I 類からランクダウンした種が 5 種あったため、最終的に I 類は 4 種増加した。I 類に選定された種の傾向は、本県を繁殖地、越冬地、渡りの中継地とするなどにより利用しているが、元々生息地や個体数が少ない種、第 1 版

以降に急激な減少で見られなくなった種、生息地が限られている上にその環境が悪化している種、全国的に減少傾向が著しい種などに分けられた。

Ⅱ類については、Ⅰ類に移行した種が7種ある一方で、下位ランクからⅡ類にランクアップした種が3種、さらにランクダウンした種が6種あったため、結果として10種減少した。

準絶滅危惧と要注目には、第1版で選定外であった種の多くが、新たに選定された。新たに選定された種の多くは、湿田や湛水体耕田を利用するシギ科とチドリ科である。本県では遠浅の砂浜や干潟等の環境が少なく、これらの種は渡りの中継地として湿田や湛水体耕田を利用してきたが、本県の水田環境から湿田や湛水体耕田が失われていることが個体数の減少の要因であると推察される。その他、シギ科とチドリ科以外の種では、調査が進み生息状況が明らかになるに従い、個体数が少ないか減少している、もしくは生息地が少なく存続基盤が脆弱である等の理由で選定された種があった。さらに要注目では、確認記録や個体数が少なく本県がその種の生息地としてどの程度の重要性を持っているのか現状では判断できない種、本県では増加傾向にあるが存続基盤が脆弱である種、本県での生息状況は良好であるが国や隣県のレッドリストに選定されるなどにより今後の動向に注目していく必要がある種などが選定された。

(3) 生態的地位からみた改訂リストの傾向

今回レッドリストに選定された種を環境別に分類すると、水辺の鳥類が49.0%、山野の鳥類が30.5%であった。結果として、人間による改変が活発に行われる水辺環境に生息している種の、実に約半数がレッドリストに選定されるという現実が浮き彫りになった。水辺環境は、海域を除けば、人間活動の変化と共に大きく変化してきた環境である。そのため、近年の水辺環境の改変が、水辺の鳥類の生息を困難にしているということを、今回の改訂リストが示していることになる。具体的には、シロチドリなどの砂浜に生息する種、コアジサシ、イカルチドリ、ウズラなどの河川敷に生息する種、タマシギ、ヒクイナ、ヨシゴイ、亜種オオヒシクイなどの水田や湿地に生息する種、ヤマセミなどの河川の上流域に生息する種などがその代表である。

また、ブッポウソウ、チゴモズ、アカモズ、コシアカツバメなど、夏鳥の一部で顕著な減少がみられる。夏鳥の減少の原因は、越冬地である東南アジアの環境変化が原因である場合も多く、全国的な傾向も踏まえ、本県での生息環境の保全を検討しなくてはならない。

一方、食物連鎖の頂点に位置し、環境変化に敏感で個体数が少ないタカ目、ハヤブサ目、フクロウ目に属する猛禽類の多くが、リストに選定されている状況は、第1版と変わりがない。しかし生息状況には違いがあり、過去と同様に絶滅の危険性が継続している種、第1版頃には生息数に回復傾向がみられたが最近再び悪化している種、第1版以降の個体数に回復がみられランクダウンした種などである。これらの種の増減は、餌量と営巣環境に大きく左右されることから、本県の生態系の変化が、環境によって異なることが示唆される。

(酒井 敬治、小嶋 明男、松村 俊幸)

トキ

Nipponia nippon (Temminck)
ペリカン目・トキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】野生絶滅

選定理由

本県では、江戸時代に生息していた記録があるが、明治以降の狩猟で激減したと推察される。1957年の日野川久喜津橋周辺の銃殺死体（剥製は福井市自然史博物館に収蔵）の回収後は、確かな記録がなく絶滅した。佐渡での放鳥事業開始後は、2010年に福井市で1例の飛来記録がある。

種の特徴

全長76.5cm、下に曲がった長い嘴と赤い顔、風切羽のトキ色が特徴的である。主に、水田、湖沼、河川等の湿地に生息し、湿地を歩行しながら、ドジョウ、カエル類、甲殻類、貝類、ミミズ、昆虫類を捕食する。

分 布

江戸時代には全国の水田に生息したが、1981年に野生下で絶滅。本県では1900年以降、銃殺例以外に、未確認ながら1910年の1羽の捕獲例と1957年の5羽の飛翔記録がある。

絶滅した要因

湿田や湿地を好むため、乾田化や湛水休耕田の減少には大きな影響を受ける。また、ネオニコチノイド系農薬が、本種の不妊原因になっているという報告もあり、湛水休耕田と無農薬・減農薬の拡大が、本種の再生には必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、福井県自然保護センター（1997）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）、徳本ら（2014）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																		●

カリガネ

Anser erythropus (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

東アジア全体で14,000羽と推定され、絶滅の恐れがある。日本には少数が飛来するが、減少傾向にあるため、国の第4次改訂では絶滅危惧ⅠB類にランクアップした。本県でも、1992年以降はほぼ毎年飛来記録があったが、2008年以降は記録がなく、絶滅が危惧される。

種の特徴

全長58.5cmで、マガンによく似ているが小さい。そのほか、嘴が短く淡紅色であること、黄色のアイリングが目立つこと、成鳥では額の白色部が大きいこと等の違いがある。越冬地では、マガンと同様、水田で落穂や二番穂、水田雑草等を採食する。

分 布

冬鳥として、ガン類の越冬地に少数が渡来する。本県では1992年頃からほぼ毎年、坂井平野に飛来するマガン群中に1～2羽みられたが、2008年以降は記録がない。

生息を脅かす要因

本種はマガンの群れと行動を共にするため、マガンの渡来数が減少すれば、飛来する可能性が低くなる。マガンの渡来を持続させるためには、安心して効率的な採食が行える、広く連続した二番穂水田を確保するための対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、呉地（2006）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
											○		○					

亜種オオヒシクイ

Anser fabalis middendorffii Severtzov
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

日本で越冬する約2万羽のヒシクイのうち、半数以上が亜種オオヒシクイであると言われている。かつては九頭竜川下流域とその周辺の水田に、300～500羽前後の個体群が越冬していたが、近年では、数十羽程度に激減し、飛来状況が極めて悪化している。

種の特徴

全長90～100cm、亜種ヒシクイより大形で首と嘴が長い。体は黒褐色で、上・下尾筒は白く尾羽は灰黒色で先は白い。足は橙色で、嘴の大部分は黒く、先端付近で橙色の部分がある。越冬地では河川や沼沢地で、マコモの根茎やイネの落穂や二番穂、雑草等を食べる。

分 布

本亜種は太平洋側に少なく日本海側に多い。秋田・新潟に数千羽、北陸・山陰・滋賀に数百羽飛来する。本県では九頭竜川下流部で越冬するが、三方湖周辺に飛来したこともある。

生息を脅かす要因

主にマコモ等の抽水植物を採食するため、水生植物群落の消失が生息を脅かす最大の要因である。九頭竜川下流域のマコモ群落の保全再生、周辺の湛水水田化と二番穂育成、安心して採餌できる環境保全のための道路整備制限と鳥獣保護区指定等が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、呉地（2006）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
	○										○							

コウノトリ

Ciconia boyciana Swinhoe
コウノトリ目・コウノトリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

本県では、1957～1966年にかけて繁殖個体が確認されていたが消滅し、大陸からの飛来個体が稀に記録されるだけであった。しかし、兵庫県が放鳥事業を開始して以降は、毎年、少数ながら飛来するようになり、今後は、本県での繁殖個体の定着が期待される。

種の特徴

全長112cmの国内最大級の水鳥で、足は淡紅色、嘴は太くて長く体は白い。風切羽は全体が黒いが、一部は銀灰色である。よく開けた水田や湖沼、河川周辺に飛来し、魚類、カエル類、爬虫類、モグラ・ネズミ類、昆虫類を捕食する。

分 布

日本では、1971年に野生個体群が絶滅したが、2005年に兵庫県が野生復帰事業を開始して以降は、放鳥個体が全国に、また本県にも、毎年飛来するようになった。

生息を脅かす要因

多様な動物が生息する田園生態系の保全・再生が欠かせない。そのため、年中、水がある水田環境を保全すること、無・減農薬の稲作を拡大すること、コウノトリが安心できる静かな環境を維持すること等、人と生物がお互いの存在を認め合った関係の構築が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、林（1989）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○

サンカノゴイ

Botaurus stellaris (Linnaeus)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内では過去に7件程度の記録しかなく、また国レベルで絶滅危惧ⅠB類に選定されている希少なサギ類である。一方、隣県の石川県や滋賀県では広いヨシ原のある環境で越冬、もしくは繁殖しており、これらの地域を結ぶ上で、本県も重要な位置にあると推察される。

種の特徴

全長70cm、ずんぐりとした大形のサギである。広大なアシ原等に生息し、開けた場所には出てこない。基本的に単独で生活し、待ち伏せ法により、魚類、カエル類、甲殻類、ネズミ類等を食べる。繁殖期に「ブーウ、ブーウ」と低くよく通る声で繰り返す。

分 布

北海道と本州の一部で少数が繁殖するが、多くの地域では数の少ない冬鳥である。本県では不定期に、河川や湖沼のヨシ原で観察され、山間部では死体回収例がある。

生息を脅かす要因

本県は、本種の生息地となるヨシ原等の高茎草地は大変少ないため、国レベルの希少種である本種の保全のために、現在県内にある高茎草地を保全することが重要である。さらに北潟湖、三方五湖、大河川の河川敷等では、広い高茎草地の再生も必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○						

ヨシゴイ

Ixobrychus sinensis (Gmelin)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

2010年以降の繁殖期の生息記録がなく、今回の調査事業において、かつて記録があった河川や湖沼での現地調査を実施したが、生息は確認されなかった。これらの状況から、本県における本種の生息数は、急激に減少していると推察される。

種の特徴

全長36.5cm、日本産サギ類の中で最小種である。雄は頭頂が黒く体は黄褐色で、飛ぶと風切が黒く目立つ。雌は頭が赤褐色で下面に縦斑がある。ヨシやガマ等の抽水植物の茎を伝い歩き、小魚やカエル類等を食べる。外敵が近づくと首を上にして伸ばして静止し、擬態する。

分 布

夏鳥として九州以北の湖沼や河川のヨシ、マコモ、ガマ等の抽水植物群落に渡来する。本県でも6～7月に、北潟湖、九頭竜川下流、日野川、足羽川等で生息していた。

生息を脅かす要因

河川改修や護岸工事等により、生息に適したヨシやマコモ等の生える湿地環境が減少した。さらに、農薬や外来魚による餌となる小動物の減少も考えられる。なお本種の減少は全国的な傾向であり、東南アジア等の越冬地の環境が消失している可能性もある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、佐原（2013）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○	○	○				○

オオヨシゴイ

Ixobrychus eurhythmus (Swinhoe)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

全国的にも減少が懸念されている種である。本県においては、これまで秋の渡りの時期にごく稀に記録があるが、2005年10月に若狭町で標識・放鳥されて以降記録がない。

種の特徴

全長約39cmで、上面が栗色と黄灰色の小型のサギ類である。下面は白っぽく、喉から胸の中央に1本の黒線がある。高茎湿性草原に生息するが、ヨシゴイより乾燥した環境を好む傾向がある。早朝と夕方に、小魚、エビ類、等脚類、昆虫類、カエル類等を捕食する。

分布

本州中部以北に夏鳥として渡来し、少数が局地的に繁殖する。本県では、過去に5件の記録があることから、ごくわずかの個体が、本県を通過していると推察される。

生息を脅かす要因

河川改修等によるヨシやマコモ等の高茎湿地の減少が影響を与えると考えられるため、保全に留意すべきである。さらに、農業や外来魚による餌の小動物の減少も影響を及ぼす。なお本種の減少は全国的な傾向で、東南アジアの越冬環境が消失している可能性もある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、日高(1996)、大西ら(2014)、中村・中村(1995)、高野(2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○										○

ミゾゴイ

Gorsachius goesagi (Temminck)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生息可能地において、早朝もしくは夕方に鳴き声を聞き取る調査を網羅的に行ったが、存在が確認されたのは、わずか4か所程度であった。またこれまでに2か所で繁殖が確認されている。これらのことから、生息はしているが、かなり希少な種である。

種の特徴

全長49cm、顔が赤栗色、上面が暗栗色褐色のサギ類である。薄暗い森林を好み、沢筋の上部に張り出した枝先に営巣する。繁殖期には大きな低い声で「オッ、ポォーッ」と鳴く。夕方から夜間にかけて、沢筋等でサワガニ等の甲殻類、ミミズ、魚類等を捕食する。

分布

夏鳥として、本州～九州の低山の林に渡来し繁殖する。本県でも低山の林で生息や繁殖が確認されているが、確認地が大変少ないことから、分布は限られている。

生息を脅かす要因

里山管理や森林施業、土木工事等の人間活動においては、森林環境の変化と人間の接近による営巣放棄等の影響が考えられる。県内の生息地は大変限られているため、生息確認地での改変行為については、本種の生息状況を把握した上での事業実施が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、大西ら(2014)、高野(2015)、中村・中村(1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○				○		○	○		○

クロツラヘラサギ

Platalea minor Temminck & Schlegel
ペリカン目・トキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

推定生息数が3,200羽の東アジアにのみ生息する世界的な絶滅危惧種で、IUCNのリストでは絶滅危惧種(Endangered)、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧ⅠB類に選定されている。本県には稀に飛来する。

種の特徴

全長73.5cmで、成鳥冬羽では全身が白く、嘴と足は黒い。嘴の先が平たいしゃもじ形をしており特徴的である。干潟、湖沼、湿地、水田等で、首を左右に振りながら、魚類、甲殻類、貝類、昆虫類等を採餌する。

分布

数が少ない旅鳥または冬鳥として、毎年約300羽が、主に九州以南に渡来する。本県では、1981年に3回、1997年1回、福井新港で1羽ずつ記録されただけである。

生息を脅かす要因

本種が確認された福井新港では、多くの水鳥が造成途中の池の岸辺に飛来し、採餌と休息に利用した。本種と同様の環境を利用するシギ・チドリ類も減少傾向が著しいため、本種も含めた浅い水辺を利用する水鳥の中継地造成等の抜本的な自然再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、日本野鳥の会HP、中村・中村(1995)、高野(2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ヒクイナ

Porzana fusca (Linnaeus)
ツル目・クイナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息可能域を選定し現地調査を行ったが、出現率は大変低く0.14であった。現在、本県において確実に生息情報があるのは2か所しかなく、かつて里地の水辺で普通に生息が確認されていた種であることを考慮すると、急激な減少により絶滅の危険度が大変大きな種である。

種の特徴

全長 22.5 cm、頭～前頸と上腹は赤茶色で、上面は暗緑褐色、脇・下腹・下尾筒は白と黒の横斑、嘴は青黒色で、足は赤い。繁殖期には「*キキキキ*」と次第にテンポが速くなる声で、警戒時は「*ケケケ*」と鳴く。湿地で、昆虫類やクモ類、甲殻類や小魚、草の種子を食べる。

分 布

夏鳥として全国で繁殖するが、中部以南では少数が越冬し次第に北上している。本県では、現在わずか2か所でしか生息記録がないが、その内の1か所では冬季の記録もある。

生息を脅かす要因

河川や湖沼の護岸工事による湿地環境の減少と圃場整備による乾田化の影響が挙げられる。河川敷や湖沼の岸辺にあるヨシ原等の湿地環境の保全再生や、センサーカメラや音源等を導入した定期的な生息確認調査を実施し、継続的な現状把握が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、渡辺・平野（2009）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○											○

シロチドリ

Charadrius alexandrinus Linnaeus
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

砂浜の少ない本県では、生息地が限られている。特に繁殖個体群は、砂浜の減少やレジャー等の利用によって繁殖活動が阻害され、個体群の維持が困難な状況にある。

種の特徴

全長 17.5 cm、背面は灰褐色で下面は白色の地味な羽色だが、オスの繁殖羽では過眼線、前頭部、肩～側胸が黒く、頭頂部が橙褐色、額は白い。カニやエビ等の甲殻類、ゴカイ等の多毛類、昆虫類、クモ類等を食べる。砂浜、干潟、中洲等に生息し繁殖する。

分 布

全国の砂浜や干拓地等で繁殖し、本州以南では留鳥として生息する。本県では福井市～あわら市の砂浜で、繁殖期に少数が確認されるが、それ以外の地域ではさらに少ない。

生息を脅かす要因

海岸浸食や開発による砂浜の減少があげられるが、砂浜での釣りやサーフィン等のレジャー利用による攪乱が、繁殖行動を阻害する直接的な脅威となっている。地域住民や利用者へ広報し、繁殖行動の攪乱防止に向けた協力を要請する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、守屋（2014）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○								○				○

カラフトアオアシシギ

Tringa guttifer (Nordmann)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

ロシアのサハリン南部の一部で繁殖する、極めて個体数が少ない世界的な絶滅危惧種である。本県では、福井新港の造成途中に、ほかのシギ・チドリ類と共に、造成途中にできた池の岸辺に飛来した記録があるため、国の基準に準拠した。

種の特徴

全長 31 cm。アオアシシギに似るが、嘴が太く、足が黄褐色で短い。繁殖地ではカラマツ等が散在する海岸湿地に生息する。小魚、甲殻類、軟体動物等を食べる。

分 布

日本には稀な旅鳥として、海岸の入江や干潟、埋立地等に飛来する。県内では、1987年8月に三国町の福井新港で1度だけ確認された。

生息を脅かす要因

福井新港の造成により三里浜の面積が減少し、シギ・チドリ類の中継地は悪化したままの状態が続いている。本種をはじめ多くのシギ・チドリ類は減少傾向が著しいことから、中継地を造成する等の抜本的な自然再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ヘラシギ

Eurynorhynchus pygmeus (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

本種はベーリング海沿いのチュトコ半島の一部で繁殖する、極めて個体数が少ない世界的な絶滅危惧種である。本県でも、福井新港の造成途中に、ほかのシギ・チドリ類と共に、造成途中にできた池の岸辺に飛来した記録があるため、国の基準に準拠した。

種の特徴

全長 15 cm、最も小型のシギ類に属し、ヘラ状の特異な形をした嘴を持つ。干潟、砂浜、埋立地、河口部等に飛来し、嘴を左右に振りながら小さな甲殻類や昆虫類を採餌する。日本では旅鳥として春と秋に渡来するが、秋に多く、日本海側の記録の方が太平洋側より多い。

分 布

日本には稀な旅鳥として、干潟や砂浜に飛来するが、国内での越冬記録もある。県内では、1978年、1979年、1989年に、三国町の福井新港で確認された。

生息を脅かす要因

福井新港の造成により三里浜の面積が減少し、シギ・チドリ類の中継地は悪化したままの状態が続いている。本種をはじめ多くのシギ・チドリ類は減少傾向が著しいことから、中継地を造成する等の抜本的な自然再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

タマシギ

Rostratula benghalensis (Linnaeus)
チドリ目・タマシギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本種は 1965～2005年までの間に、旧金津町、旧芦原町、旧三国町、旧坂井町、福井市川西、旧清水町、鯖江市、旧朝日町、旧宮崎村、旧武生市、旧今立町、旧南条町、敦賀市、美浜町、旧三方町の平野部で記録があるが、現在はそのほとんどで消失し、危機的水準にまで減少している。

種の特徴

全長 25 cm。眼が大きく、眼の周りの淡色部、胸の白線とそれに続く背の黄色線が目立つ。雌は喉～胸が赤褐色で、雄より美しい。繁殖期には雌が鳴き、一妻多夫で繁殖する。造巣～育雛は、雄が単独で行い、昆虫類、ミミズ、貝類、甲殻類、草の種子等を食べる。

分 布

東南部以南の水田、蓮田、湛水休耕田等に、留鳥もしくは漂鳥として生息する。本県では旧 15 市町村で生息記録があるが、2010年以降の記録は丹南地域での 7 件しかない。

生息を脅かす要因

湿田や湿地を好むため、乾田化や湛水休耕田の減少には大きな影響を受ける。また、ネオニコチノイド系農薬が、鳥類の不妊原因になっているという報告もあり、今後の研究に注目する必要がある。湛水休耕田と無農薬・減農薬の拡大が、本種の存続への重要なポイントになると考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、大西ら（2014）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○					○		○			○

コアジサシ

Sterna albifrons Pallas
チドリ目・カモメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1990年代までは、周囲を川で囲まれ、人が出入りにくく植生がまばらな福井市内の九頭竜川の中洲に、集団繁殖地が形成されていたが消滅した。その後は、2002年と2005年の1羽、2013年の2羽の確認例以外は記録がなく、本県における生息状況は絶滅に等しい状況にある。

種の特徴

全長 25 cm、夏羽では額が白く、頭頂～後頭にかけては黒い。背と翼の上面は淡青灰色、腰・尾・体の下面は白い。海岸の砂浜や中洲にコロニーを形成して繁殖する。水面上空を飛び回ったり、ホバリングしながら小魚を探索し、みつけると嘴から飛び込み捕える。

分 布

夏鳥として、本州以南の海岸の砂浜、埋立地、河川の中洲等で繁殖する。本県でも、かつて福井新港、日野川、九頭竜川等に集団繁殖地があったが、現在は消滅している。

生息を脅かす要因

釣り客による攪乱、中洲の被覆化や洪水による沈水、天敵のチョウゲンボウの増加により、安定して繁殖できる場所がなくなった。現在は集中豪雨の頻発により、植生のない中洲は再生されつつあるが、今のところ本種が戻る兆候はみられない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、大西・真木（2000）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

イヌワシ

Aquila chrysaetos (Linnaeus)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県の森林生態系ピラミッドの頂点に位置する山岳大形猛禽類で、奥山の限られた地域に生息し、現在数ペアしか確認されていない。本種は、1990年代以降、繁殖成功率の低下と生息ペア数の減少が確認されており、最近はさらに繁殖成功率が低下している傾向にある。

種の特徴

全長81～89cm、翼開長170～213cm、雌の方が雄より大きい。奥山の急峻な断崖のある山地に周年生息し、岩棚や針葉樹の大木で営巣する。主にノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類を捕食するが、カモシカの幼獣やテン等の中形哺乳類、トビやサギ類等の大形鳥類も食べる。

分 布

九州以北の山地帯に留鳥として生息しているが、連続分布は本州中部～東北地方に限られる。本県では奥山の一部にしか生息していない。

生息を脅かす要因

繁殖成功率の急激な低下の要因は、餌条件の悪化による繁殖活動の中止や、人間活動による繁殖行動の阻害等である。行動圏内には、成熟した落葉広葉樹林、草地、伐採地等の多様な環境が適度に混在していることが必要で、バランスの取れた森林生態系の管理が必要となる。

参考文献 福井県(2002)、福井県自然保護センター(1995)、福井県自然保護センター(2001)、高野(2015)、中村・中村(1995)、松村・小澤(2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

オジロワシ

Haliaeetus albicilla (Linnaeus)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

毎年少数が飛来し確認されているが、越冬地として定着している個体が確認できるのは、県内で2か所しかない。さらにいずれの場所も、個体数が1～2羽程度と少なく、絶滅の危機的水準にまで減少している。

種の特徴

全長80～95cm、翼開長約2m。成鳥は全身が灰褐色で頭部～胸にかけてクリーム褐色、尾羽は緩やかな楔形で白い。国内に定期的に渡来するタカ類としては、オオワシに次ぐ大形種で、主に魚類と水鳥類を捕食するが、哺乳類も食べる。

分 布

北海道では少数が繁殖しているが、越冬期にはロシアから冬鳥として全国に飛来する。本県では、越冬期に三方五湖や山間部のダム湖に渡来するが、稀に北潟湖にも飛来する。

生息を脅かす要因

三方五湖では、1990年代前半までは複数個体が越冬していたが、近年では1個体のみ越冬や越冬期間の短縮がみられる。捕食可能な餌となる多様な魚類や水鳥類の個体数の再生が保全対策には不可欠である。山間部も含め継続調査による実態把握が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、中村・中村(1995)、高野(2015)、白木(2006)、小嶋(2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○			○		○			○	

オオワシ

Haliaeetus pelagicus (Pallas)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては、中部地方で有数の渡来地であった三方五湖において、毎年少数が飛来し越冬していたが、15年間連続渡来していた1個体の記録が2009年2月を最後に途絶えて以降は、湖やダム湖、海岸で不定期に飛来記録があるだけで、絶滅の危機的水準に達している。

種の特徴

全長88～102cm、翼開長220～245cmで、国内に定期的に渡来するタカ類の最大種である。成鳥は全身が黒色で黄色の大きな嘴、肩部と楔形の尾羽が白色が目立つ。主に魚類と水鳥類を捕食するが、哺乳類も食べる。地球上の総個体数が5,000～7,000羽の希少種である。

分 布

北海道や本州北部に冬鳥として渡来し、ごく少数が西日本まで南下する。本県では三方五湖に毎年越冬していたが、現在は消失している。ほかに、北潟湖やダム湖等でも記録がある。

生息を脅かす要因

三方五湖への渡来が途絶えたのは、餌となる魚類の減少が主要な要因と考えられるため、三方五湖と周辺の生物相を把握する定期的なモニタリング調査と、その結果に基づいた自然再生事業の実施が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、中村・中村(1995)、高野(2015)、中川(2009)、小嶋(2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○								○			○	

オオタカ

Accipiter gentilis (Linnaeus)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県ではこれまでに9ペアの繁殖地が確認されたが、その内7ペアは消失もしくは生息状況が悪化しており、繁殖個体群の個体数は安定していない。

種の特徴

全長は47～59cm、翼開長106～131cmで雌の方が大きい森林性猛禽類である。成鳥の背～尾にかけては青灰色で、下面は白地に黒く細かい横斑が一面にある。頬は青黒色で眉斑は明瞭である。主に中小形の鳥類や哺乳類を捕食する。

分布

北海道～九州の平地～山地の林に生息している。本県では緩やかな傾斜の山林に生息するが、生息適地は多くない。また定着個体の消失も多く、分布はかなり限られている。

生息を脅かす要因

生息及び繁殖のためには、多様な餌動物相が維持された営巣林を必要とするため、本種が好む傾斜の緩やかな森林の保全が必要である。また、繁殖期の営巣地付近への人の接近は繁殖行動を阻害するため、森林施業や土木工事の時期には配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、森岡ら（1995）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

クマタカ

Nisaetus nipalensis Hodgson
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内の山地帯に広く分布しているが、森林生態系ピラミッドの頂点に位置し、行動圏が広い種であるため個体数は少ない。また、近年の繁殖成功率は減少傾向にあり、生息条件が悪化している可能性がある。

種の特徴

全長70～83cm、翼開長140～165cmで、雌の方が雄より大きい大形猛禽類で、傾斜の急な低山～山地帯に留鳥として生息している。アカマツやスギ等の高木に営巣し、中小形の哺乳類や鳥類、爬虫類や両生類等多様な動物を捕食する。

分布

九州以北の山地帯に留鳥として生息している。本県では里山～山地帯にかけて広く分布しているが、成熟した落葉広葉樹林、スギやアカマツの老齢木がある林を好む。

生息を脅かす要因

生息及び繁殖のためには、多様な餌動物相が維持され、営巣可能な老齢木がある森林生態系を必要とするため、成熟した森林の保全が欠かせない。また、繁殖期の営巣地付近への人の接近は繁殖行動を阻害するため、森林施業や土木工事の時期には配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、森岡ら（1995）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○

ヤマセミ

Megaceryle lugubris (Temminck)
ブッポウソウ目・カワセミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

かつて本種の生息記録があった地域と本種の生息可能域において、網羅的に調査した結果、出現率が13%と大変低かった。本種はかつて、県内全域の溪流や山地の湖沼に普通に生息する種であったことから、生息数が急激に減少し、絶滅の危機に瀕していると推察された。

種の特徴

全長37.5cmで、国内のカワセミ類では最大である。雌雄ほぼ同色で、頭部～尾は白黒の鹿の子模様、頭には冠羽が目立つ。餌のほとんどが、山地の溪流や湖沼に生息する川魚で、これらを水中に飛び込んで捕食する。そのほかには、両生類、サワガニ、昆虫類も食べる。

分布

留鳥または漂鳥として、九州以北で繁殖する。本県でも周年、県内全域の溪流や山地の湖沼等に生息し、水辺近くの土崖に巣穴を掘って繁殖する。

生息を脅かす要因

本種の生息を確保するには、山地帯における魚類の多様性と巣穴を掘ることができる土崖のある環境を保全することである。本種の急激な減少は、このいずれかの環境が消えつつあることを示唆しており、早急に現状を調査し、保護対策を講じるべきである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西ら（2014）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○						○	○		○	○	○		○	○	○

ブッポウソウ

Eurystomus orientalis (Linnaeus)
ブッポウソウ目・ブッポウソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生息可能メッシュでの生息記録の有無から算出した出現率は56%であったが、その多くが渡り時期の記録で、繁殖記録は稀であった。かつては本県の良好なブナ林等には、本種が生息し繁殖していたことから、急激な減少は明らかである。

種の特徴

全長約30cmで、ハトより少し小さく、翼は長い。頭部はすすけた黒、体は青緑色で翼には白斑がある。嘴と足は赤い。空中で、甲虫類やトンボ類等の大形昆虫を捕食する。

分布

夏鳥として、本州～九州の山地の林や里山林等に渡来し、樹洞や木製の電柱、橋げた等に営巣する。本県では、低山～山地の林で記録があるが少ない。

生息を脅かす要因

奥越地方で本種がかつて繁殖していた林は、今も変わらずに残存しているが、その多くで個体はみられない。里山の枯マツ林での記録が増えているが、一時的である。繁殖には、樹洞と多様な大形昆虫相が必要であるため、巣穴のある枯れ木の保存や巣箱設置、昆虫相の保全等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、大西ら（2014）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○			○						○		○	○

ヤイロチョウ

Pitta nympha Temminck & Schlegel
スズメ目・ヤイロチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

繁殖期の記録は大変少なく生息地が限定される。また、生息可能域を抽出して行った調査でも、出現率は約半数に留まった。さらに本県での繁殖行動は、過去に鳴き交わしが1件あるだけの希少種である。

種の特徴

全長18cmで、足が長く、尾羽は短い。赤、茶、緑、コバルト、黄、黒等で装飾された光沢のある美しい羽色をしている。手入れされた森林の地上で、ミミズや昆虫類を採餌する。繁殖期は稜線の木の上を移動しながら、よく通る「ホヘン ホヘン」という声で鳴く。

分布

数少ない夏鳥として、本州中部～九州の低山のよく茂った林に飛来する。2005年に、嶺南部で3羽の鳴き交わり等の行動が観察されたが、繁殖は確認はされなかった。

生息を脅かす要因

生息地となる深い茂った森林の伐採や道路建設による分断、シカの増加による林層の変化等の森林生態系の変化が生息を脅かす。他県では、八色の名のとおり美しい羽色に憧れたカメラマンのテープを使ったおびき寄せによる、繁殖行動の妨害が起こっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○			○								○	○

チゴモズ

Lanius tigrinus Drapiez
スズメ目・モズ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

本種は国レベルで減少が著しく、絶滅危惧ⅠA類に選定されている。本県では2013年6月にテクノポート福井において、約30年ぶりに1個体が記録された。このことから現在も渡り期に本県を通過していることが確認されたが、個体数が極めて少なく絶滅危険度が高い。

種の特徴

全長18.5cmで、頭上が青灰色、背と尾は赤褐色、下面は白い。過眼線は黒くて眉斑はない。雌は胸側～脇に褐色の横斑がある。明るい雑木林に生息し、昆虫類のほか、カエルやヘビ等の両生・爬虫類、ネズミを食べる。

分布

夏鳥として本州中部～東北地方で繁殖する。アカマツ林等の明るい林を好む。本県では旅鳥として1970～80年代に数件の記録があったが、それ以降は記録が途絶えていた。

生息を脅かす要因

国レベルで減少傾向が著しく、本県の記録も大変稀であるため、渡り期の一時的な利用環境の保全も重要である。本種はアカマツ林等の明るい林に生息し小動物を捕食することから、適度な林の管理を行い、薬剤散布を避け、現状の生態系を保全する配慮が必要となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

アカモズ

Lanius cristatus Linnaeus
スズメ目・モズ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

1976年に三国町黒目の松林で繁殖した記録があり、その後は1984年3月に旧三方町気山、2002年5月に中池見湿地、2013年10月にテクノポート福井で記録があるだけの希少種である。現在も渡り期にわずかに通過していると推察されるが、極めて個体数が少なく絶滅危険度が高い。

種の特徴

全長20cm、額は白く頭上～尾までが赤褐色、翼は黒褐色、眉斑は白く過眼線は黒い。下面は白く、脇は橙黄色を帯びる。モズと同様に昆虫、両生・爬虫類、鳥類等を捕食するが、モズに比べて、飛翔する昆虫類や樹木の葉にいる昆虫類等を食べる割合が多い。

分 布

夏鳥として本州中部～北海道で繁殖し、本州西部では稀である。平地～山地の明るい林や低木のある草原等に生息する。本県では、海岸に近い地域での4件しか記録がない。

生息を脅かす要因

繁殖記録や通過記録がある海岸の明るいクロマツ林や低木のある草原を保全していくことが必要である。松枯れに対しては、薬剤散布ではなく伐倒法等で防除し、餌となる小動物を減少させないことが重要である。また、生息状況を把握するための調査も必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○						

イワヒバリ

Prunella collaris (Scopoli)
スズメ目・イワヒバリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息可能地を現地調査し過去の記録を集計したが、出現率が27%と低く、2003年以降の越冬記録もなかった。三ノ峰周辺で少数が繁殖していると思われるが、今回の調査では、繁殖の確認はできなかった。本県は繁殖地の周辺部にあたり、生息基盤が極めて脆弱である。

種の特徴

全長17～19cm。スズメよりやや大きい。雌雄同色。額～後頭、胸にかけて灰色で、腹～尾までの体下面、肩羽、腰は栗茶色で羽縁が淡褐色。背は淡黄褐色で黒褐色の縦斑がある。雑食で繁殖期は主に昆虫食、冬季は種子食である。

分 布

本州の高山の岩場で繁殖し冬期は山麓や低地に移動する。本県では白山山系の三ノ峰で少数が繁殖し、そのほかの奥越の亜高山帯でも少数が生息している可能性がある。

生息を脅かす要因

繁殖地として利用している高い山の岩場は、県境部の限られた地域にしかなく、この環境の保全が重要である。従って、近年の登山者増加に伴う環境悪化や営巣地への侵入による攪乱には注意が必要である。また、繁殖状況を把握するための定期的な調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日高（1996）、大西ら（2014）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ウズラ

Coturnix japonica Temminck & Schlegel
キジ目・キジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

福井県レッドデータブック（動物編）第1版では、生息状況が不明な種として要注目に選定されたが、その後2件の目撃情報があった。みつけにくい種であり、生息状況が把握されているとは言い難いが、個体数は少なく、絶滅の危機は増大していると推察される。

種の特徴

全長20cm、小さくて体が丸く、尾は短い。淡褐色の頭中央線と眉斑があり、頭～上面には黒褐色の斑があり、淡黄色の縦斑が目立つ。雄は繁殖期に濁った大声で「ジュッピッピー」と盛んに鳴く。草むらの中を歩きながら、草の種子や果実、昆虫類やクモ類を採餌する。

分 布

本州中部以北の平地～山地の草原や河川敷等で繁殖し、本州中部以南で越冬する。本県の2002年以降の記録は、2004年旧武生市、2006年大野市の2件しかない。

生息を脅かす要因

近年、狩猟捕獲数が急激に減少したため、平成19年度に対象狩猟鳥獣の捕獲等の禁止措置、平成25年度には狩猟鳥獣の指定解除措置が取られた。これらの措置により、本種の目撃情報が増加するのかどうか、草地の保全とモニタリング調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、環境省（1998～2013）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○										○				○	○

マガン

Anser albifrons (Scopoli)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

宮城県では増加しているが北陸や山陰では減少している。本県では飛来数が一時的に2,000羽前後に増加後、最近では1,000羽程度に減少している。分布域も、かつては丹南～福井市南部にまで広がっていたが、現在は坂井平野の一部に狭まり、種の存続が危惧される。

種の特徴

全長72cmで、体は灰褐色、腹には不規則な黒の横縞があり、上・下尾筒は白く尾羽の先は白い。足は橙色で、嘴は桃橙色で先端は白く基部は白い。10～3月中旬頃まで、広い水田に群れて飛来し、イネの落穂や二番穂、オオムギ、イネ科の水田雑草等を採食する。

分布

冬鳥として、本州中部以北や北陸～山陰の日本海側に、約10数万羽が局地的に渡来する。本県では坂井平野が越冬地であるが、嶺南地域や丹南地域でも一時的に少数が飛来する。

生息を脅かす要因

道路網の整備による都市化や採食エリアでの秋耕作や転作により、安心して効率的な採食が行える、広く連続した二番穂水田が減少している。広い水田地帯を横断する道路整備の制限、「ふゆみずたんぼ」の推進や二番穂の育成、転作場所の配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、呉地（2006）、牛山・天野（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○						○	○	○				○

コクガン

Branta bernicla (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

世界全体で約50万羽が生息していると推定される。東アジア個体群は1万羽程度で最も保護が必要といわれ、日本には2015年に2,000羽以上が渡来している。本県は定期的な飛来地ではないが断続的に飛来し、餌場となる藻場もあるので、重要な種である。

種の特徴

体長61cmで、マガモより少し大きいくらいの小形のガンである。全体に黒く、下尾筒とわき腹が白く、嘴と足は黒色である。首の上部に目立つ白い輪がある。越冬地や中継地では、特にアマモ類を採餌し、またアオノリやアオサ等の海藻類、陸地のイネ科植物も食べる。

分布

冬鳥として、主に北日本の海岸に局地的に飛来する。本県の坂井平野では、マガン群中や単独で、1994年、1998年、2011年に1羽、2013年に2羽の記録がある。

生息を脅かす要因

あわら三国海岸の浅い海と海藻や海藻の藻場を、周辺林や自然の海岸線を含めて減少させないようにすることが重要である。また、九頭竜川河口付近の水生植物の保全や、安心して効率的な採食が行える、広く連続した二番穂水田を確保するための対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、藤井（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				

オシドリ

Aix galericulata (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

今回実施した生息可能地での網羅的な調査の出現率は、51%に過ぎなかった。また、全国一斉ガンカモ調査では、1980年代までは数十羽～百羽程度が記録されていたが、1990年代以降は数羽～数十羽に減少しており、現在も同様の状態が継続している。

種の特徴

全長45cm、雄の羽色は美しく特徴的である。特に冠羽状の後頭の羽毛と、三列風切の最内羽の橙色の銀杏形が目立つ。足は橙色、嘴は紅色で先端が白い。雌は全身が灰褐色で、アイリングが白くそのまま眼の後方に伸びる。植物食中心の雑食性で、特にドングリを好む。

分布

主に本州～九州で繁殖し、越冬地は西日本に多い。本県では、夏季に山間部の湖沼や河川等に生息し、周辺の山林の樹洞に営巣する。秋季は個体数が増加するが、冬季は少ない。

生息を脅かす要因

本種の生息を確保するには、営巣可能な樹洞のある大木と、ドングリ類をはじめとする多様な種子が実る落葉広葉樹林が必要である。そのため、大径木林とその周辺の落葉広葉樹林の伐採が生息を脅かす。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、日本野鳥の会福井県（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○	○			○	○	○	○	○	○

アカアシシギ

Tringa totanus (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

北海道東部の海岸湿地で繁殖し、環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されている。本県では稀な旅鳥として、水田や砂泥地が中継地として利用されており、国の基準に準拠した。

種の特徴

全長 27.5 cm。頭～体の上面は灰褐色で、軸斑や横斑がある。嘴は先が黒くて基部が赤く、足は赤い。干潟や開けた湿っぽい草原に棲み、水路や砂泥地を歩きながら軟体動物や甲殻類を食べる。

分 布

少数が北海道東部の海岸湿地で繁殖するほかは、旅鳥として全国の干潟や水田等に飛来する。本県では主に秋季に、九頭竜川下流域や久々子湖周辺の水田等で、数回の記録がある。

生息を脅かす要因

本種が飛来する河川や湖沼に近い水田は、乾田化や湛水休耕田の減少により、生息環境が急激に悪化している。湛水休耕田の配置、田植え 1 か月前や稲刈り後の湛水等の中継地確保のための対策と効果測定調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○						

ハチクマ

Pernis ptilorhynchus (Temminck)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の里山に生息しているが、個体数は決して多くなく、既知の生息地は数箇所しかない。本県には本種が好む里山環境が少なく、個体群サイズが小さく限定されていると推察される。既知の生息地での過去の繁殖成功率は 50% を超えていたが、近年は減少傾向にある。

種の特徴

全長 57～61 cm、翼開長 121～135 cm、トビより少し小さい猛禽類で、雌の方が雄より少し大きい。色彩には変異が多い。名前のおとりのハチの幼虫や蛹を好み、地面を掘り起こして蜂の巣を取り出す。ハチ以外には、両生・爬虫類、鳥類の雛、昆虫類も食べる。

分 布

夏鳥として九州以北の低山の林に渡来し繁殖する。本県では里山の一部に生息しているが、5月と9月の渡り期に、数羽～数十羽の群れで移動するのをみかける場合が多い。

生息を脅かす要因

生息及び繁殖のためには、多様なハチ類を育む森林生態系を必要とする。また、繁殖期の営巣地付近への人の接近は繁殖行動を阻害するため、森林施業や土木工事の時期には配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、久野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○	○	○			○	○		○		

チュウヒ

Circus spilonotus Kaup
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

非繁殖期には、毎年安定して飛来記録があるが、繁殖期の記録は少なく、繁殖記録はまだない。河川敷の改変等で生息環境は悪化しており、絶滅の危険度は増大している。

種の特徴

全長 48～58 cm、翼開長 113～137 cmで、雄より雌の方が大きい。色彩には変異が多く、1羽毎に色彩が異なる。地上数mの低空をゆっくりとした羽ばたきとV字形の滑翔を繰り返しながら、地上のネズミ、小鳥類、カエル類等の小動物を捕食する。

分 布

北海道と本州の広いヨシ原がある湿地で局地的に繁殖するが、多くは冬鳥として渡来する。本県では、九頭竜川の河川敷、三方五湖や北潟湖の周辺で目撃されるが、数は少ない。

生息を脅かす要因

本種は面的な広がりのあるヨシ原という特異的な環境に好んで生息するが、このような環境は、九頭竜川下流部の河川敷等に限られている上に面積も小さいため、河川や湖沼の周辺にあるヨシ原は、保全する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、平野（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○			○	○	○	○			○

アオバズク

Ninox scutulata (Raffles)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県には夏鳥として渡来し、ほかのフクロウ類より記録は多いが、生息可能地での夜間調査による出現率が40%程度であり、減少傾向にある。

種の特徴

全長27～31cmの中形フクロウ類で、眼は黄色、羽角がなく尾が長い。低地や低山帯のケヤキ、スギ、タブ等の大木の樹洞を利用して繁殖する。夜行性で、セミ類、甲虫類、鱗翅類等大形昆虫類を主食とするが、コウモリ類、カエル類、小鳥類等も捕食する。

分 布

全国に夏鳥として渡来し繁殖するが、奄美諸島以南では越冬する。本県では、社寺林、公園、屋敷林等の人里に近い環境で繁殖している。

生息を脅かす要因

人里近くで繁殖するため、カメラマン等の接近による繁殖行動への影響がある。また、営巣木として欠かせない大径木の消失と主食となる大形昆虫類の減少が脅威となる。そのため、営巣木が失われた場合の巣箱の設置や昆虫類の多様性の確保が不可欠である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大庭（2007）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○	○			○		○	○		○

ハヤブサ

Falco peregrinus Tunstall
ハヤブサ目・ハヤブサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県には、10～20ペアの生息が推定されるが、繁殖成功率の低下やペアの消失が確認されており、生息・繁殖状況は明らかに悪化している。

種の特徴

全長は41～49cm、翼開長84～120cmで、雄より雌の方が大きい。頭～後頭は石板黒色、背・翼・尾は暗青灰色で、頬にはひげ状の黒斑がある。飛んでいる小形～中形の鳥類を、時速300kmに達するという急降下で襲い、空中捕獲や蹴落としたりして捕える。

分 布

留鳥として島嶼を含む九州以北で繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する。本県でも、留鳥として断崖や人工建築物に定着している個体と、非繁殖期に移動してくる個体がいる。

生息を脅かす要因

断崖が少ない上に、落石防止用の吹付けが行われることがあり、営巣環境は悪化している。また営巣環境に変化がない生息地でも、繁殖成功率が低下しており、狩猟機会の減少で餌不足に陥っている可能性もある。営巣地の多様性と多様な鳥類相の保全・再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、大西・真木（2000）、高野（2015）、中村・中村（1995）、黒澤（2008）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○

コジュリン

Emberiza yessoensis (Swinhoe)
スズメ目・ホオジロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

近年では九頭竜川下流の河川敷でのみ少数が記録されている希少種である。ただし、目視確認や近縁種との識別が難しいため見逃されている可能性もあり、標識調査等確実に識別できる調査を実施し、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長約15cmのスズメ大の少しほっそりした雌雄異色の茶色の小鳥で、雄の夏羽では頭部が頭巾を被ったような黒色になる。草原に生息し、草の間の地上でタデ科やイネ科の種子等を拾って食べるが、繁殖期には昆虫類も採餌する。

分 布

本州中部以北と熊本県の草原や湿地で局地的に繁殖し、本州中部以南のヨシ原等で越冬する。本県では過去に三方五湖周辺、近年では冬季に、九頭竜川下流域で数例の記録がある。

生息を脅かす要因

本種が渡り期に利用する、ヨシを始めとする高茎草地の減少が考えられる。そのため、主な記録地である九頭竜川下流をはじめ、中池見湿地、若狭町カヤ田、三方五湖、北潟湖等の比較的まとまった高茎草地は保全し、標識調査を行い、生息状況を把握する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○						

ノジコ

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel
スズメ目・ホオジロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

中池見湿地が本種の渡りコースの重要な地域であることが明らかになっているが、そのような地域は極めて限られており、生息基盤が脆弱である。

種の特徴

全長約 14 cm で、頭部～体上面は灰黄緑色、体下面は黄色、白いアイリングがある。雌雄ほぼ同色だが成鳥では、雄の目先が黒くなる。湿った草原の周辺の林縁や疎林に生息し、上で昆虫類や草の種子等を食べる。

分 布

本州中部以北に夏鳥として渡来する。本県では秋の渡り期に確認されることが多く、中池見湿地は一大中継地となっている。奥越では繁殖期にも記録があり、繁殖の可能性がある。

生息を脅かす要因

本種が渡りの時期に主に利用する、ミゾソバ等の下草があるヨシ原等の高茎草地の減少が考えられる。一大中継地の中池見湿地はもちろん、周辺に林がある若狭町のカヤ田、三方五湖、北潟湖等の高茎草地は保全し、それらの環境で標識調査を行い、生息状況を把握する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○	○			○	○			○	○	○

コハクチョウ

Cygnus columbianus (Ord)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内における越冬地は限られている。また越冬期の生息には、埤となる湖沼や河川と、餌場となる二番穂が育った水田の両方が必要である。オオハクチョウより飛来数は多いが、こうした存続基盤が安定していない。

種の特徴

全長 132 cm、全身白色の大形の冬鳥である。嘴の先は黒く基部は黄色で、黄色部の先端の形は丸い。刈り取りの終わった水田で二番穂や水田雑草等を採餌する。浅い水中に、首を突き込み逆立ちになって水草の茎や根も食べる。

分 布

1980 年代以降、越冬数が増加し、中部以北や山陰に 4 万羽前後が渡来する。本県では北潟湖、三方五湖、日野川、九頭竜川下流等と周辺水田で、100 羽前後が越冬している。

生息を脅かす要因

県内の越冬地には、埤となる湖沼もしくは河川と、周辺の湛水水田と二番穂水田がセットで存在している。三方五湖では、周辺の水田で冬期湛水を始めたところ本種の越冬が始まった。冬期湛水と秋耕作をしない二番穂水田を組み合わせた環境の維持が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、環境省生物多様性センター（2013）、中村・中村（1995）、渡辺（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○						○	○	○	○	○		○

オオハクチョウ

Cygnus cygnus (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県への飛来は断続的で、個体数も数羽までである。また越冬期を通して、同一場所で継続的に確認された記録はさらに少ない。埤となる湖沼や河川と、餌場となる二番穂水田の両方が越冬期の生息には必要であるため、生息環境が脆弱で存続基盤が安定していない。

種の特徴

全長 140 cm、全身白色の大形の冬鳥で、コハクチョウよりやや大きく、頸も長い。嘴の先は黒く基部は黄色で、黄色部の先端の形は尖っている。刈り取り後の水田で二番穂や水田雑草等を採餌するが、コハクチョウよりも湖沼や河川の抽水植物を好む。

分 布

国内の主な越冬地は北海道と東北で、1980 年代以降、国内の越冬数が増加し 3 万羽前後が渡来する。本県では九頭竜川、足羽川、日野川、大堤、三方五湖等で記録されている。

生息を脅かす要因

三方五湖の周辺の水田で冬期湛水を始めたところ、まずコハクチョウが越冬を始め、2012～2014 年度には連続してオオハクチョウも越冬した。また本種は三方湖のマコモを好んで採餌したことから、湖岸の水草帯の保全も重要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、環境省生物多様性センター（2013）、中村・中村（1995）、神山（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○			○	○		○

ヨシガモ

Anas falcata Georgi
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

飛来数は増加傾向にあるが、本県における本種の渡来地は、三方五湖、大堤、北潟湖等の特定の湖沼に限られている。これらの湖沼内の環境と周辺の水田環境は、決して良好であるといえず、存続基盤が脆弱である

種の特徴

全長 48 cm。雄の後頭の羽毛は伸びて冠羽になり、ナポレオンの帽子のような形の紅紫色と緑色の光沢のある黒色、三列風切は長く鎌のような形に垂れる。雌は褐色で黒褐色の斑がある。湖沼内の水草の葉・茎・根、水田内でイネや雑草の種子等を食べる。

分布

冬鳥として、本州中部以南に渡来するが、北海道では繁殖する。本県では、北潟湖、大堤、三方五湖、九頭竜川と真名川の合流点、小浜湾等に渡来し、個体数は数百羽までである。

生息を脅かす要因

埒となる湖沼環境の悪化、餌場となる埒周辺の水田の乾田化や転作等による餌場環境の悪化が心配される。本種の渡来地は、特定の湖沼に限られていることから、既存の渡来地の保全は重要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○		○				○	○	○	○		

シマアジ

Anas querquedula Linnaeus
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息確認メッシュに限られており、生息基盤が脆弱である。また、2010年以降の記録が減少している。

種の特徴

全長 38 cm。雄の顔は赤紫色を帯びた褐色で、後頭まで伸びる太い白の眉斑がある。雌は全身褐色で黒褐色の斑があり雌雄とも嘴は黒い。流れのない、狭くて浅い水面で、主としてイネ科やタデ科等の種子や植物片、アオミドロ等を食べる。

分布

旅鳥として全国の湖沼や川等に渡来するが少ない。北海道や愛知県では繁殖例がある。本県では旅鳥として、北潟湖、足羽川、九頭竜川下流域、狐川等で、春に少数が飛来する。

生息を脅かす要因

かつては、狐川や足羽川等で、毎年少数が記録されていたが、2010年以降は記録が途絶えがちである。かつて定期的に飛来していた生息地の環境保全と、主な飛来地での組織的な調査による実態の把握が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○	○			○

シノリガモ

Histrionicus histrionicus (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

坂井市三国町や南越前町の海岸の岩礁地帯には、定期的に飛来しているが、個体数が大変少なく、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 43 cmの海ガモで、雄の頭、背、胸は、紫黒色斑と白色斑が張り分けられたように配置され、脇腹が赤栗色の特徴的な色彩をしている。雌は全体に灰黒褐色で眼先の上下と耳羽に白斑がある。越冬期は、貝類、魚類、甲殻類、ウニ類、藻類を食べる。

分布

北海道と東北地方の溪流で少数が繁殖するが、多くは冬鳥として九州以北の岩礁地の海岸に渡来する。本県では、数羽～20羽までの群れの記録があるが、渡来地は限られている。

生息を脅かす要因

海岸線の道路や港の整備による、岩礁地の減少の影響が懸念される。また、釣り人やカメラマンの岩礁地への接近や立ち入りが、採餌の妨げになることが考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○		○	○			○						

ウミアイサ

Mergus serrator Linnaeus
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内全域で記録があるが、飛来数が大変少なく、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 55 cm、頭部は緑黒色で、後頭に 2 段に分かれたぼさぼさした冠羽がある。赤い嘴は細長く、先端はカギ状に曲がる。虹彩は赤い。雌の頭部は茶色で、ほかは灰褐色をしている。沿岸の岩礁地等で、潜水して魚類を捕食する。

分 布

冬鳥として全国に渡来し、主に波の静かな内湾でみられる。本県では飛来数が少なく目立たないが、県内全域の沿岸部での記録があるため、毎年飛来していると推察される。

生息を脅かす要因

海洋環境の悪化による餌場環境の消失や船舶から流れる油汚染の影響等が挙げられる。比較的警戒心が強いカモ類であるため、人間の存在による休息や採餌行動への影響も考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県 (2002)、高野 (2007)、桐原 (2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○	○	○			○						○

チュウサギ

Egretta intermedia (Gmelin)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧 (NT)

選定理由

湿地や湿田を好むため、生息環境の劣化が進んでいる。また、かつてサギ類の集団営巣地は、河川敷内のヤナギ林にあったが、現在は、糞による樹木の枯死、悪臭、騒音等の人間との軋轢が生じる林に形成されることが多く、集団繁殖地での営巣数も決して多くないため、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 68.5 cm の中形の白鷺である。同じ白鷺のコサギに比べ、体が大きく首と足は長い嘴は短い。またダイサギと比べると、体が小さく、首、足、嘴が短い。平地の水田、浅い水辺、水辺近くの草地で、魚類、両生類、甲殻類、昆虫類、クモ類等を捕食する。

分 布

夏鳥として九州～本州で繁殖し、西南日本では一部が越冬する。本県では、社叢林、山林、島嶼等で、ほかのサギ類と集団で営巣するが、嶺南地方は少ない。

生息を脅かす要因

現在ある集団繁殖地は、人間との軋轢により林の伐採や追い払いが行われ、営巣環境が安定していない。河川敷のヤナギ林で営巣しなくなったのは、洪水対策による樹林の伐採やアライグマの分布拡大による捕食等が、原因として推察される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、福井県 (2002)、日本野鳥の会福井県支部サギ類調査グループ (2010)、中村・中村 (1995)、高野 (2015)、大西・真木 (2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

クロサギ

Egretta sacra (Gmelin)
ペリカン目・サギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】—

選定理由

海岸の岩礁地帯に生息するため、本県のようなリアス式海岸の発達した海岸は生息に適していると推察されるが、岩礁地帯であっても生息が確認されない等、県内の海岸の岩礁地帯に均等に分布しているわけではなく、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 62.5 cm で、黒色型と白色型があるが、本県では黒色型のみが分布する。全身が青灰黒色で、嘴は黒褐色～黄褐色、足は黄褐色～緑褐色等の変異が大きい。巣は海岸や島嶼の岩棚、岩の隙間、樹木に作る。水際を歩きながら、魚類、甲殻類、軟体動物を捕食する。

分 布

本州以南の海岸の岩礁地帯を中心に留鳥として分布する。本県では、越前海岸～若狭湾岸まで広く分布するが、生息密度は低く、繁殖記録も少ない。

生息を脅かす要因

海岸線の道路整備や釣人、油汚染により、安心して営巣し捕食できる環境が失われることが本種の生息を脅かす。営巣地は、大きな岩の隙間やオーバーハングした岩棚で確認されたため、このような環境が残る海岸の岩礁地帯は、現在の環境を維持する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、福井県 (2002)、大西ら (2014)、高野 (2015)、中村・中村 (1995)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○			○						○

鳥類

タゲリ

Vanellus vanellus (Linnaeus)
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

河川に近い湿地的な刈後田や畑地等では、毎年安定して記録されているが、近年は個体数や出現率に減少傾向がみられる。

種の特徴

全長 31.5 cm。黒くて長い冠羽を持ち、後頸～上面は黒くて緑色や淡紅色の光沢がある。水田や湿地等に主に冬鳥として渡来し、数十羽までの群れていることが多い。地上を歩いたり走ったり、また片脚で地面を叩いて追い出し、昆虫類等を食べる。

分布

本州以南に冬鳥として、水田、畑、河川、草地等に渡来する。県内では、平野部の河川や湖沼沿いの水田等でみられる。1972、1974、1975年に鯖江で繁殖記録がある。

生息を脅かす要因

本種が好む湿地的な刈後田や休耕田等は、水田の乾田化や、大麦・ソバ・大豆等の転作により減少し、渡来地が狭められているため、河川沿いの水田では転作や秋耕作を控え、湿地的な環境を残存させる等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○			○	○	○	○			○

イカルチドリ

Charadrius placidus Gray & Gray
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種の生息域は、砂れき河原に限定されており、更に豪雨等により生息環境は常に不安定で、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 20.5 cm。足は淡黄色、頭頂～背中にかけての上面は灰褐色でコチドリに似るが、嘴と足は長く、飛翔時には淡い翼帯が出る。河川の水辺や浅い水域で水生昆虫等を採餌し、時には雪面では動けなくなっているユスリカの成虫もついでむ。

分布

北海道～九州で繁殖し、北海道では夏鳥、本州以南では留鳥、一部は漂鳥である。県内では、九頭竜川や日野川の中流域の砂れき河原や、れきで埋まった砂防堰等の水辺に生息する。

生息を脅かす要因

生息環境の砂れき河原は、洪水による攪乱で維持される不安定な環境であるため、本種の存続基盤は脆弱である。そのため、適度な洪水調節による砂れき河原の維持が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、内田（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○		○	○			○		○	○	○	○

セイタカシギ

Himantopus himantopus (Linnaeus)
チドリ目・セイタカシギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では芦原町で1981年9月に初めて観察されて以来、2002年以降は、数は少ないもののほぼ毎年、旅鳥として春季に多く記録されている。

種の特徴

全長 37 cm。嘴はまっすぐで細くて黒い。脚は淡紅色で非常に長い。長い脚をリズムカルに折り曲げながら、水生昆虫、小魚、オタマジャクシ、甲殻類等を捕食する。

分布

旅鳥として、全国の干潟、河川、水田に少数が飛来し、局地的に越冬や繁殖が確認されている。本県では、坂井平野、丹南地域の平野部、北潟湖、足羽川、三方五湖等で記録がある。

生息を脅かす要因

本県での飛来地はほとんどが湛水水田であるため、乾田化による湿地の減少や温暖化に伴う5月半ば適期田植への推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が著しく減少し、生息環境は悪化している。三方湖に飛来した個体は、水田で採餌し湖内のヨシを嚙っていた。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○			○			○	○	○	○			○

ヤマシギ

Scolopax rusticola Linnaeus
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

目撃例は著しく少ないが、単独で夜間に行動し、日中は薄暗い林内で休息しているため、実際の生息数はもっと多いと推察される。一方、狩猟鳥である本種の捕獲数は、1970年代に8万羽を記録したが、2005～2009年には1,000～2,000羽に急減している。

種の特徴

全長34cmの太ったシギ類である。頭頂～後頭に黒い横斑があり、体の上面は赤褐色・黒色・灰白色の複雑な斑紋がある。嘴は肉色で太くて長い。夜間には開けた所にも出て、農耕地、湿地、草原等で、ミミズや地上徘徊性の節足動物、イネ科やタデ科の種子を食べる。

分布

本州中部以北～北海道で繁殖し、北海道では夏鳥、本州中部以南では漂鳥もしくは留鳥である。本県では、秋季～冬季の記録が多いが、繁殖期の記録もある。

生息を脅かす要因

狩猟個体数の急激な減少から、本種の生息数は急激に減少している可能性が高いが、本県での生息状況が把握されていないことが一番の課題である。本種が好みそうな環境をセンサーカメラ等で定期的に調査し、生息状況を把握することが急務である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、小田谷（2014）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○					○	○

アオシギ

Gallinago solitaria Hodgson
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山間の湿田・湿地や河川等、放棄が進む限られた環境で冬鳥として飛来するが、2010年以降は2件しか記録がなく、減少傾向がみられる。

種の特徴

全長30cmで、嘴は長くまっすぐ伸び、全体の模様はジシギ類特有の模様をしているが、顔や体下面の部分はうっすらと青灰色みを帯びている。単独でいることがほとんどで、長い嘴を柔らかい砂泥に差し込んで、ミミズや昆虫等を採餌する。

分布

冬鳥として全国に飛来するが、本州中部以南では少ない。本県では、敦賀以北の低山～山地帯の放棄された湿田や湿地、沢沿いでみられる。

生息を脅かす要因

山間の湿田・湿地や河川等の限られた環境に生息するため、管理放棄に伴う湿田や湿地の藪化等の環境変化が進み、2010年以降は減少傾向が著しい。山間部の湿田や湿地の植生管理等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○					○		○	○

オグロシギ

Limosa limosa (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

旅鳥として春と秋に記録されるが、2010年以降は減少傾向が認められる。

種の特徴

全長38.5cm。嘴はまっすぐで長く、足も長い大形のシギである。飛翔時は白い翼帯と上尾筒の白色部と尾羽の黒帯が目立つ。ほかのシギよりも深いところに入り、昆虫類、甲殻類、二枚貝、ミミズ、ゴカイ等を食べる。

分布

旅鳥として、河口、干潟、海岸付近の水田に飛来する。本県では、4月下旬～5月中旬、8月下旬～9月中旬に、九頭竜川下流域の水田に現れるが、越前市や敦賀市でも記録がある。

生息を脅かす要因

本県には、本種の採餌に適した干潟や湿地等の環境が少なく、田植え前後の水田や湿田等でみられる。しかし乾田化による湿田の減少や温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が著しく減少し、生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○	○					○

オオソリハシシギ

Limosa lapponica (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

旅鳥として記録されるが、2002年以降の記録が9件しかなく、減少傾向が認められる。

種の特徴

全長41cm。長くて上に反った嘴、基部はピンク色、足は長くて黒い。翼帯はなく腰と尾羽が白く、黒褐色の横斑がある。長い足と長い嘴で、甲殻類、昆虫類、ミミズ、ゴカイ、二枚貝等を食べる。

分布

日本には旅鳥として干潟や砂浜に飛来し、秋の方が多い。本県では、4～5月上旬と9月の渡り期に、主に坂井平野と久々子湖周辺の水田でみられる。

生息を脅かす要因

本県には、本種の採餌に適した干潟や湿地等の環境が少なく、田植え前後の水田や湿田等でみられる。しかし乾田化による湿田の減少や温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が減少し、生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○						

ツルシギ

Tringa erythropus (Pallas)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

シギ・チドリ類の中では記録は多いが、定期的な渡来地である狐川の出現頻度の低下や、数十羽の群れがみられなくなる等、過去数年間の記録は減少傾向にある。

種の特徴

全長32cm。夏羽では全身黒く背・翼に白斑が多く散在する。嘴は長くて黒く、下嘴の基部が赤い。冬羽では足が赤く、頭～上面が灰褐色で、白い羽縁とその内側に黒褐色斑がある。浅い水の中にいる水生昆虫、甲殻類、軟体動物等を食べる。

分布

旅鳥として干潟、水田、蓮田に飛来する。秋より春の方が多い。本県では3月中旬～5月中旬、9月上旬～10月上旬に、福井平野や久々子湖周辺の水田や川でみられる。

生息を脅かす要因

本県には、干潟や湿地等の環境が少なく、田植え前後の水田や湿田、浅い河川等でみられる。しかし、乾田化による湿田の減少、温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨による飛来期の湛水水田の減少、河川整備等により、生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○	○	○	○			○

コアオアシシギ

Tringa stagnatilis (Bechstein)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

数少ない旅鳥として、九頭竜川下流域や久々子湖周辺の水田等の限られた地域で、断続的に確認されているが、近年、減少傾向にある。

種の特徴

全長24.5cm。嘴は黒くまっすぐで細い。足は黄緑色～オリーブ緑色で長くてスマートなシギ類である。飛翔時に翼帯はなく、下背～尾羽は白い。浅瀬を歩きながら、細長い嘴で水生昆虫、小さい甲殻類、軟体動物等を食べる。

分布

旅鳥として、全国の水田、湿地、干潟等に飛来するが多くなく越冬する個体もいる。本県では、4～5月と8～9月に、かつては福井新港で、現在は限られた地域の水田に飛来する。

生息を脅かす要因

本県において渡りの時期に利用している水田環境は、乾田化と湛水休耕田の減少によって湿地としての機能が低下し、渡りの中継地として利用できなくなりつつある。飛来記録がある地域の水田では、湛水休耕田や飛来期の水張り水田の配置等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、桐原ら（2000）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○					○	○	○	○			○

ミサゴ

Pandion haliaetus (Linnaeus)
タカ目・ミサゴ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

レッドデータブック第1版(2002年)の出版以降、繁殖ペア数が増加しているが、食物連鎖の頂点に位置する種であるため、生息条件の変化に弱く、存続基盤が脆弱である。

種の特徴

全長 58～60 cm、翼開長 147～169 cm でトビとほぼ同大である。飛翔中は、翼が長く、尾が短く、下面は白っぽい。海岸、河川、湖沼、ダム湖とその周辺の山林に留鳥として生息し、海岸の岩、大径木、鉄塔等で営巣する。空中～水面に飛び込み、ボラやコイ等の水面近くの魚類を捕食する。

分 布

全国に分布し繁殖する。本県でも、海岸、河川やダム湖、北潟湖や三方五湖で通年みられるが、確認されているペア数は40ペア程度、繁殖成功率は50%程度である。

生息を脅かす要因

本県では、アカマツの大径木の樹上で繁殖する例が多いが、松枯れに伴い営巣木が減少し、鉄塔等の人工物営巣も増えている。また、海岸付近の風力発電により営巣環境が失われ、バードストライクも確認されている等、生息・繁殖環境は悪化していると推察される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、中村・中村(1995)、高野(2015)、五百沢ら(2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○			○	○	○	○		○	○

ツミ

Accipiter gularis (Temminck & Schlegel)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】—

選定理由

繁殖期の目撃例は全県的に存在し、絶滅の危険度は少ないが、繁殖確認例は10例に満たない。

種の特徴

全長 27～30 cm、翼開長 52～63 cm、雌の方が大きい。国内で最も小形の森林性猛禽類で、雄の上面は暗青灰色、胸～脇は黄赤褐色、雌の上面は暗石板色、下面には横斑がある。林縁に止まり、ハトより小形の鳥類を待ち伏せして捕るが、コムリ類やネズミ類、昆虫類も食べる。

分 布

九州以北に留鳥もしくは夏鳥として分布し、平野部～亜高山の林や市街地に生息する。本県では、里山～山地帯に生息し繁殖記録もあるが、見つけにくい種であるため記録は少ない。

生息を脅かす要因

本県で確認された営巣林の多くはスギの高木林であり、関東～東海地方で報告されているような市街地の孤立林で繁殖した事例はない。そのため、スギ林と多様な餌種を育む落葉広葉樹林が、モザイク状にある森林環境の保全が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県福祉環境部自然保護課編(2002)、大西・真木(2000)、高野(2015)、中村・中村(1995)、平野(2005)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○									○	○	○

サシバ

Butastur indicus (Gmelin)
タカ目・タカ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では、トビに次いで数多く繁殖している猛禽類であり絶滅の危険度は小さいが、生息条件は悪化している。また、全国の渡りの中継地における通過個体数調査では、国内の生息数は急激に減少している。

種の特徴

全長 47～51 cm、翼開長 103～115 cm で雌の方が大きい。体の上面は褐色、眉斑は白色、頬は灰色、喉は白くて中央に黒い縦線がある。下面は白く胸と腹に横斑がある。主に地上の小形哺乳類、両生・爬虫類、小鳥類、甲殻類、昆虫類を、探索待伏せして捕食する。

分 布

夏鳥として九州～本州で繁殖し、9月末～10月初めには大群で南下する。本県では、里山～山地の森林に広く生息するが、農耕地がある山麓部に多い。

生息を脅かす要因

本種は農耕地と林がモザイク状にある環境を好むが、このような環境は生産性が低く、開発対象や耕作放棄地になることが多い。その結果、採餌環境が悪化し繁殖地として利用できなくなるため、人が適度に管理した里山里山環境の保全が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県(2002)、森岡ら(1995)、大西・真木(2000)、高野(2015)、中村・中村(1995)、東(2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

鳥類

オオコノハズク

Otus lempiji (Horsfield)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

夜行性であり鳴かないため、野外調査ではなく、傷病鳥救護でその存在を知ることが多い等、現状把握が十分にできていない。本種は夜間の食物連鎖の上位に位置する種であり、生態系の健全性を評価する上で重要な種である。

種の特徴

全長 23.5 ~ 26 cmで、雌の方が少し大きい小形のフクロウ類である。体は、褐色・灰白色・黒色の複雑な細かい虫食い斑で、後頸には襟状の灰褐色の斑紋がある。橙色の虹彩が目立つ。小形哺乳類、小鳥類、両生・爬虫類、昆虫類や多足類等の節足動物を捕食する。

分布

北海道では夏鳥、本州以南では留鳥として、低地～山地の林に生息・繁殖する。本県の記録はブナ林や社寺林等の樹洞のある林に点在し、秋季には丹生山地等を渡る。

生息を脅かす要因

樹洞のある深い森を好むため、大径木のある森林の保全が必須である。また夜行性で目立たない小形種であることから、人知れず消えていく可能性があり、生息の可能性のある森林においては、センサーカメラや音源等を導入した定期的な生息確認調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○	○		○	○	○	○	○		○	○

コノハズク

Otus sunia (Hodgson)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

過去に本種の生息記録があった場所でも鳴き声が聞けなくなっており、個体数が減少していると推察される。奥山に生息し夜行性のため、生息状況の把握は困難であるが、良好な森林生態系に生息するため、生態系の健全性を評価する上で重要な種である。

種の特徴

全長約 20 cmで、日本産フクロウ類中、最小種である。姿は灰褐色で目立たないが、「ブッキョクコウー」と大きな声で連続して鳴くため、声の「ブッポウソウ」として有名である。夜行性で主に昆虫類を捕食するが、ミミズ、カエル類、トカゲ類、小形哺乳類等も捕える。

分布

夏鳥として九州以北に渡来し、奥山の大木のある林で営巣する。本県では、奥越や南越のブナ林等で鳴き声を聞くことが多い。また、秋季には丹生山地等で渡り個体が確認される。

生息を脅かす要因

樹洞のある深い森を好むため、大径木のある森林の保全が必須である。また夜行性で目立たない小形種であることから、人知れず消えていく可能性があり、生息の可能性のある森林においては、継続的な鳴き声調査を行う等、モニタリング体制の構築が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○	○			○	○			○		○	○	

トラフズク

Asio otus (Linnaeus)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

田園生態系の食物連鎖の上位に位置する種である。また初版レッドデータブック以降の記録は数件未済と大変少ない。ただ、夜行性のため、調査が十分とはいえない。

種の特徴

全長 35 ~ 40 cm。羽角は長く、嘴の両側～両目の内側に走る白い線がある。下面には黒い縦斑と交わる細い横斑がある。目は橙色。夕方から活動して、ネズミ類等を捕える。数羽～数十羽がまとまって、公園や屋敷林でねぐらを取ることもある。

分布

本州中部以北の林で繁殖し、本州以南で越冬する。本県ではこれまでに、九頭竜川周辺の林での越冬ねぐら形成例や死体回収例があるほか、北川でも目撃例がある。

生息を脅かす要因

河川敷内の草地の減少に伴うネズミ類の減少が挙げられる。また、フクロウ類は野鳥カメラマンの撮影対象として人気があることから、インターネット等による生息情報の拡散は、静かで落ち着いた生息環境の消失を招く。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○							○

コミミズク

Asio flammeus (Pontoppidan)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

田園生態系食物連鎖の上位に位置する種である。同様の環境に生息するトラフズクより記録は多いが、夜行性のため調査が十分とはいえない。これまでの記録地は、河川敷とその周辺に限られている。

種の特徴

全長 35～41 cm。トラフズクに比べ羽角は短く、顔盤は淡灰褐色で目は黄色。体の下面は縦斑だけで、交わる横斑はない。夕方から活動してネズミ類等を捕らえるが、昼間に活動することもある。

分 布

冬鳥として、全国の海岸や水田、川岸の湿った草原に渡来する。本県では、主に九頭竜川や北川等の下流域を含む河川敷と、その周辺の水田や草地で越冬する。

生息を脅かす要因

河川敷内の草地の減少に伴うネズミ類の減少が挙げられる。また、フクロウ類は野鳥カメラマンの撮影対象として人気があることから、インターネット等による生息情報の拡散は、静かで落ち着いた生息環境の消失を招く。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○						○						○

アカショウビン

Halcyon coromanda (Latham)
ブッポウソウ目・カワセミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

自然度が高い環境に生息するため、存続基盤が脆弱である。夏鳥の中でも記録は多く減少傾向にはないが、他県の状況を見加えると、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 27.5 cm。嘴は大きくて赤く、体の大部分が黄褐色を帯びた赤色で、とても美しく目立つ。浅い水の上にかぶさる横枝に止まり、小魚、カエル類、トカゲ類、サワガニ等の小動物を、大きな嘴で捕獲する。

分 布

夏鳥として北海道～南西諸島に渡来し繁殖する。本県では県内一円の溪流沿いの落葉広葉樹林に生息し、「キヨロロロロロ・・・」と尻下がりの鳴き声で存在に気づくことが多い。

生息を脅かす要因

よく茂った落葉広葉樹林の保全と、多様な餌動物が生息できる環境の保全が必要である。また美しい種であるため、野鳥カメラマンの格好の被写体になることが多く、インターネット等による生息情報の拡散が起こらない配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○

アリスイ

Jynx torquilla Linnaeus
キツキ目・キツキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、中池見湿地、若狭町の中山のカヤ田、三方五湖や北潟湖、河川敷等の里山の水辺にあるヨシ原や低木林で確認されることが多いが、記録数は少ない。このような環境は決して多くないため、生息環境が脆弱である。

種の特徴

全長 18 cm。全身灰褐色で黒褐色や茶褐色の細かい複雑な斑がある。細く長い舌を伸ばし、アリスイを好んで食べる。ほかのキツキ類のように木の幹に垂直にとまることは少なく、普通の小鳥のように横枝にとまる。

分 布

北海道や東北の一部で繁殖し、本州以西の平地林や藪のある農耕地、ヨシ原等で越冬する。本県では冬鳥として、木が疎らに生えた草原やヨシ原がある林縁部等で確認されている。

生息を脅かす要因

本県における主要な生息環境であるヨシ原や高水敷の樹木が消失すると、生息環境が減少することから、ヨシ原や河畔林の保全等が必要である。一方で、記録が少ないことから、生息可能地で標識調査を行う等、生息状況を把握する調査も必要であろう。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○		○				○

コムクドリ

Agropsar philippensis (Forster)
スズメ目・ムクドリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

繁殖記録等の記録の多くが嶺北の河川敷に集中しており、生息分布が狭い。

分布

夏鳥として、中部以北に4月上旬～下旬に渡来する。本県では繁殖期の記録のほとんどが、嶺北の河川敷に限られ、それ以外の地域では渡りの時期の記録があるに過ぎない。

種の特徴

全長19cm、雄は頭部、下腹～腰、下尾は淡いクリーム色、頬～耳羽後方に茶色の斑があり、背と肩羽は紫色の光沢がある黒色である。ガ類やクモ類、エノキ等の果実を食べる。平地～山地の明るい林の樹洞を利用して繁殖する。

生息を脅かす要因

本県での生息・繁殖状況は解明されていないが、河畔林で繁殖している可能性が高いため、河川改修等で樹林が伐採されると、生息及び繁殖環境が悪化すると推察される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、五百沢ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○					○			○	○	○	○	○		○

コサメビタキ

Muscicapa daurica Pallas
スズメ目・ヒタキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の低山帯で繁殖するが、得られた記録の多くが春と秋の渡り時期に県内を通過しているものであり、繁殖記録はごくわずかである。

分布

九州以北の低地～低山の落葉広葉樹林に夏鳥として渡来し、繁殖する。本県では春と秋の渡り時期に、県下一円の落葉広葉樹林や公園の林で、姿をみることが多い。

種の特徴

全長13cm。全身灰色～白色の地味な小鳥であるが、枝先に止まることが多く、渡りの時期等はよく目に付く。樹間を飛ぶ小形の昆虫類を空中で捕獲し、再び元の枝に戻るフライングキャッチをよく行う。横枝にコケや地衣類でカモフラージュしたお椀型の巣を作る。

生息を脅かす要因

県内では繁殖記録が少ないこと、低山～山地のよく茂った落葉広葉樹林に生息すること等から、成熟した落葉広葉樹林の保全が重要である。里山林を活用した公園等では、伐採が制限されるので、本種の良い生息地となっている可能性がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○							○		○	○

ニューナイスズメ

Passer rutilans (Temminck)
スズメ目・スズメ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方の限られた地域で少数の繁殖記録が存在するが、その存続基盤は脆弱である。一方、六呂師高原は渡り期になると、時には1,000羽を超える群れが飛来することから、重要な中継地である。

分布

夏鳥または漂鳥として本州中部以北で繁殖し、中部以南で越冬する。本県では奥越の一部で繁殖しているが、秋季に農耕地や草地に飛来する群れをみることが多い。

種の特徴

全長約14cm。雌雄異色で、雄の上面は赤栗色で体下面は濁白色、雌は全体的にくすんだ褐色をしている。中部以北の積雪の多い地域の落葉広葉樹の樹洞で繁殖するが、人家や巣箱にも営巣する。繁殖期は樹上で昆虫類を捕食するが、越冬期はイネ科の種子食である。

生息を脅かす要因

森林の伐採による樹洞の減少が考えられるため、樹洞が形成される大径木の保全が求められる。また繁殖個体群を保全するためには、営巣している民家の保全、巣箱や木の電柱の設置等が効果を発揮するであろう。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○			○		○	○			○	○	

サカツラガン

Anser cygnoides (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

1950年までは、千葉県に100羽程が渡来していたが、現在は定期的な渡来地はなく、ほぼ毎年1～2羽渡来するのみである。本県では、断続的な飛来記録があり、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長87cm、大型で後頸の茶褐色と前頸の淡褐色とのコントラストが目立つ。体は灰褐色で淡い横縞がある。足は橙色で、首は長く、嘴は黒いが付け根に白い線がある。湖沼、潟湖、沼沢地、水田等でみられる。本種はガチョウの原種ともいわれる。

分布

冬鳥として渡来するが、数は極めて少ない。坂井平野では、2006、2010、2011年に、マガンや垂種オオヒシクイの群れの中で1羽のみ観察されている。

生息を脅かす要因

本種は、ほかのガン類と行動を共にして記録されるため、ガン類が生息できる環境を保全することが重要である。そのため、広い水田地帯を横断する道路整備の制限、ふゆみずたんぼや二番穂の育成、転作場所の配慮、鳥獣保護区指定等が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、高野（2015）、呉地（2006）、大西・真木（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				

亜種ヒシクイ

Anser fabalis serrirostris Swinhoe
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本で越冬する約2万羽のヒシクイのうち、半数程度が亜種ヒシクイであると言われている。日本海側での飛来は少ないが、本県でも稀な飛来記録があり、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長78～89cm、垂種オオヒシクイより少し小さく、雌雄同色で、体は黒褐色、上・下尾筒は白く、尾羽は灰黒色で先は白い。嘴は短く厚く、大部分が黒く先端付近で橙色の部分があり、足は橙色である。イネの落穂や二番穂、イネ科の水田雑草等を採食する。

分布

冬鳥として本州以北の太平洋側に多く飛来する。本県では、1994年（坂井町・三国町）、2008～2009年（若狭町・南越前町）、2009年（鯖江市）で確認されている。

生息を脅かす要因

本種は、ほかのガン類やコハクチョウの群れと行動を共にして記録されるため、ガン類やコハクチョウが生息できる環境を保全することが重要である。そのため、広い水田地帯を横断する道路整備の制限、ふゆみずたんぼや二番穂の育成、転作場所の配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、呉地（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○			○			○			

ハクガン

Anser caerulescens caerulescens (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

明治時代初期までは東京湾に大群が飛来したが、現在は群れとしての渡来は途絶えている。本県では1993年に初めて記録され、90年代には毎年渡来したが、2000年代以降は飛来しなくなった。復元計画により国内の飛来数は増加しており、今後の動向に注目する。

種の特徴

全長67cmで、成鳥は白色で翼の先端だけが黒く、嘴は淡紅色、足は淡橙紅色である。幼鳥は頭部、背面が暗色である。越冬期には水田で、農作物の地下茎、落穂、イネ科の雑草等を採食する。

分布

世界では約500万羽が生息し、ほとんどは北米大陸に分布する。日本では、秋田と新潟で数十羽が越冬する、本県では1990年代に、坂井平野でマガン群中に1羽が記録された。

生息を脅かす要因

本種はマガンの群れと行動を共にするため、マガンの渡来数が減少すれば、飛来する可能性が低くなる。マガンの渡来を持続させるためには、安心して効率的な採食が行える、広く連続した二番穂水田を確保するための対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2015）、呉地（2006）、佐場（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

シジュウカラガン

Branta hutchinsii leucopareia (Brandt)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

かつてアリューシャン列島及び千島列島で繁殖し、北米西海岸と日本に渡来してきたが、20世紀初頭には絶滅状態になった。国際的な回復事業により増加し、宮城県では飛来数が1,000羽を超えた。本県では断続的な飛来記録があり、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

体長60cm、頭～首は黒く、頬と喉は白い。体の上面は黒褐色で淡色の横斑があり、首の付け根には白い輪がある。嘴と足は黒い。カナダガンと間違われるので注意を要する。本県では、坂井平野にマガンや亜種オオヒシクイの群れに混じって飛来する。

分布

日本に渡来する本亜種は世界で22,000羽(1995)、宮城県で590羽(2015)である。本県では、坂井平野で2002～2011年に断続的に1～3羽の記録がある。

生息を脅かす要因

本種はマガンの群れと行動を共にするため、マガンの渡来数が減少すれば、飛来する可能性が低くなる。マガンの渡来を持続させるためには、安心して効率的な採食が行える、広く連続した二番穂水田を確保するための対策が必要である。

参考文献 高野(2015)、呉地(2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				

ツクシガモ

Tadorna tadorna (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本には冬鳥として九州の有明海に渡来していたが、近年は少数が西日本に分散して渡来する。本県では、稀な冬鳥として不定期に飛来するため、初版の県域絶滅危惧Ⅰ類から今回は要注目に変更し、西日本への分布拡大も踏まえ今後の動向には注目していく。

種の特徴

全長62.5cmで、雄の頭部は緑色光沢のある黒で体は白い。肩羽と胸～腹を通る縦の線は黒く、胸側～背に回る線は栗色である。尾は白いが先端が黒く、風切羽は黒くて雨覆は白い。泥深い干潟の水路や湛水水田で、軟体動物、昆虫類、甲殻類等を食べる。

分布

日本には冬鳥として、九州北部、特に有明海に100～300羽の群れが渡来する。本県では、三方五湖や大堤等の湖沼、日野川、若狭町のふゆみずたんぼ等に飛来した記録がある。

生息を脅かす要因

本県の飛来地は、カモ類の多様性が高い湖沼や河川、ふゆみずたんぼであった。そのため、これらの自然環境を保全しカモ類の多様性を持続させることや、水鳥の生息環境を再生させるふゆみずたんぼの拡大が、本種の生息地を保全再生する上で重要と考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、中村・中村(1995)、高野(2015)、大西・真木(2000)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○	○					

アカツクシガモ

Tadorna ferruginea (Pallas)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

全国的に飛来数が少なく、国のレッドリストでは情報不足に選定されている。本県では1990年代以前に、造成途中の福井新港や北潟湖等に飛来した記録が6件、その後は、2003年2月に北潟湖で1件の記録があるに過ぎない。過去の飛来記録を考慮し、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長が63.5cmもある大形のカモ類である。体は橙赤褐色で、頭部は色が淡く、雌では特に白っぽい。繁殖期の雄には黒い首輪がある。尾、嘴、足は黒い。浅く水につかる砂泥地で採餌し、雑食性である。

分布

冬鳥として少数が飛来し、本州中部以南に現れることが多い。本県では、造成途中の福井新港や北潟湖への飛来記録がある。

生息を脅かす要因

近年の本県での飛来記録の減少は、本種が好む塩分を含んだ浅い砂泥地がないからと推察される。また、足にテグスが絡まった個体の確認例もある。過去に複数の記録があった福井新港や北潟湖は、いずれも多様なカモ類の重要な越冬地であったことから、越冬環境の多様性の保全が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1998)、福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、中村・中村(1995)、高野(2015)、大西・真木(2000)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○							○		○				○

ヒロードキンクロ

Melanitta fusca (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

稀な冬鳥として飛来するため、今後の動向に注目する必要がある。

分布

冬鳥として九州以北の海上に飛来する。本県では観察例が少なく、敦賀湾、越前町の漁港、小浜湾、高浜町難波江をはじめ、これまで6例程度しかない。

種の特徴

全長 55 cm と大形で、雄は全身が黒く、赤い嘴に黒いこぶ、目の下に白斑を持つ特徴のある顔つきの海ガモで、越冬地では小群で海上生活する。潜水能力がすぐれ、浅い海で貝類等を餌とし、敵の接近時には、飛翔ではなく潜って逃げる。クロガモとよく一緒にいる。

生息を脅かす要因

海洋環境の悪化による餌場環境の消失や船舶から流れる油汚染の影響等が挙げられるが、本県では生態的な情報が少なく、存在を脅かす要因を具体的に言及できない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2007）、桐原ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○	○										

クロガモ

Melanitta americana (Swainson)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

稀な冬鳥として飛来するため、今後の動向に注目する必要がある。

分布

冬鳥として、九州以北の海上に渡来する。本県では観察例が少なく、小浜湾や高浜町難波江等で、5例程度しかない。

種の特徴

全長 48 cm の全身が黒く嘴に黄色のこぶがある海ガモで、海上や内湾でみられ、数百羽で群れることもある。餌は浅い海で潜水しながら、主に貝類やエビ類等の小動物を捕らえる。

生息を脅かす要因

海洋環境の悪化による餌場環境の消失や船舶から流れる油汚染の影響等が挙げられるが、本県では生態的な情報が少なく、存在を脅かす要因を具体的に言及できない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、高野（2007）、桐原ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○	○	○											

ホオジロガモ

Bucephala clangula (Linnaeus)
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内各地の湖や河川等で記録されるが、ガンカモ一斉カウント調査によれば、飛来数は毎年 10 ～ 100 羽までと少なく、今後の動向に注目する必要がある。

分布

冬鳥として全国に飛来する。本県では三方五湖や北潟湖等の湖、河川の中流域～河口部、内湾等でみられるが、群れサイズは小さく、せいぜい 20 羽前後である。

種の特徴

全長 45 cm。雄の頭部は三角形で緑色光沢のある黒、頬に白く丸い斑がある。雌の頭部は、褐色で白い首輪がある。潜水もしくは逆立ち等をして、甲殻類、軟体動物、小魚、水生昆虫等動物性の餌や、水草の種子、根、茎、葉等を食べる。

生息を脅かす要因

越冬地の湖や河川の水質汚濁、水底環境の変化、コンクリート護岸による水辺移行帯の消失等の餌種の減少が挙げられる。また、レジャー等で落ち着いて生息できる環境も少なくなっている。採餌物の再生を含めた環境保全が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、小林、1983、高野（2007）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○			○		○	○		○	○

カワアイサ

Mergus merganser Linnaeus
カモ目・カモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国一斉ガンカモ調査では、過去 10 年間の本県の生息数は、毎年十数羽～数十羽の間を変動していることから、飛来数は少ないが、河川を中心に安定して渡来していると推察される。一方、毎年特定の河川で越冬記録がある等、繁殖動向も注目される。

種の特徴

全長 65 cm で、日本産アイサ類の中では最も大きい。雄は頭部が緑黒色で、長い冠羽はない。嘴は赤い。背は黒く、胸から下面は白い。雌の頭部は栗色で冠羽があり、胸・脇・背は灰色である。魚類を潜って追いかけて獲る。

分 布

九州北部に冬鳥として渡来するが、北海道では少数が繁殖する。県内の湖沼や河川には、毎年少数が冬鳥として渡来するが、笙の川等の一部の河川では、少数が越冬している。

生息を脅かす要因

本種は魚食性であるため、多様な魚類相が保全された河川環境が生息には欠かせない。そのため、河川改修時には岸边が多孔質になるような多自然型工法を採用したり、堰等の段差を解消する魚道を設置し、水系の連続性を保全・再生することが必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県 (2002)、日本野鳥の会福井県 (2015)、中村・中村 (1995)、大西ら (2014)、高野 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○		○	○	○		○		○	○	○	○

カムリカイツブリ

Podiceps cristatus (Linnaeus)
カイツブリ目・カイツブリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県ではほとんどが冬鳥として渡来するが、2013 年に九頭竜川下流部で、育雛中の親鳥 1 羽とヒナ 1 羽が観察され、県内で初めて繁殖が確認されたため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 56 cm の日本産カイツブリ類中最大種である。雌雄同色で、首が特に長い。夏羽では、黒い冠羽と橙赤色の頬の飾り羽、冬羽では前頸の白色と後頸の黒色のコントラストが目立つ。潜水を繰り返し、魚類を好んで捕食するほか、甲殻類、両生類、昆虫類等も食べる。

分 布

主に冬鳥として九州以北の湖沼、河口、海岸等に渡来するが、滋賀県や石川県等では少数が繁殖している。かつて三方五湖では、数百羽の群れが飛来したが、最近は見られない。

生息を脅かす要因

三方五湖に渡来した大きな群れが消失した原因は、本種が捕食する小形魚類の生息数の減少にあると推察される。そのため、魚類の再生産が健全に行われるような、河川や湖沼の自然環境の保全・再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、日本野鳥の会福井県 (1991～2015)、中村・中村 (1995)、高野 (2015)、大西・真木 (2000)、桐原ら (2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○					○		○	○	○		○

カラスバト

Columba janthina Temminck
ハト目・ハト科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

複数人による 1 件の目撃記録が、丹南地域の内陸部にあるだけの稀な種であるが、国のリストに選定されていること、本県沖には照葉樹の茂った島嶼があることから、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 40 cm。福井県に生息するほかのハト類より体が大きく、体の割に頭が小さく尾が長いので、スマートにみえる。全身が黒色で、頭頂と後頸、背には赤紫色、頸と胸には緑色の金属光沢があり、足は赤い。

分 布

留鳥として本州中部以南の島嶼に分布し、照葉樹林等が密生した樹林に生息するが、島嶼性で本州では著しく少ない。春秋の渡り期には、日本海側の島嶼で観察されることが多い。

生息を脅かす要因

県内では、照葉樹林が発達した雄島や若狭湾内の島嶼が生息環境に適合すると推察されるが、これらの森林での調査が不十分であり情報が不足している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、中村・中村 (1995)、大西・真木 (2000)、高野 (2015)、叶内ら (1998)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

ヒメクロウミツバメ

Oceanodroma monorhis (Swinhoe)
ミズナギドリ目・ウミツバメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

京都府沓島で繁殖しており、本県沖も生息地である可能性が高い。確実な記録としては1994年と2001年の保護例があり、そのほかに未確認の目撃記録が2件あるが、海上調査が不十分であるため、本県沖の生息実態は把握されていない。

種の特徴

全長19cm、全身くすんだ黒褐色で白色部はないが、翼の上面に淡色帯がある。尾羽の切れ込みは浅い。繁殖期の日中は、集団繁殖地の島を離れた海上でヒラリヒラリとチョウが舞うように飛び、水面近くの小魚、イカ類、エビ類等を水面に下りることなく、くわえ獲る。

分布

夏鳥として、東北～九州、伊豆諸島の島嶼で繁殖し、周辺の海域でみられる。本県沖は、京都府沓島で繁殖している個体群の採餌エリアになっていると推察される。

生息を脅かす要因

本県沖の生息状況はほとんど明らかになっていない。世界的にも繁殖地が限られている種であるため、本県沖の生息状況を調査する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、石川県野生動物保護対策調査委員会（2009）、京都府（2015）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○						

ヒメウ

Phalacrocorax pelagicus Pallas
カツオドリ目・ウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生息可能メッシュにおける確認調査の出現率は0.97で、県内全域の海岸の岩礁地帯に生息し、生息数にも減少傾向がみられないが、国の選定種であることから生息状況に留意する必要がある。

種の特徴

全長73cm、日本産のウ類では最小種で、ほかのウ類よりも体と嘴が細い。冬羽では全身が黒く、青、紫、緑色の光沢がある。繁殖期には目の周りの露出部が赤くなる。休息時以外はほとんど海上で生活し、巧みに潜水して、魚類やエビ・カニ等の甲殻類を捕食する。

分布

北海道、本州北部、九州北部の沿岸で繁殖し、冬季には九州以北に生息する。本県では、冬鳥として越前海岸～若狭湾の岩礁地に渡来し、ウミウと共に休息していることが多い。

生息を脅かす要因

海洋環境の悪化による餌場環境の消失や船舶から流れる油汚染の影響等が挙げられる。比較的警戒心が強いので、人の存在による影響も考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、高野（2015）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○			○						○

クイナ

Rallus aquaticus Linnaeus
ツル目・クイナ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

第1版では県域準絶滅危惧種に選定したが、本種は半夜行性であり湿地の草むらに潜む目撃困難種であるため、評価するのに必要な情報が不足していると判断され、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長29cmで、頭～上面にかけてはオリーブ褐色で黒い縦斑がある。腹と脇には白色と黒色の横斑がある。下嘴は年中赤い。すぐに身を隠せる草で覆われた湿地、河畔、湖沼畔で、カエル類や節足動物、イネ科やダテ科の種子を食べる。越冬地でも一定の縄張りを持つ。

分布

東北地方～北海道で繁殖し、主に中部地方以南では冬鳥である。県内の湖沼、河川、ヨシ原で主に秋～冬に確認されている。5、6月の記録もあるが、繁殖は確認されていない。

生息を脅かす要因

河川や湖沼の護岸工事による湿地環境の減少が考えられる。河川敷や湖沼の岸辺にあるヨシ原等の湿地環境の保全再生と、センサーカメラや音源等を導入した調査を行い、生息状況を把握することが必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○		○				○

ハリオアマツバメ

Hirundapus caudacutus (Latham)
アマツバメ目・アマツバメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1990年代以前は、九頭竜川中流域や経ヶ岳等の山地帯で、春の渡り時期～夏季にかけて、毎年飛翔する姿が目撃されたが、2002年以降の記録件数は12件しかなく、今後の生息状況に注意を要する。

種の特徴

全長20cm。アマツバメより大形で、体は太く翼の幅が広く長い。尾羽は角尾で、アマツバメの凹尾と異なる。額、喉、下尾筒は白く、三列風切の一部と背の中央は灰白色で、体は黒い。全鳥類の中で最も速く飛び、飛翔性昆虫類を捕食する。

分布

夏鳥として、本州中部以北の低山帯～高山帯に局地的に生息し繁殖する。本県では、春～秋にかけて、主に奥越を中心に確認されているが、繁殖は確認されていない。

生息を脅かす要因

繁殖の可能性がある赤兎山や経ヶ岳等の奥越の山地帯での調査が十分でなく、生息状況を把握する調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）、叶内ら（1998）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○				○						○	○

ダイゼン

Pluvialis squatarola (Linnaeus)
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種は砂浜や干潟等の環境を好むため、1980年代の福井新港の造成期には定期的に飛来していたが、2002年以降は2件しか記録がなく、三里浜、久々子湖、小浜湾等での今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長29.6cm。夏羽では、顔・喉・胸・腹が黒く、頭から上面は黒褐色と白色の斑があるが、冬羽や幼鳥では顔から腹の黒色がない。よく似たムナグロは、頭から上面が黄褐色と黒色の斑であることで識別できる。干潟や砂浜で、甲殻類やゴカイ、草の種子等を食べる。

分布

日本には旅鳥または冬鳥として干潟や砂浜に渡来し、ムナグロのように内陸部の水田には飛来しない。県内では飛来環境が極めて少なく、福井新港造成後の記録は著しく少ない。

生息を脅かす要因

本種の定期的飛来地であった福井新港では、シギ・チドリ類の多くが、造成途中の池の岸辺を採餌と休息に利用した。新港の造成は三里浜の面積を縮小させ、彼らの中継地は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2016）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○					○						

コチドリ

Charadrius dubius Scopoli
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では、平野部の農耕地や河川敷等での確認件数は多く、個体数も現状維持されている。また繁殖には改変された荒地を利用するため、生息環境が悪化しているわけではないが、不安定な環境に生息していることから、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長16cmで、日本のチドリ類の中では最小種である。イカルチドリに似るが、嘴や足が短く、目の周りの黄色のリングが目立つ。飛翔時に翼帯は出ない。砂利場や農道の砂利道で営巣し、8月頃の休耕田等では幼鳥が頻りに確認される。イカルチドリよりも細かな砂れき地を好む。昆虫類を食べる。

分布

九州北部に夏鳥として繁殖するが、本州中部以南では少数が越冬する。本県でも夏鳥として河川敷の中州、農道、工事現場の砂利場、休耕田等で繁殖する。

生息を脅かす要因

繁殖は改変された荒地等の不安定な環境で行われるため、繁殖期の改変や人間の接近は、繁殖成績に影響を与える。繁殖期に本種をみつけた場合には、その場を離れる等の配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○				○	○	○	○	○	○		○

メダイチドリ

Charadrius mongolus Pallas
チドリ目・チドリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種は砂浜や干潟等を好むため、1980年代の福井新港の造成期には定期的に飛来し1997年以前も時々記録されてきたが、2002年以降は4件しか記録がない。一方で、本種をリストアップしているのは6都府県しかなく、過去の記録地での動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長19.5cmで、雄の夏羽では、喉が白く、顔から胸にかけて橙色で、頭頂・後頸・上面は褐色である。冬羽では橙色が消え、胸に褐色の帯が出る。干潟や砂浜でシロチドリと混群を作り、小動物を食べる。

分布

旅鳥として渡来し、全国の干潟や砂浜に飛来する。県内ではかつて三里浜や福井新港に定期的に飛来していたが、2002年以降は坂井平野や三里浜に時折飛来する程度である。

生息を脅かす要因

本種の定期的飛来地であった福井新港では、シギ・チドリ類の多くが、造成途中の池の岸辺を採餌と休息に利用した。新港の造成は三里浜の面積を縮小させ、彼らの中継地は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○							○		○	○			○

ダイシャクシギ

Numenius arquata (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

数少ない旅鳥として1974年以前には3件の記録があったが、その後は、2010年に1件の記録があるに過ぎない。本県は干潟や砂浜が少ないため、飛来地は限られているが、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長60cm、長く下を曲げた嘴を持つ大形のシギ類である。頭～背は淡褐色で黒い軸斑がある。大きさも体形もよく似たホウロクシギとは、下背・腰・上尾筒・腹・下尾筒が白いことで区別できる。嘴を砂泥地に深く差し、ゴカイ、カニ類、二枚貝を食べる。

分布

旅鳥または冬鳥として、主に全国の干潟に渡来するが、海岸近くの水田や干拓地の水溜りにも飛来する。このような環境が極めて少ない本県では極めて稀に記録される程度である。

生息を脅かす要因

干潟の衰退や改変により生息環境が減少し、渡来地が狭められている。2010年に飛来した久々子湖は、宇波西川河口部の小さな干潟と湖岸沿いの湿地が、本種のようなシギ・チドリ類の休息及び採餌場所となっており、県内のほかにはない貴重な生息環境である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○													○			○

アオアシシギ

Tringa nebularia (Gunnerus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では、旅鳥として春・秋季に普通に飛来するが、近年は秋季の記録に減少傾向がみられるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長35cmで、嘴は上に反り上がり、足は緑青色で長い。背は灰色で腰と上尾筒は白。水田や湿地等の浅い水辺で、水生昆虫、甲殻類、ミズズミ、カエル類、小魚等を食べる。

分布

旅鳥として、全国の河川・河口・干潟・水田等に飛来する。県内では、春季には砂浜や田植え期の水田に多い時には十数羽の群れで、秋季には湛水休耕田に数羽の群れで飛来する。

生息を脅かす要因

乾田化による湿地や湛水休耕田の減少、温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨により、本種の飛来時期に湛水水田が減少し、生息環境は悪化している。湛水休耕田の配置、田植え1か月前や稲刈り後の湛水等の中継地確保のための対策と効果測定調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○	○		○			○

キョウジョシギ

Arenaria interpres (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、福井新港の造成期には周辺の湿地で度々記録されたが、2002年以降は記録がない。本県には砂浜や干潟等の生息環境が少ないことが要因として挙げられるため、今後の動向に注目する。

種の特徴

全長 22 cmで、嘴は短くて上に反っている。夏羽では頭部～胸は白地に特徴のある黒いしま模様で、体の上面は赤褐色、白と黒のまだら模様が特徴である。砂浜、海岸の岩石地や砂利地等に飛来し、甲殻類、貝類、昆虫類やクモ類、植物の種子を食べる。

分 布

旅鳥として、海岸の砂浜や河口付近の砂泥地にも現れるが、岩礁地帯を最も好む。本県では、海岸の砂浜や岩礁地帯、稀に近くの休耕田で確認されている。

生息を脅かす要因

本県の主要な飛来地は、造成途中の福井新港であった。しかし、造成が進むにつれて飛来環境はなくなり、三里浜の面積も縮小し、飛来環境は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策と本種が好む岩礁地での調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○						

オバシギ

Calidris tenuirostris (Horsfield)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県には単独または数羽の群れで飛来し、個体数は少ないものの安定して記録されている。しかし近年は、渡来数に減少傾向がみられるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 28.5 cmで、夏羽では胸斑が密にあり黒帯のように見え、肩羽は赤褐色の斑が目立つ。嘴は黒くて、頭部の長さよりも長い。砂泥地で、嘴で探りを入れながら、昆虫類やクモ類、甲殻類、植物の種子等を食べる。

分 布

旅鳥として砂浜や干潟等に渡来し、地域によっては大きな群れがみられる。本県では、海岸や河口部の砂泥地、久々子湖等で確認され、稀に休耕田でも確認されることがある。

生息を脅かす要因

福井新港の造成時には造成中の池の岸辺でよくみられたが、造成が進むにつれて飛来環境はなくなり、現在は海岸の砂浜や久々子湖畔が主要な飛来地である。このような環境は本県には多くないため、現状を維持していくことが必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会（1998）、大西・真木（2000）、高野伸二（2015）、中村登流・中村雅彦（1995）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○					○						○

ミュビシギ

Calidris alba (Pallas)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、1980年代の福井新港の造成期には定期的に飛来していたが、2002年以降は2件しか記録がない。これは本種が好む砂浜や干潟が本県には少ないことが要因として挙げられるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 19 cmで、嘴は短く足は黒い。夏羽は頭～背は茶褐色だが、冬羽は頭～背は灰白色で、小型シギ類の中で最も白っぽくみえる。砂浜の波打ち際で波に合わせて動き回り、ハマトビムシ等の甲殻類を食べる。

分 布

旅鳥または冬鳥として海岸の砂浜に渡来し、数十～数百の群れがみられる。本県では、県内最大の砂浜である三里浜での確認例がわずかにあるに過ぎないが、冬季の記録もある。

生息を脅かす要因

本種の定期的飛来地であった福井新港では、シギ・チドリ類の多くが、造成途中の池の岸辺を採餌と休息に利用した。新港の造成は三里浜の面積を縮小させ、彼らの中継地は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

オジロトウネン

Calidris temminckii (Leisler)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では数少ない旅鳥として飛来する。福井新港の造成期にはほぼ毎年確認されたが、2002年以降の記録は6件ほどしかなく、今後の動向に注意していく必要がある。

種の特徴

体長 14.5 cm、ヒバリシギやトウネンと共に日本では最小のシギ類である。足は黄褐色で、胸は黄褐色に黒い縦斑があり、腹部の白色との境は明瞭、背にV字形の白線がある。県内では湛水休耕田や水田に稀に飛来し、ミミズや甲殻類を食べる。

分 布

日本には冬鳥または旅鳥として干潟や川岸・湿地に飛来するが多くない。県内では福井新港、九頭竜川下流域の坂井平野、鯖江市、越前市等での記録があるが少ない。

生息を脅かす要因

福井新港造成中の池の周辺を採餌と休息に利用していたが、新港の造成は三里浜の面積を縮小させ、シギ・チドリ類の中継地は悪化したままである。また、湛水休耕田や水田の湛水時期の縮小等で、水田内の飛来環境も失われている。中継地造成等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○	○		○			○

ウズラシギ

Calidris acuminata (Horsfield)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1980年代の福井平野では、4月下旬～5月中旬にかけて、数十羽の群れが定期的に確認された記録が残されているが、2000年以降は、10羽未満の群れが不定期に記録されているに過ぎず、近年、飛来数が急激に減少している可能性がある。

種の特徴

全長 21.5 cm。夏羽は頭上が赤褐色で、顔～胸と脇には黒い斑が密にあり、はっきりした眉線とともに識別点となる。水田やハス田、干潟等、泥底の浅い湿地に飛来し、ミミズや甲殻類、軟体動物、昆虫類、種子等を食べる。

分 布

旅鳥として全国に飛来する。県内では、福井市～鯖江市にかけての広い水田地帯や九頭竜川下流域周辺の水田に飛来し、内陸部でも普通にみられるシギ類の一つであった。

生息を脅かす要因

大河川周辺の水田では、湿地や湛水休耕田の減少、温暖化に伴う5月半ば適期田植えの推奨により、飛来時期に湛水水田が減少している。湛水休耕田の配置、田植え1か月前や稲刈り後の湛水等の中継地確保のための対策と、効果測定調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○			○			○

サルハマシギ

Calidris ferruginea (Pontoppidan)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では数少ない旅鳥として、2002年以降、2件しか記録がない。本県には干潟や砂浜が少ないため、河口付近や周辺の水田への渡来等、今後の動向に注意していく必要がある。

種の特徴

体長 21.5 cm。夏羽では頭上・背・胸・腹は暗紅褐色で、嘴が長目で下に曲がっている。冬羽では頭上や背は灰褐色になる。春季の水田では赤褐色の夏羽が目立ち、ほかのシギ類との区別が容易である。干潟や河口付近の水田等の湿地に飛来し、ミミズや甲殻類を食べる。

分 布

日本には旅鳥として少数が春・秋に飛来する。県内では福井新港の造成期に2回、それ以後は九頭竜川の河口付近の水田と護岸ブロック上での記録がある。

生息を脅かす要因

本県には、本種の採餌に適した干潟や湿地等の環境が少ない上に、水田の乾田化や湛水休耕田の減少により、生息環境が一層悪化している。湛水休耕田の配置、田植え1か月前や稲刈り後の湛水等、中継地確保のための対策とこれらの効果測定調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				

ハマシギ

Calidris alpina (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では、秋季～春季にかけて、数十羽から最大で100羽程度の群れが定期的に記録される等、シギ類としては普通種である。しかし過去5年間の飛来記録から50羽を超える記録がなく、個体数は減少傾向にあるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長21cmで、嘴はわずかに下に曲がっている。夏羽の背は茶褐色で腹は白くて中央に大きな黒斑がある。冬羽の背は灰色で下面は白くて胸側は白い。砂泥地の水のある所で、嘴の先で探りながら、水生昆虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビ等の甲殻類を食べる。

分 布

旅鳥または冬鳥として、日本の各地に最も普通に渡来し、数も多い。県内では、九頭竜川河口や足羽川等の河川、周辺の水田に飛来する。九頭竜川河口や足羽川では越冬している。

生息を脅かす要因

本県における本種の飛来地は主に河川と湛水水田であるが、河川改修による砂泥地の減少や乾田化による湛水水田の減少等により、生息環境は悪化している。渡来地である九頭竜川河口や足羽川の砂泥地の確保や、周辺の水田の湛水化等の保全対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○		○				○

エリマキシギ

Philomachus pugnax (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、ほぼ毎年、8月中旬～9月下旬に飛来記録があるが、数が少なく単独個体の記録が多いため、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長は、雄32cm、雌25cmで性差が大きい。雌雄の識別は容易である。雄の夏羽は襟巻き状の飾り羽が特徴だが、国内では中間羽が多く完全な夏羽はみられない。冬羽では雌雄とも、一様に灰褐色で羽縁は白い。水生昆虫、甲殻類、ミミズ、種子等を採食する。

分 布

日本には旅鳥として、水田、湿地、干潟等に飛来するが多くない。県内では、河川周辺の水田に飛来するが、多くは秋季の記録で、春季は1991年の足羽川等数件しかない。

生息を脅かす要因

河川流域の湛水休耕田や刈後田に飛来するが、乾田化や転作による主な飛来期の秋季の湛水水田の減少等により、生息環境は悪化している。中継地となる湛水休耕田等の保全対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○	○					○

ツバメチドリ

Glareola maldivarum Forster
チドリ目・ツバメチドリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本州中部以南では局地的に繁殖し、そのほかの地域では旅鳥として飛来する。本県ではかつて春季の記録が多かったが、最近では8月の記録が最も多い。2014年8月には幼鳥が確認されているので、本県における今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

日本では、ツバメチドリ科はこの1種のみである。全長26.5cmで、飛翔形はツバメに似ており、翼の先が尖る。下羽覆は赤栗色で、尾は燕尾状に割れ、識別は容易である。飛翔しながら、また歩きながら、トンボ類やバッタ類を好んで捕食する。

分 布

日本では夏鳥または旅鳥として、北海道～沖縄まで、農耕地、干拓地、河原等で、局所的に繁殖し飛来する。県内では、農道の砂利道や道路敷設中の砂利場での記録が多い。

生息を脅かす要因

農地や農地に囲まれた砂利道等、不安定な環境に飛来するため、生息環境の保全は困難である。一方で、県内の過去10年間の記録は、九頭竜川下流の川西地区の水田地帯に集中しており、この地域での草原環境の維持等の対策が、飛来環境を創出させる可能性はある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○							○						○

ウミガラス

Uria aalge (Pontoppidan)
チドリ目・ウミスズメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

1997年1月のナホトカ号の重油流出事故で、1羽の死亡個体が回収されて以降、本種の記録はなく、情報が不足している。

種の特徴

全長43cmの大形のウミスズメ類で、小形種と比較すると嘴が長めで首も長い。夏羽では、頭部～上面が黒味のある褐色で腹は白いが、冬羽では喉と首～目の後ろが白くなる。洋上で浮遊し、海中に潜って、魚類、甲殻類、イカ類を捕食する。

分布

北海道天売島で繁殖し、本州中部以北の海上には冬鳥として渡来する。本県では、死亡個体が回収されて以降の記録はないが、本県沖に冬鳥として渡来してきている可能性がある。

生息を脅かす要因

本県沖の生息状況はほとんど明らかになっていない。富山湾内では1970年代頃までよく観察できたとの記録があることを踏まえ、本県沖、特に若狭湾内に、冬鳥として飛来してくる個体群があるかどうか、調査する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1999)、福井県(2002)、富山県(2012)、大西ら(2014)、中村・中村(1995)、高野(2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																		○

マダラウミスズメ

Brachyramphus perdix (Pallas)
チドリ目・ウミスズメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

北陸地方～山陰地方の各県で、冬鳥としての渡来記録があるが、本県では1981年に福井新港で初めて記録されて以降の記録はなく、情報が不足している。

種の特徴

全長24.5cmの小形の海鳥で、嘴は小形ウミスズメ類の中では長く、肩羽と目の外縁が白い。ほかの多くの海鳥と異なり、海岸近くの断崖で集団繁殖は行わず、内陸部の森林内で単独で営巣する。外洋ではなく沿岸で、オキアミ等の甲殻類やイカナゴ等の小形魚類を食べる。

分布

北海道北東部では繁殖記録があり、本種以南の海上に冬鳥として渡来する。日本海側では、新潟県や富山県沿岸で比較的良好にみられ、兵庫県、島根県、福岡県でも記録がある。

生息を脅かす要因

本県沿岸の生息状況はほとんど明らかになっていない。北陸地方や山陰地方の各県では冬鳥として渡来している記録があるため、本県の沿岸部に渡来している個体群があるかどうか、調査をする必要がある。

参考文献 福井県(2002)、新潟県(2014)、石川県野生動物保護対策調査委員会(2009)、富山県(2012)、島根県(2014)、中村・中村(1995)、高野(2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
											○							

ウミスズメ

Synthliboramphus antiquus (Gmelin)
チドリ目・ウミスズメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

本県沖には冬鳥として飛来し、海鳥の中では記録の多い種であるが、海上調査が実施されておらず、現状は不明である。

種の特徴

全長25.5cmの小形の海鳥で、嘴が短くて太く、体の上面は石板灰色、腹は白い。小太り体形で、短い翼を速く羽ばたきながら、海面の上を低く飛ぶ。洋上で浮遊し、海中に潜って、オキアミ等のプランクトン性の甲殻類を捕食するが、小形の魚類や貝類等も食べる。

分布

主に冬鳥として全国の海上に渡来するが、東北地方北部以北では留鳥として繁殖する。本県でも、冬季の海上で群れが確認でき、1997年の重油流出事故では25羽が回収された。

生息を脅かす要因

海鳥の中では目撃記録が多い種であるが、沖合にいる小形種のため識別が困難で、陸上からみられる範囲も限られていることから、個体数の増減等は不明である。船舶を使ったセンサス調査等により、定期的に現状を把握することが必要である。

参考文献 福井県(1998)、福井県(2002)、富山県(2012)、石川県野生動物保護対策調査委員会(2009)、大西ら(2014)、中村・中村(1995)、高野(2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
					○	○	○	○			○		○					○

チョウゲンボウ

Falco tinnunculus Linnaeus
ハヤブサ目・ハヤブサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

繁殖記録が増え分布も拡大傾向にあるが、繁殖地には、架巢可能な人工建築物と捕食地となる草丈の低い草原が必要である。また食物連鎖の頂点に位置し、生息・繁殖可能な条件が限られ、幼鳥の保護例も多いことから、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長は雄 33 cm、雌 39 cm。雄成鳥は頭～顔と尾羽が青灰色だが、上面は雌雄とも茶褐色である。停空飛翔で探索し、小形哺乳類、小鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類を捕食する。本県では、橋、ビル、高圧鉄塔等の人工構造物で、時にカラス類の古巣を使って営巣する。

分布

本州の崖地や市街地の建物等で繁殖し、冬季は全国の草原や農耕地に渡来する。本県の平野部全域で周年確認されるが、繁殖記録は嶺北地方に限られ、河川沿いに多い。

生息を脅かす要因

本県平野部の草原生態系の頂点に位置する種であるため、餌動物が多い広い草地が必要である。また、草原近くに架巢可能な人工構造物が必要であることから、こういった環境がセットである地域は少なく、現在の生息環境の保全が本種の存続には欠かせない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○		○			○	○	○	○	○	○	○

サンショウクイ

Pericrocotus divaricatus (Raffles)
スズメ目・サンショウクイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内全域で高い出現率を誇るが、国のレッドリストに選定されているため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 20cm。体が細くて尾が長い、黒色・灰色・白色の鳥である。落葉広葉樹の樹上で生活し、地上にはほとんど降りない。上空を「ヒリリリリリ・・・」と鳴きながら飛ぶことが多い。主に飛翔性昆虫類をフライングキャッチによって捕獲する。

分布

本州以南の低地～山地の落葉広葉樹林に夏鳥として渡来し、繁殖する。本県一円で記録があり、繁殖していることは確実である。夏季には、すでに南下する群れが観察される。

生息を脅かす要因

県内一円に分布し、観察記録も多いが、繁殖記録はほとんど存在しないため、生息状況を十分把握しているとはいえない。本種の存続のためには、繁殖状況とその環境を確認する等の調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

サンコウチョウ

Terpsiphone atrocaudata (Eyton)
スズメ目・カササギヒタキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

夏鳥の中でも記録は多く減少傾向にはないが、他県の状況を加見し、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長、雄 44.5cm、雌 17.5cm。成鳥の雄は、頭～頸、胸までと尾羽が紫黒色で、著しく長い中央尾羽をひらひらさせながら優雅に飛ぶ。また、雌雄ともにアイリングと嘴がコバルト色の美しい鳥である。飛翔する昆虫類をフライングキャッチで捕獲する。

分布

本州以南の低地～山地のよく茂った林に夏鳥として渡来し、繁殖する。本県においても、低山帯の高木を伴うよく茂った薄暗い社寺林やスギ林、落葉広葉樹林で観察される。

生息を脅かす要因

高木を伴う、よく茂った薄暗い林の保全が必要不可欠である。また美しい種であるため、野鳥カメラマンの格好の被写体になることが多く、インターネット等による生息情報の拡散が起こらない配慮が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、高野（2015）、中村・中村（1995）、叶内ら（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○

オナガ

Cyanopica cyanus (Pallas)
スズメ目・カラス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越を含む嶺北地方に広く分布するが、個体数は少なく、近年減少傾向にあるとの意見もあるが、現状が十分に把握されておらず、今後の動向に注意する必要がある。

種の特徴

全長 36cm。頭は黒く、背と体下面は灰色、翼は水色で羽先は白い。尾羽はとてもし長い水色で中央尾羽の先が白い。雑食性で、昆虫類や果実を食べる。餌台のリンゴに餌付いたり、鳥卵や雛を食べることもある。「グェーイ、グェイ、グェイ」と大きな声で鳴くので目立つ。

分布

留鳥として、本州の福井、岐阜、静岡を結ぶ中部地方以北～東北地方にまで分布し、市街地から集落付近の雑木林、河畔林で生息する。本県では、嶺北のみに分布し多くない。

生息を脅かす要因

本県では観察記録も個体数も少なく、観察地域も嶺北に限られており、実態は十分に把握されておらず、詳細な調査をすべきである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、五百沢ら（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○				○		○	○		○

カササギ

Pica pica (Linnaeus)
スズメ目・カラス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

敦賀市の市街地において、2011年にペア、2013年には単独個体の確認記録があるが、今回の調査では生息が確認されず、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 45cm、尾がとてもし長い。羽色は緑色や紫光沢のある黒色と白色で、白色部との境界が明瞭である。16～17世紀に朝鮮半島から持ち込まれ、定着した帰化種と考えられている。海岸近くの農耕地や市街地に生息し、主に昆虫類や木の実を食べる雑食性である。

分布

佐賀県を中心とする隣県に、留鳥として生息する。近年生息域が広がっており、北海道や本州で生息・繁殖記録がある。本県では、福井新港と敦賀市街地で確認記録がある。

生息を脅かす要因

本県で確認された個体が、移入された個体か、国内の他地域から分散してきた個体かどうかは不明である。今後も海岸近くの農耕地や市街地で確認される可能性があるため、目撃情報は記録として保存し、生息状況の把握に努めるべきである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、大西ら（2014）、高野（2015）、中村・中村（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											○

ホシガラス

Nucifraga caryocatactes (Linnaeus)
スズメ目・カラス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の県境部を中心に記録があるが、繁殖記録は存在せず、現状を把握するための情報が少ない。敦賀市天筒山や矢良巢山等の低山での記録もあり、渡りの記録も収集する必要がある。

種の特徴

全長 34.5cm。顔、背、腹は、黒褐色地に白い斑点が並んでいる。翼と尾羽は黒褐色、外側尾羽の先は白く飛ぶと目立つ。ハイマツの実をよく食べ、シラビソやコメツガ等のマツ科の種子やミスナラの実も食べる。夏季は昆虫類等の動物質もよく食べる。種子の貯蔵習性がある。

分布

留鳥または漂鳥として、九州以北の高山～亜高山の針葉樹林帯に生息する。冬季には山麓に移動する個体もいる。本県では奥越の県境周辺での記録が中心だが、低山の記録もある。

生息を脅かす要因

本県では、奥越の県境部を中心に少数の記録があるが、奥山であることから繁殖の有無等の現状把握が不十分であるため、本種を対象とした調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、五百沢ら（2000）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○			○			○	○	

ヤブサメ

Urosphena squameiceps (Swinhoe)
スズメ目・ウグイス科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

里山の雑木林では、渡来期～5月中旬頃まではごく普通に観察されるが、6月になると繁殖後期に入り、その数が減ってくるように思われる。また平家平の標識調査で2007年以降に捕獲されなくなっていることから、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 10.5 cmで、日本産の鳥類の最小種の一つである。体は茶褐色で下面は淡く、眉斑は白い。県内では4月上旬に里山林で囀りが確認され、夏鳥としての渡来が最も早い部類に入る。藪の生い茂った暗い林で生息し、低床を歩きながら昆虫類を食べる。

分 布

夏鳥として全国各地に渡来し、里山の雑木林やスギ林等の暗い林に生息する。県内でも里山でごく普通に囀りが聞かれるが、常に林の下層にいるため、姿を確認することは難しい。

生息を脅かす要因

本種が好む生息環境は、里山の雑木林からスギ等の植林地で形成される薄暗い森林である。そのため森林内の管理が進み、明るい林になると生息が困難になると推察される。過度の下草植生の刈り払いや、シカの食害による下層植生が失われた森林の拡大は脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○		○		○	○			○				○	

マキノセンニュウ

Locustella lanceolata (Temminck)
スズメ目・センニュウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

中池見湿地における標識調査で記録され、本県を渡っていることが明らかになったが、記録は大変少ない。他地域での確認の有無も含め、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長約 12cm、雌雄同色で、全身褐色で額から頭上から体上面及び胸～脇にかけて黒褐色の小縦斑がある。低木がある湿地や草原に生息し、主に昆虫類、クモ類、草の種子等を食べる。藪に潜むため、さえずり期以外は発見が難しい。

分 布

夏鳥として北海道に渡来する。本県では秋の渡り期に、敦賀市中池見湿地で標識放鳥された記録があるのみである。

生息を脅かす要因

本種が渡りの時期に主に利用する、ヨシを始めとする高茎草地の減少が考えられる。そのため、中池見湿地、若狭町のカヤ田、三方五湖、北潟湖、河川敷等の比較的まとまった高茎草地は保全し、それらの環境で標識調査を行い、生息状況を把握する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

セッカ

Cisticola juncidis (Rafinesque)
スズメ目・セッカ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

嶺北地方では安定して生息しているが、嶺南地方では移動個体の確認例がわずかにあるに過ぎないため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 12.5cmで、スズメより小さい。夏羽は頭上が黒褐色、体上面は黄褐色で黒い縦斑がある。尾羽は黒褐色で先が白く、扇形をしている。チガヤやヨシ等の草原で、「ヒッヒッ」と囀り飛翔、「チャッチャツ」と下降を繰り返す。昆虫類やクモ類を食べる。

分 布

本州以南の低地～山地の草原や河川敷に夏鳥として渡来するが、本州中南部に多く、北陸地方では局地的である。本県では、九頭竜川下流部の河川敷や農耕地での確認例が多い。

生息を脅かす要因

本種が繁殖する草原は、人が適度に草刈りを行うことによって維持されているため、繁殖期を外した草刈りや、休耕田の配置等の配慮が必要となる。また、ネオニコチノイド系農薬は残留性が高く、鳥類の不妊や餌資源の減少等の影響も推察されるため、定期的な調査による動向把握は必要である。

参考文献 福井県（2002）、国土交通省福井河川国道事務所（2012）、国土交通省福井河川国道事務所（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○					○						○

マミジロ

Zoothera sibirica (Pallas)
スズメ目・ヒタキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種は夏鳥として、奥越地方の落葉広葉樹林～針広混交林帯に限られて生息しているが、個体数は少なく繁殖はまだ確認されていないため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 23.5 cm、雄は全身がほとんど黒く、眉斑は白い。雌は上面がオリーブ褐色で淡い眉斑があり、胸～腹には淡褐色の斑点がある。成熟した落葉広葉樹林等に生息し繁殖するが、個体数は多くない。地上を歩いて落ち葉をかき分け、昆虫やミミズ、木の実等を食べる。

分布

夏鳥として、本州中部以北の山地の林に生息する。本県では、奥越地方の山地帯に生息し、その生息域は本州の連続した繁殖地の西限にあたり重要である。

生息を脅かす要因

本種は成熟した自然林に好んで生息しているが、このような森林は限られていることから、その環境の保全は重要である。また、本県における生態的な情報が少ない種であるので、これまでに記録があった山地帯において、繁殖についての詳細な調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、中村・中村 (1995)、高野 (2015)、大西・真木 (2000)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○	○					○	○	

カヤクグリ

Prunella rubida (Temminck & Schlegel)
スズメ目・イワヒバリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息の可能性がある地域で調査したところ、本種の出現率は62%であったが、網羅的な調査はしていないため今後の課題であると共に、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長約 14 cm で、雌雄同色。全身暗褐色に見え目立たないが、背は褐色で暗褐色の縦斑がある。繁殖期は高い山の低木林で主に昆虫類を食べ、冬季は低山の林で草本の種子を食べる。

分布

漂鳥として、北海道、本州、四国の高山・亜高山帯で繁殖し、冬季は低山に移動する。本県では繁殖期に大野市三ノ峰で確認されており、冬季は福井市や大野市の低地の記録がある。

生息を脅かす要因

繁殖地として利用している高い山の低木林は、本県の県境部の限られた地域にしかない植生であるため、この環境の保全が重要である。また、繁殖期は奥山、非繁殖期は低山の林といった環境に生息し記録が少ないため、本種を対象とした定期的な調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県自然環境保全調査研究会 (1999)、福井県 (2002)、日高 (1996)、大西ら (2014)、中村・中村 (1995)、高野 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○													○	○	○

ホオアカ

Emberiza fucata Pallas
スズメ目・ホオジロ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

ホオジロ科の中では確認数が少なく、本県では面的に多くない高茎草地等に生息しているため、今後の動向に注目していく必要がある。

種の特徴

全長約 16cm。背面は明るい褐色、頭部は灰色でいずれも黒い縦斑がある。頬は赤褐色。雌雄ほぼ同色だが、雄は頭部の灰色に青みを帯び、頬の赤褐色も鮮やかである。草地の地上で草の種子を拾って食べる。繁殖期には昆虫類等も捕食する。

分布

九州～北海道に夏鳥として渡来し、南西日本で越冬する。本県では繁殖の記録はなく、冬季及び渡り期に、河川敷や耕作地等で観察されるのみである。

生息を脅かす要因

本種が主に利用する、ヨシを始めとする高茎草地の減少が考えられる。そのため、中池見湿地、若狭町のカヤ田、三方五湖、北潟湖、河川敷等の高茎草地は、保全していく必要がある。また、圃場整備や道路建設時にも、高茎草地の保全が求められる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県 (2002)、日高 (1996)、大西ら (2014)、中村・中村 (1995)、高野 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○				○	○	○		○			○

コマドリ

Luscinia akahige (Temminck)
スズメ目・ヒタキ科

【福井県カテゴリー】新：地域個体群（繁殖）旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県は、本種の国内の繁殖分布域の周辺部に位置する。また本県の繁殖分布域は、高標高の森林であるため、生息域が限定されて記録も少なく、地域個体群として重要である。

種の特徴

全長 14 cm、頭部から上胸は赤褐色、背と翼は暗橙褐色、下胸は黒い。本県では 4 月中旬に里山の沢筋に飛来する。夏季には県境の森林帯へ移動し、沢筋や林床のコケが生えた地上で、昆虫類やクモ類を飛びつき法で食べる。繁殖期を通して「ピカッパッ」と大きな声で囀る。

分 布

九州北部に夏鳥として飛来し、高い山のクマザサ等が茂る渓谷や斜面に生息する。本県では、県境に近い標高 1,000m 以上の針広混交林の沢筋や暗い林床に生息し繁殖する。

生息を脅かす要因

県境に近い標高 1,000m 以上の針広混交林が繁殖域であるが、記録は少なく、その範囲の広がりを把握しているとは言えないため、県境部の森林地帯における夏季のモニタリング調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	

ルリビタキ

Tarsiger cyanurus (Pallas)
スズメ目・ヒタキ科

【福井県カテゴリー】新：地域個体群（繁殖）旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県における本種の繁殖分布域は、亜高山帯の針葉森林に限定されており、国内の繁殖分布域の周辺部に位置するため、地域個体群として重要である。

種の特徴

全長 14 cm で、雄の体は上面と尾はルリ青色、下面は白色、脇は橙黄色で、雌の上面はオリーブ褐色で尾には青味がある。夏季は亜高山帯の針葉樹林で繁殖し、冬季は平地～山地の薄暗い林で単独で越冬し、狭い縄張りを持つ。穏やかな日には囀ることもある。

分 布

夏季は四国、本州中部以北の亜高山帯で繁殖し、冬季は本州中部以南に移動する。本県では、夏季は奥越の県境付近の針葉樹林帯に生息し、冬季は里山林で越冬する個体が見られる。

生息を脅かす要因

亜高山帯の針葉樹林は本県では面的に小さいことから、本種の繁殖分布域は限られている。また本県の繁殖分布域は奥山であるため、現状が十分把握されているとは言えず、亜高山帯における本種の生息状況を把握する調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大西・真木（2000）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

クロジ

Emberiza variabilis Temminck
スズメ目・ホオジロ科

【福井県カテゴリー】新：地域個体群（繁殖）旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県における本種の繁殖地は、奥越の山地帯に限られている。また本県の生息地は、国内の繁殖分布の周辺部に位置しており、貴重である。

種の特徴

全長約 17 cm、雌雄異色で、雄は全身青黒色、雌は灰黄褐色であり、いずれも背に黒い縦斑がある。冬季は常緑林やスギ林で種子を食べるが、繁殖期はガ類の幼虫等の昆虫類も採餌する。薄暗い林を好む。

分 布

本州中部以北で繁殖し、本州南西部以南で越冬する。本州では日本海側に多く、本県でも奥越の山地のブナ帯よりも標高の高いところで繁殖し、平地で越冬している。

生息を脅かす要因

植林等による落葉広葉樹林の伐採やニホンジカの増加に伴う下層植物への被食圧により、本種が好む薄暗い林が減少し、生息環境が縮小する可能性がある。特に本種はササの多い林で繁殖するため、ササ藪を減少させるニホンジカの動向に注目する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

文献一覧

- 東淳樹, 2007. サシバ. Bird Research News, 4 (5): 4-5. バードリサーチ.
- 福井県生活環境部自然保護課, 1982. 福井県の鳥獣. 福井県.
- 福井県自然環境保全調査研究会, 1998. 福井の鳥とけものたち. 福井県.
- 福井県県民生活部自然保護課, 1998. ナホトカ号重油流出事故による水鳥救護の記録. 油汚染水鳥救護福井の会.
- 福井県自然環境保全調査研究会, 1999. 福井県のすぐれた自然 動物編. 福井県.
- 福井県, 2002. 福井県の絶滅のおそれある野生動物: 福井県レッドデータブック (動物編). 福井県.
- 福井県自然保護センター, 1995. 希少猛禽類 (イヌワシ) 保護管理調査報告書. 福井県自然保護センター.
- 福井県自然保護センター, 2001. 希少野生生物種の保存事業 (イヌワシ保護対策) 調査報告書. 福井県自然保護センター.
- 福井県自然保護センター, 1997. ふるさと福井の自然. 第 11 号「水辺のバードウォッチング」: 3. 福井県自然保護センター.
- 林武雄, 1989. 帰らぬつばさ: ほろびゆくコウノトリの挽歌. ぎょうせい.
- 日高敏隆監修, 1996. 日本動物大百科 3 鳥類 I. 平凡社.
- 平野敏明, 2005. ツミ. Bird Research News, 2 (2): 2-3. バードリサーチ.
- 平野敏明, 2010. チュウヒ. Bird Research News, 7 (5): 4-5. バードリサーチ.
- 平野敏明, 2011. コサギ. Bird Research News, 8 (3): 4-5. バードリサーチ.
- 久野公啓, 2015. ハチクマ. Bird Research News, 12 (9): 1-2. バードリサーチ.
- 藤井薫, 2015. コクガン. Bird Research News, 12 (3): 4-5. バードリサーチ.
- 石川県野生動物保護対策調査委員会, 2009. いしかわレッドデータブック<動物編>2009. 石川県.
- 神山和夫, 2010. オオハクチョウ. Bird Research News, 12 (1):4-5. バードリサーチ.
- 環境省, 1998-2013. 鳥獣関係統計. 環境省.
- 環境省生物多様性センター, 2013. 全国ガンカモ類一斉調査報告書. 環境省.
- 叶内拓哉・阿部直哉・上田秀雄, 1998. 山溪ハンディ図鑑 7 日本の野鳥. 山と溪谷社.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550 水辺の鳥. 文一総合出版.
- 小林桂助, 1983. 原色日本鳥類図鑑. 保育社.
- 国土交通省福井河川国道事務所, 2012. 北川河川水辺の国勢調査 (鳥類) 報告書. 国土交通省.
- 国土交通省福井河川国道事務所, 2014. 九頭竜川河川水辺の国勢調査 (鳥類) 報告書. 国土交通省.
- 呉地正行, 2006. 雁よ渡れ. どうぶつ社.
- 黒澤隆, 2008. ハヤブサ. Bird Research News, 5 (12):4-5. バードリサーチ.
- 京都府自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府.
- 松村俊幸・小澤俊樹, 2012. 福井県における 1977 年以降のイヌワシの生息状況. Aquila chrysaetos (日本イヌワシ研究会誌) No.23・24: 55-64.
- 三上かつら, 2014. ササゴイ. Bird Research News, 11 (7):4-5. バードリサーチ.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男, 1995. 日本のワシタカ類. 文一総合出版.
- 守屋年史, 2014. シロチドリ. Bird Research News, 11 (1):2-3. バードリサーチ.
- 中川元, 2009. オオワシ. Bird Research News, 6 (2): 2-3. バードリサーチ.
- 中村登流・中村雅彦, 1995. 原色日本野鳥生態図鑑 (水鳥編). 保育社.
- 中村登流・中村雅彦, 1995. 原色日本野鳥生態図鑑 (陸鳥編). 保育社.
- 日本野鳥の会. クロツラヘラサギ調査研究プロジェクト. 日本野鳥の会ホームページ, <http://www.wbsj.org/activity/conservation/endangered-species/bfs-pj/>
- 日本野鳥の会福井県, 1991-2015. ガンカモ科鳥類生息調査報告書. 福井県自然保護センター.
- 日本野鳥の会福井県支部サギ類調査グループ, 2010. 福井県におけるサギ類コロニーの分布と種構成 -2010 年サギ類コロニー調査の結果-. Ciconia (福井県自然保護センター研究報告) Vol.15: 23-31.

- 新潟県県民生活・環境部環境企画課，2014. 新潟県第2次レッドリスト<新潟県の保護上重要な野生生物の種のリスト>鳥類編. 新潟県.
- NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所. 日本のレッドデータ検索システム. <http://www.jpnrdb.com/index.html>
- 小田谷嘉弥，2014. ヤマシギ. Bird Research News, 11 (11):4-5. バードリサーチ.
- 大庭照代，2007. 青葉の芽吹く頃にやってくるアオバズクの生活史. p. 58-65. BIRDER 編集部 (編), フクロウーその生態と行動の神秘を解き明かすー. 文一総合出版.
- 大西敏一・真木広造，2000. 日本の野鳥 590. 平凡社.
- 大西敏一・五百澤日丸・真木広造，2014. 日本の野鳥 650. 平凡社.
- 佐場野裕，2013. ハクガン. Bird Research News, 10 (3):4-5. バードリサーチ.
- 佐原雄二，2013. ヨシゴイ. Bird Research News, 10 (1):4-5. バードリサーチ.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会，2011. 滋賀県で大切にすべき野生生物ー滋賀県レッドデータブック 2010 年版ー. 滋賀県自然環境保全課.
- 嶋田哲郎・進東健太郎・高橋清孝・A. Bowman，2005. オオクチバス急増にともなう魚類群集の変化が小鳥群集に与えた影響. Strix, 23:39-50.
- 島根県環境生活部自然環境課，2014. 改訂 しまねレッドデータブック 2014 動物編ー島根県の絶滅のおそれのある野生動物ー. 島根県環境生活部自然環境課.
- 白木彩子，2006. オジロワシ. Bird Research News, 3 (2):4-5. バードリサーチ.
- 高野伸二，2007. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版. 日本野鳥の会.
- 高野伸二，2015. フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版. 日本野鳥の会.
- 千葉夕佳，2012. ノスリ. Bird Research News, 9 (11):4-5. バードリサーチ.
- 徳本順子・木下今日子・段上めぐみ・表原拓也・平野哲史・星信彦，2014. ネオニコチノイド系農薬がトキの繁殖能力に及ぼす影響の基礎的評価. 佐渡市役所農林水産課生物多様性推進室トキ政策係「平成 23・24 年度生物多様性学術研究等奨励補助金」事業.
- 富山県生活環境文化部自然保護課，2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブック富山 2012ー. 富山県.
- 上木泰男，編集中. 福井県のシギ・チドリ類 (仮題). 上木康子.
- 浦達也，2007. オオジシギ. Bird Research News, 4 (10):4-5. バードリサーチ.
- 牛山克己・天野達也，2006. マガン. Bird Research News, 3 (3):4-5. バードリサーチ.
- 内田博，2007. イカルチドリ. Bird Research News, 4 (6):2-3. バードリサーチ.
- 渡辺朝一，2010. コハクチョウ. Bird Research News, 7 (3):4-5. バードリサーチ.
- 渡辺美郎・平野敏明，2009. ヒクイナ. Bird Research News, 6 (11):4-5. バードリサーチ.

概 説

今回の改定レッドデータブック作成では、福井県で記録のある国レッドリスト掲載種、近隣県での選定種、調査員の2002年以降の調査記録を加え、両生類の調査経験の豊富な人材を新たに集め、重点的に種、調査地を決め、平成25（2013）年から平成27（2015）年まで実施した。この重点追跡調査を基礎として、環境アセスメント調査データの活用を付記して、第1版より客観性を高めている。

前回RDBで記載されているアオウミガメ、タイマイ、オサガメは対馬暖流に乗って北上し、死体漂着や福井県嶺南地域の定置網により混獲されることが多くなっている。最近、対馬暖流の温水域北上に伴いアカウミガメ・アオウミガメの漂着成体記録が4から5例、子亀の漂着が20例（2014）ほどに増えてきているが、県内での繁殖記録が確認されていないことからランク外とした。タイマイ、オサガメは死体漂着しかないので削除している。今回は産卵記録のあるアカウミガメのみ県域絶滅危惧Ⅱ類とした。海亀などの漂流個体、定置網での混獲記録は越前松島水族館が残している。アカウミガメの産卵記録は、1967年の小浜海岸（徳本,1984）に次いで2008年のあわら市浜坂での2例がある。砂浜の縮小で危機的状態である。

平成27年12月現在、陸水生爬虫類はカメ目2科5種、トカゲ目5科11種の生息が確認されているが、その後の調査でも種の追加はなく、本州産爬虫類のほとんどが生息している現状である。1997年の「環境影響評価法」や2011年「環境影響評価法一部改正に関する法律」の施行以来、自然環境の環境アセスが実施されているが、農業県福井では、それ以前から始まった中流域から下流域は、圃場整備、農業用排水路の整備・パイプライン整備化が進み、ニホンスッポン、ニホンイシガメは、クサガメや外来種のミシシッピアカミミガメの福井県の湖沼や一級河川や支流上流域までの繁殖拡大や餌の食害が拡大していることによることと、生息・産卵環境が悪化し、生息確認地点や確認個体群が急激に縮小しているため、要注目から県域絶滅危惧種にランクアップしている。

さらに、里山に生息する夜行性のタカチホヘビ、シロマダラ、田園地帯に生息するヒバカリも、大型開発工事時の環境アセスにより生息情報数は増大している。一方開発の影響のない地域での情報量が少なく、全体としてまだ、情報量が十分でないため要注目のままとした。

その他、1985年上志比村（現福井市）竹原弁財天のシロヘビ記録、シマヘビやアオダイショウ、ヤマカガシの黒化型カラスヘビ、イシガメとクサガメの交雑種ウンキョウの生息記録もあるが除外している。第一版目録発行以来、森林伐採、住宅開発、護岸改修、道路建設環境、生活向上関連工事も決して減ってはいないため、アオダイショウ、ジムグリ、ヤマカガシ、ヒガシニホントカゲ等も生息確認情報は減少している。爬虫類に関して生息環境が良くなったとはいえ、福井県保全種目録作成の効果はまだ見られない。ニホンヤモリのみ、気候温暖化の影響か、県内での居住地で生息が普通に確認できるようになった。

表 2016年福井県改訂版レッドリスト（爬虫類）の選定種数とその増減

ランク	第1版リスト	改訂リスト	増 減
県域絶滅	0	0	—
県域絶滅危惧Ⅰ類	1	0	-1
県域絶滅危惧Ⅱ類	3	1	-2
県域準絶滅危惧	0	2	2
要注目	4	3	1
地域個体群	—	—	—
合 計	8	6	-2

（長谷川 巖）

アカウミガメ

Caretta caretta (Linnaeus)
カメ目・ウミガメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

2008年あわら市浜坂での産卵記録と、多数の仔ガメの漂着記録が多くあるが、産卵環境の縮小と悪化が進んでいる。定置網による混獲も多い。

種の特徴

最大直甲長 130 cm、体重 400 kg 位になる。ほかのウミガメ類と比べて頭部が大きく顎が発達しており、体色は褐色、赤褐色で、腹甲は淡い黄色。30 cm 以下の幼体、亜成体には甲に3本の隆条がみられる。海底の甲殻類や軟体動物等を捕食する。

分布

温帯～亜熱帯の海域に生息し、4～8月にかけて太平洋沿岸や南西諸島等で産卵がみられる。20 cm以下の幼体が冬季の海岸に数個体漂着するのが確認されている。

生息を脅かす要因

海岸地形の変化、砂浜の砂の減少は、ウミガメにとって大きな脅威となる。原因として、護岸工事やダム建設による河川からの砂の供給量の減少が挙げられる。そのほかにも、定置網や延縄等の漁具に絡まることで起こるウミガメの溺死も多数報告されている。

参考文献 百崎ら (2011)、日高監修 (1996)、福井県自然環境保全調査研究会監修 (1999)、福井県編 (2002)、亀崎 (2013)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	●	●						○				●

ニホンイシガメ

Mauremys japonica (Temminck et Schlegel)
カメ目・イシガメ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内全域に生息するが、生息域が減少し、個体群が縮小している。外来種により生息場所や産卵環境から駆逐されている。

種の特徴

背甲長は最大 22 cm 程で、体重は 750g 前後。頭部はやや小型で指趾の間には水かきが発達している。幼体の甲の後縁は鋸歯状だが、成長とともに目立たなくなる。雑食性で、魚類、昆虫類、ザリガニ等を捕食し、水草等も食べる。

分布

日本の固有種で、河川の上流から中流域、田んぼや池沼、湖等に生息し、やや流れのある環境を好む。県内でもこれらの水辺に近い環境に分布している傾向にある。

生息を脅かす要因

開発に伴う生息地や産卵環境の破壊、三面コンクリートの側溝はカメの移動を困難なものにしている。農薬等による水質悪化や、ペット用の乱獲等による個体数の減少も挙げられる。外来種による生息場所や産卵環境からの駆逐も問題となっている。

参考文献 矢部 (1995)、高田・大谷 (2011)、日高監修 (1996)、福井県自然環境保全調査研究会監修 (1999)、内山ら (2002)、鈴木 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ニホンスッポン

Pelodiscus sinensis (Wiegmann)
カメ目・スッポン科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

生息数が減少し、個体群が縮小している。生息条件が悪化している。

種の特徴

背甲長は最大 35 cm 程で、体重は 1,000g 前後。甲は扁平で鱗板をもたず、やわらかな皮フにおおわれている。鼻孔の先端が突出し、肉質の口唇をもっている。動物食の強い雑食性で、両生類、魚類、甲殻類、貝類のほか、水草も食べる。

分布

本州以南に生息するが、一部は養殖場から逃げ出した個体もいるため、正確な自然分布については不明な点が多い。流れの緩やかな河川、池沼や湖等に生息している。

生息を脅かす要因

河川改修や護岸工事、開発に伴う生息地や産卵環境の破壊、農薬等による水質悪化が主な要因である。

参考文献 環境省編 (2014)、大谷・川添 (2010)、日高監修 (1996)、福井県編 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

タカチホヘビ

Achalinus spinalis Peters
トカゲ目・タカチホヘビ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内全域に生息する。しかし、夜行性のため確認数が少なく、大型開発環境アセス資料以外に確認記録はほとんどないため、評価するだけの情報が不足している。

種の特徴

全長は30～60cm程度の小型のヘビ類。体色は幼体では暗褐色であるが、成長するに伴い黄褐色となる。背面中央には頭部～尾まで細い黒色条がある。低地～山地の林床に生息し、落ち葉や地中で生活しミミズ等を食べる。乾燥に弱く、夜行性である。

分布

本州、四国、九州等に分布する。本県では、嶺南～嶺北地方の広い範囲に分布しているが、過去に確認されていた平野部での記録は近年ほとんどない。

生息を脅かす要因

圃場整備や道路整備等による生息環境の改変が主な要因である。また、天敵となるであろうイノシシや、下草を食べ林床の乾燥化を招くニホンジカの増加との関係についても注目していく必要がある。

参考文献 福井県編（2002）、内山ら（2002）、高田・大谷（2011）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○		○	○			○	○			○	○

ヒバカリ

Hebius vibakari vibakari (Boie)
トカゲ目・ナミヘビ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の里山全域に局所的に生息するが、生息数は少ない。主に朝と夕方に行動するため確認数も少なく、評価するだけの情報が不足している。餌条件が悪化し、減少している可能性がある。

種の特徴

全長は40～60cm程度の小型のヘビ類。低地～山地の森林や草地に生息し、特に水辺や湿地に多く、水田や水路周辺でも確認される。泳ぎがうまく、カエル類やそのオタマジャクシ、小魚等の水中の生物やミミズ等を食べる。

分布

本州、四国、九州等に分布する。本県では、嶺南～嶺北地方の広い範囲に分布しているが、確認数は少ない。

生息を脅かす要因

里山周辺の圃場、農業用水路整備や道路建設等により、生息地が直接的に改変されることが主な要因である。水辺で採餌する小型のヘビであり、水路のコンクリート化は本種の陸地への移動阻害となるとともに、餌動物となるカエル類の生息にも影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会監修（1999）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、福井県編（2002）、内山ら（2002）、高田・大谷（2011）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

シロマダラ

Dinodon orientale (Hilgendorf)
トカゲ目・ナミヘビ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内に広く生息する。しかし、夜行性のため確認数が少なく、大型開発環境アセス資料以外に確認記録はほとんどないため、評価するだけの情報が不足している。

種の特徴

全長は、30～70cm程度。体色は灰褐色で黒の横帯が並ぶ。低地～山地に生息し、日中は石や倒木の下、里山の家屋の周辺等に潜み、夜間に活動する。トカゲやヘビ類といった小型爬虫類等を食べる。

分布

本州、四国、九州等に分布する。本県では、嶺北を中心に広く確認されている。山中での確認が主であり、里地では減少している。

生息を脅かす要因

宅地開発、護岸工事、道路建設等土地の改変による生息場所の減少と餌となる小動物の減少が主な要因である。里地での減少は、住宅等の構造が近年変化していることも一因である。

参考文献 松橋・富田（2007）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、福井県編（2002）、内山ら（2002）、高田・大谷（2011）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○			○	○			○	○

文献一覧

- 福井県, 1985. みどりのデータバンク付属資料-福井県両生類・爬虫類・陸産及び水産類目録. 福井県.
- 福井県自然環境保全調査研究会, 1999. 福井県のすぐれた自然 (動物編、植物編、地形地質編). 福井県.
- 福井県, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物: 福井県レッドデータブック (動物編). 福井県.
- 日高敏隆監修, 1996. 日本動物大百科 5: 両生類爬虫類軟骨魚類. 平凡社.
- 亀崎直樹, 2013. ウミガメの自然誌: 産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会.
- 環境省 (編), 2014. レッドデータブック 2014: 日本の絶滅のおそれのある野生生物 3 爬虫類・両生類. ぎょうせい.
- 松橋利光・富田京一, 2007. 山溪ハンディ図鑑 10. 日本のカメ・トカゲ・ヘビ. 山と溪谷社.
- 百崎孝男・水野由紀子・稲木明浩・鈴木隆史, 2011. 福井県におけるウミガメの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (58): 31-46.
- 大谷 勉・川添宣広, 2010. 日本の爬虫類・両生類飼育図鑑. 誠文堂新光社.
- 鈴木 大, 2015. ニホンイシガメとクサガメの異種間交雑: 日本の淡水カメ記録. 亀楽, (10): 1-5.
- 高田榮一・大谷勉, 2011. 原色爬虫類・両生類検索図鑑. 北隆館.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎, 2002. 決定版日本の両生爬虫類. 平凡社.
- 矢部隆, 1995. イシガメ. p. 455-462. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (II). 日本水産資源保護協会.

概 説

今回の改定レッドデータブック作成では、福井県で記録のある国レッドリスト掲載種、近隣県での選定種、調査員の2002年以降の調査記録を加え、両生類の調査経験の豊富な人材を新たに集め、重点的に種、調査地を決め、平成25（2013）年から平成27（2015）年まで実施した。この重点調査等を基礎として、環境アセスメント調査データの活用を付記して、第1版より客観性を高めている。

日本における両生類の種類は、現在のところ、遺伝子解析が進み、有尾目3科31種、無尾目6科49種が知られている。2002年版福井県の絶滅の恐れのある野生生物—福井県レッドデータブック（動物編）作成時より、その後の調査で、アカガエル科のナガレタゴガエルの1種が追加確認され、現在では福井県の生息確認数は、有尾目3科6種で変わらず、無尾目4科14種となっている。

天然記念物のオオサンショウウオは、過去、福井県内各地に生息が確認され、近年では昭和50年代の福井県嶺南地域の関根川、佐分利川上流川上、耳川でも成体が確認されているが、幼生、幼体、産出卵囊の記録はなく、京都府からの移入種との風聞が多く、以後現在まで生息確認情報がない。護岸工事、砂防堰堤工事、集中豪雨による河川生息環境悪化で生息しているものとは思えない。調査現状分析から県域絶滅としている。

種の保存法掲載種で絶滅危惧ⅠA類のアベサンショウウオは、第1版発行以来、福井県北部地域だけでなく、県RDB補完調査により越前市西部地域（越前町を含む）一帯に広く生息していることが判明し、その後の環境省請負業務の保護増殖事業での調査により、福井県嶺南東部地域（2007）、またこれから7.7Km離れた滋賀県境部の標高360mの山地開拓地湿地（2012）でも生息が確認されてきている。産卵地割合で、福井県は日本のアベサンショウウオの93%が生息する一大生息地である。しかし、人里近くの湿地と山麓帯に生息するため、生息域の宅地造成、埋め立て、道路開発、用排水路整備、休耕棚田管理放棄、山麓の間伐材搬出道路建設等で生息環境が悪化し、毎年、軽易な整備をしないと、漸次生息地や個体群は縮小している。

福井県の名古屋種族、岡山種族の2系のダルマガエルがナゴヤダルマガエルに統一された。福井県嶺南地域の広域農道西街道建設時の残地が管理放棄地になり、生息地の2か所が消滅している。しかし、三方五湖から小浜市にかけての平地に広範囲の生息が確認されているが、個体群の減少とトノサマガエルの交雑が心配されるので、県域絶滅Ⅱ類としている。

アカガエル科のナガレタゴガエルは隣県に生息が確認され、福井県での調査が望まれていた。川内一憲氏らにより（2009年）、勝山市標高510～8100mの滝波川支流で生息が確認され、加越山地や奥越・越美県境の源流域に生息することが確認されている。生息地の林床の乾燥化、幼生生育水質汚染など生息詳細が不明であるため県域準絶滅危惧種に選定している。また、環境省RDBで掲載されたトノサマガエル、アカハライモリも耕作地周辺が圃場整備、用排水路の整備などで減少し、里地に生息するアズマヒキガエルも、急激に生息確認地、産卵池や湿地が減少しているため要注目としてリストアップしている。

表 2016年福井県改訂版レッドリスト（両生類）の選定種数とその増減

ランク	第1版リスト	改訂リスト	増 減
県域絶滅	—	1	+ 1
県域絶滅危惧Ⅰ類	2	1	- 1
県域絶滅危惧Ⅱ類	1	1	0
県域準絶滅危惧	1	4	+ 3
要注目	1	3	+ 2
地域個体群	—	—	—
合 計	5	10	+ 5

ヒダサンショウウオ

Hynobius kimurae Dunn
有尾目・サンショウウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の低山から亜高山まで広く分布するが、砂防堰堤建設や林道建設等による生息条件や産卵環境が悪化し減少傾向である。環境変化に弱い。

種の特徴

全長 100 ~ 180 mm、背面は紫褐色で黄色の斑点がある。山地森林の溪流付近に生息し、2 ~ 4月に源流部の岩石の下に虹色光沢した強靱なバナナ状の卵嚢を産み付ける。幼生は9月までに変態するが越冬する個体もいる。

分布

関東から中国地方の標高 35 ~ 1800m に分布する。県内では、標高 35m の低山から亜高山まで広く分布するが、嶺南より嶺北地方に多い。日本固有種。

生息を脅かす要因

砂防堰堤建設、植林管理の林道建設、森林伐採、森林の荒廃、低山での極端化する暴風雨等による生息地破壊、それに伴う水質汚濁が生存に悪影響している。溪流の水環境と周辺の森林の陸環境を一括した保全が不可欠である。

参考文献 千石ら(1996)、福井県自然環境保全調査研究会編(1998)、京都府(2002)、石川県野生動物保護対策調査会(2009)、環境省編(2014)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

クロサンショウウオ

Hynobius nigresces Stejneger
有尾目・サンショウウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県が日本の分布域の南限で、遺伝的に貴重である。分布域が限られ、産地の湖沼、湿地、林床等の生息条件が悪化している等存続基盤が脆弱である。環境変化に弱い。

種の特徴

全長 120 ~ 190 mm、背面は暗褐色か緑暗褐色で褐色の斑点をもつことがある。尾と前後指が長い。3月頃から池や湿原の止水域で繁殖する。卵嚢は一般に白色の紡錘状であるが、県内では標高が高くなると透明なものが多くなる。

分布

東北から中部地方の海岸～標高 2500m 付近まで分布。県内では、標高 400m 以上の山地に分布し、日本の本種の南限で、生物地理学的に貴重な位置にある。日本固有種。

生息を脅かす要因

生息地が山岳地帯であるので、開発等の影響は少ないものの、低地から高地までの林道建設、森林の荒廃等により生息条件が悪化している。特に、池田町の林道横の水溜りは人為的影響を受けやすく遷移進行がみられる。

参考文献 千石ら(1996)、岐阜県(2001)、福井県高等学校生物研究会(2001)、福井県編(2002)、環境省編(2014)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

ナガレヒキガエル

Bufo torrenticola Matsui
無尾目・ヒキガエル科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布域が奥越山岳地帯に限られ、ナガレタゴガエル同様、森林伐採・砂防堰堤建設・山岳林道開設等により存続基盤が脆弱である。

種の特徴

体長 100 mm 前後、背面は青味を帯びた灰褐色で赤紫斑の個体が多い。アズマヒキガエルに似るが、鼓膜が小さく不明瞭で四肢が長い。山地の溪流と林床に生息し、繁殖は4月上旬、溪流の淵で紐状の卵塊を岩石や倒木に産み付ける。

分布

本州の中部地方西部と近畿地方の山岳地帯に分布する。県内では、嶺北や嶺南の標高 290m 以上の山地に生息している。日本固有種。

生息を脅かす要因

砂防堰堤や林道の建設、溪畔工事、森林伐採による溪流とその周辺の林床の悪化や水質汚濁が生存に悪影響を及ぼしている。繁殖地の水環境と周辺の森林の陸環境を配慮し、一括して保全することが重要である。

参考文献 滋賀県(2011)、水産庁(1996)、前田・松井(1999)、福井県編(2002)、富山県(2012)、滋賀県(2011)、千石ら(1996)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○		○	○		○				○	○	

ナガレタゴガエル

Rana sakuraii Matsui & Matsui
無尾目・アカガエル科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布域が奥越山岳地帯の源流域に限られ、ナガレヒキガエル同様、森林伐採・砂防堰堤建設・山岳林道開設等により存続基盤が脆弱である。

種の特徴

体長 40～65 mm、本県産は大型の個体が多い。体色は赤褐色でタゴガエルに似るが、後肢は長く、みずかきが非常に発達。繁殖期には皮膚が木の葉状にたるむ。山地の林床に生息し、3月ごろ溪流中の岩の下に卵塊を産み付ける。

分布

関東から中国地方に局所的に分布する。県内では、奥越山地の標高 450～1050m の溪流に分布し、河川本流や小さな支流にも点在する。日本固有種。

生息を脅かす要因

砂防堰堤や林道の建設、溪畔工事、森林伐採による溪流とその周辺の林床の悪化や水質汚濁が生存の脅威である。繁殖地の水環境と周辺の森林の陸環境を配慮し、一括して保全することが不可欠である。

参考文献 草野・福山 (1986)、前田・松井 (1999)、千石ら (1996)、石川県野生動物保護対策調査会 (2009)、百崎 (2010)、川内ら (2011)、川内・藤井 (2010)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○			○				○	○	

両生類

アカハライモリ

Cynops pyrrhogaster (Boie)
有尾目・イモリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の低山から山地まで広く分布するが、開発等にもともなう生息地破壊や圃場整備等による生息環境の変化により、個体群が小さくなり減少傾向がみられ、今後の動向に注意を要する。

種の特徴

全長 100 mm 前後、背面は黒く、腹面は赤色で黒斑がある。溜池、小川、湿地、山麓部の水溜り等に生息し、4～7月繁殖する。幼生は水中で生活し秋までに変態する。その後、陸上生活をし、成熟後は再び水中で生活することが多い。

分布

本州から九州の低山から山地に分布。県内では、標高 1000m 前後から山麓部の農耕地や放棄水田、圃場整備された排水路等広く分布する。日本固有種。

生息を脅かす要因

圃場整備、用排水路のコンクリート化、農薬散布、湖沼・河川・湿地・草地・土地造成の開発等生息環境の変化や生息地破壊、乱獲により減少している。止水環境と周辺の陸環境を配慮し、一括した保全が必要である。

参考文献 千石ら (1996)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、内山ら (2002)、滋賀県 (2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

アズマヒキガエル

Bufo japonicus formosus Boulenger
無尾目・ヒキガエル科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山麓帯の森林開発や獣害により生息条件が悪化して減少傾向がみられる。近年、カエルツボカビ症感染症等本県でも確認されたことにより、今後の動向に注意を要する。

種の特徴

体長 140 mm 前後、背面は黄または茶褐色で、背中にイボを持ち、鼓膜が大きく明瞭である。繁殖は3～5月に水溜り、湿地、池等の止水に紐状の卵塊を産むことや止水に生息する幼生からナガレヒキガエルと区別される。

分布

本州の近畿から東北地方の海岸から高山まで分布する。県内では、低地・山麓部から高地まで広く生息している。日本固有種。

生息を脅かす要因

低地・山地の開発、道路舗装化、森林伐採による生息地破壊、水質汚濁、交通事故死等が生存の脅威である。水環境と陸環境の繁殖環境の維持が不可欠でこのような場所の開発を避けることが保全あたって重要である。

参考文献 石川県両生爬虫類研究会 (1996)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、前田・松井 (1999)、滋賀県 (2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○

文献一覧

- 福田保・南部久男, 2011. 渋江川の両棲・爬虫類. 富山の生物, 50:37-42.
- 福井県自然環境保全調査研究会編, 1998. みどりのデータバンク付属資料(第2回): 福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録. 福井県.
- 福井県高等学校生物研究会, 2001. 足羽川流域の生物調査(追補)2001. 「足羽川流域の生物調査」編集委員会.
- 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生生物: 福井県レッドデータブック(動物編)2002. 福井県.
- 岐阜県, 2001. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物. 岐阜県.
- 長谷川巖, 2001. オオサンショウウオ. 福井県依嘱福井県RDB(仮称)補完調査報告書. 1-79. 福井県.
- 長谷川巖, 2002. 福井県のダルマガエル生息地の消長. 福井陸水生物会報, (9):9-13.
- 長谷川巖, 2006. 野生動物保護募金活動: 福井県産アベサンショウウオの状況調査報告書. 日本動物園水族館協会.
- 長谷川巖, 2010. 福井県産アベサンショウウオ状況(1). 福井県陸水生物研究会, (10):23-38.
- 長谷川巖, 2011. 福井県産アベサンショウウオ状況(2). 福井県陸水生物研究会, (11):44-49.
- 長谷川巖, 2013. 平成24年度急傾斜地崩壊対策工事(寺谷地区)に伴うアベサンショウウオ生息状況調査報告書. 福井県敦賀土木事務所.
- 福井県自然環境保全調査研究会, 1999. 福井県のすぐれた自然(動物編、植物編、地形地質編). 福井県.
- 生駒義博, 1973. 津山科学教育博物館10周年記念出版: 日本ハンザキ集覧. 岡山県津山科学教育博物館.
- 石川県両生爬虫類研究会, 1996. 石川の自然環境シリーズ: 石川県の両生・爬虫類. 石川県.
- 石川県野生動物保護対策調査会, 2009. 改訂・石川県の絶滅のおそれのある野生生物<動物編>. 石川県.
- 環境省, 2014. 日本の絶滅のおそれのある野生生物3 爬虫類・両生類. ぎょうせい.
- 川上洋一, 2008. 絶滅危惧種の動物辞典. 東京堂出版.
- 川内一憲ら, 2011. 福井県勝山市で確認されたナガレタゴガエル *Rana sakuraii*. 日本両生類研究会. 両生類誌, (21):44-45.
- 小林貞七, 1984. 福井県における両生爬虫類の分布記録. 自刊冊子.
- 草野 保・福山欣司, 1986. ナガレタゴガエルの繁殖生態. 爬虫両棲類学雑誌, 11(4):196-197.
- 京都府, 2002. 京都府レッドデータブック上巻 野生生物編. 京都府.
- 前田憲男・松井正文, 1989. 日本のカエル図鑑. 文一総合出版.
- 前田憲男・松井正文, 1999. 改訂版日本カエル図鑑. 文一総合出版.
- 宮崎光二・石原一彦・野田英樹・松村初男・山本邦彦, 2011. 石川県アベサンショウウオの生活史. 石川県立自然史博物館報告, (1):別刷.
- 川内一憲・藤井豊・木元久・長谷川巖, 2006. 福井県における高田型トノサマガエルの出現頻度. *Ciconia* (福井県自然保護センター研究報告), 11:30-38.
- 百崎孝男, 2010. 福井県でのナガレタゴガエルの発見事例. 福井市自然史博物館研究報告, (57):57-60.
- 守屋勝太, 1955. 日本産トノサマガエルの地方属種とその分布. 日本生物地理学会報, 岡田彌一郎博士還暦記念号. 16-19巻:354-359.
- 千石正一・疋田努・松井正文・仲谷一宏(編), 1996. 日本動物大百科5: 両生類・爬虫類・軟骨魚類. 平凡社.
- 滋賀県, 2011. 滋賀県で大切にすべき野生動物: 滋賀県レッドデータブック2010年版. 滋賀県.
- 水産庁, 1996. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料(Ⅲ). 日本水産資源保護協会.
- 富永英之, 1990. 福井県における無尾両生類の分布: 特に若狭地方のダルマガエルについて. 福井市郷土自然科学博物館研究報告, (37):53-57.
- 富山県, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物: レッドデータブックとやま2012. 富山県生活環境文化部自然保護課.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関慎太郎, 2002. 決定版日本の両生爬虫類. 平凡社.

概 説

福井県は本州のほぼ中央に位置し、日本海に面している。嶺北に北陸最大の九頭竜川水系（流路：116.3km）が、ついで嶺南に南川（38.5km）と北川（28.0km）があり、大小 40 本余りの河川がすべて日本海へ流入する。さらに三方五湖と北潟湖、池ノ河内湿原、湧水池（大野市）などがあり、陸水環境はかなり変化に富む。しかし、本県においても近年の自然開発や河川工事、水質汚濁等により陸水環境が悪化し、生息し難くなった生物が多くみられ、早急に環境の保全と回復が求められている。

今回の改訂により選定された種数は 39 種あり、第 1 版に比べ 6 種増加した。一生を淡水で生活する「純淡水魚」に比べて、海と川を行き来する「通し回遊魚」でランクアップした種が多い。これは、県内河川において、堰や頭首工などの河川横断工作物によって、海と川のつながり、または河川内の連続性を失った河川が増加したと推察される。生息状況など評価できる生態的な情報が明らかになりランクダウンした魚種（2 種）がいる反面、評価できるだけの情報が不足している要注目種（4 種）が新たに選定された。つまり、県内の生息環境の悪化などから魚類全体として個体数が減少している種が多くなったため、レッドリストに選定される種の数が増えたと考えられる。

● 県域絶滅危惧Ⅰ類

ニホンウナギおよびイトヨ日本海型（降海型）は、生息個体数の減少が著しく、それぞれ県域準絶滅危惧および県域絶滅危惧Ⅱ類からランクアップした。これらの原因として、堰や落差工などの河川工作物が河川遡上を阻害し、生息域を縮小させていることが考えられる。

● 県域絶滅危惧Ⅱ類

クルマサヨリおよびホトケドジョウの詳細な生息状況が明らかになり、県域絶滅危惧Ⅰ類からランクダウンした。しかし、両種とも汽水域および水田周辺水域の脆弱な環境に生息しており、現在の生息個体量を維持するには水辺環境の保全が必須である。

カジカ中卵型およびシロウオは、生息個体数の減少が著しく、それぞれ要注目および県域準絶滅危惧からランクアップした。カジカ中卵型は遊泳・遡上能力が弱く、堰や落差工などの河川工作物が河川遡上を阻害し、生息域を縮小させていることが原因として考えられる。シロウオは汽水域上流の礫の下で産卵することから、土砂の流入等による産卵環境の悪化が減少の一要因として考えられる。また、本種は一生のほとんどを沿岸部や内湾で過ごすことから、今後、河川だけでなく沿岸部の生息環境の保全も必要である。

● 県域準絶滅危惧

2 種がランクアップし、1 種がランク外となったため、3 種減少した。現リストの 4 種の資源量に大きな変化はないと考えられる。

● 要注目

ヤリタナゴは、県内の分布は広いが、国のリストに選定されており、今後の動向に注目する必要があるためランクインとなった。ドジョウは、交雑が懸念されるカラドジョウが県内に侵入していることが確認されており、今後の動向に注目する必要があるためランクインとなった。スジシマドジョウは、生息個体数が回復したわけではなく、評価できる生態的情報が極度に少ないことから、県域絶滅危惧Ⅱ類からランクダウンとなった。カワアナゴ・シマウキゴリ・クボハゼは、近年新たに生息が確認されたり、これまでの評価できる生態的情報が乏しいことから、今後の動向に注目を要するためランクインとなった。

● 地域個体群

タモロコ三方湖産は、地方型の特徴を有していることが明らかになり、近年の生息個体数も減少していることから、地域個体群として保全していく必要があるため選定された。

● ランク外

県内に分布しているトウヨシノボリは、放流などによって他地域から人為的に持ち込まれた移入種である可能性が高いためランク外となった。

ニホンウナギ

Anguilla japonica Temminck & Schlegel
ウナギ目・ウナギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

近年の県内調査でも確認事例が急激に減少し、かつ大型個体の確認に限られていた。三方五湖の調査においても、シラスウナギが全く確認されず、現存個体は人為的に放流されたウナギであった。県内の個体数は極度に減少しているため、絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

全長 60cm。体は細長く背部は黒色。河川の中下流域、湖や池沼、内湾の浅海域に至るまで広く生息する。淡水で5～12年を経た後、親魚は秋降海し、南西太平洋で産卵する。稚魚変態してシラスウナギとなり、海洋を遊泳して10月上旬～5月下旬に群をなして、河口に近づき遡河する。

分 布

本県では、天然のウナギが県下の河川・湖や池沼等一円に分布していたが、近年は激減した。三方湖、北潟湖では稚魚の放流によるものがほとんどである。

生息を脅かす要因

取水堰や帯工等の河川構造物の設置により本種の遡上が妨げられ、健全な生活史が保障できない状況にある。3面護岸等の河川改修により本種が隠れる河岸の間隙や、浮き石の間隙、土手の穴等が減少したことが個体数の減少に拍車をかけていると考えられる。

参考文献 Kaifu et al. (2014)、環境省編 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○				○	○		○		○		○

ミナミアカヒレタビラ

Acheilognathus tabira jordani Arai et al.
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

嶺北地方の河川中流～下流域や溜池・農業用水路等に比較的広く生息するが、既知される生息地での生息数の減少は著しい。また、本種の生息するほかの県では、県条例によって希少野生動物種に指定し捕獲の禁止や保護計画等が始まっている。

種の特徴

全長 6 cm。短い口髭を持ち、側線は完全である。肩部に輪郭の不明瞭な暗色斑と背鰭直下～尾柄部まで青緑色の縦帯がある。産卵期のオスは鮮やかな婚姻色を示し、吻部に追星が現れる。産卵期は春～夏で比較的最長い。食性は藻類や底生動物を食べる雑食性。

分 布

本州の日本海側、富山～島根県に分布する。本県の嶺南地方と京都府・兵庫県には分布しない。県内では九頭竜川水系の平野部～大野盆地と北潟湖で分布が確認されている。

生息を脅かす要因

産卵母貝となる二枚貝の減少が一番の要因と思われ、次にタイリクバラタナゴ（外来魚）やカネヒラ（移入魚）の増加による生息地での競争の激化。マニアや業者等による採集圧も大きな要因になっている。早急な保護と対策が必要だと考えられる。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)、黒澤 (2009)、石津 (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○		○	○		○	○

イチモンジタナゴ

Acheilognathus cyanostigma Jordan & Fowler
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

本種の分布は本県が日本海側の北限に当たり分布上も重要。三方湖・はず川水系での生息は極めて少ない。既知される生息地はどれも小さく壊れ易い環境である。極めて絶滅に近い種で、危機的状況にある。早急な保護や増殖計画等が必要と考える。

種の特徴

全長 8 cm。タナゴの仲間では体高が低く、口髭は短い。オス・メス共に体側肩部～尾柄部に明瞭な青緑色の縦帯があり特徴的で食性はやや植物食に偏った雑食性。産卵期は春～初夏。産卵母貝は大型の二枚貝（ドブガイ・カラスガイ）を好む。

分 布

琵琶湖・淀川水系、由良川と本県の三方湖・はず川水系等が自然分布地。広島県・熊本県・富山県に移入され分布。本県の九頭竜川水系でも移入されたものが確認されている。

生息を脅かす要因

水質の悪化と護岸・河川改修工事等で産卵母貝（大型二枚貝）が減少したことが、最も大きな要因と考えられる。また、侵略的外来魚のオオクチバス・ブルーギルによる捕食の影響も大きい。「三方湖では1990年代後半に絶滅」とされており今後の詳細な調査を要する。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)、黒澤 (2009)、石津 (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○									○							

ハス三方湖産

Opsariichthys uncirostris uncirostris (Temminck & Schlegel)

コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

琵琶湖淀川水系と本県の三方湖に自然分布する。2006～2007年にかけて行われた三方湖群での調査において確認されず、絶滅の可能性が高まっている。

分布

琵琶湖産稚アユの移植とともに、北海道を除く各地の河川や湖や池沼に分布が広がった。本県でも、琵琶湖産が北潟湖と流入河川の観音川、九頭竜ダム、雲川ダム等で確認されている。

種の特徴

全長20～30cm。日本におけるコイ科の淡水魚のなかでは数少ない魚食性の魚である。食物の供給が保証される大河川や湖や池沼に連なる河川でないと、生存は困難である。三方湖産のハスの側線鱗数は45～48で、琵琶湖産ハスの50～59に比べて少なく、形態的に異なる。

生息を脅かす要因

琵琶湖淀川水系を除くと全国で唯一自然分布する三方湖は、水質汚濁や湖岸では魚類等多様な生きものすみかとなる生帯が激減した。さらには、オオクチバスやブルーギル等の外来生物の増加がめだつようになっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編(1998)、田中(2001)、川那部ら(2005)、福井県海浜自然センター(2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

ナガレホトケドジョウ

Lefua sp. 1

コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生息環境は極めて局地的で限られる。生息地での生息数も多くない。日本海側の北限に当たり分布上も重要。本県では稀に確認される程度で、安定した生息地として認められる場所は極めて少ない。

分布

近畿地方と鳥取県・岡山県・高知県を除く四国に分布するとされるが、福井県でも比較的広範囲で少数の生息が確認されている。

種の特徴

全長6cm。体形は円筒形で細長い。口髭は4対。体色は明るい茶褐色。各ヒレに斑点や斑紋は無い。山間部の河川上流域や細流に生息する。日中はれきの間等に潜み夜間行動する。食性は動物食性で主に底生動物を食べる。産卵期は春、水温が13℃～16℃前後で産卵する。

生息を脅かす要因

本種の生息地は極めて局所的で、河川の上流域や細流に生息するため、砂防堰堤や道路・ダム・河川改修・森林伐採等による生息環境の悪化や破壊が最も懸念される要因。そのほか、販売目的の乱獲も考えられる。

参考文献 環境省編(2015)、福井県編(2002)、中坊編(2013)、川那部ら(2005)、斎藤・川崎(2015)、黒澤(2009)、石津(2007)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○								○		○			○		

イトヨ日本海型（降海型）

Gasterosteus sp.

トゲウオ目・トゲウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅のおそれのある地域個体群

選定理由

かつては県内一円の大・小河川、湖に遡したが、堰堤等の建設による遡上阻害、また産卵に適した環境が護岸工事等の河川改修により減少したため、個体数が激減した。現在、県内の既知のすべての個体群で危機的水準にまで減少している。

分布

北半球の亜寒帯から温帯にかけて広く分布する。本州日本海側では島根県浜田市以北に分布するが、県内では、北潟湖、三方湖群等で稀に確認される程度である。

種の特徴

全長10cm。背びれの前に鋭い棘が3本あり、腹びれに一对、尻びれ前方にも1本の棘を持つ。海の沿岸や塩だまり等に生息し、2月下旬頃から遡河してくる。産卵期は4～6月頃で、砂泥底のくぼみに雄が水草や繊維を集めて巣を作り、そこへ雌が産卵する。

生息を脅かす要因

遡河回遊魚である本種は、海から川への遡上阻害や産卵環境の減少により容易に影響を受ける。特に、河川改修や水質汚濁による産卵場の減少が個体数激減の大きな原因となっていると考えられる。現在、生息が確認されている地点の産卵場の保全及び復元が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編(1998)、環境省編(2015)、福井県編(2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○						○		○				

イトヨ太平洋型（陸封型）

Gasterosteus aculeatus subsp. 1
トゲウオ目・トゲウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類 【環境省カテゴリー】絶滅のおそれのある地域個体群

選定理由

本種は現在では大野市の本願清水とその周辺の水域にしか生息していない種である。湧水という特殊な環境でしか生息できないため、生息域が極度に分断され、また極めて限定されていることから選定した。

種の特徴

全長 7cm。体は細長く、背びれの棘はおおむね 3 本である。県内では水温 15℃前後の湧水池とその流水路にすむ。産卵期は 5 ～ 10 月で、砂泥底のくぼみに雄が水草や繊維を集めて巣を作り、そこへ雌が産卵する。雄がなわばりをもち巣や仔稚魚を保護する。

分布

国内における分布地は、福島県の会津、栃木県的那須、福井県の大野に限られる。大野市では本願清水とその周辺の水域に分布は限られる。

生息を脅かす要因

生息地の大野市では、伏流水の減少や地下水汲上げ量の増加により地下水位が低下し、本願清水の湧水量が減少している。かつてイトヨが生息していた湧水池の多くが埋め立てられたため、生息地が極めて限定されてしまっていることも今後の個体群の存続に影響を与えると考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2015）、福井県編（2002）、大野市教育委員会（1973）、大野市教育委員会（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

トミヨ属淡水型

Pungitius sp. 1
トゲウオ目・トゲウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類 【環境省カテゴリー】絶滅のおそれのある地域個体群

選定理由

本種は湧水を水源とする越前市の治佐川水域にしか生息していない。湧水という特殊な環境でしか生息できないため、生息域が極度に分断され、また極めて限定されていることから選定した。

種の特徴

全長 5cm。本種は背部に 8 ～ 10 本の棘を持つ。県内では水温 15℃前後の湧水池とその流水路にすむ。産卵期は 3 ～ 7 月で、水草の茎に、雄が水草や繊維を集めて巣を作り、そこへ雌が産卵する。雄がなわばりを持ち、巣や仔稚魚を保護する。

分布

北海道、本州の太平洋側では青森県、日本海側では青森県から福井県まで分布する。本県では越前市の治佐川の一区域と鯖江市内のかつての生息地で保護を受け、生息している。

生息を脅かす要因

地下への伏流水の減少や地下水汲上げ量の増加による地下水位の低下により生息地の湧水量が減少したこと、また生息していた湧水池の多くが埋め立てられたこと等により激減した。現在は保護を受けて存続している状態であり、今後の個体群の存続が危惧される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2015）、福井県編（2002）、加藤（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○		○			

スナヤツメ南方種

Lethenteron sp. S
ヤツメウナギ目・ヤツメウナギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類 【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の一部の河川の、ごく限定された場所でのみ確認され、個体群がかなり小さい状況にある。河川改修により主要な生息場が極度に減少している。

種の特徴

全長 20cm。河川や湧水池に生息し、生涯を淡水域で過ごす。産卵期は 4 ～ 6 月で、平瀬の砂れき底で産卵し、アンモニア幼生は砂泥底でデトリタスや珪藻類等を食べ 3 ～ 4 年後に変態して成体になる。変態後には摂餌することなく産卵して死亡する。

分布

本州、四国及び九州北部に分布する。本県では、主要河川の上・中流域、湧水池に分布したが、現在では九頭竜川水系、笙の川、北川、南川、佐分利川等に僅かに生息する。

生息を脅かす要因

近年の河川開発にともなう流路の直線化による河床構造の単純化によって、幼生の成育場の喪失、土砂の流出にともなう産卵床の環境悪化によって、個体数が減少している。森林伐採による河川水温の上昇や湧水、水質汚濁等による生息環境の悪化がいちじるしい。

参考文献 環境省編（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○

カワヤツメ

Lethenteron japonicum (Martens)
ヤツメウナギ目・ヤツメウナギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の一部の河川の、ごく限定された場所でのみ確認され、個体群がかなり小さい状況にある。河川改修により主要な生息場が極めて減少している。

分布

北海道、茨城県以北及び島根県以北の本州に分布する。本県では、主要河川の上・中流域、湧水池に分布したが、現在では九頭竜川水系、南川等に僅かに生息する。

種の特徴

全長 40 cm。アンモシーテス幼生は、河川中流域の淵や下流の砂泥底でデトリタスや珪藻類等を食べ3～4年間生息後、海へ降河して2～3年後に産卵のために河川へ遡上する。河川中流域の淵尻や平瀬を産卵場所として利用する。

生息を脅かす要因

近年の河川開発にともなう流路の直線化による河床構造の単純化によって、幼生の成育場の喪失、土砂の流出にともなう産卵床の環境悪化によって、個体数が減少している。森林伐採による河川水温の上昇や湯水、水質汚濁等による生息環境の悪化がいちじるしい。

参考文献 環境省編 (2015)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○					○	○	○					○

アブラボテ

Tanakia limbata (Temminck & Schlegel)
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種の分布は本県が日本海側の北限に当たり分布上重要。以前は敦賀市以西に広く生息していたと思われるが、現在は生息地の消滅や分断により、生息数も減少傾向にある。安定した生息地は少ない。

分布

福井県と濃尾平野以西の本州と四国の瀬戸内海側、九州北部に分布する。本県では敦賀市以西が自然分布。なお、越前市には移入されたものが生息する。

種の特徴

全長は5 cm。やや長い口髭があり、側線は完全。体色は黄褐色で成熟したオスは全身が黒く色付く。平野部の水がきれいな河川や水路の流れの緩やかな水域に生息する。食性は雑食性で底生動物や付着藻類を食べる。産卵期は春～初夏で中型の二枚貝を好む。

生息を脅かす要因

圃場整備や河川改修工事等による生息環境の破壊・消失と、産卵母貝である中型の二枚貝（ドブガイ・マツカサガイ等）の減少が主な要因と考えられる。一部の地域ではオオクチバス・ブルーギルによる捕食の影響も大きい。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)、黒澤 (2009)、石津 (2007)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○						○					

アジメドジョウ

Niwaella delicata (Niwa)
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

ダムや砂防堰堤等の工事で本種の生息環境が悪化し、生息地・生息数とも減少傾向にある。

分布

中部地方～近畿地方にかけて分布する。本県での分布は九頭竜川・河野川・笹の川水系で生息が確認されている。比較的水量の豊富な河川の上流～中流域の砂れき部に生息する。

種の特徴

全長 8 cm。体形は細長く、背鰭・尻鰭は体の後方にある。口は下面にあり吸盤状の唇を持つ。口髭は短く3対。河川の上流～中流域の早瀬～平瀬に生息し、岩やれきの付着藻類を主に食べる。

生息を脅かす要因

生息域の上部で河川工事等による泥水で付着藻類が泥をかぶり、生息数を減らす。また、川底のコンクリート化による生息環境の破壊も大きな要因と考えられる。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○	○	○	○			○	○	○

ホトケドジョウ

Lefua echigonia Jordan & Richardson
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内の生息地は比較的広範囲に生息するが分断され散在する。また、本種の生息環境は人里に近く、比較的小さな環境が多い。小規模の開発工事で生息環境ごと消失する。生息地・生息数とも減少傾向にある。

種の特徴

全長 8 cm。体形は円筒形で体色は暗褐色。湧水が流れ込む湿地や細流・水路等の泥底～砂泥底部の浅い場所に生息する。穏やかな流水域を好み、落葉や水草の下等に多い。食性は雑食性で底生動物・付着藻類等を食べる。産卵期は春～秋と長い。

分布

青森県を除く東北～近畿地方に分布し、低山～平野部の小川や水路に生息する。本県ではあわら市・坂井市や越前町・敦賀市・若狭町等で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

生息環境は人里近くの比較的小さな環境が多く、圃場整備や湧水池の埋め立て等によって生息環境が破壊・消失してしまうことが最も大きな要因。アメリカザリガニ（外来種）による捕食の影響も大きいと考えられる。

参考文献 環境省編（2015）、福井県編（2002）、中坊編（2013）、川那部ら（2005）、齊藤・川崎（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○	○				○		○				

アカザ

Liobagrus reini Hilgendorf
ナマズ目・アカザ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては本県内の河川にごく普通に生息したが、生息条件が明らかに悪化して個体数が激減しており、個体群がかなり小さくなっている。

種の特徴

全長 10cm。アカザ属は日本では本種のみが分布する。河川の水のきれいな上・中流域の瀬のれき下に潜み、夜間または濁水時に出て水生昆虫類を食べる。産卵期は5～6月で、瀬の石の下に100～200個の卵を塊状に産着する。

分布

宮城県・秋田県以南の本州、四国及び九州に分布する。本県内では主要河川の上・中流域で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

河川の開発や護岸工事、水質汚濁等が本種の生息を脅かす主な要因である。

参考文献 中村（1984）、福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県（2002）、細谷（2013）、中坊編（2013）、宮地ら（1976）、森・名越（2002）、川那部ら（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○

ワカサギ

Hypomesus nipponensis McAllister
サケ目・キュウリウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では主として三方五湖や北潟湖で確認されているだけで、分布域がかなり限定されていることや個体数も大幅に減少していることから選定した。

種の特徴

全長 15cm。沿岸、河川、湖沼に生息する回遊魚。容易に陸封される。餌は動物プランクトンを主とする雑食性。産卵期は2～3月、主に川の水深20～40cmの砂れき底に産卵するが、湖岸でも行われる。ふ化した仔魚はすぐに海または湖に流れ下り、そこで成長する。

分布

千葉県以北の太平洋側、島根県以北の日本海側、北海道に生息するが、放流により国内全土に広がっている。本県では、北潟湖と三方湖、真名川ダム（移植）に少数生息する。

生息を脅かす要因

河川や湖の護岸工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が極度に減少したものである。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、中村（1984）、宮地ら（1976）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○												○			○	

シラウオ

Salangichthys microdon (Bleeker)

サケ目・シラウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では主として三方五湖や北潟湖で確認されているだけで、分布域がかなり限定されていることや個体数も大幅に減少していることから選定した。

種の特徴

全長9cm。汽水湖や沿岸に多くすみ、浮遊動物を食べる。河川産のものはふ化後に海に下り、産卵期まで沿岸で過ごす。汽水湖産の多くは湖に留まり、一部が秋に海に出る。産卵期は3～4月、湖岸の水深2～3m以浅の砂れき底や、同程度の深さの水草や水藻に接着させるほか、川へもさかのぼって産卵する。

分布

北海道～熊本県、岡山県までの主要河川の河口域と汽水湖に分布する。本県では、北潟湖と三方湖、九頭竜川河口、北川河口等に生息する。

生息を脅かす要因

河川や湖の護岸工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が極度に減少したと思われる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、中村（1984）、宮地ら（1976）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○						○		○				

サクラマス

Oncorhynchus masou masou (Brevoort)

サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少しており、北海道での漁獲量は1970年頃の約1/4程度に落ち込んでいる。福井県においても、遡上阻害・淵の減少・産卵に適した河床の減少等、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。

種の特徴

体長50cm程度。体色は銀白色であるが、産卵期の秋季には黒ずみ、桜色のまだら模様が出る。近縁のサツキマス（アマゴ）とは、朱赤色の小斑点がないことで区別できる。遡河回遊魚であり、海で成長した後、春季に河川へ遡上し、秋季に上流域のれき底で産卵する。

分布

北海道、神奈川県・山口県以北の本州、大分県・宮崎県を除く九州に分布する。本県では、九頭竜川水系・北川・三方湖・北潟湖等で確認されている。

生息を脅かす要因

ダムや堰堤等の河川横断工作物による遡上の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、泥やシルト等が河床に堆積することによる産卵環境の悪化等が挙げられる。また、放流された近縁種のアマゴ（サツキマス）との競合や交雑も問題となっている。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2015）、中坊編（2013）、川那部ら（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○	○		○	○	○	○	○

ヤマメ

Oncorhynchus masou masou (Brevoort)

サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

河川改修等による生息環境の悪化や、本亜種の大規模な移植や放流により本亜種の河川ごとの遺伝的多様性を損なわせつつあり、野生個体群のサイズが著しく減少している。福井県においても、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。

種の特徴

全長は最大で30cm程度。体色は緑を帯びた黄褐色で側線部はやや赤く、体側にはパーマークが並ぶ。近縁のサツキマス（アマゴ）とは、朱赤色の小斑点がないことで区別できる。サクラマスの陸封型で、主に河川の上流域に生息し降海しない。水生・陸生の昆虫を食べる。

分布

北海道、神奈川県・山口県以北の本州、大分県・宮崎県を除く九州に分布する。本県では、九頭竜川水系・越前海岸小河川・笙の川・耳川・北川・南川等で確認されている。

生息を脅かす要因

ダムや堰堤等の河川横断工作物による移動の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化等が挙げられる。また、放流された近縁種のアマゴ（サツキマス）との競合や交雑も問題となっている。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2015）、中坊編（2013）、川那部ら（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○	○				○	○	○

イワナ

Salvelinus leucomaenis (Hilgendorf)
サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

全国的に生息環境の悪化や釣獲圧等により減少している。福井県においても、大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。なお、本県は亜種レベルでは「ニッコウイワナ」の分布域とされるが、遺伝的研究の余地があるため種レベルの「イワナ」とした。

種の特徴

全長は普通 30 cm 程度であるが、大きいものは 60 cm を超える。体色は主に暗褐色で、白色斑点のほか橙色や黄色等の斑点もみられるが変異が大きい。水温が約 15℃ 以下の河川の最上流域に生息し、水生昆虫や魚類を食べる。

分布

北海道及び本州に分布する。本県では、九頭竜川水系・笙の川・北川・南川等の上流域で確認されているが、南川は移入されたものとされている。

生息を脅かす要因

砂防ダム等の河川横断工作物による移動の障害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、過大な釣獲圧等が挙げられる。また、他地域からの放流個体により、確実な在来個体群は著しく減少している。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2015)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○	○		○				○	○	○

キタノメダカ (メダカ北日本集団)

Oryzias sakaizumii Asai et al.
ダツ目・メダカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。また、個体数は減少傾向にあり、付近の生息地は限られる。外来種の影響等から個体数が減少し、県内の生息域も極めて限られる。

種の特徴

全長 4cm。小型の淡水魚で、体色は黒褐色を帯びる。ミナミメダカと形態は似るが、体側部の黒色素が強く、背鰭の切れ込みが浅い。平野部の池と沼、河川下流部の岸辺、水田とその用排水路等に生息している。温度、塩分、汚濁に比較的強い。

分布

青森県～京都府丹後半島東部までの日本海側に生息。県内では、広い範囲に分布する。

生息を脅かす要因

水田の圃場整備、河川の護岸工事により水路の流速が増したこと、水田と水路との落差ができ、乾田化したことにより、水田への侵入、繁殖が容易でなくなったことが要因である。他地域産や人工品種のメダカ等を放流することは本種の地域固有性・多様性を損失させる恐れがある。

参考文献 福井県編 (2002)、京都府編 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

クルマサヨリ

Hyporhamphus intermedius (Cantor)
ダツ目・サヨリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

2006～2007年にかけて行われた三方五湖の調査において、通年確認された。特に三方湖で多く、稚魚も確認されたことから三方湖で繁殖していると推測されるが、分布域がかなり限定されていることから選定した。

種の特徴

全長 15cm 程度。汽水性の魚で、5～10月には純淡水域まで侵入する。下顎先端の下面が黒色である。本種と似るサヨリは全長が 40 cm を超えることや下顎先端の下面が朱紅色であることから両者は区別できる。

分布

本州 (太平洋側は青森県小川原沼以南)、九州 (有明海側) に分布する。これまで九頭竜川下流、三方五湖、北潟湖で確認されている。

生息を脅かす要因

湖と河川の護岸工事、水質汚濁等で、本種の生息環境が悪化し、個体数が急速に減少したと思われる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、宮地ら (1976)、中村 (1984)、福井県海浜自然センター (2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○		○				

カマキリ (アユカケ)

Cottus kajika Jordan & Starks
カサゴ目・カジカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

近年、生息地が天然記念物に指定されている九頭竜川でも、アラレガコ漁が休止になっている。また、県内河川の河口から1つ目の河川構造物までの狭い範囲でのみ確認されていることから、個体群がかなり小さく、個体数も大幅に減少している。

種の特徴

全長 20cm。水の澄んだ河川の中流域のれき底にすみ、小型魚は主に水生昆虫を、大型魚は主に魚を食う。冬に未成熟魚は河川内で越冬するが、成熟魚は降河し、河口付近の沿岸で産卵する。産卵期は1～3月、沿岸で底生生活に移り、体長3cm前後の稚魚が4～5月河川を遡上する。

分 布

北海道を除く本州、四国、九州に生息し、本州の日本海側に多い。本県では、主要河川で確認され、九頭竜川のものとは特に大きく成長し、生息地が国の天然記念物に指定された。

生息を脅かす要因

落差の大きい堰等により遡上が妨げられ、生息地が急激に減少している。適切な河川改修による瀬淵の消失や、泥が堆積してれき底に空隙がなくなり「はまり状」となったり、大型のれきが極端に減少したりして、主要な生息場が減少している。

参考文献 原田ら (1999)、武田 (2006)、高木・谷口 (1992)、環境省編 (2015)、倉上ら (2008)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○		○		○

カジカ中卵型

Cottus sp.
カサゴ目・カジカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内河川の河口から1つ目の河川横断構造物までの狭い範囲でのみ確認されていることから、個体群がかなり小さく、個体も大幅に減少している。兩岸護岸による流路の直線化及び各種の河川横断構造物の設置によって、生息環境が悪化している。

種の特徴

全長 10cm。産卵期は12～2月、中下流域で産卵し、両側回遊型でふ化後すぐに海へ流下する。河口近くの沿岸海域で成長し、底生生活に移行後、川へ遡上する。胸鰭条数は13～17でモードは15である。

分 布

北海道・本州（日本海側）、四国の一部と有明海に注ぐ河川に生息する。本県では九頭竜川水系、南川、北川等で僅かに生息し、年々減少している。

生息を脅かす要因

落差の大きい堰等により遡上が妨げられ、生息地が急激に減少している。適切な河川改修による瀬淵の消失や、土砂流入による川底の浮き石の減少により、主要な生息環境が減少している。北陸地方ではカジカ小卵型の人為的移入により生息個体数が減少している。

参考文献 Tsukagoshi et al. (2013)、清水ら (1994)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○			○				○

シロウオ

Leucopsarion petersii Hilgendorf
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では嶺南の河川及び三方五湖、嶺北では九頭竜川や北潟湖で確認されているが、個体数は大幅に減少している。

種の特徴

全長 5cm。体は細長く側偏し、生時の体色は透明で内蔵が透けてみえるが、死後は白濁する。第1背鰭がなく、鱗がないのが特徴。小型の動物プランクトンを食べている。本県ではシロウオをイサザ（方言）と呼び、イサザ漁は春の風物詩となっている。

分 布

北海道南部～鹿児島県までの日本各地に分布。本県では嶺南の河川と三方五湖、嶺北では北潟湖で確認されている。

生息を脅かす要因

本種が産卵のために上る川は、河口部と下流の川底がきれいな清流である。しかしながら、近年の堰堤、護岸工事、水質汚濁等で、本種にとって良好な環境は減りつつあり、生息数が減少したものと考えられる。

参考文献 道津 (2001)、川那部・水野 (2001)、福井県編 (2002)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)、福井県海浜自然センター (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○					○		○				

シンジコハゼ

Gymnogobius taranetzi (Pinchuk)
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

島根県宍道湖を主な分布地として石川県、福井県、富山県等日本海側の河川や湖沼に分布しているものの、宍道湖以外での生息数は極めて少なく、保全対策が急がれている。

分布

島根県の宍道湖及び富山、石川、福井に分布。本県では北潟湖と流入河川である観音川、その周辺の水路で確認されている。

種の特徴

全長5cm。島根県の宍道湖で1986年に発見されたハゼである。形態はピリンゴやジュズカケハゼによく似ているが、頭部の感覚管開孔の数や位置が違ふことで区別できる。宍道湖産シンジコハゼの感覚管開孔が2対であるのに対し、本県産は富山県産同様0～4対まで様々な変異がある。

生息を脅かす要因

本種が確認されている北潟湖は、生活排水の流入や農業散布により環境の悪化が深刻である。また、ブルーギルやオオクチバス等無思慮な放流による影響も懸念される。

参考文献 越川 (2001)、福井県編 (2002)、加藤 (2002)、瀬能監修 (2004)、富山県編 (2012)、中坊編 (2013)、環境省編 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

ジュズカケハゼ種群

Gymnogobius sp. (Widely-distributed species)
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

近年、ジュズカケハゼは4種に分けられ、本県は広域分布種(準絶滅危惧)と富山固有種(絶滅危惧ⅠA類)の分布域となっている。しかし、両種の本県内の生息状況はまだ十分整理されておらず、今回は種群として扱う。いずれにせよ生息域は限られ、その環境は脆弱で、生息数も非常に少ない。

分布

広域分布種は北海道～太平洋側の関東、日本海側の兵庫県まで分布。富山固有種は本県と富山県のみ分布。嶺北地方の数ヶ所の溜池及びその周辺の水路で確認。

種の特徴

全長5cm。河川の中下流域や湖沼等に生息し、幼魚・成魚とも一生淡水域で過ごす。産卵期の雌は雄に比べ各鰭が大きくなり、体側には黒色と黄色に色分けられた婚姻色が出現する。ピリンゴやシンジコハゼに似るが頭部の感覚管がないことで区別できる。

生息を脅かす要因

溜池のような狭い場所は、環境の変化が容易に起こりやすく、池の水涸れも懸念され、生息環境としては非常に脆弱である。また、オオクチバス等の溜池への放流によって、壊滅的な被害を受けることも懸念される。

参考文献 岸 (2001)、加藤 (2002)、福井県編 (2002)、瀬能監修 (2004)、富山県編 (2012)、中坊編 (2013)、環境省編 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○	○	○	○	○	○		○

クロヨシノボリ

Rhinogobius brunneus (Temminck & Schlegel)
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種は暖流の影響を受けやすい半島や岬の先端付近の、小河川に集中する傾向がある。そのため本県での生息河川は非常に限られている。さらに小河川は護岸工事の影響を受けやすく、個体数は危機的状況にまで減少している。

分布

千葉県及び新潟県以南～南西諸島にかけて分布。本県では越前海岸に注ぐ小河川、敦賀半島の小河川、小浜市や越前市の溜池周辺で確認されている。

種の特徴

全長8cm。雑食性であり底生小動物や水生昆虫等を主体に、附着藻類も食う。雌雄とも胸鰭基部に三日月状の斑紋をもっている。雌は点線状の黒色縦帯が体側中央にあるのではかのヨシノボリ類と区別できる。

生息を脅かす要因

本種が好んで生息する小河川は、護岸工事で3面コンクリート張りにされてしまうところが多く、生息場所は悪化の一途をたどっている。また、堰堤等の河川横断工作物による遡上の阻害も本種減少の大きな要因となっている。

参考文献 加藤・松田 (1994)、松田・加藤 (1995)、水野 (2001)、福井県編 (2002)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○	○					○					○

サケ

Oncorhynchus keta (Walbaum)
サケ目・サケ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的には減少していない種であるが、人工ふ化放流事業に依存している。福井県においては、かつて多くの個体が各河川に遡上していたが激減し、近年は各河川ともに個体群サイズが小さいまま推移している。

種の特徴

全長 65 cm程度。体色は、産卵時期の秋季には黒色・灰黒色・暗緑色の混じった不規則な雲状紋を呈する。遡河回遊魚であり、ふ化した稚魚は海へ下り、海で成長した後、秋季に河川へ遡上し中流域のれき底で産卵する。

分 布

日本海側では九州北部以北、太平洋側では利根川以北に分布する。本県では、北潟湖・九頭竜川水系・三方湖・北川・南川・佐分利川等で確認されている。

生息を脅かす要因

堰堤等の河川横断工作物による遡上の阻害、川岸の護岸や水質の悪化等の生息環境の悪化、泥やシルト等が河床に堆積することによる産卵環境の悪化等が挙げられる。また、遡上期に密漁者も散見される。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2014)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○			○		○			○	○	○		○

カジカ大卵型

Cottus pollux Günther
カサゴ目・カジカ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内に広く分布するが、ごく限定された場所でのみ確認され、個体群がかなり小さい状況にある。河川改修により主要な生息場が極めて減少している。

種の特徴

全長 10cm。水の澄んだ河川の上流域～中流域上部に生息する。瀬のれき底に潜み、主に水生昆虫、底生の小甲殻類を餌とする。産卵期は3～6月、卵は大型でふ化後生涯を河川で過ごす。胸鰭条数は12～14条で多くは13条である。

分 布

本州～九州地方の河川の中～上流域に生息し、河川で生活史を完結する河川陸封型の生活史を持つ。本県では大小多くの河川に分布したが、近年減少がいちじるしい。

生息を脅かす要因

森林伐採、河川開発、道路建設等の流域開発にともなう生息環境の劣化や単純化に加えて、ダム等の河川横断工作物による生息地の分断や集団の孤立化により減少している。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ヤリタナゴ

Tanakia lanceolata (Temminck & Schlegel)
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息環境の悪化や破壊によって生息地・生息数とも減少傾向にある。また、本県で最大の生息地である九頭竜川水系に同属のアブラボテが移入され、交雑も確認されている。九頭竜川水系でアブラボテとの交雑は、今後も拡大し進行する可能性がある。

種の特徴

全長6～10cm。体高はやや低く、長い口髭を持つ。側線は完全。背鰭の条間膜に黒色の斑紋がある。平野部の細流や水路に生息する。産卵期は春～初夏で中型の二枚貝（マツカサガイ・カタハガイ等）に産卵する。食性は雑食性で付着藻類や底生動物を食べる。

分 布

北海道と離島を除く全国に分布する。ただし、東北地方太平洋側のものは移入の可能性が残る。本県ではあわら市～高浜町までの平野部に広く分布・生息する。

生息を脅かす要因

圃場整備や河川改修工事等による生息環境の破壊・消失と、産卵母貝が減少したことが最も大きな要因だと思われる。また、九頭竜川水系に同属のアブラボテが移入されたことで、本種との雑種化が進行する可能性もある。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斉藤・川崎 (2015)、黒澤 (2009)、石津 (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○

ドジョウ

Misgurnus anguillicaudatus (Cantor)
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内の水田域に広く確認されるが、また、用排水路の切り下げ等の圃場整備により水田域の生息場所の悪化が著しい。すでに県内で交雑可能な別種の侵入が3か所で確認されており、今後の動向に注目を要する。

種の特徴

全長15cm、体は細長く、やや側偏する。口髭は10本。メスの方が大きくなる。河川中・下流域、用水路等の流れの緩やかな泥底にすみ、初夏に水田等浅い湿地に進入して産卵する。

分布

日本全土に分布する。本県でも大小多くの河川、水田域の用排水路等に広く分布する。

生息を脅かす要因

国外産近縁種カラドジョウの浸入により、競合が生じているおそれがある。近年、国外・国内他地域産の個体が食材や釣り餌、希少鳥類の餌等、様々な形で流通しており、水田養殖の逸出等によって在来個体群の生息域に広がり、遺伝的な攪乱を引き起こしている。

参考文献 環境省編 (2015)、長谷川・岡 (2012)、岡 (2010)、川崎・岡 (2009)、日和ら (2014)、石黒ら (2014)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

スジシマドジョウ種群

Cobitis magnostriata Nakajima
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

琵琶湖の固有種である「オオガタスジシマドジョウ」に似た集団が本県の三方湖に生息するとされるが、種の同定もされておらず、前回のレッドデータブックのスジシマドジョウと本種を区別する十分な情報が不足しているため、要注目とした。

種の特徴

全長8～10cm。琵琶湖の固有種「オオガタスジシマドジョウ」に似た集団で、本県の三方湖に生息するとされる種。種の同定については不明な為「スジシマドジョウの一種」とする。オスの胸鰭基底にある骨質盤が丸く、体側の斑紋はオス・メスとも縦条化する。

分布

オオガタスジシマドジョウは琵琶湖の固有種で、本種は三方湖とその周辺に分布する個体群をいう。

生息を脅かす要因

護岸工事等による生息環境の悪化が最も大きな要因で、生息地とされる場所のオオクチバス・ブルーギルの増化も本種の生息を脅かす要因と考えられる。

参考文献 環境省編 (2015)、福井県編 (2002)、中坊編 (2013)、川那部ら (2005)、斎藤・川崎 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

カワアナゴ

Eleotris oxycephala Temminck & Schlegel
スズキ目・カワアナゴ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

九頭竜川水系、三方五湖でわずかに捕獲された記録があるだけである。いずれも偶然による捕獲で本県での生態は不明である。捕獲数が少ないことから多くは生息していないものと推定される。よって今回は要注目とした。

種の特徴

全長25cm。体色は黄褐色あるいは暗褐色で、背面が著しく淡色に変わる場合がある。下あごが出ており、頭部の下面には白い斑紋が目立つ。昼間は木の根や岩の下等物陰に潜み、夜間エビや小魚等を食う。

分布

本州～九州に分布。本県では九頭竜川水系の中流域、三方五湖でわずかに捕獲された記録があるだけである。

生息を脅かす要因

記録地が限定され、評価するだけの情報が不足している。

参考文献 岩田 (2001)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○								○				○

シマウキゴリ

Gymnogobius opperiens Stevenson
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

嶺南では確認されておらず、嶺北においても生息河川は限られている。南越前町を流れる河野川が日本海側での南限に当たるものと思われるが、近年はほとんど確認されていない。

種の特徴

全長 8 cm。第一背びれの後端に黒色斑があること、体側には腹側で輪郭が不明瞭なH状横斑が並ぶこと、尾びれ基底の黒色斑点の後端は2又すること等から同じ仲間のウキゴリやスミウキゴリと区別できる。河川の中、下流域の比較的流れのある環境を好む。

分 布

北海道、茨城県・福井県以北の本州。本県では九頭竜川水系、越前海岸へ注ぐ小河川。

生息を脅かす要因

堰の敷設、護岸工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が減少したものと考えられる。

参考文献 石野 (2001)、瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○									○

クボハゼ

Gymnogobius scrobiculatus (Takagi)
スズキ目・ハゼ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県では 2012 年、2013 年に南川のイサザ（シロウオ）漁の袋網にかかった記録があるのみで、評価するだけの情報が不足しており、その生息は不明であることから要注目とした。

種の特徴

全長 4 cm。河川の河口域～汽水域が主な生息場所である。体は細長く、体側に小さな点からなる横縞が多数あることが特徴。頭は縦扁し断面は台形、体後部は側扁する。上顎後端は眼の後縁を大きく越える。

分 布

日本固有種で本州～九州に分布。本県では南川で確認された。

生息を脅かす要因

今後調査が進めばさらに分布域は広がる可能性はあるが、現時点での記録は南川のみである。本種が好む河口干潟が南川に十分備わっているわけではなく、環境が悪化すれば減少は避けられない。

参考文献 瀬能監修 (2004)、中坊編 (2013)、環境省 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

タモロコ三方湖産

Gnathopogon elongatus elongatus (Temminck & Schlegel)
コイ目・コイ科

【福井県カテゴリー】新：地域個体群

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

三方湖とその流入河川に生息し、特異な形態をもつ地域個体群として保護の必要性が高い。

種の特徴

全長 10 cm。タモロコは西南日本の広範囲に分布するが、生息環境の違いによって形態に著しい変異がある。たとえば止水域に生息するものは、河川のものに比較して、体型が細長く、縦列鱗数、脊椎骨数が多い等の特徴を持つことが知られており、三方湖産のタモロコはその典型とされている。

分 布

三方湖とその流入河川に生息する。

生息を脅かす要因

三方湖は、水質汚濁や湖岸では魚類等多様な生きもののすみかとなる植生帯が激減し、さらには、オオクチバスやブルーギル等の外来生物の増加による食害によって生息が脅かされている。

参考文献 細谷和海 (1987)、福井県海浜自然センター (2011)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

文献一覧

- 道津喜衛, 2001. シロウオ. p. 630-631. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 福井県, 1998. 福井県の陸水生物. 福井県.
- 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物: 福井県レッドデータブック (動物編)2002. 福井県.
- 福井県自然保護センター, 2011. 三方五湖水域の魚類相とその特性. *Ciconia*, 16: 45-61.
- 原田慈雄・木下泉・大美博昭・田中克, 1999. 由良川河口域周辺におけるカマキリ *Cottus kazika* 仔稚魚の分布および移動. 魚類学雑誌, (46): 91-99.
- 長谷川巖・岡友章, 2012. 越前市街地西部産カラドジョウ (*Paramisgurnus dabryanus*) について. 福井陸水生物会報, (19): 42-43.
- 日和佳政・新井文八・藤長祐平・鈴木克欣・田原大輔・石黒直哉, 2014. 福井県越前市西部地域に生息するドジョウの遺伝的特性. *DNA 多型*, (22): 84-88.
- 細谷和海, 1987. タモロコ属魚類の系統と形質置換. p. 31-40. 水野信彦・後藤晃編, 日本の淡水魚類. その分布、変異、種分化をめぐって. 東海大学出版会.
- 細谷和海, 2013. アカザ. p. 337. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索. 全種の同定第3版. 東海大学出版会.
- 石野健吾, 2001. シマウキゴリ. p. 621. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 石黒直哉・持田宇晃・日和佳政・田原大輔, 2014. 福井県に生息するドジョウの遺伝的特性. *DNA 多型*, (22): 89-93.
- 石津恵造, 2007. 完全ガイド タナゴのすべて. マリン企画.
- 岩田明久, 2001. カワアナゴ. p. 553. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- Kaifu, K., Maeda, H., Yokouchi, K., Sudo, R., Miller, M. J., Aoyama, J., Yoshida, T., Tsukamoto, K., and I. Washitani, 2014. Do Japanese eels recruit into the Japan Sea coast: a case study in the Hayase River system, Fukui Japan. *Environmental Biology of Fishes*, 97: 921-928.
- 環境省自然環境局野生生物課編, 2015. レッドデータブック 2014. 日本の絶滅のおそれのある野生生物. 4 汽水・淡水魚類. ぎょうせい.
- 加藤文男, 1985. 福井県に分布する陸封型イトヨとトミヨの現状. 福井陸水生物会報, (4): 9-13.
- 加藤文男, 2002. 福井県に生息するウキゴリ属 (*Chaenogobius*) 魚種 3 種の形態と分布. 福井陸水生物会報, (9): 4-8.
- 加藤文男・松田隆喜, 1994. 福井県河川におけるヨシノボリ類 5 種とカワヨシノボリの分布. 福井県郷土自然史博物館研究報告, (41): 63-76.
- 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編・監修, 2005. 日本の淡水魚. 山と溪谷社.
- 川崎隆徳・岡友章, 2009. 福井県美浜町気山の水路で採集されたカラドジョウ. 福井陸水生物会報, (16): 2-3.
- 岸 由二, 2001. ジュズカケハゼ. p. 614. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 越川敏樹, 2001. シンジコハゼ. p. 614-615. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 倉上明日香・田原大輔・長友仁郎・小野真宏, 2008. カマキリは河川内で越冬する. 2008 年度日本魚類学会講演要旨.
- 黒澤慶司, 2009. タナゴ大全. マリン企画.
- 京都府環境部自然環境保全課編, 2015. 京都府内の絶滅のおそれのある野生動物: 京都府レッドデータブック 2015 年版 (野生動物 淡水魚類 キタノメダカ 中尾遼平). 京都府
- 松田隆喜・加藤文男, 1995. 福井県河川におけるヨシノボリ類 5 種とカワヨシノボリの分布 (続報). 福井県郷土自然史博物館研究報告, (42): 35-40.
- 松宮由太佳・渡辺勝敏・井口恵一朗・岩佐祐士・山本軍次・西田睦, 2001. 福井県嶺南地方を流れる南川水系の淡水魚類. 魚類学雑誌, 48(2): 93-107.
- 宮地伝三郎・川那部浩哉・水野信彦, 1976. 原色日本淡水魚類検索図鑑. 保育社.

- 水野信彦, 2001. カワヨシノボリ. p. 600-603. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 水野信彦, 2001. クロヨシノボリ. p. 588. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 森誠一・名越誠, 2001. アカザ. p. 410. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- 向井貴彦, 2010. ジュズカケハゼ種群: 同胞種群とその現状. 魚類学雑誌, 57(2): 173-176.
- 中坊徹治編, 2013. 日本産魚類検索全種の同定第三版. 東海大学出版会.
- 中村守純, 1984. 原色淡水魚類検索図鑑. 北陸館, 東京.
- 岡友章, 2010. 九頭竜川水系片川周辺の水路におけるカラドジョウの分布. 福井陸水生物会報, (17): 16-18.
- 大野市教育委員会, 1973. 大野盆地における陸封型イトヨの生態.
- 大野市教育委員会, 1998. 天然記念物本願清水イトヨの生息地緊急調査報告書.
- 齊藤憲治・川崎深雪, 2015. くらべてわかる淡水魚. 山と溪谷社.
- 瀬能宏監修, 2004. 決定版日本のハゼ. 平凡社.
- 清水孝昭・洲澤譲・水野信彦・高橋敏博, 1994. 愛媛県加茂川におけるカジカ *Cottus pollux* 回遊型の初期生活史. 徳島県立博物館研究報告, (4): 49-66.
- 多田雅充・児玉晃治, 2012. ラムサール条約湿地「三方五湖」魚類調査報告書. 福井県海浜自然センター.
- 高木基裕・谷口順彦, 1992. 高知県におけるカマキリ, *Cottus kazika* の分布. 水産増殖, (40): 329-333.
- 武田英夫, 2006. アラレガコの生息について. 平成18年度近畿地方整備局研究発表会論文集.
- 田中 晋, 2001. ハス. p. 250-255. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 日本の淡水魚第3版. 山と溪谷社.
- Tsukagoshi, H, Sakai, K, Yamamoto, K., and A. Goto, 2013. Non-indigenous amphidromous sculpin *Cottus pollux* small-egg type (Teleostei: Cottidae) detected in rivers entering the Sea of Japan of Honshu Island, Japan. Ichthyological Research, 60: 93-97.

概 説

国内で刊行されている様々な昆虫図鑑を紐解くと、個々の種の分布欄に「近畿以西」「中部以北」と言った文言をよく見る。もちろん、モンシロチョウやキイロショウジョウバエのように国内のほぼ全土に分布するものもあれば、ブラキストン線に従って北海道にしか生息しない種もまた多い。とは言え、大凡紀伊半島を境界として、日本の少なからぬ昆虫が東西に住み分けていることは確かである。

言うまでもなく福井県は本州のほぼ中央部にあたる。したがって、福井県を北限ないしは南限とする昆虫は少なく、それゆえ面積の割には多くの昆虫種を擁する。約 20 年前に刊行された「福井県昆虫目録（第二版）」では約 8000 種が福井県産昆虫として記録されている。しかし、その後も新種や新記録種の発見は留まるところを知らず、県内昆虫の種数は右肩上がりに増え続けている。

昆虫の生息地として県内の陸水環境を見ると、本流及び中小の支流からなる九頭竜川水系、北瀧湖と三方五湖、農業用ため池、現役水田、休耕田と多種多様な環境が揃っている。梅雨と冬期の年 2 回もの雨期を持つ裏日本に位置することもあってか、福井県は農業県でありながら農業用ため池の数は、しばしば渇水に見舞われる瀬戸内地域に比べはるかに少ない。にも関わらず生物の生息地として好適なため池が残存するせい、止水性の水生昆虫類相にも見るべき点は多い。

一方、福井県は山国（やまぐに）との印象を持たれがちであるが、隣国加賀国が有する白山系のような真の意味での高山帯を欠く。それゆえ必然的に高山性昆虫類相が乏しいのは仕方がない。しかし、それを補うかのようにブナに代表される山地性落葉樹林や農村の裏山に生える雑木林、嶺南の照葉樹林帯など、これまた多種多様な山林が県内にあり、それぞれの森林の特性に対応した昆虫が育まれてきた。

この他、東西に延びる海岸線も福井県内に位置する昆虫の主要生息地である。大雑把に砂浜と磯に二分される海浜環境は、総種数では森林に劣るとは言え、海浜性ゴミムシやハネカクシ、陸生ガムシと言った海岸特有の昆虫類の住処となっている。

しかし、鳥類や淡水魚類同様、御多分に洩れず福井県内の昆虫もまた一部の種の絶滅が心配される状態にある。今回の福井県レッドデータブック（改訂版）では、県域絶滅 4 種、県域絶滅危惧 I 類 35 種、県域絶滅危惧 II 類 43 種、県域準絶滅危惧 47 種、要注目 129 種、計 258 種を、その危険度の大きさは違えど「絶滅ノ恐れ有り」と認定せざるを得なかった。

絶滅危惧の危険度による上記 5 つのランク分けは、近年の生息個体数や生息地数の減少度合によって極力数値データに基づいて行うことを大前提とした。もっとも、湖沼の水生昆虫は「1 個、2 個・・・」と生息地の換算がまだ可能であるが、森林性のカミキリムシや狩りバチ類の場合は何をもって 1 個の生息地とするかの判断が非常に困難である。また、生息個体数と言ってもオオクワガタのようにそもそも採集が技術的に非常に困難な種の場合、「福井県内にオオクワガタが何頭いるか？」などの問いに対する回答は雲を掴むような話である。それゆえ、種によっては近年の減少度合は担当した調査者のカンに任せざるを得なかった部分もある。とは言え、福井県内には優秀な昆虫愛好家の方々が多く、彼らのカンはカンであっても、自然界における実情を大凡正しく反映しているものと確信している。

（保科 英人）

アカハネバツタ

Celes akitanus (Shiraki)
バツタ目・バツタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

文献によると、過去には県内に広く分布していたと考えられるが、50年以上記録がない。日本国内でも、1986年に新潟県で確認されて以来、記録がなかったが、2015年に長野県、山形県で再発見された。

種の特徴

体長はオス 25～27 mm、メス 35～40 mm。体は褐色で、後翅は基部が赤い。卵越冬で年1化。7～10月に成虫の採集例がある。明るい林道や松林の下草に生息するが、詳しい生態は不明。

分布

本州（東北地方～中部地方）に点々と分布。県内では旧松岡町での戦前の記録、1950年頃に大野市での記録がある。文献によると、戦前は県内に広く分布していたとされる。

絶滅した要因

少なくとも海岸のマツ林においては、管理放棄が主な原因とされているが、高原の草地における減少要因は明らかでない。

参考文献 福井県博物館 (1938)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、村井・伊藤 (2011)、永幡 (2015)、日本直翅類学会 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										●						●	

ゴマシジミ (本州中部亜種)

Maculinea teleius kazamoto (H. Druce)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

各地で減少が著しく、近年記録があるのは山梨県、長野県であり、その他では絶滅かそれに近い状況にある。本県においても、前回のレッドデータブックで絶滅とされ、その後も再確認の情報がない。

種の特徴

小型。翅表は外縁の黒帯を除き青色で、黒斑が並ぶ。年1回、7～8月頃に発生。食草はワレモコウで、幼虫は蕾を摂食後、クシケアリの一種の巣内に運ばれ、アリの卵・幼虫を食べて育つ。草刈りによって人為的に維持される半自然のススキ草原に生息する。

分布

本州に分布。県内ではあわら市東山で1970年に採集記録があるが、それ以降は確認されていない。東山の採集地点は、北陸自動車道の建設で消失した。

絶滅した要因

草地の開発による消失や、管理放棄による環境変化。県域では、生息の可能性はないと考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、下野谷 (1976)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													●				

ヒメヒカゲ (本州西部亜種)

Coenonympha oedippus arothius Okada & Torii
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

前回のレッドデータブックで絶滅とされ、その後も再確認の情報がない。

種の特徴

小型。翅表は淡黒褐色。裏面は茶褐色～淡褐色で、黄色の縁取りのはっきりした眼状紋がある。成虫は年1回、6～7月頃に発生。食草はショウジョウソグ等。小規模な貧栄養湿地や、山地草原、放牧地、採草地等に生息する。

分布

本州中部～西部に分布。県内では敦賀市花城での採集記録がある。また、福井市自然史博物館には小浜市鬼ヶ谷で採集したとされる標本が所蔵されている。

絶滅した要因

各種開発、草地の管理放棄、圃場整備等が生息を脅かす要因として指摘されている。県域では、生息の可能性はないと考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					●	●											

昆虫類

ウラナミジャノメ (本土亜種)

Ypthima multistriata nipponica Murayama
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

50年以上信頼できる記録がない。

分布

本州～九州に分布。県内ではおおい町三ッ松と遠敷郡野木村からの古い記録があるのみである。

種の特徴

小型。表は濃褐色。裏面は白い波状模様がある。後翅表面には1個、裏面には3個の眼状紋がある。成虫は年1～2回の発生。食草はヌマガヤ、ショウジョウスゲなど。農地及びその周辺、河川堤防、天然の湿地、海岸沿いの崖地、林縁部等の明るい草原に生息する。

絶滅した要因

宅地造成、道路建設、ため池や河川の改修、圃場整備等の開発による生息地の消失や、草地の管理放棄による植生変化が本種の生存に影響を与えた要因として指摘されている。

参考文献 福井県博物館 (1938)、福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	●	●															

ヒラサナエ

Davidius moiwanus taruii Asahina & Inoue
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生息地は1か所のみであり、その生息地での確認個体数は著しく減少していることから、危機的な状況にあると判断される。

分布

富山、石川、福井、滋賀、京都、兵庫、岡山の各府県に局地的に分布。県内では、美浜町の1地点で確認されているのみ。

種の特徴

丘陵地～山地にかけての湿原を流れる細流に生息する小型のサナエトンボ。北海道～本州東北部にかけて分布する日本特産種のモイワサナエの北陸～中部亜種。幼虫期間2～3年程度(2～3年1世代)で、県内では成虫は5～7月に記録されている。

生息を脅かす要因

埋め立てや細流の護岸、周辺の落葉広葉樹の伐採が本種の生存に影響を及ぼす。湿地の乾燥化も本種の生育に脅威となる。湿地の横に掘られた側溝の埋戻しと、周辺に植林されたスギ等の間引き(日照量の確保)、湿地内の川底を湿地面まで戻すために木製の堰を多数設置する等の対策が望まれる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、和田・和田 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○													

オグマサナエ

Trigomphus ogumai Asahina
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

前回の調査時に比べ、生息確認地点数が5割以上減少し、現存する生息地でも個体数が危機的状況まで減少している。

分布

石川県、長野県、愛知県の各県より西の本州、四国、九州にやや局所的に分布。日本特産種。県内ではこれまでにあわら市の一部と敦賀市中池見で記録がある。

種の特徴

体長47～52mm。日本に生息するコサナエ属の中で最大種。平地～丘陵地の抽水植物の繁茂する水面の開けた池沼に生息する。成虫は主に4月下旬～6月上旬に出現。幼虫期間は2年ほど。

生息を脅かす要因

あわら市の生息地の一つは、ため池の改修で失われた。現存する生息地にも、ウシガエル等の外来種が侵入し個体数が増加しており、捕食圧が心配される。コイ、ブラックバス、ライギョ等の駆除と、植林されたスギ、ヒノキの間引きによる日照量の確保等の対策が早急に望まれる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、尾園ら (2012)、和田・和田 (2006)、杉村ら (1999)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○				

フタスジサナエ

Trigomphus interruptus (Selys)
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

現存の生息地は1地点に限られ、危機的な状況にある。

分布

本県、静岡県以西の本州、四国、九州に分布する。県内では、かつては小浜市、高浜町で記録があったが、現存する生息地は高浜町の1か所のみ。

種の特徴

体長44～50mm。胸側に2本の黒条がある個体が多く、胸部の斑紋のほかオス尾部付属器やメスの産卵弁の形状で同属他種と区別する。平地～丘陵地の周囲に樹林のある池沼に生息。成虫は主に5月上旬～6月下旬に出現。幼虫期間は2～3年程度。

生息を脅かす要因

生息地の埋め立てや改修が脅威となる。県内の現存する生息地でも堰堤の改修工事が行われており、水位の変化が本種の生存に影響を与えている。

参考文献 福井県自然保護課(2002)、環境省(2015)、尾園ら(2012)、和田・和田(2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○												

キロヤマトンボ

Macromia daimoji Okumura
トンボ目・ヤマトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息地が局限されている。

分布

国内では本州(福島県以南)、四国、九州に分布するが、生息地は限られている。県内では、小浜市とおおい町の南川の一部にのみ生息する。

種の特徴

体長75～83mmの大型のトンボ。黒地に黄色の斑紋があり、コヤマトンボに似るが、腹部第3節の黄斑が斜めに断ち切れている。砂底ないし砂泥底の河川に生息する。成虫は6～7月に出現する。

生息を脅かす要因

河川改修や洪水による川底の環境変化が脅威となる。生息地周辺や上流側での河川改修は最小限度にとどめることが望まれる。

参考文献 尾園ら(2013)、和田茂樹・和田洋一(2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○												

カオジロトンボ

Leucorrhinia dubia (Van der Linden)
トンボ目・トンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息地が局限されている。

分布

国内では北海道、本州(中部以北)に分布する。県内では、大野市の赤兎山山頂付近の池塘(赤池)が唯一の生息地で、同地が国内の分布南西限である。

種の特徴

体長31～39mmの小型のトンボ。黒みが強く、額が白色となる。高地の池塘に生息する。成虫は6～8月に出現する。

生息を脅かす要因

池塘の乾燥等が脅威となる。近年は生息地の水面の縮小が認められる。

参考文献 尾園ら(2013)、和田・和田(2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

カワラバツタ

Eusphingonotus japonicus (Saussure)
バツタ目・バツタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまでに知られる生息地で精力的な調査が行われたが、確認はできなかった。県内の生息状況は非常に危機的であると判断した。近隣でも石川県で絶滅危惧Ⅰ類、富山県と京都府で絶滅危惧Ⅱ類またはそれ相当に指定されている。

種の特徴

体長オス 25～30 mm、メス 40～43 mm。体色は灰色で、河川敷の砂礫と見分けがつきにくい。後翅には弧状の黒帯があり、その内側は青色。大河川の下流～中流域の礫質の河原に生息する。成虫は7～9月に出現する。

分 布

北海道～九州に分布。県内では、旧美山町、大野市、旧和泉村の広い河原から記録されているが、2000年の大野市中洞での記録以来記録はない。

生息を脅かす要因

本種の生息には石が転がる広い河原が必要であり、治水対策の実施により周期的な氾濫が起これなくなると、河原の草地化が進み生息できなくなる。河川敷の改修工事も大きな脅威となり、旧美山町の生息地は福井豪雨後の河川改修で消失したと考えられる。県内での本種の残存地域の把握が急務。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、石川県自然環境課 (2009)、京都府自然環境保全課 (2015)、村井・伊藤 (2011)、日本直翅類学会 (2006)、富山県自然保護課 (2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

タガメ

Lethocerus deyrolli (Vuillefroy)
カメムシ目・コオイムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1950年代までは各地にふつうにみられたが、1970年代になると、農薬の散布や街灯の増加などによって激減し、多くの産地では絶滅した。本県でも生息環境は極めて悪化しており、危機的状況にあると判断される。

種の特徴

体長 48～65 mmの日本最大の水生カメムシ。安定した池沼または緩流（水路）等に生息し、小魚、オタマジャクシ、カエル等を捕食する。成虫越冬で、九州以北では6月頃から産卵する。卵塊は水面上の茎などに産みつけられる。オスには卵塊を保護する習性がある。

分 布

日本全国に分布。県内では福井市、坂井市、あわら市、永平寺町、大野市で記録がある。最近では高浜町内に唯一記録があるとされる。2000年には敦賀市で死体拾得記録あり。

生息を脅かす要因

農薬散布による水質汚濁が減少の大きな原因とされていた。開発による池沼の減少や水辺環境の悪化が進めば本種が絶滅する可能性がある。正の走光性の強い本種にとっては、街灯（水銀灯）の増設も大きな脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全課 (2006)、環境省 (2015)、長田・福岡 (2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○				○	○		○			○	○

ヒメミズカマキリ

Ranatra unicolor Scott
カメムシ目・タイコウチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

「福井県昆虫図譜」には大野での記録があるものの、近年では北潟湖周辺でしか採集されておらず、分布は局所的で、個体数も少ない。産卵が浮葉植物の組織内であり、浮葉植物が繁茂する湖沼環境に依存しているため、環境の変化による影響を受けやすい。

種の特徴

呼吸管を含めた体長は40 mm程度。呼吸管は体長の約2/3程度とミズカマキリに比べると短い。平地の池沼にすみ、浅水のため池でしばしばみられる。

分 布

大型の水生種にもかかわらず、今回の調査で採集されたのはあわら市の1か所のみであり、分布は局所的で個体数も少ないものと考えられる。

生息を脅かす要因

生息地は平地にある外来種の多い湖沼であり、化学物質の流入や、外来種の進入等による環境の悪化が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)、都築ら (2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○			○	

カワムラナベブタムシ

Aphelocheirus kawamurae Matsumura
カメムシ目・ナベブタムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

「福井県昆虫図譜」に1938年の記録があるのみで、80年ほど記録されていない。琵琶湖水系に生息している可能性もわずかにあり、現ランクを維持。

種の特徴

体長8mmの小型の黒いナベブタムシで、頭部、脚は鮮黄色の美麗種。頭部は他の種より長く、前方に突出し、前縁は濃褐色。琵琶湖と琵琶湖水系だけから知られている珍しいナベブタムシ。

分布

分布は琵琶湖と琵琶湖水系のみである。県内では1938年の「福井県昆虫図譜」に敦賀市粟野の記録があるのみで、その後の記録はない。

生息を脅かす要因

用水路等のコンクリート三面張り化によりナベブタムシ類の個体数、分布域は年々減少しているものと思われる。また、農業等の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、宮本（1965）、日浦（1993）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ミヤケミズムシ

Xenocorixa vittipennis (Horváth)
カメムシ目・ミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では北潟湖周辺でしか採集されておらず、分布は局所的で、個体数も少ない。環境の変化、悪化による影響を受けやすい。

種の特徴

体長は8～9mmの大型のミズムシ類。光沢が強く、淡黄色に明瞭な黒条を有する。

分布

本州、九州に分布。県内ではあわら市の記録のみである。

生息を脅かす要因

今回の調査で見つかったのは北潟湖周辺の1地点のみである。北潟湖は平地にある外来種の多い湖沼であり、外来種の進入等による環境悪化が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、宮本（1965）、日浦（1993）、都築ら（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

カワラハンミョウ

Chaetodera laetescripta circumpectula (W. Horn)
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

各県で絶滅あるいは危惧されている。本県では1982年に1頭が採集されて以降、確認されていない。その後の探索でも確認されておらず、絶滅が確実視される。

種の特徴

体長約15mm。背面は光沢のない黒色、上翅に独特な白紋を持ち変異が大きい。上翅の側縁が白いことで他のハンミョウ類から識別できる。中下流域の河川敷や海岸の砂丘等に生息する。細かい砂を好み、海浜植物帯の海側でみられる。夏季、活発に活動し、成虫・幼虫ともに捕食性。

分布

北海道～九州に分布する。本県では、1982年に三国町の橋の灯火に飛来したものが採集され、近隣の河川敷や砂浜での生息が期待される。大野市鳩ヶ湯での記録はやや疑問。

生息を脅かす要因

河川敷の改変や海岸砂浜の消失による生息地の減少、娯楽や清掃の車乗り入れは脅威となる。幼虫の営巣や成虫の越冬で海岸林内を利用するため、海岸林の改変も存続を脅かす。また、砂浜と松林を分断する道路設置も移動を阻むものであり、道路計画も勘案しなければならない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○					○	○

ハラビロハンミョウ

Lophyridia angulata niponensis (Bates)
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

各県で絶滅あるいは危惧されている。本県では1978年に記録されて以降、極めて稀に確認されているが、今回の調査では確認できておらず、絶滅が危惧される。

種の特徴

体長15mm以下。背面は光沢のない黒色で、上翅に横帯の紋を持つ。メスは上翅の側縁中央が張り出す。同時に生息するヒメ(エリザ)ハンミョウに類似するが横帯の紋は太く短い。海岸の河口部や砂丘に生息する。活発に歩行・飛翔し、成虫・幼虫ともに捕食性で小昆虫等を捕らえる。

分布

本州、九州と属島の、日本海側に連続的に分布するが太平洋側では稀。本県では坂井市三国町池見で記録がある。三里浜での情報もあるが、他種と混同されている可能性がある。

生息を脅かす要因

河川改修等による河川敷の改変や海岸の砂浜の消失による生息地の減少、娯楽や清掃の車乗り入れも脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会(1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

シマゲンゴロウ

Prodaticus bowringii Clark
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

福井県産動植物の中で最も絶滅の危険が高い種の一つで、近年県内で急速に姿を消した。2016年の福井県版レッドデータ改定に際した野外調査では生息が確認されず、既に県内絶滅している可能性もある。

種の特徴

体長12~14mm。中型ゲンゴロウの一種。左右の上翅がそれぞれ2本の黄褐色の美しい筋模様を持つ。主にため池や湿地に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

本来は国内のほぼ日本全域に分布するが、姿を消した地域も多い。福井県では2000年代前半は嶺南の複数個所で生息が確認されていたが、現在は確実な生息地は知られていない。

生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の増大、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省(2015)、森・北山(1993)、上野ら(1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○												○

オオイチモンジシマゲンゴロウ

Hydaticus conspersus Rēgimbart
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内では戦前に旧坂井町で記録があるのみ。今回の調査では、本種の確認には至らなかった。近隣の京都府で最近でも採集記録があり、滋賀県にも生息することから、本県でも生存の可能性はある。

種の特徴

体長16~17mm。体形はやや長い卵形で、背面はやや扁平。頭部と前胸背板は黄褐色、上翅は黒色で特有の斑紋を有する。平野部~低山地の樹林において、湧水のある水質が良好で、かつ植生豊かな池沼や湿地の水たまり、弱い流れの浅い細流に生息する。

分布

本州(秋田県、山形県、宮城県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、福井県、滋賀県、京都府)に分布。県内では旧坂井町(坂井郡木部村)で戦前の記録があるのみ。

生息を脅かす要因

開発による池沼、湿地の消失や圃場整備、農薬散布、水質汚濁等の影響で、生息地が失われたものと考えられる。

参考文献 福井県博物館(1938)、環境省(2015)、京都府自然環境保全課(2015)、森・北山(2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ヤシャゲンゴロウ

Acilius kishii Nakane
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

国内希少野生動物種に指定されている。日本はもとより世界でも本種の生息地は南越前町夜叉が池のみである。個体数の詳細な数字は不明だが、1000 個体を切っているとも言われる。

種の特徴

体長 14～16 mm。中型ゲンゴロウの一種。近縁種メスジゲンゴロウと似るが、メス上翅の条溝が不明瞭なことから区別できる。幼虫はミジンコ類を主食とし、成虫は池水面に落下した昆虫等を食べる。

分布

本県南越前町の夜叉が池が唯一の生息地である。

生息を脅かす要因

愛好者による密猟や、土砂の流入による池の水質の変化、炊事や犬連れ登山等入山のルールを守らない登山客の増加などが挙げられる。

参考文献 Bergsten&Miller (2005)、保科・井上 (2005)、保科・井上 (2006)、環境省 (2015)、森・北山 (1993)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

マルガタゲンゴロウ

Graphoderus adamsii Clark
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

現在福井県内で確実に繁殖している生息地は数か所にすぎない。

種の特徴

体長 12～15 mm。中型ゲンゴロウの一種。上翅の大部分は黒褐色。主にため池や湿地に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

琉球列島を除く国内のほぼ日本全域に分布するが、姿を消した地域も多い。近年の福井県では嶺南で見つかったことがあるものの、確実な生息地は嶺北の一部のみと思われる。

生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、生息地の乾燥化、アメリカザリガニなどの侵略的外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、上野ら (1985)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○									○			○	○	

シャープゲンゴロウモドキ

Dytiscus sharpi Wehncke
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

国内希少野生動物種に指定されている。生息が確認される都道府県自体が少ない。福井県産動物種の中で最も絶滅の危険が高い種の一つ。

種の特徴

体長 28～33 mm。大型ゲンゴロウの一種。背面は黒褐色で、黄褐色の側縁を持つ。メスは上翅に通常 10 条の明瞭な縦溝を有する。主に湿地やため池に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

本来は本州日本海側および関東～関西にかけて分布していたが、大半の地域で絶滅した。福井県内でも生息地は数か所を残すのみ。

生息を脅かす要因

愛好者による密猟や、ため池の消失、アメリカザリガニやオクチバスなどの侵略的外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、西原 (2008)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○						○						○

ゲンゴロウ

Cybister japonicus Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

元々生息範囲が限定される希少種であったが、現在県内で確実に繁殖している生息地は数か所にすぎない。福井県産動物植物の中で最も絶滅の危険が高い種の一つ。

種の特徴

体長 34～42 mm。日本産ゲンゴロウの中で最大種。前胸背板及び上翅の大部分は緑を帯びた黒色で、黄褐色の側縁を持つ。主にため池に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分 布

本来は琉球列島を除く国内のほぼ日本全域に分布していたが、大半の地域で絶滅した。県内でも一部市町に僅かな個体が残存するのみ。

生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の定着、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (1993)、上野ら (1985)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○				○	○			○	○	○

コガタノゲンゴロウ

Cybister tripunctatus orientalis Gschwendtner
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では記録自体が大変少なく、現在確実な繁殖地はない。本県で本種が最後に捕れた公式記録は 2008 年である。

種の特徴

体長 24～29 mm。日本産ゲンゴロウの中では大型種だが、その名の通りゲンゴロウよりは明らかに小さい。前胸背板及び上翅の大部分は緑を帯びた黒色で、黄褐色の側縁を持つ。主にため池に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分 布

北海道を除く国内のほぼ日本全域に分布するが、本州の大半の地域では絶滅した。西南日本に多い傾向があり、そもそも本県が安定的な産地だったかは疑問が残る。

生息を脅かす要因

愛好者による捕獲圧や、ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 保科 (2009)、環境省 (2015)、森・北山 (1993)、野原・河野 (2003)、嶋田・富沢 (2014)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○	○	○					○					

マルケシゲンゴロウ

Hydrovatus subtilis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

平成 27 年に本県から初めて記録された。個体数は多くないうえに判明している県内の生息地は一か所のみである。

種の特徴

体長 2.4～2.7 mm の小型ゲンゴロウ類の一種。形態は同属近縁種コマルケシゲンゴロウと酷似しており、確実な同定は雄交尾器を見る必要がある。池沼や湿地に生息する。成虫は水生動物の死骸等を食う。

分 布

北海道を除くほぼ国内全域に分布する。しかし、県内で記録された生息地は一か所の農業用ため池のみである。

生息を脅かす要因

池沼や湿地の消失、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。また、県内の生息地には侵略的外来種であるウシガエルとアメリカザリガニの生息が確認されており、それら外来種による生態系の破壊が懸念される。

参考文献 森・北山 (1993)、西原ら (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus acuminatus Motschulsky
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は平成 9 年と 27 年に本県から記録された。現在正式に記録された県内産標本は数個体のみである。

分 布

北海道を除くほぼ国内全域に分布する。しかし、県内での記録は数例のみである。

種の特徴

体長 2.0 ～ 2.5 mm の小型ゲンゴロウ類の一種。同属近縁種マルケシゲンゴロウと比較すると体型はやや細いが、外見での区別は困難。確実な同定は雄交尾器を見る必要がある。池沼や湿地に生息する。成虫は水生動物の死骸等を食う。

生息を脅かす要因

池沼や湿地の消失、侵略的外来種の定着、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 下野谷 (1999)、森・北山 (1993)、渡部 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○					

ヤマトセイボウモドキ

Cleptes japonicus Tosawa
ハチ目・セイボウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方の山地を中心に精力的に調査が行われたが、今回確認できたのは 1 地点のみ。県内では本種の生息環境が著しく悪化していると判断し、前回の絶滅危惧Ⅱ類より絶滅危惧Ⅰ類へランクアップした。

分 布

本州（青森、栃木、長野、石川、福井県）に分布。県内ではこれまでに大野市小池、赤兎山、田茂谷、前坂、平家平で記録されている。今回は大野市下山で確認できたのみ。

種の特徴

体長 6 mm 内外。山岳地帯の落葉広葉樹林に生息する。詳しい生態は明らかでないが、他のセイボウモドキと同じように、ハバチの幼虫に寄生すると考えられる。成虫は 6 ～ 9 月にかけて、アブラムシの甘露が落ちて黒ずんでいるクマザサ等の葉上に見られる。

生息を脅かす要因

山岳地での落葉広葉樹林の伐採、スギ、ヒノキ等の植林の拡大により宿主のハバチ類の個体数が減少すると、本種の生存にとって脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2004)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミヤマツヤセイボウ

Philoctetes monticola (Tsuneki)
ハチ目・セイボウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

既知の生息地を含め、精力的に調査が行われたが、今回の調査で確認できたのは 2 例のみ。もともと少なかった生息確認地点数がさらに減少したことから、依然本種の生存は危機的な状況にあると判断し、絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持した。

分 布

本州（青森、山形、宮城、福井県）に分布。県内ではこれまでに大野市赤兎山、谷山、福井市一乗谷で記録があった。今回は大野市大谷ならびに足羽山で生息が確認された。

種の特徴

体長 7 ～ 10 mm。ツヤセイボウ類の中では大型で、体全体が緑色を帯びた金属光沢を持つ。落葉広葉樹林に生息し、成虫は 6 ～ 7 月頃、アブラムシの甘露や落葉広葉樹の梢や若葉に飛来する。アリマキバチ類やイスカバチ類に寄生する。

生息を脅かす要因

落葉広葉樹の伐採、スギの植林による植生変化、薪や丸太等の置き場の減少が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2005a)、室田 (2007)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

アジアキタドロバチ

Allodynerus mandshuricus Blüthgen
ハチ目・ドロバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では2か所の生息地が知られる。今回は既知の生息地の1つと生息が期待される場所で調査が行われたが、本種は確認できなかった。既知の生息地は水害、シカの害や木の立ち枯れ等によって環境が著しく悪化しており、本種の生存も危機的な状況にある。

種の特徴

体長9.0～10.5mm。全身黒色で顔面に小さな黄斑を持ち、腹部第1節と第2節の後縁にそれぞれ1本の黄色の細い横帯斑紋がある。細い竹筒に巣を作る。メスの成虫は幼虫の餌として小型のガ類の幼虫を狩り集めると考えられる。

分布

本州（埼玉、福井、滋賀、兵庫、島根、長崎県）で記録されている。県内では、おおい町頭巾山と敦賀市内での記録がある。今回の調査では、本種を確認できなかった。

生息を脅かす要因

樹木の伐採が進み、森林環境が変化すると餌となる小型のガ類の個体数が減り、本種の生存にも影響を及ぼす。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、山元（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○											

シモヤマギングチ

Ectemnius shimoyamai Tsuneki
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

青森県で2、栃木県で1、本県で2、福島県で1個体の計6個体の記録があるのみ。今回確認されず、本県では30年以上記録がない。個体数の水準が極めて低く、絶滅の危機に瀕していると考えられることから絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持。

種の特徴

体長はオス8mm、メス10mm。頭部が非常に発達した全身黒色のハチ。雄は複眼の内縁が強く下方に狭まり、これが属の特徴の一つとなっている。山地の落葉広葉樹林に生息し、枯木に営巣する。県内では8月下旬と9月下旬に成虫の採集記録がある。

分布

本州（青森県、栃木県、福井県、福島県）で記録があるのみ。県内は大野市中洞と鳩ヶ湯で記録があるが、今回の調査では確認できなかった。1983年以降県内での記録はない。

生息を脅かす要因

ブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹林の伐採、スギの植林。

参考文献 青森県自然保護課（2010）、福井県自然保護課（2002）、菊池（2014）、栃木県自然環境課（2005）、栃木県立博物館

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アギトギングチ

Ectemnius martjanowi (F. Morawitz)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともと奥越地方の山地帯の限られた地点で採集記録があったが、今回確認されたのは1地点のみ。県内の生存は危機的な状況にあると判断し、絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持。本県のほか、埼玉県でも減少が報告されている。

種の特徴

体長9～14mm。オスは大型になるほど大顎が発達する。腹部の黄紋が目立つ。北海道と本州に分布し、本州では山岳域に生息する。詳しい生態は不明。

分布

県内では大野市小池、嵐、六本檜、勝山市法恩寺山、小原峠でこれまでに採集記録がある。このうち、今回本種が確認できたのは勝山市の小原峠1地点のみ。

生息を脅かす要因

山地の落葉広葉樹林の伐採等が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、室田（2002）、埼玉県みどり自然課（2008）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

コムカシハナバチ

Colletes perforator Smith
ハチ目・ムカシハナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種が生息する河川敷や砂浜海岸で2年にわたり徹底した調査が行われたが確認できなかった。県内での生息は非常に厳しい状況にあると判断される。

分布

本州、九州、対馬に分布。県内では三里浜、勝山市中島、下荒井、大野市花房、森目、麻生島、唯野等海岸地域と九頭竜川流域で記録があったが、今回は確認できなかった。

種の特徴

体長 10 mm弱。日本産ムカシハナバチの中では最も小型。胸部は黄褐色の毛で覆われ、腹背節の後縁には白色の毛帯がある。砂浜海岸や河川敷に生息し、9月中旬～10月にかけて成虫がみられる。地面に穴を掘って巣を作り、花粉や蜜を集めて幼虫を育てる。

生息を脅かす要因

海岸、河川敷の開発が減少の主要因である。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○				○	○	

ホシチャバナセセリ

Aeromachus inachus inachus (Ménétrès)
チョウ目・セセリチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内で記録があるのは3地点(2メッシュ)と非常に限られており、ここ数年確認されていない。全国的に近年記録があるのは21県にのぼるが、生息の確認されている地域の多くで絶滅かそれに近い状態にある。本県の生息地も非常に危機的な状況にあると考えられる。

分布

本州、対馬に分布。県内ではあわら市鎌谷、清滝と小浜市から比較的最近の記録がある。1933年には旧金津町細呂木でも採集されているが、再確認はされていない。

種の特徴

小型。表は黒褐色で、前翅の中室端に小さな白点、外中央に白点列がある。後翅は無紋。裏面は黄褐色で、白斑列がある。通常山地では7～8月、低地では6～7月と8～9月に成虫が現れる。人為的に管理されたススキ草原や疎林等に生息し、イネ科のオオアブラススキを食草とする。

生息を脅かす要因

各種開発、植林、圃場整備によって生息地が消失するのに加えて、里山や草地の管理放棄によって良好な草地環境が失われていることが本種の減少の主要因と考えられる。

参考文献 福井県博物館 (1938)、福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○								○				

クロシジミ

Niphanda fusca (Bremer & Grey)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

全国各地で減少が著しい。県内ではかつては安定した生息地があったが、林道舗装等各種開発や採集圧により激減した。絶滅の危険性は高いままであり、絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市内に生息地があるが、そのうちのひとつでは特に個体数の減少が著しい。

種の特徴

小型。オスの翅表は暗紫色の光沢があり、メスでは黒褐色、白青色の鱗粉が出るものもある。メスはアブラムシ等の寄生した付近の草木に産卵する。幼虫はアブラムシの甘露をなめて成長し、3齢幼虫になるとクロオオアリの巣に運ばれて、アリから餌を与えられる。成虫は6～8月に出現する。

生息を脅かす要因

林道舗装等各種開発、草地や雑木林の草刈の放棄等による環境変化が脅威となる。また、県内の生息地に多くの愛好家が集中した結果、採集圧も大きな脅威となっている。最近では成長に重要なクロオオアリの減少も影響していると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ネアカヨシヤンマ

Aeschnophlebia anisoptera Selys
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内で安定的に本種が確認できる生息域は嶺北地方の1地域のみ。更に外来種侵入、植生遷移等により生息環境悪化が懸念される。

種の特徴

体長75～88mm。翅の付け根が橙色、腹部にくびれがない寸胴の大型のヤンマ。6～9月に出現。空間に網を張る造網性のクモを狩り、捕食する習性がある。幼虫はヤンマ科で唯一、腹部第8～9節に背棘がある。丘陵地の樹林に囲まれた抽水植物の繁茂する浅い湿地に生息。

分布

本州、四国、九州に分布するが局所的である。県内ではこれまでに福井市、あわら市、敦賀市、小浜市、若狭町で記録があり、今回は嶺北1点、嶺南1地点で確認されている。

生息を脅かす要因

生息範囲が限られているうえ、ヨシの過繁茂、植生遷移の進行、さらにアメリカザリガニの侵入による直接的捕食が追い打ちをかけており、植生管理、アメリカザリガニ駆除の対策が必要である。

参考文献 尾園ら(2012)、齊藤(2005)、和田・和田(2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○		○				○

カトリヤンマ

Gynacantha japonica Bartenef
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で近年生息地が複数箇所確認されているが、現存する産地が非常に限られ、安定して個体が確認できるのは1か所しかない。

種の特徴

体長66～77mm。複眼が大きく腹部が強くくびれた細身の中型のヤンマ。8～11月に出現。ヤンマ科の多くが幼虫で越冬するが、本種は卵で越冬し孵化後3～4ヶ月で急速に成長し成虫になる。平地～丘陵地の樹林内、林縁の湿地、浅い水溜りに生息。

分布

本州、四国、九州に分布。今回、県内では敦賀市中池見湿地、嶺北地方で確認されている。

生息を脅かす要因

産地が限られているうえアメリカザリガニの生息水域周辺への拡大、侵入また植生遷移が進んでおり植生管理、アメリカザリガニの駆除の対策が必要である。

参考文献 尾園ら(2012)、和田(2015)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○		○			○				○	○	

マイコアカネ

Sympetrum kunckeli (Selys)
トンボ目・トンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息地の減少。

種の特徴

体長29～40mmのアカトンボ。成熟個体は額が淡い青色ないし緑色となる。平地の抽水植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は7～11月に出現する。

分布

国内では北海道から九州、佐渡島、奄岐等の離島に分布する。県内では、かつて安定した生息地であった北潟湖等で近年激減し、確実に見られる生息地がほとんどない状況である。

生息を脅かす要因

ブラックバスやアメリカザリガニ等の外来種の増加が脅威となる。残存生息地の調査が急務である。

参考文献 尾園ら(2013)、和田・和田(2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○					○		○				○

エゾエンマコオロギ

Telegryllus infernalis (Saussure)
バッタ目・コオロギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知産地を調査したが、確認できなかった。県内での既知生息地が三里浜だけであり、30年近く確認されていないことを考慮し、絶滅の危険性が高まっていると判断した。

分布

北海道、本州に分布し、和歌山県紀ノ川が現在の南限。県内では三里浜でのみ記録がある。

種の特徴

体長20～33mm。県内でふつうにみられるエンマコオロギに大変よく似ており、形態的には頭部の眉斑の違いで区別される。卵越冬で秋に成虫が出現する。北海道では耕作地等の草地にいるが、本州では河川下流～中流の礫質の河原等に生息する。

生息を脅かす要因

三里浜周辺の植生環境の変化や、マツ林への薬剤散布の影響を受けていると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、村井・伊藤 (2011)、日本直翅類学会 (2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

イトアメンボ

Hydrometra albolineata (Scott)
カメムシ目・イトアメンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本州以南の日本全土に分布するが、環境の悪化により急速に分布域、個体数を減少させている。本県では1998年の記録以降採集されていない。

分布

急速に分布域、個体数を減少させている。県内ではあわら市、南越前町、敦賀市の3か所で記録があるものの、1998年以降採集されていない。

種の特徴

体長11～14mmで、体は細長く、頭の先端部は肥大している。体色は暗褐色。池沼、水田、河川等の水際の雑草間に住み、水面を歩くこともできる。近縁種にヒメイトアメンボがあり、混同される可能性もある。

生息を脅かす要因

水田、河川の整備による水辺環境の悪化。農薬等の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○					○				

コオイムシ

Appasus japonicas Vuillefroy
カメムシ目・コオイムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

食物連鎖の上位に位置し、個体数が減少しやすい性質をもともと備えていることに加え、県内の生息地は極めて局地的である。

分布

琉球列島を除く国内全域に分布する。しかし、県内に残る生息地は大野市六呂師高原等極めて限られている。

種の特徴

体長17～20mmで近縁種オオコオイムシよりもやや小型であるが、大きさだけでオオコオイムシと区別するのは危険である。国内他地域では平地の湖沼に生息することが多いが、県内の最大の生息地は山麓にある。他の水生動物類を捕食する。

生息を脅かす要因

池沼の埋め立てやアメリカザリガニ、オオクチバスといった外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 菊部・高桑 (1994)、川合・谷田 (2005)、内山 (2005)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○				○					○				○	

昆虫類

キイロコガシラミズムシ

Haliphus eximius Clark
コウチュウ目・コガシラミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1992年の敦賀市中池見での記録が県内で唯一であり、その後20年以上記録がない。今回は県内で広く調査が行われたが、本種の確認はできなかったことから、県域では絶滅の危険性が高まっていると判断した。

種の特徴

体長3.2～3.6mm。体背面は黄褐色。上翅には点刻以外に暗色の紋がない。水田や水生植物の多い湿地、池沼に生息し、幼虫はシャジクモ類より吸汁する。成虫は雑食性とされる。

分布

本州～九州と与那国島に分布。県内では敦賀市中池見で1992年10月に2個体が採集されている以外に記録がない。

生息を脅かす要因

湿地の乾燥化や水田の放棄による草地化等が脅威となる。また、アメリカザリガニの侵入による環境の悪化も脅威になっていると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（1998）、環境省（2015）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ルイスツブゲンゴロウ

Laccophilus lewisius Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では戦前に記録があるのみ。小型種であるが、今回精力的に水生昆虫の調査が行われたにも関わらず確認できなかったこと、近隣の石川県、富山県で減少していることを考慮し、本県でも絶滅の恐れが高まっていると判断した。

種の特徴

体長3.9～4.7mm。体型は逆卵形で幅広い。上翅は淡黄褐色～黄褐色で、6～7条の暗褐色～黒色の輪郭を持つ縦条が並列するが、不規則に断続、合着する。低地の池沼、湿地、放棄水田等に生息し、成虫は4～10月に確認されている。詳しい生息は不明である。

分布

本州～九州。県内では旧芦原町内に戦前の記録があるのみ。

生息を脅かす要因

近年の生息記録が全くないため、生息の確認が急務である。本種の生息環境を考えると、開発による池沼、湿地の改変や消失、放棄水田の植生遷移、農薬等による水質汚染等が脅威となると考えられる。アメリカザリガニ等侵略的外来種の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、森・北山（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

オオミズスマシ

Dineutus orientalis (Modeer)
コウチュウ目・ミズスマシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内ではあわら市内に比較的最近の記録があるが、今回の調査では確認できなかった。これらの生息地には侵略的外来種が多くみられ、本種の生息環境は悪化していると考えられる。

種の特徴

体長7～12mm。体型は長楕円形で、上翅側縁後方に棘状突起を備える。背面は光沢のある黒色で、前胸背板や上翅側縁は黄色く縁どられる。河川の淀み、水田、池沼等に生息し、繁殖は主に池沼で行う。

分布

北海道～沖縄県に分布。県内では、旧坂井町兵庫村、福井市、旧上志比村竹原、小浜市遠敷に古い記録があるほか、あわら市東山、北潟、福良池に比較的新しい記録がある。

生息を脅かす要因

ため池や河川の改修、農薬等による水質汚濁が本種の生存に影響を与えていると考えられる。最近の記録があるあわら市北潟、福良池ではアメリカザリガニやウシガエル等侵略的外来種が侵入しており、本種への影響が懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○	○		○				○

ヒメケシゲンゴロウ

Hyphydrus laevis laevis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的に分布が局所的である。今回の調査では、坂井市でのみ生息が確認された。産地での個体数は多くない。今後、生息環境の悪化が懸念される。

種の特徴

体長 4.3～5.0 mm、体型は短卵型。暗色部が多く同属他種と比べ黒っぽく見える。池沼、放棄水田、湿地等の止水域に生息する。幼虫・成虫ともに肉食と考えられるが、詳しい生態は不明。

分布

国内では本州、四国、九州に局所的に分布する。本県では坂井市で確認された。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。これらに加え、マツノザイセンチュウ駆除のための薬剤散布地点が近く、影響が懸念される。外来種侵入・薬剤流入の防止、生息状況のモニタリング等の対策が望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ツヤハダクワガタ（関東地方～紀伊半島亜種）

Ceruchus lignarius monticola Nakane
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を含む9県でレッドリストに掲載されている。奥越のブナ帯で調査を行ったが確認できなかった。本県では奥越の非常に限られたエリアに生息するものと考えられる。

種の特徴

体長オス 12.1～22.0 mm、メス 11.8～16.7 mm。体型は筒型、体色は黒褐色～黒色で強い光沢がある。ブナ帯上部～針葉樹林帯の、標高の高いところに生息する。成虫は夏に活動し、灯火にも飛来する。幼虫は様々な樹種の褐色腐朽材を利用する。

分布

ツヤハダクワガタの1亜種。本州（関東地方～紀伊半島）に分布する。県内では大野市と勝山市の山地での記録がある。今回の調査では確認できなかった。

生息を脅かす要因

森林の伐採・林道の建設による森の乾燥化に加え、愛好家による採集圧等が脅威となる。保全に際して、まずは生息状況の現状を把握することが望まれる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、岡島・荒谷 (2012)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

オオクワガタ

Dorcus hopei binodulosus Waterhouse
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

里山の開発による生息環境の破壊と、商業目的の過剰な採集のために全国的に減少している。加えて、ペット放逐による遺伝子汚染のおそれも指摘されている。本県でも近年確実な生息情報がなく、生息環境は悪化していると考えられる。

種の特徴

体長オス 21～76 mm、メス 22～48 mm。黒色で体型は平たく幅広い。成虫は5～10月にみられる。樹液に集まるが、夜行性で日中は木の洞に潜んでいることが多い。灯火にも飛来する。

分布

北海道～九州、対馬等に分布。県内では福井市、大野市鳩ヶ湯での記録があるが、後者は疑問の余地が残る。最近あわら市、鯖江市内で採集されているが、天然個体か否かは不明。

生息を脅かす要因

里山の開発、過剰採集が驚異となる。加えて、飼育個体の逃亡や放虫された国内の他地域産の個体との交雑による遺伝子汚染が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、岡島・荒谷 (2012)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

ツノコガネ

Liatongus minutus (Motschulsky)
コウチュウ目・コガネムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に決して稀ではないが、牧場等重要な環境では激減している。本県では普通に観察されていた勝山市県営六呂師牧場において、近年は全く確認されなくなった。この現象は多くの糞虫類他種にも現れており、このまま推移すれば絶滅が懸念される。

種の特徴

体長約 10 mm、全体艶消しの黒色。背面はやや平らで、前胸に浅い縦溝がある。雄は頭部に長い 1 本角を持つ。山地や高原に生息し、初夏、動物の糞や時に死体に飛来する。

分布

北海道～九州に分布。県内では六呂師牧場でふつうにみられた。大野市（旧和泉村内）にも古い記録がある。最近では池田町で採れたという画像が公開されている。

生息を脅かす要因

牧場においては飼料に投与する駆虫剤等が糞虫類の成育を阻害するという報告が出ており、本県でも、その影響が懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、掘（2005）、
<http://tokorotennokimoti.blog113>

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

オオマグソコガネ

Aphodius quadratus Reiche
コウチュウ目・コガネムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に決して稀ではないが、牧場等重要な環境では激減している。本県でも多産していた勝山市県営六呂師牧場において、近年は全く確認されなくなった。この現象は多くの糞虫類他種にも現れており、このまま推移すれば絶滅が懸念される。

種の特徴

体長 10 mm 内外、全体やや光沢のある黒色、時に上翅は黄褐色。背面はやや平ら。本県で見られるマグソコガネ類の中では格段に大きい。山地や高原に生息し、初夏、動物の糞に飛来する。

分布

北海道～九州に分布する。県内では六呂師牧場で確認されていた。

生息を脅かす要因

牧場においては飼料に投与する駆虫剤等が糞虫類の成育を阻害するという報告が出ており、本県でも、その影響が懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、掘（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○			○		

ヨツボシマグソコガネ

Aphodius sordidus (Fabricius)
コウチュウ目・コガネムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に決して稀ではないが、牧場等重要な生息環境では激減している。本県でも多産していた勝山市県営六呂師牧場において、近年は全く確認されなくなった。この現象は多くの糞虫類他種にも現れており、このまま推移すれば絶滅が懸念される。

種の特徴

体長 5～8 mm、全体光沢のある黒色、上翅は黄褐色で肩と翅端に小さい計 4 紋を持ち、時に斑紋は消失する。同時に得られるマグソコガネに極似し、注意が必要。山地や高原に生息し、初夏と秋、動物の糞に飛来する。

分布

北海道～九州、屋久島に分布する。県内では六呂師牧場で多産していた。

生息を脅かす要因

牧場においては飼料に投与する駆虫剤等が糞虫類の成育を阻害するという報告が出ており、本県でも、その影響が懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、掘（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

ナカイケミヒメテントウ

Scymnus nakaikemensis Sasaji & Kishimoto
コウチュウ目・テントウムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では中池見湿地でしか採集されておらず、分布は局所的と考えられる。湿地環境に依存しているため、環境の変化、悪化による影響を受けやすい。今回の調査では確認されておらず、1999年の記録以降採集されていない。

種の特徴

体長 1.7～2.0 mm。小型で美しいヒメテントウである。クロスジヒメテントウに酷似するが、腹部第1節の腿節線が完全なことで区別できる。湿原のヨシやスゲに生息するという特殊な生態を持つ。

分布

本県では敦賀市中池見が唯一の生息地であり、本県以外では栃木県渡良瀬湧水池及び群馬県館林市で記録されている。分布は局所的であると思われる。

生息を脅かす要因

本県唯一の生息地である中池見湿地では、外来種の進入等による環境の悪化が心配される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、佐々治 (1998)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

キンイロネクイハムシ

Donacia japana Chûjô & Goecke
コウチュウ目・ハムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の生息地はあわら市（旧金津町内）に限られ、今回の調査でもあわら市内の2地点で生息を確認できたのみ。本種の生息地ではため池の改修や外来種の侵入が認められており、県内で本種の安定した生息地は非常に限られている。

種の特徴

体長 7.0～8.9 mm。体は全体に金銅色か金緑色。上翅に赤または青の縦条斑がある。県内では成虫は4月下旬～6月、9月下旬～11月初旬に確認されている。ため池や水路に生息。食草はミクリ類で、成虫はその葉を食するほか、スゲ類に訪花する。

分布

北海道、本州、九州に分布。県内では、あわら市（旧金津町）東山、鳥越、後山、熊坂で過去に記録があり、今回はあわら市後山、権世で確認された。

生息を脅かす要因

今回本種が確認されたあわら市後山のため池では、外来種が多くみられ、特にアメリカザリガニによるため池の植生破壊により本種の食草が消失することが心配される。既知生息地周辺もため池の改修や外来種の侵入がみられ、本種の生息環境は悪化している。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、林 (2012)、環境省 (2015)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

ザウターカギバラバチ

Taeniogonalos sauteri Bischoff
ハチ目・カギバラバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認生息地数は減少し、今回の調査で確認できたのは1地点のみ。詳細な生息環境がわかっていないことも本種の採集を困難にしている原因と考えられることから、現ランク維持とした。

種の特徴

体長 8～11 mm。体に黄・赤褐色のまだら模様を持つ美麗種。卵はヤナギやネム等の葉に産み付けられ、卵が葉と一緒に食べられることでチョウ目の幼虫の体内に入る。そのチョウ目の幼虫が次にスズメバチ類の餌になり、孵化したカギバラバチの幼虫はスズメバチ幼虫の体内に入り成長する。

分布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では、大野市朝日前坂、嵐、嵐口、谷山、美山町赤谷での記録がある。もっとも最近の記録は2000年に大野市大谷で採集された1メス。

生息を脅かす要因

農山村の過疎化が進み、木造家屋が少なくなって、寄主であるスズメバチの営巣場所が狭まったことや、除草剤、農薬の空中散布等が存続を脅かしていると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2000)、羽田ら (2007)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

アカヤマアリ

Formica sanguinea Latreille
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方の山地で記録があり、本県が日本海側の分布の南限にあたる。既知産地の多くは生息環境の大幅な改変をさほど受けない地域にあるが、一部では大幅改変のおそれもあり、20年以上記録がないことも考慮して絶滅のおそれが高まっていると判断した。

種の特徴

体長6～7mm。頭部は赤褐色ないし黒色。胸部、腹柄節、脚等は赤色。腹部は黒色。頭楯前縁中央はくぼむ。山地の草地等明るい環境に生息。単独で土の中に営巣することがあるが、多くはクロヤマアリ、ヤマクロヤマアリ等を奴隷狩りして混生する。

分布

北海道、本州。本県が日本海側の分布の南限。県内では勝山市取立山、大野市赤兎山、大長山、鳩ヶ湯等奥越地方の山地で記録があるが、今回の調査では確認できていない。

生息を脅かす要因

本種の生息域は、異種のアリ類が数多く生息しており、生存競争の厳しいところである。わずかな環境の変化でも本種の活動状況に大きな影響を及ぼしうる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日本産アリ類データベースグループ（2003）、寺山・久保田（2009）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

エゾアカヤマアリ

Formica yessensis Wheeler
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

既知産地の多くは生息環境の大幅な改変を受けにくい地域にあるが、一部では大幅改変の可能性もあり、20年以上記録がないことも考慮して絶滅のおそれが高まっていると判断した。全国的にみても、本州ではかつて多産した場所でコロニー数の減少や消滅が相次いでいる。

種の特徴

体長4.5～7mm。頭部、胸部、腹柄節・脚は黄赤褐色で、頭部・胸部・脚の一部はやや暗色。腹部は黒色で、基部は赤みがかかるとされる。森林に隣接した草原に生息し、本州では標高1000m以上の山地に生息地が限られる。枯草や針葉樹の落ち葉で1mほどの塚を作る。

分布

北海道、本州に分布。県内では大野市と勝山市の山地・山間部に生息が限られる。県内ではアカヤマアリより生息範囲は広いとされるが、今回の調査では確認できていない。

生息を脅かす要因

道路工事等で路面の拡幅、舗装、法面の掘削や法面のモルタル吹付工事等が行われていることにより生息が脅かされている。地球温暖化が本種の衰退の重大な要因になっている可能性も指摘されている。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、日本産アリ類データベースグループ（2003）、寺山・久保田（2009）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ケブカツヤオオアリ

Camponotus nipponensis Santschi
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内ではもともと広く生息が確認されていたが、各地で河川の改修工事が実施されており、河川敷を主な生息環境とする本種の生存基盤への圧力は強い。

種の特徴

体長4～5mm。体色は黒～黒褐色。頭楯前縁の中央部は凹む。胸部背面に20本以上のむち状の長い立毛を持つ。丘陵地～低山地に生息し、県内では山麓、河岸、湿地等の枯木での営巣が確認されている。

分布

本州の東北地方～中部地方にかけて生息。県内では大野市、勝山市、福井市、旧今庄町、敦賀市、旧三方町、高浜町の山地、湿地、河岸等で採集記録がある。

生息を脅かす要因

河川の改修工事や山麓の道路建設・改修工事が本種の存続に大きな影響を与える。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、日本産アリ類データベースグループ（2003）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○		○							○	○	○

ハグロフタオビドロバチ

Anterhynchium melanopterum Sk. Yamane
ハチ目・ドロバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回新たな生息地が見つかり、生息確認地点数は増加したが、各生息地での個体数は非常に少ない。生息環境は悪化しているが、危機的状況とは言えないことから、絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした。

種の特徴

体長 16 mm前後、翅は黒ずんでおり、頭楯上の横紋と前胸背板上の2小黄斑のほかは、頭胸部はほとんど黒色。胸部後半部は広く窪み、腹部に2本の橙黄色の帯状紋を有する。竹筒や甲虫類が作った朽木の坑道内に巣を作る。ガ類の幼虫を狩る。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市真名川の河原と今庄町日野川の川沿いで記録があった。今回、福井市白方町、大野市持掛谷、永平寺町山王、あわら市北潟東で新たに見つかった。

生息を脅かす要因

河川域の改修や里山付近の土地造成が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2005a)、室田ら (2008)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○		○			○			○	○

ヤドリホオナガスズメバチ

Dolichovespula adulterina montivaga Sk. Yamane
ハチ目・スズメバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともときわめて稀な種であり、今回の調査では確認されなかった。山岳地域に生息し、県内の既知生息地の一つは国立公園の特別保護地区に指定されていることから、本種の生息状況は危機的とは考えられず、絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした。

種の特徴

体長雌 16～18 mm、雄 14～18 mm。体は全体に黒色で、斑紋は象牙色ないし黄色。雌の頭楯上の黒斑が頭楯上縁に達しないこと、雄の後胸背板の白紋は退化して2小点であることから、近似種と区別できる。シロオビホオナガスズメバチに社会寄生し、働きバチを産しない。

分布

北海道、本州に分布。県内では大野市小池、三ノ峰、三面での記録がある。今回は大野市の山岳地帯を中心に調査が行われたが、本種の確認には至っていない。

生息を脅かす要因

山岳地帯での森林の伐採、林道の開発等が脅威となる。県内の既知生息地のひとつである大野市三ノ峰一帯は白山国立公園の特別保護地区に指定されており、開発等の心配はなく、本種の生息環境はある程度保存されていると期待される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、高見澤 (2005)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

フジジガバチ

Ammophila clavus japonica Kohl
ハチ目・アナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で生息が確認されたのは2地点のみ。うち、本種が確実に営巣をしているといえるのは1地点のみである。県内では絶滅の危険性が高まっている。

種の特徴

体長は雌 30～35 mm、雄 25～30 mm。雌は体が黒色で腹部は藍色を帯び、触角柄節の中央、脚の腿節・脛節及び腹柄第1・2節の一部が赤褐色。雄は腹柄の第2節の一部が赤褐色だが、ほかは黒色。低山地の裸地に営巣し、ウスムラサキクチバの幼虫を狩る。

分布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では旧芦原町、福井市、大野市、旧武生市、旧松岡町の低山地で記録があった。今回の調査ではあわら市北潟湖周辺で確認された。

生息を脅かす要因

山地の道路の舗装、土地造成等で営巣地が減少している。県内で本種が確実に営巣しているのはあわら市北潟湖周辺のみである。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、平嶋・森本 (2008)、環境省 (2015)、室田 (2005)、野坂・黒川 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○	○			○	○

タケウチギングチ

Crossocerus takeuchii Tsuneki
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

これまで、大野市内でのみ採集記録があったが、今回新たに福井市、越前町、敦賀市でも採集され、確認地点数が増加した。しかし、既知生息地では立枯木が伐り倒される等、生息環境が明らかに悪化している場所もあることから、絶滅危惧Ⅱ類のランクを維持。

種の特徴

体長約6mm。黒色で脚に黄色部が多い。口は銀色。クモを獲物として狩る。低地～山地に生息し、県内では9～10月に、アブラムシのついたクルミ林の下草や立ち枯れ木での採集記録がある。

分布

本県のほか、岐阜県、愛知県、兵庫県等に分布。県内では大野市内で記録があった。今回、敦賀市天筒山、金ヶ崎、越前町越知山、城山、福井市足羽山、文殊山で確認された。

生息を脅かす要因

生態の詳細は不明であるが、照葉樹林の立枯れ木に営巣すると推定されており、そのような森林の改変が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田ら (2005)、黒川 (2002)、室田 (2003)、室田ら (2008a)、室田ら (2009b)、高木ら (2009)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○									○	○

タイセツギングチ

Crossocerus varus Lepeletier de Saint Farageau & Brullé
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

生息確認地点数は減少した。山地性の種であり、人為的影響が及びづらいことを考えると危機的状況に瀕しているとは考えられず、環境省ランク、他県の指定状況も考慮して絶滅危惧Ⅰ類から絶滅危惧Ⅱ類にランクダウンした。

種の特徴

体長約6mm。全身黒色のハチ。赤土の露出した地面に営巣する。県内では8～10月にかけて営巣が確認されている。

分布

北海道、本州に分布。県内では勝山市小原と大野市六本檜での採集記録がある。今回の調査では、勝山市小原峠で本種を確認したが、六本檜では確認できていない。

生息を脅かす要因

山地の中で小さなハチが営巣できる裸地はごく限られている。登山道の拡張工事等により営巣地が消失する恐れがある。営巣地周辺のブナ・ミズナラ林の改変や、地表環境を大きく改変するような歩道整備が脅威となりうる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、室田 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ニトベギングチ

Spadicocrabro nitobei (Matsumura)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点数の増減なし。立枯木が減少し、山間部のやや朽ちた人家に営巣して生き延びている。現ランク維持。本県のほか、青森県、新潟県で減少が報告されている。

種の特徴

日本産ギングチバチの中でも大型に属し、体長は18mmに及ぶ。低山～山地に生息。枯木の虫孔に営巣し、幼虫のエサにゴマシオキシタバ、エゾシロシタバ、オニベニシタバやヤガ類の成虫を狩る。

分布

本州に分布。県内では嶺北、嶺南の数地点で記録があり、今回、大野市荷暮、福井市足羽山、文殊山、永平寺町福平峠、越前町上戸、笈松、小浜市久須夜ヶ岳等で確認された。

生息を脅かす要因

スギ植林のために落葉広葉樹林が伐採され、営巣場所となる立枯木が減少した。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田ら (2005)、羽田・井上 (2006)、環境省 (2015)、室田 (2002)、室田 (2015a)、室田ら (2008a)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○	○	○	○			○					○	○

キユビギングチ

Towada flavitarsus (Tsuneki)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点数は前回に比べてやや減少したが、今回新たに見つかった生息地もある。現ランクを維持。本県のほか、栃木県、埼玉県で減少が報告されている。

種の特徴

体長は5mmほど。体色は黒色だが、前胸、小楯板、脚は黄色。雑木林の枯木や薪積みで営巣し、ハエ目を狩る。巣穴の閉鎖にスギの樹脂を使うことが知られている。

分布

北海道と本州に分布。県内では大野市、永平寺町、越前町、若狭町、高浜町等に記録あり。今回は福井市足羽山、国見岳、文殊山、越前町越知山、敦賀市天筒山でも確認された。

生息を脅かす要因

極端なスギの人工林化や、土地開発等による営巣環境の改変が危惧される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2002)、羽田ら (2002)、羽田ら (2005)、羽田・井上 (2006)、環境省 (2015)、室田 (2001)、室田 (2003)、室田ら (2008a)、室田ら (2008b)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○				○			○						○	○

ニッコウツヤアナバチ

Alysson monticola monticola Tsuneki
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認地点数は前回と変化なし。前回のランクを維持。

種の特徴

体長6～7mmほど。近似種のハクサンツヤアナバチよりやや小型で、体の黄色紋が発達している。山地に生息し、涼しい登山道を選び、土の中に営巣することが知られている。ヨコバイ類を狩る。

分布

本州に分布。県内では大野市赤兎山、六本檜、中洞、巢原（平家平）で採集記録があり、今回は赤兎山以外では引き続き生息を確認できたほか、おおい町染ヶ谷でも採集された。

生息を脅かす要因

従来、奥越地方の山地の登山道付近で生息が確認されていた。このような山道はかつては各地にあったが、過疎化が進行し、車での交通が主流になるとこのような山道は荒れ果て、本種の生息できる環境は極端に減っている。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田ら (2002)、室田 (1998)、室田 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○														○	

コガタホオナガヒメハナバチ

Andrena loniceræ Tadauchi & Hirashima
ハチ目・ヒメハナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回調査時に比べ、確認地点数が増加した。全国的に本種をレッドリストに記載しているのは本県のみであることも考慮し、ランクダウンした。

種の特徴

体長約10mm。顔が細長く見えるハナバチ。里山的な環境を生息地とする。早春に成虫は出現し、地中に巣を作る。ウグイスカグラやツクバネウツギの花を訪花する。

分布

本州～九州に分布。県内では福井市、鯖江市、高浜町内で記録がある。今回は福井市大芝山、国見岳、越前町花立峠、小浜市久須夜ヶ岳、高浜町馬居寺等で確認された。

生息を脅かす要因

訪花植物の一つであるツクバネウツギは丘陵地～低山帯の雑木林の林縁や尾根伝いにみられる低木である。里山の開発や管理放棄による数化は訪花植物の消失を招き、本種の生存に影響を及ぼす。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、室田 (2015)、室田ら (2008a)、室田ら (2009)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○		○							○			○

ミドリコハナバチ

Halictus tumulorum ferripennis (Cockerell)
ハチ目・コハナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査時に比べ生息確認地点数は減少。生息環境は悪化していると考えられるが、本種をレッドリストに掲載しているのは本県のみである点も考慮してランクダウン。

種の特徴

体長約7mm。体はやや黒みがかった銅色光沢をもつ。近縁種のアカガネコハナバチとは、後頭部の形状から容易に区別できる。成虫は7～10月に出現。河川の砂地に穴を掘って巣を作り、花粉を集めて幼虫を育てる。

分布

北海道と本州に生息。本県は分布の南限。県内では大野市勝原、谷戸口、前坂、小谷堂等九頭竜川の中上流の河川敷に記録がある。今回は大野市小谷堂で引き続き確認された。

生息を脅かす要因

河川環境の改変が脅威となる。従来の生息地のうち、谷戸口は他所から運び込まれた土砂で埋め立てられ、前坂はキャンプ地となって本種の生息が認められなくなった。自然の砂地が残る河川敷の減少は、本種の存続を脅かす。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

タイリクハキリバチ

Megachile ligniseca (Kirby)
ハチ目・ハキリバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の山地を中心に調査が行われたが、今回は確認されなかった。生息状況についての情報は少ないが、本種をレッドリストに記載しているのは本県のみであることと、山岳域という比較的開発等の影響が少ない場所に生息している点を考慮してランクダウンした。

種の特徴

オスは体長12～14mm、メスは体長15～17mm。体の点刻は全体的に弱い。欧州で朽木に営巣することが報告されている。他のハキリバチのように木の葉を切り取って育室を作るものと考えられる。山岳域に生息する。

分布

北海道と本州（中部以北）に分布し、本州では稀。県内では大野市六本檜と谷山で記録がある。今回も奥越の山地を中心に調査が行われたが、本種の確認には至っていない。

生息を脅かす要因

山岳域での森林環境の改変が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

マイマイツツハナバチ

Osmia orientalis Benoist
ハチ目・ハキリバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともと県内で広く採集記録があり、今回は県内各地で精力的に調査が行われたが、生息が確認されたのは3地点のみであった。県内での本種の生息環境は急激に悪化していると考えられ、絶滅の恐れは高まっている。

種の特徴

体長は11mmほど。体は銅鉄様青色、腹部は特に青みが強い。体色は灰白色で、腹背の毛は短い。春季に出現し、カタツムリの空殻に営巣する。平地～低山地の果樹園等で活動し、レンゲ、ヒメオドリコソウ等に訪花することが報告されている。

分布

本州～九州に分布。これまでに県内で山地等を中心に、20地点以上での採集記録があるが、今回確認されたのは大野市平家平と下打波、上打波の3地点のみ。

生息を脅かす要因

本種の減少の要因として、宅地造成や土地造成、道路建設等によるカタツムリの減少が指摘されている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田ら（2002）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○		○	○	○	○					○	○	○

ゴマシジミ (八方尾根・白山亜種)

Maculinea teleius hosonoi (A. Takahashi)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

2014年、2015年と8月に三ノ峰で調査を行ったが、確認できなかった。1986年に剣ヶ岩付近で採集されて以来県内での記録はない。岐阜県南部でも近年確認されておらず、本種の生息域の縮小が懸念されている。

種の特徴

翅表は外縁の黒帯を除き青色で、黒斑が並ぶ。年1回、8月頃に発生。幼虫で越冬。食草はカライトソウやワレモコウで、幼虫は蕾を摂食後、クシケアリの一種の巣内に運ばれ、アリの卵・幼虫を食べて育つ。山岳地域の尾根部等の草地に生息する。

分布

本州中部の飛騨山脈や白山山系等の標高1,500m以上の山岳地域（富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県）に分布。県内では三ノ峰（剣ヶ岩周辺）で記録があるのみ。

生息を脅かす要因

生息地一帯は国立公園の特別保護地区で、生息環境は保全は保全されていると思われる。長期的には、気候変動による植生の変化等が懸念されるものの、近年の本種の生息地の縮小の直接的な要因は明らかにされていない。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、村田（1989）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ウラギンスジヒョウモン

Argyronome laodice japonica (Ménétrières)
チョウ目・タテハチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては嶺北地方を中心に割と広く確認されていたようであるが、今回確認できたのは大野市内の1地点のみ。草地の管理放棄等が原因となって、全国的に低地を中心に生息地が急激に減少しているようであり、本県でも絶滅の危険性が高まっていると判断した。

種の特徴

中型。翅表は橙色と黒のヒョウ柄模様。裏面は地色が赤褐色～黄緑色で、後翅中央部には線状の白斑がある。採草地、農地周辺、河川堤防、疎林等の草原に生息し、成虫は年1回6～7月に出現。夏眠した後、9月頃に再びみられる。食草はタチツボスミレ等スミレ類。

分布

北海道～九州に分布。県内では旧金津町、福井市、池田町、越前市、南越前町、大野市にいくつかの産地の記録があったが、今回の調査では大野市南六呂師で生息が確認されたのみ。

生息を脅かす要因

農地、採草地や河川堤防における草地の管理放棄によって好適な草原が失われたことが大きな減少要因である。また、多化性のツマグロヒョウモンの生息分布が北上し、食草が競合する為、年一化のヒョウモン類の減少につながっていることも要因として考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○			○	○			○	○

ツマジロウラジャノメ (本州亜種)

Lasiommata deidamia interrupta (Fruhstorfer)
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

崩壊防止等の工事によって崖の環境が失われたことに伴い、各地で減少している。県内では大野市内や南越前町内で記録があり、今回は勝山市内で新たな生息地が見つかったものの、確認地点数は激減した。調査不足ではあるが、絶滅の危険性は高いと考えられ、絶滅危惧Ⅱ類のランクを維持。

種の特徴

中型。表は黒褐色で前翅頂付近に白色の斑紋があり、亜外縁部には眼状紋がある。裏面はより明白な白帯がみられ、眼状紋も発達する。低山地～山地の露岩地に生息し、成虫は年2回、6月下旬～8月下旬に発生する。奥越地方の標高の高いところでは年1回の発生。食草はヒメノガリヤス等。

分布

種としては北海道、本州、四国に分布。県内では大野市平家平、勝原、伊勢、前坂、朝日前坂、小谷堂、下小池のほか、南越前町で記録がある。今回は勝山市法恩寺山で確認された。

生息を脅かす要因

県内の生息地のほとんどが道路脇の狭い崖や岩場で、崖の崩落防止の工事等による環境変化が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○							○	○	

ルリイトンボ

Enallagma circulatum Selys
トンボ目・イトトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に見ると本県が分布の南西限にあたる。本種の生息地は本州では局限されており、本県においても生息地は大野市内の4か所に限られる。

種の特徴

寒冷地の植生豊かな池沼に生息する北方系種。本州では比較的標高の高い地域に分布が限定されるが、石川県では標高約50mの低地に生息する例が知られる。大野市刈込池では成虫は6～9月に確認されている。幼虫で冬を越す。

分布

国内では北海道と福井・岐阜県以北の本州に分布する。県内では大野市小池、刈込池と南六呂師の溜池が生息地として知られていたが、今回の調査で大野市赤池でも見つかった。

生息を脅かす要因

県内最大の生息地である刈込池での生息は安定しているが、小池では環境変化に伴う減少が指摘されている。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

グンバイトンボ

Platycnemis foliacea sasakii Asahina
トンボ目・モノサシトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息確認メッシュ数は前回の調査時と変化はなく、南川の河川沿いに広く分布すると判断されたため前回の絶滅危惧Ⅱ類よりランクダウンした。ただし、生息地は人為的影響を受けやすい環境であり、近年の豪雨による洪水の影響もあるため引き続き注視が必要。

種の特徴

オスの中・後脚の脛節が白く大きく広がるのが特徴。平地～丘陵地の周囲に樹林がある抽水植物や沈水植物が豊富で、水質の良好な河川中流域、湧水や細流に生息する。成虫は5～8月頃に出現し、特に6月に多い。幼虫期間1年程度(1年1世代)で、幼虫越冬。

分布

宮城県以南の本州、四国、九州に局地的に分布する。日本海側では本県嶺南地方が分布東限。県内では小浜市、旧名田庄村の南川流域と、おおい町の佐分利川流域に生息する。

生息を脅かす要因

岸にツルヨシ等の繁茂する清流に生息しているため、植生が破壊され、水質の汚濁を伴う河川改修は本種にとって脅威である。また、近年の大雨による洪水等によって生息地が失われることも心配される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、尾園ら (2012)、和田・和田 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○												

アオハダトンボ

Calopteryx japonica Selys
トンボ目・カワトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

前回の調査時に比べ、確認メッシュは減少しているが、嶺南の河川沿いに広く分布していると考えられる。ただし、本種の生息地は人為的影響を受けやすい環境であり、引き続き注視が必要。

種の特徴

オスの翅が青藍色に輝く美しいトンボ。平地～丘陵地の抽水植物や沈水植物が豊富な、砂底の河川中流域に生息する。幼虫期間1年程度(1年1世代)、幼虫越冬。成虫は主に6～7月に出現する。

分布

本州、九州に分布。各地で見られるが、生息地は局限されている。県内ではこれまで敦賀市や、おおい町・小浜市の南川流域で採集記録がある。

生息を脅かす要因

清流に生息する種であるため、河川の水質悪化の影響を受ける。旧名田庄村の南川流域は従来本種が多く生息していたが、近年の洪水による河川環境の変化とその復旧のための河川改修の影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○								○			○

アオヤンマ

Aeschnophlebia longistigma Selys
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の産地で安定して確認されるが、外来種の侵入、生息環境が埋め立てや開発等人為的影響を受けやすく生息環境の悪化、個体数減少が懸念される。

種の特徴

体長 66～79 mm。腹部にくびれがなく寸胴、全身が鮮やかな黄緑色の中型のヤンマ。5～7月に出現。空間に網を張る造網性のクモを狩り、捕食する習性がある。平地～丘陵地の抽水植物の繁茂したやや水深のある溜池、湿地に生息する。

分布

北海道、本州、四国、九州に分布するが地域により減少が著しい。県内ではあわら市・北潟湖周辺、若狭町・三方湖周辺、敦賀市中池見湿地、坂井市三国町で確認されている。

生息を脅かす要因

ウシガエル、アメリカザリガニ、ブラックバス等肉食外来種の侵入、あわら市の生息地では溜池改修計画があり植生等に配慮した工法、外来種駆除、外来魚が持ち込まれないような対策が必要である。

参考文献 和田 (2015)、尾園ら (2012)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○					○		○			○	○

カラカネトンボ

Cordulia amurensis Selys
トンボ目・エゾトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息地が非常に限られる。今回の調査で新たな生息地が確認されたが、それを含めても県内の生息地は4か所(3メッシュ)と限られており、生息基盤は脆弱である。

種の特徴

全身が鈍い金属光沢のある暗緑色(唐金色)をした中型のトンボ。体長はオス 44～54 mm、メス 42～50 mm。山地の樹林に囲まれた池沼に生息し、高原の池塘でみられることもある。幼虫期間 2～3年程度(2～3年1世代)、幼虫越冬。成虫は6～8月に出現する。

分布

北海道と本州の東北・上信越・北陸の山岳地帯に生息し、福井県が分布南西限。県内では大野市赤池、小池、刈込池で生息が知られていたが、今回勝山市北谷町でも見つかった。

生息を脅かす要因

分布が限られているため、各生息地の保全が必要不可欠である。登山ブームで、いずれの生息地も登山客が増加しており、生息環境の悪化が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)、和田・和田 (2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

トラフトンボ

Epitheca marginata (Selys)
トンボ目・エゾトンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査時に比べて確認メッシュが増加し、新たに嶺南地方でも確認されたことからランクダウン。ただし、本種が多数生息する主要な生息地ではウシガエルやアメリカザリガニなど外来種が侵入しており、生存基盤は安定しているとは言えない。

種の特徴

体長オス 50～56 mm、メス 50～58 mm。黒色の地に橙褐色の斑紋がある。体色、斑紋とも雌雄でほとんど差がなく、成熟してもあまり変わらない。平地～丘陵地の抽水植物や浮葉植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は4月下旬～6月初旬に出現する。

分布

本州～九州にやや局所的に分布。県内では北潟湖周辺や三国町でこれまで記録があったが、今回の調査では福井市、若狭町でも新たな産地が見つかった。

生息を脅かす要因

北潟湖周辺の生息地では多くの個体が確認されているが、ウシガエルやアメリカザリガニ等の外来種が増加しており、その捕食圧や間接的な影響が懸念される。かつて記録のあった福良池ではコイ、ブラックバス等が増加しており、今回生息を確認することができなかった。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)、和田・和田 (2006)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○		○				○

エサキアメンボ

Limnporus esakii Miyamoto
カメムシ目・アメンボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県では1か所ですら採集されておらず、分布は局所的で、個体数も少ない。池沼でも挺水植物の間という環境に依存しているため、環境の変化、悪化による影響を受けやすい。

種の特徴

体長7～11mm。褐色の背面に白色の側面が鮮やかな美しいアメンボ。水草の多い池沼の挺水植物の間に住み、開けた水面には出てこない。

分布

北海道～九州に局地的に分布する、稀な種である。本県では敦賀市での記録があるだけで、個体数も少なく、生息場所も限られている。

生息を脅かす要因

湿地の環境悪化、外来種の進入等による環境の変化等により絶滅する可能性は高い。また、化学物質等による水質の悪化も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

シロヘリツチカメムシ

Canthophorus niveimarginatus (Scott)
カメムシ目・ツチカメムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

1938年の「福井県昆虫図譜」以来記録がなかったが、2005年、2015年に大野市内で確認された。本種が寄生するカナビキソウの減少とともに全国的にかなり減少しているとされ、本県でも注視が必要である。

種の特徴

体長6～8mm。体は黒色で側縁は黄白色に縁どられる。カナビキソウに寄生し、メス成虫には卵を保護する習性があることが知られる。本種が寄生するカナビキソウは日当たりのよい山野や芝地に生えたとされる。イネ科植物雑草間で得られることがあるという。

分布

本州～九州に分布。県内では戦前に永平寺町浄法寺村での記録があり、以後70年以上記録がなかったが、今回大野市佐開、円山で確認された。

生息を脅かす要因

寄主植物が生育する環境が減少したことが原因とされる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、林 (1983)、環境省 (2015)、平嶋・森本 (2008)、安永ら (1993)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○						○	

コカスリウスバカゲロウ

Distoleon contubernalis (MacLachlan)
アミメカゲロウ目・ウスバカゲロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回は三里浜や鷹巣海水浴場等の砂浜海岸を中心に調査が行われたが、確認できなかった。生息環境である河川敷や砂浜海岸は人為的影響を受けやすい環境であり、本種の生存基盤への圧力は強い。

種の特徴

体長27mm、前翅長33mm前後。海岸沿いや河川敷の砂地に生息し、成虫は7～10月にみられる。砂の中に20卵ほどを産み、幼虫は海岸のマツの稚樹の下等砂地に棲む。幼虫は徘徊型の生活をする。

分布

本州、四国、南西諸島に分布。県内では三国町山岸の九頭竜川河川敷で記録がある。福井市自然史博物館には福井市大窪町の砂浜海岸で採集された標本が所蔵されている。

生息を脅かす要因

砂地の広がる海岸や河川敷の開発ならびに砂地の減少が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、伊藤ら (1977)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

ホソハンミョウ

Cylindera gracilis (Pallas)
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

全国的に絶滅が危惧されている。福井県産昆虫目録（初版）以降、記録がない。

種の特徴

全長約 10 mm。肩がなく、やや細い。後翅が無く、飛べない。全体鈍い黒色、上翅の外縁に黄褐色の計 4 小紋を持ち、時に翅端中央に赤褐色の小紋を持つ。主に平地や里山に生息する。夏季、開けた露地で活発に歩行し、アリ等の小動物を捕食する。

分布

北海道～九州に分布している。本県では福井市文殊山が最後の産地となっている。現地の環境は激変しておらず、再確認が望まれる。

生息を脅かす要因

県内での記録が少ないため、状況は把握出来ていないが、他県等では露地の開発で生息環境が減少しており、生存が危ぶまれている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

セアカオサムシ

Carabus tuberculatus Dejean & Boisduval
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査では永平寺町で新たな生息地が見つかった。河川敷のように人為的な改変を受けやすい環境を生息地とし、分布が局地的であるために生息基盤は脆弱である。近隣の石川県、富山県、京都府でもレッドリストに掲載されていることも考慮し、準絶滅危惧のランクとした。

種の特徴

体長 16～22 mm。前胸背板は赤銅色で、個体によっては緑色を帯びることもある。上翅の側縁部は光沢のある赤銅色で、その内側は緑色を帯びるのがふつう。上翅には黒色の瘤状隆起列が認められる。成虫は春季～秋季に活動する。地表徘徊性。

分布

北海道～九州に分布。県内では過去に福井市舟橋、越前市味真野、池泉町、南越前町鋳物師での記録があり、今回は永平寺町内の九頭竜川河川敷で確認された。

生息を脅かす要因

河川敷の開発による自然環境の改変が脅威となる。本種は山地の草原や牧場周辺、畑地等に生息することもあり、草地開発、圃場整備も脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、石川県自然環境課（2009）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）、富山県自然保護課（2012）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○		○		○					○

クビボソコガシラミズムシ

Haliphus japonicus Sharp
コウチュウ目・コガシラミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

今回、小浜市内と越前町内で生息が確認された。このうち、小浜市内の生息地は個体数が安定しているが、遷移等で失われやすい休耕田・湿地である。湧水の多い湿地や小河川を主な生息地としており、県内の生息基盤が安定しているとはいえない。

種の特徴

体長 2.8～3.4 mm。上翅は肩部が側方へあまり広がらないので、体は楕円形を呈する。新成虫は秋に出現し、成虫で冬を越すという。県内では 4～11 月に成虫が確認されている。湧水の多い湿地や小河川を生息地とするが、県内ではため池でも確認されている。

分布

北海道～九州に分布する。県内では坂井市三国町、福井市、越前市、小浜市、大野市、敦賀市で記録があった。今回は小浜市と越前町内の湿地、ため池で確認された。

生息を脅かす要因

県内の生息地は水草の豊かなため池と湿地であり、開発や圃場整備による生息環境の改変に加え、湿地や休耕田の乾燥化、草地化が本種にとって脅威となる。また農薬の影響や水質汚濁の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然保護課（1998）、環境省（2015）、野一色・村上（2015）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○	○				○	○				○	○

マダラコガシラミズムシ

Haliplus sharpi Wehncke
コウチュウ目・コガシラミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

今回、新たに3か所で生息が確認され、2015年には既知産地の敦賀市中池見でも生息が確認されたが、本種が安定して採集される生息地はない。生息基盤は脆弱であると判断し、準絶滅危惧とした。

種の特徴

体長 3.0～3.5 mm。上翅の基縁には黒い横帯があり、上翅会合部にも黒条がある。水生植物が豊富で水深の浅い湿地や水田に生息する。幼虫は7～8月に確認され、シャジクモ類を食べることが明らかになっている。成虫は雑食性とされる。

分布

北海道～九州に分布。県内では敦賀市中池見と新保で過去に記録があり、今回は中池見のほか、あわら市後山、越前町茶原、越前市安養寺でも生息が確認された。

生息を脅かす要因

湿地の消失や乾田化、水田の放棄による草地化が脅威となる。また、あわら市の生息地周辺のため池にはアメリカザリガニ等外来種が侵入しており、水生植物の減少や水質の悪化も心配される。

参考文献 福井県自然保護課（1998）、環境省（2015）、野一色・村上（2015）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○	○				

クロゲンゴロウ

Cybister brevis Aube
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

かつては良好なため池では多くの個体が捕獲された。近年生息地の数自体に大きな変化はないようだが、生息場所1か所あたりの個体数の減少が顕著である。

種の特徴

体長 20～25 mm。一般に大型ゲンゴロウ類とよばれるゲンゴロウの中では最普通種とされるが、都市部では絶滅した都道府県も珍しくない。全身ほぼ黒色で、ため池や湿地に生息する。幼虫は捕食性、成虫は動物の死骸等を集まる。

分布

国内のほぼ日本全域に分布する。県内では従来嶺北～嶺南の各地で見られたが、姿を消した地域も多い。

生息を脅かす要因

ため池の消失、アメリカザリガニやオオクチバス等の侵略的外来種の定着、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 環境省（2015）、森・北山（1993）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○		○	○	○

ミズスマシ

Gyrinus japonicus Sharp
コウチュウ目・ミズスマシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

以前は身近な水域に普通に見られた種であるが、1960年代以降全国的に激減し、生息地は局地的になっている。本県では既存産地での生息は確認されたものの、他の水生昆虫同様存続基盤への圧力は強い。

種の特徴

体長 6.0～7.5 mm、体型は卵型。背面は黒色で弱い金属光沢がある。低地～山地の池沼、水田、河川の淀み等に生息する。水面を群泳し、水面に落ちた昆虫等を捕食する。

分布

国内では北海道～九州まで広く分布する。今回の調査では、越前町、福井市、大野市、勝山市で本種の生息を確認できた。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。本県での産地は限られ、今後上記要因により容易に消滅する可能性がある。今回調査した産地では、アメリカザリガニが侵入している所とブルーギル、ブラックバスの生息地と隣接する所があった。

参考文献 環境省（2015）、佐藤（1977a）、佐藤（1977b）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○	○	○		○	○	○

オシマヒメテントウ

Nephus oshimensis Sasaji
コウチュウ目・テントウムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、坂井市雄島と福井市の福井大学構内（1998年）より記録がある。今回、基準産地である坂井市雄島にて複数回調査されたが、確認できなかった。日当たりのよいササ群落に特異的に生息するため、生息基盤は脆弱と判断できる。

種の特徴

体長 1.4～2.0 mm。地色が黒色の小型のヒメテントウで、上翅各翅に1つの淡色赤紋を有する。触角、口器が橙褐色で、雄の前胸背板に淡色部があること等で、近縁の種と区別できる。日当たりのよいササの群落に生息する。

分布

本州に分布するが、少ない。県内では、坂井市雄島と福井市の福井大学構内でのみ確認されている。

生息を脅かす要因

生息域は非常に限られており、生息地における環境整備等でササ群落が刈り取られてしまうと、存続基盤を失うこととなる。下草刈り等の整備を行う場合でも、貴重な生物の生息地になっていないか等の確認が必要である。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、坂本（1999）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

ガマクスイ

Telmatophilus orientalis Sasaji
コウチュウ目・クスイムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

あわら市舟津、敦賀市中池見より記録があったが、あわら市舟津では埋立てにより生息地が失われた。今回の調査で、新たな生息地（あわら市北潟湖）が確認されているが、生息域は限られており、また、ガマの穂に特異的に生息するため、存続の基盤は脆弱である。

種の特徴

体長約 2 mm の、褐色で卵型の小さな甲虫である。節第 2・3 節が前下方に伸長することによって他のクスイムシ類から区別される。ガマの穂に特異的に生息するという生態的特徴を持つ。

分布

本州に分布。本県では、敦賀市中池見、あわら市北潟湖の湿地のガマ群落に生息している。

生息を脅かす要因

湿地のガマの穂に特異的に生息し、かつ生息域も限られているため、生息地の湿地の埋め立てやガマ群落の消失が、生息を脅かす要因となる。ガマ群落をはじめとする湿地環境の慎重な保全が必要である。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○				

ヨツボシカミキリ

Stenygrinum quadrinotatum Bates
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧 I B 類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅が危惧されている。本県でも 1995 年以降の記録がない。かつてはクリの花等に普通に観察されたが、近年は全く確認できない。

種の特徴

体長 10 mm 内外。全体やや光沢のある黄褐色。上翅は中央部が暗色で明るい計 4 紋を持つ。平地～低山に生息し、初夏、各種の花に飛来し、特にクリの花を好む。

分布

北海道～九州、奄美諸島に分布する。本県では、1995 年のおおい町虫鹿野での記録が最も新しく、そのほか里山を中心にかつては広く分布が確認されていた。

生息を脅かす要因

要因が判明していない。華奢な種類であるため、各種薬物の散布に弱いかもしれない。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○		○			○					○	

オガサワラチャイロカミキリ

Comusia testacea (Gressitt)
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、坂井市雄島にて1988年に記録されて以降は採集されておらず、今回の調査でも確認されていない。常緑広葉樹林に生息するが、生息域が非常に限られていることから、生存基盤は脆弱と考えられる。本県のほか、京都府、高知県、山口県でレッドデータブックに記載されている。

種の特徴

体長約9mm。黄褐色、頭・前胸・触角基半は赤みを帯びる。前胸背板後半に3小隆起をもつ。寄主植物はマルバヤブニッケイ、ホソバタバ等。南方系の種で、暖流に乗り島嶼に限られたような分布をしている。

分布

本州（本県）、対馬、京都府冠島、四国、九州、平戸島、屋久島、琉球、小笠原に分布。本県の雄島は分布北東限である。

生息を脅かす要因

本県で唯一の生息地である雄島は国定公園に指定されており、環境も安定しているが、寄主植物である常緑広葉樹林が社叢林の改変等により失われることが、生息を脅かす要因となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、林ら（1984）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

オキナワシリアゲコバチ

Leucospis sinensis Walker
ハチ目・シリアゲコバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査時に比べ確認地点数は増加したためランクダウン。しかし、薪積みの減少等によって本種の寄主であるハキリバチ類は減少しており、生息基盤は安定しているとは言えない。今後、生息数が減少する可能性もある。

種の特徴

体長約10mmで、体色は黒色に黄斑を伴う。雌は産卵管を背面に背負っており、後脚腿節が大きく膨らんでいる。農山村の薪積みや材木置き場に生息。ハキリバチ類の巣の外から、産卵管を挿入して藪の中に産卵する。県内では6～9月に成虫が確認されている。

分布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では大野市、あわら市、福井市、三国町、敦賀市、高浜町に記録があった。今回、福井市足羽山、越前町、池田町、永平寺町等で記録追加。

生息を脅かす要因

山村での薪積みが見られなくなることに伴い、本種が寄生するハキリバチ類が造巣場所を失って減少している。

参考文献 藤丸（2014）、福井県自然保護課（2002）、羽田（2001）、羽田ら（2005a）、黒川（2002）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）、室田ら（2009）、野坂・黒川（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○	○		○	○	○		○		○	○	○

ツネキアリバチモドキ

Myrmosa mongolica tsunekii Haneda
ハチ目・アリバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査時に比べ確認地点数が減少した。山道等の適切な管理が行われなくなったことにより営巣地が失われる等、本種の生息基盤への圧力は高まっている。奥越地方の山地に分布が限られることも考慮し、現ランクを維持。

種の特徴

オスは体長約10mm、全体が黒色で翅がありよく飛ぶ。メスは5mm弱で体の大部分が赤褐色。翅がなく、アリに似て地上を歩き回る。山地に生息し、成虫は7月下旬～9月下旬に登山道の路上に見られる。地中に巣を作る小型アナバチ類に寄生すると考えられる。

分布

本州（岩手、福島、栃木、群馬、長野、石川、福井県等）の山地に分布。県内では大野市内の山地帯で記録があり、今回は既知産地の福井市小池、勝山市小原峠で確認された。

生息を脅かす要因

山仕事に従事する人が激減し、山の小道の下草刈りや枝打ち等適切な管理が行われなくなったことで、本種の活動に適した日照と営巣地が失われた。登山道の大幅な補修、舗装や車の乗り入れに本種の寄主であるアナバチ類の営巣地がなくなると、本種の存続にも影響を与える。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

アメロオオアリ

Camponotus devestivus Wheeler
ハチ目・アリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内のもともとの産地は海岸周辺の自然林。生息環境は開発等で部分的に悪化しているが、今回新たな生息地も確認され、嶺南を中心に広く生息している可能性があることからランクダウン。

種の特徴

体長7～10mm。頭部、腹部は黒褐色、胸部、腹柄節、脚は黄褐色。頭部は縦に細長く、頭楯前縁は直線的。触角は細長い。腹柄節は横から見て前後に厚く、前縁と後縁が非対称な三角形。県内では海岸沿いの林に生息しており、枯れ枝や幹の腐朽部に巣を作る。

分 布

本州～九州に分布。県内では越前町越前岬、敦賀市立石岬、美浜町、小浜市久須夜ヶ岳、高浜町青葉山で記録があった。今回、高浜町内から新たに2か所生息地が確認された。

生息を脅かす要因

海岸沿いの照葉樹林の開発による消失等が本種の生存にも影響を及ぼしうる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、日本産アリ類データベースグループ (2003)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○	○	○	○										

フカイオドロバチ

Rhynchium quinquecinctum fukaii Cameron
ハチ目・ドロバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査で福井市を中心に鯖江市、敦賀市等から新たな生息地が確認された。海岸や河川敷等人為的な改変を受けやすい環境を好み、生息基盤は安定しているとは言えないため準絶滅危惧とした。

種の特徴

体長20mm内外。体は黒色だが、頭部、胸部の大部分、腹部各節の後縁、脚の大部分は赤褐色。海岸沿い～河川敷、低山地に生息し、竹筒中に泥の仕切りをして営巣する。幼虫の餌として、数種のメイガ類の幼虫を狩ることが知られる。

分 布

本州～九州に分布。県内では福井市三里浜、大野市秋生、小浜市西津、高浜町白浜で記録があった。今回、福井市内、鯖江市、敦賀市で新たな生息地が確認された。

生息を脅かす要因

海岸、河川は人為的な改変の影響を受けやすい環境であり、海岸開発や砂浜への車の乗り入れ、河川改修等が本種の生存に影響を与えうる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2003)、羽田ら (2000)、平嶋・森本 (2007)、黒川 (2009)、室田 (2003)、陶山・陶山 (2010)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○		○	○				○	○			○		○	○

フクイアナバチ

Sphex inusitatus Yasumatsu
ハチ目・アナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で嶺北地方には広く分布していることが確認されたが、嶺南地方では確認地点数が減少した。人家近くに営巣するハチであり、生息基盤が脅かされやすいことと京都府、鳥取県、岡山県、広島県では減少が報告されている点を考慮し準絶滅危惧のランクを維持した。

種の特徴

体長30mm前後、体全体が黒色で顔面も黒い長毛で覆われる。山道の道路脇、人家の庭や空き地等の地中に営巣し、幼虫のエサとしてハネナシコロギスを狩る。

分 布

本州（新潟県、福井県、京都府、鳥取県、岡山県、広島県）に分布。県内では12市町の海岸近く～中山帯まで広く記録があり、今回、鯖江市、越前市で新たに確認された。

生息を脅かす要因

山道の大がかりな補修、人家の庭のコンクリート舗装により、本種の営巣適地が失われる。本種が餌として狩るハネナシコロギスは雑木林の樹上に生活するため、雑木林の開発等による減少も本種の存続を脅かす要因となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (2007)、羽田ら (2001)、羽田・下野谷 (2000)、環境省 (2015)、室田 (2007)、室田ら (2008a)、室田ら (2008) など

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

クチキトビケラ

Asotocerus nigripennis Kuwayama
トビケラ目・アシエダトビケラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

近畿地方では池や湿地等の生息地が開発によって消失しているとされる。県内でも今回の調査では確認できておらず、1997年以来記録がない。県内での生息域は局限されていると考えられる。

種の特徴

体長 15 mm前後、開張 45 mm前後。体色は黒褐色。前翅、後翅ともに黒褐色で明瞭な斑紋はなく、半透明。翅形には性的 2 型があり、オスの前翅は細長く先端はやや尖るが、メスでは尖らない。山地溪流や湿地の細流に生息し、成虫は 5～7 月に出現。幼虫は小枝を穿った非常に特異な筒巣を作る。

分 布

本州、九州に分布。県内では大野市下庄村での戦前の記録と、敦賀市池ノ河内での 1995 年の記録があるのみ。

生息を脅かす要因

池沼開発、湿地開発、溪流の水質汚染が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、平嶋・森本 (2008)、環境省 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○										○	

ハマゴウノメイガ

Aglaopus albipennis (Inoue)
チョウ目・ツトガ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：— 【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では三里浜のみで記録がある。海浜のハマゴウ群落に依存した種であり、砂浜海岸は人為的影響を受けやすい環境であることから、存続基盤への圧力は強い。石川県で絶滅危惧 II 類、京都府で要注目に指定されている。

種の特徴

開張 18 mm前後。前翅、後翅はやや光沢のある白色で、横線は淡灰黒色。前翅前縁は灰黒色を帯びる。成虫は 7 月下旬～8 月に出現。幼虫はクマツヅラ科のハマゴウの花部を食べ、石川県では 7 月中旬～9 月上旬にみられるという。

分 布

本州～九州、三宅島に分布。県内では 2000 年に初めて三里浜でみつきり、2014 年、2015 年にも同地域で確認されている。

生息を脅かす要因

海浜のハマゴウ群落に依存した種であり、海岸開発や、砂浜への車の乗り入れ等が脅威となる。

参考文献 石川県自然環境課 (2009)、京都府自然環境保全課 (2015)、富沢 (2000)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

スジグロチャバネセセリ (北海道・本州・九州亜種)

Thymelicus leoninus leoninus (Butler)
チョウ目・セセリチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

北海道では近年分布を拡大しているようだが、そのほかの地域では減少傾向が大きく、特に本州の関東、中部、中国及び九州では減少が著しいという。本県では大野市内に記録があり、今回の調査でも確認されたが、もともと少なかった個体数がさらに減少している。

種の特徴

小型。表は黒褐色に橙色の斑紋が広がる。裏は一樣に黄褐色で、翅脈上に黒条が目立つ。草原や樹林が混在する疎林や林縁部に生息し、成虫は年 1 回、7～8 月頃にみられる。食草はイネ科のヤマカモジグサやカモジグサ等。

分 布

北海道、本州、九州に分布。県内ではこれまで大野市内の溪流沿いの狭い草草が生息地として知られていた。今回も大野市内で生息が確認されたが、生息数が減少している。

生息を脅かす要因

管理放棄等により草原環境が森林化したのが明確な減少要因とされる。一方、以前と環境がさほど変化していなくても本種が減少している場所もあり、この地点での減少原因は定かではない。

参考文献

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ギフチョウ

Luehdorfia japonica Leech
チョウ目・アゲハチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

太平洋側で減少が著しい。東京都、和歌山県では絶滅。県内では全域に広く分布しており、発生個体数も安定しているが、近隣の京都府や滋賀県ではシカの増加に伴う植生の変化による減少が指摘されており、本県でも嶺南地方を中心に今後の動向を注視する必要がある。

種の特徴

小形のアゲハチョウで、黄白色と黒の縞模様。後翅に赤色や青色の斑紋がある。低地～山地の落葉広葉樹林、特に管理のされた里山的环境を生息地として好み、成虫は年1回、低地では3月下旬～4月下旬、山地では4月下旬からみられる。食草はウマノスズクサ科のカンアオイ。

分布

本州特産種。県内では全域に広く分布しており、嶺北では特に多く発生個体数も安定している。今回の調査では越前町や高浜町内等で新たな生息地が見つかった。

生息を脅かす要因

管理放棄等による里山環境の悪化、各種開発が脅威となる。愛好家の中でも特に人気種であり採集圧も影響大だが、近年ではシカによる植生の変化、食草の被害によって滋賀県や兵庫、京都府で本種が激減していることも報告されており、特に嶺南地方を中心にシカの影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課(2002)、環境省(2015)、京都府自然環境保全課(2015)、日本チョウ類保全協会(2012)、白水(2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ヒサマツミドリジミ

Chrysozephyrus hisamatsusanus hisamatsusanus (Nagami & Ishiga)
チョウ目・ジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に産地は限られており、本種を絶滅危惧種に指定する自治体も多い。県内では南越前町、敦賀市、小浜市で記録があるが、今回は南越前町で確認できたのみであり、その生息地でも林道整備による産卵木の伐採等が報告されている。

種の特徴

小型。オスは翅表が深い緑色に輝き、外縁黒帯は前後翅とも太い。メスでは褐色の地に青紫色と赤色の斑紋がある。裏は濃褐色、後翅中央の白帯はV字状。低地～山地の照葉樹林、落葉広葉樹林に生息し、幼虫の食樹としてウラジロガシのほかアラカシ、コナラ、ミズナラ、ブナが知られる。

分布

本州～九州に分布。県内では南越前町、敦賀市、小浜市で記録がある。

生息を脅かす要因

南越前町の生息地では、ウラジロガシ以外からもたくさんの卵を確認できた時期があったが、林道整備等でそれらが伐採されて数が減っている。

参考文献 福井県自然保護課(2002)、日本チョウ類保全協会(2012)、白水(2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○		○									

オオムラサキ

Sasakia charonda charonda (Hewitson)
チョウ目・タテハチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では多産地といわれるほどの生息地はないが、割と広く分布が確認されている。全国的に本種が好むような条件の良い雑木林は開発や管理放棄により失われており、本県でも今後の動向を注視する必要がある。

種の特徴

大型。表は黒褐色で、オスでは基半部が青紫色に輝く。中央部に白斑が目立ち、垂外縁と外中央部に黄白色の斑列が並ぶ。裏は淡黄色～銀白色。里山の落葉広葉樹林や河畔林に生息し、成虫は年1回、6月下旬～7月下旬に出現。幼虫はエノキの葉を食べ、成虫はクヌギ等の樹液に集まる。

分布

北海道～九州に分布。県内でも薄く広く分布している。今回の調査では、福井市末町、大野市下大納、嵐谷、南六呂師、勝原、鳩ヶ湯、あわら市で生息が確認された。

生息を脅かす要因

クヌギ・コナラ等の条件の良い雑木林が開発により消失したり、管理放棄により変質してしまったことが本種の減少の原因である。成虫の生息条件を整えない限り個体数が増えることはない。

参考文献 福井県自然保護課(2002)、環境省(2015)、日本チョウ類保全協会(2012)、白水(2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○									○		○	○	○

ベニヒカゲ (本州亜種)

Erebia neriene nipponica Janson
チョウ目・ジャノメチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では三ノ峰にのみ生息し、生息域が非常に限られる。全国的に、登山客の増加による登山道整備や植生の踏み付け、ササの侵入による植生の変化等による悪影響がみられるようである。

種の特徴

本県に生息する唯一の高山蝶。表は濃茶褐色で、外中央には橙色帯があり、その内部には眼状紋または黒斑が並ぶ。高山草原、高標高地の湿原や林縁草地等に生息し、年1回、8月～9月頃に成虫が発生する。ヒメノガリヤスやホンモンジスゲ等を食草とする。

分布

本州の東北地方～中部地方の 1,500m 以上の山地に生息。県内では三ノ峰が唯一の生息地で、標高 1,450m あたりから上の草地でみられる。三ノ峰が分布の西限。

生息を脅かす要因

三ノ峰一帯は国立公園の特別保護地区にあり、保護策がとられているが、登山客の増加に伴う生息環境への影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

スゲドクガ

Laelia coenosa (Hübner)
チョウ目・ドクガ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

湿地に生息するガで、全国的に湿地の減少に伴い少なくなっている。今回、湿地周辺でライトトラップによる調査を行ったが、本種は確認できていない。

種の特徴

開張はオス 31～37 mm、メス 40 mm 内外。オスは前翅が淡黄褐色で、黒褐色の点列があることがある。メスは白色で無紋。年2化、成虫は5～6月と8～9月に出現する。食草はマツカサススキ、ヒメガマ、ヨシ。湿地のガとして知られる。

分布

北海道、本州に分布。県内では大野郡上味見に戦前の記録、大野市鳩ヶ湯、小浜市遠敷に 1950 年代の記録がある。敦賀市黒河国有林で 1993 年の採集記録がある。

生息を脅かす要因

開発等による湿地環境の悪化により、県内でも本種の生息環境は悪化していると考えられる。調査の継続により生息状況を把握し、保護対策を立てていく必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県博物館 (1938)、井崎 (1971)、環境省 (2015)、岸田 (2011b)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○										○	

キスジウスキヨトウ

Capsula sparganii (Esper)
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

湿地環境の指標種で、絶滅のおそれのある種として選定している県が多い。

種の特徴

開張 29～44 mm。前翅は赤褐色の地に暗色鱗片を全体に散布する。後翅は黄白色～褐色まで変異がある。湿地に生息する。年1化、成虫は6月下旬～9月に出現。食草はガマ、ミクリ。

分布

北海道～九州に分布。県内では 1996 年に敦賀市中池見ではじめて確認され、2014 年にあわら市北潟でも採集された。

生息を脅かす要因

湿地開発が脅威となる。

参考文献 福井昆虫研究会幹事会 (2008)、環境省 (2015)、岸田 (2011b)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○				

メガネサナエ

Stylurus ocellatus (Asahina)
トンボ目・サナエトンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつて県内に生息していた可能性が高いが、近年確認例がない。

種の特徴

体長 61～69 mm のサナエトンボ。腹部第 7～9 節が広がり、腹面が黄色となる。ナゴヤサナエやオオサカサナエと似るが、オスの副性器、腹部の黄斑の形状等が異なる。湖や河川に生息する。成虫は 7～9 月に出現する。

分布

日本固有種で、現在は琵琶湖、諏訪湖等の湖と周辺の河川にのみ分布する。県内では 1966 年に三方湖で羽化殻が多数採集された記録があるのみ。

生息を脅かす要因

湖の水質悪化等が脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、尾園ら（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

マダラヤンマ

Aeshna mixta soneharai Asahina
トンボ目・ヤンマ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

記録が少なく、情報が不足している。

種の特徴

体長 63～74 mm のやや小型のヤンマ。胸部は淡褐色で、オスやオス型のメスは腹部に青色の斑紋を持つ。平地の抽水植物の繁茂する池沼に生息する。成虫は 8～10 月に出現する。

分布

国内では北海道、本州（中部以北）に分布し、本県は分布南西限に近い。県内では、あわら市の北潟湖周辺や福井市等で成虫が数頭採集されているのみ。

生息を脅かす要因

池沼の改修や水質悪化等が脅威となる。

参考文献 尾園ら（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				○

エゾトンボ

Somatochlora viridiaenea (Uhler)
トンボ目・エゾトンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

安定した生息地が限られている。

種の特徴

体長 53～74 mm の中型のトンボ。タカネトンボと類似し、しばしば混同されるが、オスの尾部上付属器、メスの産卵弁の形状等が異なる。丘陵地～山地にかけての湿地に生息する。成虫は 6～10 月に出現する。

分布

国内では北海道、本州、四国、九州等に分布する。県内では各地に生息地が点在するが、安定した生息地は少ない。

生息を脅かす要因

湿地の植生遷移や埋め立て等が脅威となる。

参考文献 尾園ら（2013）、和田・和田（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○	○		○		○	○	○	○		○	○

ハッチョウトンボ

Nannophya pygmaea Rambur
トンボ目・トンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査時と比較して、消滅した生息地もあるものの、奥越等新たに進出した地域もあり、確認地点数に大きな変化はない。本種が生息地として好む環境は不安定で消失しやすいことから、今後も生息状況を注視する必要がある。

種の特徴

体長 17～21 mm。日本産不均翅亜目のトンボの中で最少。丘陵地の丈の短い植物の繁茂する湿地に生息し、しばしば放棄水田や土砂採取跡地の湿地でもみられる。幼虫期間は3か月～1年程度で、幼虫越冬。成虫は主に5月中旬～8月上旬に出現する。

分 布

本州～九州に分布。県内では福井市、永平寺町、敦賀市、美浜町、若狭町等で近年の記録がある。前回の調査で生息地が消滅したとされた大野市南六呂師でも生息が確認された。

生息を脅かす要因

本種が多産するのは湧水のある背丈の短い植物が繁茂する湿地という不安定な環境であるため、長年継続して生息する地点は限られている。このような良好な湿地が埋め立てによって消失することは、生息状況を悪化させる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、尾園ら (2012)、杉村ら (1999)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○		○	○			○		○	○		○	○	○

ミヤマアカネ

Sympetrum pedemontanum elatum (Selys)
トンボ目・トンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

安定した生息地が限られている。

種の特徴

体長 30～41 mmのアカトンボ。翅の先端寄りに褐色の帯条斑を持つ。平地～山地にかけての緩やかな流れや水田等に生息する。成虫は6～11月に出現する。

分 布

国内では北海道、本州、四国、九州等に分布する。本県では各地に記録が点在するが、安定した生息地は少ない。

生息を脅かす要因

河川改修等が脅威となる。

参考文献 尾園ら (2013)、和田・和田 (2006)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○		○	○	○	○	○			○	○	○

ミネトワダカワゲラ

Scopura montana Maruyama
カワゲラ目・トワダカワゲラ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認地点が大幅に増加し、広く県内に生息する可能性があるが、洪水等によって生息環境が悪化する恐れもあり、今後も注視が必要。

種の特徴

体長 30 mm内外。成虫は無翅。幼虫は腹部第9・10節の間に、環状に並んだ糸状の鰓を持つ。河川上流域の小支流や谷沢等水量の比較的少ない小さな川に生息し、幼虫は落ち葉の間や砂利の隙間等で生活する。約4年に1化。成虫は9月下旬～11月に出現。

分 布

東北部～近畿地方の山岳地域に分布。県内では竹田川、九頭竜川、大納川、滝波川、部子川、黒河川源流部付近で記録あり。今回大野市、永平寺町、あわら市でも確認された。

生息を脅かす要因

水河期の遺存種で冷水域に生息しているが、今後は地球温暖化の影響で分布限界域が北上し、本県での生息も脅かされる可能性がある。河川改修や大雨による土砂崩れ等による川床環境の変化も脅威となりうる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、前田 (2001)、志村 (2005)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○	○		○	○	○	○		○		○	○	

ウスバカマキリ

Mantis religiosa Linnaeus
カマキリ目・カマキリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内の既知産地は2か所のみ。今回既知産地で調査を行ったが確認できなかった。全国的に分布は局地的であるが、造成跡地の草地でも得られていて、調査の継続により本県でも新たな生息地が見つかることが期待される。

種の特徴

体長47～65mm。体色は淡緑または淡褐色。年1回、成虫は夏～秋に出現する。草地や河川敷の草原等、明るい開けた環境に生息するが、干拓地や造成跡地等の人工的な草地で得られることもあるという。

分布

北海道南部～南西諸島に分布。県内では高浜町音海と永平寺町下合月での記録がある。今回は既知産地で調査を行ったが確認できなかった。

生息を脅かす要因

草地の開発や管理放棄が脅威となる。永平寺町下合月の九頭竜川河川敷では1997年に本種が多数確認されたようであるが、今回はまったく確認できなかった。草地の密生化等、河川敷の草地環境の変化が懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）、宮武・加納（1992）、下野谷（2000）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○							○							

ナカジマシロアリ

Glyptotermes nakajimai Morimoto
シロアリ目・レイビシロアリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1994年に確認されて以来、県内での記録はない。小浜市蒼島は本種の日本海側唯一の記録地であり、島が国の天然記念物に指定されて環境が保全されているものの、本種の近年の生息状況は把握できていない。他地域での生息可能性の検証も含め、注視が必要である。

種の特徴

有翅虫は体長約6mm、前翅長7mm。光沢のある黒褐色。褐色の翅は、前縁の3本の翅脈が濃褐色に色づく。触角は短く、9～10節。兵蟻の体長5.0～6.5mm。タブ、イスノキ、サクラ、アカガシ等の枯れ枝や腐朽が進む前の硬い広葉樹枯木に生息する。

分布

本県のほか、和歌山、徳島、高知、大分、宮崎、鹿児島県の海岸地域、奄美大島、沖縄本島とその属島、小笠原諸島に分布する。県内では小浜市蒼島に記録があるのみである。

生息を脅かす要因

原生の暖地性植物群落がみられる蒼島は国の天然記念物として保護されているため、人為的な自然改変の心配はないが、サギ類やウミウが棲みついて大きな繁殖コロニーをつくることにより、自然環境が変化すると、本種の存続に影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然保護課（2002）、平嶋・森本（2008）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

クチキコオロギ

Duolandrevus ivani (Gorochov)
バッタ目・マツムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査で新たな生息地も確認されたが、大木を含む照葉樹林が主な生息地となることから、分布は局地的であると考えられる。京都府で要注目に指定されており、本県でも注視の継続が必要と判断した。

種の特徴

体長オス30～35mm、メス30～32mm。暖地性の種で、照葉樹林内の樹皮下や岩の割れ目等に棲む。決まった越冬態はなく、幼虫・成虫ともに周年みられる。昼間は岩の割れ目や樹皮の下等に隠れていて、主に夜に活動する。

分布

県内では高浜町音海、若狭町世久津～世久見、御神島、敦賀市中池見で記録があり、今回は若狭町常神半島周辺、小浜市内外海半島周辺、敦賀市内で新たに確認された。

生息を脅かす要因

照葉樹の樹皮下から採集されることが多く、大木を含む照葉樹林が改変されると生息場所が減少する。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、京都府自然環境保全課（2015）、村井・伊藤（2011）、日本直翅類学会（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○											

カワラスズ

Dianemobius furumagiensis (Ohmachi & Furukawa)
バッタ目・ヒバリモドキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

小浜市遠敷川での記録以降 30 年以上確認されていなかったが、2015 年に大野市の打波川河川敷で確認された。採集しづらい種であるが、灯火にも集まり、さらに生息地が見つかる可能性がある。河川敷という人為的改変を受けやすい場所に生息しており、注視の継続が必要である。

種の特徴

体長オス 8.4 mm、メス 7.5 mm ほどの小形のコオロギ。マダラスズに似るが、本種では翅の基部が白く、小顎髭の先端が白いことで区別できる。河川中流の河原や鉄道の線路敷石の間にいる。秋に成虫が出現する。

分布

本州～九州に分布。県内では小浜市遠敷川（高野）に記録があった。2015 年、大野市上打波、嵐口の打波川河川敷で確認された。

生息を脅かす要因

河川中流域の河原における開発行為により、生息地が減少するおそれがある。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、村井・伊藤（2011）、日本直翅類学会（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○											○	

アカエゾゼミ

Lyristes flammatus (Distant)
カメムシ目・セミ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に産地が局所的であり、約 20 の都府県で絶滅危惧種としてレッドリストに記載される。採集しづらい種であることから、県内でも 1979 年以降記録がない。県内の生息状況を把握すべく、調査の継続が必要である。

種の特徴

体長 60～68 mm。エゾゼミに似るが、全体的に赤褐色を帯び、オスの腹弁は末端が腹部の第 3 腹板に達しないことで区別される。北海道や東北地方では平地にみられるが、本州中部以西では標高 600～1,200m の山地に生息し、本州以西ではブナ林に多い。

分布

北海道～九州に分布し、佐渡島にも記録がある。県内では 1970 年代に大野市角野前坂、朝日前坂での採集記録があり、保月山での鳴き声による確認情報もある。

生息を脅かす要因

県内に生息している他のセミに比べると個体数が少なく、分布域が狭いため、ブナ林等の伐採が脅威となる。頭巾山の京都側では本種の生息が確認されており、本県側でも生息が確認できる可能性がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然保護課（2002）、林・税所（2011）、平嶋・森本（2008）、今井・大谷（2011）、宮武（編）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハウチワウンカ

Trypetimorpha japonica Ishihara
カメムシ目・グンバイウンカ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

2004 年にあわら市内で見つかった。湿地に生息し、全国的に生息地が少なくかつ局限される種である。県内での生息情報は不足しているが、湿地環境の消失・変化に伴い今後の衰亡が懸念されるため、生息状況の把握を含め、今後注視が必要である。

種の特徴

体長 2.7～3.5 mm。成虫は 8～10 月に出現し、湿性環境に生育するチガヤ等の根際付近にみられる。

分布

本州、九州に分布。県内ではあわら市内でのみ生息が確認されている。

生息を脅かす要因

湿地に生息することから、湿地の開発や管理放棄、自然遷移に伴う湿地環境の変化が脅威となる。

参考文献 平嶋・森本（2008）、環境省（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

ヒメマルミズムシ

Paraplea indistinguenda (Matsumura)
カメムシ目・マルミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1か所ではしか採集されておらず、分布は局所的である。今回の調査では採集されなかった。本種の生息できる湿地や池が少なくなってきたことや、環境の変化による影響を受けやすい。

種の特徴

体長は1.5～2mmの微小な種。淡黄色で全身は顕著な刻点でおおわれている。

分布

県内では南越前町の1か所の記録のみである。今回の調査では確認されなかった。

生息を脅かす要因

本種の生息できる湿地や池が少なくなってきたことや、環境の変化、化学薬品等による影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)、都築ら (2000)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

ナベブタムシ

Aphelocheirus vittatus Matsumura
カメムシ目・ナベブタムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息場所が局所的であり、河川の改修工事に伴う環境の変化により、その個体数、分布域は減少してきているものと考えられる。

種の特徴

体長は8.5～10mm。砂れきの多い溪流底にすみ、トビケラ類の幼虫を吸食する。体色の変化が大きく淡褐色～全体が黒色のものまで幅広い。普通は無翅だが、長翅型のもののみられる。

分布

県内は小浜市、敦賀市、池田町、南越前町で確認されているものの、その分布は局所的であり、生息場所も限定されている。

生息を脅かす要因

河川、用水路等のコンクリート三面張り化により、個体数、分布域は年々減少しているものと思われる。また、農業等の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○		○	○								

オオコオイムシ

Appasus major Esaki
カメムシ目・コオイムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

環境悪化に伴い近年個体数は県内全域で減少傾向にある。

種の特徴

体長23～26mmで近縁種コオイムシよりもやや大型であるが、大きさだけでコオイムシと区別するのは危険である。丘陵地～山地の湿地に生息すると一般に言われるが、県内では平地でも見つかる。他の水生動物類を捕食する。

分布

琉球列島を除く国内全域に分布する。県内の分布域を市町村単位でみた場合は、本種は嶺南～嶺北まで広く生息地がある。しかし、実際に生息する水域は限られている。

生息を脅かす要因

湿地の消失やアメリカザリガニ、オオクチバスといった外来種の侵入、農業散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 荻部・高桑 (1994)、川合・谷田 (2005)、内山 (2005)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○				○					○		○		○	○	

ズイムシハナカメムシ

Lyctocoris beneficus (Hiura)
カメムシ目・ハナカメムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

典型的な里山生息種であり、かつては普通種であったものの、殺虫剤等の影響により現在では全国的にほとんどみられなくなりました。本県では、1968年の記録以降採集されていない。

種の特徴

体長は4～5mmの大型のハナカメムシ。頭部と前胸背は暗色で、半翅鞘は全体に光沢のある淡黄色を呈する。枯枝や野積み等の柴束中にすみ、メイガ等の幼虫を補食する。

分布

県内では1968年の大野市での記録のみであり、今回の調査では採集されなかった。

生息を脅かす要因

里山環境の減少と化学合成殺虫剤等の影響。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、宮本 (1965)、日浦 (1993)、安永ら (2001)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハリサシガメ

Acanthaspis cincticrus Stål
カメムシ目・サシガメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県では1993年以降記録がなく、今回の調査でも確認できていない。全国的にも減少している種である。

種の特徴

体長は14.5～16mm。黒色の地に淡褐色の斑紋がある。微毛を密生し、黒色長毛を混える。小楯板後部に直立した強大な棘がある。地表を徘徊し、アリ類を捕食する。

分布

県内では1993年の越前町での記録のみである。

生息を脅かす要因

個体数の少ない珍しい種である。地表を徘徊するサシガメであるため、農薬等の影響を受けやすく、環境の変化にも敏感である。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)、石川ら (2012)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										

オオアシナガサシガメ

Gardena melinarthrum Dohrn
カメムシ目・サシガメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査では確認できていない。全国的にも減少している種である。

種の特徴

体長は23～26mmの大型種である。体脚ともに非常に細長い。セスジアシナガサシガメと混同されることもあるが、前葉が頭部の1.8倍と長いので区別できる。丈の高い雑草あるいは笹藪の地表部に生息し、動作は緩慢である。

分布

県内では越前市、旧今庄町、旧名田庄村、高浜町等で記録されているものの、近年採集されておらず、生息域、個体数ともに減少してきているものと考えられる。

生息を脅かす要因

大型のサシガメであるが、個体数が非常に少なく発見されにくい。全国的に減少している。生息環境の減少、農薬等の影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)、石川ら (2012)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○					○				○					

ゴミアシナガサシガメ

Myiophanes tipulina Reuter
カメムシ目・サシガメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

大型のサシガメであるが、個体数が少なく発見されにくいので、分布、生息状況の全容ははっきりしない。近年全国的にみられなくなってきている。

種の特徴

体長 16～17mmで、淡褐色の地に濃淡の斑紋があり、非常に長い毛でおおわれている。特に中、後脚の長軟毛は著しい。里山的環境に生息し、家屋内外で発見されることが多い。

分布

本州、四国、九州、伊豆諸島に分布するが、近年全国的にみられなくなってきている。県内での記録は「福井県昆虫図譜」(1938)以降では 1975 年の旧丸岡町での 1 頭のみである。

生息を脅かす要因

個体数が少なく、肉食の大型種なので環境の変化に影響を受けやすいと考えられる。また、里山環境の減少も大きな要因となっている。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、宮本 (1965)、日浦 (1993)、石川ら (2012)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○									○						

アイヌハンミョウ

Cicindela gemmata aino Lewis
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

河川改修等の影響で全国的に減少が著しく、17の都道府県でレッドリスト記載種になっている。近隣の富山県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

種の特徴

体長 16～17mm。ニワハンミョウやミヤマハンミョウに似るが、上翅先端の白紋が明瞭であり、上翅に青い点刻列がある。河川中流の砂地に生息し、成虫はおもに 3～6 月に活動する。

分布

北海道～九州にかけて分布している。本県では九頭竜川中流域、足羽川中流域に加え、大野市、小浜市でも生息が確認された。

生息を脅かす要因

河川改修や川原の利用、開発行為によって、生息地が減少するおそれがある。県内各地で河原の開発が進められているが、施工に際しては本種の生息環境を考慮した保護対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、上野ら (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○	○				○	○	○

マガタマハンミョウ

Cylindera ovipennis (Bates)
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に分布が狭く限定されており、本県の永平寺冠岳が西限域にあたる。決して稀ではないが、今後の推移を注視する必要がある。

種の特徴

体長約 15mm。背面は緑褐色、各上翅の中央に勾玉紋を持ち、その後方に三角紋があり、斑紋は変化する。後翅は無い。ニワハンミョウに似るが、上翅肩が無く、上翅の点刻列を欠く。春、ブナ帯の地表に現れて活発に歩き回る。時に側溝に落ちている。多降雪地帯を代表する昆虫として知られる。

分布

北海道南部～本州中部以北の日本海側に分布。本県では加越山地で確認されている。勝山市取立山で営巣の報告がある。今回、勝山市法恩寺山、大野市保月山でも確認された。

生息を脅かす要因

飛ぶ事ができず、移動範囲が制限されるため、環境変化に極めて弱い。周囲に豊かなブナ帯の存在がある開けた環境に生息しており、ブナ帯の環境改変も本種にとって脅威となる。また、幼虫は人が入りやすい地面に営巣するため、生息地の立ち入り管理が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、斎藤・片山 (2009)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○	○				○	○	

フタモンマルクビゴミムシ

Nebria pulcherrima Bates
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅あるいは危惧されている。本県でも1例の記録があるのみ。

種の特徴

体長11～13mm。やや扁平。全体光沢のある黄褐色、上翅に計2個の大きな黒紋を持つ。主に平地の河川敷に生息し、夏期、河川敷や空き地でみられる。

分布

本州、四国、九州に分布する。

生息を脅かす要因

県内の生息状況ならびに減少要因が判明していない。今後の推移を注視する必要があり、近くランクアップを検討する必要がある。近年は河川敷や空き地は急速に開発が進んでおり、本種には大いに脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

コハンミョウモドキ

Elaphrus punctatus Motschulsky
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅が危惧されている。本県では戦前の記録があるのみ。

種の特徴

体長約6mm。背面はやや隆起する。全体光沢のある暗銅色、上翅に複数の眼状模様の彫刻がある。後翅が無く、飛べない。主に平地に生息し、初夏、湿地でみられ、動作は活発。

分布

北海道、本州中部以北に分布する。現在でも本州北部や北海道では局地的にみられる。

生息を脅かす要因

県内の生息状況ならびに減少要因が判明していない。今後の推移を注視する必要があり、近くランクアップを検討する必要がある。近年は湿地は急速に開発が進んでおり、本種には大いに脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

マスゾウメクラチビゴミムシ

Suzuka masuzoi S. Uéno
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県固有種で、スキー場開発のアセスメントで得られた標本により、新種記載された。記載された後、再確認されたが（北山、2008）、現地はダム開発が行われ、今後の確認は困難な状況である。

種の特徴

体長約3mm。メクラチビゴミムシの一種であるが、瓢箪形の特異な種。アメ色で、複眼と後翅は退化している。地下性。本種の生態は不明である。湿った大きな石の裏に付着して採れるという。発生期間は不明、恐らく通年みられるだろう。

分布

所属する属は数種のみで、鈴鹿山脈～琵琶湖を中心に分布する。本種は其中で北域に分布する種である。本県固有種で、勝山市一本松湯の谷でのみ記録がある。

生息を脅かす要因

本種のような地下性甲虫類は局地的分布を示す事が多く、本種の分布も勝山市一本松湯の谷に限定されると推測される。このような生物は逃げ場のない環境に依存しているため、僅かな環境の変動でも影響を受ける。現在、当地はダム建設により調査は困難である。ランクを再検討する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、北山（2008）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

イグチケブカゴミムシ

Peronomerus auripilis Bates
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県では1996年以降の記録がない。近隣では京都府で絶滅危惧Ⅱ類相当に指定される等、本種が減少している地域もあり、本県でも注視が必要と判断した。

種の特徴

体長約9mm。背面はやや光沢のある黒褐色で、金色の短毛を生やす。上翅に鈍い銅色の光沢があり、脚は赤褐色。前胸の両側は中央で突出する。平地～低山地の河川敷に生息する。

分布

北海道、本州に分布する。県内では敦賀市中池見湿地の調査の際に得られたのみである。

生息を脅かす要因

県内の情報が少ない。近年は河川敷や湿地は急速に開発が進んでおり、本種には大きな脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、京都府自然環境保全課（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

オオサカアオゴミムシ

Chlaenius pericallus L. Redtenbacher
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

近隣の京都府では絶滅したとされる等、全国の数県で絶滅あるいは絶滅が危惧されている。本県では1994年以降の記録がない。

種の特徴

体長約12mm。美しい種類で同定は容易。頭部と上翅は鈍い暗褐色、前胸と脚は朱色。上翅側縁も朱色で、翅端部で長三角形に拡がる。平地～低山地の河川敷、湿地、畑地に生息する。

分布

本州、四国、九州に分布する。県内ではあわら市布目、坂井市三国町夕見、福井市久喜津町の3か所での採集例が知られる。

生息を脅かす要因

県内の情報が少ない。近年は河川敷、湿地、畑地は急速に開発が進んでおり、本種には大きな脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				○

オオトックリゴミムシ

Oodes vicarius Bates
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国では数県で絶滅が危惧されている。本県では戦後間もなくに記録があるのみであり、生息情報は不足している。三重県で絶滅危惧Ⅱ類に指定される等減少している地域もあり、本県でも注視が必要。

種の特徴

体長約13mm。全体にやや光沢のある黒褐色。長小判形でやや平たい。非常によく似た種類があり、専門家の同定が必要。主に平地～低山地の河川敷や湿地に生息する。

分布

本州、九州に分布する。県内では福井市からの戦後間もなくの記録があるのみである。

生息を脅かす要因

県内の情報が少ない。近年は河川敷や湿地は急速に開発が進んでおり、本種には大きな脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、環境省（2015）、三重県みどり共生推進課（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

クロホシコガシラミズムシ

Haliplus basinotatus Zimmermann
コウチュウ目・コガシラミズムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では 2015 年に越前町内の溜池で初めて見つかった。県内の生息に関する情報は不足しているが、全国的に減少している種であり、本県でも生息情報を把握すべく今後調査が必要である。

種の特徴

体長 3.5 ～ 3.9 mm。上翅の基縁には黒い横帯がある。上翅会合部の黒条は細い。水質が良好で、水生植物が多い池沼の浅い水域、湿地、水田等に生息する。詳しい生態は不明である。

分布

北海道～九州に分布。県内では越前町内の 1 地点で確認されているのみである。

生息を脅かす要因

県内の生息地は水生植物も豊富で、外来種も侵入していない良好な溜池である。開発による池沼の消失、溜池の管理放棄に伴う水質の悪化等が生息を脅かす要因となる。アメリカザリガニ等侵略的外来種の侵入も脅威となる。

参考文献 環境省 (2015)、野一色・村上 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										

キボシケシゲンゴロウ

Nipponhydrus flavomaculatus (Kamiya)
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

今回の調査では嶺南地方の 2 地点で新たに生息が確認された。関東地方以西での分布は極めて局地的になりつつあり、本県でも、注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長 2.5 mm 内外。体型は短楕円形。頭部は黄褐色で胸部と上翅は黒色。上翅には黄色の斑紋がある。低山地～山地の清流に生息する流水性のゲンゴロウで、本流岸辺の岩影等の流れの緩やかな水域や、よどみの石の下等で採集されるという。

分布

北海道～九州に分布。県内では坂井市丸岡町川上で記録があるのみであったが、今回の調査でおおい町口坂本（南川）と同町鹿野（佐分利川）で採集された。

生息を脅かす要因

護岸工事を含めた河川改修が脅威になると考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○									○						

ケシゲンゴロウ

Hyphydrus japonicus Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的には都市部周辺で減少傾向がいちじるしい。神奈川県では絶滅危惧ⅠA類に指定されている。本県では環境の良好な溜池、水田に生息していて、環境の悪化に伴う減少が心配される。

種の特徴

体長 3.8 ～ 5.0 mm、体型は短卵型。上翅に複雑な暗褐色紋を持つ。池沼、放棄水田等の止水域に生息する。幼虫・成虫ともに肉食と考えられるが、詳しい生態は不明。

分布

国内では北海道～南西諸島にかけ広く分布する。今回の調査では嶺北地方の比較的広範囲で生息が確認された。嶺南地方では高浜町で確認された。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。比較的環境の良好な水域にのみ生息することから、環境の悪化により急激に減少する可能性がある。周辺環境を視野に入れた生息環境の保全が望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○		○			○	○	○	○				○

マルチビゲンゴロウ

Leiodytes frontalis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

近年全国的に減少傾向にある。神奈川県では絶滅種。本県でも注視が必要である。

種の特徴

体長 1.5 ～ 2.0 mm。体型は短卵型で強く膨隆し、特に腹側で顕著。背面は黄赤褐色で強い光沢があり、不明瞭な暗色紋がある。詳しい生態は不明。

分 布

本州～九州に分布する。県内では坂井市、三国町で記録があった。今回の調査では、坂井市と若狭町で生息が確認された。

生息を脅かす要因

護岸工事や湿地開発、農薬や水質汚濁、侵略的外来種の影響等が減少の要因となる。県内の生息状況の把握、周辺環境を視野に入れた生息環境の保全が望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○		○				

コウベツブゲンゴロウ

Laccophilus kobensis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で新たな生息地が確認された。しかし、全国的に産地は局地的で、大都市近郊では近年みられなくなった産地もあることから、本県でも今後注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長 3.4 ～ 3.8 mm。体形は逆卵形。背面は緑がかった黄褐色で、上翅には黒色の不明瞭な縦条模様がある。上翅は基部が濃色でその後方に浅いV字状の淡色の横帯がある。低地の池沼、湿地、放棄水田等に生息するが、詳しい生態は不明である。

分 布

本州～九州、南西諸島に分布。県内では坂井市三国町安島と大野市六呂師高原で記録があった。今回、越前町、勝山市で確認され、坂井市三国町内でも新産地が見つかった。

生息を脅かす要因

県内の産地は水生植物の豊かな溜池で、坂井市三国町の生息地を除いて外来種も侵入していない。しかし、農薬の影響や溜池の護岸等の開発があると本種の生息にとって脅威となる。坂井市三国町の生息地ではアメリカザリガニ等外来種の影響も懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○				○	○	

シャープツブゲンゴロウ

Laccophilus sharpi Régimbart
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

もともと稀な種ではなかったが、1990年代以降、本州～九州で急速に確認例が減少したとされる。本県でも今回の調査では確認できておらず、調査の継続により生息状況の把握が必要である。

種の特徴

体長 3.5 ～ 4.2 mm。体形は逆卵形でやや細長い。背面は淡黄褐色～黄褐色で、やや弱い光沢がある。上翅ははっきりした暗褐色の波状の縦条模様があるが、後部では消失する。湿地、放棄水田、池沼、開けた明るい浅い湿地環境を好む。詳しい生態は不明。

分 布

北海道～九州、南西諸島に分布。県内では 1996 年に敦賀市中池見で記録があるのみである。

生息を脅かす要因

以前生息していた中池見湿地でも今回確認できなかった。アメリカザリガニの侵入による水生植物の減少や水質悪化の影響が心配される。また、湿地における遷移の進行による草地化も懸念される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

キベリクロヒメゲンゴロウ

Ilybius apicalis Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的に減少がいちじるしく、6都県でレッドリストに掲載されている。神奈川県では絶滅種。本県での分布はやや局所的で産地に限られる。

種の特徴

体長 8.0 ~ 10.0 mm、体型は楕円型でやや細長い。前胸背板～上翅は黄褐色に縁どられる。池沼、放棄水田等の止水域に生息する。詳しい生態は不明。

分布

国内では北海道～南西諸島のトカラ列島まで広く分布するが、やや局所的である。今回の調査では越前町と敦賀市中池見湿地から記録された。中池見湿地では個体数が多い。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。本県での産地は少なく、今後、上記要因等により容易に消滅するおそれがある。周辺環境を視野に入れた生息環境の保全が望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○	○						○	○			○

キベリマメゲンゴロウ

Platambus fimbriatus Sharp
コウチュウ目・ゲンゴロウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内での生息地は九頭竜川中流域等局所的だが、今回調査で新たな産地も確認された。河川改修等による影響を受けやすく、継続的な注視が必要である。

種の特徴

体長 6.5 ~ 8.0 mm。体型は長楕円形。上翅辺縁に個体変異に富む黄色の斑紋を持つ。近縁種とは斑紋の形状で区別できる。流水性。流れの緩やかな淀みの石の下や岸辺の植物周辺で見られるほか、灯火にもよく飛来する。

分布

北海道～九州、朝鮮半島及び中国に分布。本県では九頭竜川の中流域に生息する。

生息を脅かす要因

主な生息地が河川の中流域にあるため、護岸改修等による環境改変の影響を受けやすい。

参考文献 環境省 (2015)、森・北山 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○					○		○

コオナガミズスマシ

Orectochilus punctipennis Sharp
コウチュウ目・ミズスマシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

1990年代以降、全国の産地で急速に個体数が減少している。従来、県内での産地は九頭竜川中流域に限られていたが、今回真名川（大野市南新在家）でも新たに確認された。引き続き注視が必要である。

種の特徴

体長 5.5 ~ 6.0 mm。体型は細長く、背面は褐色を帯びた黒色。流水性。河川の中流域や緩やかな流れのある池沼に生息し、岸辺に植物が豊富な環境に多い。

分布

本州～九州に分布。近年各地で生息地が減少している。本県では九頭竜川中流域に生息する。今回は九頭竜川中流域に加え、真名川（大野市南新在家）でも見つかった。

生息を脅かす要因

主な生息地が河川の中流域にあるため、水質汚濁や河川開発等環境改変の影響を受けやすい。

参考文献 環境省 (2015)、川合・谷田 (2005)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○						○	○

コミススマシ

Gyrinus curtus Motschulsky
コウチュウ目・ミススマシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

1960年代以降全国的に急速に減少した。現在では生息地はかなり局所的である。今回の調査では確認できず、県内における近年の生息情報は不足している。

種の特徴

体長 5.5～6.0 mm。体型は卵型。黒色で強い光沢があり、上翅はやや隆起し中央部で最も幅広い。平地～丘陵地の池沼、水田、河川の淀みに生息。水面を群泳し、水面に落ちた小昆虫等を捕食する。

分 布

北海道～九州に分布。県内では旧武生市“国高村”に戦前の記録、福井市、敦賀市、小浜市遠敷に戦後間もない頃の記録がある。あわら市福良池で比較的最近の記録がある。

生息を脅かす要因

湖沼開発、湿地開発による生息環境の悪化に加え、管理放棄による溜池や水田の消失、農薬汚染や水質汚染による影響も大きいと考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、石川県自然環境課（2009）、環境省（2015）、上野ら（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○						○	○				○

ヒメミススマシ

Gyrinus gestroi Régimbarth
コウチュウ目・ミススマシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

もともとあまり多い種ではなかったが、1960年代以降全国的に急速に減少し、現在では生息地はかなり局地的とされる。近隣では石川県で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。県内では戦前の記録があるのみで、現在の生息状況については不明である。

種の特徴

体長 4.6～5.2 mm。体型は卵型。黒色で強い光沢があり、上翅は隆起する。平地～丘陵地の池沼、水田、河川の淀みに生息し、水生植物の豊富な環境に多い。水面を群泳し、水面に落ちた小昆虫等を捕食する。

分 布

本州～九州に分布。県内では敦賀市で戦前の記録があるのみ。

生息を脅かす要因

県内で近年の生息記録がないため詳細は不明だが、湖沼開発、湿地開発による生息地の消失のほか、管理放棄による溜池や水田の消失、水質汚濁、農薬汚染の影響を受けるものと考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、石川県環境部自然環境課（2009）、環境省（2015）、上野ら（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ヤマトホソガムシ

Hydrochus japonicus Sharp
コウチュウ目・ホソガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

以前は比較的普通の種であったようだが、近年全国的に激減し、生息地も少なくなっている。本県では1982年あわら市東山の記録以来確認されていない。

種の特徴

体長 2.6～3.1 mm。体型は細長く、両側はほぼ平行。体色は黒色で金属光沢を帯びる。水生だが泳げず、水中の堆積物等につかまって歩行する。幼虫・成虫ともに植物食と考えられている。灯火にも飛来する。

分 布

国内では本州～琉球列島にかけて分布する。今回の調査は県域の広範囲で行ったが発見できなかった。

生息を脅かす要因

生息地の開発による消失、水質の汚染、アメリカザリガニ等の侵略的外来種の侵入。県内での生息状況の把握が望まれる。

参考文献 環境省（2015）、佐藤（1978）、福井県自然環境保全調査研究会（1985）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

スジヒラタガムシ

Helochaeres nipponicus Hebauer
コウチュウ目・ガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県では広く分布しているが、全国的に生息環境が減少しており、注視が必要な種である。

種の特徴

体長 3.8～4.3 mm。体は茶褐色で、比較的扁平。上翅には 10 点刻列があり、一部溝状となる。メスは卵を腹部に付着させて保護し、繁殖期も長く、生息地での個体数は多い。溜池や水田等の湿地に生息する。

分 布

本州～九州に分布。今回の調査では、あわら市、坂井市、永平寺町、福井市、勝山市、大野市、越前市、越前町、敦賀市、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町で記録された。

生息を脅かす要因

湖沼、湿地の開発、ため池を含めた圃場整備、水質汚濁等が脅威となる。本県は生息地が多く、個体数も多い。分布の中心的地域として、本種の生息環境を維持していくことが望まれる。

参考文献 環境省 (2015)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、上野ら (1985)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○		○	○	○

シジミガムシ

Laccobius bedeli Sharp
コウチュウ目・ガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧 I B 類

選定理由

本種の好む水生植物が豊富な池沼は、全国的に減少傾向にある。国内における現在確実な産地は、兵庫県及び広島県の 2 か所のみである。

種の特徴

体長 2.9～3.2 mm。頭部及び前胸背板は黒褐色で、前胸背板の側縁部は黄褐色となる。上翅は黄褐色で、点刻の周辺は黒褐色となる。近縁種とは雄の交尾器の形態で区別する。成虫は 4～10 月に現れ、比較的深い水生植物の豊富な池沼に生息する。

分 布

北海道、本州、九州に分布。本県では過去に複数の記録があるが、最近記載された近似種の記録が混在する可能性がある。過去の情報の再検討を含めた調査が必要。

生息を脅かす要因

池沼開発による生息地消失、水質汚濁、侵略的外来種の侵入等が脅威となる。県内での生息状況の把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、上出 (2007)、環境省 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○		○			○	○				○	○

ミユキシジミガムシ

Laccobius inopinus Gentili
コウチュウ目・ガムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

平成 27 年に本県から初めて記録された。現在確実な捕獲記録がある県内産個体は一つのみである。しかし、近縁種シジミガムシとの区別が困難であることから、従来シジミガムシとして記録されたものが本種の可能性もあり、正確な県内分布地は不明である。

種の特徴

体長 2.9 mm の水生ガムシ類の一種。水生ガムシとしては隆起した体を持つ。比較的最近 (1980 年) 記載された種で、同属近縁種のシジミガムシと酷似する。池沼周辺の湿地や休耕田等の浅い水域に生息する。

分 布

琉球列島を除く関東以西に分布する。県内で記録された確実な生息地は水田周辺の湿地 1 か所だけである。しかし、本種の県内における分布調査は不十分である。

生息を脅かす要因

池沼や湿地の消失、外来種の侵入、農薬散布による生息環境悪化等が挙げられる。

参考文献 Gentili (1980)、上手 (2007)、環境省 (2015)、渡部 (2015)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○					

ヤマトモンシデムシ

Nicrophorus japonicus Harold
コウチュウ目・シデムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

かつては平地の里山や住宅地にふつうに見られる種であったが、現在では生息環境が全国的に限られる。県内では1977年以降記録がないと思われるが、調査不足の面も否めず、河川敷等での調査により新たな生息地が見つかる可能性もあることを考慮し、要注目とした。

種の特徴

体長14～25mm。背面は黒色で赤い紋がある。後脛節は明瞭に湾曲し、触角の球桿部は先端3節が橙色。河川敷の草原や休耕地を含む水田地帯、荒地等に生息し、死んだ哺乳類を餌とする腐食性だが、詳細な生態は不明。

分布

本州～九州に分布。県内では三国町池見、旧坂井町今井での記録がある。高浜町“和田村”にも戦前の記録がある。

生息を脅かす要因

本種が生息する環境は開発の対象となりやすく、開発による生息地の消失が脅威となる。県内での生息の詳細な把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、上野ら（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○								○						

ルリクワガタ

Platycerus delicatulus delicatulus Lewis
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

希少種。県内では奥越の山岳地帯で確認されているが、2000年以降記録がない。自然度の高いブナ林の指標種とされており、県内のブナ林の状態をモニタリングしていく意味でも今後も本種の動向を注視していく必要がある。

種の特徴

体長約13mm。オスでは体色は青～緑青色だが、緑色、緑黄銅色のもの等がある。メスでは体色は青緑色～藍色。ブナ林やミズナラ林等標高1,000m以上の落葉広葉樹林に生息し、成虫は5月下旬～7月中旬にみられる。メスはブナ、ミズナラ等の白色腐朽材及び軟腐朽材に産卵する。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市刈込池、池ヶ原、荒島岳、旧和泉村朝日前坂、平家平での記録がある。

生息を脅かす要因

ブナ林の伐採等が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、羽田ら（2000）、岡島・荒谷（2012）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

マダラクワガタ

Aesalus asiaticus asiaticus Lewis
コウチュウ目・クワガタムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

希少種。今回の調査で南越前町から新たな生息地が確認されたが、これまでの県内での確認地点は3地点のみで、生息に関する情報は不足している。本種を情報不足または要注目としてレッドリストに掲載する自治体もいくつかあり、本県でも生息状況の把握のために注視が必要である。

種の特徴

体長オス4.0～7.0mm、メス4.0～6.0mm。国内最小のクワガタムシ。体色は褐色。体高が高く体は卵形で、背面には黄色い鱗片状の毛がある。成虫は6～9月に活動。羽化後に食することはせず、樹液には集まらない。サクラ、カツラ、ツバキ等の褐色腐朽材に産卵する。

分布

北海道～九州に分布。県内ではこれまで大野市鷲鞍岳、池ヶ原で記録があり、今回南越前町今庄から見つかった。

生息を脅かす要因

県内での生息状況が把握できていない。本種は山地性の種で、ブナ林を中心に標高約700～1,000m付近に分布するが、良好な照葉樹林が発達する地域では比較的低位にも生息するとされている。調査の継続が望まれる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、岡島・荒谷（2012）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○								○	

アオナガタマムシ

Agrilus planipennis ulmi Y. Kurosawa
コウチュウ目・タマムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では数採集例があるのみ。

種の特徴

体長約 13 mm。中型の細長いタマムシ。クロナガタマムシに似るが、全体に弱い光沢のある緑色で寸胴。ブナ帯に生息し、夏～初秋、伐採木周辺の日当たりの良い梢先で活発に活動する。従来は寄主植物はクルミ類とされたが、最近は複数の樹木が知られる。近年、中国から米国に移入している。

分布

北海道～九州に分布するが局所的。本県では奥越地方、南越地方、若狭地方のブナ帯で稀にみられる。

生息を脅かす要因

確認された場所は大幅に環境が変動したとは考えられないが、今後の推移を注視する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県自然環境保全調査研究会（1985）、大桃・福富（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○			○								○	

サビナカボソタマムシ

Coraebus ishiharai Y. Kurosawa
コウチュウ目・タマムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回新たな生息地がいくつか確認されたことと、全国的な指定状況を考慮し、前回の準絶滅危惧から要注目にランクダウンした。県内では主に低山地で得られており、こうした環境は人為的改変を受けやすいことを考慮し、今後も注視が必要である。

種の特徴

体長 10～13 mm。中型のやや細長いタマムシ。全体銅色で、上翅には黄金色毛からなる斑紋がある。成虫は初夏に出現し、ヤマボウシにつく。成虫はヤマボウシの花や葉に飛来する。

分布

本州、九州に分布。県内では従来美浜町雲谷岳、越前町若須岳で記録があったが、今回、若狭町三十三間山、越前町六所山、福井市金毘羅山と大野市南六呂師で確認された。

生息を脅かす要因

開発、森林伐採による生息環境の破壊が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、黒沢ら（1985）、大桃・福富（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○			○									○	○

シナノキチビタマムシ

Trachys auriflua Solsky
コウチュウ目・タマムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認メッシュは減少しているが、絶滅のおそれが高まっているとは判断しがたい。本県は本種の分布西限であり、継続して注視していくことが必要である。

種の特徴

体長 5 mm前後の大型美麗種。頭部と前胸部は金色、鞘翅は紫色を帯びた赤銅色で、後方に不明瞭な白毛による強く湾曲した横帯を 2 本もつ。多雪地帯のブナ林に特有で、食草はオオバポダイジュとシナノキである。

分布

北陸を中心とした日本海側及び朝鮮北部、中国北東部、シベリア東部に分布。県内では、勝山市、大野市、越前市（旧今立町）、南越前町（旧今庄町）で確認されている。

生息を脅かす要因

食草のオオバポダイジュやシナノキは、ブナ林に点在するが、優勢な種ではない。食草を含むブナ林が失われると生息できなくなる。越前市権現山では、食草が中腹～山頂にかけて存在し、20 年ほど前は本種が多数確認できたが、近年全くみられなくなった。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1999）、大桃・福富（2013）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○		○		○			○	○	

ヤマトオサムシダマシ

Blaps japonensis Marseul
コウチュウ目・ゴミムシダマシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は、古い納屋の藁屑等に生息している。本県では、1988年に坂井市坂井町蛸の古い家屋の軒下に積まれた瓦下より採集されたが、今回確認できなかった。本種が生息できるような古い家屋は確実に減少しており、注視が必要である。

種の特徴

体長 22.0 mm 前後。全身黒色で瓢箪のような独特な体型をしている。自然の森林や草原にはほとんど生息せず、古い家屋の床下や納屋の藁屑に生息している。

分布

本州～九州に生息している。県内では、坂井市坂井町蛸でのみ記録がある。

生息を脅かす要因

本種は、自然の森林や草原にはほとんど生息せず、古い家屋の床下や納屋の藁屑に生息している。近年、そのような環境は減少しており、本種の生息数も減少していくことが考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、陶山（1988）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ベーツヒラタカミキリ

Euryoda batesi Gahan
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種を絶滅危惧種としてレッドデータブックに掲載している自治体は多く、近隣では石川県で絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。今回の調査では坂井市三国町雄島で数体が確認されたのみだが、今後嶺南地方の調査が更に必要である。

種の特徴

体長 26～34 mm。体は扁平。体背面、触角、脚は大部分が赤褐色で、光沢がある。成虫は6～9月に出現し、昼間はスタジイ等の洞穴に潜み、夜間に活動して、立ち枯れや朽木、太い生木の枯死部を這いまわる。灯火にも飛来する。

分布

本州～九州・南西諸島に分布。本県ではおおい町冠者島、小浜市下根来、西津、旧名田庄村、坂井市三国町雄島で記録がある。2015年には若狭町内で採集されたとの情報がある。

生息を脅かす要因

本種が好む暖帯広葉樹林は、海岸林や神社等の社叢林として残っており、分布域の狭められた状態である。海岸林等は特に開発の対象となりやすく、本種の生息地の縮小につながる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、日本鞘翅目学会（1984）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○						○						

ムナコブハナカミキリ

Xenophyrama purpureum Bates
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的に分布が狭く限定されており、本県はその東限域にあたり、これまで旧今庄町での1採集例があるのみであったが、今回小浜市内でも採集された。今後の推移を注視する必要がある。

種の特徴

体長約 20 mm。全体に弱い光沢のある黒色、上翅は鈍い赤色。主にブナ帯下域に生息しており、幼虫は谷筋のノリウツギに寄生する。梅雨時、夕暮れに日当たりの良い梢先等で飛翔し、稀に尾根に吹き上げられる。

分布

本州（西部）と九州に分布する。本県では吹上げと思われる個体が旧今庄町木の芽峠で得られている。今回の調査では小浜市おにゅう峠で採集された。本県は分布の最北端に位置する。

生息を脅かす要因

自然の残された谷筋のような環境は開発が入りやすく、特に寄主植物が限定されている本種には脅威となり、今後の注視が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、石川むしの会（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○			○									

キュウシュウチビトラカミキリ

Perissus kiusuensis kiusuensis Ohbayashi
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県が日本海側の分布北限。嶺南の調査によって生息地が増える可能性がある。照葉樹林を主な生息地としており、海岸沿いの照葉樹林は開発等の影響を受けやすい環境であることから、今後も注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長 6～11.5 mm。複眼脇には頬に達する低い稜が走る。前胸は縦長で背面は強く隆起する。上翅は白～淡色微毛で形成される斑紋がある。照葉樹林を主な生息場所とし、成虫は夏季に出現、広葉樹の伐採枝に集まる。寄主植物はシイ、ウバメガシ、タブ、ニワトコ、アカメガシワ。

分布

本州～九州に分布。県内では美浜町水晶浜、御神島、小浜市鬼ヶ谷、高浜町音海等で記録があった。今回、高浜町山中、小浜市久須夜ヶ岳、福井市八ツ俣でも確認された。

生息を脅かす要因

照葉樹林（暖帯林帯）を主な生息場所としていると考えられるが、県内ではこのような林の分布が少なく、島嶼や社叢、海岸沿いの照葉樹林の改変が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、日本鞘翅学会（1984）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○												○

トラフカミキリ

Xylotrechus chinensis (Chevrolat)
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

かつてはクワ畑の害虫として知られていたが、近年は養蚕業の衰退に伴い減少している。16 都県でレッドリストに掲載されている。

種の特徴

体長 17～26 mm。前胸背板中央部に黒いふちどりの赤帯がある。上翅は黒色の地に 3 本の金黄褐色帯がある。成虫は 7～9 月に出現する。クワ畑に多い。

分布

国内では北海道～琉球列島にかけ分布する。今回の調査では、敦賀市中池見湿地周囲の樹林で確認された。

生息を脅かす要因

クワ栽培の終焉。本県における現在の生息状況の把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、大林・新里（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○					○		○			○	

コトラカミキリ

Plagionotus pulcher (Blessig)
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

国内の産地では近年減少していて、6 県でレッドリストに掲載されている。近隣の石川、富山では絶滅危惧 I 類、II 類と高いランクに選定されている。本県においては 1938 年大野市西谷村での記録以来確認されていない。

種の特徴

体長 12.0～15.5 mm。前胸背板に細い 1 条の黄色の横線があり、上翅の黄色の帯状紋は八・二の字状。成虫は 5～8 月に出現し、コナラ・クヌギ等の伐採木や薪に集まる。

分布

国内では北海道、本州に分布する。四国にも記録があるようだが、疑問視されている。今回は奥越を中心に調査が行われたが、本種は確認できなかった。

生息を脅かす要因

森林伐採、里山の管理放棄による環境変化。調査地では森林管理者の高齢化に伴い薪の生産が減少していた。これが本種の発見を困難にしている、かつ森林の環境変化にも影響していると推測される。県内における生息状況の把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、環境省（2015）、大林・新里（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アサカミキリ

Thyestilla gebleri (Faldermann)
コウチュウ目・カミキリムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では1950年代以降記録がない。かつてはアサの害虫とされていた。アサの栽培禁止以降、主にアザミ類を寄主植物として生息おり、草原環境の悪化に伴い全国的に良好な生息地の減少が報告されている。本県でも生息状況の把握が急務である。

種の特徴

体長10～15mm。前胸背板は正中中部と両側に白条を備えるが、しばしば黄白色微毛が全体を覆う。触角ははっきりした二配色。アザミ類の生育する草地に生息し、成虫は5～8月に出現。アザミ類の新芽をかじる。戦前はアサに依存していた。ラミーにもつく。

分布

本州～九州、隠岐に分布。県内では福井市一乗谷村で戦前の、大野市鳩ヶ湯で1950年代の記録があるのみである。

生息を脅かす要因

草地開発、草地の管理放棄、遷移の進行が本種の生存に脅威となる要因として指摘されている。大野市六呂師周辺等、まとまった草原環境が残されている場所で生息している可能性があり、県内での生息状況の把握が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、日本鞘翅学会（1984）、大林・新里（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

チャバネホソミツギリゾウムシ

Cyphagopus iwatensis Morimoto
コウチュウ目・ミツギリゾウムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

今回確認できず。全国的に生息情報が少なく、岩手県、京都府と本県から確認されているのみである。生息状況と生態の解明が望まれる。

種の特徴

体長5mm程度。赤褐色で、首を除いた頭部、吻、前胸背、後胸は黒～黒褐色。上翅は基部、中央、端部に不明瞭な黒紋を有する。詳しい生態は不明だが、広葉樹の枯木に穿孔するキクイムシやナガキクイムシの孔道で発見される。

分布

本州（岩手県、福井県、京都府）に分布。県内では1995年に南越前町牧谷から記録され、その後南越前町寺谷でも記録されている。

生息を脅かす要因

低地のナラ類の木の減少が脅威となると思われる。県内の生息状況、生態の解明が望まれる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、林ら（1984）、環境省（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

ホソミツギリゾウムシ

Cyphagopus signipes Lewis
コウチュウ目・ミツギリゾウムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回は調査できず。全国的に稀な種で少数が採集されているのみ。生態を含めて調査の継続が必要。

種の特徴

体長4.0～6.5mm。黒色で、首の部分、吻、触角は赤褐色。前胸基部と上翅基部は時に赤褐色。シイ等の枯木のキクイムシ坑道中に棲む。

分布

本州、九州、対馬、奄美大島に分布。県内では大野市嵐谷、谷山で記録があり、前回のレッドデータブック発行時の調査で大野市堅海でも確認されている。

生息を脅かす要因

シイノキ、ナラ類の木の減少が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、林ら（1984）、京都府自然環境保全課（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○											○	

トサヤドリキバチ

Stiricorsia tosensis (Tosawa & Sugihara)
ハチ目・ヤドリキバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

嶺北を中心に調査が行われたが、確認は1か所のみ。調査が進めばさらに県内でも新たな産地が報告されることが考えられるが、栃木県、群馬県で減少が報告されており、県内でも今後注視が必要である。

種の特徴

体長オス6～8mm、メス11mm。黒色で触角末端節は黄褐色。脚は赤褐色で、前・中脚の脛節基部の外面と後脚腿節末端の上面は黄白色。里山的な環境を生息地として好む。成虫は主に立木状を走り回っているのが確認されており、5～8月に採集される。

分布

本州、四国と屋久島に分布。県内では池田町冠山、大野市荒島岳、小池、鳩ヶ湯、嵐、谷山、旧和泉村朝日前坂での記録がある。今回は坂井市上竹田で確認されている。

生息を脅かす要因

里山林の開発や管理放棄により生息環境が消失または悪化する。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）、吉田（2006）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○		○					○	

ウマノオバチ

Euurobracon yokahamae (Dalla Torre)
ハチ目・コマユバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

2014年に越前町平等で採集された。青森県、栃木県、群馬県、神奈川県、東京都、石川県、愛知県、和歌山県、大阪府、兵庫県、島根県、岡山県、広島県、山口県の各府県で減少が報告されており、本県でも注視が必要である。

種の特徴

体長15～24mm。メスの産卵管は極めて長く、体長の6.5～9倍に達する。全体黄赤褐色。翅は赤黄色を帯び、外縁は広く暗褐色。前翅に3個、後翅に1個の黒紋がある。シロスジカミキリの幼虫に産卵し、寄生するとされるが、県内ではミヤマカミキリの幼虫への寄生が確認されている。

分布

本州～九州に分布。県内では近年越前町平等で記録があるのみであるが、1950年代に高浜町青葉山でも採集されている。

生息を脅かす要因

森林伐採、土地造成、二次林の管理放棄等、里山環境の悪化によるシロスジカミキリやミヤマカミキリの減少が脅威となる。

参考文献 環境省（2015）、平嶋・森本（2008）、室田（2014）、渡辺ら（2012）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○				○						○				

ウチダハラナガツチバチ

Megacampsomeris uchidai (Betrem)
ハチ目・ツチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

嶺北を中心に確認地点が増加。本種の生息環境は特に急激に悪化しているわけではないと判断される。ただし、全国的に個体数の少ない種のようにあり、注視の継続が必要である。

種の特徴

体長15～20mm。キンケハラナガツチバチによく似るが、体の毛色はより赤みが強いことに加え、上顎部、単眼域、前伸腹節の点刻の特徴で区別される。地中で植物の根を食害するコウチュウの幼虫に外部寄生する。県内では主に8～10月に成虫の記録がある。

分布

本州～九州に分布。県内では福井市足羽山、大野市嵐、南六呂師、高浜町青葉山で記録があった。今回あわら市、永平寺町、鯖江市、越前町、越前市、敦賀市等で確認された。

生息を脅かす要因

過度な農薬散布や農地の改変等が存続を脅かす。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、室田ら（2008b）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○	○			○		○	○	○		○	○

フタモンクモバチ

Parabatozonus hakodadi (Dalla Torre)
ハチ目・クモバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

確認地点数は増加した。県内ではごく普通種だが、青森県、神奈川県、京都府、高知県の各府県で減少が報告されており、本県でも今後注視が必要である。

種の特徴

体長メス 20～30 mm、オス 15～24 mm。黒色で顔面両側にある縦斑と第3腹板基部にある後縁中央部のえぐれた横帯は黄色。成虫は7～8月頃出現し、オニグモを狩る。

分布

北海道～九州に分布。県内では大野市、勝山市、あわら市、福井市、南越前町、敦賀市、美浜町、若狭町で記録があり、今回永平寺町、越前町、小浜市、高浜町でも確認された。

生息を脅かす要因

開発による里山の消失や里山林の管理放棄による環境の悪化によるオニグモの減少、営巣地の減少等が本種の減少要因と考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田（2002）、羽田（2005）、羽田・井上（2003）、羽田・井上（2006）、羽田ら（2005）、平嶋・森本（2007）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○		○			○		○	○	○

アオスジクモバチ

Paracyphononyx alienus (Smith)
ハチ目・クモバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点数は増加した。海岸等砂地に生息地は限られるうえに、近隣の石川県、京都府と、埼玉県で減少が報告されており、本県でも今後注視が必要である。

種の特徴

体長 13 mm内外。体は黒色で灰青色の微毛から成る明瞭な線斑がある。腹背節各節の帯斑は特に顕著。主に海岸に生息し、イソコモリグモ等の徘徊性クモ類を狩る。

分布

本州～九州に分布。県内では三里浜、美浜町丹生でこれまでに確認記録がある。今回の調査では、福井市白方町、あわら市北潟、浜坂で確認された。

生息を脅かす要因

海岸地域に生息する個体群では、海岸砂丘の減少と破壊が減少の原因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、平嶋・森本（2008）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○							○		○				○

キオビクモバチ

Batozonellus annulatus (Fabricius)
ハチ目・クモバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

南方系で海岸等の砂地に生息。海岸という人為的影響を受けやすい環境に生息することと、温暖化の影響により県内の分布域が変化する可能性があり、注視が必要。

種の特徴

体長メス 23～28 mm、オス 16～18 mm。雌雄で著しく形態が異なり、メスは黒色で胸部背面、触角及び脚の大部分が黄褐色、腹部は黒く、第2節基部に黄色帯がある。オスは黒色で全体に鮮黄色の斑紋を有する。コガネグモ科のクモを狩り、地中に巣を作る。

分布

本州～九州と南西諸島に分布。県内では三里浜、敦賀市松原、池田町冠山、大野市森目、敦賀半島、高浜町内で記録があった。今回、あわら市、福井市等でも見つかった。

生息を脅かす要因

海岸の開発等が影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、平嶋・森本（2008）、野坂・黒川（2003）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○			○		○		○			○	○

オオハムシドロバチ

Symmorphus captivus (Smith)
ハチ目・ドロバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

1989年以降県内では記録がなく、生息状況に関する情報は不足している。県内の生息状況、生態の解明を含め、今後本県でも注視していく必要がある。

種の特徴

体長15～16mm。全体が黒色で腹部の第1節と第2節の後縁に黄色の横帯斑紋をもつ。成虫は既存孔に営巣し、ハムシ類の幼虫を狩ると考えられているが、生態の詳細は不明。

分布

本州、四国に分布。県内では大野市小谷堂で1989年の採集記録があるのみ。

生息を脅かす要因

山村の過疎化による木造家屋や立ち枯れ木の減少により、本種の造巣基が失われる。河川改修や道路工事等の影響も心配される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、環境省（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

チャイロスズメバチ

Vespa dybowskii André
ハチ目・スズメバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査で新たな生息地が何か所もみつき、生息確認地点数は大幅に増加したため、ランクダウン。ただし、本種が労働寄生するモンズズメバチは全国的には減少していることから、注視の継続が必要。

種の特徴

体長女王27～29mm、働きバチ17～21mm、雄19～24mm。体色は頭部から胸部にかけて赤褐色で、腹部は黒色。女王はキイロスズメバチやモンズズメバチの巣に侵入し、女王を殺して巣を乗っ取り、その働きバチに自身の幼虫を育てさせる。

分布

北海道、本州に分布。県内では大野市、池田町、若狭町で記録があった。今回、勝山市、あわら市、福井市、永平寺町、越前町、敦賀市、高浜町でも確認された。

生息を脅かす要因

本種が社会寄生するモンズズメバチの減少要因は不明とされる。生態系のバランスの崩れにつながる急激な自然環境の改変が本種の生存にも影響を及ぼしうる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、羽田（2005b）、羽田ら（2005）、羽田ら（2002）、羽田ら（2001）、環境省（2015）、黒川（2002）、室田（1998）、室田ら（2008a）、高橋（2001）、高見澤（2005）、田塾・室田（1998）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○	○		○	○			○		○	○	○

ガロアギングチ

Crossocerus heydeni Kohl
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

大野市、南越前町、旧名田庄村の約10の地点で生息記録がある。今回新たに生息が確認された場所もあるが、確認地点数としては減少した。埼玉県、京都府で減少が報告されているが、本県では生息域が減少しているとの判断は難しく、要注目とした。

種の特徴

10mm内外の小形のギングチバチ。枯れ木に営巣し、キノコバエ類を狩る。前回のレッドデータブックでムロタギングチとして記載されていたのは本種のシノニム。

分布

本州に分布。県内では大野市平家平、小池、鳩ヶ湯、嵐、南越前町武周ヶ池、おおい町虫谷等で記録されている。今回、越前町城山、越知山、永平寺町福平峠で確認された。

生息を脅かす要因

森林環境の改変等が脅威となりうる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田ら（2002）、環境省（2015）、京都府自然環境保全課（2015）、室田（2001）、室田（2002）、室田ら（2008b）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○					○	○		○						○	○

ササキリギングチ

Ectemnius furuichii (Iwata)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で多くの生息地が新たに確認された。県内では安定して生息しているが、青森県、栃木県、埼玉県、群馬県、愛知県で減少が報告されていることから、本県でも注視が必要。

種の特徴

体長 12～14 mm。体色は黒色だが、腹部に黄色の斑紋がある。雌の腹部先端部両側に金色の毛が生えている。朽木に営巣し、ササキリ類を狩る。

分布

本州に分布。県内では従来、大野市、若狭町、おおい町で記録がある。今回、大野市中洞、荷暮、永平寺町、福井市、越前町、敦賀市、小浜市、高浜町等で新たに生息が確認された。

生息を脅かす要因

営巣に適した立ち枯れ木の減少や、土地開発等による営巣環境変化が脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、羽田 (2002)、羽田・井上 (2003)、羽田ら (2005)、羽田ら (2001a)、環境省 (2015)、黒川 (2002)、室田 (2001a)、室田 (2001b)、

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○						○	○

ニッポンアワフキバチ

Argogorytes nipponis Tsuneki
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点数に大きな変化なし。群馬県、埼玉県、千葉県で減少が報告されていることと、希少性を考慮し、要注目とした。

種の特徴

体長はメス 12～13 mm、オス 10～11 mm。体は黒色。腹部第1節の2紋と第2～3節後縁の横線、前胸背板後縁の横線、後胸盾板の小紋は黄色。シイタケの腐朽した樽木等に分岐抗を掘り、木屑で仕切ってアワフキムシの幼虫を狩る。

分布

北海道、本州、九州、対馬に分布。県内では大野市小池、若狭町三十三間山、敦賀市色浜で記録があった。今回、大野市平家平、福井市国見岳、敦賀市天筒山でも採集された。

生息を脅かす要因

もともと個体数が少なく、良い条件の腐木の減少が本種の生存に影響を与えると考えられる。

参考文献 千葉県 (2011)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、羽田ら (2002a)、環境省 (2015)、室田 (1998)、野坂・黒川 (2001)、埼玉県みどり自然課 (2008)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○										○	○

ヤマトスナハキバチ

Bembecinus hungaricus japonicus (Sonan)
ハチ目・ギングチバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

もともと県内に広く記録のある種であったが、今回確認地点数は減少。茨城県、京都府、鳥根県の各府県をはじめ、全国的に減少しており、県内でも本種の営巣環境は悪化している可能性があることから、注視が必要。

種の特徴

体長 8～12 mm。体は黒色で光沢がある。腹部第1、2、4節背板の横帯等は白黄色。主に海岸や河川敷に生息。夏に砂地に営巣し、ヨコバイやキジラミ等を狩る。

分布

北海道～沖縄に分布。県内ではもともと嶺北・嶺南に広く記録があった。今回は敦賀市天筒山、大野市小谷堂のほか、福井市内、坂井市丸岡町内でもみつけた。

生息を脅かす要因

海岸砂丘や河川の生息環境の消失が減少の要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、羽田 (1998)、黒川 (2003)、京都府自然環境保全課 (2015)、室田 (2003)、室田ら (2008b)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○					○	○	○		○	○	○

ヤスマツヒメハナバチ

Andrena yasumatsui Hirashima
ハチ目・ヒメハナバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点に増減なし。栃木県、千葉県、東京都で減少が報告されており、環境省のレッドリストで情報不足に指定されている。本県でも生息地が限られていることから、今後注視が必要と判断し要注目とした。

種の特徴

体長8～11mm。体は黒色で、頭部、胸部に灰白色毛を密生する。県内では成虫は4～5月初めに採集されている。ヤナギ、リンゴ、スモモ、アブラナ等の花を訪花することが知られる。低地～丘陵地に生息し、営巣地として砂地を好む。

分 布

本州に分布。県内では大野市下山、新河原、土布子、勝山市下荒井に記録があった。今回の調査では、あわら市北渦東と越前町牛房ヶ平で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

宅地開発や土地造成、道路建設等による営巣地の破壊が脅威となる。また自動車の排気ガスによる訪花植物への影響等も考えられる。

参考文献 千葉県 (2011)、福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、室田ら (2009)、野坂 (2001)、野坂・黒川 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○						○		○	○	

クズハキリバチ

Megachile pseudomonticola Hedicke
ハチ目・ハキリバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

確認地点数は減少。生息環境が不明で評価するだけの情報が不足している。青森県、京都府、高知県をはじめ全国的に減少しているようであり、生息環境、県内での分布状況を含めて今後さらなる調査が必要である。

種の特徴

体長22～25mm。やや大型のハキリバチ。老木の洞や竹筒、カミキリの脱出抗等に営巣する。クズの葉で育房を作り、この中にクズの花粉を集め産卵する等クズに依存している。

分 布

本州、九州、種子島、屋久島に分布。県内では雄島のほか、大野市日吉、亀山、御給、勝山市松ヶ崎、今庄町大河内で記録があった。今回、永平寺町と大野市三面で採集された。

生息を脅かす要因

本種の減少の原因として宅地開発や土地造成、道路建設、営巣基である立枯木の減少等による営巣地の改変が指摘されている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、京都府自然環境保全課 (2015)、田仲 (2012)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○		○	○				○	○	

イカズチキマダラハナバチ

Nomada icazti Tsuneki
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認地点は増加したが、現在確実に生息しているといえる場所は限られる。生息地での個体数は減少傾向にあり、注視が必要。

種の特徴

メスは前伸腹節にいかずち（雷光）型の鮮やかな黄色紋がある。野外観察等からヤヨイヒメバチに寄生するものと考えられる。

分 布

本州、四国に分布。県内では、大野市、福井市、南越前町、美浜町、若狭町で記録があった。今回、あわら市、敦賀市天筒山、高浜町中山、おおい町仁吾谷等で採集された。

生息を脅かす要因

里山の開発による消失や管理放棄による環境変化が本種の生存に影響を与える。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、羽田 (1999)、室田 (2003)、室田ら (2008a)、室田ら (2008b)、室田ら (2009)、野坂・黒川 (2002)、田塾・室田 (1998)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○		○		○	○				○			○	○

ナミルリモンハナバチ

Thyreus decorus (Smith)
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

嶺北地方では何か所かで以前の生息場所が失われていた。また、嶺南地方でも以前記録のあった生息地を確認できなかった。青森県、栃木県、京都府、兵庫県で減少が報告されており、本県でも以前より数は少なく、局所分布を示すことから、注視が必要と判断した。

種の特徴

体長メス 13～14 mm。体は黒色。翅は基部を除き強く褐色に曇る。体には青緑色のよく分枝した毛から成る斑紋ないし横帯を有する。成虫は秋季に出現し、*Amegilla* 属に寄生する。

分布

県内では大野、福井、鯖江、小浜市と、南越前、美浜、若狭町で記録があり、今回、大野市持籠谷、勝山市保田、福井市足羽山、永平寺町福平峠、越前町城山等で確認された。

生息を脅かす要因

里山の開発による消失や管理放棄による環境変化（スギの人工林の生長、林床の藪化に伴い花粉を提供できる植物が貧弱化する等）が本種の生存に影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、羽田（2005a）、羽田ら（2001a）、羽田ら（2005）、環境省（2015）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）、室田ら（2009）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○		○	○		○				○	○	○	○

クロマルハナバチ

Bombus ignitus Smith
ハチ目・ミツバチ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では広く確認されている。千葉県、東京都、三重県、滋賀県、京都府で減少が報告されており、本県でも注視が必要であると判断した。

種の特徴

体長は女王 21.0～23.0 mm、働きバチ 12.4～18.8 mm、オス 15.6～18.8 mm。女王と働きバチでは全身が黒色毛で覆われ、腹部末端に橙褐色の毛がある。女王は4～6月、8～9月に活動し、働き蜂は5月下旬～9月、オスは8～9月に出現する。土の中に営巣する。

分布

県内では三里浜のほか大野市、勝山市、福井市、越前町、池田町、敦賀市で記録があった。今回、あわら市北潟、永平寺町福平峠、高浜町山中等複数地点で新たに確認された。

生息を脅かす要因

宅地開発や土地造成、道路建設等が本種の生息に影響を与える。日本産マルハナバチの中では人工飼育が容易であり、農業用の受粉昆虫としての応用も期待されるが、家畜化した場合には在来個体群との交配による遺伝子汚染が心配される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1985）、羽田（2002）、羽田ら（2005）、環境省（2015）、木野田ら（2013）、室田ら（2008a）、室田ら（2008b）、室田ら（2009）、野坂・黒川（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○	○		○	○	○		○	○	○	○	○

ホシガガンボモドキ

Bittacus sinensis Walker
シリアゲムシ目・ガガンボモドキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

県内では大野市鳩ヶ湯と武生市吉野村に古い記録があるのみである。今回の調査で大野市仏原から見つかったが、記録が非常に少なく、稀な種と思われる。

種の特徴

開張50mm前後になる大型のガガンボモドキ。全身黄褐色で、翅には縦脈の分岐点付近に小さな暗褐色の斑紋をもつ。成虫は5～6月に出現し、小さな昆虫等を餌とする。

分布

本州、九州に分布し、平地の河畔林や落葉広葉樹林でみられる。県内では、山地のミズナラ林から記録がある。

生息を脅かす要因

開発に伴う雑木林の伐採等。

参考文献 環境省（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○				○	

アヤヘリガガンボ

Dolichopeza geniculata (Alexander)
ハエ目・ガガンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1994年に福井市一乗城山での記録のみであったが、今回は、2014年に大野市仏原で確認された。本県における記録は極めて少なく、稀な種であると思われる。

種の特徴

体長8～10mm。翅長10～11mm。翅の前縁部に顕著な褐色紋を有する。脚はほとんど白色、腿節と脛節の末端は褐色を呈する。詳細な生態は不明。県内では6月に採集記録がある。

分 布

日本全土。県内では福井市一乗城山と大野市仏原で確認された。大野市仏原では、降雨時のみ流水のある谷に隣接する雑木林の林床で得られている。

生息を脅かす要因

稀な種であることもあり、生態もほとんどわかっていない。森林伐採、開発等による自然環境の喪失等の影響を受けると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、平嶋・森本（2008）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

ウスキシマヘリガガンボ

Nipponomyia kuwanai (Alexander)
ハエ目・ホビヒメガガンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では福井市深谷での記録があった。今回の調査では、大野市仏原で新たに生息が確認されたが、記録が大変少ない。

種の特徴

体長11～14mm。翅長10～12mm。翅が強い黄色で、特に前縁部にそれが強く、前縁室に細かい褐色点が散在している。体は黄褐色で、中胸背と盾板に小黑紋がある。腹部の先端は黒褐色。詳細な生態は不明。成虫は秋季に採集される。

分 布

本州の山地に分布するとされる。本県では、福井市深谷と大野市仏原で確認されている。仏原では、常時流水のある谷川付近の広葉樹林域で確認されている。

生息を脅かす要因

谷川に近い広葉樹林域で採集されており、水質汚濁、河川開発、広葉樹林の消失、植林等の影響を受けると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、平嶋・森本（2008）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

ヒメハスオビガガンボ

Pedicia gaudens (Alexander)
ハエ目・ホビヒメガガンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内ではこれまでに福井市深谷で採集記録があるのみであったが、今回の調査で勝山市保田、遅羽町嶮崎、大袋町、大野市上若生子で新たに生息が確認された。

種の特徴

体長17～19mm。翅長17～19mm。翅の前縁と横脈に沿って特徴のある褐色帯を持つ。胸部は灰黒色。腹部は黄褐色だが、先端の部分は灰黒色。触角は13節。成虫は4月下旬～5月上旬にかけて採集されている。

分 布

本州、九州の山地に分布。県内では福井市・勝山市・大野市の低山地山麓の林で採集されている。

生息を脅かす要因

山麓の広葉樹林域で採集されており、広葉樹林の開発による消失、植林等の影響を受けると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、平嶋・森本（2008）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	○

キバラガガンボ

Eutonía satsuma (Westwood)
ハエ目・ヒメガガンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では大野市小池と敦賀市池ノ河内で採集記録があった。今回の調査では、大野市上小池のほか、上丁、碓、南六呂師でも確認された。

種の特徴

体長 27 ~ 40 mm。翅長 22 ~ 27 mm。大型で翅に美しい斑紋を有する。胸部は赤褐色だが、中胸背の3条と盾板の大紋は灰緑色。小楯板と後楯板も灰緑色。詳しい生態は不明。

分布

本州、四国、九州の山地。県内では大野市と敦賀市のブナ、ミズナラ林域の湿地の周りや河川沿いの林で採集されている。

生息を脅かす要因

ブナ・ミズナラ林の開発や、湿地の開発の影響を受けると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、平嶋・森本 (2008)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○										○	

アルプスニセヒメガガンボ

Protoplasa alexanderi Kariya
ハエ目・ニセヒメガガンボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

山岳地帯の溪流に生息し、県内では 1995 年以降記録がない。環境省のレッドリストでも情報不足に指定されており、県内の生息状況の把握を含め調査の継続が必要である。

種の特徴

体長約 7 mm、体は一様に褐色で、透明な翅には顕著な黒褐色の斑紋がある。脚は黄褐色で、腿節末端は濃褐色。翅の後縁部が基部側で直角にはりだす。幼虫は水生で山地溪流に生息。県内では成虫は 8 月に採集されている。成虫は灯火にも飛来する。

分布

本州（東北地方～中部の山岳地帯）に分布。県内では大野市上小池で記録があるのみ。今回の調査でも奥越地方の山地帯で灯火による調査が行われたが、確認できていない。

生息を脅かす要因

幼虫は水生であり、河川開発等で溪流の環境が破壊されると本種にとって脅威となることが指摘されている。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、環境省 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

トワダオオカ

Toxorhynchites towadensis Matsumura
ハエ目・カ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

富山県で情報不足、京都府で要注目に指定されているほか、10 以上の県でレッドリスト掲載種となっている。県内でも本種が好むような木洞のある大木が残る環境が減少していると考えられることから、注視が必要と判断。

種の特徴

体長約 10 mm、翅長約 8 mm で、日本最大のカ。美しい青藍色の体をしていて、腹部第 6 ~ 8 節の両側に顕著な黒と橙黄色の毛束がある。幼虫は樹洞等に発生し、他種のポウフラ等を捕食する。成虫はオスもメスも花の蜜等を吸い、吸血性はない。

分布

県内では大野市小池、若狭町常神、御神島、高浜町音海で記録があり、今回、大野市貝皿、福井市足羽山、鯖江市内、越前市、越前町今泉、高浜町下で確認された。

生息を脅かす要因

古い樹洞の残る環境の消失が本種に影響を与える。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、平嶋・森本 (2008)、京都府自然環境保全課 (2015)、富山県自然保護課 (2012)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○				○					○		○		○	○

昆虫類

オオナガレトビケラ

Himalopsyche japonica (Morton)
トビケラ目・ナガレトビケラ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で奥越で確認された。今回の記録がメッシュを特定できる県内初の記録であり、生息環境を考慮すると今後も注視が必要である。

種の特徴

大型種で、終齢幼虫の体長は 15～37 mm、成虫の前翅長はオスで 16～23.5 mm、メスで 22～26 mm。幼虫は中胸～腹部第 8 節側面に特徴的な縦状鰓を持つ。山地溪流の大岩が積み重なるような激流に生息している。

分布

本州と四国、台湾に分布。近畿以西では分布は局地的。本県では嶺北の山間部に生息する。

生息を脅かす要因

森林伐採等による溪流の環境変化の影響が懸念される。

参考文献 環境省 (2015)、川合・谷田 (2005)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ハイロボクトウ

Phragmataecia castaneae (Hübner)
チョウ目・ボクトウガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では三国町の 1 地点で近年は記録があるのみだったが、今回新たに 2 地点で確認された。湿地に生息し、全国的に個体数が減少していることから、本県でも引き続き注視の必要がある。

種の特徴

開張 35～38 mm。翅全体が褐色身を帯びた灰色。湿地に生息し、幼虫はヨシを食する。成虫は年 1 回、6～7 月に出現する。

分布

北海道～九州の湿地に局所的に分布。県内では従来、坂井市三国町池見の九頭竜川河川敷で最近の記録があり、今回、坂井市春江町内、あわら市北湯でも確認された。

生息を脅かす要因

湿地開発に伴うヨシ原とその周囲の環境変化が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、広渡ら (2013)、環境省 (2015)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				

アシナガモモトスカシバ

Macroscelia longipes (Moore)
チョウ目・スカシバガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では 2004 年に日野川河川敷で記録された。県内での生息に関する情報は不足しているが、河川改修等の影響で全国的に生息環境が悪化している。本県でも調査の継続により生息状況の把握が必要である。

種の特徴

開張オス 18～24 mm、メス 19～28 mm。後脚 節は非常に長い。前翅は細長く、透明で外縁は黒色。中央付近に黒い斑紋がある。後翅は透明。年 2 回、6～10 月上旬までみられる。食草はゴキツルで、その茎に虫こぶを作る。

分布

本州、九州に分布。県内では福井市深谷町の日野川河川敷で確認されている。

生息を脅かす要因

土地造成、河川改修、湿地開発等が脅威となる。県内の生息状況に関する情報は不足しており、調査の継続が必要である。

参考文献 環境省 (2015)、広渡ら (2013)、下野谷 (2004)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ソウクロオビナミシャク

Heterothera taigana sounkeana (Matsumura)
チョウ目・シャクガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では三ノ峰にのみ生息する。1995年に県内で初めて採集され、2015年にも三ノ峰で得られている。生息地は白山国立公園特別保護地区内で環境は保全されているが、登山客の増加の影響が懸念され、今後注視が必要である。

種の特徴

開張はオスで28～33mm、メスで31～34mm。前翅の地色は茶褐色で基部と中央部はやや暗色になる。外横線は弱く波状に走る。後翅は暗色で横脈点が生じる。本州では亜高山帯～高山帯に生息し、ハイマツを食草とする。成虫は7～8月に出現する。

分布

北海道、本州（東北地方、中部地方の亜高山～高山帯）に生息。これまで石川県の加賀白山が分布の西限とされてきたが、三ノ峰でもみつけた。

生息を脅かす要因

県内の生息地は白山国立公園特別保護地区に指定され、環境は保全されているが、登山客の増加に伴う亜高山帯の植生の踏み付け等の影響が懸念される。

参考文献 岸田（2011a）、下野谷・梅村（2012）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オナガミズアオ

Actias gnoma (Butler)
チョウ目・ヤマユガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回は1地点で確認されたのみ。全国的に平地部で生息環境が悪化しているとされる。もともと県内での記録は多くないが、近似種のオオミズアオとの判別が難しいため、過去の本種、オオミズアオの記録の精査も含め、正確な生息状況の把握が必要である。

種の特徴

開張オス80～90mm、メス90～100mm。オオミズアオに非常に似ており、触角の色、前翅の形、前翅外横線や後翅眼状紋の形状等で区別する。湿地、河川敷等に生息し、幼虫はハンノキ、ヤシャブシ等を食草とする。成虫は年1～2回、5～8月に出現する。

分布

北海道～九州に分布。県内では大野市小池、敦賀市、小浜市下根来で従来記録があり、今回も大野市小池で生息が確認された。

生息を脅かす要因

湿地開発や河川開発に伴うハンノキ林の消失が脅威となる。大野市小池は本種の生息地として安定していると考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、井崎（1971）、岸田（2011a）、梅村ら（2011）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○										○	

スキバホウジャク

Hemaris radians (Walker)
チョウ目・スズメガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

県内では1994年の大野市六呂師での記録以来確認されていなかったが、2015年に勝山市内で見つかった。草地性の種で、草地の管理放棄等が原因で全国的に減少しているとされる。本県でも注視が必要である。

種の特徴

開張40～45mm。翅は外縁が黒褐色で中央部は透明。後翅の基部から後角にかけて橙色を呈する。草地に生息し、成虫は年2回、5～9月に出現する。食草はオミナエシ、オトコエシ、スイカズラ、アカネ。

分布

北海道～九州、対馬、沖縄に分布。県内では旧丸岡町、旧美山町、大野市、池田町、永平寺町、敦賀市に古い記録、大野市南六呂師、小浜市多田で比較的最近の記録がある。

生息を脅かす要因

主要な食草であるオミナエシの生える草地在り開発や植生変化により失われており、本種の個体数の減少につながっているとされる。

参考文献 福井県博物館（1938）、福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省（2015）、井崎（1971）、岸田（2011a）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○			○	○	○				○	○	○

マエアカヒトリ

Aloa lactinea (Cramer)
チョウ目・ヒトリガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では戦前の記録があるのみで、今回の調査でも確認できていない。以前は害虫とされていたが、最近では全国的に絶滅が危惧されている。一方、埼玉県、神奈川県、静岡県等では徐々に増加しているとの報告もあり、本県でも生息状況の把握が必要である。

種の特徴

開張はオス 60 mm内外、メス 65 mm内外。翅は白で、前翅前縁は深い紅色を呈し、後翅には黒い斑点がある。腹部は橙黄色と黒色のトラ縞模様。食草はネギ、ダイズ、トウモロコシ、ミソハギ。成虫は5～10月に出現するとされる。

分布

本州～九州、屋久島、沖縄に分布。県内では戦前に足羽郡和田村での記録があるのみである。

生息を脅かす要因

農薬散布が減少の原因とされる。

参考文献 福井県博物館 (1938)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、環境省 (2015)、岸田 (2011b)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

カギモンハナオイアツバ

Cidaripura signata (Butler)
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査では確認できず、県内では1961年以降記録がなく、生息情報は不足している。平野～里山の調査が不足しており、生息状況の把握が必要である。

種の特徴

開張 28～32 mm。翅は明るい褐色地で、かぎ状の横脈紋がある。雑木林の林縁や河川敷の草地に生息し、成虫は5～7月に出現。年1、2回発生すると考えられている。食草は不明である。

分布

本州～九州、屋久島に分布。県内では大野市鳩ヶ湯、大野市池ヶ島、越前市池泉町、小浜市遠敷で記録がある。

生息を脅かす要因

平野～里山の土地造成、河川開発が本種の生存に脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、井崎 (1971)、環境省 (2015)、岸田 (2011b)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○							○				○	

キシタアツバ

Hypena claripennis (Butler)
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査では確認できず、県内では1994年以降記録がない。調査の継続により新たに生息地が見つかる可能性もある。草地環境の悪化等によって全国的に減少していることから、県内の生息状況の把握が必要である。

種の特徴

開張 30 mm内外。前翅の基部～中央の横線までは黄褐色で、その外方は暗紫灰色。後翅は淡黄色で、外縁黒色帯はほとんど発達しない。成虫は4～9月に出現。前蛹で越冬。食草はヤブマオである。

分布

本州～九州、対馬に分布。県内では小浜市遠敷、大野市鳩ヶ湯、大野市池ヶ島、越前市池泉町、福井市で古い記録、敦賀市浦底、三国町安島で1990年代の記録がある。

生息を脅かす要因

土地造成、河川開発による平野部の草地の環境悪化が本種の生存に影響を与える。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、井崎 (1971)、環境省 (2015)、岸田 (2011b)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○					○	○				○	○

コシロシタバ

Catocala actaea Felder & Rogenhofer
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的に生息地が狭められており、特に都市周辺部では個体数が減少している。県内では1950～1960年代にかけて採集記録があり、2005年には足羽山で採集されている。県内でも里山を中心に生息していると考えられ、今後も注視が必要である。

種の特徴

開張50～60mm内外。後翅は黒くて白斑がある。クヌギヤコナラ等の二次林に生息し、食草はクヌギ等。成虫は6～10月に見られる。

分 布

北海道～九州に分布。県内では、大野市小山、鳩ヶ湯、新田野町、勝山市杉山、坂井市加戸で古い記録があり、2005年には足羽山で採集されている。

生息を脅かす要因

土地造成、森林伐採等が脅威となる。県内では近年の記録は足羽山であるのみだが、クヌギ林等でライトトラップによる調査を行えば、新たな生息地が見つかる可能性がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、井崎（1971）、環境省（2015）、岸田（2011b）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○				○	○	○

ミヤマキシタバ

Catocala ella Butler
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

ハンノキ林の減少に伴い、全国的に減少している。本県では1960年代以降記録がなく、生息情報は不足している。

種の特徴

開張51～61mm。前翅はわずかに緑みを帯びることが多い。後翅は濃い黄色で、中央黒帯は外縁黒帯とつながらず、翅頂紋は黄色か白くなる。ハンノキ林に生息。食草はハンノキ。成虫は年1回、7月中旬～9月下旬までみられる。

分 布

北海道、本州（中部以東）に分布。県内では大野市鳩ヶ湯、大谷で1940～1960年代に記録があり、最も新しいのは1961年の鳩ヶ湯での記録である。

生息を脅かす要因

森林伐採、河川開発が脅威となる。県内ではもともと稀な種であるようで、生息状況に関する情報が不足していることから、調査の継続が急務である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、井崎（1971）、環境省（2015）、岸田（2011b）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒメシロシタバ

Catocala nagiioides Wileman
チョウ目・ヤガ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

カシワ林の減少に伴い、全国的に減少しているとされる。近隣では石川県で情報不足に指定されている。県内では1994年の大野市（旧和泉村）下半原で記録があるのみで、生息に関する情報が不足している。

種の特徴

開張48～57mm。コシロシタバに似るが、前翅はコシロシタバより少し幅狭く、一様に暗褐色で斑紋が明瞭ではない。後翅は黒く、白い斑紋があるが、コシロシタバの斑紋より小さい。カシワを食草とし、成虫は年1回6月中旬～10月中旬までみられる。

分 布

北海道～九州、対馬に分布。県内では、大野市下半原での1994年の記録があるのみである。

生息を脅かす要因

カシワ林における土地造成、森林伐採が脅威になる。県内での生息に関する情報は不足していることから、調査の継続が望まれる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、井崎（1971）、環境省（2015）、岸田（2011b）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

文献一覧

- 青木淳一, 2009. ホソカタムシの誘惑. 日本産ホソカタムシ全種の図説. 東海大学出版部.
- 青森県自然保護課編, 2010. 青森県レッドデータブック 2010. 青森県.
- Bergsten, J. and K. B. Miller, 2005. Taxonomic revision of the Holarctic diving beetles genus *Acilius* Leach (Coleoptera: Dytiscidae). *Systematic Entomology*, 31: 145-197.
- 福井県自然環境保全調査研究会編, 1999. 福井県のすぐれた自然 動物編. 福井県.
- 福井県自然保護課・福井県自然保護センター編, 2006. 守り伝えたい福井の里地里山 (改訂 2 版). 福井県.
- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会, 1985. 福井県昆虫目録. 福井県.
- 福井県博物学会, 1938. 原色福井県昆虫図譜. 福井県博物学会.
- 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物: 福井県レッドデータブック (動物編) 2002. 福井県.
- 福井県昆虫研究会幹事会編, 2008. 福井県昆虫目録 (第 2 版) 追加訂正. 福井虫報, (39): 57-101.
- 福井県県民生活部自然保護課, 1999. 福井県のすぐれた自然・動物編. 福井県.
- 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 1998. 福井県昆虫目録 (第 2 版). 福井県.
- 藤丸篤夫, 2014. ハチハンドブック. 文一総合出版.
- Gentili, E, 1980. Studi sui *Laccobius* (Coleoptera, Hydrophilidae). *Annuario Osservatorio di Fisica terrestre e Museo Antonio Stoppani del Seminario Arcivescovile di Milano (N. S.)*, 2: 29-35. (dated. 1979).
- 羽田義任, 1998. 下野谷豊一氏が採取した有剣蜂類. 福井虫報, (26): 37-46.
- 羽田義任, 1999. 山地のヤナギの花に飛来するハナバチ類. 福井虫報, (25): 26-27.
- 羽田義任, 2001. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (28), 6-8.
- 羽田義任, 2002. 福井県高浜町山中の有剣蜂類. 福井虫報, (30): 43-48.
- 羽田義任, 2003. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (32): 17-18.
- 羽田義任, 2004. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (33): 13-14.
- 羽田義任, 2005a. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (35): 15-17.
- 羽田義任, 2005b. チャイロスズメバチの生息場所の記録. 福井虫報, (36): 13-14.
- 羽田義任, 2007. *Sphex inusitatus* Yasumatsu のホロタイプとフクイアナバチの学名について. つねきばち, (12): 1-3.
- 羽田義任・井上重紀, 2003. 福井市小浜市堅海の有剣蜂類. つねきばち, (1): 47-53.
- 羽田義任・井上重紀, 2006. 福井県小浜市久須夜ヶ岳の有剣蜂類. 福井虫報, (37): 5-12.
- 羽田義任・井上重紀・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉・室田忠男, 2005. 福井県文殊山のハチ目. つねきばち, (4): 53.
- 羽田義任・井上重紀・下野谷豊一, 2002a. 福井県大野市平家平の昆虫類とその保全. p. 47-102. 大野市, 平家平自然環境調査報告書
- 羽田義任・野坂千津子・飯田忠嗣・黒川秀吉・室田忠男, 2001a. 福井市越知山の有剣蜂類. 福井虫報, (29): 7-16.
- 羽田義任・野坂千津子・黒川秀吉, 2001b. 福井県勝山市北谷の有剣蜂類. 福井虫報, (29): 17-27.
- 羽田義任・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉・室田忠男, 2002b. 福井市越知山から新たに記録された有剣蜂類. 福井虫報, (31): 21-24.
- 羽田義任・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉・室田忠男, 2006. 2006 年 8 月に長崎県対馬で採集した有剣蜂類. つねきばち, (10): 39-52.
- 羽田義任・下野谷豊一, 2000. フクイアナバチを大野市中島で発見. 福井虫報, (26): 36.
- 林正美・税所康正編著, 2011. 日本産セミ科図鑑. 誠文堂新光社.
- 林匡夫・森本桂・木元新作編, 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV). 保育社.
- 林成多, 2012. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 2. 日本のネクイハムシ. むし社.
- 林弥栄編, 1983. 山溪カラー名鑑日本の野草. 山と溪谷社.
- 平野幸彦, 2012. サドコメツキモドキ♀の発見. 月刊むし, (493): 48.
- 平嶋義宏・森本桂監修, 2008. 新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻 (トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カメムシ目・ハエ

目・ハチ目他). 北隆館.

広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則編, 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 学研教育出版.

日浦勇, 1993. 半翅目. p. 95-174. 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇(編著), 原色日本昆虫図鑑(下). 保育社.

掘繁久, 2005. 日本産ダイコクコガネ属の現況. 昆虫と自然, 40(2): 6-9.

保科英人, 2009. コガタノゲンゴロウの福井県からの記録. ねじればね, (126): 13.

保科英人・井上友美, 2005. ヤシャゲンゴロウの現状 (I). 甲虫ニュース, (152): 13-21.

保科英人・井上友美, 2006. ヤシャゲンゴロウの現状 (II). 甲虫ニュース, (153): 11-19.

<http://tokorotenokimoti.blog113.fc2.com/blog-entry-85.html>.

今井博之・大谷英兄, 2011. 鳴き声の音声分析を応用したエゾゼミ類の京都府内生息分布調査. p. 16-27. 宮武頼夫(編), 昆虫の発音によるコミュニケーション. 北隆館.

井村有希・水沢清行, 2013. 日本産オサムシ図説. 昆虫文献. 六本脚

井上大輔・中島淳, 2009. 福岡県の水生昆虫図鑑. 福岡県立北九州高等学校魚部

井崎市左エ門, 1971. 福井県蛾類目録. 小浜昆虫同好会.

石川むしの会編, 1998. 石川県の昆虫. 石川県.

石川県環境部自然環境課編, 2009. 改訂石川県の絶滅のおそれのある野生生物: いしかわレッドデータブック(動物編). 石川県.

石川良輔, 1991. オサムシを分ける錠と鍵. 八坂書房. 東京

石川忠・高井幹夫・安永智秀, 2012. 日本原色カメムシ図鑑(第3巻). 全国農村教育協会.

伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦勇編, 1977. 全改訂新版原色昆虫図鑑(下). 保育社.

上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42(2): 12-16.

環境省編, 2015. レッドデータブック2014: 日本の絶滅のおそれのある野生生物(5). 昆虫. ぎょうせい.

荻部治紀・高桑正敏, 1994. 神奈川県を主としたコオイムシ属2種について. 神奈川自然誌資料, (15): 11-14.

川合禎次・谷田一三共編, 2005. 日本産水生昆虫科・属・種への検索. 東海大学出版会.

菊池波輝, 2014. 福島県初記録のシモヤマギングチ. つねきばち, (25): 37-38.

木野田君公・高見澤今朝雄・伊藤誠夫, 2013. 日本産マルハナバチ図鑑. 北海道大学出版会.

岸田泰則編, 2011a. 日本産蛾類標準図鑑Ⅰ. 学研教育出版.

岸田泰則編, 2011b. 日本産蛾類標準図鑑Ⅱ. 学研教育出版.

北山健司, 2008. マスゾウメクラチビゴミムシの追加記録. ねじればね, (119): 15-16.

黒川秀吉, 2002. 大野市中洞から新たに記録された有剣蜂類. 福井虫蜂, (30): 39-41.

黒川秀吉, 2003. 福井市江上町から記録された有剣蜂類. つねきばち, (1): 59-62.

黒川秀吉, 2004. あわら市北潟湖畔でキアシハナダカバチモドキを採る. あられがこ, (42): 32.

黒川秀吉, 2005. 福井市江上町九頭竜川河川敷の有剣蜂類追加. あられがこ, (43): 11-12.

黒川秀吉, 2008. カワラアワフキバチ *Harpactustumidus japonensis* (Tsuneki, 1963) の生態. つねきばち, (14): 34.

黒川秀吉, 2009. 福井県開発でフカイオオドロバチを採集. あられがこ, (47): 31

黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ). 保育社.

京都府自然環境保全課, 2015. 京都府レッドデータブック2015第1巻: 野生動物編. 京都府.

前田正紀, 2001. 本県の山地溪流に生息する水生昆虫4種について. 福井県陸水生物会報, (8): 8-11.

三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015. 三重県レッドデータブック2015: 三重県の絶滅のおそれのある野生生物. 三重県.

宮本正一, 1965. 半翅目. p. 75-112. 安松京三・朝比奈正二郎・石原保, 原色昆虫大図鑑Ⅲ. 北隆館.

宮武頼夫・加納康嗣, 1992. 検索入門セミ・バッタ. 保育社.

森正人, 2012. チョウセンゴモクムシの食餌植物について. さやばね, (5): 58-60.

- 森正人・北山昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版.
- 村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 北海道大学出版会.
- 村田文彦, 1989. 三ノ峰でゴマシジミを採集. だんだら, (3): 6.
- 室田忠男, 1998. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (23): 9-16.
- 室田忠男, 2001a. 福井県名田庄村虫谷での定点採集調査について. あられがこ, (39): 47-51.
- 室田忠男, 2001b. 厨城山の注目すべき蜂類について. 福井虫報, (29): 43-44.
- 室田忠男, 2002. 福井県蜂類分布資料. 福井虫報, (31): 15-16.
- 室田忠男, 2003. 敦賀市天筒山の有剣蜂類採集目録. 福井県敦賀市中池見湿地学術調査報告. 国立環境研究所.
- 室田忠男, 2005. フジジガバチの生態. つねきばち, (4): 83.
- 室田忠男, 2006. ニッポンハナダカバチの生態. つねきばち, (10): 62.
- 室田忠男, 2007. フクイアナバチの生態. つねきばち, (11): 37-38.
- 室田忠男, 2007. 足羽山調査で採集した珍しい蜂. あられがこ, (45): 2-5.
- 室田忠男, 2012. 福井県三里浜に生息する貴重な蜂類. あられがこ, (50): 2-7.
- 室田忠男, 2014. 福井県蜂類分布資料. あられがこ, (52): 4-12.
- 室田忠男, 2015. ニトベギングチ *Ectemnius nitobei* (Matsumura) 丹生山地に生息する. つねきばち, (27): 16.
- 室田忠男, 2015. 福井県のコガタホオナガヒメハナバチの分布について. あられがこ, (53): 7-12.
- 室田忠男・羽田義任・井上重紀・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉, 2009. 丹生山地で採取された膜翅目, 越前海岸および丹生山地の生物調査: 21-60.
- 室田忠男・羽田義任・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉, 2008a. 大佛寺山山塊の膜翅目. あられがこ, (46): 27-65.
- 室田忠男・羽田義任・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉, 2008b. 2006年までに採集された福井市足羽山の有剣蜂類. 福井市自然史博物館研究報告, (55): 89-104.
- 室田忠男・羽田義任・野坂千津子・田埜正・黒川秀吉, 2009. 丹生山地で採集された膜翅目. 越前海岸および丹生山地の生物調査: 2-10.
- 永幡嘉之, 2015. アカハネバッタ再発見される!. 日本チョウ類保全協会誌, (21): 14-17.
- 日本直翅類学会編, 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会.
- 日本産アリ類データベースグループ, 2003. 日本産アリ類全種図鑑. 学習研究社.
- 日本鞘翅目学会編, 1984. 日本産カミキリ大図鑑. 講談社.
- 日本チョウ類保全協会編, 2012. フィールドガイド日本のチョウ. 誠文堂新光社.
- 西原昇吾, 2008. よみがえれゲンゴロウの里. 童心社.
- 西原昇吾・梅村信哉・保科英人, 2015. 福井県におけるマルケシゲンゴロウの記録. さやばね, (20): 50-51.
- 野原精一・河野昭一編, 2003. 福井県敦賀市中池見湿地総合学術調査報告. 国立環境研究所.
- 野一色麻人・村上大介, 2015. 福井県産コガシラミズムシ科4種の記録. 福井市自然史博物館研究報告, (62): 79-80.
- 野坂千津子, 2001. ヤスマツヒメハナバチについて. 福井虫報, (29): 35-36.
- 野坂千津子・黒川秀吉, 2000. 天筒山で採集した有剣蜂類. 福井虫報, (26): 37-46.
- 野坂千津子・黒川秀吉, 2002. 2001年に採集された芦原町北潟湖畔の有剣蜂類. 福井虫報, (30): 27-37.
- 野坂千津子・黒川秀吉, 2003. 2002年北潟湖畔の有剣蜂類追加. つねきばち, (1): 55-58.
- 岡島秀治・荒谷邦雄, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 学研教育出版.
- 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三編, 1992. 日本産カミキリムシ検索図説. 東海大学出版会.
- 大林延夫・新里達也編, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大学出版会.
- 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. むし社.
- 長田勝・福岡修, 2000. 福井県敦賀市で海岸漂着物と共に拾得されたタガメ. 福井市自然史博物館研究報告, (47): 71-72.
- 尾園暁・川島逸郎・二橋亮, 2012. ネイチャーガイド日本のトンボ. 文一総合出版.

- 尾園暁・川島逸郎・二橋亮, 2013. ネイチャーガイド日本のトンボ(第2版). 文一総合出版.
- 埼玉県環境部みどり自然課編, 2008. 埼玉県レッドデータブック動物編. 埼玉県.
- 齊藤貞幸, 2005. 三国町でネアカヨシヤンマを採集. 福井虫報, (36): 25.
- 斎藤昌弘・片山和久, 2009. 県内のマガタマハンミョウの発生地を確認. 福井昆虫同好会報, (3): 27.
- 斎藤昌弘, 2010. 福井県産甲虫類図説(5) オサムシ科④. 福井昆虫同好会報, (5): 9-26.
- 坂本浩英, 1999. 福井大学構内から採集された注目すべき甲虫類. 福井虫報, (24): 41-42.
- 佐々治寛之, 1998. テントウムシの自然史. 東京大学出版会.
- 佐々治寛之・陶山治宏, 1989. サドコメツキモドキの再発見. 福井虫報, (4): 2-4.
- 佐藤正孝, 1977a. 日本産ミズスマシ科概説(1). 甲虫ニュース, (37): 1-5.
- 佐藤正孝, 1977b. 日本産ミズスマシ科概説(3). 甲虫ニュース, (39): 1-4.
- 佐藤正孝, 1978. 日本産ホソガムシ科概説. 甲虫ニュース, (40): 1-3.
- 嶋田敬介・富沢章, 2014. コガタノゲンゴロウを石川県で初めて発見. 石川県立自然史資料館研究報告, (4): 1-2.
- 下野谷豊一, 1976. 福井県未記録の蝶並びに異常型の蝶について. 福井県博物館同好会報, (23): 31-35.
- 下野谷豊一, 1983. 大野郡和泉村で見つかったヒメシジミ. 福井市博物学会会報, (30): 83-84
- 下野谷豊一, 1996. ヒメシジミとクロノマチョウの福井県からの記録. 福井市自然史博物館研究報告, (43): 69.
- 下野谷豊一, 1999. 福井県未記録の甲虫類6種(甲虫目). 福井市自然史博物館研究報告, (46): 131-132.
- 下野谷豊一, 2000. 体色によって生息環境を選ぶウスバカマキリ(カマキリ科). 福井市自然史博物館研究報告, (47): 61-62.
- 下野谷豊一, 2004. 未記録種を含む福井県スカシバガ科(チョウ目)について. つねきばち, (2): 13-17.
- 下野谷豊一・梅村信哉, 2012. 三ノ峰産が類の追加記録. 福井市自然史博物館研究報告, (59): 41-46.
- 志村隆編, 2005. 日本産幼虫図鑑. 学習研究社.
- 白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学研教育出版.
- 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司, 1999. 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 北海道大学図書刊行会.
- 陶山治宏, 1988. 福井県坂井郡の甲虫採集記録. 福井虫報, (3): 41-44.
- 陶山智子・陶山治宏, 2010. 足羽山とみのり地区の蜂達. あられがこ, (48): 17-23.
- 高木誠一・羽田義任・田埜正, 2009. 日本産ギングチバチ亜科の分布について. つねきばち, (16): 41-66.
- 高橋秀雄, 2001. チャイロスズメバチの記録. 福井虫報, (29): 57.
- 高橋秀雄, 2001. 敦賀半島の蜂の記録. 福井虫報, (27): 50.
- 高見澤今朝雄, 2005. 日本の新社会性ハチ. 信濃毎日新聞社.
- 田仲義弘, 2012. 狩蜂生態図鑑. 全国農村普及協会.
- 田埜正, 2009. ハナハス温泉のフクイアナバチを救った増澤前町長. あられがこ, (47): 32.
- 田埜正・室田忠男, 1998. 足羽川流域で採集された膜翅目. p. 57-85. 福井県高等学校生物研究会編, 足羽川流域の生物調査. 福井県高等学校生物研究会.
- 寺山守・久保田敏, 2009. アリハンドブック. 文一総合出版.
- 千葉県, 2011. 千葉県の保護上重要な野生生物: 千葉県レッドデータブック動物編(2011年改訂版). 千葉県
- 富沢章, 2000. 石川県におけるハマゴウノメイガの分布と生態. 蛾類通信, (211): 208-212.
- 栃木県自然環境課・栃木県立博物館編, 2005. レッドデータブックとちぎ. 栃木県.
- 富山県生活環境文化部自然保護課編, 2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物: レッドデータブックとやま 2012. 富山県.
- 都築裕一・谷脇景徳・猪田利夫, 2000. 改訂版水生昆虫完全飼育・繁殖マニュアル. データハウス.
- 上野俊一・黒沢良彦・佐藤正孝編著, 1985. 原色日本甲虫図鑑(II). 保育社.
- 梅村信哉・下野谷豊一・伊藤哲男・伊藤勝幸・内藤由香子, 2011. 大野市小池公園におけるガ類—福井市自然史博物館友の会行事「上小池でライトトップ」の結果より—. 福井市自然史博物館研究報告, (58): 49-56.

- 内山りゅう, 2005. 田んぼの生き物図鑑. 山と溪谷社.
- 和田茂樹, 2006. 福井県, 石川県における最近のトンボ類の記録. 福井市自然史博物館研究報告, (53) : 117-128.
- 和田茂樹, 2011. 福井県おおい町 (旧名田庄村) でヒメハルゼミの生息を確認. 福井市自然史博物館研究報告, (58) : 63-64.
- 和田茂樹, 2015. 福井県敦賀市中池見湿地～放棄水田群におけるトンボ相の変遷～. p. 28-31. 失われゆく日本のトンボ生息地. 日本トンボ学会.
- 和田茂樹・和田洋一, 2006. 福井県・石川県における最近のトンボ類の記録. 福井市自然史博物館研究報告, (53) : 117-128.
- 渡部晃平, 2015. 福井県における希少水生甲虫2種の記録. さやばね, (20) : 50.
- 渡辺恭平・田埜正・黒川秀吉・室田忠男・野坂千津子 2012. 福井県における寄生蜂の採集記録. つねきばち, (21) : 1-78.
- 山元宣征, 2013. 長崎県本土の有剣ハチ類 (2). つねきばち, (23) : 27-30.
- 安永智秀・高井幹男・山下泉・川村満・川澤哲夫, 1993. 日本原色カメムシ図鑑. 全国農村教育協会.
- 安永智秀・高井幹男・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑 (第2巻). 全国農村教育協会.
- 吉田浩史, 2006. 大阪府のハバチ・キバチ類. 六本脚.

概 説

福井県では、1933年(昭和8年)陸軍特別大演習の折、県下小中学校児童生徒、教職員を総動員して博物採集(植物・昆虫、貝類)が行われ天覧の栄を賜った。この時から福井県の貝類研究はスタートしている。日本貝類学会創始者故黒田徳米(1933、Vinus)、鯖江師範(現鯖江高)故窪田彦左衛門・鯖江市医師：故古川田耕(1933、1947)、故齋藤岩雄(1972、1975)故鈴間愛作と続き、長谷川巖(1976、1985)と継承し福井県の陸淡水産貝類の生息調査が今日まで継続されている。

しかし、農業県福井では、福井県嶺北地域は圃場整備率90%、越前海岸地域や嶺南の名田庄村や高浜は50数%であるが、この圃場整備に連動して農業溜池の整備、農業用排水路、農業道路の整備で、陸産貝類の平野部での環境に大きくかわり、生息環境変化で生息確認数が激減している。また、全国平均の2倍以上あった薪炭用材林野を抱えていた福井県は、1964年の「林業基本法」、1965年の「山村振興法」により、1971年(昭和46年)には「福井県民造林長期計画」に改定し、大幹線林道、幹線林道、一般林道、県単独林道など業務区分で、1986年には1,115kmが整備され、人工林造林率も倍増し46.2%にもなっている。同時に高度成長とともに、外材の輸入により、衰退がはじまり、管理放棄や荒廃が進行し、開発と管理放棄で陸産貝類の生息も大きな影響を受け続けている。

陸産貝類は移動性の乏しい生物群であるため、地理的分布が限定される傾向があり、福井県は、敦賀-琵琶湖-尾張を結ぶ生物地理学的に区分される、東北日本福井県嶺北地域と西南日本の福井県嶺南地域(若狭)とにより、生息種や亜種内の地理的変異が認められる。平成27年12月現在、26科127種の生息が確認されている。

前回のRDBでも生息が確認できなかった、越前海岸や若狭での標本があるカワザンショウガイ科のヘソカドガイ、クリイロカワザンショウガイ、ウスイロヘソカドガイを県域絶滅としている。イツマデガイ科のエチゼンイツマデガイをニクイロシブキツボの地方型として記載したが、生殖器官の知見から環境省(2014)では2分されているので、両方とも福井県での生息状況から県域絶滅危惧Ⅰ類としている。またヤマママタニシもⅡ類からⅠ類にランクアップしている。その他、水辺にすむナガオカモノアラガイ、亜高山帯のキョウトギセル、石灰岩地にすむクチマガリスナガイ、近畿にすむ福井の若狭が北限のコベソマイマイ、ヤマクルマガイ、アツブタガイ、潮間帯のオオウスイロヘソカドガイ、前回は記載したオオコウラナメクジ、ミヤマヒダリマキマイマイ、オオミケマイマイ、カンムリケマイマイ、トノサマガセル、ヤマコウラナメクジ、エチゼンビロウドマイマイ、ミドリベッコウ、ココロマイマイ、カンムリレンズガイ、ハクサンマイマイ、オクガタキセル、ケハダビロウドマイマイ、ヤマトキバサナギガイをそのまま生息確認情報が減少しているため県域絶滅危惧Ⅱ類にしている。また、調査や環境アセス情報も少ない微小貝のオオウエキビ、クリイロベッコウオオウエキビ、ナタネキバサナギガイも県域絶滅Ⅱ類に選定している。その他、コガネマイマイ南越山地、敦賀では生息が激減している。亜高山帯のオオギセル、クリイロキセルガイモドキも確認情報が激減し、前回RDB同様、県域準絶滅危惧種にしている。また、新たに微小貝スジケシガイを県域準絶滅危惧に追加している。

敦賀をタイプ標本とするハクサンマイマイの平地型ツルガマイマイは、福井県全域に普通に身近に生息していたが、みどりのデータバンク調査(1985)や10年後の第2回調査(1998)、福井県RDB(2002)、改定福井県RDB(2015)と調査を進めているが、平野部では約10年ごとに生息確認地が激減し局所的になり、山麓帯の一部や自然公園地の一部でしか確認できない。生息確認減少の様子は驚くものである。若狭地域も近畿平野部に生息するナミマイマイに置き換わりつつある。また、近畿平野部に普通に生息しているクチベニマイマイは福井県が北限であるが、生息地が福井県嶺北地域では大野市の公園のみとなり、嶺南地域も都市化の進んだところでは生息が確認されていないため、要注目とした。コシダカコベソマイマイ、ヤマタカマイマイは福井県の山麓帯の乾燥気味の林床に生息する大型マイマイであるが、減少傾向にあり、環境省RDBに掲載されているため要注目とした。

近年、多くのベッコウマイマイ科やヤマタニシ科の微小貝の生息が確認されてきている。生息数が少なく、生息情報が少ないため、サドヤマトガイ、トウカイヤマトガイ、ゴマオカタニシ、ナタネガイ、タカキビ、マルシタラガイ、オオヒラベッコウ、ハクサンベッコウ、スジケシガイ、カサネシタラガイなど要注目している。

イボイボナメクジ類のホソアシヒダナメクジ科のシライボイボナメクジが足羽川ダム建設環境アセス調査で確認され、別の中部自動車道や北陸新幹線環境アセス調査でも確認され、2系統が生息すると思われる。今後の精査を期待

ウスイロヘソカドガイ

Paludinella stricta (Gould)
新生腹足目・カワザンショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

潮間帯の大きめの転石の側面や灌木帯、漂着物の下、川の河口付近のれき間やヨシ群落の流木下にも生息する。県内では越前町四浦や厨産の標本が存在するが、50年以上確認されていない。

種の特徴

殻高 6mm、殻径 4mm、螺層は 6.5 層。殻は円錐形卵型で光沢のある黄橙色。殻口はやや洋ナシ型で薄い角質膜状の蓋がある。軟体部は黒く、触角も長い。陸棲と海浜棲が存在し、ヘソカドガイ属は分類が混乱しており、再検討が求められている。

分布

日本では能登半島・房総半島以南の本州から沖縄まで分布する。県内では飛沫のかかる自然海岸で採捕されていた。

生息を脅かす要因

潮間帯上部の飛沫がかかる自然海岸帯が、駐車場、漁港拡張、道路建設、護岸工事で埋め立てられたりして、大きく生息地が縮小している。

参考文献 福井県 (1985)、増田・内山 (2004)、窪田 (1962)、黒田 (1933)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							●										

クイロカワザンショウガイ

Angustassiminea castanea (Westerlund)
新生腹足目・カワザンショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

河口干潟や河口内湾奥部の高潮線付近のれきや流木のヨシ原内の転石下やゴミの間に生息する。越前四ヶ浦や若狭和田の標本が残されているが、現在では九頭竜川河口域や北潟湖・三方五湖の高潮帯のアシ原湿原等では数十年生息が確認されていない。

種の特徴

愛知県産を観察すると、高約 5mm、殻径 3mm の殻は小型、高い円錐形。栗色～赤褐色の殻は縫合の下に細い 1 螺条溝があり、ハケ班状に侵食され白くなる。臍孔は開かず、蓋は角質、少旋型。軟体足部は黒褐色で口吻、頭部、足の側面が黒い色素で覆われる。

分布

房総半島以南の本州・四国・九州の太平洋側海岸線・瀬戸内海に分布している。、現在では本県の九頭竜川や河口域や北潟湖や三方五湖は生息域ではない。

生息を脅かす要因

生息地が潮間帯最上部の河口内の高潮帯のヨシ原湿原に限定されるため、水質汚染、海岸の埋め立て、河川改修等の縮小が生息を脅かす最大の要因。生息する高潮帯のヨシ原の再生が重要である。

参考文献 福井県 (1985)、増田・内山 (2004)、窪田 (1962)、黒田 (1933)、丸井 (2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			●				●										

ヘソカドガイ

Paludinella japonica (pilsbry)
新生腹足目・カワザンショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

自然海岸の海岸線上部の灌木根元や海藻の打ち上げられるれき間に生息する。県内には過去の標本があるが、1997年のナホトカ号重油流出事故で壊滅的に潮間帯生物が激減したが、それ以前の数十年も生息が確認されていない。

種の特徴

ヘソカドガイ類の中小型で、殻高 6mm、殻径 4mm、螺層 6 層の円錐形卵型。硬質堅固。殻は光沢のある茶褐色。体層は膨らみ周縁に弱い竜骨状の角がある。軟体は漆黒褐色で、触角は長く基部に目がある。他県の城ヶ崎では海岸道路の潮間帯上部で多くみられた。

分布

日本では秋田県～九州・屋久島に分布し、県内では越前海岸に分布。県内では四ヶ浦産の標本が残っている。一次・二次の「みどりのデータバンク」今回の RDB 調査でも確認がない。

生息を脅かす要因

福井県では、越前加賀国定公園、若狭湾国営公園の景勝地に位置し、海岸道路が整備され、少ない平地は埋め立てが進み、自然海岸線が少なくなり

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、窪田 (1962)、増田・内山 (2004)、水産資源保護協会 (1997)、東正 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							●										●

陸産貝類

ヤマクルマガイ

Spirostoma japonicum japonicum (A.Adamus)
新生腹足目・ヤマクルマガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息条件が著しく悪化し、危機的水準まで減少している。過去におおい町以西で多数が標本として残されたが、近年の確認は激減している。

種の特徴

殻高6mm前後、殻径12mm前後で硬質な円盤型の右巻きの貝類。殻は平滑でやや光沢のある黄褐色。軟体部は灰褐色。タブノキやウバメガシ等の木の落葉下に生息する。

分布

中部以南の本州、四国、九州に分布する。県内では、おおい町以西の暖温帯自然植生地に分布する。

生息を脅かす要因

多少の乾燥には耐えるが、林道建設等による生息環境の改変や極度の乾燥化が主な減少の要因である。

参考文献 福井県編 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○														

ヤマメタニシ

Fukuia integra Pillsbry
新生腹足目・クビキレガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

日本の固有種。県内の和泉村朝日、越前町六所山、武生市鬼ヶ岳でも生息が確認されていた。最近では、池田町田代周辺でも新たに確認された。微小種であるため、生息域の詳細、個体群が不明で今後の調査を待たなければならない。

種の特徴

殻長4.5mm、殻径3.0mm、螺層5.0層の高円錐状の微小貝。体層周辺部は円い。臍孔は小さく開く。殻は薄く小旋型。雌雄異体。雄陰茎は軟体部中央に位置し、前方に伸びて逆行して先端に細く伸びる。

分布

本種は、島根県枕木山から隠岐、山陰、北陸を経て、北限の秋田県尾閉山に分布する。県内では新たに、標高400m池田町田代周辺の落葉広葉樹林床草本上で確認された。

生息を脅かす要因

県内の確認地では、スギ・ヒノキ植林地の間伐、また、搬出林道造成、個人所有地の管理不足等遷移による乾燥化が本種の存続を脅かす要因である。

参考文献 湊 (1980)、環境省編 (2014)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○		○			●				●	

ニクイロシブキツボ

Fukuia kurodai Abbott & Hunter
中腹足目・イツマデガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

福井県坂井市竹田がタイプ産地。県内ではほかの生息地も確認できず、現在ではタイプ産地も、雪崩防止工事や碎石場の建設、マニアの採集圧で、生息域や個体数が激減している。

種の特徴

フクイシブキツボより大型で、殻高9mm、殻径5mm、6層の幅広い卵型。殻色は光沢の赤褐色で硬質堅固。老成すると黄褐色になることが多い。縫合は深く、殻口は斜位で卵型。蓋はキチン質、半透明、やや厚く少旋型。

分布

本種は日本海側の京都府から近海要素を持ち、秋田県まで分布する。県内では、タイプ産地の坂井市竹田周辺のみ分布する。

生息を脅かす要因

美しい陸貝は、マニアの採集圧にさらされている。そのほか、生活安全のための工事や、道路工事等で生息地域が縮小している。

参考文献 江川 (1991)、金安 (1975)、金安 (1976)、湊 (1979b)、湊 (1973)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○						○

フクイシブキツボ

Fukuia multistriata Abobott & Hunter
 新生腹足目・イツマデガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

越前市小野町タイプ産地は、道路工事・採集圧で消滅したと思われるが、越前町のほかの生息地の生息地は公園整備が進み、越前町では林道改修で環境が相当悪化してきて、最近では生息確認個体がみられない。

種の特徴

ニクイロシブキツボの地方型としていたが、雄生殖器（陰茎）の先端が長大であり異なる。殻長 5.0～7.0 mm、殻径 3.6 mm、卵型錐形状、薄い殻が堅固。常に滝や瀬で、常に飛沫のかかる岩肌や蘚苔類の局所的な生息環境に成育する。

分布

本種は、ニクイロシブキツボの地方型として位置付けられている。県内では越前海岸や越前市でかけて局所的に確認されていた。

生息を脅かす要因

生活道路や林道拡張工事による生息地の破壊、集中豪雨等の岩肌の崩壊、景観整備、公園化の整備等で簡単に消滅する。

参考文献 金安（1975）、金安（1975）、湊（1979）、江川（1985）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○					○					

オオウスイロヘソカドガイ

Paludinella tanegashimae (Pilsbry)
 新生腹足目・カワザンショウガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

越前海岸地帯の海岸道路建設地の生息地は極度に縮小し、そのほかの既知の生息地では確認されない等、危機的水準まで減少している。

種の特徴

殻高 7.8 mm、殻径 5.2 mm 程度。円錐形卵型で、殻色は光沢のある茶褐色である。軟体は黒褐色。海岸の打ち上げ物や海藻のある岩礫の間に生息する。

分布

本州及び九州に分布する。県内では越前町の呼鳥門付近や玉川海岸に生息するが激減している。

生息を脅かす要因

生息地の潮間帯が重要であり、海岸線の埋め立てや海岸部の道路建設等による生息地の直接的な改変が主な要因である。

参考文献 福井県編（2002）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										○

ナガオカモノアラガイ

Oxyloma hirasei (Pilsbry)
 異鰐目・オカモノアラガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

水中には入らないが、水田地帯の自然の用排水路や河川の水際エコトーンに生息するため圃場整備や河川改修により危機的水準まで減少している。

種の特徴

殻高 20 mm、殻径 13 mm 程度（殻高 12.5 mm、殻径 6.5 mm 程度）、長卵型の貝類。淡褐色の殻は薄質半透明である。河川の水際のヨシ帯や水田の畔等の植生が繁茂した極めて湿潤な環境に生息する。

分布

本州及び九州に分布する。県内では、嶺北地方や嶺南地方の自然環境が残る平野部の水際に分布する。

生息を脅かす要因

河川の護岸工事による植物の除去や、湿地の埋め立て等の開発、農薬の使用等に起因する。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2014）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1995）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○				○	○	○	○	○			○

アツブタガイ

Cyclotus campanulatus (Martens)
新生腹足目・ヤマタニシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

アカマツ林やコナラ林等の暖温代償植生がスギ植林に改変され分布域が極めて限られ、生息条件が著しく悪化している。

分布

埼玉県と本州中部以西、四国、九州に分布する。県内では、滋賀県や京都府との県境の低山帯の一部に分布する。

種の特徴

殻高 10 mm、殻径 14 mm 程度。殻は光沢のある濃い茶褐色で、硬質低円錐形の右巻き貝類。石灰質の蓋は厚く 1mm となり、多旋型である。温暖なや乾燥した落葉樹林の落葉下や石の下等に生息する。

生息を脅かす要因

林道や道路建設砂防ダムや公園整備等による生息環境の改変や、極度の乾燥が主な要因である。

参考文献 福井県編 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○												

ナタネキバサナギガイ

Vertigo eogea eogea Pilsbry
異鰓目・キバサナギガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

最近、敦賀市の中池見湿地に生息していることがわかった。中池見湿地での生息状況は安定しているものの、生息環境は湿地内の湿潤な落葉下に極限されている。

分布

北海道、本州、四国に分布。県内ではこれまで 1993 年の杉津産や、1953 年に採集された標本が唯一の記録であったが、最近、敦賀市でのみ確認されている。

種の特徴

殻長 2 ~ 2.5 mm、殻幅約 1 mm、巻数 3.5 回の微小陸産貝類。殻は太短い円筒形で半透明の茶褐色。体層は大きく、各螺層はよく膨らみ、螺頂は丸い。殻口は半月形で外唇中央部が浅く湾入する。成熟すると殻口内に計 6 本の歯がで、殻口縁は強く反転する。

生息を脅かす要因

本種は休耕田等の湿潤な落葉下に生息するため、植生遷移等により湿地が乾燥化すると生息環境が失われる。また、このような環境は水位の変動による影響を受けやすいため、湿地の上流部や集水域等の湿地周辺の水源の開発も減少要因となる。

参考文献 環境省編 (2014)、藤野・金尾 (2014)、金尾・中井 (2011)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ヤマトキバサナギガイ

Vertigo japonica Pilsbry & Hirase
異鰓目・キバサナギガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では奥越山地、池田町で確認されているが、分布は非常に局地的である。また、微小貝であるため調査も困難である。さらに、生息環境である林床の湿潤な生息環境条件は悪化しており、個体数もかなり少ない。

分布

北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では 1952 年に勝山市北谷、1999 年と 2002 年に池田町東青の自然林の溪流沿いのやや乾燥した斜面状で確認されている。

種の特徴

殻高 1.7 mm、殻径 1 mm、巻数 4 回の微小貝。殻は平滑で光沢がある淡褐色の円筒形。半月状の殻口には 4 本の歯状突起があるのが特徴である。

生息を脅かす要因

林道整備による森林伐採等生息地周辺の開発による森林の乾燥化が、主な要因となっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014)、福井県編 (2002)、窪田 (1962)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○			○			○		

トノサマガセル

Mundiphaedusa ducalis (Kobelt)
異鰐目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

白山山系の加越山地、越美山地と丹生山地のブナ林帯に広く生息していたが、分布が局所的で、個体群サイズがかなり小さくなっている。

種の特徴

殻高約 35 mm、殻径約 9 mm、巻数 12 回、紡錘形でつやつやした光沢のある黄褐色。殻口は洋梨形で乳白色の滑層で覆われる。軟体部は暗褐色（アメ色）。卵生。

分布

北陸から岐阜県にかけての白山山系と丹生山地に局所的に分布。本県内では越知山の一部の生息地は林道開発により消滅し、奥越山地にのみ生息する。

生息を脅かす要因

林道開発や森林整備等による落葉広葉樹林の伐採及び改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）、湊（1994）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○	○						○	○	○

ヤマコウラナメクジ

Nipponolimax monticola Yamaguchi & abe
異鰐目・オオコウラナメクジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生息域が南条山地や奥越山地等局所的であり、個体数も極めて少ない。森林伐採等の周辺乾燥化により影響を受ける。ただし、嶺南山地の調査についてはまだ十分でない。

種の特徴

軟体はやや青味がかかった黒色で、頭部、触覚は漆黒色で光沢がある。体長 30 mm、体幅 7.5 mm、体高 9 mm。背中の楯は大きく縦 10 mm、横 6 mm もあり、その後方は著しい稜角がある。スギ植林地の湿潤な落葉下等で確認されている。

分布

近畿以西の本州、四国に分布する。本県では、南越前町今庄高倉峠、大野市の伊勢橋周辺と仙翁谷の山地、越前町江波で確認されている。

生息を脅かす要因

乾燥に弱い種であるため、森林伐採、林道整備等による生息地の林床の乾燥化、沢の湿地の減少等が減少要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）、湊（1983a）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○							○	

オオウエキビ

Trochochlamys fraterna (Pilsbry)
異鰐目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

山岳地でも確認されているが、主に自然度の高い里山の落葉下で見られるが、分布が局所的で個体数も少ない。微小貝で稀産種。

種の特徴

殻高約 3 mm、殻径約 2 mm、螺層 6 層、丸味のある円錐形で淡褐色。各螺層は膨らみ縫合は深い。軟体部は淡灰色から黄褐色。山麓部のスギと広葉樹の混交林の湿潤な腐葉土が堆積した環境に生息する。

分布

本州、四国、九州に分布する。本県内では局所的に生息が確認されている。確認地は南越前町清水、大野市和泉村大谷、大野市東市布、池田町貝皿、高浜町である。

生息を脅かす要因

林道開発や森林伐採による生息環境の改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、東（1982）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○	○	○	○			○			○	○	○

ミドリベッコウ

Bekkochlamys kagaensis (Pilsbry & Hirase)
異鰐目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

奥越山地の亜高山帯に分布するが、自然林がチップ材利用や針葉樹の植林地に改変等、本種の生息林床の条件が明らかに悪化し、確認される個体数もかなり少なくなっている。

種の特徴

殻高 12 mm、殻径 17 mm、巻数 5 回の円形の陸産貝類。殻は緑色を帯びた黄褐色（ベッコウ色）薄質で光沢の強い半透明。殻表には細かい成長脈が存在する。黒褐色の軟体部は、殻に納まりきらない。

分布

白山山系に分布する。県内では白山山系の大野市和泉の上打波、大野市の智奈洞谷等の一部の亜高山帯に生息する。池田町の冠山や大野市の仙翁谷は激減して絶滅に近い。

生息を脅かす要因

水辺や湿地、日陰のササ群落の湿潤な落葉下にしか生息できないため、林道等の整備、沢や水辺の落葉広葉樹の伐採による生息地の乾燥化が主要な要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）、環境省（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	

ココロマイマイ

Satsuma cardiostoma (Kobelt)
異鰐目・ニッポンマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

福井県の亜高山帯自然植生や冷温帯自然植生が、スギ植林等で生息条件が明らかに悪化し個体数・生息地が減少している。

種の特徴

殻高約 14 mm、殻径約 15 mm、巻数約 6 回、丸みを帯びた円錐形で黄褐色から茶褐色。殻表は平滑で光沢がある。軟体部は茶褐色で暗褐色の小斑点が多数散在する。ブナ林の倒木下に生息する。

分布

主として近畿地方北東部に分布する。本県内では奥越山地や南条山地の山麓部や、亜高山帯のミズナラ、ブナ帯に分布する。

生息を脅かす要因

林道開発やスギ・ヒノキの植林、森林の伐採によるブナ林等の自然度の高い落葉広葉樹林の減少が主要な要因である。収集家・愛好家による過度の採集や、登山者等の増加による生息地の環境改変も個体数減少の要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）、湊（1997a）、窪田（1962）、黒田（1933b）、環境省（2005）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○					○	○	○	

ケハダビロウドマイマイ

Nipponochloritis fragilis (Gude)
異鰐目・ニッポンマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

平野部や山麓部のスギ植林地や落葉広葉樹の混交林帯に生息するが、個体数が大幅に減少している。希産種となった。

種の特徴

殻高約 12 mm、殻径約 18 mm、巻数約 5 回で淡黄褐色。縫合が深く、体層が急激に膨らむ扁平な球状巻貝。殻は薄質で殻表には先端がカギ状の短毛状の殻皮が規則的に密生してピロウド状になる。口唇は薄い。軟体部は黒色で光沢が強く、殻に入りきらない。

分布

北陸、近畿、中国地方に分布。本県内では低山地帯から丘陵地の湿潤な倒木の下や落葉下に生息し、嶺北地域の低山の山麓帯と嶺南山地には多く生息する。

生息を脅かす要因

生息地が宅地造成や墓地整備、道路建設等開発の対象となりやすく、自然度の高い落葉広葉樹林の減少と、生息地の乾燥化が主要な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○

エチゼンビロウドマイマイ

Nipponochloritis echizenensis (Pilsbry & Hirase)
異鰓目・ニッポンマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

加越山地や奥越山地の山麓部や低山帯ではみられるが、特に平野部で個体数が大幅に減少しており、生息条件も明らかに悪化している。

種の特徴

殻高 15 mm、殻径 19 mm 程度で濃い黄褐色の丸みを帯びた円錐形の右巻き貝類である。表面には硬い羽毛状の短い鱗片状突起が斜めに規則的に生える。山地の湿潤な環境に生息する。乾燥に弱い。

分布

富山県、石川県、福井県に分布する。本県では、奥越地方の山岳地等に分布する。過去には、県下一円に生息していたが、タイプ産地の越前市大虫地域では激減している。

生息を脅かす要因

分布が局限しており、森林伐採等による林床の乾燥化等の、環境改変により絶滅の危険性がある。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2014)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
									○	○		○	○			○	○	

カムリケマイマイ

Aegista kanmuriyamensis (M.Azuma & Y.Azuma)
異鰓目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

加越山地、奥越山地の冷温帯自然植生林床に生息する。生息地が局所的で、個体数が極端に少ない。

種の特徴

殻高約 7.5 mm、殻径約 9.0 mm、巻数 5.5 回で円錐形。殻は光沢のある淡い茶褐色から濃茶褐色で不規則な白から灰色の火炎彩模様がある。また密に細い微細な短毛状の凹凸突起があるが成長とともに脱落。軟体部は薄いアメ色ないし茶色で黒い斑点がある。

分布

日本固有種。福井・岐阜・石川の各県の限られた範囲にのみ分布する。本県内では冠山のブナ極相林と金草山の林道付近等に生息する。

生息を脅かす要因

生息地が局限されており、生息地の林道開発や森林伐採による環境変化が主な要因である。また登山者や山野草の採集者等による攪乱も個体数減少の要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1999)、福井県編 (2002)、岐阜県編 (2010)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
									○		○					○	○	

オオミケマイマイ

Aegista omiensis (Pilsbry)
異鰓目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

越前市の自然公園で一時的に高密度に発生した事例もある。しかし、温暖帯自然植生林床に生息するが個体数がかなり少ない。

種の特徴

殻長 3.0 ~ 5.0 mm、殻径 7.5 ~ 8.5 mm 程度。低円錐形で、殻色は淡褐色である。完全な地表性の種で、森林下の落ち葉の堆積したところに生息し、樹幹に登ることはない。エチゼンマイマイは同種地方名である。

分布

滋賀県を中心に岐阜県、福井県、石川県に分布する。本県では、嶺北地方を中心とした里山に局所的に分布する。

生息を脅かす要因

生息密度がかなり低く、確認される個体数は少ないが、生息を脅かす原因は、里山の山麓帯に生息するため土地造成、農地整備道路整備等により生息地が改変される可能性がある。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2014)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○						○	○		○		○			○

ハクサンマイマイ

Euhadra latispira latispira (Pilsbry & Hirase)
異鰐目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

分布が局所的で個体数も少なく、生息条件が悪化している。

分布

白山山系に分布し、県内では山地帯の標高700m以上に分布する。勝山市の赤兎山、大長山、経ヶ岳、大野市の願教寺山、荒島岳、冠山、高倉峠で生息が記録されている。

種の特徴

殻高約30mm、殻径約50mm、巻数6.5回で右巻大型。ツルガマイマイの山地型で、殻の色は黄緑から黄褐色、濃い赤褐色と変異が多い。殻表面に粗い成長脈がある。軟体部は赤褐色から橙褐色で背中央部に幅広い黒色の縦条がある。色帯は0204型が多い。

生息を脅かす要因

山岳地の林道開発等に伴う落葉広葉樹の伐採や、スギ植林の間伐等による生息環境の改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編(1998)、福井県編(2002)、湊(1985b)、齋藤(1971)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

ミヤマヒダリマキマイマイ

Euhadra scaevola scaevola (Martens)
異鰐目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の分布域はかなり縮小し、環境変化により生息条件が明らかに悪化している。公園整備で消滅した生息地もある。

分布

全国的には本州の近畿北部～関東西部の数府県に分布するが、どの生息地でも個体数は多くない。県内では嶺北地方で分布が確認されている。

種の特徴

殻高14～16mm、殻径27～33mm内外、螺層5・1/2～6層。螺塔の低い扁平な県内唯一の左巻き貝。茶褐色の殻表は成長脈が粗く刻み、前面に打痕がある。沢沿いのれき等が堆積している下草の多い緩傾斜のガレ場に生息する。

生息を脅かす要因

生息地が局所的であり、自然災害や環境変化、里山公園整備により生息が困難となっている。マニアによる採集圧も大きい。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編(1998)、環境省編(2014)、福井県編(2002)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○	○		○	○	○		○	

カムリレンズガイ

Otiosiopsis kanumuriyamensis Azuma
異鰐目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

山地帯自然植生ブナ帯で確認されたが、冷温帯代償植生帯でも確認される等、調査精度が向上したが、分布域がかなり限定されている。

分布

タイプ産地である福井県池田町の冠山周辺に生息する。また、大野市、勝山市、南越前町からの記録もあり、分布域は拡大している。

種の特徴

殻高2.9mm、殻径10.0mm程度。螺塔はやや高く、算盤玉型で、体層周縁は強く角張り龍骨となる。殻色は光沢のある黒褐色である。本県池田町冠山(タイプ産地)周辺の標高の高いブナ林の朽木や落葉下に生息する。

生息を脅かす要因

分布域が局限され、環境改変や自然災害等で容易に絶滅する危険性がある。また、マニアの採集圧も一因である。

参考文献 福井県編(2002)、環境省編(2014)、福井県自然環境保全調査研究会編(1985)、東(1995)、東(1973)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

スジケシガイ

Carychium noduliferum Renhardt
新生腹足目・ケンガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

微小貝であるため、確認が難しい種であるが、県内では生息地である自然森林が改変されており、個体数が減少している。

種の特徴

微小な白い貝で、殻高 2 mm、殻径 0.8 mm、螺層 6 層の美麗貝。殻表は平滑に近く光沢のある半透明色をしている。外唇中ほど少し上と、内唇中ほどの滑層上と軸唇端に歯がある。

分布

北海道、本州、四国、九州、琉球列島（奄美、沖縄）に分布する。県内山地のれきまじりの杉の落葉下等に分布する。

生息を脅かす要因

湿潤な自然林に生息する種であるため、森林伐採による乾燥化等が個体数減少の要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○			○	○						○	○	

クイロキセルガイモドキ

Mirus andersonianus (Moellendorff)
異鰓目・キセルガイモドキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

亜高山帯自然植生や冷温帯自然植生の林床に生息しているが、個体数が激減している。

種の特徴

殻高約 22 mm、殻径約 8 mm、巻数 7.5 回で右巻中型。殻は濃い栗色の光沢があり円錐形で殻口は卵形。唇縁は白い滑層となり反転、殻表面に顕著な網目状彫刻がある。軟体部は暗黒色。本県内では唇縁が赤紫色の地方型エチゴキセルガイモドキ系の個体が多い。

分布

北海道から鳥取県までの主に日本海側に分布。本県内では奥越山地から南条山地の標高 800m 級以上のブナやミズナラ、イタヤカエデ等の林床の倒木・落葉下に生息する。

生息を脅かす要因

林道開発や針葉樹植林。森林伐採による生息環境の改変が主な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県編（2002）、湊（1999）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

オクガタギセル

Mundiphaedusa dorcas (Pilsbry)
異鰓目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

トノサマガセルやハゲギセルと共存する奥越、加越山地の白山山系の標高 700m 以上に生育するブナ・ミズナラ林では、生息地が縮小し、個体数が大幅に減少している。

種の特徴

殻高 35 mm、殻径 6.5 mm 程度。殻は弱い光沢のある黄褐色で、紡錘形。軟体部は淡褐色である。

分布

関東山岳から白山山系の山岳地に分布する。県内では、南越前町や大野市等の山岳地帯で局所的に分布する。

生息を脅かす要因

森林伐採等の環境改変や、コレクター等による採集行為等が要因である。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2014）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1995）、湊（1994）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

オオギセル

Megalophaedusa martensi (Martens)
異鰓目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

福井県では奥越・丹生山地と分布域が限られている。また、森林開発で個体群サイズが小さくなり、特に丹生山地の分布は局所的で危機状態となっている。

分布

関東から中国地方の本州、四国に分布する。県内では奥越山地、丹生山地等限られた場所で確認されている。

種の特徴

殻高 36～48 mm、殻径 8.5～10.5 mm、螺層 10～11 層の日本での最大キセルガイ。淡黄褐色から赤褐色で細長く左巻きの貝。山地の森林の落葉の下等に生息する。

生息を脅かす要因

森林の開発による生息環境の改変、さらに愛好家による採集圧も個体数減少の要因となっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014）、福井県編（2002）、湊（1994）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○						○	○	

オオコウラナメクジ

Nipponarion carinatus Yamaguchi & Habe
異鰓目・オオコウラナメクジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

落葉広葉樹林帯の湿潤な落葉下に局所的に生息し、個体数が減少している。

分布

本州、四国、九州に分布する。県内では、奥越地方や嶺北地方南部、敦賀市等に分布する。

種の特徴

体長 35 mm、体幅 10 mm、体高 9 mm 程度。軟体は褐色で淡い褐色斑点がある。体の前方、頭部、触角は黒くて光沢がある。落葉広葉樹林帯の落葉下に局所的に生息する。

生息を脅かす要因

樹木の伐採等による森林の減少や林床の乾燥化等が要因である。シカ食害による植生破壊の影響が懸念される生息地がある。

参考文献 福井県編（2002）、環境省編（2014）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1995）、湊（1987b）、湊（1973a）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○				○		○	○	

コガネマイマイ

Euhadra sandai sandai (Kobelt)
異鰓目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

夏緑広葉樹林帯環境に生息するが生息地が縮小し、生息条件も悪化している。近年敦賀市の生息地ではマニアにより絶滅した。

分布

北陸から近畿北部に分布する。本県内では平野部のナミマイマイとはすみわけ、海岸地帯から山地帯までの広範囲に局所的に分布する。

種の特徴

殻高約 21 mm、殻径約 41 mm、巻数約 6 回、大型で螺塔が著しく低く扁平。殻皮に黒褐色の色帯を持ち、成長脈に添って鮮黄色の火炎彩模様が著しくあらわれ虎模様となる。臍孔は広く緩やかで浅い。軟体部は黒灰色で背面上に黒縦帯がある。樹上性。卵生。

生息を脅かす要因

都市化の影響を受けて山麓帯の生息地は激減した。宅地造成や林道開発等による自然度の高い落葉広葉樹林の減少。マニアの収集圧が本種の生息を脅かす主要な要因である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県（2002）、川名（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○			○			○	○	

陸産貝類

ゴマオカタニシ

Georissa japonica Pilsbry
アマオブネ型目・ゴマオカタニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

評価するだけの確認情報が少ないが、今後の動向に注意を要する。

分布

本州、四国、九州等に分布する。県内では、越前町や敦賀市等の里山の自然林に分布する。

種の特徴

殻高 2.2 mm、殻径 1.6 mm 程度。殻は淡橙色で、卵形塔状で硬質堅固である。蓋は亜旋型、半円形で薄質革質。山麓の谷川沿いのササ類や小石まじりの落葉下に生息する。

生息を脅かす要因

樹木の伐採等による森林の減少が要因である。

参考文献 環境省編 (2014a)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)、愛知県 (2009)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○								

サドヤマトガイ

Japonia sadoensis (Pilsbry & Hirase)
新生腹足目・ヤマタニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

評価するだけの確認情報が少ないが、今後の動向に注意を要する。

分布

関東以南の本州、四国、九州北部に分布する。県内では、過去に大野市で確認されているが、近年の記録はない。

種の特徴

殻高 5 mm、殻径 6 mm 程度。殻は円錐形で、薄質でもろい。殻色、殻毛の色ともに黒褐色である。広葉樹林内のれきの上に堆積した落葉下でやや乾燥した場所に生息する。

生息を脅かす要因

分布が局限しており、環境改変、植生の遷移の進行や植生の変化により、絶滅の危険性がある。

参考文献 環境省編 (2014a)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

イツマデガイ

Blanfordia japonica (A. Adams)
新生腹足目・イツマデガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

福井県には地方種の小型のエチゼンイツマデガイが、敦賀半島以北から越前海岸の自然林に生息する。公園化が進み、生息個体群サイズが小さく、個体数が減少している。ヒメオカメタニシは同種異名。

分布

本種は、北海道南部から佐渡（タイプ産地）から本州（福井県）の日本海要素型分布で、敦賀湾沿岸域が南限である。敦賀半島以北から越前海岸の自然林に分布する。

種の特徴

殻高は 3.7 mm～7.2 mm、殻径 4.0 mm～8.2 mm、6 層。雌が雄より大きい。殻はやや長卵形で堅固。黄褐色から栗褐色の殻は有光沢。各層はよく膨らみ、縫合は深い。蓋は小旋型。雌雄異体。頭部形状、背部陰茎は一応に扁平。

生息を脅かす要因

福井県越前海岸の雑木林床、雑木林に接した下草の間や畑地の石垣の隙間、崖の岩場に生息するため、海岸道路や宅地・畑地の拡張・都市化、除草剤・殺虫薬散布の影響を受けている。

参考文献 江川 (1985)、湊 (1987a)、黒田 (1933)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○			○		○				○

ナタネミズツボ

Oncomelania minima (Bartsch)
新生腹足目・イツマデガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

越前海岸の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。

種の特徴

殻長 3.5 ~ 4.0 mm、殻径 2.5 ~ 2.7 mm程度。卵形から塔状で、殻色は緑黄色で時には暗緑褐色。山沿いの小さな沢や湧水の滴るところで流れが緩やかで水たまりのような場所に生息する。水陸両生の性質がある。

分布

石川県の能登半島及び新潟県の佐渡島に分布する。県内では、近年の確認がない。

生息を脅かす要因

各生息地はきわめて狭い範囲であり、環境変化により絶滅の危険性がある。

参考文献 環境省編 (2014a)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

エルベルギセル

Tyrannophaedusa aurantiaca erberi Nordsieck
異鰓目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

評価するだけの確認情報が少ないが、今後の動向に注意を要する。

種の特徴

殻高 10 mm、殻径 2.5 mm程度。山地の朽木の下等に生息する。

分布

中部地方、近畿地方、中国地方に分布する。県内では、嶺北地方の山地を中心に、嶺南地方の一部にも分布する。

生息を脅かす要因

分布が局限しており、樹木の伐採等による森林の減少等、環境変化による絶滅の危険性がある。

参考文献 環境省編 (2014a)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)、湊 (1994)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○	○	○	○						○	○	

シリオレトノサマガセル

Mundiphaedusa decapitata (Pilsbry)
異鰓目・キセルガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は福井県が生息北限の滋賀県県境部と嶺南若丹山地で生息が確認されていたが、評価するだけの確認情報が少ない。今後の動向に注意を要する希少種である。

種の特徴

殻高 27 mm、殻径 7 mm、螺層 13 層。若幼層の 5 層内外(螺塔先端部)が老成すると脱落する(シリオレ) 中型キセルガイ。殻口の上板は長く、多少湾曲する。前板は目立たず、下軸板は唇縁に達する。主襞は長く、腔襞は 3 が多い。

分布

本種は、中国地方東部から近畿北部に分布する。福井県では滋賀県県境部と嶺南若丹山地山地の落葉広葉樹林にもみられ、れき混じりの斜面でみることが多い。

生息を脅かす要因

自然林、雑木林の森林開発や道路改修、近年増加してきているシカの下層植生への食害等による本種の生息環境の劣化に繋がるのが想定される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、京都府 (2015)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○														

ナタネガイ

Punctum amblygonum (Bartsch)
異鰓目・ナタネガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

最近福井県で生息が確認された種であるが、特殊な環境に生息し、生息環境が限定され、生息個体数は少ない。分類学的研究が不十分であり、今後の動向に注意を要する。

種の特徴

殻は低平で、殻高 2 mm、殻径 3 mm、螺層 4 層の微小貝。茶褐色から黒褐色の螺層はよく膨らみ、縫合は深く、周縁は円い。殻表には強弱の成長肋がやや規則的にある。臍孔は広く深い。

分布

本種は、本州、四国に分布する。福井県では大型開発建設工事の環境アセス業務で確認され、奥越、南越山地の落葉広葉樹林の落葉やれきの裏に付着している。

生息を脅かす要因

山地の谷等日陰になる湿潤な森林内に生息することから、植林地の間伐、林道建設や、近年増加したシカの下層植生の食害やイノシシの掘り返し等の林床の乾燥化が生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 世界文化社（1986）、東（1982）、松村（2001）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

タカキビ

Trochochlamys praealta (Pilsbry)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本種は微小で目立たない種であり、確認地でも生息密度が低く見落とされやすい。今後の動向に注意を要する。

種の特徴

殻高 3.5 mm、殻径 2.5 mm 程度。殻は光沢のある淡黄褐色で、薄質で半透明である。山地の落葉下に生息する。

分布

本州及び九州に分布する。県内では県下一円に広く分布する。

生息を脅かす要因

山地の谷等日陰になる湿潤な森林内に生息することから、植林地の間伐、搬出林道建設や、近年増加したシカの下層植生の食害やイノシシの掘り返し等の林床変乾燥化が生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 世界文化社（1986）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1982）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○

ヒメハリマキビ

Parakaliella pagoduloides (Gude)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

微小貝であり希少種。平野部の山麓帯で確認されているが、生息地が限定され、生息確認地の縮小と生息密度が低い。

種の特徴

殻高 1.8 mm、殻径 2.5 mm、螺層 51/2 層の微小種。淡い栗褐色の殻は螺塔が高く、殻頂の丸い円錐形。体層周縁は丸く、殻表は絹状光沢。軟体部は青みがかった暗黒色。頭部や触角は黒色。乾燥気味な腐葉土の堆積した環境に生息する。

分布

本種は関東から中国、四国に生息する。県内では平地から標高 700m までの里山の自然度の高い杉・落葉広葉樹混交林にみられる。県内でも平野部の山麓帯に分布する。

生息を脅かす要因

本種は林道開発や森林間伐や大型林道開発・改修や増加した鹿の食害等による生息環境変化が生存の脅威となっている。

参考文献 野村・高橋（2008）、東（1982）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○

スジキビ

Parakaliella ruida (Pilsbry)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

日本固有種。県内では、評価するだけの確認情報が少ないが、今後の動向に注意を要する希産種である。

分 布

本種は秋田県、関東以西の本州に分布する。県内では自然林や里山の雑木林のやや乾燥した腐葉土の堆積した落葉中に分布する。希産。

種の特徴

殻高 2 mm、殻径 3.5 mm、螺層 3.1/2 層の殻はヒメカサキビに酷似した微小貝。殻は薄質でもろいが、体層がよく膨らみ、周縁の鋭い竜骨状の角がある。殻表面には規則的な成長脈（スジ）が密に現れる。軟体部は黒色。

生息を脅かす要因

森林開発や道路改修等による自然林、里山の雑木林の適正管理や保護が必要である。

参考文献 黒田 (1933)、和歌山県 (2001)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○					○		○	○

カサネシタラガイ

Sitalina insignis (Pilsbry&Hirase)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

確認されている生息地は局地的であり、また個体群サイズも小さく、個体数は減少している。

分 布

関東～中国地方の本州、四国、九州に分布する。県内では奥越山地等で確認されているのみである。

種の特徴

殻高 1 mm、殻径 2 mm、4 層の微小貝で、殻長と殻径がほぼ等しい円錐形をしている。落葉樹林内に生息する。

生息を脅かす要因

森林開発による生息環境の改変が主な要因となる。生息域の環境条件等も詳細は不明である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014b)、福井県編 (2002)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

オオヒラベッコウ

Bekkochlamys dulcis (Pilsbry)
異鰓目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

大型のベッコウマイマイでありながら、生息確認数が少ない。生息密度も低い。生息地が限定され、生息確認地の縮小と密度が減少している。

分 布

本種は福井から愛媛周辺までの本州に生息。県内では自然度の高い針葉樹・落葉広葉樹混交林にみられた。

種の特徴

殻高 7 mm、殻径 15 mm 内外、螺層 5 層の殻は円盤状の薄質半透明、黄褐色を呈し体層の膨らみ、周縁は丸い。殻口縁は薄く、臍孔は狭く開く。軟体部は灰白色で背部に黒色の雲状模様があり、殻に納まらない。

生息を脅かす要因

本種の湿潤な日陰環境に生息する特殊性があり、森林開発や道路改修等による生息林床の乾燥と明るさが生存の脅威となる。イノシシやシカの下層植生の食害も影響している。

参考文献 黒田 (1933)、和歌山県 (2001)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○								○	○

ツルガマイマイ

Euhadra latispira tsurugensis (Cockerll)
異鰐目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

福井県敦賀市がタイプ産地。県内の平野部の山沿いや河畔林に広く分布し、集落の神社や人家周辺の畑地や草むら等でもみられる。福井県の代表する大型カタツムリであった。急激に生息域が縮小し、個体群が小さくなっている。

種の特徴

ハクサンマイマイの低地型で、福井を代表する大型マイマイである。殻高 28 mm、殻径 40 mm内外、螺層 6 層。淡黄色から黄色の殻はやや薄質で光沢がある。橙黄色の軟体部の背面中央部に黒縦条がある。黄色を帯びたクリーム色の地色に色帯をめぐらす。

分布

日本国内の自然分布域は滋賀県、京都北部、福井県、石川県に分布する。県下一円の平野部の山沿いや河畔林に広く分布し、人家周辺の畑地等でもみられる。

生息を脅かす要因

平野部の生息域が開発行為により破壊されやすい。山麓帯や水田地帯でも人為的な環境劣化による生息状況の悪化が懸念される。また、温暖化による環境の変化、嶺南を中心にシカの食害による乾燥化も生息域減少の要因と考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、京都府編（2015）、中井（2000）、川名（2007）、多田（2014）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

トウカイヤマトガイ

Japonia katorii Minato
新生腹足目・ヤマタニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

福井県では大型公共工事の自然環境調査でスギ・ヒノキ植林地内の林道脇斜面で確認していることから、生息条件を精査する必要がある。県内では新確認種で、確認個体数が少なく評価するだけの情報が少ない

種の特徴

殻高 4.4 ~ 5.2 mm、殻径 5.0 ~ 6.1 mm、螺層は 5.5 層。泥赤褐色の低円錐形。縫合は深く、各層はよく膨らみ周縁上に毛状の殻皮付属物を 1 列めぐらす。蓋は円形、革質で多旋型。最近新種登録された種で、生態に関する知見は少ない。

分布

本種は岐阜県の石巻山の石灰岩地を中心に、滋賀県東部から三重県東部、愛知県から静岡県西部に不連続に分布する。福井県では池田町足羽川上流域に分布する。

生息を脅かす要因

県内では非石灰岩地のスギ・ヒノキ植林地内の林道脇斜面で生息確認されていることから、自然林の伐採、植林地の間伐、獣害による林床が乾燥することからの生息地の消滅を危惧しなくてはならない。

参考文献 三重県（2014）、金尾・中井（2011）、滋賀県生き物総合調査委員会編（2010）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○								

ヤマタカマイマイ

Satsuma popilliformkis (Kobelt)
異鰐目・ニッポンマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

他府県では危機的であるが、まだ福井県内では多く確認されているが、森林伐採や間伐材の放棄、近年、増加したイノシシやシカの森林下層の植生への食害等生息環境が劣化し、今後の動向に注意を要する。

種の特徴

螺塔が高く山高帽に似た卵形で、和名もこれに由来する。殻高 30 mm、殻径 23 mm内外、螺層 8 層の殻は淡黄色から黄褐色の螺層は良く膨らみ縫合は深い。周縁に細い黒褐色の 1 本の色帯がある。

分布

本種は、北陸（長野）から近畿北部を経て中国中部（広島）にかけて分布し、県内では海岸近くの丘陵地から低山地の落葉広葉樹林にもスギ・ヒノキ植林地にも普通にみられる。

生息を脅かす要因

スギ・ヒノキ植林地の間伐、間伐材の放棄、また、搬出林道建設や近年増加したイノシシ、シカの下層植生の食害による林床変化や乾燥化等、急速な生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 湊（1983e）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、東（1982）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

シライボイボナメクジ

Granulilimax sp.
新生腹足目・アシヒダネメクジ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認個体数が少なく、分類学的検討が進んでいないが、大野市と池田町で外部形態の異なる二系統の個体が確認されている。希少種であり今後の精査が求められる。

種の特徴

池田町産は乳白色の軟体部背面（外套膜）に微細な顆粒で覆われ、細長く縁どられ、触覚が灰黒色で目立つナメクジである。大野産、南越前町産は、淡橙色も軟体部背面に2本の黄褐色の帯が縦走する。

分布

本種のグループは山梨県以南沖縄、小笠原諸島兄島まで生息が確認されている。県内では大型道路・ダム建設工事環境アセスにより、大野市、勝山市、池田町、南越前町にのみ確認。

生息を脅かす要因

肉食性の種であるため、ほかの陸産貝類への影響がある。生息環境詳細が不明ではあるが、乾燥に弱い種であるため、森林や道路開発、異種混雑が本種の等が生存の脅威となろう。

参考文献 湊 (2015)、湊 (1989)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

クチベニマイマイ

Euhadra amaliae (Kobelt)
異鰐目・オナジマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

丘陵帯低地の自然性の高い樹林に生息する種であり、本県が本種の生息北限種である。過去に、丸岡町上竹田で生息が確認され、越前市鬼ヶ岳周辺一帯にも生息したが、今はみられない。普通に見慣れた嶺南平野部の生息地も局所的になり、個体群も小さい。

種の特徴

殻は中形で高 22 mm、殻径 30 mm、螺層は低い円錐形の 6 層。殻は光沢のある淡黄白色の地に黒色の色帯が現れるが、無帯の個体もある。円形の殻口外唇がピンク色から暗赤色になることが多い。内部は紫紅色。軟体部は背部が白色で両肩部に黒縦帯がある。

分布

日本国内の自然分布域は本州（中部～近畿）であり、平野部に普通にみられるカタツムリである。嶺南一帯に普通に生息するが、嶺北では局所的に分布する。

生息を脅かす要因

人家周辺の生息環境が、都市化により石垣や植え込みが少なくなり、温暖化やシカの下層食害により、自然性の高い社叢や落葉広葉樹下層が等も乾燥化し、生息できる環境自体が著しく狭められたと考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、長谷川 (1976)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、川名 (2007)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○				○		○	○	○	●

マルシタラガイ

Parasitara einhardii (Pilsbry)
異鰐目・ベッコウマイマイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

評価するだけの最近の情報が少ないが、県内産キョウトシタガイとの誤同定標本を精査する必要がある。近年増加したシカの森林下層の植生への食害等生息環境が劣化し、今後の動向に注意を要する。

種の特徴

日本固有種。殻高 3.5 mm、殻径 5.5 mm、5 1/3 層。薄質、透明に近い淡白色。螺塔が高く、球状の円錐形。体層は大きく球形。殻底は膨れるが、臍孔の周囲はわずかにくぼむ。

分布

本種は、東北（南部）から九州までにかけて分布し、県内では海岸近くの丘陵地から低山地の落葉広葉樹林にもスギ・ヒノキ植林地にも普通にみられる。

生息を脅かす要因

スギ・ヒノキ植林地の間伐、間伐材の放置、また、搬出林道建設や、今後増加したシカの下層植生の林床変化が生息環境の劣化に繋がることが想定される。

参考文献 岐阜博物館 (1997)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1982)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○			○			○					

文献一覧

- 愛知県, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物: レッドデータブック愛知 2009 (動物編). 愛知県.
- 東正雄, 1973. 福井県冠山産レンズガイ属の1新種. *Venus*, 31(4): 143-146.
- 東正雄, 1982. 日本産オオベソマイマイ属3新種. *Venus*, 41(3): 167-174.
- 東正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑. 保育社.
- 東正雄. 1995. 原色日本陸産貝類図鑑増補改訂版. 保育社.
- 江川和文, 1985. 福井県産シブキツボ属の諸知見. *ちりぼたん*, 15(4): 93-97.
- 江川和文, 1991. 石川県産ニクイロシブキツボの諸知見. *ちりぼたん*, (25): 18-20.
- 福井県自然環境保全調査研究会編, 1999. 福井県のすぐれた自然 (動物編、植物編、地形地質編). 福井県.
- 福井県福祉環境部自然保護課編, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生生物: 福井県レッドデータブック (動物編) 2002. 福井県.
- 福井県自然環境保全調査会編. 1998. みどりのデータバンク付属資料 (第2回): 福井県の両生類・爬虫類・陸産貝類目録. 福井県.
- 福井県自然環境保全調査会編, 1985. みどりのデータバンク付属資料: 福井県両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類目録. 福井県.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2014. レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物6貝類. *ぎょうせい*.
- 環境省自然環境局野生生物課. 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブッカー6 陸・淡水産貝類. 2005.(財) 自然環境研究センター.
- 福井市自然史博物館. 2006. 鈴間愛作氏寄贈貝類標本目録. 福井市自然史博物館.
- 藤野勇馬・金尾慈史, 2014. 中池見湿地で確認されたナタネキバサナギガイ *Vertigo eogea eogea* Pilsbry. 1919. について. 福井市自然史博物館研究報告, (61): 75-76.
- 岐阜博物館, 1997. 博物館所蔵大垣内宏コレクション. 軟体動物標本目録. 岐阜博物館.
- 岐阜県環境生活部自然環境保全課編, 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編): 岐阜県レッドデータブック (動物編) 改訂版. 岐阜県.
- 岐阜市, 2015. 岐阜市の注目すべき生きものたち岐阜市版: レッドリスト・ブルーリスト. 岐阜市.
- 波部忠重, 1982. 系統上の種に近づける努力: 形態的特徴以外にも情報を積み重ねて. 採集と飼育. 日本科学協会, 45(11): 492-495.
- 長谷川巖, 1976. 福井県産貝類目録: 陸産・水産の部 (第一版). 南越中学校教育研究紀要ともえ, (12): 55-82.
- 早瀬善正・木村昭一ほか, 2008. 岐阜県揖斐川町春日における陸産貝類相調査. *かきつばた*, (33): 1-9.
- 早瀬善正・木村昭一ほか, 2009. 岐阜県揖斐川町野原谷および白倉谷における陸産貝類相調査. *かきつばた*, (34): 1-13.
- 早瀬善正, 2008. イボイボナメクジの卵と孵化の記録. *かきつばた*, (33): 47-48. 名古屋貝類談話会.
- 早瀬善正・多田昭, 2008. 中部地方に分布するピロウドマイマイ属. *かきつばた*, (33): 17-21. 名古屋貝類談話会.
- 石田惣・福岡修・佐藤ミチコ. 2003. 古川田溝貝類コレクション追加目録. 福井市自然史博物館研究報告, (50): 49-62.
- 石川県野生動物保護対策調査会, 2009. 改訂石川県の絶滅のおそれのある野生生物: いしかわレッドデータブック (動物編) 2009. CD版. 石川県環境部自然保護課.
- 金尾慈史・中井克樹, 2011. 滋賀県生き物総合調査委員会編, 滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2010年版. 滋賀県環境安全課.
- 金安健一, 1975a. 福井県シブキツボ採集記. *しぶきつば*, (2): 9-10.
- 金安健一, 1975b. ニクイロシブキツボの変異について (第二報). *しぶきつば*, (1): 7-8.
- 金安健一, 1977. シブキツボ属 (*Fukuia*) の変異について. (第四報). *にいがた貝友会機関誌*. *しぶきつば*, (4): 19-33.

- 環境省自然環境局生物多様性センター，2002. 生物多様性調査：動物分布調査報告書（陸産および淡水貝類）.（財）自然環境研究センター.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編，2014. レッドデータブック：日本の絶滅のおそれのある野生生物6貝類. ぎょうせい.
- 川名美佐男，2007. かたつむりの世界（マイマイ属）. 近未来社.
- 川瀬基弘・早瀬善正・市原俊，2011. 愛知県豊田市に生息する陸産貝類. 愛知県豊田市自然史博物館研報，(21)：31-43.
- 窪田彦左衛門，1962. 福井市市立郷土博物館：貝類標本目録. 福井市郷土博物館.
- 黒田徳米，1933a. 福井縣産貝類. *Venus*, 4(3)：171-181.
- 黒田徳米，1933b. 福井縣生物目録（貝之部）. p. 169-206. 福井縣.
- 京都府，2015. 京都府レッドデータブック 2015.（野生動物編）. 京都府企画環境部環境企画課.
- 松村勲，2001. 大阪府陸産貝類誌. 近未来社. 名古屋.
- 三重県農林水産部みどり共生推進課，2014. 三重県レッドリスト 2014 年版陸産・淡水産貝類. 三重県.
- 湊宏，1973a. オオコウラナメクジについて. *ちりぼたん*，7（5）：105-106.
- 湊宏，1973. 新潟県産シブキツボ属の一新亜種. *Venus*, (32)1：1-3.
- 湊宏，1979. 日本産陸棲貝類の生殖器の研究 -XIII. キセルガイ科 (2). トノサマガセル属 (1). *Venus*, 38(2): 141-145.
- 湊宏，1980a. 日本産陸棲貝類の分布情報 2. オオギセル. *南紀生物*，22(1)：49-54.
- 湊宏，1980b. ヤママメタニシ - その形態・生態・分布一. *南紀生物*，22(2):77-79.
- 湊宏，1983a. ヤマコウラナメクジの産地追加. *ちりぼたん*，13（3）：70
- 湊宏，1983b. コベソマイマイとその近縁種について. *南紀生物*，25（1）：28-33.
- 湊宏，1983e. 日本産陸棲貝類の分布資料 3. ヤマタカマイマイ. *南紀生物*，25（2）：207-209.
- 湊宏，1985b. 日本固有のマイマイ属の種群とその分布について. *熊高記要*，(10): 77-83.
- 湊宏，1985c. 日本産ヤマトガイ属の2新種. *Venus*，44(2)：81-86.
- 湊宏，1987a. “日本海要素型” 分布するイツマデガイ類. *南紀生物*，29(1)：21-24.
- 湊宏，1987b. オオコウラナメクジの地理的分布. *ちりぼたん*，(18)：54-57.
- 湊宏，1989. 日本産ナメクジ科の新属新種イボイボナメクジの記載. *Venus*，48(4)：255-258.
- 湊宏，1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究. *Venus*, Supplement2.
- 湊宏，1997a. ココロマイマイ - その研究経過・形態・生殖器 -. *ちりぼたん*，(28)：25-29.
- 湊宏，1997b. ニクイロシブキツボの分布記録総覧. *新潟貝友会機関誌*. *しぶきつば*，(18)：15-18.
- 湊宏，1999. 日本のキセルガイモドキ科貝類の概説. *ちりぼたん*，(30)：49-58
- 湊宏，2015. 陸産貝類研究備忘録 (14). イボイボナメクジ種群（ホソアシヒダネメクジ科）の分布とその文献抄. *かいなかま*，(49)：1-12.
- 森山昭彦，2014. 標本 SDNCU：A：1269-コガネマイマイ. DNA バーコードデータベース作成委員会.
- 村山均，1993. 新潟県におけるヤマママメタニシの分布. *いいた貝友会機関紙*. *しぶきつば*，(14)：32-33.
- 中井克樹，2002. ココロマイマイ. 京都府レッドデータブック 2002 上. 京都府環境企画課:474.
- 新潟県，2001. レッドデータブックにいいた：新潟県の保護上重要な野生生物. 新潟県環境生活部環境企画課.
- 野村卓之・高橋久，2008. 石川県の陸・淡水産貝類. *しぶきつば*，(29)：45-52.

岡村一郎, 2005. ヤママメタニシ. p. 358-359. 改定しまねレッドデータブック: 島根県の保護上重要な野生動物. 島根県三瓶自然館.

齋藤岩雄, 1971. かたつむり騒動. 福井市郷土自然史博物館博物同好会会報, 18: 35-42

世界文化社編, 1986. 決定版生物大図鑑貝類. 世界文化社.

滋賀県生き物総合調査委員会編, 2006. 滋賀県で大切にすべき野生動物, 滋賀県レッドデータブック 2005 年版. 滋賀県.

多田雅充, 2014. 福井県の絶滅のおそれのある生物. p. 29-50. 吉岡俊人編著, 里地里山里海の生き物学.

多田昭・大原健司, 2010. 四国におけるビロウドマイマイ属の分類: 特にトサビロウドマイマイと四国ビロウドマイマイについて. 徳島県立博物館研究報告, 20: 37-42.

高橋茂, 1984. 群馬県陸産および淡水産貝類目録付陸軍特別大演習関係記録. 上毛新聞社.

和歌山県, 2001. 保全上重要なわかやまの自然: 和歌山県レッドデータブック. 和歌山県環境生活部環境生活総務部

増田修・内山りゅう. 2004. 日本産貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ.

概 説

コシヒカリを1956年（昭和31年）に誕生した福井県は、農業県である。戦後1949年（昭和24年）の土地改良法制定から、1961年（昭和36年）農業基本法が制定され、1963年（昭和38年）より、30a区画を標準として圃場整備事業を推進してきた結果、全国のトップクラスの圃場整備水準に達している。1993年（平成5年）には、福井県嶺北地域は90%、越前海岸地域や嶺南の名田庄村や高浜は50数%であるが、この圃場整備に関連して、農業溜池の整備、農業用排水路、農業道路の整備で、淡水産貝類の環境に大きくかわり、生息数が減少している。最近、さらなる100aの大型圃場整備と機械化が整備されてきている。平成27年12月現在の福井県の淡水産貝類は、汽水域、亜種、外来種を含めて16科42種が記録されている。

ヒダリマキノアラガイ、カワネジガイは過去50年以上にわたり県内の生息に関する情報がなく、本種の生息確認を目的に調査も実施されていない。カワシヅガイも同様であり、県域絶滅とした。

長年生息が確認されていなかったフネドブガイが最近2か所で確認された。九頭竜川河口域のみ生息が確認されているミズゴマツボの2種を県域絶滅危惧Ⅰ類とした。前回RDBでは、トンガリササノハガイを県域絶滅、ササノハガイを県域絶滅危惧Ⅰ類としたが、環境省RDB改定で、ササノハガイは琵琶湖湖沼型トンガリササノハガイに含まれたため、ササノハガイを削除し、トンガリササノハガイを県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

さらに、生息地が限定され、局所的となったカタハガイ、マツカサガイ、と生息個体群が縮小しているマツカサガイから独立したヨコハマシジラガイ、マルドブガイ、カワグチツボ、フクイマメシジミ、ミズコハクガイ、外来種のタイワンシジミの増加で在来種が激減しているマシジミ等8種類を県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

従来の、生息域が縮小し生息個体群が縮小しているイシカキガイ、マルタニシ、モノアラガイを県域準絶滅危惧に指定し、オオタニシや外来種で日本にすでに定着している、生息減少傾向のコシダカヒメモノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキなども要注目とした。

前回のRDB以後、貝類の外来種は、サカマキガイやコシダカヒメモノアラガイ、タイワンシジミのように、福井県への侵入年代は不明であるが、福井県では昔から確認されている。近年、コウロエンカワヒバリガイが久々子湖で確認され、九頭竜川中流域でコモチカワツボの生息を確認している。在来の野生生物保全だけでなく、外来種のこれ以上の生息分布の拡大を防ぐ方策を考える必要がある。

表 2016年福井県改訂版レッドリスト（淡水産貝類）の選定種数とその増減

ランク	第1版リスト	改訂リスト	増 減
県域絶滅	3	3	0
県域絶滅危惧Ⅰ類	3	4	+1
県域絶滅危惧Ⅱ類	5	8	+3
県域準絶滅危惧	3	4	+1
要注目	1	4	+3
地域個体群	—	—	—
合 計	15	23	+8

（長谷川 巖）

ヒダリマキモノアラガイ

Culmenella prashadi (Clench)
異鰓目・ヒラマキガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

県内では坂井市坂井町木部で採集記録があったが、近年の再調査では確認されていない。

種の特徴

殻長 6.0 mm、殻径 3.0 mm程度で、螺塔が高く、左巻きのモノアラガイに似た外観をしている。螺層は3.0～3.5層と少なく、縫合は深く、殻表は目立った螺肋を多数めぐらす。湖や沼、ため池等の止水環境に生息し、岸沿いの浅場の落葉や枯れ枝、水生植物の茎に付着する。

分 布

本州のみに分布する日本固有種。青森県から大阪府にかけての記録があるが、現在は青森県と長野県でしか生息が確認されていない。

絶滅した要因

河川改修により本種が付着する水生植物が生育できる水域が減少したこと、水質汚濁による生息環境の悪化、さらに、特異な形態を持つ本種は、愛好家による採集圧の影響も要因の一つと考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											●						

カワネジガイ

Camptoceras hirasei Walker
異鰓目・ヒラマキガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅰ類

選定理由

全国的にも既知の生息地における確認が減少している種である。県内では、1972年の越前市大塩町の農業用水池での採集を最後に生息が確認されておらず、既知の生息地における再調査においても確認されていない。

種の特徴

殻高 10 mm、殻径 3 mmほどの著しく細長い巻貝である。螺層は3.5～4層で縫合は深く、螺管の肩部は角張っている。殻表はきめ細かい成長脈を刻み、半透明な汚白色である。流れの緩やかな水域の、ヨシやマコモ等の茎や水中に沈んだ枯葉や朽木に付着している。

分 布

東北から九州にかけて広く確認されていたが、再確認はほとんど不可能な状況である。県内ではあわら市、坂井市、越前市で採集記録があるが、近年は全く確認されていない。

絶滅した要因

河川改修により本種が付着するヨシやマコモ等の抽水植物が生育できる水域が減少したこと、水質汚濁による生息環境の悪化、さらに、特異な形態を持つ本種は、愛好家による採集圧の影響も大きいと考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）、窪田（1962）、水産資源保護協会（1997）、松田（2000）、増田（2006）、丸井（2002）、環境省編（2005）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											●	●	●				

カワシンジュガイ

Margaritifera laevis (Haas)
イシガイ目・カワシンジュガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】県域絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

水河期の遺存種である。県内で唯一生息が確認されていた味見川では、1970年以降生息が確認されておらず、近年の再調査でも確認されていない。

種の特徴

殻長 100 mm、殻高 50 mm前後。殻表面は黒または黒褐色の厚い殻皮で覆われ、きめ細かい成長脈がある。殻内面は、淡い虹色を交えた真珠光沢をしている。夏季の水温が20℃を超えない山間溪流のれき～砂れき底に生息する。

分 布

国内では北海道と本州に分布する。国外ではサハリンに分布する。県内では味見川にのみ生息していたが、河川改修が行われてから以降は生息が確認されていない。

絶滅した要因

河川改修による生息場所の破壊、森林伐採による土砂の流入に加え、幼生が成長するための宿主となるヤマメ等のサケ科魚類がダム建設による遡上阻害や釣り等の捕獲により減少し、世代交代が行いにくくなったことが要因と考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）、波部（1984）、環境省編（2005）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	●

トンガリササノハガイ

Lanceolaria grayana (Lea)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では1985年頃に鯖江市浅水川、福井市六条川、一乗谷川で確認されていたが、その後は生息が確認されなくなり、県内では絶滅したと考えられていた。しかし、近年、嶺南地方の道路建設工事の浚渫土内で死骸が発見されたため、生息の可能性があるととして絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

殻長80mm、殻高20mmで殻高に対する殻長の比が非常に大きく、淡水貝中最も細長い黒褐色の笠葉型の二枚貝である。殻頂は著しく前に偏り、前縁は丸く後縁は尖る。河川、湖沼の流水域の砂泥底に生息する。

分布

国内では中部以西の本州、四国、九州に分布する。県内では1985年以降は既知の生息地においても確認されていなかったが、近年嶺南地方で生息している可能性が示唆された。

生息を脅かす要因

河川改修や圃場整備による生息地の消失、湖沼の護岸工事等による底質の変化や生活排水の流入による水質悪化等が減少要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、紀平ら（2009）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○													○			○

カラスガイ

Cristaria plicata (Leach)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

全国的にも、近年生息が判明している産地数は少ない。近年は三方湖のエビ漁の柴漬けに1個体がかかり、生息が確認されたため、今回は絶滅危惧Ⅰ類のままとした。

種の特徴

殻長が15～20cm、最大で30cmになる大型の淡水二枚貝。殻は薄く、光沢のある緑褐色から黒褐色をしている。湖沼や河川の泥底に生息する。産卵期は3～7月で、雌の鰓葉内で受精し、グロキディウム幼生となって魚の鰓に寄生する。

分布

北海道から九州の平野部の湖沼や大河川の下流部、海岸部の潟湖等に分布する。県内では三方湖、菅湖、水月湖に生息していたが、近年はほとんど確認されていない。

生息を脅かす要因

止水域の埋め立て、湖沼の護岸工事等による生息地の直接改変、底質の変化や生活排水による湖沼の水質悪化が主な要因と考えられる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○							○				

フネドブガイ

Anemina arcaiformis Heude
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

国内においても生息地が限られており、かつ、生息密度も低いとされている種である。県内では1961年に三方湖で確認されていたのみであったが、近年の調査で嶺南地方の湿地での生息と北潟湖で死骸1個体が発見されたため、絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

殻長110mm、殻高65mm、殻幅50mm前後。ほかのドブガイ類に比べて殻頂が中央寄りにあり、両殻は比較的良好に膨らむ。

分布

国内では北海道、福井県、山口県で生息が確認されているが、本州での生息密度は低い。県内では三方湖で1961年に確認されたのみであったが、嶺南湿地と北潟湖で新たな生息を確認。

生息を脅かす要因

河川改修による生息地の消失、湖沼の護岸工事等による底質の変化や生活排水の流入による水質悪化等が減少要因と考えられる。また、ドブガイ類はタナゴ類の産卵母貝であり、グロキディウム幼生はタナゴ類に寄生するため、これらの種の減少も本種の生息に影響を与えている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）、山下・波部（1993）、波部・増野（1991）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○							○				

ミスゴマツボ

Stenothyra japonica Kuroda
新生腹足目・ミスゴマツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

福井県内では九頭竜川河口でしか確認されておらず、分布は非常に局所的である。近年の調査で、既知の生息地での生息が確認されたが、個体数は少なく、今後、環境の変化によっては容易に絶滅のおそれがあると考えられる。

種の特徴

殻高 4.0 mm、殻幅 2.0 mm 程度の小さな巻貝。体層は大きく殻高の 2/3 以上を占めている。殻は比較的厚く、殻表には光沢がある。海水の影響を受ける汽水域、水路、池等の底質が泥の場所に生息する。ヨシやマコモ等抽水植物に付着して確認されることもある。

分布

国内では本州・四国・九州に分布する。県内では今のところ九頭竜川河口域の分布が確認されている。

生息を脅かす要因

汽水域の底質が泥の場所に生息する種であるため、埋め立てや、護岸工事による水際部のコンクリート化といった生息地の改変が主要因となる。また、上流からの不法投棄物の増加が生息を脅かしている。

参考文献 環境省編 (2014b)、福井県編 (2002)、紀平ら (2009)、黒住 (1996)、黒田 (1962)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○						

ミスコハクガイ

Gyraulus soritai Habe
異総目・ヒラマキガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本種は日本固有種で、分布は広いが確実な産地は少ない。県内では 2012 年に敦賀市の中池見湿地でみつけた。湧水のある湿地の水面付近という特殊な環境に生息するが、中池見湿地で確認される個体数は少ないため絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

殻径 4 mm、殻高 1.5 mm の微小淡水貝類。水面付近に生息しており、よく湿っていれば陸上でも活動できる。殻は鉛色で光沢があり、微細な成長脈がある。螺管の周縁には角がなく丸い。殻頂はくぼみ、殻底が盛り上がる。同属他種と比べて軟体部は幅広く、触角が短い。

分布

本州、四国、九州に分布。県内では敦賀市の中池見湿地に分布する。

生息を脅かす要因

県内での確認地点は中池見湿地だけであり、湧水環境の水面付近という特殊な環境に生息するため、湧水地点の埋没や地下水位の低下等によって容易に絶滅しうる。そのため、湿地内だけでなく集水域を含めた周辺地域の開発が本種に影響を与える可能性がある。

参考文献 環境省編 (2014a)、藤野・金尾 (2012)、増田・内山 (2004)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

マツカサガイ

Pronodularia japonensis (Lea)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内全域に広く分布する種であるが、移動分散能力が低いいため、圃場整備や河川改修により生息に適した環境がなくなると姿を消す。現在確認されている生息地は局所的となっている。

種の特徴

殻は卵円形で、殻長 40 ~ 60 mm で 80 mm を超える個体もある二枚貝。殻頂は前方に片寄る。殻表面には本種の最大の特徴である松笠に似た逆 V 字型の彫刻がみられるが、成長と共に消滅する。小川や水路、ため池や湖等に生息し、底質が砂れきの場所を好む。

分布

全国的には東北から九州にかけて広く分布する。県内では九頭竜川、足羽川、日野川、北川支流の太良庄川で生息が確認されていたが、現在、分布は局所的となっている。

生息を脅かす要因

大規模な圃場整備、河川改修による成貝の生息場所となる砂れき質底の流失、グロキディウム幼生の宿主となるコイ科、ハゼ科の魚類の減少や、産卵母貝となるタナゴ類等の減少が要因となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014b)、福井県編 (2002)、増田・内山 (2010)、近藤 (1982)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○			○	○	○	○				○

フクイマメシジミ

Pisidium hukuiense (Mori)
ザルガイ目・マメシジミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生息分布が、標高 1,000m級の亜高山帯で局所的であり、植生遷移で生息条件が悪化しており、個体数も減少している。

種の特徴

殻高 3 mm、殻長 4 mm、殻幅 2 mm内外の卵三角形の二枚貝。殻は黄白色から黄褐色の薄質半透明。前背縁は後背縁より長い。生息泥中では白さが目立つ。

分布

マメシジミ類は北海道、本州の亜高山帯に分布する。県内では部子山の千本杉の東側と谷筋、冠山登山道の中腹、大野市夫婦池の沼に分布している。

生息を脅かす要因

分布域が 5 か所とかなり限定されており、登山道や公園の整備による生息地の乾燥化が本種の生息を脅かす要因であり、マニアの採集圧も大きい。

参考文献 川村 (1973)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、福井県編 (2002)、波部 (1977)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

カワグチツボ

Fluviocingula elegantula (A.Adams)
新生腹足目・カワグチツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

石積み護岸されているが、間にアシ原が残るような場所に生息する。生息地は局所的で、個体数も少ない。

種の特徴

殻高約 8 mm、殻径約 2.3 mm、巻数 5 回で薄質の長卵形。螺層は膨らみ縫合は浅い。螺肋は弱く密にあり、殻色は淡黄褐色から黒褐色までである。ワカウラツボと異なり蓋の内側に肋状付属物がない。

分布

北海道から九州までの内湾や河口の、潮溜まりの緑藻に付着する。県内では久々子湖のアシ原にのみ生息している。

生息を脅かす要因

高塩性の河口付近や湖沼に生息し分布が局限されており、河川や海岸の護岸工事による生息環境の改変が本種の生存を脅かす要因である。現在、確認されている場所も、住民・市民が景観上気になるとヨシ原が駆除され消滅のおそれがある。

参考文献 川村 (1973)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、福井県編 (2002)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○						

イシマキガイ

Clithon retropictus (Martens)
アマオブネガイ目・アマオブネ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

幼体や成体は河川の中流域から河口域に生息するが、生息環境悪化により生息域が縮小し、個体数が少なくなっている。

種の特徴

殻径 20 ~ 25 mmのやや前後に長い半球状で、殻口は殻径の 2/5 を占め、内唇部を含めると 2/3 程にもなる。殻表は平滑で成長脈のみ、黒褐色で小さい三角斑がある。蓋は螺溝があり、肌色で多少灰黒色の雲状斑を有し、外縁は赤褐色の革質に縁取られる。

分布

本州関東以南のほぼ全域に分布する。県内では南川水系や北川水系、北潟湖、久々子湖等に生息している。

生息を脅かす要因

河川改修や護岸工事等による生息地の改変と上流からの工事による泥の流入や生活排水による水質汚染が原因となる。

参考文献 増田・内山 (2004)、吉良 (1981)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○						○		○				○

マルタニシ

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens)
新生腹足目・タニシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては水田がある場所ではよくみられた種であったが、圃場整備により水田が乾田化されたことや、平野部では稲作の早期中干しによる乾田化、さらに、水質汚濁に強いヒメタニシが本種の生息地に分布を広げており、個体数は減少している。

種の特徴

殻高 40 mm前後で螺層が著しく丸みを帯びた卵円形の止水性のタニシ。縫合は深く、緑がかった黒い殻皮に、2、3個の目立たない螺肋と刻点状の彫刻がある。水田や湿地、水路や小川等年間を通じて極度に乾燥しない場所に生息する。

分布

国内では北海道から沖縄にかけて分布する。県内一円に分布すると考えられるが、生息地や生息個体群は減少しつつある。

生息を脅かす要因

圃場整備による水田の乾田化、さらに農業用水のパイプライン化により本種の生息環境が減少している。また、水質汚濁の影響を受けやすいため、近年、本種が生息していた場所は汚濁に強いヒメタニシに置き換わっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

モノアラガイ

Radix auricularia japonica Jay
異鰓目・モノアラガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

日本各地に分布し普通種とされていたが、水質汚濁、圃場整備による排水路のコンクリート化により本種の生息地は減少している。

種の特徴

殻高 25 mm、殻径 20 mmで蓋はなく卵円形をしている。薄質、半透明で右巻きである。螺塔が極めて低く、殻口が殻高の4/5を占め大きく開く。池沼や水田、川の淀み等の水草やれきに付着している。

分布

日本全国に分布する。県内各地の環境の良好な小川や農業用ため池等の水域に生息しているが、生息地、個体数ともに激減している。

生息を脅かす要因

生活排水の流入や農薬の使用による水質悪化、圃場整備や河川改修による生息環境の直接改変が減少の大きな要因となっている。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、環境省編（2014b）、福井県編（2002）、増田・内山（2010）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

ヨコハマシジラガイ

Inversiunio jokohamensis (Ihering)
イシガイ目・イシガイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の分布は比較的広い。ただ、既知の生息地は平野部の小川や水路、農業用排水路等比較的小さな環境が多く、河川や水路の改修工事で生息地ごと壊される。県内での生息地、生息数とも減少傾向にある。

種の特徴

殻は楕円形で、殻長は最大で 70 mm前後の中型の淡水二枚貝。殻頂は前方に偏る。殻頂部付近に弱い粒状の彫刻がある。擬主歯と後側歯がある。殻色は黒褐色。生息環境は水のきれいな小川や水路、農業用排水路等穏やかな流水域で、泥底～砂れき底部に生息する。

分布

日本固有種。山陰地方、近畿地方から北海道南部に分布する。本県ではあわら市～高浜町まで広範囲に分布するが、既知の生息地は分断され少ない。

生息を脅かす要因

水のきれいな小川や水路、農業用排水路等の砂れき底に生息する。コンクリート化等の工事による生息環境の破壊が最も大きな要因と考えられる。共生するコイ科、ハゼ科への影響も危惧される。

参考文献 福井県編（2002）、福井県自然環境保全調査研究会編（1985）、増田・内山（2010）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○							○				

ヤマトシジミ

Corbicula japonica Prime
ザルガイ目・シジミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県の主な生息地である北潟湖や久々子湖では、県外産の稚貝の放流が盛んで、在来種とはいえない。また、九頭竜川河口部での生息数も減少し極めて少ない。

種の特徴

汽水域に生息するシジミで、殻長は最大で 50 mm に達する。殻質は厚質堅固。殻頂部の膨らみはやや強い。殻色は外側が光沢のある茶褐色～黒色で、内側は幼貝では紫色を帯びた紺色で成長するにつれ白色に変化する。雌雄異体で卵生。

分布

北海道～九州まで広く分布する。本県では北潟湖や久々子湖、日向湖と九頭竜川河口に生息したことが知られる。

生息を脅かす要因

主な生息地である北潟湖や久々子湖には、比較的多く生息する。ただし、県外産の稚貝の放流を行ってきた結果、現在生息しているものが在来の本種である可能性は極めて低いといえる。

参考文献 福井県編 (2002)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、増田・内山 (2010)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○						○		○				

オオタニシ

Cipangopaludina japonica (Martens)
新生腹足目・タニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

清浄で水温変化の少ない大型水域に生息するため、平野部の水田地帯には少ない。山麓帯の谷池の崩壊や溜池の開発により、生息域が縮小し、個体数が減少している。

種の特徴

殻高 60 mm 前後で、螺層は約 7 層あり、各層の膨らみはマルタニシよりやや弱い。殻底角があり、弱いながらも螺旋脈も有する。周縁角は顕著で、2 本の角張った螺旋脈があり、この上に細い殻皮毛を配列する。

分布

北海道から九州にかけて全国的に分布する。河川のワンドや大きな湖沼、農業用水地に生息する。県内では、九頭竜川水系や南川水系、北川水系、北潟湖に生息する。

生息を脅かす要因

湖沼や湿地の開発や埋め立て、自然溜池の災害防止のための破壊による生息地の改変と大型サギ類や外来種による捕食が原因となる。

参考文献 増田・内山 (2004)、吉良 (1981)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)、環境省編 (2014a)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コシダカヒメモノアラガイ

Fossaria truncatula (Müllén)
異総目・モノアラガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目 旧：—

【環境省カテゴリー】情報不足

選定理由

環境省 RDB2000 年の DD から今回は指定が外された。日本の定着外来種であるが、県内での生息確認が少なく、評価するだけの情報が足りない。しかし、今後の動向について注目していく必要がある。

種の特徴

殻高 10～12 mm 程度。殻質は薄く、殻色は茶褐色である。平野部の水田、水路、池等の水際に生息する。泥のくぼみや植物の根元にみられ、湿ったコンクリート壁等の水面近くや水域から出ても生息できる。

分布

日本全国に分布する。本県では、嶺南から嶺北の平野部を中心に広く分布する。

生息を脅かす要因

湿地の減少や、水田の早期中干しによる乾田化、農薬の散布等による生息環境の悪化が起因である。

参考文献 福井県編 (2002)、環境省編 (2014a)、内山編 (2009)、増田・内山 (2004)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○								○	○			○

文献一覧

- 愛知県, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物: レッドデータブック愛知-2009 (動物編). 愛知県.
- 東正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑増補改訂版. 保育社.
- 福井県, 1999. 福井県のすぐれた自然 (動物編、植物編、地形地質編). 福井県.
- 福井県福祉環境部自然保護課, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物: 福井県レッドデータブック (動物編).
- 福井県自然環境保全調査研究会編, 1985. みどりのデータバンク付属資料: 福井県両生類・爬虫類・陸産及び淡水産貝類目録. 福井県.
- 福井県自然環境保全調査研究会編, 1998. みどりのデータバンク付属資料 (第2回): 福井県の陸水生物. 福井県.
- 福井市自然史博物館, 2006. 鈴間愛作氏寄贈貝類標本目録. 福井市自然史博物館.
- 藤野勇馬・金尾滋史, 2012. 中池見湿地で確認された福井県初記録の淡水貝類4種. 福井市自然史博物館研究報告, (59): 47-50.
- 波部忠重, 1977. 日本産軟体動物分類学. 二枚貝綱/掘足綱. 北隆館.
- 初見真知子・中村幹雄・細川宗義・中尾繁, 2014. 日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性. *Venus*, 72(1-4): 109-121.
- 環境省自然環境局野性生物課, 2005. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック6陸・淡水貝類. 財団法人自然環境研究センター.
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2014. レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物6貝類. ぎょうせい.
- 川村多實二, 1973. 日本淡水生物学. 北隆館.
- 吉良哲明, 1981. 原色日本貝類図鑑. 保育社.
- 近藤高貴, 1982. マツカサガイ属の分類学的再検討. *Venus*, 41: 181-198.
- 近藤高貴, 1995. マツカサガイ. p.376. 「日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (II)」. 日本水産資料現保護協会.
- 近藤高貴, 1995. カワシンジュガイは氷河期依存種? ちりぼたん, (25): 59-63.
- 近藤高貴, 2002. カタハガイ, ニセマツカサガイ (p. 500), マツカサガイ (p. 502). I 京都府レッドデータブック上 (野生生物編). 京都.
- 近藤高貴, 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物. 3: 1-69.
- 黒田徳米, 1962. 日本並びに隣接地域産ミズゴマツボ類に就いて. *Venus*, 22: 59-69.
- 黒住耐二, 1996. ミズゴマツボ. p. 22-28. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料, (III) 1. 軟体動物. 日本水産資源協会.
- 丸井英幹, 2002. 絶滅危惧種カワネジガイ (腹足綱: 有肺目: ヒラマキガイ科) の和歌山県における新産卵地. *ユリヤガイ*, 8(2): 83-85.
- 増田修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑②汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ.
- 中川幸・出野卓也・近藤高貴, 1998. カタハガイ幼生の成長と発生経過. 大阪教育大学紀要第III部門, 46:181-186.
- 西脇三郎, 1996. イシマキガイ. p. 3-7. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料 (III) I. 軟体動物. 日本水産資源保護協会.
- 野村卓之・高橋久, 2013. 河北潟レッドデータブック. NPO法人河北潟湖沼研究所. 橋本確文堂.
- 紀平肇・松田征也・内山りゅう, 2003. 日本産淡水貝類図鑑①琵琶湖・淀川産の淡水貝類. ピーシーズ.
- 奥谷喬司編, 2000. 日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会.
- 酒井治己・高橋俊雄・古丸明, 2014. 日本産マシジミおよび外来タイワンシジミ類のアロザイム変異と淡水シジミ類の多様性. *Venus*, 72(1-4): 109-121.
- 水産資源保護協会, 1997. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料 (V).
- 上西実, 1998. カタハガイ. p. 42-43. 日本の希少な野生水生生物に関するデータブック (水産庁編). 日本水産資源保護協会.
- 山下幸一・波部忠重, 1993. 若狭三方湖からのフネドブガイ. *ちりぼたん*, 24(1): 3.
- 松田征也・石田未基, 2010. 福井県若狭町菅湖で確認されたミズゴマツボ. 日本貝類学研究連絡誌 50周年記念号 *ちりぼたん* (40)3-4:134-137

維管束植物

概 説

平成 16 年の前回調査結果（福井県福祉環境部自然保護課，2004）からは、人間の生活圏・産業圏の拡大による自然植生の破壊、園芸目的の採集、産業構造の変化による里地里山の二次的環境の管理放棄や改変が、本県の植物相に多大な影響を与えていることが浮き彫りになった。

それ以降、行政による施策だけでなく、県民の自律的な意識の向上も見られ、様々な民間団体・個人によって、生物多様性保全に関する取り組みが行われてきた。三方五湖、中池見湿地がラムサール条約湿地に登録され、平成 25 年 9 月には本県において「SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ第 4 回定例会合」が開催されるなど、自然環境の保全に向けて起点となる出来事もあった。前回の福井県レッドリストはそれらの取り組みの指標として効果的に用いられてきた。

しかしながら、新たに組み込まねばならない課題も持ち上がってきている。過疎化・高齢化が深刻な山村での里地里山の管理放棄は拡大しており、二次的環境の保全はますます困難になっている。また、地球温暖化はその影響が表れ始めている。亜高山・高山植物など冷涼な環境に生育する植物への影響が懸念され、積雪の減少によるシカ・イノシシの増加・分布拡大は、農林業地だけでなく、自然植生にも被害を与えている。さらに、平成 16 年 7 月の福井豪雨に代表される想定外の気象現象が頻発しており、植生に与える影響も懸念される。今回の福井県レッドデータブックの改訂では、これまでの取り組みの評価に加えて、新たな脅威に対しての評価も考慮して作業を行った。また、最近の風潮として、意識的に貴重種（園芸もの）を野生化しようとする動きがあることも注意すべきであろう。

本県の維管束植物はこれまでに、約 2700 分類群（種、亜種、変種を含む）が確認されている（渡辺，2003）。今回の調査では、県域絶滅として 20 種類、県絶滅危惧 I 類 235 種類、県絶滅危惧 II 類 199 種類、県準絶滅危惧 119 種類、要注目 158 種類の計 731 種類がリストアップされている。前回の 458 種類に比べて大幅に増えているが、これは前回対象にしなかった亜高山・高山性植物 175 種を今回リストアップしたためである。これは、登山者の増加により、踏みつけやマニアによる園芸採取などの危機が強まっていること、また、温暖化の進行による亜高山・高山の環境の変化が予測されるからである。

県域絶滅とされる種は、前回から 7 種類増加し、20 種類となった。新たに加わったもののうち、イヌハギ、ミズスギナ、イヌナズナ、キンギンボク、イワヒゲ、イヌセンブリ、カワラボウフウは、近年行われた県内標本の再検討によって、かつては県内に生育していたことが確認されたものの、近年の記録がないものである。また、前回調査では絶滅危惧 I 類であったが、近年の記録が得られていないアオネカズラ、ハイハマボス、ヒシモドキは、今回、新たに県域絶滅と判断された。県域絶滅種の多くは、水湿地や草地に生育するものが多い。人間の生産活動、自然遷移の進行によって生育環境の消滅、悪化が絶滅の主な原因と考えられる。一方、これまで県域絶滅とされていたサギソウとリュウノヒゲモが再確認されたため、県域絶滅から除外された。しかしこれらは絶滅寸前であり、何らかの保護策をとらなければ再び絶滅種としてリストアップされることになる。

現在、県内では絶滅寸前であり、保護対策を講じる必要がある絶滅危惧 I 類として、235 種類が選定された。前回（159 種類）に比べ、76 種類増加している。このランクには、新たに調査対象とした奥越地方の亜高山に局地的に生育している種類が多く加わっている。また、エチゼンシノブ、フクジュソウ、エチゼンミスミソウ、ソメワケキンキマメザクラ、アゼオトギリ、オオアブノメは、前回調査以降に新たに本県での自生が確認され、かつ、生育地・生育数が限られている種類で、絶滅危惧 I 類と判断された。前回調査では、絶滅危惧 II 類以下にランクされ、今回ランクアップされたのは 56 種類である。それらのうち、モミジチャルメルソウ、ヒメガンクビソウ、ウスバミヤマノコギリシダなどの生育地が嶺南地方に限定されている種類は、シカの食害に伴う環境変化の影響が懸念される。しかし、ナチシダは、シカの食害を受けないため、現状では増加の傾向にあることが指摘された。

絶滅危惧 I 類に、将来の絶滅が危惧される絶滅危惧 II 類（199 種類）を加えると、本県の絶滅危惧種は、434 種類となった。さらに、生育基盤が脆弱な準絶滅危惧種（119 種）を合わせると 553 種類にのぼり、県内に野生している維管束植物の 5 種類に 1 種類が絶滅の危機にさらされていることが判明した。今回、亜高山に生育する種も対象に加え、調査研究の進展による新たな情報も加わったための増加も含まれるものの、現在でも野生植物は減少傾向に

あり、危機的状况であるといわざるを得ない。

(横山 俊一)

テツホシダ

Thelypteris interrupta (Willd.) K.Iwats.
ヒメシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1地区で採集されただけで、1967年以降の記録はない。前回の調査でも確認されず、その後も情報がないことから絶滅したと思われる。

種の特徴

日当たりのよい湿地の水域に群生する多年草。葉柄の長さは20～30cm。葉身は広披針形で長さ30～50cm。羽片は線状披針形で鋭頭。基部はくさび形。胞子のう群は円形～長円形。羽片の縁近くに付く。

分布

全国分布は本州（静岡県以西）～琉球。県内ではあわら市で記録された。

絶滅した要因

生育地の湿地が開発されたことで絶滅した。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1983）、中池敏之（1982）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													●				

アオネカズラ

Polypodium niponicum Mett.
ウラボシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での確認地は1地区だけで、林道の開設によって、着していた岩石や樹木がなくなり絶滅した。1972年以降は情報がない。

種の特徴

夏に落葉し、冬に葉を出す。根茎は長く横走する。緑色であることから目立つ。葉柄は5～10cm、葉身は広披針形で羽状に深裂する。裂片は15～25対あり、水平に開出する。胞子のう群は中肋近くに付く。包膜はない。

分布

全国分布は本州（富山県まで）～九州。県内分布は、おおい町。

絶滅した要因

以前から知られていたが、林道造成によって絶滅した。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1981）、中池敏之（1982）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		●															

マルバオモダカ

Caldesia parnassiiifolia (Bassi, ex L.) Parl.
オモダカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1933年に福井市で採集記録があるが、前回調査、今回調査とも県内での自生が確認されなかったため、絶滅とした。

種の特徴

溜池、農業水路や湖沼に生えるマルバオモダカ属の多年草。葉は根生し、水深が深い場合は浮葉、浅い場合は抽水葉を展開する。夏の終わりごろ、花序に殖芽を形成する。オモダカ科で浮葉性であるのは本種だけである。

分布

北海道～九州に分布するが、本県を含め、多くの県で絶滅か絶滅寸前の状態である。秋田県ではジュンサイ田の雑草となっている。

絶滅した要因

溜池や農業水路の改修や消失によって、適度な水深がある生育環境が失われたことが絶滅の主要因だと考えられる。

参考文献 矢原徹一監修（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	●

カワツルモ

Ruppia maritima L.
カワツルモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生育地点は2か所だが、1955年採集の標本を最後に記録がなく、前回調査、今回調査ともに自生が確認されなかったため、県域絶滅とした。

種の特徴

河口の汽水域や汽水湖等に生える沈水性の多年草。茎も葉もきわめて細い。葉は狭線形で長さ5～10cm、基部は葉鞘となつて茎を抱いている。6～8月頃、葉鞘の中から2個の花を出す。心皮の柄は花後に伸び、長さ2～3cmになる。

分布

本州～琉球に分布。県内では、美浜町、若狭町で確認されている。

絶滅した要因

生育地である汽水域の開発、水質汚濁。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	●			●													

キンバイザサ

Hypoxis aurea Lour.
キンバイザサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1933年以降の確認記録がなく、県内では絶滅したものと思われる。

種の特徴

暖地の山地に生える多年草。短い茎に数個の葉が束生する。葉は線形で長さ10～25cm、幅は広い所で2～4mm、全体に長い毛が多い。4～6月頃、葉腋に長さ5～10cmの細い花茎が出て、その先に1～2個の花が付く。花被片は6個、黄色で平開し、花全体に長い毛がある。

分布

本州（宮城県以南）～琉球に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

絶滅した要因

生育地である山地の開発、土地造成、踏みつけ。

参考文献 若杉孝生（2008a）、佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											●						

オキナグサ

Pulsatilla cernua (Thunb.) Bercht. & C.Presl
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

既知の生育地点は6か所で、最後まで見られた六呂師高原でも近年の記録はない。前回調査、今回調査ともに自生が確認されず、県域絶滅とした。奥越地方では、残された株からの繁殖が行われている。

種の特徴

日当たりの良い草原に生える多年草。高さ約10cmで開花するが、花後伸長して30～40cmになる。全体は長く白い毛で被われる。根出葉は柄があり、2回羽状複葉。茎葉は3枚、無柄で裂片状。花期は4～5月。茎の先端に1個の釣鐘形の花を下向きにつける。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方で確認されている。

絶滅した要因

生育地である草地の開発。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 若杉孝生（2008a）、佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												●			●	●	●

ハマビシ

Tribulus terrestris L.
ハマビシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

過去に確認記録があるが、近年確認の情報がなく、現状では絶滅した可能性が高い。

種の特徴

海岸の砂浜に生える一年草または越年草。茎は匍匐して長さ1mに達する。葉は、大型で6～7対の小葉がある型と、小型で3～5対の小葉がある型の2型を区別することができる。7～10月頃、黄色の花が小型葉の腋に付くか、もしくは大型葉と対生して付く。

分布

本州（千葉県及び福井県以西）、四国、九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

絶滅した要因

生育地である海岸の開発、土地造成。

参考文献 若杉孝生（2008a）、佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			●														

イヌハギ

Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

1936年に池田町で採集された標本が残るのみで、その後は確認されず絶滅したと考えられる。

種の特徴

河原等の日当たりの良い砂地に生える多年生半低木。高さは150cmほどになり、全体に軟毛がある。花は黄白色で枝先の総状花序に多数付く。

分布

本州～琉球に分布し、県内では池田町で確認記録がある。

絶滅した要因

かつての自生地は特定できないが、開発等で生育環境が悪化・消失したと考えられる。

参考文献 若杉孝生（2008a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									●								

ヒナノカンザシ

Salomonina ciliata (L.) DC.
ヒメハギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1934年に旧武生市で採集された標本が残るのみで、その後の確認記録がなく、県内では絶滅したものと思われる。

種の特徴

日当たりの良い湿地に生える一年草。茎は細く直立して、ときに分枝し、高さ6～25cm。葉は互生し、長楕円形で長さ3～8mm、上方のものは披針形で長さ14mmほどになり、柄はほとんどない。8～9月頃、紫色を帯びた長さ1～2mmの花が、細長い穂状花序に付く。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

絶滅した要因

生育地である湿地の開発や踏みつけのほか、植生遷移等による生育環境の悪化。

参考文献 若杉孝生（2008a）、佐竹義輔ほか（1982b）福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												●					

ミスズギナ

Rotala hippuris Makino
ミソハギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

1936年に坂井市または福井市のいずれかで採集記録があるのみ。日本海側で唯一の記録である。採集されてから50年以上が経過しており、かつての自生地を探してもみつからない。

種の特徴

湿地に生える多年生草本。茎は基部で分枝し、節が多い。葉は線形、5～12個が輪生する。水上葉と沈水葉で形や大きさが異なる。花期は9～10月。花は葉腋に付き、白色、柄はない。花弁、雄蕊は4個。

分布

本州中部～九州に分布。県内では旧坂井郡濱四郷村（坂井市～福井市）に生育していた。

絶滅した要因

産地局限、湿地開発、農薬汚染。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

イヌナズナ

Draba nemorosa L.
アブラナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回、1934年及び1935年の敦賀町（現、敦賀市）での採取記録が確認された。しかし、現在は県内での生育が確認できないことから、県域絶滅とした。

種の特徴

草地に生える越年草。茎は高さ10～30cm、単生し、下部から枝をわける。根出葉はへら状長楕円形、茎葉は長卵形～長楕円形、両面有毛。花は黄色でまばらな総状花序になる。花期は3～6月。

分布

北海道～九州に分布。県内では敦賀市での記録がある。

絶滅した要因

草地開発。

参考文献 若杉孝生（2008a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						●											

キンギンボク

Lonicera morrowii A.Gray
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県新産。細井與三右衛門氏採集の標本を確認。最後に採集されてから50年間以上経過しており、かつての自生地及びその周辺を精査してもみつからないため、絶滅したと判断される。

種の特徴

山地に生育する高さ1～2mの落葉低木で密に分枝する。若枝や葉には軟毛が密生する。花は4～6月に葉腋から出た柄に2個ずつ着き、花冠は初め白くのち黄色に変わる。液果は2果が合着し、7～9月に赤く熟する。

分布

北海道（西南部）～本州（東北地方及び日本海側）に分布。県内では越前市での記録がある。

絶滅した要因

生育地の消失。

参考文献 若杉孝生（2008a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												●					

ハイハマボックス

Samolus parviflorus Raf.
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の既知の生育地は1か所のみであるが、自生地及びその周辺を精査しても確認されなかったため絶滅した可能性が高い。

種の特徴

海岸付近や山地の湿性に生える多年草。全草無毛。茎は細く斜上し、高さ約10～30cm。葉は倒卵形または広楕円形で薄質。6～7月、まばらな総状花序をつくり、径2～3mmの白色花を開く。

分布

北海道～本州に分布。県内では池田町での記録がある。

絶滅した要因

護岸工事、湿地開発、遷移進行。

参考文献 若杉孝生（1971）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									●								

イワヒゲ

Cassiope lycopodioides (Pall.) D. Don
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1か所である。前回の調査では取り上げられなかったが、1955年採集の県内産標本が確認された。その後、県内での確認情報はなく、県域絶滅とした。

種の特徴

高山の岩場の割れ目等に生える常緑の小低木。葉は鱗片状で、十字対生して茎に密着、菱形で先は鈍く、両面無毛。7月頃、葉腋にある数枚の卵形の苞に包まれた短枝の先から、長さ2～3cmの細長い花柄を伸ばし、先に1個の白色の花を下向きにつける。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市で確認されている。

絶滅した要因

生育地である亜高山の植生の変化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																●	

イヌセンブリ

Swertia tosaensis Makino
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

過去に県内で自生が確認されたのは1935年で、それ以来確認されていないことから絶滅したと思われる。

種の特徴

山野の湿地にはえる一年生、越年生の草本。茎は直立し高さ5～30cm、分岐する。葉は広くて、下部のものは倒披針形、長さ2～5cm。10～11月茎の頭部から柄を出し、白色でわずかに淡紫色の条がある花をつける。センブリに似るが苦味はない。

分布

北海道～九州に分布。県内では1935年に越前市で自生が確認されている。

絶滅した要因

もともと局地的に分布しており、生育地の湿地や、池沼が開発され絶滅したと考えられる。

参考文献 若杉孝生（2008a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												●					

ヒシモドキ

Trapella sinensis Oliv.
ゴマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

過去に確認記録があるが、1965年以降の確認情報がなく、現状では絶滅した可能性が高い。

種の特徴

池や沼に生える多年草。茎は細長く伸びて水中を漂い、節から根と葉を出す。水中葉は細く披針形、水上葉は3角状円形から腎円形で先の鈍い鋸歯がある。7～9月頃、葉腋から2cmほどの花柄を伸ばし、淡紅色の花を水上に出す。花冠は筒状で、筒部は黄色である。

分布

本州、九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

絶滅した要因

生育地である池沼の開発や水質汚濁、植生遷移による生育環境の悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 若杉孝生（2008a）、佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	●																●

ガガブタ

Nymphoides indica (L.) Kuntze
ミツガシワ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

過去に確認記録があるが、1964年以降の確認情報がなく、現状では絶滅の可能性が高い。最も新しい採集記録は1964年。現在では公園等に植栽されたものがみられる。全国的にも減少が著しい。

種の特徴

溜池や沼に生育する多年生の水草。葉は直径7～20cmの卵状円形、水面に浮く。花期7～9月。花は白色、直径約1.5cm、中心部は黄色。花冠の内面には長い白毛が生える。果実は楕円形、長さ約4mm、種子は光沢がある。

分布

本州～九州に分布。本県では、坂井市で採集された記録がある。

絶滅した要因

池沼開発、園芸採取、水質汚濁、帰化競合。

参考文献 林弥栄ほか（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											●						

アサザ

Nymphoides peltata (S.G.Gmel.) Kuntze
ミツガシワ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

福井県生物目録(1933)に採集記録がある。採集記録から50年以上が経過しており、近年確認の情報がなく現状では絶滅の可能性が高い。

種の特徴

湖沼に生える多年生の水草。葉身は卵形～円形、直径4～10cm、基部は深く切れ込む。縁に波状の低い鋸歯がある。裏面は紫色を帯びる。花期は6～8月。花は黄色、直径3～4cm、花冠は5深裂し、縁毛がある。

分布

本州～九州に分布。本県では坂井市に自生していた記録がある。

絶滅した要因

池沼開発、園芸採取、水質汚濁、帰化競合。

参考文献 林弥栄ほか（2013）、福井県（1933）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											●						

ホタルサイコ

Bupleurum longiradiatum Turcz. var. *elatius* (Koso-Pol.) Kitag.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1か所だが、近年の確認情報はなく、前回調査、今回調査ともに自生は確認されなかったため、県域絶滅とした。

種の特徴

山地の日当たりの良い草地や疎林内に生える多年草。茎は株状で、高さ50～150cm。茎葉は長く、基部は広がって茎を抱く。7～8月頃、茎頂か対生した枝の先に花序をつける。小総苞片は小さく、3～5個で、長楕円形、小花柄より短くて多少下を向く。

分布

本州～九州に分布する。県内では大野市で確認されている。

絶滅した要因

森林や草地の開発。園芸目的の採取。

参考文献 若杉孝生 (2008a)、佐竹義輔ほか (1982b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																●	

カワラボウフウ

Peucedanum terebinthaceum (Fisch. ex Trevir.) Fisch. ex Turcz.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

前回の調査以降に県内産の標本が確認された。既知の生育地点は3か所だが、近年の確認情報はなく、今回の調査でも自生は確認されなかったため、県域絶滅とした。

種の特徴

山野の日当たりのよい所に生える。茎は直立し、高さ30～90cm。葉は2回羽状複葉で、小葉や裂片は鋭く切れ込む。8～10月頃、白色の花を多数つける。果実は広楕円形で、分果には毛が無く、油管は各背溝下に3～5個、合生面に8～9個。

分布

北海道～九州に分布する。県内では、大野市、高浜町、おおい町で確認されている。

絶滅した要因

生育地である草地の開発。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか (1982b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		●	●													●	

スギラン

Huperzia cryptomerina (Maxim.) Dixit
ヒカゲノカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内で今まで生育が確認された地点は5か所あるが、今回発見することはできなかった。

種の特徴

深山に生育する常緑性草本。樹幹に着生する。茎はまばらに叉状に分岐する。葉は緑色で線状披針形で全縁、胞子のうは茎の先端近くに付く。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市。

生育を脅かす要因

深山まで林道が造成され、森林伐採が進み、減少している。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1990)、中池敏之 (1982)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒメハナワラビ

Botrychium lunaria (L.) Sw.
ハナヤスリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

現在、県内で知られている生育地は1か所のみ。大野市の亜高山帯が生育地。

分布

全国分布は北海道、本州。県内分布は大野市のみ。

種の特徴

夏緑性のシダ類。共通柄はほぼ葉身と同長。栄養葉は単羽状、羽片は扇形で短い柄をもつ。孢子葉は3回羽状、葉は高さ5～15 cm。亜高山の草原に生育している。

生育を脅かす要因

産地局限、踏みつけ、採取圧。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハマハナヤスリ

Ophioglossum thermale Kom. var. *thermale*
ハナヤスリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で今まで確認されている生育地は3か所で、どこも草地である。時には芝について分布を拡大している。草地の管理をしないと減少する。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は敦賀市、あわら市、坂井市、勝山市。

種の特徴

日当たりのよい砂地の草地に生育する小型の夏緑性草本。茎は約15 cmで1枚の葉をつける。茎の中途から孢子のう穂を出す。葉の基部はしだいに狭くなる。

生育を脅かす要因

草地の管理放棄。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1990）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○		○		○		

ヒロハハナヤスリ

Ophioglossum vulgatum L.
ハナヤスリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀であったが、近年知られている生育地は森林伐採や、開発によって減少している。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は嶺北地方。

種の特徴

夏緑性のシダ類。葉の高さ25 cm前後に達する、栄養葉の基部はほとんど柄がなく、切形かやや心形で孢子葉の基部を包むような感じになる。森林の林床、林縁に生育。

生育を脅かす要因

森林伐採、開発、採取圧。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○			○						

ヤシャゼンマイ

Osmunda lancea Thunb.
ゼンマイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

現在知られている生育地は2地区あるが、いずれの生育地も開発や生育環境の悪化により、絶滅の危機に瀕している。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

溪流沿いに生じる夏緑性の中型岩上生シダ類。根茎は直立または斜上し、2形の葉を叢生する。栄養葉は2回羽状複葉、質はやや厚く、最下羽片は最大とならない。胞子葉は4月に出て、胞子のうを密に付け、胞子を放出するとすぐに枯死する。

生育を脅かす要因

生育地である小川や池沼、湿地の開発や水路改修のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○														○	

キヨスミコケシノブ

Hymenophyllum oligosorum Makino
コケシノブ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

福井県での生育が確認地は限られており、樹幹に着生する。

分布

全国分布は本州、九州。県内分布はおおい町。

種の特徴

常緑性で樹幹に群生する。根幹は長くはい、分岐する。葉柄は短く約1cmで翼はない。葉身は2～3回羽状深裂する。葉裏軸上に淡褐色の毛があることが特徴である。胞子のう群は葉の上部羽片に1個付き、包膜は2弁状で円形。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1979）、中池敏之（1982）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

デンジソウ

Marsilea quadrifolia L.
デンジソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内での確認地は5か所あるが、現在は嶺南の1か所で見られない。

分布

全国分布は北海道～九州。県内では小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、勝山市で記録がある。

種の特徴

水田や池、沼等に生育する水生シダで、地下茎をはわせ葉を出す。葉柄は約10cmで、その先端に4枚の小葉をつける。胞子のうは葉柄の基部から1cm前後上方から出た小さい豆状の球体の中に入っている。

生育を脅かす要因

水田の土地改良、土地開発による池、沼の消滅、農薬の使用。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1987）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	●			●	●	○									●		

オオアカウキクサ

Azolla japonica (Franch. et Sav.) Franch. et Sav. ex Nakai

サンショウモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

以前は湿田や池等に多く生育していた。湿田の乾田化や除草剤の利用によって、急激に減少し、山に近い池や水田に残るのみとなった。

種の特徴

水に浮く常緑性のシダで、根に根毛はなく、茎は羽状に分岐する。葉は互生し瓦状に密に付く。大きさは2mm前後。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は若狭町、小浜市、敦賀市、越前市、福井市、池田町、大野市。

生育を脅かす要因

土地改良、除草剤の利用。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1987)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○			○			○			○	○	○

サンショウモ

Salvinia natans (L.) All.

サンショウモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

以前は池や水田に多く生育していたが、水田の乾田化と除草剤の使用によって急激に減少して、現在は大変少なくなっている。

種の特徴

一年生の水草で水面に浮いている。葉は茎から輪生し、2枚は浮葉になる。ほかの1枚は水中葉となる。浮葉は長卵形で茎に対生する。葉の表面には、短い突起がある。ほかの1枚は根のような水中葉となる。胞子のうは水中葉の基部に付く。

分布

全国分布は本州～九州の低地の水田。県内分布は敦賀市、小浜市、おおい町、越前町、越前市、福井市。

生育を脅かす要因

水田の乾田化、除草剤の使用。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1987)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○	○		○			○	○	○	○	○	○

ヒメムカゴシダ

Monachosorum arakii Tagawa

コバノイシカグマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内で知られている確認地は1か所のみで、稀産種である。森林伐採や林道の拡張が進むと生育条件が悪くなり絶滅する可能性がある。

種の特徴

常緑性で、葉柄は約60cmで、葉身は三角状で3回羽状複葉、中～上部に芽ができる。羽片は広披針形、先は尾状に伸びる。胞子のう群は小羽片の縁に付き、包膜はない。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布はおおい町。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1979)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

フジシダ

Monachosorum maximowiczii (Baker) Hayata
コバノイシカグマ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともごく限られているため、森林伐採と開発が進むと絶滅のおそれがある。採取圧もみられるので、県域絶滅危惧Ⅰ類とする。

種の特徴

常緑性のシダ類。根茎は斜上し、葉の高さ30cm前後に達し、葉柄はやや光沢のある茶褐色で、葉身は単羽状、鋸葉の中に円形の胞子のうをもつ。包膜はなく、葉軸の先がのびて無性芽を付ける。岩場に生育する。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は嶺北で2か所、嶺南で1か所確認されている。

生育を脅かす要因

深山の湿り気のある岩場の減少。園芸採取、森林伐採、自然遷移。

参考文献 中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○						○	○								

ハコネシダ

Adiantum monochlamys D.C.Eaton
イノモトソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で知られている生育地は、大野市のみだが、道路工事や園芸採取によって絶滅のおそれがあるため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

常緑性のシダ類で岩場に生育する。根茎はごく短くはげ生する。葉柄は高さ8～18cm光沢のある紫褐色～赤褐色。葉身は三角状卵形、高さ10～26cm、3回羽状に分岐する。小葉は無毛、質はかたく倒三角状卵形。基部はくさび形、柄がある。くぼみに胞子のうを1個付ける。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は大野市のみ。

生育を脅かす要因

道路工事、法面ふき付け、園芸採取。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

タキミシダ

Antrophyum obovatum Baker
イノモトソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

山地の渓流の岸辺に極稀に生育する。県内では3か所確認されているが、今回の調査では発見できなかった。

種の特徴

常緑性で、オオバコ状の小さい葉を出す。胞子のう群は、葉脈にそって網目状に付きヒメサジランと異にする。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は永平寺町、福井市、越前市。

生育を脅かす要因

森林伐採等で乾燥化が進むと絶滅する恐れがある。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1987）、
中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○					○

エチゼンシノブ

Onychium japonicum (Thunb.) Kuntze f. *echizenense* Yo.Saito et Y.Yoshimura
イノモトソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

2001年に発見され、その後調査の結果、タチシノブの品種として2013年発表された。国内外に現在のところ、福井市西部のみが生育地であることがわかった。種保存のため県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

タチシノブに似たシダ類。常緑性一部冬枯れ。根茎は横走。栄養葉と孢子葉の二形。4～5回羽状複葉で広三角形、かたい革質、高さ6～36.5cm。裂片は長楕円形、円頭、偽包膜が先端部をおおう。葉柄の対葉身相対高1/4位。根茎と孢子で繁殖する。

分布

福井市のみ。国内外では現在分布がみられない。

生育を脅かす要因

生育地が集落の用水路護岸であることから改修のおそれ。採取圧、道路工事。

参考文献 齋藤芳夫・吉村洋子（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

オクタマシダ

Asplenium pseudowilfordii Tagawa
チャセンシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

現在県内で知られている生育地は1か所のみである。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉の高さ30cm前後、2～3回羽状で切れこみが少なく、葉身の幅は平行的である。山地林下の岩上や樹幹に着生する。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は嶺南地方。

生育を脅かす要因

産地局限、森林伐採。

参考文献 中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

イワトラノオ

Asplenium tenuicaule Hayata
チャセンシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の確認地は3か所あるが、1か所は工事で絶滅し、あと2か所のみとなった。

種の特徴

山地のコケの生えている岩に着生する。トラノオシダに似るが、葉柄の色が緑色で葉の形は孢子葉も栄養葉も同じである。このことからトラノオシダと区別できる。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1981）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

シマイヌワラビ

Athyrium tozanense (Hayata) Hayata
イワデンド科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

本県が北限。県内で現在知られている生育地は、嶺北に1か所のみで、個体数は数十株あり現在環境も良好である。しかし道路より少し離れているものの、道路工事、採取圧に脅かされているので、絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉身は披針形で2回羽状。小羽軸の表面に著しいとげをもつ。葉は高さ30cm前後、胞子のうは小羽軸に接して付く。湿った林床に生育する。

分布

全国分布は本州（福井県、岐阜県以西）～九州。県内分布は嶺北の山地に1か所生育している。

生育を脅かす要因

道路工事、採取圧、産地局限。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○								

イワヤシダ

Diplaziosis cavaleriana (H.Christ) C.Chr.
イワデンド科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

自然度の高い落葉広葉樹林の林床に生育する夏緑性のシダ類。環境に左右されている。生育地も県内の深山に稀である。株数減少が目立ってきているので、絶滅危惧Ⅰ類とする。

種の特徴

葉柄は高さ30～60cm、わら色。葉身は披針形から広披針形、高さ30～70cm、幅15～30cm、側羽片は8～12対、三角状狭披針形、単羽状、胞子のうは羽軸に線形で中肋に斜めに付ける。

分布

全国分布は、本州、四国、九州。県内分布は嶺北、嶺南に5か所。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事、堰堤、採取圧。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○					○	○								○	

ウスバミヤマノコギリシダ

Diplazium deciduum N.Ohta et M.Takamiya
イワデンド科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も少なく、主に嶺南に生育している。シカ食害のため減少している。

種の特徴

夏緑性のシダ。羽片が深く切れ込むほか、葉質も草質であることからミヤマノコギリシダと区別ができる。自然環境のよい森林の林床に生育している。北限に近い。

分布

全国分布は本州（石川県以西）～九州。県内分布は嶺南に生育。

生育を脅かす要因

森林伐採、シカ食害。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、渡辺定路（2003）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○											

コガネシダ

Woodsia macrochlaena Mett. ex Kuhn
イワデンダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山地の岩石と岩石の間に生育する稀産種で、県内での確認地は1か所のみである。

分布

本州～九州に稀に生育。県内分布は大野市。

種の特徴

夏緑性で葉柄は短く、葉身は2回羽状深裂、羽片の先端は円頭、胞子のう群は羽片の縁に付く。

生育を脅かす要因

岩石のすき間に生育する稀産種で、生活基盤が脆弱。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1979)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

フクロシダ

Woodsia manchuriensis Hook.
イワデンダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山地の湿った岩石やそのすき間に生育する稀産種で、県内の確認地は4か所のみである。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は大野市、勝山市。

種の特徴

夏緑性で、葉柄は葉身より短い。葉身は2回羽状深裂、羽片は下部ほどせまくなる。胞子のう群は羽片の縁に付き、包膜は球形で袋状になっている。

生育を脅かす要因

湿った岩石やそのすき間に生育する稀産種で、生育基盤が脆弱。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1985)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

カナワラビ

Arachniodes rhomboidea (Wall. ex C.Presl) Ching
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も減少している。東限に近い。

分布

全国分布は本州（関東地方以西）、九州。県内分布は嶺北に3か所、嶺南に3か所。

種の特徴

常緑性のシダ類。根茎はややはい、葉柄下部とともに淡褐色～茶色で披針形。葉の高さは80cm前後、葉身は2回羽状、包膜は円腎形で胞子のうは小羽片の辺近くに付く。

生育を脅かす要因

森林伐採、採取圧、道路工事。

参考文献 岩槻邦男編 (1992)、中池敏之 (1992)、渡辺定路 (2003)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○						○				○		○

ナチクジャク

Dryopteris decipiens (Hook.) Kuntze
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

嶺南の2か所のみで生育していたが以後確認できない。北限にあたっている。絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

県内分布は本州（関東地方以西）～九州まで。県内分布は嶺南の2か所。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉は高さ60cm前後で、単羽状、羽片は浅く切れ込む。胞子のうは羽片の中肋寄り、両側に1列に付く。包膜は円腎形、全縁。山地の林床、林縁に生育している。

生育を脅かす要因

産地局限、森林伐採、シカ食害。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○											

イヌナチクジャク

Dryopteris decipiens (Hook.) Kuntze var. *diplazioides* (H.Christ) Ching
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限で嶺南の1地区のみに記録がある。北限に近く絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

全国分布は本州（中部地方以西）～九州まで。県内分布は嶺南の1地区のみ。

種の特徴

ナチクジャクとマルバベニシダの中間形のような形をもつ常緑性のシダ類。下部羽片は深裂するが上部羽片はナチクジャクのように浅裂または全縁。

生育を脅かす要因

産地局限、森林伐採、シカ食害。

参考文献 中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

ギフベニシダ

Dryopteris kinkiensis Koidz. ex Tagawa
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は4か所のみで、個体数の減少がみられる。北陸地方では北限にあたる。生育地の環境が悪化していることから準絶滅を絶滅危惧Ⅰ類に変更する。

分布

全国分布は本州（秋田県、千葉県以西）～九州。県内分布は嶺北3か所、嶺南に2か所。

種の特徴

常緑性のシダ類。サイゴクベニシダに似る。葉身は長楕円形で薄く、胞子のうは中肋寄り。葉柄と葉軸は汚れた茶褐色の鱗片におおわれる。葉の高さは80cm前後。山麓林縁や人里の石垣等に生育。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、開発。

参考文献 中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○					○			○	

ナガバノイタチシダ

Dryopteris sparsa (Buch.-Ham. ex D.Don) Kuntze
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では2か所で確認されているが、個体数も少なく産地局限と分布の北限にあたるので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

全国分布は本州（千葉県以南）～琉球まで。県内分布は嶺北に生育。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉の高さ90cm前後、葉柄は茶褐色を帯び、葉身は長楕円形で2～3回羽状、胞子のうは中肋寄り、包膜は円腎形で全縁。山地の林床や林縁に生育する。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○					○				

ホオノカワシダ

Nothoperanema shikokianum (Makino) Ching
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での確認地は1か所で、山地の湿った林縁に生育していたが、今回の調査では確認できなかった。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布はおおい町。

種の特徴

常緑性で、葉柄と葉身はほぼ同長、葉柄は20～50cmで鱗片を密生する。葉身は3回羽状深裂、羽片には短い柄がある。胞子のう群は小羽片の中間に付き、包膜はない。

生育を脅かす要因

森林伐採やシカの食害により減少。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1979）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

カタイノデ

Polystichum makinoi (Tagawa) Tagawa
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。2地区のみ。ダムの設置、道路補修等により確認されず絶滅危惧Ⅰ類とする。

分布

全国分布は本州（関東地方以西）～九州まで。県内分布は嶺北地方に記録があるが、確認できない。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉の表面は独特の金属性の光沢をもつ。葉柄下部の鱗片は黒褐色で広披針形状でかたい。胞子のうは中肋と辺の間で、葉は高さ60cm前後に達する。山地の林床のやや湿ったところに生育。

生育を脅かす要因

河川改修、道路改修、森林伐採、産地局限。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○				○	

クリハラン

Neocheiropteris ensata (Thunb.) Ching
ウラボシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の確認地は8か所であるが、生育地の環境悪化（森林伐採、遷移、シカの食害）によって減少しつつある。

分布

全国分布は、本州～九州。県内分布はおおい町、小浜市。

種の特徴

常緑性で根茎は長くは、単葉を出す。葉柄よりも葉身が長く、幅が4～7cmと広い。胞子のう群は中肋の両側に2～4列で不規則に並ぶ。

生育を脅かす要因

森林伐採、遷移、シカの食害で減少している。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1981）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○												

イワオモダカ

Pyrrosia hastata (Houtt.) Ching
ウラボシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在1地区でのみ確認しているものの、個体数も少ない。

分布

全国分布は北海道～九州まで。県内では若狭町と大野市で確認されている。

種の特徴

常緑性のシダ類。根茎は短く横走り径4mm。葉を密に付け、葉柄は高さ12～25cmで淡褐色。葉身は掌状に3～5裂し長さ5～15cm、幅3.5～12cm。三角状披針形。基部～中央部が広い。胞子のう群は主側脈の間に3～7列に並ぶ。岩上や樹幹に着生する。稀。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、園芸採取。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○															○	

ビロードシダ

Pyrrosia linearifolia (Hook.) Ching
ウラボシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での確認地は10か所あるが、個体数が減少している。

分布

全国分布は北海道～琉球まで。県内分布はおおい町、小浜市、南越前町、越前町、美浜町、大野市。

種の特徴

常緑性で、老木や岩上に生育している。根茎は横には、長さ5～10cmの単葉を出す。葉柄はほとんどなく、葉身には黄褐色の星状毛を密に付ける。胞子のう群は中肋の両側に1列か2列に並ぶ。

生育を脅かす要因

森林伐採、園芸目的の採取。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1981）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○		○	○								○	

カミコウチテンナンショウ

Arisaema ishizuchiense Murata subsp. *brevicollum* (H. Ohashi et J. Murata) Seriz. サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

福井県が分布の南限で、生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。過去 10 年間未確認。

分布

本州（中部地方）の亜高山帯の林下に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

亜高山帯に生える多年生草本。高さは 10～20 cm。葉は 1～2 個が鳥足状に付き、小葉は 5 枚で、楕円形～倒卵形。花期は 5～7 月。花序は葉よりも先に開く。仏炎苞は濃紫色で緑色を帯びず、条がある。花柄は葉柄より常に短い。付属体は太い棒状で濃紫色。

生育を脅かす要因

産地局限、園芸採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

サジオモダカ

Alisma plantago-aquatica L. var. *orientale* Sam. オモダカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

絶滅危惧Ⅱ類とされた前回調査では敦賀市で生育が確認されたが、今回調査では県内での生育が確認されなかったため、絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道～本州に分布する。もともと北日本に多く、西日本に少ない。県内では敦賀市と福井市で記録がある。

種の特徴

水田や農業水路に生える抽水性～湿生のサジオモダカ属多年草。かつては水田の主要雑草でもあった。葉身は楕円形で基部は円形になり、葉柄との境が明瞭である点で、葉柄との境が不明瞭である類似種のヘラオモダカと区別できる。

生育を脅かす要因

農業水路の改変や消失及び水田耕作作業の変化が生育を脅かす主要因である。

参考文献 浜島繁隆・須賀瑛文（2005）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

スブタ

Blyxa echinosperma (C.B. Clarke) Hook. f. トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

湿田の乾田化や除草剤の影響により、激減したと考えられる。

分布

本州～琉球に分布し、県内では丹南地域～若狭町にかけて記録がある。

種の特徴

浅い池や湿田等に生育する一年生の沈水植物。葉は線形で根生し、花は白色で小さく、葉腋から水面に伸びる花柄に付く。

生育を脅かす要因

水田の乾田化、湿地の開発、水質汚濁、農薬汚染。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○					○					

トチカガミ

Hydrocharis dubia (Blume) Backer
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

近年は敦賀市中池見湿地でのみ確認されていたが、1990年代前半以降アメリカザリガニの食害のため激減した。維持管理団体等によりザリガニの駆除作業が継続されているが、群落が回復するまでには至っていない。

種の特徴

池や水路等に生える多年草。葉は丸く、径4～7cm、裏面中央に気胞があって水面に浮く。花は水面で開花し、花弁は3個、白色で卵形。

分布

本州～琉球に分布。現在は敦賀市中池見湿地にのみ見られるが、坂井市、福井市、越前市、小浜市にも記録がある。

生育を脅かす要因

アメリカザリガニによる食害。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○	○					○

サガミトリゲモ

Najas chinensis N.Z.Wang
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

確認例が少ない上、溜池や休耕田が生育地となっているため、土地改良や遷移による生育環境の悪化が危惧される。

種の特徴

水田や溜池に生育する一年生の沈水植物。葉は線形で長さ1.5～3cm、細かい鋸歯がある。果実は長楕円形で長さ2.5～3mm、表面に網目模様がある。

分布

本州～琉球に分布。県内では大野市と越前町で確認されている。

生育を脅かす要因

水田や溜池の環境改変。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○									○	

イバラモ

Najas marina L.
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認例が少なく、1992年以降の記録はない。生育環境が脆弱なため絶滅が危惧される。

種の特徴

池や流れのゆるい流水中に生える一年生の沈水植物。茎は長さ50cmほどで、まばらな刺がある。葉は硬く線形で、先が刺になるまばらな鋸歯があり、長さ3～6cm。

分布

北海道～九州に分布し、県内では鯖江市、永平寺町、若狭町で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、池沼開発、農薬汚染。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○									○				○			

トリゲモ

Najas minor All.
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

2007年に若狭町の1か所で確認された。生育地は水が溜まった小さな凹地で埋め立てられる可能性もあり、絶滅が危惧される。

分 布

本州～琉球に分布し、県内では若狭町の1地点のみで確認されている。

種の特徴

一年生の沈水植物。茎は長さ約30cmで分枝する。葉は長さ1～2cmで対生する。雌雄同株で、花期は7～9月。

生育を脅かす要因

確認されている生育地は、狭小な水域であるため、埋立や遷移の進行等により消失する恐れがある。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

セキショウモ

Vallisneria natans (Lour.) H.Hara
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認された地点が少ない上に、開発による生育環境の消失や、水質悪化等により激減している。

分 布

北海道～九州に分布し、県内では奥越から嶺南にかけての数地点で採集例がある。

種の特徴

池や小川に生える多年生の沈水植物。葉は線形で長さ30～70cm、根生して株になる。花期は8～10月、雄花の花柄が切れて水面に浮き上がる。

生育を脅かす要因

湿地開発、水質汚濁。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○			○									○

ホロムイソウ

Scheuchzeria palustris L.
ホロムイソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区のみである。

分 布

北海道～本州（京都府以北）に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

湿原に生える多年草。根茎は硬くミズゴケの中を横に這い、節から葉を束生する。葉は直立し細くて硬く、長さ10～30cm、先端に排水孔があり、基部に葉鞘と葉舌がある。夏に高さ10～20cmの花茎を直立し、数個の葉を互生に付け、上部の葉腋に花を付ける。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の開発等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献

佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1998）、若杉孝生（2008）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

シロシャクジョウ

Burmannia cryptopetala Makino
ヒナノシャクジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区である。腐生植物で生育環境が不安定である。

分布

本州（近畿）～九州に分布する。県内では小浜市で確認されている。

種の特徴

やや湿った照葉樹林の林床に生える多年生の腐生植物。ヒナシャクジョウに似ているが、花は小柄であって散状に集まる。花筒に広い翼があり、内花被片が発達しないので区別される。

生育を脅かす要因

森林伐採、土地造成、産地局限、動物食害、自然遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												

ホンゴウソウ

Sciaphila nana Blume
ホンゴウソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地はごく限られている。腐生植物で生育環境が不安定である。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

暗い林の林床の落ち葉の間に生える多年生の腐生植物。地下に白色の根茎がある。地上茎は極めて細く、高さ3～13cm。葉は鱗片状で長さ約1.5mm。7～10月頃、長さ0.5～2cmの総状花序に4～15個の花を付け、花序の下部に雌花、上部に雄花が付く。

生育を脅かす要因

森林伐採や植生遷移等による生育環境の悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（2001）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○											

ウエマツソウ

Sciaphila secundiflora Thwaites ex Benth.
ホンゴウソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地はごく限られている。腐生植物で生育環境が不安定である。

分布

本州（中部地方以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

林床の落ち葉の間に生える多年生の腐生植物。全体に赤紫色を帯びる。茎の高さ6～10cm、径約0.8mmでほとんど分枝しない。葉は鱗片状で長さ約3mm。7～9月頃、長さ1～4cmの総状花序に3～9個の花を付け、花序の下部に雌花、上部に雄花が付く。

生育を脅かす要因

森林伐採や植生遷移等による生育環境の悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（2001）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

マルバサンキライ

Smilax stans Maxim.
サルトリイバラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

石灰岩地帯等の特殊な環境に生育しているため、一旦生育環境が破壊されると復元することは困難である。本種の生育確認地は2地区のみである。

分布

本州～九州に分布する。県内では福井市、大野市で確認されている。

種の特徴

山地に生えるつる性半低木。茎は高さ30～50cm、稜角があつてとげはない。葉は広卵形、長さ4～7mm、基部は円く、裏面は白色を帯び、巻きひげはない。散形花序は2～5花ついて、5～6月に開く。液果は球形、黒色、径6～8mm。

生育を脅かす要因

産地局限、森林開発、道路工事。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

アマナ

Amana edulis (Miq.) Honda
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では嶺南の一部地域でしか確認されていない。

分布

本州（石川県以西、福島県以南）に分布し、県内では若狭町とおおい町で採集例がある。

種の特徴

日当たりの良い草地に生える多年草。葉は線形で2枚、花茎の下部に付く。花茎は高さ15～20cm、花期は早春、花被片は6個、白色で暗紫色の筋がある。

生育を脅かす要因

遷移の進行による草地の消失、園芸採取

参考文献

福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○															

ヒロハノアマナ

Amana erythronioides (Baker) D.Y.Tan et D.Y.Hong
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

嶺北地方の一部地域でしか確認されていない。

分布

本州、四国に分布し、県内では嶺北の一部で確認されている。

種の特徴

草地や落葉樹林下に生える多年草。早春に混生する2個の葉と高さ5～10cmの花茎を出し、先端に白色の花を1個付ける。

生育を脅かす要因

落葉樹林の開発、遷移の進行による林床の藪化。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
														○			○

キエビネ

Calanthe striata R.Br.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生育地、生育数ともに少ない。

分 布

国内では本州西部～九州に分布。県内では嶺南の一部、嶺北の一部で記録がある。

種の特徴

山地の林内に生える多年草。エビネによく似るが大型で花は黄色。高さ 30～50 cm。葉は広楕円形～倒卵状披針形。長さ 30～50 cm、幅 5～15 cm、萼片は楕円形～卵状披針形、唇弁は 3 列、中央裂片に数個のひだ状隆起がある。

生育を脅かす要因

森林伐採や道路工事等により生育地が減少。園芸目的の採取等により、減少に追い打ちがかかっている。また、他府県では、シカによる食害が確認されている。

参考文献 遊川知久ほか (2015)、畔上能力ほか (2013)、福井県植物研究会 (1998)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															○

サルメンエビネ

Calanthe tricarinata Lindl.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地が限られており、個体数が減少している。

分 布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺南の一部、嶺北の一部で記録がある。

種の特徴

ブナ帯の樹林帯に生える多年草。高さ 30～50 cm。エビネによく似るが、花の萼片や側花弁は淡黄緑色、唇弁は朱紅褐色でトサカ状の隆起が縦に 3 つあり、縁が縮れる。

生育を脅かす要因

森林伐採や道路工事等により生育地が減少。園芸目的の採取等。また、他府県では、シカによる食害が確認されている。

参考文献 畔上能力ほか (2013)、福井県植物研究会 (1998)、大橋広好ほか (2015)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○					○	○							○	

ニョホウチドリ

Chusua joo-iokiana (Makino) P.F.Hunt
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では生育地が一部の地域に限られており、その地域での環境の悪化が進み、個体数が減少している。絶滅が懸念される。

分 布

国内では本州（東北南部～中部地方）に分布。県内では嶺北の一部で生育している。

種の特徴

亜高山帯の草原に生える多年草。根茎は球形。茎の高さは 10～30 cm。葉は披針形、長さ 3～8 cm、2～3 個を付ける。花は薄桃色～濃桃色。茎に数花をやや偏って総状につける。唇弁は広く長さ 8 mm。3 深裂。距は線形。

生育を脅かす要因

登山道整備等により生育地が減少。植生の遷移、園芸採取等。

参考文献 畔上能力ほか (2013)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

トケンラン

Cremastra unguiculata (Finet) Finet
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内で確認された生育地は1箇所のみであったが、現在は生育が見当たらない。

分布

国内分布は、北海道～九州。県内分布は、若狭町に生育していたが、現在この生育地は消失したと考えられる。

種の特徴

細長い地下茎があり、それに偽球茎がつながる。葉は長楕円形で鋭頭、長さ10～12cm、幅3～5cm。花茎は30～40cm、茎の先に数花～10数花をつける。花は全体に淡黄褐色。唇弁は白色で各弁に紫斑がある。

生育を脅かす要因

産地極限。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、大橋広好ほか（2015）、前川文夫（1971）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

マヤラン

Cymbidium macrorhizon Lindl.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では1箇所にしか確認されていない。

分布

国内分布は、本州関東以西～琉球。県内分布は、高浜町。

種の特徴

常緑広葉樹林や古い二次林の林内に生える無葉の腐生ラン。花茎以外には地上茎を伸ばさないため、発見の難しい種でもある。花茎は数個の白花をつけ、各弁は多少淡紅紫色を帯び、花の基部にある苞葉はきわめて短い。果実は倒卵状紡錘形。和名は関西の麻耶山に因む。

生育を脅かす要因

極めて稀にしか確認されていない種で自然環境の破壊、植生の遷移等。

参考文献 前川文夫（1971）、大橋広好ほか（2015）、遊川知久ほか（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○														

クマガイソウ

Cypripedium japonicum Thunb.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地は限られ、個体数が減少

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺南の一部、嶺北の一部に分布。

種の特徴

里地・里山の林内や草地に生える多年草。草の高さ20～40cm。葉は2枚で茎頂に対になった扇形で縦にしわが入る。葉の長さ10～15cm。幅12～20cm。葉の間から花軸が伸び、径10cm程度の花をつける。側花弁は卵状披針形、斑点がある。唇弁は袋状、紅紫色の筋がある。

生育を脅かす要因

森林伐採や道路工事等により生育地が減少。園芸目的の採取等。

参考文献 遊川知久ほか（2015）、林弥栄・平野隆久（2013）、福井県植物研究会（2001）、前川文夫（1971）、大橋広好ほか（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○							○					

ホテイアツモリソウ

Cypripedium macranthos Sw. var. *macranthos*
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

県内では生育地が一部の区域に限られており、その地域での環境の悪化がすすみ、個体数が減少。

分布

国内では本州中部の亜高山帯の草原。県内では嶺北の一部に分布している。日本の分布の南限である。

種の特徴

亜高山の草原に生える。草の高さ 20～40 cm。葉は長楕円形で 3～5 枚が互生している。花は紅紫色で茎長に 1 個つける。唇弁は袋状で丸く径 3～5 cm。側花弁は唇弁を抱く。

生育を脅かす要因

登山道工事や登山者による踏みつけ、雪崩の発生等による生育地の環境悪化。園芸目的の採取。また、他県ではシカ被害も確認されている。

参考文献 清水建美ほか (2014)、福井県植物研究会 (1997)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

キバナノアツモリソウ

Cypripedium yatabeanum Makino
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内での確認生育地は 1 箇所のみで、生育数はきわめて少ない。

分布

国内分布は北海道～本州（東北地方南部～中部地方）。県内分布は、大野市。

種の特徴

冷温帯上部～亜寒帯下部の落葉広葉樹林内や草原等に生えるアツモリソウのなかま。茎は高さ 10～30 cm。葉は広楕円形で 2 枚が互生する。葉や子房には線毛がある。花は茎頂に 1 個、緑黄褐色で、紫褐色の斑紋がつく。花形は特徴的、唇弁は袋状で開口部が広い。

生育を脅かす要因

登山道の整備等による、生育環境の破壊、園芸用の採取等。また、他県では、シカの被害も確認されている。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

セッコク

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が一部の区域に限られており、生育数は不明。今回の調査でも、生育地の確認ができなかった。

分布

国内では岩手県から南に分布。県内では嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に記録がある。

種の特徴

岩や樹に着生する。茎は長さ 5～25 cm、多肉で細長く、堅く、多数の節があり、上部の節から出る葉は 2 年生で長さは 3～5 cm。葉は 2～3 年程度で枯れて脱落する。花は古い茎に花枝を出し、径 3 cm 位の白色または淡紅色を帯びた花をつける。

生育を脅かす要因

生育地の環境悪化、道路工事、園芸目的の採取等。

参考文献 畔上能力ほか (2013)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)、遊川知久ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○					○									

サワラン

Eleorchis japonica (A.Gray) F.Mack.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の一部の湿原に生育しており、その地域での環境の悪化がすすみ、個体数が減少している。

分布

国内では北海道～本州（近畿地方以北）に分布。県内では嶺北の一部の湿地、嶺南の一部の湿地に分布している。

種の特徴

山地の湿地に生える。茎の高さ 20～30 cm。茎の基部に球形の偽茎がある。葉は直立し、長さ 10～15 cm、先は尖る。茎頂に紅紫色の 1～3 花をつける。唇弁は 3 裂、中裂片には縦の隆起線がある。

生育を脅かす要因

環境悪化。自然遷移等による園芸採取等。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、前川文夫（1971）、大橋広好ほか（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○				○	○	

ツリシュスラン

Goodyera pendula Maxim.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では産地が限られており、個体数は極めて少ない。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市。本県のものはヒロハツリシュスランと呼ばれている型と考えられる。

種の特徴

冷温帯の湿った林内の樹上や岩上に着生する。茎は下垂して伸び、長さ 10～20 cm ほどになる。葉は広披針形、長さ 2～3.5 cm、先は尖り、基部はくさび形。花茎は湾曲して立ち上がり、花序には縮毛があり、白花は長さおよそ 5 mm ほどで一方に偏ってつく。

生育を脅かす要因

県内での産地は現在 1 箇所のみで、山道の開発や樹木の伐採等。

参考文献 畔上能力ほか（2013）、前川文夫（1971）、大橋広好ほか（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒメミヤマウズラ

Goodyera repens (L.) R.Br.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で生育地、生育数ともに限られている。

分布

国内分布は北海道～本州（中北部）に分布。県内分布は勝山市、大野市。

種の特徴

亜寒帯～冷温帯の林内に生える。茎は高さ 10～20 cm。葉は卵形で長さ 1～2.5 cm、幅 7～15 mm。茎の下部に集まって互生する。葉面には白色の斑紋がある。花は茎頂に穂状につき一方に偏る。苞は披針形、背萼片は長卵形、側萼片は斜卵形、側花弁は萼片より短い。

生育を脅かす要因

山道の開発等による、環境の変化等。

参考文献 大橋広好ほか（2015）、前川文夫（1971）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

セイタカスズムシソウ

Liparis japonica (Miq.) Maxim.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。

分布

国内分布は北海道～九州。県内分布は大野市、福井市。

種の特徴

山地の林内や草原に生える。偽球茎は卵形。葉は広楕円形、長さ6～12 cm、幅3～5 cm。花茎は20～30 cm、淡緑色または淡紫緑色の花を10数個つける。萼片は線形、長さ9 mm、側弁は糸状で萼片と同長、唇弁は倒卵形、長さ9～12 mm、円頭、縁に細歯がある。

生育を脅かす要因

自然環境の変化、破壊、植生の遷移等。

参考文献 大橋広好ほか(2015)、畔上能力ほか(2013)、前川文夫(1971)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

ジガバチソウ

Liparis krameri Franch. et Sav.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、生育数ともに少ない。

分布

国内分布は、北海道～九州。県内分布は、福井市、敦賀市。

種の特徴

山地の林縁等に生える。偽球茎は卵円形、葉は広卵形で先はやや尖り、長さ3～8 cm、幅2～4 cm。葉脈は明瞭。花茎は8～20 cm、上部に数花～10数花をつける。花色は淡緑色。萼片は線形、長さ10～12 mm、側弁は糸状で長さ8～10 mm、反曲。唇弁の先は下垂。

生育を脅かす要因

山道の開発、環境の破壊、植生の遷移等。

参考文献 大橋広好ほか(2015)、畔上能力ほか(2013)、前川文夫(1971)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											○

スズムシソウ

Liparis makinoana Schltr.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、生育数ともに少ない。

分布

国内分布は、北海道～九州。県内分布は若狭町、福井市、坂井市。

種の特徴

冷温帯の林内に生える。茎の高さ10～20 cmほど。葉は広楕円形で、セイタカスズムシソウに似るが、葉面の網状脈が明瞭である。花は淡暗紫色で長さ3 cmほどの目立つ大きさで10個ほどを茎の上部につける。萼片は広線形、側弁は糸状、唇弁は倒卵形で円頭。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の悪化。園芸採取等。

参考文献 大橋広好ほか(2015)、畔上能力ほか(2013)、前川文夫(1971)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○						○

サギソウ

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生育地点は5箇所だが、前回調査ではどの地点でも確認されず絶滅とされた。今回は1箇所です数十個体の生育が確認されたため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

国内分布は北海道～九州。県内では各地に見られたが、現在は1箇所にのみ分布

種の特徴

低地の湿地に生える。地下に球茎がある茎は高さ20～40cm、下部に広線形の数葉をつけ、長さは5～10cm。上部の2～3葉は苞状。花は茎頂に1～4個をつけ白色。側弁は斜卵形。唇弁は3裂、中片は線状、側片は斜扇形で縁は深く細裂。距は下方に伸び、3～4cm。

生育を脅かす要因

自然遷移や開発による湿原環境の変化。園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)、大橋広好ほか (2015)、林弥栄・平野隆久 (2013)、前川文夫 (1971)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				●		●						●	●		○		

ミスチドリ

Platanthera hologlottis Maxim.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の一部の湿原に生育しており、個体数が減少傾向である。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北の一部の湿地に分布している。

種の特徴

山地の日当たりのよい湿地に生える。茎の高さ50～90cm。葉は下部の4～6個は大型で長さ10～20cm、上部のものは小さくなる。線状披針形で互生、5～12個つける。花は茎頂に多数つける。花色は白色。芳香がある。

生育を脅かす要因

湿地やその周囲の開発、自然遷移、園芸採取。

参考文献 畔上能力ほか (2013)、福井県植物研究会 (1997)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

トキソウ

Pogonia japonica Rehb.f.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内の一部の湿原に生育しているが、個体数が減少している。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北の一部の湿地、嶺南の一部の湿地に分布している。

種の特徴

日当たりのよい湿地に生える。茎の高さ10～30cm。茎は直立し、茎頂に淡紅色の花を付ける。花期は5～6月。広線形の葉は茎の中央に1枚付き、花の下に苞葉を1枚付ける。

生育を脅かす要因

自然遷移や、湿地やその周囲の開発による生育環境の悪化等。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○				○			○	○	

ヒナチドリ

Ponerorchis chidori (Makino) Ohwi
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地、生育数ともに少ない。

分布

全国分布は北海道、本州、四国。県内分布は大野市。

種の特徴

冷温帯地域の山林の樹上や苔の中に生える。根は太く多肉で1～2個。茎の高さは7～15cm、下部または中程に広披針形～長楕円形の一葉をつける。長さ6～12cmで基部は茎を抱く。茎の上部に淡紅紫色の花を数個総状につける。花は径1cm、距は他の花卉より長い。

生育を脅かす要因

植生遷移等による生育環境の悪化、園芸採取等。

参考文献 大橋好ほか (2015)、前川文夫 (1971)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ウチョウラン

Ponerorchis graminifolia Rehb.f.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地が一部の区域に限られており、個体数が少ない。

分布

国内では本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

種の特徴

山地の岩壁等に生える。球状の塊根があり、茎は高さ7～15cm。葉は線形～広線形で長さは7～12cm。茎頂に紅紫色を帯びた花を数花つける。側弁は斜形、側花弁は斜卵形、厚弁は3裂、距は湾曲し長さ1～1.5cm。

生育を脅かす要因

道路工事等による、生育環境の悪化、園芸採取等。

参考文献 畔上能力ほか (2013)、福井県植物研究会 (1998)、前川文夫 (1971)、大橋好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○							○	○					○	

カヤラン

Thrixspermum japonicum (Miq.) Rehb.f.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育確認は極めて少ない。

分布

全国分布は本州（岩手県以南）～九州。県内分布は、あわら市、若狭町、越前町。

種の特徴

暖温帯の樹上や岩上に着生する。茎は長さ3～7cm、下方に向かって伸び、茎の下部から中部に気根を出し付着する。葉は披針形で、長さ2～4cm。2列に互生し、革質。花茎は細く葉腋から出て下垂し茎の先に集まる。花は黄色、萼片は卵形、唇弁の内面に紫斑がある。

生育を脅かす要因

登山道の整備等による生育環境の悪化、園芸採取等。

参考文献 前川文夫 (1971)、大橋好ほか (2015)、畔上能力ほか (2013)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○						○				

ヒトツボクロ

Tipularia japonica Matsum.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、生育数ともに少ない。

分布

国内では本州～九州に分布。県内では嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

種の特徴

明るい林内や林縁に生える。偽球茎は狭卵形で2～3個連なる。葉は1枚。卵状楕円形で長さ3～5cm。暗緑色で中脈が白く、裏面は紫色。花茎は細く長さ15～25cm、茎頂には紫色を帯びた黄緑色の小さな花を10数個つける。

生育を脅かす要因

植生遷移による生育環境の悪化、

参考文献 畔上能力ほか(2013)、福井県植物研究会(1998)、前川文夫(1971)、大橋広好ほか(2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○				○			○				○

ハクウンラン

Vexillabium nakaianum F.Maek.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、生育数ともきわめて少ない。県内では生育地が一部地域に限られている。

分布

国内では本州、四国、九州に分布。県内では嶺北の山地に生育している。

種の特徴

夏緑広葉樹林の明るい林床に生育する。高さ5～13cm。葉は卵円形で、長さ3～7mm、茎の下部に数個つける。葉柄があり、基部は茎を抱く。直立した茎の先端に1～4個の白色の花をつける。唇部の裂片はほぼ四角形。

生育を脅かす要因

登山道整備等による生育環境の悪化。

参考文献 前川文夫(1971)、大橋広好ほか(2015)、若杉孝生(1977)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ヒオウギ

Iris domestica (L.) Goldblatt et Mabb.
アヤメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

現在自生するものは少なく、長い間園芸採取の対象となってきたため激減した。県内4箇所では標本の記録があるが、最近では採集されておらず、1975年のものが最も新しい。庭や道路の植え込みに栽培されているのを時々見かける。

分布

本州～琉球に分布。県内では海岸沿いに分布している。

種の特徴

山地の草原に生える多年生草本。葉は長さ30～50cm、幅2～4cm、扇状に出る。花期は8～9月。花は平開し、直径3～4cm、花被は橙色、暗赤色の斑点がある。種子は球形、黒く光沢があり、「ぬばたま」とよばれる。観賞用に栽培される。

生育を脅かす要因

草地開発、土地造成、園芸採取。

参考文献 門田裕一ほか(2013)、福井県植物研究会(1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○	○										○

ミズアオイ

Monochoria korsakowii Regel et Maack
ミズアオイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

池沼の開発や水田の乾田化、水路改修、管理放棄等による生育環境の消失や悪化により、絶滅の危機に瀕している。

種の特徴

沼や水田等に生える一年草。葉は心形で長さ5～10 cm、全縁、厚く、深緑色で光沢がある。根出葉の柄は長く10～20 cm、茎葉の柄は短く5～10 cm。9～10月頃、茎の先に多数の花が総状花序に付く。花は径1.5～3 cm、花被片は青紫色で楕円形、長さ15 mm内外。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である池沼の開発、水田の乾田化、水路改修、管理放棄、植生遷移等による生育環境の消失や悪化。山野草マニアによる園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○						○

ミクリゼキショウ

Juncus ensifolius Wikstr.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の垂高山の一部でしか確認されていない。

種の特徴

高山の湿地に生える多年草。茎は高さ30～50 cm、2稜形で狭い翼がある。花期は8～9月。頭花は球形で径8～10 mm、ふつう2個つく。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では奥越の垂高山の一部でのみ確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

イヌイ

Juncus fauriei H.Lév. et Vaniot
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では限られた地域の海岸にのみ生育する。

種の特徴

海岸の湿った砂地に生える多年草。茎は高さ20～40 cm、圧扁した円筒状で、ふつうねじれる。花期は5～7月。花序は10～30個の花からなる。

分布

北海道～本州に分布。県内では敦賀市と福井市でのみ確認されている。

生育を脅かす要因

海岸の開発、産地局限

参考文献 若杉孝生（2008b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											○

オオタマツリスゲ

Carex filipes Franch. et Sav. var. *rouyana* (Franch.) Kük.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所であり、いずれの生育地でも個体数が少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

本州（東北地方南部～近畿地方）に分布。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

暖温帯に生育。葉は粉緑色で前年の葉は枯れて残らない。基部の鞘は淡褐色。

生育を脅かす要因

林道拡幅等の環境改変。森林伐採。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○	○				

ウマスゲ

Carex idzuroei Franch. et Sav.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所、個体数も減少傾向であるため県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

湿地に生える多年草。有花茎は高さ40～60cm。葉幅は4～8mm、小穂は離れてつき、苞の葉身は小穂よりも長い。

生育を脅かす要因

生育地の乾燥化

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○										○						

キンチャクスゲ

Carex mertensii Presc. var. *urostachys* (Franch.) Kük.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所、個体数も少ないので県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道、本州（東北地方、中部地方）に分布。県内では大野市で確認されている。

種の特徴

高山の草地に生える多年草。有花茎は高さ30～50cm。側小穂は雌雄性であり、基部の鞘の色は淡褐色である。

生育を脅かす要因

気候変動に伴う生育環境の変化。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

サドスゲ

Carex sadoensis Franch.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生息地点は2箇所、個体数も多くないので絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道～本州（鳥取県以北の日本海側）に分布。県内では大野市で確認されている。

種の特徴

山地の渓流沿いに生育し、横走する根茎がある。有花茎は30～70cm。赤褐色の長い柱頭は花期を過ぎても残り、柱頭は2岐。

生育を脅かす要因

林道拡幅に伴う谷川の改変。

参考文献 若杉孝生（1973）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																	○	

クモシバスゲ

Carex subumbellata Meinsh. var. verecunda Ohwi
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市で確認されている。西限産地。

種の特徴

高山の砂礫地に生える多年草。株は叢生し、匍枝を出さない。果胞は脈が不明で微毛がある。基部の鞘は黄褐色で繊維に分解しない。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																	○	

オオアゼスゲ

Carex thunbergii Steud. var. appendiculata (Trautv. et C.A.Mey.) Ohwi
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所、個体数もあまり多くないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道～本州（中部地方以北）、九州に分布。県内では敦賀市で確認されている。

種の特徴

山間の湿地に生える多年草。密に叢生し大株となり、谷地坊主を作る。雌鱗片は黒みがかった濃い紫色をしている。

生育を脅かす要因

湿地の開発。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
						○												

ヒメハリイ

Eleocharis kamschatica (C.A.Mey.) Kom. f. *kamschatica*
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所、個体数が少なく、片方の生育地は波の浸食を受け存続が危惧されるので、県域絶滅危惧Ⅰ類にした。

種の特徴

海岸近くの湿地に生える多年草。小穂は濃紫褐色。柱基は大きく瘦果とほぼ同長かやや大きい。刺針状花被片は4～5本ある。

分布

北海道～本州、九州に分布。県内では嶺北の沿岸部で確認されている。

生育を脅かす要因

海岸開発。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

サギスゲ

Eriophorum gracile K.Koch
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所であるが、1箇所は湿地の改変によって絶滅した。個体数が少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

ブナ帯から亜高山帯の湿地に生える多年草。花序は2～5個の柄のある小穂をつける。花期の小穂は綿毛に包まれるが、球状ではない。

分布

北海道～本州（近畿地方以北）に分布。県内では嶺北地方で確認されている。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献 若杉孝生（2008a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○							○	○	

ピロードテンツキ

Fimbristylis sericea (Poir.) R.Br.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は4箇所だが、現在は2箇所、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類にした。

種の特徴

海岸の砂地に生える多年草。有花茎は高さ10～20cm。根茎は太く短く這う。茎は太く、葉とともにピロード状の毛が密に生える。

分布

本州（茨城県、新潟県以西）～九州に分布。県内では嶺北の海岸砂地で確認されている。

生育を脅かす要因

海岸砂地の改変、植生遷移の管理。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				○

コホタルイ

Schoenoplectus komarovii (Roshev.) Soják
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所であるが、2箇所とも公共の施設が出来、現在生育が確認されていないので、県域絶滅危惧Ⅰ類にした。

種の特徴

湿地に生える多年草。植物体は叢生する。有花茎は高さ30～50cm。小穂は卵形、苞葉は長い。刺針状花被片は瘦果より長く下向きにざらつく。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北・嶺南で各々1箇所確認されていた。本県は西限産地である。

生育を脅かす要因

湿地の開発。埋立。植生遷移で大型の植物が増加することによる生育環境の悪化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○												○				

ロッカクイ

Schoenoplectus mucronatus (L.) Palla var. *tataranus* (Honda) K.Kohno, Iokawa et Daigobo
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

既知の生育地は1箇所、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類にした。

種の特徴

湿地等に生える多年草。叢生する。有花茎は高さ30～50cm、茎は3稜があり、各稜に逆三角形の広い翼があるので、六角が見られる。

分布

本州（新潟県以西の日本海側）、九州に分布。県内では奥越地方で確認されている。

生育を脅かす要因

湿地の開発。植生遷移で大型の植物が増加することによる生育環境の悪化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ツクシカンガレイ

Schoenoplectus multisetus Hayas. et C.Sato
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は1箇所。現在はこの生育地での生存は確認されていないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

池や沼に生える多年草。長い横走根茎をもち、まばらに生える。有花茎は高さ0.5～1.3m、横断面は鋭3稜形で平滑である。

分布

本州、九州に分布。県内では嶺南で確認されている。

生育を脅かす要因

湿地の開発。マニアによる採取。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

シズイ

Schoenoplectus nipponicus (Makino) Soják
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道～九州に分布。本県では嶺北の山間の湿田で確認されている。

種の特徴

池沼等浅水中に生える軟らかい多年草。匍匐根茎は細く、その端に小さい塊茎を作る。全体が軟らかく、長い根出葉を持つ。

生育を脅かす要因

浅い池沼の埋め立て。山間水田の圃場整備や開発。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○						○				

マツカサスキ

Scirpus mitsukurianus Makino
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

本州～九州に分布。嶺北の河川敷で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い平地の湿地に生える多年草。大株となる。マツカサスキの鱗片は披針形であるが、コマツカサスキは狭卵形である。

生育を脅かす要因

河川改修による河川敷の破壊。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ヒロハノドジョウツナギ

Glyceria leptolepis Ohwi
イネ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での確認例は現在のところ少なく、生育数も多くない。

分布

全国分布は、北海道～九州。県内分布はあわら市。

種の特徴

山間の谷川や水湿地に生える。茎の高さは90～180cm。葉は長さ10～35cm、幅3.5～15mm、両面ともざらつく。裏面はやや粉白、葉鞘は節間よりも長い。茎頂の円錐花序は長さ15～25cm、広く分岐する。小穂は長さ6～8mm。扁平で5～7個の小花からなる。

生育を脅かす要因

植生遷移や開発による水辺環境の悪化。

参考文献

福井県植物研究会（1998）、畔上能力ほか（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

エチゼンインヨウ

Hibanobambusa kamitegensis M. Kobay. & Wakasugi
イネ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

全国的にも県内の1箇所のみ、生育数も多くはない。本県がタイプ産地。

分布

全国でも1箇所のみしか確認されていない。県内分布は福井市。

種の特徴

インヨウチクに比べ葉身は短く、幅が広い。稈鞘にはうっすらと逆向短毛が生じ、まばらに開出長毛がある。葉鞘には脱落性の開出長毛がある。葉鞘の上縁は斜上。葉耳は鎌形。葉下面は無毛だが葉脚部の中肋や側脈に沿い短毛がでる。

生育を脅かす要因

生育地が里地・里山であり、旧町道の近くであるため、開発の影響を受けやすい。

参考文献 福井県植物研究会 (2001)、若杉孝生 (2003)、若杉孝生 (2011)、福井総合植物園 (2011)、小林幹夫・若杉孝生 (2012)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ツメレンゲ

Orostachys japonica (Maxim.) A. Berger
ベンケイソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内ではごく稀に見られるが、生育地、個体数ともに少ない。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市、坂井市、越前市、高浜町で記録がある。

種の特徴

岩上や尾根上等に生える。葉は多肉質で披針形、長さ3～6 cm、幅1～1.5 cm、ロゼット状につく。やや赤味を帯びたり、白粉を帯びることがある。茎の高さは5～15 cmになり、中ほどより総状花序となり、小白花を多数つける。小花柄は短く、花弁は5個、披針形で鋭頭。

生育を脅かす要因

生育環境の破壊、園芸採取等。

参考文献 林弥栄・平野隆久 (2013)、矢原徹一ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○								○	○				○	

メガルカヤ

Themeda triandra Forssk. var. *japonica* (Willd.) Makino
イネ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少ない。

分布

全国分布は、本州～九州。県内分布は福井市、大野市、坂井市。

種の特徴

高さ70～100 cmほどになる。低山地や丘陵等に見られる。葉は広線形、長さ30～50 cm、幅3～8 mm。葉の下部には長白毛が散生する。花序は茎の上部の葉腋につき、花穂は6個の小穂からなり、うち1個は雌性、他は雄性。

生育を脅かす要因

開発や植生遷移による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか (1982a)、林弥栄・平野隆久 (2013)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○					○	○

ハクサンイチゲ

Anemone narcissiflora L. subsp. *nipponica* (Tamura) Kadota
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

本州中部の高山帯に分布する。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

高山帯の湿った草原に生える多年草。根出葉は長い柄があり、束生する。茎葉は4枚で輪生し、柄が無く、細い片に欠刻する。6～8月、散形状に1～5個、直径2～2.5cmの花をつける。花には花弁が無く、萼片は花弁状で5～7枚、白色。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。とくに、登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																	○	

サンリンソウ

Anemone stolonifera Maxim.
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。

分布

北海道～本州中部に分布する。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

亜高山帯やブナ帯の林縁や林床に生える多年草。匍枝を出して繁殖する。高さは15～30cm。根出葉は3出複葉で、小葉は小葉柄があり、側小葉はさらに2深裂する。茎葉は3枚が輪生し、有柄で、3深裂する。6～7月頃、直径約1.5cmの花を1～4個つける。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。とくに、登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																	○	

エンコウソウ

Caltha palustris L. var. *enkoso* H.Hara
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所である。もともと稀産種であり、生育が深山の湿地に限られており、野生での存続が危ぶまれるため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道～本州に分布する。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

浅い水中や湿地に生える多年草。根出葉は心円形～腎円形、基部は深くへこむ。5～6月頃、茎頂および茎葉の腋より1個ずつ花をつける。花後、花茎が倒れるように曲がって地につき、節より発根し、芽をつける。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の開発。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○				○	○	

モミジチャルメルソウ

Mitella acerina Makino
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

局地的な分布をする種で、京都府、福井県、滋賀県の三県境を中心とする極めて狭い範囲からのみ知られている。個体数も少ない。

分布

京都府、福井県、滋賀県の三県境を中心とする極めて狭い範囲に分布。県内では嶺南地方で確認されている。

種の特徴

山地の溪流沿いに生える多年生草本。葉には粗い鋸歯があり、基部は心形で葉身長4～10cm。葉の裏面は無毛で、表面にも長い刺毛が散生するのみである。匍匐茎を出し、植物は横に這うように広がる。花期は4～6月。春先に根元から花茎をのばし、花を密につける。

生育を脅かす要因

局地的に分布し生育環境が脆弱である。林道工事、森林伐採等による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○											

エチゼンダイモンジソウ

Saxifraga acerifolia Wakab. et Satomi
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

福井県と石川県のみで確認されている種で、県内で現在知られている生育地は1山域のみで、生育個体数も少ない。

分布

本州（福井県・石川県）に分布する。県内では嶺北地方で確認されている。

種の特徴

湿った岩上の斜面に生える多年生草本。草丈20～40cm。根茎は横に這い、葉は根元から出て、葉柄は長く、腎円形で5～7に深く裂ける。花弁は白色で披針形、上の3片は短く、下の2片は長い。ダイモンジソウに似ているが、葉が深く裂けることや花期が異なる。

生育を脅かす要因

局地的に分布し生育環境が脆弱である。林道工事、森林伐採等による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

シコタンソウ

Saxifraga bronchialis L. subsp. funstonii (Small) Hultén var. rebunshirensis (Engl. et Irmsch.) H.Hara
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1山域で確認されているのみで生育域は狭く、個体数も少ない。

分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

高山の岩礫地、砂礫地、岩上に生育する。根茎は細く、よく分枝し、茎は暗紅紫色で多少肉質の葉を密に互生する。葉はさじ状披針形～線状披針形で、縁に刺状毛を列生し、先端は分裂しない。花期は7～8月。花茎を伸ばし、先端に集散花序をつける。

生育を脅かす要因

生育環境は岩礫地、砂礫地、岩上等に限られ、生育基盤は脆弱である。また温暖化による影響が懸念される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アオベンケイ

Hylotelephium viride (Makino) H. Ohba
ベンケイソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともにごく限られ、県内では1地区のみ。林内にごく稀に生育し、稀少である。

分布

本州中部以西～九州に分布。県内では嶺南西側、及び奥越等に分布する。

種の特徴

山地の樹上や岩上に生育する多年生草本。茎は高さ20?50cm、斜上する。葉は対生、時に互生し、卵形、長さ3?6cm、葉柄は長さ1～2cm。多肉質で不明瞭な波状の鋸歯がある。花期は9?10月。茎の先に球状の散房花序を出す。花は淡黄緑色、葯は橙褐色。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、園芸採取。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)、福井県植物研究会(1998)、若杉孝生(1973)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○					○	○			○			○	○	

タコノアシ

Penthorum chinense Pursh
タコノアシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では稀産種で、開発等による湿地環境の消失や生育環境の悪化により、絶滅の危機に瀕している。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

泥湿地や河原等で、水位の変動する場所に多く生える湿地生の多年草。地中にある茎の基部から、ふつう数個の走出枝を出す。茎の地上部は直立し分枝せず、高さ30～80cm、無毛で淡紅色を帯びることが多い。8～10月頃、長さ4～12cmの花序に黄緑色の花を付ける。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の開発、河川改修のほか、土地造成、植生遷移等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)、福井県自然保護課編(2004)、福井県植物研究会(1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

フサモ

Myriophyllum verticillatum L.
アリノトウグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

従来県内に広く分布していたと考えられるが、開発や水質悪化によってめったにみられなくなっているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

北海道～四国、九州に分布する。県内では若狭町、敦賀市、あわら市、鯖江市、大野市で確認されている。

種の特徴

池や沼等に生える多年草。葉は長く伸びて、分枝する。水中葉は4個まれに、5個輪生し、羽状に深裂し、裂片は糸状でホザキノフサモより数がやや少ない。花期は5～7月。花序は穂状で、水面より突き出て直立。石果は卵状球形で長さ2.5～3mm。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川工事、水質汚濁。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○							○	○		○	

サイカチ

Gleditsia japonica Miq.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

採集記録が少ない上、近年の河川改修の影響から個体数は極めて少ないと思われる。

分布

本州～九州に分布。県内ではあわら市、永平寺町、越前町、若狭町で記録がある。

種の特徴

山野や川原に生育する落葉の高木。枝や幹に分岐するとげが多い。花期は夏で長さ 10～20cm ほどの総状花序に淡黄緑色の小花をつける。

生育を脅かす要因

河原の開発や改修。

参考文献 福井県樹木誌 (2011)、福井県植物研究会 (1999)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○			○			○				

エゾノレンリソウ

Lathyrus palustris L. var. *pilosus* (Cham.) Ledeb.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

採集記録が少なく、現時点で確実な生育情報はない。

分布

北海道～本州、対馬に分布。県内では坂井市等の海岸で記録がある。

種の特徴

湿った草地等に生える多年草。茎は高さ 30～80 cm。茎は3稜形で幅 1～2 mmの翼がある。葉の先端の巻きひげは分枝する。花期は5～7月、長さ約 2 cmの紅紫色～淡紅紫色の花を数個つける。

生育を脅かす要因

海岸の開発による自生地の消失。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)、若杉孝生 (1973)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				○

ヨツバハギ

Vicia nipponica Matsum.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内ではごく一部の地域にのみ分布する。

分布

北海道～九州に分布し、県内では高浜町の一部で確認されている。

種の特徴

草地に生える多年草。高さ 30～80 cm。葉は複葉で 4～8枚の小葉が対生する。花期は7～10月。2～8 cmの花序に紅紫色または青紫色の花を 5～15個つける。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○														

カキノハグサ

Polygala reinii Franch. et Sav.
ヒメハギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林の開発等により、生育地、個体数ともに減少している。

分布

本州（近畿地方、中部地方西部、静岡県）に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地のやや乾いた林内に生える多年草。茎は直立し、高さ20～35cm、あまり分枝しない。葉は長さ8～17cm、幅3～7cm、薄く、鋸歯がなく、先は急にとがり、基部は鋭形またはくさび形で、短い柄に続く。5～6月頃、茎頂の総状花序に黄色の花をつける。

生育を脅かす要因

生育地である森林の伐採や林道工事による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

ソメワケキンキメザクラ

Cerasus incisa (Thunb.) Loisel. var. *kinkiensis* (Koidz.) H. Ohba f. *somewake* H. Ohba, T. Wakasugi et J. Matsumoto
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

最近新品種として名づけられたもので、県内では1地点に生育するだけである。個体数は極めて少ない。

分布

県内では南越前町で確認される。

種の特徴

キンキメザクラに類似するが、開花時は白色だが、開花後2～3日経過すると、紅色に変じる花をつける。株全体を眺めると紅色と白色の花が混在する。

生育を脅かす要因

業者・マニア採取。

参考文献 大場秀章ほか（2010）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

クサボケ

Chaenomeles japonica (Thunb.) Lindl. ex Spach
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

最近ほとんど見かけることがなくなった。人里近くの林縁に生えるので刈り取り、園芸採取される可能性がある。

分布

本州と九州に分布する。県内では主に嶺南地方に分布する。

種の特徴

樹高は1～2m。若枝は褐色の毛がある。樹皮は縦に浅く裂け、小枝は刺となっている。葉は長楕円形～楕円形。基部はくさび形で鋭鋸歯縁。花は3～4月に葉よりも先に開く。短枝の脇に数個つく。色は基本的に淡紅、緋紅。白と紅の斑、白等がある。

生育を脅かす要因

本種の生育地は人間の手の入りやすい環境である人里近くの林縁に生えるので開発、土地造成等によって大きく減少している。また、管理放棄により自然遷移も進行している。園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○				○						○					

カワラサイコ

Potentilla chinensis Ser.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られ、個体数も少ない。

分布

本州～九州に分布する。県内では嶺南地方、嶺北地方に分布する。

種の特徴

日当たりのよい川原や砂地に生育する多年生草本。茎は根元で多数分岐して広がる。葉は互生し、小葉は奇数羽状複葉。小葉は羽状に深裂し、裂片は狭い。小葉の間に付属小葉片がある。葉の裏面に白色の綿毛が密生する。茎の先に黄色の5弁花をつける。

生育を脅かす要因

海岸砂防工事、河川の護岸工事、堤防の草刈等により生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○		○					○		○				○

シロミノヤブヘビイチゴ

Potentilla indica (Andrews) Th.Wolf f. albocaput (Naruh.) H.Ohashi
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

近年新種として命名されたもので今のところ福井県にのみ発見されている。

分布

福井県の嶺北地方

種の特徴

匍匐茎を出して地面を這って伸び、根を付けそれぞれの節にクラウンが生じる。葉は三出複葉、楕円形の小葉には細かい鋸歯があって深緑、しばしば冬の間持続される。黄色の花は春中頃に咲き、その後成長シーズンを通じて散発的に咲く。果実は白色。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事等の開発が生育を脅かす。

参考文献 若杉孝生（1992）、鳴橋直弘（1992）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

シロヤマブキ

Rhodotypos scandens (Thunb.) Makino
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内では1地点で確認されているだけで、生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

本州。県内では越前町で確認されている。

種の特徴

高さは1～2mの落葉低木。葉は茎に対生し、葉柄をもつ。葉の裏面は深緑色で裏面は淡緑色、絹毛がある。花期は4～5月で、径3～4cmの両性花を側枝の先端に一つずつ咲かせる。花弁は白色。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事等の開発、園芸採取が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1988）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										

マルバクサイチゴ

Rubus hirsutus Thunb. f. *simplicifolius* (Makino) Ohwi
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1地点で確認されているだけで、生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

全国分布は不詳。県内では越前町で確認されている。

種の特徴

背丈が20～60cmの低木。全体に短い軟毛が密生し、茎には小さい刺がある。葉は奇数羽状複葉で、花枝には3小葉、徒長枝には5小葉がつく。頂小葉は卵形、側小葉は卵形、先はとがり、縁には細かい重鋸歯がある。花期は3～4月。花は白色。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事等の開発、園芸採取が生育を脅かす。

参考文献 若杉孝生・鳴橋直弘（1993）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										

コバノチョウセンエノキ

Celtis biondii Pamp. var. *heterophylla* (H.Lév.) C.K.Schneid.
アサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布の北限とし、現在知られている生育地は1地区で極めて限られており、個体数も少ない。

分布

本州（近畿地方以西）～九州に分布する。県内では大野市で確認されている。

種の特徴

落葉小高木。樹皮は灰色。枝は灰褐色で、はじめ黄褐色の伏毛を密生する。冬芽はやや扁平な長楕円形、褐色の伏毛がある。葉身はややかたくて厚く、倒卵形または広倒卵形で、左右やや不相称。花は5月に開花。核果は球形で径約6mm、黒褐色または黒色に熟す。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

コケミズ

Pilea peploides (Gaudich.) Hook. et Arn. var. *peploides*
イラクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

標本点数が少ない。標本は2006年に採集されたもの以外は、50年ほど前に採集されたもので、現在はそれらの地域に生育していない可能性が高い。シカの食害により生育が危ぶまれる。

分布

本州（中部地方以西）～九州に分布。小浜市、若狭町で採集記録がある。

種の特徴

山地の日陰に生える一年生草本。茎は淡緑色、高さは5～15cm。葉は卵円形、長さ0.5～1.5cm、全縁または波状鋸歯縁、3脈がある。花期は3～7月。花序は葉腋に塊状となり、雌花と雄花が混生する。

生育を脅かす要因

産地局限、シカ食害。

参考文献 門田裕一ほか（2013）、若杉孝生（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○						○						

ホソバイラクサ

Urtica angustifolia Fisch. ex Hornem. var. *angustifolia*
イラクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

現在知られている生育地は1箇所のみ。標本点数も少ない。森林伐採や林道工事により生育地が失われる可能性がある。

種の特徴

山地の谷沿いや林縁に生える多年生草本。高さ50～150cm。葉や茎に刺毛が生える。葉は対生し、卵状長楕円形、長さ6～12cm、幅4cm以下、先は細長く尖る。托葉は離生し、各節は4個つく。花期は8～9月。花は葉腋につく。

分布

本州（中部地方以西）、四国に分布。県内ではあわら市に分布する。

生育を脅かす要因

森林伐採、林道工事、自然遷移。

参考文献 門田裕一ほか（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				

オオシラヒゲソウ

Parnassia foliosa Hook.f. et Thomson var. *japonica* (Nakai) Ohwi
ニシキギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。花が美しいため、園芸採取の対象になりやすい。

種の特徴

山地の湿地に生える多年生草本。根生葉は長い柄があり、葉身は円心形、直径4～6cm。茎葉は柄がなく茎を抱く。花期は8～9月。花茎は10～30cm、先に直径3～3.5cmの白花を1つつける。花弁は5個、縁は糸状に細裂する。

分布

本州（中部地方以北）に分布。県内では奥越のみに見られる。

生育を脅かす要因

園芸採取、産地局限、自然遷移、河川開発。

参考文献 門田裕一ほか（2013）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

イブキタイゲキ

Euphorbia lasiocaula Boiss. var. *ibukiensis* (Hurus.) T.Kuros. et H.Ohashi
トウダイグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の産地は2箇所のみ。1996年以降標本が採集されていない。森林伐採や林道工事によって、生育地が消滅する可能性がある。

種の特徴

山地の草地に生える多年生草本。高さ15～50cm。茎は束生する。葉は互生し、長さ3～4cm、幅約5mm、茎の先に5枚の葉を輪生する。花期は6～7月。茎頂及び葉腋から花茎を出し、杯状花序をつける。腺体は全縁の楕円形、子房には瘤状突起がある。

分布

本州（中部地方）に分布する。県内では嶺北の奥越と丹南に見られる。

生育を脅かす要因

産地局限、森林伐採、林道工事。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

ドロノキ

Populus suaveolens Fisch.
ヤナギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分 布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

河岸等に生える高木で、高さ約 30m、径 1.5m になる。葉は長さ 6～14cm、幅 3～10cm、表面は濃緑色で光沢があり、裏面は淡緑色。両面ともに脈上に細毛があるか、または無毛。縁は有毛で細鈍鋸歯がある。4～5月頃、葉に少し先立って花穂が開く。

生育を脅かす要因

生育地である河川の改修等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

マルバスマイレ

Viola keiskei Miq.
スマイレ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少ない。

分 布

国内分布は、本州～九州。県内分布は、若狭町、敦賀市、大野市。

種の特徴

山地の半樹陰に生える。葉は円形～円心形、径 2～3 cm、花期がすむと大きくなる。全体に毛があるものとなないものがある。花は白色、唇弁に紫条がある。

生育を脅かす要因

環境の変化、植生遷移等。

参考文献 林弥栄・平野隆久（2013）、福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○										○	

トモエソウ

Hypericum ascyron L. subsp. *ascyron* var. *ascyron*
オトギリソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ないうえに園芸採取の対象になりやすいために絶滅の危機にある。

分 布

北海道～九州に分布する。県内では若狭町、越前市、勝山市、大野市に生育が確認されている。

種の特徴

山地の日当たりの良い湿った草地に生える多年生草本。茎は、高さ 50～130cm、直立し、分枝する。葉は茎に対生し、形は披針形で葉の基部は茎をなかば抱く。花期は 7～9月で、径 5cm、花弁 5 個の大きな黄色の花を茎や枝の先につける。

生育を脅かす要因

道路工事、埋め立て等の開発で生育地の消失や生育環境の悪化が減少する要因となっている。また、花がきれいいため園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○											○			○	○	

アゼオトギリ

Hypericum oliganthum Franch. et Sav.
オトギリソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

2000年の環境省調査では全国で25メッシュに約800個体の生育とされ、絶滅危惧ⅠB類に指定されている。最近、本県で250～300株から成る個体群が発見されたが、短期間のうちに数十株まで減少したため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

水路に接した田の畔に生える多年草。越冬した根株から斜上するシュートを生状に展開する。8～10月に径1cm程度の黄花を開き、11月ごろ結実する。種子生産性も高い。サワオトギリに似るが、本種は暗点が葉縁に等間隔で密に並ぶことで判別できる。

分布

関東以西に分布する。本県では、坂井市東部に生育地点が1カ所現存する。

生育を脅かす要因

本種は従来の水田畦管理に高度に依存して生存してきたと推察される。近年、水田畦や用水路の改変および畦管理方法の変化がいちじるしい。これが個体数減少の最大要因であることが明らかである。

参考文献 吉岡俊人・青山のぞみ（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

ヒメビシ

Trapa incisa Siebold et Zucc.
ミソハギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内ではもともと稀産種だが、水湿地の消失や生育条件の悪化でさらに減少傾向にある。休耕田や民家近くの溜池で見つかったものは、不安定な環境であるため生育地の維持が難しい。

種の特徴

湖沼に生える一年生草本。浮水葉は広卵状菱形、長さ1～2cm、上部の縁には粗い鋸歯がある。裏面はほぼ無毛。葉柄の中央は膨らむ。花期は7～10月。花弁は白色、4枚。果実には4個の刺がある。

分布

北海道から九州に分布。県内では嶺南及び嶺北に数箇所の生育地がある。

生育を脅かす要因

池沼開発、産地局限、水質汚濁。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○	○	○	○						○			○	

ハマハコベ

Honckenya peploides (L.) Ehrh. var. *major* Hook.
アオイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

海浜の砂地や礫地の改変で生育環境が悪化し、個体数の減少が著しい。生育地は2地区で絶滅が危惧され、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

海浜の砂地に生える多年草。地下茎は長く、茎は細かく枝を分け、下部は斜上し、上部は開出する。葉は多肉で、長楕円形、先は鋭形。花期は6～9月。両性花の株と単生花の株にわかれる。蒴果は肉質、卵形。種子は卵形、平滑で褐色。

分布

北海道～本州（日本海側）に分布する。県内では越前町、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

海岸開発、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										○

ヤマヒョウタンボク

Lonicera mochidzukiana Makino var. *nomurana* (Makino) Nakai
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。現在知られている生育地は1地区のみで個体数も少ない。

分布

本州（東海地方、近畿地方、中国地方）～九州に分布。県内では高浜町、大野市での記録がある。

種の特徴

山地に生える落葉低木、ニッコウヒョウタンボクの変種。石灰岩地や蛇紋岩地に点在し、基準変種とのすみ分けが認められる。花は白色で5月ごろ葉腋から出た柄に2個ずつつく。液果は球形で径6～8mm、基部で合着し7～8月紅熟する。

生育を脅かす要因

シカ食害

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○													○	

アラゲヒョウタンボク

Lonicera strophiphora Franch.
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道（南西部）～本州、四国（剣山）に分布。県内では勝山市での記録がある。

種の特徴

山地に生育する落葉低木。葉は長さ3～11cm、幅2～6cmの長楕円状卵形で両面に長毛があり、特に裏面脈状に多い。4～6月、開葉と同時に、若枝の下部の葉腋から出た柄に2花を着ける。花冠は淡黄色で長さ2～2.5cmの狭漏斗形。

生育を脅かす要因

生育地へのシカの分布拡大による食害

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

ホザキヤドリギ

Loranthus tanakae Franch. et Sav.
オオバヤドリギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区のみ。寄生木の減少で絶滅の危機にさらされている。

分布

本州（東北地方、中部地方中北部）に分布。県内では勝山市での記録がある。

種の特徴

ミズナラ、クリ、ハンノキなどの落葉広葉樹に寄生する長さ20～40cmの落葉低木。若枝は紫色を帯び無毛。葉は楕円形または長楕円形でやや肉質、全縁。花は6～7月、穂状に多数つく。果実は黄色に熟す。

生育を脅かす要因

ナラ枯れによる宿主植物の枯死、森林伐採

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

ヤナギヌカボ

Persicaria foliosa (H.Lindb.) Kitag. var. *paludicola* (Makino) H.Hara
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

以前に若狭町、敦賀市、大野市で採集記録があるが、前回調査では敦賀市に稀産する状況であり、絶滅危惧Ⅰ類とされた。今回調査では、生育状況が不明であるので、引き続き県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

湿地や水辺に生える一年草。茎の下部は地を這い、節から根をだして広がり、上部は斜上して盛んに分枝する。同様に葉が狭披針形から線形であるヌカボタデに比べて、葉の質がやや堅く、ホソバイヌタデに比べて花穂がやや長く花がまばらにつく。

分布

本州、九州に分布する。県内では若狭町、敦賀市、大野市に分布する。

生育を脅かす要因

湿地の開発による生育地の消失や乾燥化、植生遷移が生育を脅かす主要因と考えられる。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、北村四郎・村田源（2008）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○										○	

サデクサ

Persicaria maackiana (Regel) Nakai
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、湿地環境の消失や生育条件の悪化によって減少している。2地点で確認されているだけである。

種の特徴

低地の水辺に生える一年生草本。茎は斜上するか直立して、多くの枝を分け下向きの刺毛がある高さ30～100cmになる。葉は有柄、披針状長楕円形～披針形、先はとがる。花期は7～10月。総状花序は短い頭状となり、2～5花をつける。

分布

本州～九州に分布する。県内では嶺北地方に分布する。

生育を脅かす要因

湿地開発、河川敷の改修、自然遷移の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○				○

ノダイオウ

Rumex longifolius DC.
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

多くの生育地で生育条件が悪化している。

種の特徴

道ばたや畑地等に生える多年生草本。草丈1m以上になる。葉長20～35cm。下葉は、長柄があり、長楕円形で先は円形から鈍頭である。上葉は次第に小さくなり披針形である。果の翼状鱗片は、ほぼ全縁で、中脈はふくれない。

分布

北海道～本州（中部地方以北および和歌山県）に分布する。県内では大野市、福井市、池田町、坂井市、永平寺町、南越前町、敦賀市、若狭町に記録がある。

生育を脅かす要因

土地造成、道路改修工事、自然遷移の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○		○	○	○	○					○	○

ヤナギトラノオ

Lysimachia thyrsiflora L.
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では敦賀市での記録がある。

種の特徴

冷涼な湿原に生える多年草。地下茎は長く這い、やわらかい茎を直立させる。茎は円柱形で高さ30～70cmになる。葉は対生、披針形で黒い腺点がある。6～7月、下部の葉腋から出た総状花序に花を密生する。花冠は黄色でふつう6深裂し、裂片は広線形。

生育を脅かす要因

水質等の生育環境の悪化、遷移進行、食害

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

クサレダマ

Lysimachia vulgaris L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Knuth
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が少ない。

分布

北海道、本州、九州に分布。県内では若狭町、敦賀市、越前町、越前市、福井市、大野市での記録がある。

種の特徴

山中の湿地に生える多年草。横に這う地下茎から茎を直立し、高さ50～100cm、やや密に軟毛がはえる。葉は2～4枚が輪生または対生し、先は鋭く尖り、裏面に黒色の腺点がある。7～8月、茎の頂に円錐花序を付け、黄色い花を多数付ける。花冠は黄色く5裂する。

生育を脅かす要因

湿地開発、遷移進行、生育地へのシカの分布拡大による食害

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○					○				○	○

ユキワリソウ

Primula farinosa L. subsp. *modesta* (Bisset et S.Moore) Pax var. *modesta* (Bisset et S.Moore) Makino ex T.Yamaz.
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の亜高山の一部にのみ生育する。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市での記録がある。

種の特徴

山地の湿った岩場に生える多年草。葉は根生し、倒卵状長楕円形または倒卵形で、波状の鋸歯があり、裏面は白っぽく淡黄色の粉状物が密生する。初夏に7～15cmの花茎を伸ばし、先に3～15個の花を散状につける。花は淡紅色で径1～1.5cm。地域により変異が多い。

生育を脅かす要因

園芸採取、踏圧

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

コヒナリンドウ

Gentiana laeviuscula Toyok.
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県を分布の南限とし、県内で現在知られている生育地は1山域のみである。生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

日光、南アルプス、白山に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

高山帯の草地等に生える一年生もしくは越年生草本。高さは1.5～5 cm。根生葉は1～2対あり、大型で長さ5～15 mm、辺縁がほとんど平滑。花期は6～9月上旬。花は直径5～7 mmで、淡紫色～紫色、白花もみられる。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、生活基盤が脆弱である。また、温暖化や自然遷移の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ハナイカリ

Halenia corniculata (L.) Cornaz
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では自生が確認されているのは1山域のみだけで、個体数も少ない。

分布

北海道～九州に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

山地の日当たりのよい所に生える一年草または越年生草本。茎は直立し、20～60 cm、4稜がある。葉は長楕円形で先がとがる。花期は8～9月。花色は黄色で後方に突き出したツノ状の物が特徴的で、花は直径1.5 cmほど。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、生活基盤が脆弱である。また、温暖化や自然遷移の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ミヤマアケボノソウ

Swertia perennis L. subsp. *cuspidata* (Maxim.) H.Hara
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1山域のみで、個体数も少ない。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

高山の湿った岩石の上に生える多年生草本。茎は高さ10～40 cm。根出葉は大きく卵状楕円形、長柄があり、茎葉は対生し小形である。花期は8～9月、茎上部に暗紫色花を上向きに開く。花冠は深く5裂し、裂片は披針形で先はとがり、基部に腺体がある。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、生活基盤が脆弱である。また、温暖化や自然遷移の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ムラサキセンブリ

Swertia pseudochinensis H.Hara
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は10箇所以下で、個体数も少ない。最近10年間の確認記録がない。

種の特徴

日当たりのよい草原や岩場に生える多年生草本。草丈50～70cm。茎は紫色を帯び、上部で分枝する。葉は対生し、葉身は線形～線状披針形。長さ2～4cm。花は淡紫色で紫色の筋がある。花の直径2～3cm。普通のセンブリより草丈が大きく、花もやや大きい。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では嶺南地方で確認されている。

生育を脅かす要因

道路工事や埋め立て等の開発、自然遷移や園芸採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○														

ホウライカズラ

Gardneria nutans Siebold et Zucc.
マチン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

種の特徴

林内に生える常緑藤本。茎は緑色で無毛。葉は対生し、葉身は長さ6～11cm、幅2～5cm、両面とも無毛。葉柄は長さ7～15mmで無毛。6～7月頃、上部の葉腋から長さ1～2cmの花序を伸ばして1～2個の花を付ける。花冠は淡黄白色、深く5裂し、裂片は反り返る。

分布

本州（千葉県以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限

参考文献 佐竹義輔ほか（1989b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○												

チョウジソウ

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生育地は限られ、かつ個体数が減少しており、種の存続が懸念される。

種の特徴

川岸や原野のやや湿った草地に生える多年生草本。茎は直立し、高さ40～80cm。葉は長さ6～10cm、幅1～2cmの細長い披針形で、互生する。花期5～6月。茎頂に集散花序を出し薄青色の花を多数咲かせる。萼は深く5裂、花冠は15mmほどで平らに開く。

分布

本州、九州に分布する。県内では越前町、あわら市、池田町、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

道路工事や埋め立て等により生育地が減少。自然遷移が進み生育環境が変化している。また、長い間園芸採取の対象になってきた。保全を図らないと種の存続が危惧される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○		○				○				○

フナバラソウ

Vincetoxicum atratum (Bunge) C.Morren et Decne.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は10箇所以下で、生育地は限られる。イヨカズラやクロバナイヨカズラとの雑種と考えられる集団がある。

種の特徴

日当たりの良い草地や明るい林縁等に生育する。塊状の地下茎がある。茎は直立し緑色、葉は対生、軟毛がある。夏には葉腋に黒紫色の花をつける。萼は緑色で、毛がある。果実から白い絹糸状の毛をもつ種子が飛ぶ。

分布

北海道～九州に分布する。県内では高浜町、おおい町、敦賀市、坂井市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

本種の生育地は人間の手の入りやすい環境である草地で、開発、土地造成等によって大きく減少している。また、草地の自然遷移も進行している。

参考文献 若杉孝生 (2008a)、佐竹義輔ほか (1981)、福井県植物研究会 (1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○			○					○						○

ツルガシワ

Vincetoxicum macrophyllum Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は10箇所以下で、各生育地とも個体数は少ない。最近10年間確認の記録がない。

種の特徴

山地の樹陰に生える多年生草本。茎は細長く高さ60～90cm、上部はつる状となる。葉には柄があり対生、初夏に暗紫色の花をつける。種子には白い絹糸の冠毛がある。

分布

本州～九州に分布する。県内では池田町、大野市で自生が確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事等の開発による生育地の消失。また自然遷移の進行により生育地、個体数とも減少している。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

ミヤマムラサキ

Eritrichium nipponicum Makino
ムラサキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区のみである。

種の特徴

高山の砂れき地に生える多年草。太い地下茎の先にロゼット状に細い葉を付け、全体に灰白色のあらい毛がある。葉は長さ3～6cm、幅4～6mm。茎は高さ6～20cm、茎葉は長さ1～2.5cm。7～8月頃、径約8mmの淡青紫色の花が総状花序に付く。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オオアブノメ

Gratiola japonica Miq.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では2013年に初めて確認された。生育地は極めて少ないと考えられる。

分布

本州（宮城県以南）、九州に分布し、県内では福井市で確認されている。

種の特徴

湿地に生える一年草。茎は高さ10～20cmで直立する。葉は対生し、やや厚く、長さ1～3cm、幅2.5～7mm、披針状長楕円形、全縁。花期は5～6月。葉腋に1花をつける。花冠は白色だが、多くは閉鎖花。蒴果は球形、長さ3～4mm。

生育を脅かす要因

産地局限、遷移進行。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

エゾオオバコ

Plantago camtschatica Cham. ex Link
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少ない。

分布

北海道～本州、九州の主に日本海側に分布し、県内ではあわら市、坂井市、美浜町で記録がある。

種の特徴

海岸の砂地に生える多年草。葉は太い根茎に束生し、長楕円形で先はややとがる。オオバコに似るが全体に軟毛が多い。花期は5～8月、高さ15～30cmの花茎を伸ばし、白色の花を穂状花序に密につける。

生育を脅かす要因

産地局限、海岸開発。

参考文献

福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○							○		○				

エゾヒナノウスツボ

Scrophularia alata A.Gray
ゴマノハグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布の南限とし、生育地、個体数とも限定される。

分布

北海道～本州に分布する。県内では福井市で生育が確認される。

種の特徴

海岸の岩礫地に生える多年生草本。茎は太く柔らかく、高さ約1.5mになる。葉は対生し、翼のある長い柄があり、広卵形、縁には鈍い鋸歯がある。花期は6～7月。茎の先に円錐形花序をつけ、まばらに多くの花を開く。花冠は淡黄緑色。

生育を脅かす要因

海岸開発。

参考文献

佐竹義輔ほか（1981）、若杉孝生（1971）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

サッキヒナノウスツボ

Scrophularia musashiensis Bonati
ゴマノハグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限定され、個体数も少ない。本県を分布上日本海側の西限としている。

分布

本州（関東地方西部、中部地方）に分布する。県内では嶺南地方で確認される。

種の特徴

山地の沢沿いのやや明るい林縁に見られる多年生草本。普通4月末～5月にかけて開花し、葉脈から1～3個の花がついた細長い花序をだし、花冠大きくて長さ9～11mmあり、朔果は卵状球形である。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○															○	

ジュウニヒトエ

Ajuga nipponensis Makino
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

道路拡張、法面保護等による生育環境の消失や悪化のほか、園芸目的の採集等により絶滅が懸念される。

分布

本州、四国に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

やや乾いた山麓部に生える多年草。茎は株から数本束生し、高さ10～25cm、全体に長い白毛が多い。葉は2～4対あり、長さ3～5cm、幅1.5～3cm、基部は狭くなり翼のある葉柄となる。4～5月頃、茎の先に長さ4～8cmの花穂を出し、淡紫白色の多数の花が付く。

生育を脅かす要因

土地造成、道路工事等による生育環境の消失や悪化。山野草マニアによる園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○									○	

シモバシラ

Collinsonia japonica (Miq.) Harley
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種であり、近年、ほとんど見られなくなっている。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地の木陰に生える多年草。茎は高さ40～70cm。葉は長楕円形で長さ8～20cm、幅3～5.5cm、短い葉柄があり、表面の脈上に細かい毛がある。9～10月頃、一方に偏った白色の花を付けた総状花序を葉腋から出す。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○										○					

キセワタ

Leonurus macranthus Maxim.
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

開発や里地・里山の管理放棄等による生育環境の消失や悪化により、絶滅の危機に瀕している。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地や山麓部の草地に生える多年草。茎は直立し、高さ60～100cm。葉にはあらい毛があり、長さ5～9cm、幅3～7cm、あらい鋸歯があり、1～5cmの葉柄がある。8～9月頃、紅紫色の花が数個ずつ上部の葉腋に付く。花冠は唇形で、外面には密に白毛があり白く見える。

生育を脅かす要因

草地開発、道路工事、管理放棄等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	○

ミズネコノオ

Pogostemon stellatus (Lour.) Kuntze
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

開発や農薬の多用等による生育環境の消失や悪化により、絶滅の危機に瀕している。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

水田や低湿地に生える軟弱な一年草。茎は中央付近で多数枝を出し、高さ15～50cm。葉は3～6個ずつ輪生し、長さ2～6cm、幅2～4mm。8～10月頃、茎頂と枝先に花穂が直立し、白色または淡紅色の花を密に付ける。

生育を脅かす要因

湿地開発、農薬汚染、水質汚濁等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○					○	○	○				○

ミズトラノオ

Pogostemon yatabeanus (Makino) Press
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

現在県内で知られている生育地はごく限られており、生育地においても開発等による生育環境の消失や悪化により、絶滅の危機に瀕している。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

低湿地に生える多年草。茎は横に這う地下茎から立ち上がり、高さ30～50cm、やわらかい。葉は3～4個ずつ輪生し、長さ3～7cm、幅2～5mm、柄はほとんどない。8～10月頃、茎頂に、長さ2～8cmの花穂を1個立て、淡紅色の花を密に付ける。

生育を脅かす要因

湿地開発、土地造成、水質汚濁、植生遷移等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○											○

ハイタムラソウ

Salvia omerocalyx Hayata var. *prostrata* Satake
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県の固有変種で、産地も限られている。

分布

本県のみ分布。嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地の木陰に生える多年草。茎の基部は這い、節間が伸び、葉をややまばらに付ける。葉は長柄があり、羽状に分かれ、頂羽片は大きく長さ2～5 cm、幅1～3 cm、側羽片は少し小さい。5～6月頃、高さ5～10 cmの花茎を出し、密な花穂を付ける。花冠は唇形で紫色。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○				○					○

ヒメナミキ

Scutellaria dependens Maxim.
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

北海道、本州、九州に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

湿地の草原に生える多年草。全体にやや無毛で、茎は直立し高さ20～40 cmになり、いくらか分枝し、地下に細長い走出枝を出す。葉は1～3 mmの葉柄があり、長さ1～2 cm、幅6～10 mm、薄い。6～8月頃、白色でわずかに淡紅紫色を帯びた花が葉腋に1個ずつ付く。

生育を脅かす要因

河川改修や植生遷移等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

ハマウツボ

Orobanche coerulescens Stephan ex Willd.
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地が極めて限られ、個体数も少ない。

分布

北海道～九州に分布する。県内では嶺南と嶺北の海浜に生育する。

種の特徴

海浜や川原の砂地や砂礫地に生育し、ヨモギ属、特にカワラヨモギの根に寄生する一年生草本。茎は全体に軟毛に覆われ黄褐色で太く、5月の終わり頃から7月にかけて、高さ20 cmほどの太い花茎をだす。花は紫色で美しい。

生育を脅かす要因

生育地が海岸改修、河川改修等の開発の対象となることが多く、また踏みつけ等により種の存続への圧迫が強まっている。珍しい植物のため園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○					○						○

ホザキシオガマ

Pedicularis spicata Pall.
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

これまで本州では唯一白山で確認（2014）されたもので、生育地はごく限られ、個体数とも極めて少ない。

分 布

北海道～本州（白山）に分布する。

種の特徴

湿原に生える一年生草本。茎は高さ 20～80 cm、4 稜があつて毛が散生する。葉は羽状中裂からやや深裂。花期は 7～8 月、枝先に数段の密な花穂を作り、各段に 3～4 個の花を輪生する。花冠は紅紫色で長さ 12 mm、上唇は下唇より短い。

生育を脅かす要因

産地が局限し、自然遷移の進行が生育を脅かす要因となる。生育地がごく限られた地域に生育するためその生育地を保全するように心がける。

参考文献 佐竹義輔（1981）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ムシトリスミレ

Pinguicula vulgaris L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder
タヌキモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分 布

北海道、本州（中部地方以北）、四国に分布。県内では大野市での記録がある。

種の特徴

亜高山帯、高山帯の湿った岩、れき地や草地に生える多年生草本。長さ 3～5 cm の長楕円形の根出葉をロゼット状につける。花茎は夏に 1～3 本伸び、高さ 5～15 cm で、葉はなく分枝しない。花冠は長さ 15～25 mm、紫色で細長くまっすぐな距がある。

生育を脅かす要因

踏圧、園芸採取。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ノタヌキモ

Utricularia aurea Lour.
タヌキモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

湿地環境の消失や、生育条件の悪化により減少している。

分 布

本州～九州に分布。県内では越前町、あわら市、越前市、坂井市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

亜熱帯～暖温帯の池に浮遊して生育する一年草。食虫植物で、水中葉は多数の補虫囊をつける。花軸は水中の主軸よりもやや太く、高さ 8～20 cm、8～10 月に 4～10 個の花をつける。花冠は黄色で径 6～7 mm。

生育を脅かす要因

湿地開発、遷移進行。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○	○	○		○	○	

ミミカキグサ

Utricularia bifida L.
タヌキモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内ではもともと稀産種であり、湿地の消失や生育環境の悪化によって絶滅の危機にさらされている。

分布

本州～琉球に分布。県内では美浜町、敦賀市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

湿地や溜池の縁等に群生する多年生の食虫植物。地中軸は泥中を這い、所々から長さ6～8mmで線形の地上葉を出し、地下部と稀に地上葉に補虫囊をつける。8～10月、高さ5～15cmの花軸に黄色の花を2～7個つける。

生育を脅かす要因

湿地開発、遷移進行、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（2001）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○									○	○	

ホザキノミミカキグサ

Utricularia caerulea L.
タヌキモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内ではもともと稀産種であり、湿地の消失や生育環境の悪化によって絶滅の危機にさらされている。

分布

北海道～琉球に分布。県内では美浜町、敦賀市、越前市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

貧栄養な湿地に生える多年生の食虫植物。横走する地中軸からは、まばらに補虫囊を出し、所々から長さ2～3.5mmのへら状の地上葉が集中的につく。6～9月、高さ10～30cmの細い花軸を直立させ、ほとんど無柄で淡紫色の花を4～10個開く。

生育を脅かす要因

湿地開発、遷移進行、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○						○			○	○	

ムラサキミミカキグサ

Utricularia uliginosa Vahl
タヌキモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内ではもともと稀産種であり、湿地の消失や生育環境の悪化によって絶滅の危機にさらされている。

分布

北海道～屋久島に分布。県内では若狭町、美浜町、敦賀市、越前町、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

湿地の主に泥上に生育する多年草。食虫植物で、糸状の地中軸に補虫囊をつける。地上葉はへら形で、長さ3～6mm、ときに3cmを越すこともある。数枚の鱗片葉をもつ高さ5～15cmの花軸を立ち上げ、上部に1～4個の藍紫色の花をつける。花期8～9月。

生育を脅かす要因

湿地開発、遷移進行、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○								○	○	

クマツツラ

Verbena officinalis L.
クマツツラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山野の道ばたに生える多年草。茎は4角で直立し、高さ30～80cm。葉は羽状に中～深裂し、長さ3～10cm、幅2～5cm、茎とともに細毛がある。6～9月頃、30cmにもなる細長い穂状花序に、径約4mmの淡紅紫色の花が付く。

生育を脅かす要因

土地造成、道路工事、管理放棄等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○															○

タマミズキ

Ilex micrococca Maxim.
モチノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

確認されている生育地は1地区のみで、個体数とも限定される。本県を分布上日本海側の北限としているので、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

分布

本州（静岡県、福井県以西）～九州に分布する。県内ではおおい町で確認されている。

種の特徴

山地の常緑林内に生育する落葉高木。雌雄異株で全体無毛。若枝には稜がある。葉柄は長さ1.5～2cm。葉身は薄く、卵状楕円形または卵状長楕円形、先は細く鋭く尖る。6月、新枝の葉腋から、多数の花を付ける。果実は球形で径約3mm、赤熟し、6～8個の種子がある。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

キキョウ

Platycodon grandiflorus (Jacq.) A.DC.
キキョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつてはしばしば見られたが、遷移の進行や園芸採取により著しく減少した。

分布

北海道～奄美に分布。県内では高浜町、おおい町、小浜市、敦賀市、あわら市、越前市、永平寺町、池田町、福井市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

山野に生育する多年草。根茎は太い。茎は高さ50～100cmになり、上部で分枝する。葉は狭卵形で鋸歯がある。下部では対生または3輪生、上部では互生。7～8月、茎頂近くに数個の花をつける。花冠は径4～5cmの鐘形で5浅裂し、白色～青紫色まで変異がある。

生育を脅かす要因

園芸用、薬用の採取、草地植生の遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○			○	○		○	○		○	○	○

テマリフジアザミ

Cirsium hideo-takahashii Kadota
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地、個体数ともに限られている。

分 布

国内では白山周辺に分布する。大野市。

種の特徴

フジアザミによく似ているが、総苞片の外片と中片は反曲し、縁には棘がある。

生育を脅かす要因

林道の整備、植生遷移等。

参考文献 植物研究雑誌第 81 巻第 2 号 (2006)、門田裕一 (2013)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																	○	

イナベアザミ

Cirsium magofukui Kitam.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では今のところ生育地は 1 箇所であり、個体数も少ない。

分 布

国内でも分布域は狭く、三重、滋賀、岐阜の各県に分布する。南越前町。

種の特徴

深山の湿った谷川沿いに生える。大型で、茎の長さは 1～2m。葉は広い長楕円形、長さ 60～80 cm。幅 20～30 cm。羽状に分裂する。頭花は大きく長さ 4 cm、幅 3 cm、横向き、または點頭して枝先につく。総苞は鐘球形、総苞片は線状披針形で反曲する。

生育を脅かす要因

山道の整備による渓谷の環境変化、植生遷移等。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)、佐竹義輔ほか (1981)、若杉孝生 (1975) 門田裕一 (2013)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

エチゼンオニアザミ

Cirsium occidentalinipponense Kadota
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地、個体数ともに極めて少ない。本県がタイプ産地。

分 布

国内では白山山系南部に分布する。大野市。

種の特徴

亜高山帯の草原に生える。茎の高さ 30～80 cm、根生葉は口ゼット状、茎葉は根生葉よりやや小さく、羽状に中裂、基部は茎を抱く。頭花は茎の上部の葉腋及び茎頂につけ大型、総苞は径 1.5～2.5 cm、果時には 3～4 cmほどになる。片は 7 列、外片は内片のほぼ半長。

生育を脅かす要因

産地が限られていることによる。また温暖化の進行による生育環境の悪化。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)、門田裕一 (2013)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ヒダアザミ

Cirsium tashiroi Kitam. var. *hidaense* (Kitam.) Kadota
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内では生育地、個体数が少ない。

分布

国内では本州（中部地方）に分布する。大野市。

種の特徴

花時に根生葉はある。葉は広倒披針形で先は尖る。葉はときに羽状に分裂する。茎の高さ20～50cm、茎葉の裏はやや白っぽく、基部は茎を抱く。頭花は大きく径3～4cm。総苞は鐘形、苞片は線形～線状披針形、斜上～開出、外片は一部反曲する。

生育を脅かす要因

登山道の整備、植生遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、佐竹義輔ほか（1981）、門田裕一（2013）
若杉孝生（1975）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

フジバカマ

Eupatorium japonicum Thunb.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生育地が減少している。

分布

福井市、大野市、勝山市、永平寺町、越前市、越前町。国内では各地にそれぞれ少数の自生が確認されているが、全国的にも絶滅危惧種とされている。

種の特徴

地下茎は横に這い、茎の高さ100～150cm、上部で分枝、葉は長楕円状披針形、長さ8～13cm、普通3深裂する。頭花は枝先に散房状につき、白色または深紅紫色。総苞は細筒形で、片はほぼ10個。

生育を脅かす要因

改変が加えられること等により自生地の減少がすすむ。河川敷の開発、園芸採取。また園芸種等の逸出もあるので遺伝子汚染に注意を要する。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、佐竹義輔ほか（1981）、矢原徹一ほか（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○			○		○			○	○	○

アキノハハコグサ

Gnaphalium hypoleucum DC.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

森林伐採、山道整備などで環境が悪化、生育数が少ない。

分布

国内では各地に点在するが、多くはない。おおい町、越前町、永平寺町、坂井市、福井市、大野市に分布する。

種の特徴

乾いた山間の草地に生える。茎は高さ30～60cm。上部で分枝する。葉は披針形、長さ4～5cm、基部は少し茎を抱く。裏面は密に白毛がある。頭花は散房状につき、総苞は長さ4mmほどの球鐘形、片は5列、外片は白毛が多い。

生育を脅かす要因

山道の整備、山林の伐採、植生遷移等。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、矢原徹一ほか（2015）、畔上能力ほか（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○					○			○	○					○	○

ミズギク

Inula ciliaris (Miq.) Maxim.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の減少、植生遷移等の環境の変化により減少している。

分布

国内では、本州（近畿地方以東）～九州に分布する。大野市、勝山市。

種の特徴

山間の湿地等に生える。茎の高さ 25～50 cm、根出葉は花時にもある。茎葉は卵状披針形、基部は少し茎を抱く。頭花は茎頂に 1 個つき、上を向く。舌状花は黄色、総苞は半球茎、総苞片は 4～5 列、狭楕円形、外片には密毛がある。

生育を脅かす要因

植生遷移等による湿地環境の変化。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)、林弥栄・平野隆久 (2013)、佐竹義輔ほか (1981)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

コオニタビラコ

Lapsanastrum apogonoides (Maxim.) J.H.Pak et K.Bremer
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

圃場整備等により、現在はほとんど見られなくなった。

分布

国内では本州～九州に分布する。春の七草の一つホトケノザは本種だといわれている。小浜市、敦賀市、越前市、永平寺町、坂井市、福井市、勝山市に分布する。

種の特徴

水田の周辺に見られる。根生葉はロゼット状で、長さ 4～10 cm、羽状に分裂。茎は 4～20 cm、根際より多数出る。頭花は散房状につき、黄色、径 1 cm。開花後花柄がのびて下垂する。総苞は円筒形。

生育を脅かす要因

圃場の整備、水田の減少等。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)、林弥栄・平野隆久 (2013)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○	○				○	○	○			○		○

ヒメヒゴタイ

Saussurea pulchella (Fisch. ex Hornem.) Fisch.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地が限られており、個体数も少ない。

分布

国内では本州～九州に分布するが、個体数は多くなく減少している。敦賀市、大野市、越前市、高浜町。

種の特徴

草原に生える。茎は高さ 30～150 cm、上部で枝分かれする。葉は羽状全裂または全縁、長さ 12～18 cm。披針形～広披針形。花茎は分枝、多くの頭花をつける。総苞片の上部には紅紫色の膜質の付属体をつける。

生育を脅かす要因

環境破壊、植生遷移等。

参考文献 矢原徹一ほか (2015)、畔上能力ほか (2013)、佐竹義輔ほか (1981)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○						○				○	

オミナエシ

Patrinia scabiosifolia Fisch. ex Trevir.
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

手入れの行き届いた土手は好適な生育地であったが、現在では放棄された場所が多く、遷移も進んで、自生地は非常に減少している。

分布

北海道～九州に分布し、県内一円で記録がある。

種の特徴

日当たりの良い草地に生える多年生草本。夏までは根出葉だけを伸ばし、その後花茎を立てる。茎は高さ60～100cm、下部に毛がある。葉は対生し、頭大羽状に深裂する。花期は8～10月。黄色い花を多数咲かせる。

生育を脅かす要因

土地造成、草地開発や、自然遷移の進行による環境の変化が生育を脅かす要因となる。花がきれいなため園芸採取の対象となりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○

オオキンレイカ

Patrinia triloba (Miq.) Miq. var. *takeuchiana* (Makino) Ohwi
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

本県および京都府の特産。産地が局限され、個体数が極めて少ない。

分布

本州（本県、京都府）に分布する。

種の特徴

集塊岩上に野生する多年生草本。茎は高さ50～100cm。葉身は広卵形で掌状に5～7深裂し、裂片は細い。花期は8～9月、1cm弱の小さな黄色い花を咲かせる。

生育を脅かす要因

産地が局限。生育基盤が脆弱で踏圧等によって減少するおそれがある。花がきれいなため園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○														

マツムシソウ

Scabiosa japonica Miq.
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

草地の開発によって生育環境となる草地が減少し、めったに見られなくなった。

分布

北海道～九州に分布する。県内では奥越地方に自生する。

種の特徴

山路の日の当たる乾いた草原に生える多年生草本。茎は直立し、高さ60～90cm、葉は対生し羽状に分裂する。茎の上方に頭状の花序をつける。花序は数多くの淡紫色の小花からなる。

生育を脅かす要因

草地開発による生育地の消失、自然遷移、園芸採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

カノコソウ

Valeriana fauriei Briq.
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1 山域に確認されるのみで、生育地が局限し、個体数が極めて少ない。40 年前に確認されたのみである。

種の特徴

山地の湿った草地に生える多年生草本。茎は直立して高さ 40～80 cm、細長い地下茎をだす。葉は羽状に全裂する。花期は 5～7 月。淡紅色の小さく、密な集散花序につき、苞は線形。

分 布

北海道～九州に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

生育を脅かす要因

生育を脅かす要因として草地開発による生育地の消失、自然遷移があげられる。薬用として採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハナビゼリ

Angelica inaequalis Maxim.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 3 箇所である。前回は要注目とされていたが、県内での生育地が限られているため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

山地に生える多年草。茎は直立し、高さ 60～100 cm。葉は 2～3 回 3 出羽状複葉で、葉柄は長い鞘状でふくらまない、小葉は長卵形～広卵形、多少あらい鋸歯がある。頂葉片の基部は葉柄に流れない。8～9 月頃、花序をつける。花柄や小花柄が不同長なのが特徴。

分 布

本州（関東以西）～九州に分布する。県内では奥越、嶺南地方で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林や草地の開発。シカ等の獣害による影響はあらたな脅威となりえる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○														○	

ハナウド

Heracleum sphondylium L. var. *nipponicum* (Kitag.) H. Ohba
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 7 箇所である。前回は要注目とされていたが、県内での生育地が限られており、生育基盤が脆弱なため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

川沿いや森林の林縁に生える一年草または越年草、ときに多年草。茎は直立し、高さは 1m にもなる。葉は 3 出葉か単羽状複葉で、小葉は 2～3 対で卵形～広卵形で、浅～中裂し、あらい鋸歯がある。6～7 月頃、直径約 18 cm の花序をつける。果実は広楕円形、両端は浅くへこむ。

分 布

本州（関東以西）～九州に分布する。県内では、福井市、永平寺町、高浜町、おおい町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林や河川の開発、植生遷移による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○							○							○

ポタンボウフウ

Peucedanum japonicum Thunb. var. *japonicum*
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所である。県内での生育地が限られており、生育基盤が脆弱で、食用に採取されることがあるため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

海岸の砂地や崖に生える多年草。茎は丈夫で、高さ60～100cmになる。葉は厚く、青白く、3出葉か1～2回3出複葉。7～9月頃、花序をつける。花序には総苞片はなく、小総苞片は数個、縁に毛がある。分果の背面に毛がある。

分布

本州中部～琉球に分布する。県内では嶺南地方で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である海岸の開発。食用を目的とした採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○														

ムカゴニンジン

Sium ninsi L.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は7箇所である。県内での生育地が限られており、生育基盤が脆弱であるため、県域絶滅危惧Ⅰ類とした。

種の特徴

湿地や水中に生える多年草。根は太く、束状に出る。茎は高さ30～100cm。葉腋にむかごができる。葉は単羽状複葉で、鋸歯がある。9～10月に花をつける。萼歯片はごく小さい。果実は球形、分果の断面は五角形。

分布

北海道～九州に分布する。県内では、あわら市、大野市、越前市、敦賀市、若狭町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の開発。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○						○	○			○	

ヒメスギラン

Huperzia miyoshiana (Makino) Ching
ヒカゲノカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

深山の岩石や老木にコケに混ざって生育していた。確認地は3箇所であるが、現在はほとんど確認されていない。希産種。

種の特徴

小型の常緑草本で深山のコケが成育する岩石や老木に着生している。茎は短くはげしい、直立茎を出す。直立茎には多くの針状の葉をつける。茎の先端に芽体をつける。上部の葉の腋に孢子嚢をつける。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市、池田町。

生育を脅かす要因

森林伐採による、老木の減少、産地局限。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1990）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

エゾノヒメクラマゴケ

Selaginella helvetica (L.) Spring
イワヒバ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。

分布

北海道～本州に分布。県内では奥越と嶺南西部に1箇所ずつ採集記録がある。

種の特徴

深山の岩場に生育する常緑性のシダ植物。主茎は匍匐し、葉は2形あり、4列に並ぶ。腹葉は卵形、長さ約1.5mm、先は尖らない。背葉の鋸歯が目立つ。孢子葉をつける枝は長く立ち上がり、1～2回二又に分枝する。孢子嚢穂は区別し難い。

生育を脅かす要因

産地局限、道路工事。

参考文献 岩槻邦男（1992）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○													○	

コハナヤスリ

Ophioglossum thermale Kom. var. *nipponicum* (Miyabe et Kudo) M.Nishida
ハナヤスリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

夏緑性の小型シダ類。針葉樹の林床や草地に生育する。嶺北地方の生育地は3箇所、嶺南地方には見られない。生育地が開発、採取圧によって減少している。

分布

全国分布は北海道、本州、四国、九州まで。県内分布は嶺北に生育。

種の特徴

母種であるハマハナヤスリに比べ内陸性の傾向があり、葉質は薄く、葉の高さ15cm前後。栄養葉は中央部がもっとも広い。栄養葉と孢子葉の二形がある。

生育を脅かす要因

開発、環境悪化、採取圧。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○					○

ミズドクサ

Equisetum fluviatile L.
トクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布の西限とし、産地も限られている。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い湿地に群生する夏緑性のシダ類。地下茎は浅い水底の地下を長く匍匐し、地上茎はしばしば群生する。茎は高さ1mに達し、径0.5～1cm、茎の壁は薄い。茎から枝を出す型と出さない型がある。孢子嚢穂は主茎に頂生し長さ1.2～2cm、柄の長さ8～30mm。

生育を脅かす要因

産地が限られていることによる。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、福井県自然保護課編（2004）福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○										○	○

ナチシダ

Pteris wallichiana J.Agardh
イノモトソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は6箇所であるが、以前は1箇所のみであった。近年になって、分布が拡大しつつある。若狭地方にシカが多くなって、林床の多くの植物が食べつくされ、林床は大きく変化してしまった。ナチシダは食べられずに分布を拡大している。

種の特徴

常緑性の大型の草本で、寒い所では枯れることもある。葉柄は約1mに達し暗紫色で光沢がある。太さは親指大になる。葉身は1m近くになり、基部で3岐し、全体として五角形状になる。小羽片の縁に孢子囊群をつける。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布はおおい町、小浜市。

生育を脅かす要因

シカが増えて、林床の植物のほとんどが食害を受けているが、ナチシダは食べられないために生息地を拡大している。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1979)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○												

オクヤマワラビ

Athyrium alpestre (Hoppe) Clairv.
イワテンダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

夏緑性のシダ類。亜高山に生育し、県内では奥越のみである。産地局限、採取圧の恐れがある。絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

根茎は太く、葉は高さ60cm前後になり、葉身は3回羽状、長楕円形で最下は短くなる。孢子囊は円形をしている。胞膜は小さい。亜高山の草原や岩場に生育している。ややまれである。

分布

全国分布は北海道、本州（中部地方以北）。県内生育地は西限にあたる、奥越の亜高山帯に生育。

生育を脅かす要因

開発、産地局限、踏みつけ。

参考文献 岩槻邦男編 (1992)、中池敏之 (1992)、渡辺定路 (2003)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒロハヤブソテツ

Cyrtomium macrophyllum (Makino) Tagawa
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は約20箇所、一般に石灰岩の分布域に生育している。森林伐採や土地開発によって減少。

種の特徴

山地のやや湿った土地に生育する。葉部は約20cm前後で、葉身は単羽状複葉で、基部は広卵形、先端に少し鋸歯がある。孢子囊群は羽片の裏に散在する。包膜は灰白色。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は大野市、勝山市、福井市、池田町、小浜市、若狭町、おおい町。

生育を脅かす要因

土地開発、森林伐採。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1979)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○				○						○	○	○

ヌカイトチシダモドキ

Dryopteris labordei (H.Christ) C.Chr. var. *indusiata* (Makino) Seriz.
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も少ない。県内では3箇所のみである。2015年に福井市で生育を確認した。要注目から県域絶滅危惧Ⅱ類に変更する。県内は北限地になっている。

種の特徴

常緑性のシダ類。ペニシダに似るが、胞子嚢は中肋と辺との中間性。羽片に柄がほとんどなく、羽軸にほぼ直角に出、鎌形に上向する。高さ70cm前後、卵状三角形、2～3回羽状であるが変化はある。包膜は紅色と灰白色がある。芽出しは葉が紅色になる。

分布

全国分布は本州（静岡県以西）から九州。県内分布は3箇所です。福井県は北限となる。

生育を脅かす要因

森林伐採、開発、園芸採取圧、シカ被害。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○						○									○

ヒメイトチシダ

Dryopteris sacrosancta Koidz.
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では3箇所のみ。産地局限。個体数は少ない。海岸沿いに生育、北陸地方は北限に近い。

種の特徴

常緑性のシダ類。ヤマイトチシダに似るが、葉柄下部の鱗片はほぼ黒色で縁は淡茶になる。葉質は薄く、葉の高さ70cm前後、葉身は2～3回羽状、幅広く卵状三角形である。日当たりのよい場所に生育。

分布

全国分布は本州（秋田県以西）から九州まで。県内分布は嶺北地方で2箇所、嶺南地方で1箇所。

生育を脅かす要因

開発、道路改修、産地局限。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○									

ホソイノデ

Polystichum braunii (Spenn.) Fée
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は4箇所のみである。深山では現状維持されているが、登山客が多い場所では、採取等による減少が危惧される。

種の特徴

夏緑性のシダで、深山の湿った林床に生育する。葉柄は短く淡茶色多く鱗片をつける。葉身は2回羽状複葉、中央が一番広い。羽片は基部に向かってしだいに狭くなる。胞子嚢群は小羽片の中肋よりにつく。

分布

全国分布は北海道、本州。県内分布は大野市。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移、登山道の整備。園芸採取。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1983）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハイネズ

Juniperus conferta Parl.
ヒノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

海岸の整備や開発、侵食などによって生育環境が消失し、生育地、個体数ともに減少している。ネズミサシに似るが幹は地を這い、毬果はやや大型である。

分布

北海道、本州、九州に分布する。県内ではあわら市、高浜町、おおい町、小浜市、敦賀市、福井市で確認されている。

種の特徴

海岸の砂浜に生える常緑の低木。幹は地を這い、分枝して四方に広がる。葉は針形状で3輪生し、長さ10～18mm、先はかたくとがり触れると痛い。表面には気孔帯がある。花期は5月、雌雄異株。毬果は球形で径9～10mm、黒褐色で粉白をおびる。

生育を脅かす要因

海岸の整備・改修、侵食により、生育条件が悪化しつつある。庭園等に利用するための園芸採取がある。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○	○							○				○

オオヤマレンゲ

Magnolia sieboldii K.Koch subsp. *japonica* K.Ueda
モクレン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県は分布上北限付近にあり、生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地に生える高木または低木で、高さは5mくらいまで。幹はしばしば斜上し、屈曲する。葉は互生し、長さ6～18cm、幅5～12cm、表面は平滑で、ときにまばらに毛があり、裏面は白色を帯び、全面に白毛がある。5～7月頃、枝の先端に芳香のある花が付く。

生育を脅かす要因

産地が限られていることのほか、山野草マニアによる園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）、福井県自然保護課編（2004）福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

オオハング

Pinellia tripartita (Blume) Schott
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

福井県が分布の北限で、生育地が極めて限定されており、個体数も少ない。

分布

本州（岐阜県・福井県以西）に分布する。県内では、主に福井市、嶺南地方で確認されている。

種の特徴

暖温帯の常緑広葉樹林下に生える多年生草本。地下茎は偏球形で、上部から根を出す。葉は1～4枚、長柄があり、無毛。葉身は3深裂し、基部は心形。花期は6～8月。花茎の中ほどに、緑色の仏炎苞をつける。仏炎苞の中に、雌雄異花の肉穂花序をつける。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路の新設や拡幅工事等の山地開発による生育環境の悪化が生育を脅かす要因となる。また珍しい植物であるため園芸採取の対象となりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（2001）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○												○

チシマゼキショウ

Tofieldia coccinea Richards, var. *coccinea*
チシマゼキショウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では温帯上部から亜高山帯の岩上に生育している。生育地の確認も1地区で、絶滅が危惧されるので、今回新たに県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山帯や寒地に生える。根出葉は線状鎌形で長さ3～8cm、縁に細かい突起がある。花茎は高さ5～15cm、1～2個の小型の葉がある。7～8月、花茎の頂に短い総状花序が付く。白色またはかすかに紫色を帯びる。蒴果は球形で、斜め下向きに付き、種子に尾がない。

分布

北海道、本州、四国に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、園芸採取、自然遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アギナシ

Sagittaria aginashi Makino
オモダカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

絶滅危惧Ⅱ類とされた前回調査では県内5市町で生育が確認された。今回調査でも敦賀市で生育が確認されているので、引き続き県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

水田、農業水路やため池に生える抽水性～湿生のオモダカ属多年草。オモダカに似るが、成葉の側裂片先端部が丸みを帯びること、土中に匍枝をださないことで判別できる。オモダカが現在も水田の強害雑草であるのに対して、本種は減少がいちじるしい。

分布

北海道～九州に分布する。県内では若狭町、敦賀市、坂井市、勝山市、大野市、福井市に分布が認められている。

生育を脅かす要因

農業用水路の改変や消失および水田耕種作業の変化が息を脅かす主要因である。

参考文献

矢原徹一・永田芳男（2003）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○					○				○	○	○

クロモ

Hydrilla verticillata (L.f.) Royle
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

水質汚濁や外来種のコカナダモ、オオカナダモとの競合により激減している。

種の特徴

流水中や沼に生える沈水性の多年草。茎は長く伸び、節に2～6個の葉を輪生する。雌雄異株で花期は8～10月。

分布

北海道～琉球に分布。県内一円で確認されている。

生育を脅かす要因

水質汚濁、外来種との競合。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○	○		○	○	○	○

イトトリゲモ

Najas gracillima (A.Braun ex Engelm.) Magnus
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

水田の乾田化や農薬使用によって減少した。

分布

本州～九州に分布。県内一円に分布するが、確認例は少ない。

種の特徴

水田や池に生える沈水性の一年草。茎は細く、枝分かれし、節に細い葉が5個ずつ輪生する。

生育を脅かす要因

池沼の開発、水田の乾田化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○								○		○

ホッスモ

Najas graminea Delile
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の開発や水質汚濁により減少した。

分布

本州～琉球に分布。県内では広く分布する。

種の特徴

ため池や湖沼などに生息する沈水生の一年草。葉は長さ約2cm。雌雄同種で、花期は7～9月。

生育を脅かす要因

湿地開発、水質汚濁。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○	○		○			○	○				○

ミズオオバコ

Ottelia alismoides (L.) Pers.
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

乾田化、用水路の改修、農薬汚染等により減少した。

分布

本州～九州に分布。県内一円で確認されている。

種の特徴

水田や用水路に生える一年生の沈水植物。葉は根生し、長さ10～30cmで波形のしわがある。花期は8～10月。花弁は3個で淡紅色、長さ15～20mm。

生育を脅かす要因

乾田化、農薬汚染、水質汚濁。

参考文献

福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○				○	○	○	○	○	○	○

ヒルムシロ

Potamogeton distinctus A.Benn.
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

池や水路などで普通にみられたが、近年著しく生育地、個体数とも減少している。特に水田付近の生育地は著しく減少している。

種の特徴

池や沼に生える多年生草本。円形の葉を水面に浮かせる。地下茎は泥の中にあって横に這い、水中に茎を伸ばす。葉は互生するが、対生することもある。水中葉は細長く、薄くて波打つ。浮葉は細長い柄を持ち、葉身は楕円形、先はややとがる。葉腋からやや長い柄が出て、先端に棒状の花穂がつく。

分 布

北海道～九州に分布する。全県一円に分布する。

生育を脅かす要因

池沼の埋め立て、河川改修工事による生育環境の消失と自然遷移の進行が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○		○			○	○	○		○	○	○

センニンモ

Potamogeton maackianus A.Benn.
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は5箇所、生育個体数も少ない。

種の特徴

湖沼などに群生する沈水性の多年生草本。葉はすべて沈水葉で、広線形、縁に細かい鋸歯がある。葉柄は無く、葉は互生し葉の中央脈は明瞭で色はやや褐色。花期は7～8月。総状花序をつける。数個の花を間隔をあけてつける。果実は広卵形。

分 布

北海道～九州に分布する。県内では小浜市、若狭町、敦賀市、越前町、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川改修工事による生育地の改変、自然遷移による生育条件の変化が生育地、個体数とも減少させている。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○										○

オヒルムシロ

Potamogeton natans L.
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

近年生育環境が悪化、または消失して、生育地、個体数とも減少している。

種の特徴

湖沼や川に浮葉する浮葉植物。地下茎から茎を伸ばし、水中に伸びる茎は2～3mに達することもある。同じ植物体に浮葉と沈水葉をつける。浮葉は長楕円形で、葉柄をもつ。沈水葉は線形。花期は5～8月、穂状花序をつける。冬には殖芽を形成して、無性的に繁殖する。

分 布

北海道～九州に分布する。県内では嶺南、嶺北、嶺北の範囲で広く確認されている。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川改修工事による生育地の壊変、自然遷移による生育条件の変化が生育地、個体数とも減少させている。

参考文献 角野康郎（1994）、福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○	○				○	○		○	○	

ホソバミズヒキモ

Potamogeton octandrus Poir. var. *octandrus*
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は11箇所、各生育地とも個体数は少ない。

種の特徴

溜池や河川、水路などに生育する沈水または浮葉植物。繊細な地下茎が泥中を横走する。水中茎はよく分枝する。沈水葉は線形で、鋭尖頭。浮葉は長楕円形で明るい黄緑色、花は間隔をあけて3～4段につける。

分布

北海道～九州に分布する。県内では敦賀市、越前町、永平寺町、あわら市、福井市、勝山市で確認されている。

生育を脅かす要因

池沼の埋め立て、河川改修工事が生育地、個体数とも減少させている。水田付近の生育地は著しく減少した。また自然遷移も進んでいる。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○			○			○		○		○

ヒロハノエビモ

Potamogeton perfoliatus L.
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は2箇所である。

種の特徴

水中に沈んで生育する多年生草本。地下茎は横に這う。葉はすべて沈水葉。葉柄が無く、葉身は広披針形で薄くてやわらかく、基部は茎を抱く。6～9月に開花する。穂状花序をつけ、花を密につける。

分布

北海道～九州に分布する。県内では嶺南地方で確認されている。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川改修工事が生育地、個体数を減少させている。

参考文献

佐竹義輔ほか（1982a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○													

ネバリノギラン

Aletris foliata (Maxim.) Bureau et Franch.
キンコウカ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では2地区でのみ確認されている。

種の特徴

山地から高山の草原に生える多年草。葉は束生し、披針形～倒披針形、長さ10～25cm、幅1～2cm。花茎は20～40cmで、小型の葉を付ける。4～7月、やや多数の花を総状に付ける。花被は黄緑色のつぼ形。外形はノギランに似ているが、花序や花が粘着する。

分布

北海道、本州（中部地方以北）、四国、九州に分布する。県内では高浜町、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移。

参考文献

福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○													○	

オオバタケシマラン

Streptopus amplexifolius (L.) DC. var. *papillatus* Ohwi
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の深山の一部にのみ分布し、個体数も少ない。

分 布

北海道～本州（中部以北）に分布。県内では奥越の深山～亜高山の一部に分布。

種の特徴

深山のブナ林などの林床に生える多年草。茎は高さ 50～100 cm、2～3 回枝分かれする。葉が茎を抱く点でタケシマランと区別できる。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ヒメタケシマラン

Streptopus streptopoides (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *streptopoides*
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の深山の一部にのみ分布し、個体数も少ない。

分 布

北海道から本州（中部以北）に分布。県内では奥越の深山～亜高山の一部に分布。

種の特徴

低山～亜高山帯の林内に生える多年草。茎は高さ 15～30 cm。葉は互生し、柄はほとんど無いが茎を抱かず、葉縁に柱状突起がある。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

エビネ

Calanthe discolor Lindl.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

里地・里山の林床に生える。県内では生育地が限られており、個体数が減少している。生育環境の変化で個体が減少していること、園芸目的の採取による影響が強く、群落が減少する可能性がある。

分 布

北海道～九州に分布。県内では里地・里山の林床に生える。嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

種の特徴

葉は長卵形で縦筋が入る。常緑で長さ 20 cm、幅 5 cm くらいあり、縮れている。葉の数は 3～4 枚で、地際から生える。花茎は長さ 20～30 cm、茎頂に花を数個つける。花の色は茶褐色、緑褐色、緑白色など変異が多い。花は花弁 3 枚と萼片 3 枚からなる。

生育を脅かす要因

生育地の環境悪化、道路工事等により生育地が減少している。園芸目的の採取により、自然状態での個体数の減少に追い打ちがかかっている。また、他府県ではシカによる食害が確認されている。

参考文献

福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○			○			○			○	○	○

ナツエビネ

Calanthe puberula Lindl.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

里地・里山の林床に生える。県内の生育地では株が点々としており、エビネと比べ小群落になっている。生育環境の変化、園芸目的の採取による影響が強く、個体数が減少する可能性がある。

種の特徴

里地・里山の林床に生える根茎は偽球茎が球形になる。葉の数は3～5枚が地際から生え、長さ10～30cm、幅3～5cmの狭長楕円形で、先端は鋭尖頭で、表面は縦筋が多い。花茎は長さ20～40cmになる。基部の葉腋から直立し、10～20個の淡紫色から淡緑紫色の変化ある花を総状につけ、下方か

分 布

本州～九州に分布。県内では里地・里山の林床に生える。嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

生育を脅かす要因

生育地の環境悪化、道路工事、園芸目的の採取等。シカ食害。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○					○

ギンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

海岸～里地・里山の林床の日陰に生える。県内では株が点々としており、群落になっていることは少ない。森林開発など生育環境の変化で個体数の減少がみられる。

種の特徴

海岸～里地・里山の林床の日陰に生える。細長い楕円形の葉は長さ3～8cm、幅1～3cmで、葉先は鋭くとがり、基部は茎を抱く。葉に毛はない。葉数は3～6枚。花茎は長さ10～20cmになる。白色の花を茎先に数個つける。

分 布

本州～九州に分布。県内では落葉広葉樹林の林床に生える。嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

生育を脅かす要因

生育地の環境悪化、道路工事等により生育地が減少している。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○	○	○		○	○	○			○	○

キンラン

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内の生育地では株が点々としており、群落になっていることは少ない。森林開発など生育環境の変化で個体数の減少がみられる。

種の特徴

海岸から里地・里山の明るい林床に生える。茎は高さ30～50cmになる。茎には稜があり、黄色の花を茎先に3～10個つける。花期は5～6月。葉数は5～8枚互生し、長楕円状披針形の葉は長さ10cm、葉先は鋭くとがり、基部は茎を抱く。縦方向にしわが多い。

分 布

本州～九州に分布。県内では落葉広葉樹林の林床に生える。嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

生育を脅かす要因

生育地の環境悪化、道路工事等により生育地が減少している。園芸目的の採取により、自然状態での個体数の減少に追い打ちがかかっている。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○

ササバギンラン

Cephalanthera longibracteata Blume
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が少なく、個体数も少ない。今回の調査では、登山道付近で生育している事例がみられた。また森林開発など生育環境の変化で個体数の減少がみられる。

種の特徴

ブナ帯を中心とした林床の日陰に生える。茎は高さ30～50 cm。茎は直立し、葉数は5～8枚互生する。卵状披針形の葉は長さ7～15 cm、葉先は鋭くとがり、基部は茎を抱く。葉裏と葉縁に毛状突起がある。白色の花を茎頂に3～10個ほどつける。花序の下部の2～3個の苞は特に長い。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北の落葉広葉樹林の林床に生える。

生育を脅かす要因

道路工事等による生育地の環境悪化、園芸目的の採取等。

参考文献 畔上能力ほか (2013)、福井県植物研究会 (1998)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○					○			○	○	

ハクサンチドリ

Dactylorhiza aristata (Fisch. ex Lindl.) Soó
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が嶺北の一部区域に限られており、生育地、個体数ともに少ない。今回の調査でも、生育地の確認ができたが、崩落などにより、生育数の減少が懸念される。

種の特徴

亜高山～高山の山地草原帯に生える。葉は倒披針形で、基部は茎を抱き、3～6枚互生する。花茎は高さ約10～20 cm。茎頂に数個～10数個の花を総状に付ける。花は紅紫色、側花弁は狭卵形、唇弁は3裂。

分布

国内では北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北の山地草原に生育している。

生育を脅かす要因

登山道工事や雪崩などによる、生育地の消失。

参考文献 清水建美ほか (2014)、福井県植物研究会 (1997)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○								○	

クロヤツシロラン

Gastrodia pubilabiata Sawa
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数が限られていて多くない。今回の調査では、個体数の減少が認められた。森林開発など生育環境の変化による影響が考えられる。

種の特徴

里地・里山の常緑広葉樹林やスギ植林、竹林の林床の日陰に生える。花茎は長さ2～3 cm、暗茶褐色の花を茎先に1～8個つける。花は平開する。果実期に花柄が伸びて、高さが25～40 cmほどになる。花期は9～10月。土壌中の共生菌から栄養分を得る腐生植物。

分布

国内では本州の（関東以西）～九州に分布。県内の自生地では竹林に株が点々としており、群落になっていることは少ない。嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

生育を脅かす要因

道路工事による森林開発など。

参考文献 遊川知久ほか (2015)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)、若杉孝生 (2009)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○		○									○

テガタチドリ

Gymnadenia conopsea (L.) R.Br.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。

分布

国内では北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市に分布。

種の特徴

亜高山帯～高山帯の草原に生える。一部の根は掌状に肥厚し、花茎は高さ約30～50cmになる。葉はやや肉厚の広線形、二つ折状で長さ10～20cm、4～6枚が茎の下半部に互生、茎の上部では線状披斜形の鱗片葉になる。茎頂に密に数個から10数個の花を総状につける。花は淡紅紫色。

生育を脅かす要因

登山道工事や雪崩などによる、園芸採取など。

参考文献 清水建美ほか(2014)、福井県植物研究会(1997)、前川文夫(1971)、大橋広好ほか(2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミズトシボ

Habenaria sagittifera Rchb.f.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内嶺北の湿原に生育しており、環境の悪化により、個体数が減少傾向である。

分布

北海道から九州に分布。県内では嶺北の一部の湿地に分布している。

種の特徴

日当たりのよい湿地に生える多年草。茎は三角柱状で直立し、高さ40～80cm。葉は茎の下部より発生し、線形で基部は茎を抱く。長さは5～20cm。上部には線形の鱗片葉がある。花は茎頂に多数穂状に付ける。大きさ10～15mm。花色は白色。花期は7～9月。

生育を脅かす要因

生育地の湿地やその周囲の開発、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会(1997)、前川文夫(1971)、大橋広好ほか(2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○			○		○			○	○		○	○	○

ホクリクムヨウラン

Lecanorchis japonica Blume var. *hokurikuensis* (Masam.) T.Hashim.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が一部の地域に限られている。今回の調査でも、各地で生育が確認できたが、年により個体数の差が大きい。獣害などの里地・里山の生育環境の変化で株が被害を受けて、減少する可能性がある。

分布

北陸地方、東北地方南部に分布する。県内では常緑広葉樹林の林床にみられ、嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

種の特徴

花茎は暗褐色で細く、長さ20～40cm。茎頂には暗紫褐色を帯びた小さな花を数個つける。少し垂れて、あまり開かない。花期は6～7月。

生育を脅かす要因

里地・里山の林床にみられ、森林開発やイノシシの獣害により、生育地の環境悪化で個体数が減少している。

参考文献 福井県植物研究会(1997)、大橋広好ほか(2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○	○				○	○				○

コ克蘭

Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が一部の地域に限られており、個体数も少ない。今回の調査でも、生育が確認できたが、獣害等の里地・里山の生育環境の変化で株が被害を受けて、減少する可能性がある。

種の特徴

常緑広葉林の林内にみられる。偽球茎は多肉質で前年のものが残る。葉は長さ5～12 cm、幅3～5 cmの広楕円形。葉脈がはっきりしている。花茎は長さ15～30 cm。茎頂には暗紫色の花を総状に数個つける。唇弁はくさび状の倒卵形で反曲する。花期は6～7月。

分布

国内では本州～九州に分布。県内では常緑広葉樹林の林床にみられ、嶺北の一部の地域、嶺南の一部の地域に分布している。

生育を脅かす要因

里地・里山の林床にみられ、森林開発による、生育地の環境悪化や獣害等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、大橋広好ほか（2015）、若杉孝生（1970）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○						○	○				○

トンボソウ

Platanthera ussuriensis (Regel et Maack) Maxim.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、生育数とも少ない。

種の特徴

湿性の林内や草原に生える。茎は高さ15～30 cm。葉は狭長楕円形で、茎の下部に2葉をつけ、上部には数個の鱗片がある。花は小さく長さ3.5 mm、葉の上部に多数総状につけ、淡黄緑白色。側花弁は狭卵形、唇弁は長さ3.5 mm、3裂し中裂片は舌状。距は細く長さ5～6 mm。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は若狭町、美浜町、勝山市。

生育を脅かす要因

開発による生育地の減少等。

参考文献 遊川知久ほか（2015）、前川文夫（1971）、大橋広好ほか（2015）、畔上能力ほか（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○											○		

ショウキラン

Yuania japonica Maxim.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が嶺北と嶺南の一部地域に限られており、今回の調査でも、生育地の確認ができたが、登山道の拡張、踏みつけや生育地の崩落等により、生育数は少なくなっている。

種の特徴

山地林内やササ原に生える。腐生ランで地下茎は肉質の円柱状で分枝して、先から地上茎を伸ばす。地上茎は淡紫色帯びた白色で高さ10～30 cm。茎頂に長い花柄を持ち、密に数個の花をつける。花は淡紅色。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北と嶺南の深山に生育している。

生育を脅かす要因

登山道整備や雪崩等による、生育地の消失。踏圧。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、大橋広好ほか（2015）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○											○	○	

ノハナショウブ

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto
アヤメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

従前はしばしば見られた種であるが、湿地環境の消失に加え、園芸採取により減少した。

種の特徴

草地や湿地に生える多年生草本。葉は長さ30～60cm、幅0.5～1.2cm、目立つ中脈がある。花期は6～7月。花茎は高さ40～80cm、花は赤紫色、外花被片に淡黄色の斑点がある。蒴果は楕円形、長さ2.5～3cm。

分布

北海道から九州に分布。県内全域に散見されるが、自生地は局所的である。

生育を脅かす要因

湿地開発、園芸採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○		○				○	○	○	○		○	○	○

ヒメシャガ

Iris gracilipes A.Gray
アヤメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

分布域に限られる。花が美しく、園芸採取の対象になりやすい。

種の特徴

林内に生える多年生草本。葉は長さ20～40cm、幅0.5～1.5cm、冬に枯れる。花期は5～6月。花茎は15～30cm、花は淡紫色、直径約4cm。外花被片には紫色の脈と黄色の斑点がある。蒴果は球形、直径約8mm。

分布

北海道から九州に分布。県内では嶺北と嶺南の一部の地域に生育している。

生育を脅かす要因

園芸採取、森林伐採、道路工事、自然遷移。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○					○				○	○	

カキツバタ

Iris laevigata Fisch.
アヤメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生育地に限られる。中には群生し、保護されている所もあるが、湿地や河川の開発に加え、園芸採取により激減した。

種の特徴

湿地に生える多年生草本。葉は長さ30～60cm、幅2～3cm。花期は5～6月。花茎は直立し、高さ40～70cm、花は青紫色、外花被片の中央に白斑がある。蒴果は長さ4～5cm。アヤメやノハナショウブよりも水辺を好む。

分布

北海道から九州に分布。県内では、嶺南の一部の地域、及び嶺北の数箇所で見られる。

生育を脅かす要因

園芸採取、湿地開発、河川工事。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○									○	○	○

ノカンゾウ

Hemerocallis fulva L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta
ススキノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

開発の影響に加え、園芸採取により激減したと考えられる。自然遷移を含め今後の個体数の推移や生育地の確認に注目したい。

分布

本州～九州に分布する。県内では高浜町、おおい町、越前市、福井市、勝山市、大野市で確認されている。

種の特徴

溝の縁や野原に生える多年草。根にときにふくらみがある。葉は長さ50～70cm、幅10～15mm。花茎は50～70cm、上部に小型の苞がつく。花期は7～8月、花序は2分してそれぞれに10花内外が開く。花被片は橙赤色でほとんど同形。結実することは少ない。

生育を脅かす要因

道路工事、園芸採取、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○									○			○	○	○

ヒメニラ

Allium monanthum Maxim.
ヒガンバナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

個体数が少ない。森林の伐採や里地・里山の管理放棄による遷移によって、生育環境が悪化し減少傾向にある。

分布

北海道、本州、四国に分布。県内では奥越、丹南、福井市に分布している。

種の特徴

山野に生える多年生草本。鱗茎は卵形、長さ約1cm。葉は2個、根生し、長さ10～20cm、幅3～8mm。花期は3～5月。雌雄異株。花茎は高さ6～10cm、先に白～淡紅色の花を1つつける。結実しないことが多い。

生育を脅かす要因

森林伐採、管理放棄、土地造成、道路工事。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（1997）、若杉孝生（1970）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○				○		○	○	○	○

ギョウジャニンニク

Allium victorialis L. subsp. *platyphyllum* Hultén.
ヒガンバナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も少ない。薬用や山菜として採集される危険がある。

分布

北海道～本州に分布。県内では奥越に分布する。

種の特徴

深山に生える多年生草本。全草に強いネギ臭がある。鱗茎は長さ4～7cm。葉は長楕円形、長さ20～30cm、幅3～10cm。花期は6～7月。花茎は高さ40～70cm、茎頂に白色～淡黄白色の散形花序がつく。雄蕊は花被片から突き出る。

生育を脅かす要因

森林伐採、薬用採取、自然遷移。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

タカネスズメノヒエ

Luzula oligantha Sam.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の一部地域にのみ生育する。

分 布

北海道、本州（中部以北）、四国に分布。県内では奥越の深山～亜高山で確認されている。

種の特徴

高い山に生える多年草で高さ 10～15 cmになる。根出葉は線形で少数、茎葉は 1～2 個で白長毛が少しある。花期は 7～8 月。少数の花からなる頭花をつける。

生育を脅かす要因

産地局限、登山者の踏みつけ。

参考文献 若杉孝生（2008b）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ホスゲ

Carex deweyana Schwein. subsp. *senanensis* (Ohwi) T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 4 箇所だが、いずれの生育地も個体数が多くないので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分 布

本州（氷ノ山以北の日本海側）に分布。県内では奥越の亜高山帯で確認されている。

種の特徴

亜高山帯の森林の林縁や草地等湿った環境に生える多年草。マスクサやタカネマスクサに似るが、苞の葉身が短く、果胞が大きい。

生育を脅かす要因

気候変動に伴う生育環境の変化。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オニスゲ

Carex dickinsii Franch. et Sav.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 5 箇所だが、2 箇所は絶滅したので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分 布

北海道～九州に分布。本県では奥越と嶺南で確認されているが、嶺南の生育地は近年自生が確認されていない。

種の特徴

湿地に生える多年草。有花茎は高さ 20～50 cm、頂小穂は雄性、雌小穂は上部に接近してつく。果？は大きく 8～10 mm。

生育を脅かす要因

湿地開発。植生遷移による生育環境の悪化。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○									○	○	

ヒロハノオオタマツリスゲ

Carex filipes Franch. et Sav. var. *arakiana* (Ohwi) Ohwi.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は5箇所、各生育地とも個体数が多くないので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（北陸地方から中国地方の日本海側）に分布。県内では嶺北嶺南の山地で確認されている。

種の特徴

山地の森林内や湿った草地に生える多年草。基部の鞘は赤紫色。葉は幅6～12mm、深緑色で、前年葉が残る。側小穂は雌性で長い柄が有り下垂する。

生育を脅かす要因

森林伐採。土地造成。湿地や湿地周辺の開発。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○				○										○	

ツクバスゲ

Carex hirtifructus Kük.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は7箇所であるが、各生育地とも群生しないので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（近畿地方以北）から九州に分布。県内では嶺北嶺南の山地の岩場で確認されている。

種の特徴

本種はショウジョウスゲに似るが、全体が小型で果胞の嘴が細長く、口部がやや深い2歯となることで区別される。

生育を脅かす要因

気候変動に伴う生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○								

オキナワジュズスゲ

Carex ischnostachya Steud. var. *fastigiata* T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は9箇所であるが、この生育地はすべて金津地区である。産地が限られているので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（関東地方以西）から九州、対馬、南西諸島に分布。坂井市金津地区の県境山麓で確認されている。

種の特徴

森林内の路傍や林縁に生える多年草。ジュズスゲの果胞は長さ4～5mmであるが、オキナワジュズスゲは長さ3～4mmと短い。

生育を脅かす要因

森林伐採。里地・里山の開発。植生遷移による生育環境の悪化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				

ハガクレスゲ

Carex jacens C.B.Clarke
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は2箇所である。全生育地で生育個体数が限られているので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（白山山系以北の日本海側）に分布。県内では県境山地で確認されている。

種の特徴

亜高山帯の常緑針葉樹林に生える多年草。雌小穂は1～6個で、上部のものから下方のものになるにつれて次第に離れて着き、最下ものは根際につく。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																○	○	

ヤガミスゲ

Carex maackii Maxim.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は5箇所、いずれも河川敷である。生育地の生育個体数が限られているので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

北海道、本州、九州に分布。県内では福井平野の河川敷で確認されている。

種の特徴

河川敷の砂地に生える多年草。有花茎は高さ40～70cm、鋭稜があって著しくざらつく。小穂は上方に雌花、下方に雄花がある。

生育を脅かす要因

河川改修による生育地の破壊。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

キノクニスゲ

Carex matsumurae Franch.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生育地は3箇所であるが、個体数が多いのは1箇所であるので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（富山県、愛知県以西）から九州、伊豆諸島等に分布。県内では嶺北の沿岸部で確認されている。

種の特徴

海岸近くの森林の林床や林縁に生える多年草。密に叢生して大株になる。葉は有花茎より長く、果胞は密につき下半部は緑白色が目立つ。

生育を脅かす要因

森林伐採。道路工事。

参考文献

 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

キンスゲ

Carex pyrenaica Wahlenb.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は1箇所であるが、個体数や生育地の環境が安定しているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

北海道～本州（中地地方以北）に分布。県内では嶺北の県境山地で確認されている。

種の特徴

高山のやや湿潤な砂礫地や草地に生える多年草。花序は1個で雌雄性、やや密に花をつけ、雄部は頂部に雌部は下部につく。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ユキグニハリスゲ

Carex semihyalofructa Tak.Shimizu
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は2箇所、個体数があまり多くないので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（福井県以北の日本海側多雪地）に分布。県内では嶺北の県境山地で確認された。

種の特徴

ブナ帯上部から亜高山帯の湿地に生える多年草。葉は幅1.7～2.8mm。有花茎は20～45cm、花序は1個、上部に雄部、果胞は熟すと斜開する。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

エゾハリイ

Eleocharis congesta D.Don var. *thermalis* (Hultén) T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は2箇所であり、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

北海道～九州に分布。県内では奥越の山地で確認されている。

種の特徴

湿地や池の周辺に生える多年草。ハリイに似るが、穂は疎らに少数花をつけ、芽生しないこと、鱗片が濃赤色であること等で区別できる。

生育を脅かす要因

湿地の自然遷移。湿地の開発。埋立。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ミカツキグサ

Rhynchospora alba (L.) Vahl
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は7箇所であるが、生育地の環境が悪化し個体数が減少している。

分布

北海道、本州（主に中部地方以北）、九州（稀）に分布。県内では嶺南、嶺北のブナ帯から亜高山帯の湿地で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い池塘・湿地に生える。小穂は淡白色。瘦果の刺針状花被片は9～15本と多く、上部は下向きに基部は上向きにざらつく。

生育を脅かす要因

湿地の自然遷移。湿地の開発。埋立。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○									○	○	

コイヌノハナヒゲ

Rhynchospora fujiiana Makino
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は10箇所であるが、生育地の破壊や遷移の進行により個体数が減少しているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

北海道～九州に分布。県内の小さい湿地で確認されている。

種の特徴

湿地に生える小型の多年草。植物全体は直立せず、茎の中ほどから倒れることが多い。刺針状花被片は細く平滑で果実よりも少し長い。

生育を脅かす要因

埋立。湿地開発。水田の圃場整備。道路の拡幅。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○	○						○	○	○	○	

ハタベカンガレイ

Schoenoplectus gemmifer C.Sato, T.Maeda et Uchino
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

既知の生育地は3箇所であるが、1箇所は現在生育が確認できない状況である。

分布

本州、九州に分布。県内では嶺南や嶺北の山間部で確認されている。

種の特徴

山地の水路の流水中や浅い溜池に生える多年草。有花茎は高さ50～120cm。横断面は鋭3稜形。小穂は卵形。刺針状花被片は6本、長さは瘦果よりやや長く、下向きにざらつく。

生育を脅かす要因

溜池の埋立。河川改修。土地造成。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○					

ヒメホタルイ

Schoenoplectus lineolatus (Franch. et Sav.) T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所であるが、1箇所は破壊され、個体数も少ないので、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北嶺南の低地の湿った所で確認された。

種の特徴

池等の水深の浅い砂地やその水中に生える小型の多年草。細く長い匍匐根茎を引き、小穂は1個しかつけない。

生育を脅かす要因

浅い池等の埋立。植生の遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○			○							○			○	

オガルカヤ

Cymbopogon tortilis (J.Presl) Hitchc. var. *goeringii* (Steud.) Hand.-Mazz.
イネ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育数はあまり多くない。

分布

全国分布は本州～九州～琉球に分布。県内分布はあわら市、大野市、永平寺町、福井市、越前市、高浜町、美浜町、小浜市、おおい町。

種の特徴

丘陵の土手等に生える。茎の高さ60～100cm。葉は長さ15～40cm、幅3～5cm。茎は多くの分花序をつけ、総1花序に2個ずつ長さ1.5～2cm、緑色～褐色を帯びる。

生育を脅かす要因

本県では、生育数が少ないため、環境の破壊、植生の遷移等。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982a)、林弥栄・平野隆久(2013)、福井県植物研究会(1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○	○					○	○	○	○			○	○

トキワススキ

Miscanthus floridulus (Labill.) Warb. ex K.Schum. et Lauterb.
イネ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は少なく、個体数も少ない。

分布

全国分布は、本州～九州。県内分布は、福井市、あわら市、永平寺町、美浜町。

種の特徴

ススキに比べ、花序の中軸が長く、穂の長さは幅の2倍以上になる。花期は6～8月。常緑性である。

生育を脅かす要因

生育地である海岸地域や河川域の工事、植生の遷移等。

参考文献 福井県植物研究会(1998)、林弥栄・平野隆久(2013)、佐竹義輔ほか(1982a)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○						○			○				○

アイアシ

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi
イネ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

分 布

全国分布は、北海道～九州。県内分布は、福井市、坂井市。

種の特徴

根茎は地中に伸びる。高さ80～120cm、葉は広い線形で長さ20～40cm、幅1～4cm。葉鞘は縁に毛がある。花序は5～12本の総を茎頂に直立。中軸は3稜形。無柄と有柄の小穂が対になってつく。

生育を脅かす要因

海岸や河口の砂地に生育するため、環境の変化に弱い。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982a)、林弥栄・平野隆久(2013)、福井県植物研究会(1998)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○

マツモ

Ceratophyllum demersum L.
マツモ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

池沼の開発や水質汚濁などによる生育環境の消失や悪化により減少している。

分 布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

池や川に生える沈水性の水草。茎は長さ20～80cm、分枝し、もろい。数枚の葉を輪生し、長さ1.5～2.5cm、裂片には細い刺状の鋸歯がある。6～8月頃、小さい花が咲くが、雄花が先に形成される。冬、植物体は枯れるが、枝の先端にできた越冬芽が残り、翌春発芽する。

生育を脅かす要因

生育地である池沼の開発、水路改修、水質汚濁などによる生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)、福井県自然保護課編(2004)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○		○		○	○	○	○			○	○

ヤマブキソウ

Hylomecon japonica (Thunb.) Prantl et Kündig
ケシ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は3地区であるが、2地区で新たな生育地が確認されたので、県域絶滅危惧Ⅰ類から県域絶滅危惧Ⅱ類とした。今後、森林の改変や園芸採取が危惧されるので、生育地や個体数の変動に注目したい。

分 布

本州～九州に分布する。県内では若狭町、勝山市、大野市で確認されている。

種の特徴

山地や平地の樹林地に群生する多年草。根茎があり、全体にやわらかく、鮮緑色。縮れた毛がまばらにある。根出葉に長い柄がある。羽状複葉で、小葉は5～7個。花期は4～5月、上部の葉の腋に1～2個付け、鮮黄色。蒴果は線形、直立し、やや多数の種子がある。

生育を脅かす要因

森林開発、園芸採取、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会(1997)

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○														○	○	

ツルシロカネソウ

Dichocarpum stoloniferum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は3箇所である。本県が日本海側の分布の限界であり、県内での生育地が奥越地方の山地に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

山地の林内に生える多年草。根茎は細長く横にはい、匍枝を出して繁殖する。茎の高さは10～20cmで、基部にふつう1枚の根出葉がある。6～8月頃、花はほぼ全開して、上向きに咲き、白色。閉鎖花をつけない。

分布

本州太平洋側（神奈川県～奈良県）に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。日本海側の分布限界で、もともと個体数が少ない。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミスミソウ（狭義のオオミスミソウおよびケスハマソウを含む）

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内には、狭義のミスミソウ、オオミスミソウ、ケスハマソウが分布しているが、これらは判別することが困難な場合が多い。これらの既知の生育地点は20箇所以上であるが、いずれの生育地も小規模で、基盤が脆弱であり、園芸目的の採取圧が高い。

種の特徴

山地の落葉広葉樹林下に生える多年草。根出葉は長い柄があり厚く、褐色を帯びた緑色。葉身は三角状卵形で3つに切れ込む。3～4月頃、花茎を出し、直径1～1.5cmの花を頂生する。花弁は無く、萼片は花弁状で色は白、ピンク、赤紫色など変異が大きい。

分布

本州（中部地方以西）、九州（北部）に分布する。県内では広く分布する。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。生育地は斜面が多く、自然かく乱による影響も危惧される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）、Ⅱ類準絶滅危惧（NT）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	○	

シナノキンバイ

Trollius japonicus Miq.
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山帯のやや湿った草原に生える多年草。茎は高さ20～80cm。根出葉と茎葉の下部のものには長柄があり、上部の茎葉には短柄があるか無柄。7～9月頃、茎頂に直径3～4cmの花を1～3個つける。花弁は雄蕊よりも短いか、ほぼ同長。

分布

北海道、本州中部北部の高山帯に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である高山・亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。とくに、登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アラシグサ

Boykinia lycoctonifolia (Maxim.) Engl.
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1山域で確認されているのみで、分布域が限定されており、生育個体数も少ない。

分布

北海道～本州（中部以北）に分布する。県内では奥越の亜高山帯に分布する。

種の特徴

高山のやや湿った草地に生える多年生草本。茎には短い腺毛が密生し、葉にも毛があり、掌状に切れ込み、裂片も更に切れ込んだ様な深い鋸歯がある。花期は7～8月、茎先端に円錐状集散花序を出し、褐色がかった淡緑色の花をつける。

生育を脅かす要因

産地が限られ登山道に沿って帯状に群生することが多いので登山者による踏みつけで生育地が壊されやすい。また温暖化による種の存続への圧迫が懸念される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

イワベンケイ

Rhodiola rosea L.
ベンケイソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地は1箇所のみ。1984年以降の採取記録がない。生育地の崩壊によって、個体数が変動する。本県が国内分布の南限となる。

分布

北海道～本州（中部以北）に分布。県内では奥越にのみ見られる。

種の特徴

高山の岩場や草地に生える多年生草本。高さ5～35cm。葉は互生し、長楕円形、長さ0.5～4cm、青緑色。多肉質で、低い鋸歯がある。花期は7～8月。雌雄異株。花は茎の先につき、雄花は黄緑色、雌花は赤味を帯びる。花弁は4個。果実は紅色に熟す。

生育を脅かす要因

産地局限、園芸採取、自然遷移。

参考文献 清水建美ほか（2014）、佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

フジキ

Cladrastis platycarpa (Maxim.) Makino
マメ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

嶺南地方と大野市の一部に稀にしか見られない。最近30年の採集記録はない。

分布

本州（福島県以南）、四国に分布。県内では、おおい町、小浜市、大野市で採集記録がある。

種の特徴

山地に生える落葉高木。葉は奇数羽状複葉で長さ20～30cm程度で互生する。夏に枝先に長さ15～25cmの総状花序を出し、白色の花をつける。

生育を脅かす要因

山地の開発。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○											○	

オオダイコンソウ

Geum aleppicum Jacq.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1 山域にのみ確認されている。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方に分布する。

種の特徴

花期は6～7月。茎の葉は羽状複葉、ダイコンソウに比べて全体が大きく側小葉とほぼ同じ大きさの托葉がある。

生育を脅かす要因

産地局限、登山者による踏みつけ、温暖化の進行が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

ミヤマダイコンソウ

Geum calthifolium Menzies ex Sm. var. *nipponicum* (F.Bolle) Ohwi
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1 山域にのみ確認されている。

分布

分布域は北海道、本州（中部地方以北、大峰山系）、四国（石鎚山）。県内では奥越地方に分布する。

種の特徴

岩隙、砂礫地に生育する多年生草本。高さは10～30cm。花期は7～8月、黄色い直径1.5～2cmほどの5弁花を咲かせる。頂小葉は直径2～12cmと非常に大きく、端が鋸歯で光沢がある。

生育を脅かす要因

産地局限、登山者による踏みつけ、自然遷移の進行、温暖化が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

カラフトダイコンソウ

Geum macrophyllum Willd. var. *sachalinense* (Koidz.) H.Hara
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1 山域にのみ確認されている。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方に分布する。

種の特徴

低地～山地の森林の林縁などに生え、茎の高さは30～80cmで、全体に刺状の粗毛がある。枝先に直径約1.5cmの黄色の花を数個つける。花弁、萼はそれぞれ5個。根生葉は奇数羽状複葉で小葉は丸い。茎葉は単葉で、3個に浅～中裂し縁には粗い鋸歯がある。花期：5～7月。

生育を脅かす要因

産地局限、温暖化の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

コゴメウツギ

Neillia incisa (Thunb.) S.H.Oh
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

北海道～九州に分布する。県内では高浜町、おおい町、越前町、福井市、勝山市で確認されている。

種の特徴

山地に生える落葉低木。枝は細く分枝。葉は互生し短柄には毛がある。托葉も有毛。花期は5～6月。短い総状花序をなし小さな花を多数散房状につける。花軸には毛があるが小さな花柄は無毛。包葉は小形、萼は後まで残る。

生育を脅かす要因

道路工事、森林伐採、自然遷移が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1999）
福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○				○								○		○

イワキンバイ

Potentilla ancistrifolia Bunge var. *dickinsii* (Franch. et Sav.) Koidz.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。2地点で確認されているだけである。

分布

北海道～九州に分布する。県内では奥越で確認されている。

種の特徴

山地の岩の間に生える多年生草本。根は太く、肥大し、茎は高さ10～30cm。葉には長い柄があり、両面に毛が密生し、裏面は白色を帯びる。夏に茎の先端に集散花序をなし黄色花をつける。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（2001）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ミヤマキンバイ

Potentilla matsumurae Th.Wolf
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。2地点にのみ確認されているだけである。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越に分布する。

種の特徴

亜高山～高山帯の砂礫地、草地に生育する高山植物。高さは10～20cm。花期は7～8月、黄色い直径2cmほどの5弁花を咲かせる。

生育を脅かす要因

産地局限、踏みつけ、自然遷移、温暖化の進行が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、奥田重俊編（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

タカネバラ

Rosa nipponensis Crép.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1山域にのみ確認されているだけである。

種の特徴

高山や亜高山の草地や岩石地に生える落葉低木。樹高は1～2mになり、枝はよく分枝する。葉は奇数羽状複葉で、7～9個の小葉からなる。小葉は長楕円形から楕円形になり、短い小葉柄があり、縁には刺状にとがった鋸歯がある。花期は6～7月。小枝の先端に1～2個の紅紫色の花をつける。

分布

本州（中部地方以北）、四国（剣山、東赤石山ほか）に分布。県内では奥越に分布する。

生育を脅かす要因

産地局限、踏みつけ、自然遷移、温暖化の進行が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハマナス

Rosa rugosa Thunb.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

種の特徴

海岸の砂地に生える落葉広葉樹。枝には刺が密生する。葉は有柄、互生し有毛。托葉がある。春、枝先に紅色まれに白色の花をつける。偽花は8～9月頃赤く熟し食べられる。

分布

北海道～本州（茨城県、島根県以北）に分布。県内では嶺北、嶺南の海岸沿いでみられる。

生育を脅かす要因

海岸開発、整地、踏みつけ、園芸採取が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○	○						○		○				○

ベニバナイチゴ

Rubus vernus Focke
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1山域にのみ生育が確認される。

種の特徴

亜高山帯多雪地に生育する落葉低木。キイチゴの仲間であるが、茎には刺がなく、つる状とはならない。葉は3出複葉で、頂小葉はひし状広卵形。葉の両面には毛があり、欠刻状の粗い鋸歯となる。花期は6～8月。枝先に紅紫色の花を1個、下向きにつける。

分布

北海道～本州（中部地方）に分布する。県内では奥越地方に生育する。

生育を脅かす要因

産地局限、温暖化の進行が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

キミズ

Pellionia scabra Benth.
イラクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林伐採等により減少したと思われる、生育地、個体数ともに少ない。

分布

本州（中部地方）～琉球に分布。県内では、おおい町、小浜市に見られる。

種の特徴

山地に生える半低木。茎の基部は木質化する。茎は高さ20～40cm。葉は卵状披針形、長さ6～10cm、低鋸歯があり、先は細くなる。花期は3～5月。雄花序は短柄があり、集散状、雌花序は柄がなく、球状。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移、シカ食害。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
		○			○													

サクラバハンノキ

Alnus trabeculosa Hand.-Mazz.
カバノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

現在県内で知られている生育地は数箇所、個体数も少ない。湿地の開発により生育地が減少した。

分布

本州（中部地方以西）、九州に分布。県内では勝山市、あわら市で見られる。

種の特徴

湿地に生える落葉小高木。高さ10～15m。葉は互生し、卵状楕円形、長さ7～11cm、表面は光沢がある。花期は2～3月。展葉前に開花し、雄花序は枝先に、雌花序はその下側につく。果実は卵状楕円形、長さ約2cm。

生育を脅かす要因

湿地開発、土地造成、道路工事。

参考文献 茂木透他（2000a）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
													○		○		

ネコシデ

Betula corylifolia Regel et Maxim.
カバノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

個体数が少ない。採集標本は3点のみ。

分布

本州（中部地方以北）に分布。県内では奥越に見られる。

種の特徴

亜高山帯に生える落葉高木。高さ3～15m。葉は互生、短枝に1対つく。葉は卵状長楕円形、長さ4～8cm、粗い重鋸歯がある。花期は5月。展葉と同時に開花し、雌花序は短枝につき、雄花序は枝先から垂れ下がる。果穂は上を向き、長さ3～5cm。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 茂木透他（2000a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アサダ

Ostrya japonica Sarg.
カバノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で知られている生育地は数地区で、個体数も少ない。全国的にも少ない種類である。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北と丹南にわずかに分布する。

種の特徴

山地の湿った場所に生える落葉高木。高さ 25m になる。樹皮は縦に裂け、反り返る。葉は互生し、狭卵形、長さ 7～13 cm、重鋸歯がある。花期は 4～5 月。展葉と同時に開花し、雄花序は長さ 5～6 cm。果穂は長さ 5～6 cm。果実は長さ約 1.5 cm の苞に包まれる。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、土地造成。

参考文献 茂木透他 (2000a)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○		○		○		○			○				○	

イワウメツル

Celastrus flagellaris Rupr.
ニシキギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は数地区で、個体数も少ない。

分布

本州（中部以西）～九州に分布。池田町、大野市、福井市で採集記録がある。

種の特徴

森林の林縁に生える落葉のつる植物。気根で樹幹や岩を這い上がる。葉は互生し、卵円形、長さ 3～7 cm、細かい鋸歯がある。花期は 5～6 月。雌雄異株。花序は葉腋につき、花は黄緑色、花弁 5 個。果実は 3 裂し、仮種皮は橙赤色。

生育を脅かす要因

森林伐採、土地造成、産地局限。

参考文献 茂木透他 (2000b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	○

ウメバチソウ（狭義のエゾウメバチソウを含む）

Parnassia palustris L. var. *palustris*
ニシキギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も少ない上に、園芸採取の対象になりやすい。

分布

北海道～九州に分布。嶺北、及び嶺南に数箇所分布している。

種の特徴

日当たりのよい湿地に生える多年生草本。根生葉は長柄があり、葉身は広卵形、長さ 2～4 cm。花期は 8～10 月。高さ 10～40 cm の花茎の先に、直径 2～2.5 cm の白花をつける。花弁は 5 個。雄しべは 5 個、先端に黄色い腺体がつく。

生育を脅かす要因

園芸採取、湿地開発。

参考文献 門田裕一ほか (2013)、福井県植物研究会 (1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○					○				○	○	

キバナノコマノツメ

Viola biflora L.
スミレ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

分 布

国内分布は、北海道、本州（中部地方）、四国、九州の高地。
県内分布は大野市。

種の特徴

高山・亜高山の草原や砂れき地に生える。高さ 10～15 cm、
茎葉は円形～腎形、先は円く少しへこむものもある。花は黄色、
やや小型で径 1 cm ほど。唇弁は他の弁よりやや大きい。

生育を脅かす要因

山道の整備、植生の遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、佐竹義輔ほか（1982b）、清水建美ほか（2014）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

イソスミレ

Viola grayi Franch. et Sav.
スミレ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

分 布

全国分布は、北海道～本州（鳥取県以北の日本海側）の海岸。
県内分布は、あわら市、坂井市、福井市。

種の特徴

海岸の砂浜に生える。地下茎は砂中に深く伸び、多数枝分かれする。
一部木質化している。地下茎も多く分布し、大きな株となる。
葉や花はタチツボスミレに似る。葉は光沢があり、花は明るく濃い紅紫色、側弁は無毛。距は白っぽいことが多い。

生育を脅かす要因

海岸環境の変化による砂浜の減少。植生の遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、佐竹義輔ほか（1982b）、門田裕一・畔上能力（2013）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○				○

アケボノスミレ

Viola rossii Hemsl.
スミレ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

分 布

全国分布は、本州～九州。県内分布は、大野市、勝山市。

種の特徴

山地の森林の林縁や林床に生える。花は葉よりも少し早く開花し、
紅紫色で美しい。葉は円心形で先は尖る。基部は心形、縁には目立たない鋸歯がある。花弁は 15～20 mm、距は 3～4 mm。

生育を脅かす要因

山道の整備、環境の変化等。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、佐竹義輔ほか（1982b）、畔上能力ほか（2013）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ヒナスミレ

Viola tokubuchiana Makino var. *takedana* (Makino) F. Maek.
スミレ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の生育地・個体数ともに少ない。

分 布

国内分布は北海道～九州に分布。県内分布は、大野市、あわら市、越前市、敦賀市。

種の特徴

山地の林内に生える。短い地下茎がある。葉は三角状長楕円形、長さ3～6cm、上半部は細まり、先は尖る。基部は深い心形、葉縁に波状の鋸歯があり、花は淡紅色。花弁の長さは1.2～1.5cm、距の長さは6～7mm。

生育を脅かす要因

山地林道の改変、植生の遷移等。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、畔上能力ほか（2013）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○	○			○	

ダイセンオトギリ

Hypericum asahinae Makino
オトギリソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1山域に確認されるのみである。

分 布

本州（中部地方以西の日本海側の高山）に分布する。県内では奥越地方で確認される。

種の特徴

乾燥した尾根筋の露岩地に生える多年生草本。地下茎は木質。葉は卵状楕円形、楕円形または長楕円形で、長さ20～35mmで対生する。葉は十字対生状にやや密に着く特徴がある。枝先に集散花序を作り、直径約2cmの黄色い花をつける。花弁は5枚、黒点、黒線がある。

生育を脅かす要因

産地局限、温暖化が生育を脅かす要因となる。

参考文献 北村四郎ほか（1961）、佐竹義輔（1982b）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒメオトギリ

Hypericum japonicum Thunb.
オトギリソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回調査では生育状況が不明であったので、引き続き県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

分 布

国内では本州（関東以西）～九州に分布。

種の特徴

水田等の開けた湿地に生える小型の一年草。

生育を脅かす要因

近年、除草剤の使用等水田環境が変化したことや植生遷移が進行した耕作放棄水田が増えたことが個体数減少要因に挙げられる。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○	○	○		○		○	○		○	○	○

グンナイフウロ

Geranium onoei Franch. et Sav. var. *onoei* f. *onoei*
フウロソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地に限られる。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では奥越にのみ分布する。

種の特徴

高地の草地に生える多年生草本。高さ 30～50 cm。茎、葉柄に腺毛と開出毛が生える。茎葉は互生、上部で対生し、幅 5～12 cm、掌状に 5～7 深裂し、粗い鋸歯がある。花期は 6～8 月。花は紅紫色、花弁は 5 個。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移。

参考文献 門田裕一ほか（2013）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

エゾミソハギ

Lythrum salicaria L.
ミソハギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の産地は 3 箇所のみ。個体数が限られる。湿地や河川の開発により産地が消滅する可能性が高い。

分布

北海道～九州に分布。県内では永平寺町、坂井市、福井市で採集されている。

種の特徴

湿地に生える多年生草本。茎は高さ 50～150 cm。茎や葉、花序に短毛がある。葉は対生または 3 輪生し、長楕円形、長さ 3.5～6.5 cm、基部は茎を抱く。花期は 7～8 月。茎の先に穂状花序をつける。花は紅紫色、花弁は 6 個。蒴果は 4 裂する。

生育を脅かす要因

河川工事、湿地開発、自然遷移。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○	○						○

ウシタキソウ

Circaea cordata Royle
アカバナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種は全国的には普通種である地域も多いが、県内における既知の生育地は数地点に限られ個体数も少ない。

分布

北海道～九州に分布。県内では池田町、大野市での記録がある。

種の特徴

山地帯の林床等湿り気のある場所に生える高さ 40～60 cm の多年草。全草に柔らかい長毛と開出短毛を密生し、褐色を呈する。葉には長い葉柄があり両面有毛、卵心形～卵形で基部は心形～円形になる。花期は 8～9 月。花は白色で花弁は 2 裂する。

生育を脅かす要因

森林伐採、生育地へのシカの分布拡大による食害。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

ミヤマハタザオ

Arabidopsis kamchatica (DC.) K.Shimizu et Kudoh subsp. *kamchatica*
アブラナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道、本州、四国（剣山）に分布。県内では坂井市（1935年）と大野市で確認されている。

種の特徴

山地帯～高山帯の砂れき地や崩壊地等に生える多年草。茎はまばらに毛があり、基部からよく分枝して株立ちし、高さ10～40 cm。根出葉は、倒披針形で頭大羽状に深裂し、口ゼツト状に付く。全草粉白色を帯びることがある。6～8月、白色～淡紅色の花をつける。

生育を脅かす要因

踏圧、生育地へのシカの分布拡大による食害。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○					○	

ヤマガラシ

Barbarea orthoceras Ledeb.
アブラナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市で確認されている。

種の特徴

深山の溪流等湿り気が多い場所に生える多年草。茎は高さ20～60 cm、直立し上部で分枝する。葉は頭大羽状に中～全裂、頂小葉は楕円形～広卵形で先が丸く大きい、茎葉の基部は茎を抱く。5～8月、花序は鮮やかな色の花を多数つける。

生育を脅かす要因

同属の外来種ハルザキヤマガラシとの種間競争や交配が懸念されている。県内の生息地では、ハルザキヤマガラシの生育は未確認であるが、注意が必要。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オオユリワサビ

Eutrema okinosimense Taken.
アブラナ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

絶滅したと思われていたが、近年北陸地方でユリワサビと思われていたものの中に本種が含まれていることが判明し、県内でも数地区で確認されている。

分布

本州（中部地方以北、特に日本海側）に分布。県内ではおおい町、小浜市、若狭町、敦賀市、高浜町、越前町、南越前町、越前市、福井市、大野市で確認されている。

種の特徴

山間の溪流沿いに生える多年草。基本変種のユリワサビより大型で、高さ30～50 cmになる。花茎はユリワサビより太くワサビより細い。花後、地上部が枯れ、鱗茎葉のみ残る点が他2種と異なる。葉はユリワサビに似るが、一回り大きい。花は総状花序となる。

生育を脅かす要因

森林伐採、林道工事、シカ食害。

参考文献 鳴橋直弘ほか（2000）、米倉浩司（2003）、福井県植物研究会（2001）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○	○	○				○				○	○

マツグミ

Taxillus kaempferi (DC.) Danser
オオバヤドリギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

マツ枯れが進行して生育環境が失われ、絶滅の危機にさらされている。

分布

本州（関東地方、富山県以西）～九州に分布。県内では若狭町、敦賀市、越前町、福井市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

アカマツ、クロマツ、モミ、ツガ等のマツ科針葉樹に寄生する長さ20～50cmの常緑低木。葉は倒披針形で密につき、全縁で革質。7～8月、葉腋から短い集散花序を出し、数個の赤色の花をつける。花被は円筒状形で長さ1.5cm。果実は翌年3～5月に赤熟する。

生育を脅かす要因

マツ枯れによる宿主植物の枯死、遷移進行、森林伐採。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○	○								○	○	○

オオバヤドリギ

Taxillus yadoriki (Siebold ex Maxim.) Danser
オオバヤドリギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布が偏在し、生育地は少ない。沿岸部の常緑広葉樹林の伐採等により減少傾向にある。

分布

本州（関東地方南部以南）～琉球に分布。県内では小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市での記録がある。

種の特徴

主に沿岸部の常緑広葉樹に寄生する常緑低木。茎はややつる性で長さ80～100cmになる。若い枝には褐色の毛が密生する。葉は、広楕円形で革質、裏面には赤褐色の星状毛が密生する。9～12月、葉腋に筒状で赤褐色の花が数個つく。果実は広楕円形で赤熟する。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○											

ホソバイヌタデ

Persicaria erectominor (Makino) Nakai var. *trigonocarpa* (Makino) H.Hara
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生育地の生育条件の悪化により急激に減少している。

分布

北海道～本州に分布する。県内では高浜町、あわら市、坂井市、福井市で確認されている。

種の特徴

水辺に生える一年生草本。高さ30～50cmになる。葉は線形～披針形で、表面に短毛があり、裏面には腺点がある。托葉鞘は膜質で、縁毛がある。

生育を脅かす要因

湿地の開発、護岸工事、自然遷移の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（1998）、土屋和三（2006）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○								○		○				○

タカネスイバ

Rumex alpestris Jacq. subsp. *lapponicus* (Hiitonen) Jalas
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。今のところ1山域で確認されているだけである。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では大野市で確認される。

種の特徴

高山の水湿地に生える多年生草本。茎は高さ30～90cmになり、あまり分枝しない。葉は長楕円形～卵形、耳部は短く、有柄。花期は7～8月。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

タカネナデシコ

Dianthus superbus L. var. *speciosus* Rchb.
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

カワラナデシコの変種で山地～高山帯の草地やれき地に生える。高さ10～30cm。葉は線形～披針形で粉白色を帯びる。花は、7～9月に茎先端や上部の葉腋につき、紫紅色で5枚の花弁からなる。基本変種に比べ、苞は少なく2対で細長い、花弁の切れ込みはより深い。

生育を脅かす要因

踏圧、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

オオヤマフスマ

Moehringia lateriflora (L.) Fenzl
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られ、個体数も少ない。

分布

北海道～九州に分布。県内では坂井市、大野市での記録がある。

種の特徴

落葉広葉樹二次林の明るい林床や草地に生える多年生草本。茎は高さ10～20cm、毛があり細く、分枝する。葉は広楕円形～倒披針形で対生し無柄、3脈が目立ち裏面脈上と葉縁に短毛がある。花期は6～8月、花は葉腋や茎頂に径1cm、花弁は5つで白色。

生育を脅かす要因

遷移進行、踏圧。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○					○	

センジュガンピ

Silene gracillima Rohrb.
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

本州(中部地方以北)に分布。県内では大野市での記録がある。

種の特徴

冷温帯落葉広葉樹林の林床に生育する多年草。茎は株状で高さ40～100cm、軟毛があり、分枝する。葉は広楕円形～披針形で先は鋭尖形、対生し無柄。花期は7～8月、花は白色で径2～2.5cm、花弁は5枚で2浅裂し、縁には歯牙がある。

生育を脅かす要因

草地開発、遷移進行、踏圧。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

カラタチバナ

Ardisia crispa (Thunb.) A.DC.
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

開発による常緑広葉樹林の減少とともに生育地、個体数ともに減少した。

分布

本州(茨城県、新潟県以西)～琉球に分布。県内ではおおい町、小浜市、越前市、あわら市、坂井市での記録がある。

種の特徴

常緑広葉樹林内に生える常緑低木。匍匐茎がある。茎は分枝せず直立し、高さ20～100cm。葉は互生し狭卵形、表面に光沢があり、波状の鋸歯の間に腺点をもつ。7月頃、葉腋に長い柄のある花序をつけ小花を散状に数個開く。花冠は白色で5裂する。果実は赤熟する。

生育を脅かす要因

森林伐採、土地造成、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会 (1999)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○						○	○	○				

ギンレイカ

Lysimachiaacroadenia Maxim.
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

本州～九州に分布。県内ではおおい町、小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、南越前町、永平寺町、池田町、福井市、大野市での記録がある。

種の特徴

山地の溪畔や林床等湿り気のある所に生える多年草。高さ30～70cm、茎は直立し上部で分枝する。葉は広披針形または狭卵形、下部は狭まり翼のある柄になる。6～7月、枝先の総状花序に小さな花を10～30個つける。花冠は赤みを帯びた白色で5裂し、全開しない。

生育を脅かす要因

森林開発、森林伐採。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○						○	○

ハクサンゴザクラ

Primula cuneifolia Ledeb. var. *hakusanensis* (Franch.) Makino
サクラソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

種の特徴

亜高山～高山の湿地や雪田の融雪地に分布する多年草。葉はやや多肉質で根茎に束生する。葉身は倒卵状くさび形、上部にふぞろいのとがった鋸歯がある。7月頃、高さ5～15cmの花茎を伸ばし3～6個の花を散形につける。花冠は紅紫色で径約2cm、深く5裂する。

分布

本州（飯豊山～白山までの日本海側の亜高山帯～高山帯）。県内では大野市での記録がある。

生育を脅かす要因

園芸採取、踏圧。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ガンコウラン

Empetrum nigrum L. var. *japonicum* K. Koch
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山帯に限られているため、絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山に生える常緑の小低木。茎は細く、地をはい、多くの枝にわかれ、密に葉をつけてマット状となる。葉は互生し、革質、線形。雌雄異株。5～6月頃、葉腋に花を1個ずつつける。果実は球形の液果で黒色、直径6～10mm。

分布

北海道～本州（中部以北）に分布。県内では、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

シラタマノキ

Gaultheria miqueliana Takeda
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山帯に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

深山の日当たりのよい乾いた岩地に生える常緑の小低木。茎は地をはい、上部は斜上して高さ10～20cm。葉は互生して革質、楕円形で、裏面は白みを帯びる。6～7月頃、茎の上部の葉腋や枝の先から2～6個の花をつける。果実は球形、白色で、径約1cm。

分布

北海道～本州（中部以北および伯耆大山）に分布。県内では、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会編（1999）
福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ツガザクラ

Phyllodoce nipponica Makino
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山の岩場に生える。高さ10～20cm。葉は線形で縁にまばらな微鋸歯がある。7～8月頃、枝先に2～6個の横向きの花をつける。萼片は紅紫色、卵形または広披針形、微毛と腺毛が生える。花冠は鐘形で淡紅色。

分布

本州（東北地方中部～伯耆大山）、四国に分布。県内では、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の環境の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会編（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ハクサンシャクナゲ

Rhododendron brachycarpum D.Don ex G.Don
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は7箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が高山に限られており、園芸目的で採集される恐れが高いため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

亜高山、高山に生える常緑低木。高さ1～2m。若枝には露滴状毛が散生する。葉は革質、表面は無毛、裏面は露滴状毛が密生する。7～8月上旬頃、枝先に短い総状花序を伸ばし、5～15個の花をつける。花冠は白色で赤みを帯びる。

分布

北海道、本州（中北部）、四国に分布。県内では、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の環境の変化。温暖化による生育地の減少。園芸目的の採取。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県植物研究会編（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ヒメウスノキ

Vaccinium yatabei Makino
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は8箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山や局所的に冷涼な環境に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

亜高山に生える落葉低木。地下茎を伸ばして広がり、高さ10～30cmになる。茎は緑色で稜が目立ち、無毛。葉は薄く、先は尖り、縁に鉤状に曲がった鋸歯がある。5～6月頃、新枝の基部に1個の花をつける。花冠はつぼ形。果実は赤熟する。

分布

北海道、本州（中北部）、四国に分布。県内では、小浜市、あわら市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の環境の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔（1989b）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○								○		○	○	

オヤマリンドウ

Gentiana makinoi Kusn.
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1山域のみである。

分布

中部地方以北の亜高山帯に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

亜高山帯の湿原や草地に生える多年生草本。日本の特産種である。葉の形は広披針形で、10～20対が互生する。根茎は太く、株から複数の茎が直立し、高さ60cm程度となる。茎の先端部に、長さ2～3cmの複数の濃紫色の花をつける。花期は8～9月。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、生育環境が脆弱であるため、環境の変化により生育が脅かされる。また、温暖化や自然遷移の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 北村四郎ほか（1957）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミヤマリンドウ

Gentiana nipponica Maxim.
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1山域のみで、個体数も少ない。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

種の特徴

高山の湿った所に生える多年生草本。茎は基部が長く這い、茎先が立ち上がり、高さは5～10cmになる。茎はやや赤紫色を帯びる。葉は茎に対生し、葉の形は小型の卵状長楕円形で、やや厚め。花期は7～9月で、茎の上部に青紫色の花を4個ほどつける。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、生育環境が脆弱であるため、環境の変化により生育が脅かされる。また、温暖化や自然遷移の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

アイナエ

Mitrasacme pygmaea R.Br.
マチン科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の開発などによる生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い暖地の低湿地に生える小さな一年草。茎は短く、花茎を除いて高さ0.5～1cm、葉は2～4対付き、長さ7～15mm、幅3～6mm。8～9月頃、茎頂と葉腋から高さ2～10cmの花茎を1～3本伸ばし、1～3段になって3～15個の白色の花を散形状に付ける。

生育を脅かす要因

湿地開発や植生遷移等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○										○	○				○

コイケマ

Cynanchum wilfordii (Maxim.) Hook.f.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】－

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は10箇所以下で、生育地、個体数とも少ない。

種の特徴

山地の森林の林縁や草地に生えるつる性の多年草。葉は対生し心円形で先は尖り、葉柄は3～6cm、葉腋から葉柄と同長か短い散形花序を出す。花冠は白色で5深裂する。裂片は半開で反り返らず蕾のように見える。副花冠は淡黄色。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では美浜町、越前市、南越前町、坂井市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事等の開発により生育地の消失、また自然遷移の進行が生育地、個体数とも減少させている要因となっている。

参考文献 奥田重俊編（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○				○			○	○				○	

キジョラン

Marsdenia tomentosa C.Morren et Decne.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】－

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は2箇所、生育地、個体数とも少ない。

種の特徴

常緑広葉樹林に生える常緑のつる植物。葉は対生し、卵円形で大きく、上面は無毛で光沢がある。花期は8～9月。花は葉腋から出て、短い柄の先に散形の花序をつける。個々の花は白で、小さい。花に対して果実は大きく、楕円形で長さ13～15cm。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では若狭町で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限。自然遷移の進行が生育地、個体数とも減少させている要因となっている。

参考文献 奥田重俊編（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

コカモメヅル

Tylophora floribunda Miq.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】－

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は5箇所。生育地、生育個体数とも限られている。

種の特徴

山地の草地に生えるつる性の多年生草本。茎は細長くつる状に伸びる。葉には柄があり対生、3角状の卵形～卵状披針形。夏に葉腋に短い花柄を出し、暗紫色のこまかな花をつける。

分布

本州～九州に分布する。県内ではおおい町、小浜市、敦賀市、あわら市、永平寺町、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

本種は草刈の行き届いたような草地に自生していることが多いが、近年放置されて自然遷移も進んでいる。

参考文献 北村四郎ほか（1964）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○				○			○			○	

スズサイコ

Vincetoxicum pycnostelma Kitag.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

日当たりの良いススキ草原に生えるが、開発によって生育環境が消失し、自然遷移も進んで個体数も極めて少なくなっている。

種の特徴

日当たりのよいやや乾いた草地に生える多年生草本。茎は細く、直立して高さ 40～100 cm。披針形～線形の葉をまばらに対生し、7～8月、上部の節から花序をだし、枝分かれして淡黄緑色の小さな花を多数咲かせる。種子には長い毛があり、風で飛び散る。

分布

北海道～九州に分布する。県内では若狭町、越前町、あわら市、越前市、福井市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

草地開発、道路工事等の開発による生育地の消失、また自然遷移の進行が生育地、個体数とも減少させている。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○					○	○		○	○	○

シオジ

Fraxinus platypoda Oliv.
モクセイ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で現在知られている生育地は、2地区のみで個体数も少ない。

種の特徴

山地の谷間に生える落葉高木。小枝は太く、灰黄褐色で無毛。葉は7～11小葉からなる奇数羽状複葉で長さ25～35 cm、葉柄基部は著しくふくらむ。花は4～5月に開き、花冠がない。翼果は狭長楕円形、長さ3～5 cm、幅8～15 mm、下垂する。

分布

本州（関東以西）、四国に分布する。県内では勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、森林伐採。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ミズハコベ

Callitriche palustris L.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育環境であった湿田等が激減している。

種の特徴

浅い水中や湿った陸上に生える一年草。茎は分枝しながら伸び、葉をまばらにつける。葉は対生し、水中葉と水上葉の区別がある。花期は長く、5～11月。葉腋に1花をつける。

分布

北海道～琉球に分布し、県内一円で確認されている。

生育を脅かす要因

水田の乾田化、湿地の開発。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○					○	○	○			○	○

ヒメクワガタ

Veronica nipponica Makino ex Furumi
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の亜高山帯にのみ生育する。

分 布

中部地方の日本海側～東北地方に分布し、県内では奥越の亜高山帯で見られる。

種の特徴

高山の草地に生える多年草。茎は直立して高さ7～14cm、白毛がまばらにある。葉は対生して無柄、卵状楕円形で両面に白毛がある。花期は7～8月、茎の先に淡紅紫色の花を数個つける。

生育を脅かす要因

産地局限、登山者による踏圧。

参考文献 福井県植物研究会（2001）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
																	○	

エチゴトラノオ

Veronica ovata Nakai subsp. *maritima* (Nakai) Albach
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が越前海岸の一部に限られる。

分 布

東北地方～北陸地方の日本海側に分布し、県内では越前町、福井市に見られる。

種の特徴

海岸の草地に生える多年草。茎は高さ50～100cm。葉は対生し、狭卵形、表面につやがある。花期は8～9月。茎の先端に伸びる10～20cmの総状花序に青紫色の花をつける。

生育を脅かす要因

産地局限、園芸採取、海岸開発。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
							○											○

カワヂシャ

Veronica undulata Wall.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

生育環境が限られ、個体数も少ない。オオカワヂシャ（特定外来生物）の侵入による遺伝子汚染の恐れもある。

分 布

本州（中部地方以西）～琉球に分布し、県内一円で広く確認例がある。

種の特徴

川岸等の湿地に生える一年草～越年草。茎は高さ10～50cmで直立～斜上する。葉は対生し、披針形～長楕円状披針形。花期は5～6月。葉腋から花序を出し、淡紅紫色の花を15～50個つける。

生育を脅かす要因

河川敷や湿地の開発、オオカワヂシャの侵入による遺伝子汚染。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○				○					○	○	○

フジウツギ

Buddleja japonica Hemsl.
ゴマノハグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地点のみである。

分布

本州、四国に分布する。県内では嶺南地方で確認される。

種の特徴

山地の崩壊地や川原等に生育する落葉低木。樹高1.5m。枝に翼状の4稜がある。葉は単葉で対生。葉身は披針形～卵状披針形。葉の表面は緑色、裏面は淡緑色。裏面に毛が多い。葉縁は歯牙または全縁。枝先に垂れ下がった円錐花序を出し、赤紫色の花を多数つける。

生育を脅かす要因

産地局限、山地・川原の開発が生育を脅かす。

参考文献 奥田重俊編（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

ミソガワソウ

Nepeta subsessilis Maxim.
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

北海道、本州、四国に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

亜高山の草原に生える多年草。茎は直立し、高さ50～100cm、細毛がある。葉は対生し、長さ6～14cm、幅2.5～8cm、両面にまばらに毛があり、2～10mmの葉柄がある。7～8月頃、密な花穂を頂生し、花冠は長さ25～30mm、唇形で、ふつう紫色、まれに白色。

生育を脅かす要因

産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○															○	

シソバツナミ

Scutellaria laeteviolacea Koidz.
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林伐採等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

本州（福島県以西）～九州に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地のやや湿った林内に生える多年草。根茎は細くて横に這い、茎は直立し高さ5～15cm、稜上には上向きに曲がった毛がある。葉は2～4対あり、長さ1.5～4cm、幅1～2.5cm、先の方に曲がった毛が両面に生える。5～6月頃、1～6cmの花序に紫色の花が付く。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○		○						○	○	

ホナガタツナミソウ

Scutellaria laeteviolacea Koidz. var. *maekawae* (H.Hara) H.Hara
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林伐採等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

本州（福島県以西）に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地のやや湿った林内に生える多年草。茎は直立し高さ7～20 cm、下向きに曲がった白毛がある。葉は茎の下部に集まる傾向があり、上にいくにしたがって小さくなり、1～3 cmの葉柄がある。葉は長さ1.5～7 cm、幅1.4～4 cm。6月、2～8 cmの花序に紫色の花が付く。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

スズメノハコベ

Microcarpaea minima (J.Koenig ex Retz.) Merr.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の開発等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

湿地に生える小さな一年草。茎は細長く長さ5～20 cm、多くの枝にわかれて匍匐し、節ごとに細い根と小さな葉を出す。葉は対生し柄がなく、長さ2～5 mm、幅1～2 mm。7～10月頃、葉腋に小さな花を付ける。花は淡紅色で長さ2 mm。

生育を脅かす要因

湿地開発等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

ヨツバシオガマ

Pedicularis chamissonis Steven var. *japonica* (Miq.) Maxim.
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布が局限し、生育地、個体数とも極めて少ない。これまで1山域にしか確認されていない。

分布

北海道～本州（中部地方以北）の高山帯に生育している。県内では奥越地方に自生する。

種の特徴

高山帯の草地に生える多年生草本。茎は根元から2～3本枝に分かれて直立する。葉が茎の節ごとに4つずつ輪生する。花期は7～8月で、薄紫色の太くて短い花弁が数段に重なり輪生する。

生育を脅かす要因

産地の局限と温暖化や自然遷移の進行が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

エゾシオガマ

Pedicularis yezoensis Maxim.
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1山域のみで、個体数も少ない。

種の特徴

高山帯に生育する多年生草本。茎は無毛で、根元から数本が枝分かれして直立する。葉は互生し三角披針形。8～9月、上部の葉腋に1個ずつ、黄白色の唇形花をつける。

分布

北海道～本州（中部地方以北）の高山帯に生育している。県内では奥越地方で確認されている。

生育を脅かす要因

産地の局限と温暖化、自然遷移の進行が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒキヨモギ

Siphonostegia chinensis Benth. ex Hook. et Arn.
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育域は開発の影響を受けやすく、近年生育条件が悪化傾向にあり、生育地、個体数とも減少している。

種の特徴

低山の日当たりのよい草地に生育する一年生草本。茎は直立し、枝分かれし、深くさけた葉を対生する。8月頃に葉腋に鮮やかな黄色い花を付ける。花は唇型で下側が大きく、萼は筒状で5つに裂け、雄しべ4本のうち2本が長い。

分布

北海道～九州に分布する。県内一円で確認例がある。

生育を脅かす要因

人間の生活域に近い所に分布するため生育地は土地造成の開発の対象となりやすい。また自然遷移の進行も生育地が減少する要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○					○	○				○	

オオヒキヨモギ

Siphonostegia laeta S.Moore
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育域は開発の影響を受けやすく、生育条件が悪化傾向にあり、生育地、個体数とも減少している。

種の特徴

低地のやや乾いた草地に生える一年生草本。茎は斜上し、全体に開出した腺毛がはえる。葉は下部で対生、上部で互生し葉柄に翼がある。下部の葉は羽状に深裂するが、上部ではほぼ全縁となる。花冠の上唇に先端に紅斑がある。

分布

本州（関東～中国地方）、四国（瀬戸内海側）に分布する。県内では主に嶺南に分布する。

生育を脅かす要因

人間の生活域に近い所に分布するため生育地は土地造成の開発の対象となりやすい。また自然遷移の進行による環境の変化が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○	○					○					

ユキミバナ

Strobilanthes wakasana Wakasugi et Naruh.
キツネノマゴ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

本州（福井県、滋賀県）に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

低地～低い山地の森林の林縁や疎林下に生える常緑多年草。群生することが多い。茎は匍匐し、花茎は10～30cm。葉は対生し、菱形状楕円形。9～12月頃、花茎の上部の葉腋に、唇形で淡青紫色の花を付ける。花は、朝咲いて夕方にはしおれる一日花。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、畔上能力（1996）、若杉孝生・鳴橋直弘（1993）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○												

クロガネモチ

Ilex rotunda Thunb.
モチノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

庭木としてしばしば植栽される。本県を分布の西限とし、確認されている生育地は1地区のみと極めて少ないので絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（関東、福井県以西）～九州に分布する。県内ではおおい町で確認されている。

種の特徴

常緑広葉樹林内に生える高木。若枝は黒紫色で無毛。葉柄は黒紫色で長さ1.5～2cm。葉身は革質、楕円形で両端が尖り、長さ6～10cm、幅2.5～4cm、鋸歯はなく、両面無毛。花は6月。雌雄異株。種子は平たい三角状長楕円形で長さ約5mm。

生育を脅かす要因

森林伐採、園芸採取。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○															

ヒメシャジン

Adenophora nikoensis Franch. et Sav.
キキョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

本州（中部地方以北）に分布。県内では福井市、大野市での記録がある。

種の特徴

亜高山帯～高山帯の半日陰の岩場やれき地に生育する多年生草本。茎は直立し、高さ20～40cm。葉は披針形または狭長楕円形で鋸歯がある。花は8～9月、茎頂に数個が総状花序につく。花冠は鐘形、紫色で長さ1.5～2.5cm。

生育を脅かす要因

園芸採取、生育地へのシカの分布拡大による食害。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

センボンギク

Aster microcephalus (Miq.) Franch. et Sav. var. *microcephalus*
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

溪流植物の一種で、生育地・個体数ともに少ない。

分 布

国内では（中部地方以西）～九州に分布する。大野市。

種の特徴

ノコンギクの基準変種で葉が狭披針形、深山の溪流沿いに自生する。

生育を脅かす要因

環境の変化を受けやすく、また園芸用に利用される。

参考文献 加藤雅啓・海老原淳（2011）、奥山春季（1984）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ワカサハマギク

Chrysanthemum wakasaense Shimot. ex Kitam.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

越前海岸を中心に日本海沿岸の福井～鳥取間に分布するが、本県では海岸の環境が大きく変わり、自然の岩場や砂礫地がほとんどなくなり、個体数が激減している。

分 布

国内では福井県～鳥取県の日本海側に分布する。福井市～高浜町に至る海岸沿いと、多少内陸に入った山地に分布する。

種の特徴

山地性のリュウノウギクに似ているが、やや大型で、葉や頭花、それに総苞片もリュウノウギクに比して大きい。花は白だが、のちに淡紅をおびることがある。リュウノウギクの染色体は $2n=18$ で、ワカサハマギクは $2n=36$ の倍数体であるという。

生育を脅かす要因

海岸開発。（駐車場、海水浴場、営業施設の造成等）

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、加藤雅啓・海老原淳（2011）、矢原徹一ほか（2015）、林弥栄・平野隆久（2013）、福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○	○	○									○

イワギク

Chrysanthemum zawadskii Herbach subsp. *latilobum* (Maxim.) Kitag. var. *dissectum* (Y.Ling) Kitag.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

本県では産地・個体数とも極めて少ない。

分 布

国内では点々と生育地が見つかり、隔離分布の遺存状態と考えられる。大野市、勝山市。

種の特徴

山地の岩場等に根を伸ばし、茎は高さ 10～60 cmほどになる。葉は広卵形、長さ 1～3.5 cm、2 回羽状に深裂、腺点がある。花は白色で枝先に単生、茎 3～5 cm、総苞片は線形で 3 列。背部の毛は少ない。

生育を脅かす要因

登山道の整備等。

参考文献 林弥栄・平野隆久（2013）、矢原徹一ほか（2015）、若杉孝生（2008a）、佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）、奥山春季（1984）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

タチアザミ

Cirsium inundatum Makino
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地の確認は2～3箇所にすぎず、また生育数も少ない。

種の特徴

山地のやや湿っぽい所や山道の周辺等に生える。茎は1.5～2m、茎葉は長楕円形で鋸歯縁、ほとんど分裂しないが、ときに羽状に分裂するものもある。頭花は紅紫色でよく目立つ。総苞片は5列、外片は線形、直立～斜上する。

分布

国内では、北海道～本州（北部、中部）に分布する。本県では坂井市や南越前町等に見られる。

生育を脅かす要因

道路改修や用水路周辺の改変等に弱い。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、佐竹義輔ほか（1982b）、畔上能力ほか（2013）、奥山春季（1983）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○			○		○			○	

タテヤマアザミ

Cirsium otayae Kitam.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は奥越の一部の山地に限られており、生育数もそれほど多くはない。

種の特徴

亜高山～高山帯の草原に生え、茎は高さ50～100cmほどになる。葉は長さ10～20cm、幅5～8cm。楕円状披針形、羽状に分裂することもある。頭花は横向きにつき、総苞は2.5～3.5cm。総苞片は6～7列、披針形で先は尖り、反曲する。

分布

国内では中部地方西部の高山～亜高山帯に分布する。大野市。

生育を脅かす要因

登山道の整備、植生遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、清水建美ほか（2014）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ノニガナ

Ixeris polycephala Cass.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では生育地、個体数が少ない。

種の特徴

ニガナに似るが、茎葉の基部は矢じり形となり、茎を抱く特徴がある。根生葉は縁に鋸歯がないものから羽状に分裂するものまで変異が大きい。

分布

国内では本州～九州に分布する。大野市。

生育を脅かす要因

開発等による生育環境の破壊など。

参考文献 林弥栄・平野隆久（2013）、奥山春季（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	

ミネウスユキソウ

Leontopodium japonicum Miq. var. *shiroumense* Nakai ex Kitam.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少ない。

分布

国内では本州中部以北の亜高山～高山帯に分布する。大野市。

種の特徴

ウスユキソウに似るが、全体が小さく、茎葉は2～4 cm、披針形で先はあまり尖らない。花茎の先に数個の頭花をつける。頭花の柄はほとんどないか、あってもごく短い。

生育を脅かす要因

登山道の整備、植生遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、豊国秀夫（1988）、清水建美ほか（2014）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ネコノシタ

Melanthera prostrata (Hemsl.) W.L.Wagner et H.Rob.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

海岸砂浜の踏みつけや開発による砂浜の減少。

分布

国内では本州（関東及び北陸以西）～琉球に分布する。坂井市、福井市、高浜町。

種の特徴

海岸の砂中に地下茎を伸ばし、多くの枝を地上に広げる。葉は楕円形～卵状楕円形。長さ1.5～3.5 cm、縁に鋸歯があり、両面は短剛毛があつてざらつく。黄色の頭花を茎頂に1個つけ、径2 cmほど。総苞は半球形。

生育を脅かす要因

海岸の開発による砂浜の減少。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、林弥栄・平野隆久（2013）、佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○								○						○

カシワバハグマ

Pertya robusta (Maxim.) Makino
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともに少ない。

分布

国内では本州～九州に分布する。敦賀市、若狭町。

種の特徴

茎は直立し分岐しない。高さ40～70 cm。葉は卵状長楕円形で茎の中央部に数個つく。葉の縁には粗い鋸歯がある。頭花は茎の先に穂状につき、総苞は筒状、総苞片の外片は卵形、内片は長楕円形となる。

生育を脅かす要因

山林の開発等。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、畔上能力ほか（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○		○									

キビシロタンポポ

Taraxacum hideoi Nakai ex H.Koidz.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数は少ない。

分布

国内では、岡山、広島、愛知の各県に分布する。若狭町、小浜市。

種の特徴

シロバナタンポポに似るが、頭花は淡黄色～白黄色、総苞外片は卵状長楕円形～楕円形、圧着して反り返らない。長さは内片のほぼ1/2、縁は膜質、うすく紅紫色をおびることがある。小さな角状突起があることがあるが、シロバナタンポポよりはるかに小さい。

生育を脅かす要因

道路の拡張、植生の遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○												

オオバチドメ

Hydrocotyle javanica Thunb.
ウコギ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は8箇所である。県内での生育地が限られており、個体数も少ないため、絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州（関東以西）～九州に分布。県内では、福井市、小浜市、おおい町で確認されている。

種の特徴

山地のやや湿った林中に生える多年草。主茎は地をはい、斜上する枝に花序をつける。葉は大きく、直径3～6cm、表面に毛があり、掌状にごく浅く切れ込む。7～10月頃、枝の葉腋から1～数個の花序を出し、花は球状に集まる。果実は平たい球形。

生育を脅かす要因

生育地の森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。獣害の影響も新たな脅威となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○												○

ハクサンサイコ

Bupleurum nipponicum Koso-Pol.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、絶滅危惧Ⅱ類とした。

分布

本州中北部に分布する。県内では、大野市で確認されている。

種の特徴

高山・亜高山の草地に生える多年草。全草は青白色を帯びる。細く伸びる根茎があり、茎は直立し、高さ20～60cm。上部の茎葉は長卵形で、基部は広がって茎を抱く。8月頃、茎頂や枝先に複散形花序をつける。総苞片は大きく、2～3個。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハクサンボウフウ

Peucedanum multivittatum Maxim.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山帯の草地に生える多年草。茎は直立し、高さ30～90cm。葉は3出、単羽状、または1～2回3出複葉で、側小葉は無柄、小葉は広披針形～広卵形で、あらい鋸歯があり、不規則に細裂する。果実は長楕円形で、油管は各背溝下。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

イワセントウソウ

Pternopetalum tanakae (Franch. et Sav.) Hand.-Mazz.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

深山の日陰の湿った場所を好む小さい多年草。細長い地下茎がある。茎は単一、高さ10～30cm。枝を出さない。根出葉は長い柄があり、2～3回3出羽状複葉、茎葉は1個で、ふつう単羽状複葉。5～6月頃、1個の複散形花序を頂部につける。

分布

本州～九州に分布。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

シラネニンジン

Tilingia ajanensis Regel
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山の岩石地に生える多年草。茎は直立し、上部は分枝し、高さは10～30cmになる。葉は3出とならず2～3回羽状複葉をなし、小葉の裂片は卵形～線形。分果の油管は各背溝下に1個、合生面に2個。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミヤマウイキョウ

Tilingia tachiroei (Franch. et Sav.) Kitag.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山に限られているため、県域絶滅危惧Ⅱ類とした。

種の特徴

高山の岩石地に生える多年草。茎は直立し、上部は分枝し、高さは10～30cmになる。葉は有柄、1～4回3出複葉で、小葉の裂片は狭線形で幅0.5～1mm、全体無毛。分果の油管は各背溝下に1個、合生面に2個。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ヒモカズラ

Selaginella shakotanensis (Franch. ex Takeda) Miyabe et Kudô
イワヒバ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地に限られる。陽地の岩上に着生するため、森林化すると消失する。園芸採集のおそれもある。

種の特徴

山地の岩場に生育する常緑性のシダ植物。茎は匍匐し、長さ約10cm、よく分枝する。葉は濃緑色、茎に螺旋状につく。葉の先には毛状突起がある。胞子嚢穂は小枝に頂生し、胞子葉は4列に並ぶ。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺南西側、嶺北では丹南、奥越などに点在する。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移、園芸採取。

参考文献 岩槻邦男（1992）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○					○		○		○			○	○	

ナガホノナツノハナワラビ

Botrychium strictum Underw.
ハナヤスリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地に限られている。特に近年個体数の減少が目立ってきた。園芸目的の採集が見られるので、要注目から県域準絶滅危惧とする。

種の特徴

夏緑性のシダ類。山地のやや湿った林床に生育。葉は二形性で、栄養葉と胞子葉をもつ。高さは同程度。栄養葉は水平に開き、3回羽状で胞子葉は2～3回羽状で幅狭く棒状。やや稀に生育。

分布

全国分布は北海道～九州まで。県内では嶺北地方で4箇所、嶺南地方に1箇所生育。

生育を脅かす要因

開発、森林伐採、採取圧、環境悪化。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○									○			○	○	○

クモノシダ

Asplenium ruprechtii Sa.Kurata
チャセンシダ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で知られている生育地は9箇所、石灰岩が分布している地域である。岩石のすき間に根をはり生えている。地形の改変、採取圧等で減少している。

種の特徴

常緑性で石灰岩のすき間に根をはる。葉は単葉で狭い披針形。葉の先は細くなって糸状に伸び先端から芽を出す。胞子嚢群は中肋の両側に不規則につく。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市、美浜町。

生育を脅かす要因

道路造成、採取圧、植生遷移。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1981)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○												○	

コモチシダ

Woodwardia orientalis Sw.
シシガシラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で知られている生育地は10箇所である。どの生育地も川岸や海岸等岸壁で生育環境が厳しく不安定である。

種の特徴

葉柄は太く、長さ約50cmで多くの鱗片をつける。葉身は2回羽状中裂、広卵形で葉柄より長い。葉の表面から多くの無性芽を出す。胞子嚢群は厚い包膜につつまれ、羽片軸にそって両側につく。長さ2mになる。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布はおおい町、美浜町、小浜市、敦賀市、福井市、勝山市、大野市。

生育を脅かす要因

日当たりのよい岸壁に生育するため道路工事等で減少する。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1987)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○	○									○	○	○

オオメシダ

Deparia pterorachis (H.Christ) M.Kato
イワテンダ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の生育確認地は8箇所あるが、ほとんど深山の湿った林床や渓流沿いであるため、あまり個体数の変化がないが、林道沿いの2箇所は減少しつつある。

種の特徴

深山の林床や渓流沿いに生育する大型のシダ。葉柄は長さ30～80cmで太い。葉身は2回羽状深裂し、長さは50～100cmで、幅は20～40cm。胞子嚢群は長楕円形、まれにJ型で小羽軸沿いに並ぶ。

分布

全国分布は北海道～本州。県内分布は大野市、勝山市。

生育を脅かす要因

深山の林床や渓流沿いに生育する。人間による踏みつけ、道路工事等で減少するおそれがある。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1990)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ヒメコマツ

Pinus parviflora Siebold et Zucc. var. *parviflora*
マツ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では2地区での生育が確認されている。キタゴヨウとは生育地を異にし、今回新たに準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地に生える常緑高木。樹皮は暗灰色で不ぞろいの薄い鱗片になってはがれる。冬芽は先が尖る。葉は5本、短枝上に束生し、針形で多少ねじれ、長さ3～6cm。花は5月、毬果は翌年10月に熟し、卵状楕円形。種子は倒卵形、翼は種子本体より短く、折れやすい。

分布

北海道（南部）～九州に分布する。県内では小浜市、おおい町で確認されている。

生育を脅かす要因

自然遷移、園芸採取。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○												

ハイマツ

Pinus pumila (Pall.) Regel
マツ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では亜高山帯に分布する常緑の低木。生育地、個体数とも限定されるので新たに準絶滅危惧とした。

種の特徴

常緑の低木で、幹はよく分枝し、長く地を這って高さはふつう1～2m。樹皮は暗褐色で薄くはがれる。冬芽は卵円形、赤褐色で披針形の鱗片におおわれる。花は6～7月。毬果は翌年に成熟し、柄はごく短い。種子は3角状倒卵形で長さ8mm内外、翼はない。

分布

北海道～本州（中北部）に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

キャラボク

Taxus cuspidata Siebold et Zucc. var. *nana* Hort. ex Rehder
イチイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は15箇所である。県内での生育地は深山に限られており、生育基盤も脆弱なため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

深山に生える常緑低木。イチイの変種。イチイに比べ、幹の基部は地に伏し、横枝を広げ、高さは1～2mと低く、葉はやや幅が広く、らせん状に互生するが、ほとんど2列に並ばない。

分布

本州の日本海側（山形県～鳥取県）に分布。県内では、勝山市、大野市、永平寺町、池田町、南越前町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の環境の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔（1989a）、福井県植物研究会編（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○	○					○	○	

ジュンサイ

Brasenia schreberi J.F.Gmel.
ジュンサイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

池沼開発や水質の悪化等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

水質がやや酸性に偏り、ミズゴケがよく生え、底に有機物の堆積した古い池に生える多年草。根茎は泥中を横に這う。葉は水面に浮かぶ。葉は径5～10cm、裏面は紫色を帯びる。6～8月頃、径約2cmの花が水面で開く。花柄は長い。若芽は粘質物に被われている。

生育を脅かす要因

池沼開発や水質汚濁等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○				○		○		○	○	○

コウホネ

Nuphar japonica DC.
スイレン科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

河川、用水路の改修により減少がいちじるしい。

分布

北海道（南西部）～九州に分布。県内では高浜町、小浜市、若狭町、敦賀市、越前町、あわら市、越前市、鯖江市、坂井市、福井市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

浅い池沼、細流等に群生する抽水性の多年草。横走する地下茎は白く、根出葉を束生させる。葉は気中葉で長さ20～30cmの長楕円形で基部は矢尻形、水中葉と水上葉とが分化する。6～9月に根出した花柄が水上に伸び、黄色い5枚の萼片を持つ径4～5cmの花を開く。

生育を脅かす要因

河川改修、湿地開発、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○		○	○	○				○	○	○	○	○	○	○

ヒツジグサ

Nymphaea tetragona Georgi
スイレン科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の消失や、生育環境の悪化により減少している。

分布

北海道～九州に分布。県内では美浜町、敦賀市、越前町、あわら市、越前市での記録がある。

種の特徴

水位の浅い池沼に群生する多年生の浮葉植物。地下茎は太く短い。葉は根生し、幅の広い矢尻形の水中葉と楕円形～卵円形の浮葉を広げる。花期は6～9月、8～15枚の白い花弁を持つ直径3～7cmの花を水面に開く。果実は水中で成熟する。

生育を脅かす要因

湿地開発、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○	○					○	○				

ヒメザゼンソウ

Symplocarpus nipponicus Makino
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られ、個体数も少ない。

分布

北海道～本州（日本海側）に分布する。県内では嶺南と奥越に分布し、産地が限られる。

種の特徴

森林の林縁や道ばたの湿地にはえる多年生草本。早春に葉をだす。葉は根生して長い柄があり、長卵状心形または卵状長楕円形。葉が展開した後、花序をだす。花序を覆う仏炎苞は暗紫褐色で、長さ約4 cm、卵円形で肉厚。花期は6月。

生育を脅かす要因

林道の新設・拡幅等の開発工事による生育環境の破壊が生育を脅かす要因となる。またマニアによる園芸採取の対象となりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○									○	○	

ヤナギスブタ

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke
トチカガミ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育環境が用水路や浅い池等の湿地に限定され、水辺の開発や管理放棄の影響を受けやすい。

分布

本州～琉球に分布し、県内一円で記録がある。

種の特徴

水田や溝に生える一年生の沈水植物。茎はよく分枝し、長さ30 cmほど、下部の節から根を出す。葉は互生し、長さ3～5 cm、幅2～3 mm、細かい鋸歯がある。花期は8～10月。花弁は3個、細長く、白色。

生育を脅かす要因

湿地の開発や管理放棄による遷移の進行。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○			○		○	○			○	○

ササバモ

Potamogeton wrightii Morong
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布域において生育環境が変化して、生育地、個体数とも減少している。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内一円に分布する。

種の特徴

湖沼、河川、用水路に生育する沈水性の多年生草本。茎は円形で、葉は互生。沈水葉は長楕円状線形～狭披針形。葉先は鋭く、葉縁には鋸歯がある。花期は6～10月。花茎は長さ4～11 cm。水が引いた場合は陸上でも生育する。冬には地下茎の先端に殖芽を形成して越冬する。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川改修工事が生育地、個体数とも減少させている。水田付近の生育地は著しく減少した。また自然遷移も進んでいる。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○				○				○	○	○		○	○	○

ソクシンラン

Aletris spicata (Thunb.) Franch.
キンコウカ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の記録があるものの、近年生育地や個体数の確認情報が少ない。

種の特徴

日当たりのよい草原や山麓に生える多年草で地下に短い根茎がある。根出葉は多数、線形で長さ 10～30 cm。花茎は高さ 30～50 cm。穂状花序は長さ 15～20 cm、4～6 月、多数の花がやや密につく。白色または淡紅色。蒴果は倒卵形で長さ 3～4 mm。

分 布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では高浜町、おおい町、小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、坂井市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○					○						

サルマメ

Smilax biflora Siebold ex Miq. var. *trinervula* (Miq.) Hatus. ex T.Koyama
サルトリイバラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が確認されているものの、個体数が少ない。

種の特徴

丘陵地や山地に生える低木。雌雄異株。茎はやや分枝、硬く緑色、稀に刺がある。高さは 30 cm 以下。葉は広楕円形、硬く、光沢があり、3 脈がはっきりしており、長さは 2～4 cm。巻ひげはほとんど発達しない。花期は 5 月。果実は液果で球形、赤く熟し径 8 mm 前後。

分 布

本州（関東地方以西）に分布する。県内ではおおい町、美浜町、敦賀市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

山地開発、自然遷移。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○		○									○	○	

ツバメオモト

Clintonia udensis Trautv. et C.A.Mey.
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の深山～亜高山にのみ分布し、個体数も少ない。

種の特徴

亜高山帯に生える多年草。葉は根生し、長さ 15～30 cm、倒卵状長楕円形。花期は 5～7 月、高さ 20～30 cm の花茎につく。果実は径 1 cm ほどで、熟すと濃藍色になる。

分 布

北海道～本州（奈良県以北）に分布し、県内では奥越の亜高山の他、やや標高が低い小原峠付近での記録もある。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献

 福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

タケシマラン

Streptopus streptopoides (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *japonicus* (Maxim.) Utech et Kawano
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の深山～亜高山に分布するが、個体数は多くない。

分布

本州（中北部）に分布し、県内では奥越の深山～亜高山に見られる。

種の特徴

山地に生える多年草。茎は高さ20～50cmで二又に分かれる。葉は4～10cm、卵状披針形。基部が茎を抱かないことでオオバタケシマランと区別できる。花期は6月頃、花被片は淡紅色で、先が反り返る。

生育を脅かす要因

森林伐採、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

コイチヨウラン

Ephippianthus schmidtii Rehb.f.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が嶺北の一部地域に限られており、個体数が少ない。今回の調査でも、生育地の確認ができたが、登山道の拡張、踏みつけや崩落等により、個体数は少なくなっている。

分布

国内では北海道、本州（中北部）、四国に分布。県内では嶺北の深山に生育している。

種の特徴

亜高山～高山の常緑針葉樹林下に生える。葉は1枚で広卵形、長さ1.5～3cm、幅1～2.5cm。長さ2～5cmの長柄がある。葉の表面は網状の脈が目立つ。花茎は高さ10～20cm。茎頂に数個の小花をつける。花は淡黄白色～淡黄緑色。

生育を脅かす要因

登山道工事による、生育環境の悪化や消失。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、大橋広好ほか（2015）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	

ノビネチドリ

Gymnadenia camtschatica (Cham.) Miyabe et Kudô
ラン科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が嶺北の一部地域に限られており、今回の調査でも、深山の生育地の確認ができたが、登山道の拡張、踏みつけや崩落等により、個体数は少なくなっている。

分布

国内では北海道、本州（中北部）、四国、九州に分布。県内では嶺北の深山に生育している。

種の特徴

深山の落葉広葉樹林下に生える。葉は5～10個で楕円形～狭長楕円形、長さ10cm。葉の表面は縦に隆起した脈がある。縁は波状に縮れる。花茎は高さ30～60cm。総状に多数の花をつける。花は淡紅紫色。

生育を脅かす要因

登山道工事による、生育環境の悪化や消失、園芸採取等。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、大橋広好ほか（2015）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○			○			○	○	

ゼンテイカ

Hemerocallis dumortieri C.Morren var. *esculenta* (Koidz.) Kitam. ex M.Matsuoka et M.Hotta

ススキノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では温帯上部～亜高山の草原に生育する多年草。温帯上部の岩場にも生育が確認されている。産地が限定されて、動物の食害も予想されるので県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

亜高山の草原に群生する多年草。葉は長さ 60～70 cm、幅 16～20 mm。花茎は高さ 60～80 cm。花は 7～8 月に開き、花序は 3～10 花。花筒は長さ 15～20 mm、花被片は長さ 6.5～8 cm。種子は黒色で卵形、長さ 5～6 mm。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布する。県内では南越前町、坂井市、池田町、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

園芸採取。ニホンジカ、ニホンカモシカによる食害。

参考文献 村田源ほか（1995）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○		○				○	○	

キチジョウソウ

Reineckea carnea (Andrews) Kunth

キジカクシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

カバープラントとして庭園にも植栽されることがある。生育環境の変化で個体数が少なく県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

林下に生え、根茎のある多年草。葉は根生し、線形で長さ 10～30 cm、柄がなく、濃緑色 3～5 脈がある。9～10 月、高さ 8～13 cm の花茎が立ち、淡紅紫色の花が穂状につく。液果は球形で径 6～9 mm。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では高浜町、おおい町、小浜市、若狭町、美浜町、越前市、鯖江市、坂井市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

園芸採取、森林伐採。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○						○	○		○			○

オモト

Rohdea japonica (Thunb.) Roth

キジカクシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

もともと個体数が少ない上に、常緑広葉樹林の減少とともに生育地が少なくなっている。観葉植物として採集が危惧されるので、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

温暖帯の林下に生える多年草。葉は厚い革質で光沢があり、披針形、広披針形、倒披針形で長さ 30～50 cm。5～7 月、高さ 10～20 cm の太い花茎が出て、多数の花が密生して穂状花序をつくる。液果は球形で径 6～9 mm、熟して朱色になる。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では小浜市、若狭町、敦賀市、越前町、あわら市、越前市、鯖江市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

土地開発、園芸採取。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○					○	○	○			○

ナガエミクリ

Sparganium japonicum Rothert
ガマ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

従来普通に見られたが、開発や河川改修等によって生育地、個体数とも減少した。

分布

本州～九州に分布。県内全域で局所的に分布している。

種の特徴

沼や河川に生える多年生草本。高さ 50～130 cm。葉は幅 8～14 mm。花期は 6～9 月。葉腋から出る枝の上部に雄頭花、下部に雌頭花をつける。雌頭花は 2～6 個あり、下部のものは 3 cm 程の柄がある。集合果は球形、直径 1.5～2 cm。

生育を脅かす要因

河川工事、湿地開発、水質汚濁。

参考文献 佐竹義輔ほか (1982a)、福井県植物研究会 (1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○	○	○				○	○		○	○	○

コガマ

Typha orientalis C.Presl
ガマ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】—

選定理由

近年、池沼の開発や、用水路改修工事等によって生育環境が損なわれている。

分布

本州～九州に分布。県内全域で局所的に分布する。

種の特徴

池や沼に生える多年生草本。茎は高さ 1～1.5m。葉は幅約 1 cm。花期は 6～8 月。茎の先に円柱形の花穂をつけ、雄花穂は長さ 3～9 cm、その下の雌花穂は長さ 6～10 cm。果実の基部には白毛があり、風で広がる。

生育を脅かす要因

湿地開発、自然遷移、土地造成。

参考文献 林弥栄ほか (2013)、福井県植物研究会 (1997)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○	○							○	○	○	○

ホシクサ

Eriocaulon cinereum R.Br.
ホシクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：— 【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内各地で確認されているが、個体数が減少している。水田環境が激変し、生育が危惧されるので、今回準絶滅危惧とした。

分布

本州～九州に分布する。県内全域で局所的に分布する。

種の特徴

湿地または乾いた水田等に生える無茎の一年草。葉は束生し、線形で長さは 3～8 cm、下部の幅 1～2 mm、3 脈がある。先はのみ形になる。花期は 8～9 月。花茎の高さは 4～15 cm で、肋はほとんどなく、ねじれない。種子は楕円形で、長さ約 0.4 mm。

生育を脅かす要因

土地開発、自然遷移。

参考文献 若杉孝生 (2008)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○

イトイヌノヒゲ

Eriocaulon decemflorum Maxim.
ホシクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内各地で確認されているが、山地の水環境は激変し生育が危惧される。個体数も減少しているため、県域今回準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地の湿所に生える一年草。根は白色のひげ状。茎はごく短く、根出葉は線形で長さ3～10 cm、3～9脈あり、格子状になり、先は著しく尖る。8～9月、高さ5～30 cmの花茎が出て、頂に花を付ける。種子は楕円形で長さ0.7～0.9 mm、表面にかぎ毛がある。

分布

北海道～九州に分布する。県内では若狭町、美浜町、敦賀市、越前町、あわら市、越前市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

山地開発、自然遷移。

参考文献 若杉孝生 (2008)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○					○	○		○	○	

ハナビゼキショウ

Juncus alatus Franch. et Sav.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

採集例が少ない上、生育地も湿地のため生育基盤が脆弱である。

種の特徴

湿地に生える多年草。茎は高さ20～40 cm、少し扁圧され翼がある。葉は剣状線形、幅4～5 mm。花期は5～7月。頭花は半球状で多数つく。

分布

本州～九州に分布し、県内では大野市、池田町、越前町、若狭町で古い記録があり、最近では永平寺町、坂井市で採集されている。

生育を脅かす要因

産地局限、遷移の進行、湿地開発。

参考文献 若杉孝生 (2008)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○		○	○	○					○	

タチコウガイゼキショウ

Juncus krameri Franch. et Sav.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

採集記録が4件しかなく、生育基盤も脆弱である。

種の特徴

湿地に生える多年草。茎は高さ30～60 cmで直立する。茎葉は円柱形、長さ10～20 cm、径1～2 mm。花期は8～10月。頭花は多数で、凹んだ集散花序をつくる。

分布

北海道～琉球に分布し、県内では福井市、越前市、あわら市で記録されている。

生育を脅かす要因

産地局限、遷移の進行、湿地開発。

参考文献 若杉孝生 (2008)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○	○				○

コウキヤガラ

Bolboschoenus koshevnikovii (Litv. ex Zinger) A.E.Kozhev. **カヤツリグサ科**

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は5箇所である。生育地、個体数ともに少ないので、県域準絶滅危惧とした。

分布

日本全土に分布。県内では嶺南、嶺北の海岸で確認されている。

種の特徴

海岸近くの湿地に生育する多年草。横走る根茎があり、先端に塊茎を作る。小穂は2個以上つける。柱頭は2岐。

生育を脅かす要因

海岸開発。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○													○

ハリガネスゲ

Carex capillacea Boott **カヤツリグサ科**

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は8箇所である。多くの生育地は丘陵地の小さい湿地に生え、個体数が減少しているため、県域準絶滅危惧とした。

分布

北海道、本州～九州に分布。県内では嶺南、嶺北の低地の小さい湿地で確認されている。

種の特徴

平地の湿地に生える多年草。茎は細いが硬い。有花茎は高さ20～40cm。果胞は熟して平開する。果胞の稜間には5～9脈がある。

生育を脅かす要因

湿地開発。林道の拡幅、新設。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○		○	○	

コハリスゲ

Carex hakonensis Franch. et Sav. **カヤツリグサ科**

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は3箇所であるが、個体数が多いので、県域準絶滅危惧とした。

分布

北海道～九州に分布。奥越の県境山地や嶺南で確認されている。

種の特徴

ブナ帯～亜高山帯の樹林内に生える多年草。ハリガネスゲより小型。果胞はほとんど無脈で、熟してもあまり膨らまない。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○									○	○	

シオクグ

Carex scabrifolia Steud.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所であるが、生育地の環境を勘定して、県域準絶滅危惧とした。

分布

北海道～南西諸島に分布。県内では嶺南と嶺北で1箇所ずつ確認されている。

種の特徴

海岸や河口の塩性湿地に生える多年草。まばらに生え、横走する長い根茎がある。果胞は乾くと灰褐色を帯びる。

生育を脅かす要因

海岸開発。河川改修。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												○

タカネシヨウジョウスケ

Carex blepharicarpa Franch. var. *dueensis* (Meinsh.) Akiyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は1箇所であるが、生育地の環境等を勘案して県域準絶滅危惧とした。

分布

北海道～本州（中部地方以北の高山）に分布。県内では嶺北の県境で確認されている。

種の特徴

シヨウジョウスケの高山型で、高山の岩場や草地に生え、全体に小型で叢生せず、雌鱗片は黒紫褐色である。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オニナルコスゲ

Carex vesicaria L.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は3箇所であるが、個体数はかなりあるので、県域準絶滅危惧とした。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺南、嶺北の湿地で確認されている。

種の特徴

湿地に生える多年草。基部の鞘は赤褐色、前面は糸網状に細裂する。頂小穂から2～3個は雄性で線形、2～4個の雌小穂は太く、黄緑色。

生育を脅かす要因

湿地の埋立。湿地周辺の森林伐採。

参考文献

福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○										○	

ノテンツキ

Fimbristylis complanata (Retz.) Link f. *exaltata* T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は4箇所である。各生育地とも個体数が減少しているため、県域準絶滅危惧とした。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い原野や湿った草地に生える多年草。有花茎は扁平で平滑、質は硬い。苞葉は花序より短い。

生育を脅かす要因

水田環境の悪化。除草剤の散布。農道の舗装等。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○			○	○	

タイワンヤマイ

Schoenoplectus wallichii (Nees) T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は15箇所であるが、水田環境の悪化等により各生育地とも個体数が減少しているため、県域準絶滅危惧とした。

分布

本州～九州に分布。嶺北、嶺南の湿田で確認されている。

種の特徴

休耕田や湿地に生える多年草。小穂は狭楕円形で先は尖り、刺針状花被片が瘦果の2倍程度に長く、柱頭は2岐する。

生育を脅かす要因

湿地開発。埋立。土地造成。水路改修。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○	○		○	○	○	○			○

コシンジュガヤ

Scleria parvula Steud.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は8箇所であるが、水田環境の悪化、除草剤の散布などにより個体数が減少しているため、県域準絶滅危惧とした。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北、嶺南で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い湿地や湿田に生える一年草。葉鞘には常に広い翼があり、瘦果の基盤は卵状楕円形で鋭頭となる。

生育を脅かす要因

水田の圃場整備。除草剤の散布。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○								○	○			○	

キケマン

Corydalis heterocarpa Siebold et Zucc. var. *japonica* (Franch. et Sav.) Ohwi
ケシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では海岸で確認され生育地は限定されている。海岸環境の激変で生育地、個体数ともに減少しているため、今回新たに準絶滅危惧とした。

種の特徴

海岸や低地の草地、荒地に生える。茎は高さ 40～80 cm になる。葉は 2～3 回複葉で、小葉は深裂する。花期は 4～6 月。茎の先端に長い総状花序を出し、黄色い花を多数つける。花は長さ 15～20 mm、距は短い。蒴果は狭披針形で、種子はほぼ 2 列に並ぶ。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では高浜町、おおい町、小浜市、若狭町、越前市、坂井市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

海岸開発、産地局限、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○						○	○					○

ナガミノツルケマン

Corydalis raddeana Regel
ケシ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

ツルケマンの変種で、県内での確認は 2 地区のみである。生育環境が開発の影響を受けやすく絶滅が危惧される。

種の特徴

山中の半日陰地にやや稀に生える。全草はやわらかで毛がなく、茎は稜があり、よく伸びて分枝する。葉を互生し、柄があって三角形。苞が多少幅狭く、小型で幅 2～5 mm。蒴果は線状倒披針形、種子はほぼ 1 列に並ぶ。花は 8～10 個開き、淡黄色。

分布

北海道～九州に分布する。県内では勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

アズマシロカネソウ

Dichocarpum nipponicum (Franch.) W.T.Wang et P.K.Hsiao
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 7 箇所である。本県が分布の南限になっており、県内での生育地が県北部に限られているため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地のやや湿ったところに生える多年草。根茎は短く、匍枝は出さない。茎の高さは 10～25 cm。基部には根出葉はつけないか、つけてもふつう 1 枚。花は半開し、やや垂れ下がって咲く。閉鎖花をつけない。種子は平滑。

分布

本州の日本海側（秋田県～福井県）に分布する。本県では、坂井市、あわら市、勝山市、大野市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。本県は分布の南限で、もともと個体数が少ない。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○		○		○	○	○

タチネコノメソウ

Chrysosplenium tosaense (Makino) Makino ex Suto
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内に広く分布するが、分布域の一部において生育環境が悪化しており減少傾向にある。

種の特徴

林中または林縁の沢沿いの水湿地に生える。高さ5～12cm。茎はやや褐色を帯びる。根出葉は長い柄があり腎円形。茎葉は互生し大きな鈍鋸歯がある。苞は茎葉と同形で黄緑色。花序同士はやや離れてつく。萼は平開し黄緑色。

分布

本州（関東以西）、四国、九州に分布する。県内では嶺南地方、嶺北地方で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地に林道工事、森林伐採等の環境圧を加えると生育環境が悪化し、生育を脅かす要因となっている。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○		○		○							

ミヤマダイモンジソウ

Saxifraga fortunei Hook.f. var. *alpina* (Matsum. et Nakai) Nakai
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

亜高山帯上部付近に生育する種で、分布域が限定されており、生育個体数も少ない。

種の特徴

高山帯の岩場や岩上に生える多年生草本。花茎の高さは5～20cm。葉はすべて根生で、葉身は腎円形で掌状に浅～中裂する。花茎も葉も毛が少ない。花期は7～10月。花は白色か紅色。ダイモンジソウの品種で、葉が小さい、毛が少ない等の違いがある。

分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では嶺北地方の高山で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限で岩礫地、砂れき地、岩上等脆弱な環境に生育しているため生育環境が壊れやすい。また温暖化による種の存続への圧迫が懸念される。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市

ウチワダイモンジソウ

Saxifraga fortunei Hook.f. var. *obtusocuneata* (Makino) Nakai
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は10箇所以下で、生育地、生育個体数とも少ない。

種の特徴

溪流沿いの岩場に生える多年生草本。葉は茎の下部に集まってつき、長い柄がある。葉の質はやや厚く、葉身は長さ2～5cmの倒卵形、3～7裂し、基部は楔形または切形。花はダイモンジソウと同じで、上部の3個の花弁が短く、下部の2個の花弁が長い。

分布

本州、四国、九州に分布する。県内では坂井市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

溪流沿い岩上等脆弱な環境に生育しているため生育環境が壊れやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○					○	○

トキリマメ

Rhynchosia acuminatifolia Makino
マメ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

主に嶺南で確認されているが、個体数は少ない。

分布

本州（宮城県以西）、九州に分布。県内では嶺南全域と越前市で記録がある。

種の特徴

低山地の林縁に生えるつる性の多年草。タンキリマメより全体に毛が少ない。花期は6～9月で、花は黄色。豆果は紅熟し、黒い種子が1～2個入る。

生育を脅かす要因

森林伐採、管理放棄。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○		○						○					

リンボク

Laurocerasus spinulosa (Siebold et Zucc.) C.K.Schneid.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布上日本海側の北限で、生育地、個体数とも少ない。

分布

本州（茨城・福井以西）、四国、九州に分布。県内では嶺南に分布する。

種の特徴

森林、特に谷間によく生える常緑の高木。樹皮は黒～褐色。葉は互生、表面は深緑色。葉身は倒披針形または楕円形。葉の鋸歯が鋭く尖って針状になる。なお、大木になるとこの鋸歯自体が無くなる。花は秋に咲く。

生育を脅かす要因

森林伐採が生育を脅かす。

参考文献 奥田重俊編（1997）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○												

ゴヨウイチゴ

Rubus ikenoensis H.Lév. et Vaniot
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布限界とし、生育地、個体数とも少ない。

分布

本州（中北部地方）に分布する。県内では奥越地方で確認される。

種の特徴

針葉樹林帯にはえる草本状のつる性木本。茎には針状の細かい刺が密生する。葉は互生、5出複葉の鳥足状で、5枚の小葉からなり、縁は重鋸歯になる。花期は6～7月、花弁は退化し線状で目立たない。果実は秋に赤く熟す。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ハスノハイチゴ

Rubus peltatus Maxim.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

分布上北限で、生育地、個体数とも少ない。

分布

本州（長野・愛知・福井以西）、四国、九州に分布する。県内では奥越地方で確認される。

種の特徴

小型の落葉低木。茎は葉の出るところでジグザグに曲がり、所々に刺がある。葉は卵円形。葉の1/3の位置に葉柄がつく。葉は浅裂する。葉の表面は無毛で、裏面は脈上に毛があり、刺を散生する。葉柄にも刺が散生する。6月頃に白い花を咲かせ、果実は長楕円形で白く熟す。

生育を脅かす要因

産地局限、森林伐採、自然遷移が生育を脅かす。

参考文献 奥原弘人ほか（1969）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

カライトソウ

Sanguisorba hakusanensis Makino
バラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布限界とし、生育地、個体数とも限定される。

分布

本州中部の日本海側に分布する。県内では敦賀市、南越前町、永平寺町、坂井市、池田町、勝山市、大野市で確認される。

種の特徴

山地の草原に生える多年生草本。茎は高さ40～80cmで、少数の葉をつける。葉は奇数羽状複葉。小葉は長さ4～6cmの楕円形、縁に鋭鋸歯。穂状花序は長さ約10cm、先が垂れ下がり、先から咲き始める。花には花弁がない。

生育を脅かす要因

登山者の踏みつけ、マニアの園芸採取、自然遷移が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○	○	○				○	○	

カラハナソウ

Humulus lupulus L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.
アサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育環境が開発の影響を受けやすいところであるため、生育地、個体数ともに減少しているの、準絶滅危惧とした。

分布

北海道、本州（中部以北）に分布する。県内では越前市、南越前町、池田町、大野市で確認されている。

種の特徴

山地に生える多年生のつる草で、茎には下向きの刺がある。葉は卵円形、基部は心形で先がとがり、縁にはあらい鋸歯がある。花期は8～9月。そう果は長さ2.5～3m、表面には苦味を含む黄色の小腺点が多い。

生育を脅かす要因

道路工事、森林伐採。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○			○				○	

サンショウソウ

Pellionia minima Makino
イラクサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林伐採等で生育条件の悪化が進み減少傾向にある。

分布

本州中部以西から沖縄に分布。県内では嶺南にのみ分布する。

種の特徴

山地の湿った場所に生える多年生草本。茎は地を這い、長さ10～30 cm、短毛が密生する。葉は互生し、倒卵形、長さ1～3 cm、鈍鋸歯がある。花期は4～6月。雌雄異株。花序は葉腋につき、淡緑色。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移。

参考文献 門田裕一ほか（2013）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市	
		○			○													

ニシキギ

Euonymus alatus (Thunb.) Siebold f. *alatus*
ニシキギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

庭木としてしばしば植栽されるが、自生は稀である。採集記録はそれほど多くない。

分布

北海道から九州に分布。県内では嶺南西部、嶺北の各地に点々と分布する。

種の特徴

山地の林内に生える落葉低木。枝は4稜があり、稜から板状の翼が出る。翼のないものをコマユミという。葉は対生し、長楕円形、長さ2～7 cm、細かい鋸歯がある。花期は5～6月。花は淡緑色、直径6～8 mm。果実は裂開し、種子は橙赤色の仮種皮に包まれる。

生育を脅かす要因

森林伐採、園芸採取。

参考文献 茂木透他（2000b）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○							○			○			○	○

ニシキソウ

Chamaesyce humifusa (Willd. ex Schltld.) Prokh.
トウダイグサ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られ、個体数も少ない。

分布

本州から沖縄に分布。県内では嶺南に分布する。

種の特徴

畑や空き地に生える一年生草本。茎は赤く、分枝して地を這い、長さ10～25 cm。葉は対生し、長楕円形、長さ0.4～1 cm、斑紋はない。花期は7～10月。葉腋に杯状花序をつける。蒴果は直径約1.8 mm、3稜があり、無毛。

生育を脅かす要因

土地開発、道路整備。

参考文献 林弥栄ほか（2013）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○													○

ハクサンフウロ

Geranium yesoense Franch. et Sav. var. *nipponicum* Nakai
フウロソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られる。

分布

本州中部以北に分布。県内では奥越にのみ分布する。

種の特徴

亜高山帯の草地に生える多年生草本。高さ30～60cm。葉は掌状に5～7深裂し、幅5～10cm、裂片は中裂する。花期は7～8月。花は紅紫色、直径2.5～3cm、花弁は5枚。蒴果は長さ約3cm、下部から5裂し巻き上がる。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 門田裕一ほか（2013）、福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

エゾフウロ

Geranium yesoense Franch. et Sav. var. *yesoense*
フウロソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られる。

分布

北海道から本州中部以北に分布。県内では奥越にのみ分布する。

種の特徴

高山の草地に生える多年生草本。高さは30～60cm。茎や葉柄、萼片に下向きの開出毛が密生する。葉は掌状に5裂し、幅5～10cm、裂片はさらに中裂する。花期は7～8月。花は紅紫色、直径約3cm、花弁は5個で重なる。萼片には開出毛が密に生える。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 清水建美ほか（2014）、佐竹義輔ほか（1982b）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミズマツバ

Rotala mexicana Cham. et Schtdl.
ミソハギ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

湿地環境の消失や、農薬の多用によって著しく減少した。生育環境が維持されにくい。

分布

本州中部以西から九州に分布。県内各地で局所的に見られる。

種の特徴

水田や湿地に生える一年生草本。高さ3～10cm。葉は3～4個輪生し、狭披針形、長さ0.6～1cm。花期は8～10月。花は葉腋につき、淡紅色、直径0.8mm。萼片は5個、花弁は無い。蒴果は球形、3裂する。

生育を脅かす要因

圃場整備、農薬汚染、自然遷移。

参考文献 林弥栄ほか（2013）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○		○	○	○		○			○		○

オガラバナ

Acer ukurunduense Trautv. et C.A.Mey.
ムクロジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で確認されている生育地は1地区のみである。個体数も少なく、今回新たに県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

亜高山の林縁や林に生える雄性同株の落葉小高木。冬芽の鱗片は2～3対あって敷石状に並ぶ。葉は有花枝には2～3対、無花枝には1～3対。花期は7月で黄緑色。100～200個、1個ずつまたは2～数個が短い柄の先につく。果期は9～10月、分果まばらに毛がある。

分布

北海道、本州（中部以北、奈良県）に分布する。県内では大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ナニワズ

Daphne jezoensis Maxim.
ジンチョウゲ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

低山の落葉樹林縁に生育し、本県を分布の西限とする。生育地、個体数とも限定されるので県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

高さ0.5～0.7mほどの株立性の落葉小低木で、全枝無毛。葉は枝端に互生し、倒披針状長楕円形、長さ4～8cm、幅1.5～3cm、先は円頭～鈍頭、基部はくさび形、花期は3～4月で帯緑鮮黄色。液果は8～9月に赤橙色に熟し、落葉は盛夏。雌雄異株。

分布

北海道、本州（福井県・福島県以北）に分布する。県内では坂井市、池田町、福井市、勝山市、大野市で確認されている。勝山市では、石灰岩のガラ場に多く生育する。

生育を脅かす要因

森林伐採や植林による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○		○				○	○	○

ミズタガラシ

Cardamine lyrata Bunge
アブラナ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

かつては普通にみられたが、生育環境の悪化により個体数が減少している。

種の特徴

水田や湿地に生える全草無毛の多年草。花をつける茎は直立し高さ30～60cmになるが、花期が終了すると倒れて匍匐する。茎の基部には、花後に長く伸びる匍枝が出る。下部の葉は羽状複葉。4～6月、花茎頂部に総状花序をつけ白色の花を10～30個開く。

分布

本州（中部地方以西）、四国、九州に分布。県内ではおおい町、小浜市、若狭町、敦賀市、越前市、福井市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

除草剤の使用、圃場整備、河川開発、オランダガラシなど生育環境の重なる外来種との競合。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○						○				○	○

ムカゴトラノオ

Bistorta vivipara (L.) Delarbre
タデ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。今のところ1山域で確認されているだけである。

種の特徴

高山帯に生える多年生草本。茎は直立し、枝を分けず、高さ5～30cmになる。根出葉は長い柄があり、広楕円形～披針形、表面は光沢があり、裏面は粉白色を帯びる。花期は6～9月。花序は細長く、長さ2～10cm、下部の花はムカゴとなる。

分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方で確認される。

生育を脅かす要因

産地局限、自然遷移、温暖化の進行等が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハマナデシコ

Dianthus japonicus Thunb.
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

太平洋側が本種の分布の中心であり、日本海側では生育地が限られ個体数も少ない。

種の特徴

海岸の岩場や砂浜に生える多年草。茎は株状で高さ15～50cm、下部は木質化し斜上し、上部は直立する。葉は厚く光沢があり、葉縁は有毛、長卵形～長楕円状披針形。6～11月、花は頂生し集散花序となる。花弁は紅紫色で径約1.5cm。

分布

本州～琉球に分布。県内ではおおい町、敦賀市、越前町、福井市での記録がある。

生育を脅かす要因

海岸開発、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○	○										○

ワチガイソウ

Pseudostellaria heterantha (Maxim.) Pax
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

種の特徴

山地の落葉広葉樹林などの湿った環境に生える多年草。根は太く肥大する。茎は高さ8～15cm、直立し下部で分枝する。葉は対生、卵状披針形～倒披針形、基部は細くなって葉柄となる。茎頂や葉腋から細い花柄を伸ばし、白色の5枚の花弁を星形につける。

分布

本州（福島県以南）～九州に分布。県内では池田町、大野市での記録がある。

生育を脅かす要因

森林伐採、踏圧。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

ギンバイソウ

Deinanthe bifida Maxim.
アジサイ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 18 箇所である。県内での生育地は限られており、生育基盤も脆弱なため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

樹林におおわれた沢沿いの斜面に生える多年草。地下茎は肥厚し、地上茎は直立して分枝せず高さ 40～70 cm。葉は広卵形あるいは広倒披針形で、茎の上部に 2～4 対。7～8 月頃、10～20 花を頂生。装飾花は白色または淡紅色。両性花は白色で梅花状。

分布

本州（関東以西）、九州に分布。県内では、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。生育地が斜面であるため、自然災害も危険要因となる。また、獣害の影響も新たな脅威となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○											

ウメガサソウ

Chimaphila japonica Miq.
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 13 箇所である。県内での生育地が限られており、園芸目的で採集される恐れが高いため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

やや乾燥した丘陵や山地の林内に生える常緑の草状の小低木。地上茎は高さ 5～10 cm。葉は長楕円形または披針形で、先はとがり、縁には全体にとがった鋸歯がある。茎の先に 1 個まれに 2 個の花をつける。萼片は披針形で長さは花弁とほぼ同長。

分布

北海道～九州に分布。県内では、あわら市、大野市、福井市、越前市、美浜町、高浜町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○								○	○			○	○

ミヤマホツツジ

Cladothamnus bracteatus (Maxim.) T.Yamaz.
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 3 箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が亜高山、高山に限られているため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

亜高山、高山に生える落葉小低木。高さ 30～50 cm。葉は倒卵形、先は円く、下部はしだいに狭くなって葉柄に流れ、両面とも無毛。7～8 月頃、枝先に総状花序を伸ばし、3～20 個の花をまばらにつける。花弁は 3 枚で反り返り、萼は 5 片に基部まで裂ける。

分布

北海道、本州（北中部）に分布する。県内では、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である高山・亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県植物研究会編（1999）
福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ベニドウダン

Enkianthus cernuus (Siebold et Zucc.) Makino f. *rubens* (Maxim.) Ohwi
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 11 箇所である。県内での生育地が限られており、園芸目的で採集される恐れが高いため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地に生える落葉低木。葉は枝先に集まり、葉身は倒狭卵形～倒卵形。5～6 月頃、枝先から総状花序を下垂し、5～8 個の朱紅色の花をつける。萼は広鐘形で深く 5 裂し、裂片は狭三角形で先は鋭くとがる。花冠は広鐘形で縁はふぞろいに細裂する。

分布

本州（関東地方、中部地方南部、本県、近畿地方、中国地方瀬戸内海側）、四国、九州に分布。県内では、越前市、敦賀市、美浜町、若狭町、おおい町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県植物研究会編（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○						○					

サツキ

Rhododendron indicum (L.) Sweet
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 22 箇所である。県内での生育地が山地の川岸に限られており、生育基盤が脆弱で、園芸目的で採集される恐れも高いため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地の川岸の岩場に生える半落葉低木。高さ 0.5～1m。葉は披針形または狭披針形、先はとがり、先端に腺状突起があり、淡褐色の剛毛が散生する。春葉と夏葉はやや同形。5～6 月頃、枝先の 1 個の花芽から 1～2 個の花を開く。雄蕊は 5 本。

分布

本州（神奈川県以西のおもに太平洋側、近畿地方、中国地方）、九州に分布。県内では、坂井市、勝山市、大野市、越前町、南越前町、美浜町で確認されている。

生育を脅かす要因

河川の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県植物研究会編（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○			○	○			○				○	○	

シロヤシオ

Rhododendron quinquefolium Bisset et S.Moore
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は 5 箇所である。主に太平洋側にみられ、県内の生育地は分布の限界と考えられる。県内での生育地は限られており、園芸目的で採集される恐れも高いため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

深山に生える落葉小高木。高さ 3～6m。葉は枝先に 5 枚輪生する。葉身は菱形または卵状菱形、先はやや鈍い。5 月頃、枝先の 1 個の花芽から新葉とともに 1～2 個の花をつける。萼は杯形、5 裂し、花冠は白色で広漏斗形、先は広く開いて 5 中裂する。

分布

本州（岩手県以南の太平洋側）、四国に分布する。県内では、大野市、越前市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県植物研究会編（1999）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○				○	

コケモモ

Vaccinium vitis-idaea L.
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は3箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が高山に限られており、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

高山の草地や低木林縁に生える常緑の小低木。茎の下部は地をはい、上部は斜上して高さ5～15cm。葉は革質で長楕円形、先は円く縁に細かな少数の鋸歯がある。6～7月、枝先に総状花序をつくり、3～8個の花をつける。果実は球形で赤熟する。

分布

北海道～九州に分布。県内では、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である高山・亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会編（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

リンドウ

Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

草地や山地に生える多年生草本で、野生状態のものが近年極めて少なくなっている。

種の特徴

山野に生える多年生草本。高さが30～60cm、根茎は淡黄色で少し肥大して長く伸び、多数のひげ状の根をつける。ひとつの株から花茎が1本から数本真っ直ぐのびる。葉は対生で、形は披針形で先は尖っている。花は、秋に茎頂部に濃紫色の鐘状花を数個つける。

分布

本州、四国、九州の湿った野山に分布する。県内には広く分布する。

生育を脅かす要因

草地開発、道路工事や埋め立て等により生育地が減少。また自然遷移が進行し生育環境が変化している。また、園芸採取の対象になりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○		○	○		○			○	○		○	○	○

タテヤマリンドウ

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb. var. *minor* Maxim.
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布限界とし、生育地、個体数とも限定される。

種の特徴

高山や亜高山の湿り気のある場所に自生する。高さは10cmくらいになる。茎につく葉は対生し、披針形で茎に寄り添う。花期にも根元に卵形の根生葉が残る。花期は6～8月で、漏斗状の淡青紫色の花を、茎の上部に1個、上向きにつける。

分布

北海道、本州（中部地方以北の日本海側）に分布する。県内では南越前町、池田町、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、脆弱な地に生育するため生育地、周辺に環境圧を加えると生育を脅かすことになる。自然遷移、温暖化の進行も生育を脅かす要因となる。また園芸採取の対象になりやすいのも減少する要因である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

テングノコツチ

Tripterospermum trinervium (Thunb.) H. Ohashi et H. Nakai var. *involutibile* (N. Yonez.) H. Ohashi et H. Nakai
リンドウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

本県を分布限界とし、生育地、個体数ともごく限定される。

分布

本州（中部地方以北）に分布する。県内では奥越地方で確認される。

種の特徴

亜高山帯の針葉樹林下に稀に生えるつる性の多年生草本。葉や花冠、果実等が小型化し、花と実と一緒に見られ、茎は地を這う。茎は長さ 30 cm 以下、葉は長さ 2～3 cm、幅 1～1.3 cm と小さく、やや丸みがある。花は茎の先に 1～2 個つき、腋生しない。

生育を脅かす要因

局地的な分布をする種で、脆弱な地に生育するため生育地、周辺に環境圧を加えると生育を脅かすことになる。自然遷移、温暖化の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

シロバナカモメヅル

Vincetoxicum sub lanceolatum (Miq.) Maxim. var. *macranthum* Maxim.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は 10 箇所以下で、生育地、個体数とも限られる。

分布

北海道、本州（近畿地方北部以東）に分布する。県内では敦賀市、あわら市、坂井市、福井市、勝山市、大野市に自生が確認されている。

種の特徴

山地の湿原や草原に自生するつる植物。他の草等に巻きついて、高さは 2～3m ほどになる。葉は茎に対生し、形は披針形で先が尖り、縁は全縁。花期は 7～9 月で、径 1～2 cm ほどの淡黄白色をした星型の花をつける。

生育を脅かす要因

草原開発、道路工事、自然遷移。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○		○		○	○	○

コバノカモメヅル

Vincetoxicum sub lanceolatum (Miq.) Maxim. var. *sub lanceolatum*
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。1986 年以降の確認の記録はない。

分布

本州（関東・中部・近畿地方）に分布する。県内では嶺南、嶺北、奥越地方に広く分布する。

種の特徴

日当たりのよい草地や土手等に、他の植物に巻きついて生育するつる性の多年生草本。葉には短い柄があり対生、長楕円状広披針形。夏に葉腋に短い花柄をだし、暗紫色の小花をつける。

生育を脅かす要因

草地開発、道路工事、自然遷移。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○						○	○	○			○

メハジキ

Leonurus japonicus Houtt.
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも減少している。

分布

北海道、本州、四国、九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山野の道ばたや荒地に生える越年草。根出葉は長い柄があり、花時には枯れる。茎は直立、高さ 50～150 cm、分枝し、短い圧毛がある。葉はやわらかく 3 深～全裂し、裂片はさらに分裂、裏面に白色の短毛が密生する。7～9 月頃、紅紫色で唇形の花が上部の葉腋に付く。

生育を脅かす要因

土地造成、道路工事等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)、福井県自然保護課編 (2004)
福井県植物研究会 (1998)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

タテヤマウツボグサ

Prunella prunelliformis (Maxim.) Makino
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ない。

分布

本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

高山の草原に生える多年草。茎は束生し高さ 25～50 cm、あらい毛が少しある。葉は 5～10 対あり長さ 3～8 cm、幅 1.5～4 cm、ごく短い柄がある。7～8 月頃、茎頂に短い密な花穂を出し、長さ 2.5～3.2 cm の紫色の花が付く。

生育を脅かす要因

産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)、福井県自然保護課編 (2004)
福井県植物研究会 (1998)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○	○						○	

デワノタツナミソウ

Scutellaria muramatsui H.Hara
シソ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林伐採等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

本州（近畿地方以北）に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地のやや湿った林内に生える多年草。茎は長く這った地下茎から立ち上がり高さ 10～30 cm、ごく短い下向きの毛がある。葉は長さ 2～3.5 cm、幅 1～2.5 cm、表面はまばらに毛があり、裏面も脈上に細毛がある。5～6 月頃、3～5 cm の花序に紫色の花が付く。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)、福井県自然保護課編 (2004)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○			○		○	○	○			○	○

トモエシオガマ

Pedicularis resupinata L. subsp. *teucrifolia* (M.Bieb. ex Steven) T.Yamaz. var. *caespitosa* Koidz.

ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布の南限とし、確認されている生育地は少なく、全生育地で生育個体数が限られる。

分布

本州（中部地方北部）に分布する。県内では池田町、大野市で自生が確認されている。

種の特徴

高山の草地に生育する多年生草本。葉は幅の狭い卵形で、茎の下部では対生、上部では互生。葉の縁には重鋸歯がある。茎先の苞の脇に紅紫色をした唇形の花をつける。

生育を脅かす要因

草地の改変、温暖化が生育を脅かす要因となる。観賞用の山野草として採取の対象となりやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

イヌタヌキモ

Utricularia australis R.Br.

タヌキモ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

環境省により国の準絶滅危惧種に指定されている。県内では多くの地域で確認されるが、溜池や水田等の生育環境の悪化によって減少傾向にある。

分布

本州～九州に分布。県内では小浜市、若狭町、美浜町、敦賀市、越前町、あわら市、越前市、南越前町、福井市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

溜池、水田等に浮遊する沈水性の多年草。食虫植物。茎は細長く1mに達し、捕虫？を多数つける。水中葉は1.5～4.5cmで盛んに分枝する。花期は8～9月、水上に高さ10～30cmの花軸を出し、径1cmの黄色い花を開く。枝先や茎の先端には殖芽をつける。

生育を脅かす要因

湿地開発、溜池の改修工事、除草剤の使用。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○	○	○				○	○		○	○	○

オクノフウリンウメモドキ

Ilex geniculata Maxim. var. *glabra* Okuyama

モチノキ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本種はフウリンウメモドキの変種で分布上西限となり、県内での生育地、個体数ともに少なく、要注目から県域準絶滅危惧とした。

分布

北海道（西南部）、本州（東北から北陸）に分布する。県内では池田町、勝山市、大野市で確認されている。

種の特徴

フウリンウメモドキに似るが、葉の裏面が無毛の落葉低木。雌雄異株。葉は互生し、卵形楕円形、長さ3～10cm、幅2～4cm、先は鋭く尖り、鋸歯は低い。葉柄は0.5cm内外。花期は6～7月。花弁は4～5枚、白色。果実は球形、径6mm、赤く熟し下垂する。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事、産地局限、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	

ハクサンシャジン

Adenophora triphylla (Thunb.) A.DC. var. *hakusanensis* (Nakai) Kitam.
キキョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布。県内では池田町、大野市での記録がある。

種の特徴

ツリガネニンジンの高山型の変種で、亜高山～高山に生育する多年草。茎の高さは30～60cm、葉は披針形で鋸歯があり、3～5枚が輪生する。下部の葉は開花時期には枯れる。花は7～8月、白色～淡紫色の広鐘形、基準変種に比べ総状花序にやや密集して輪生する。

生育を脅かす要因

園芸採取、踏圧、生育地へのシカの分布拡大による食害。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

シデシャジン

Asyneuma japonicum (Miq.) Briq.
キキョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

本州（東北地方、中部地方中北部）に分布。県内では大野市での記録がある。

種の特徴

山地に生える多年草。根茎は横にはい、根出葉がある。茎は直立し、高さ50～100cm、毛を散生する。葉は卵形～長楕円形、長さ5～10cm。7～8月、茎頂と上部の葉腋に総状花序をつける。花冠は青紫色、基部まで5深裂し、裂片は線形で反り返る。

生育を脅かす要因

園芸採取、踏圧、生育地へのシカの分布拡大による食害。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミツガシワ

Menyanthes trifoliata L.
ミツガシワ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られている。

分布

北海道、本州、九州に分布。嶺南東部、丹南、奥越に見られる。

種の特徴

山地の湿地に生える多年生草本。根生葉は長い柄があり、3葉に分かれる。小葉は楕円形、長さ4～8cm。花期は5～8月。花茎は約30cm、白花を総状につける。花は直径1～1.5cm、5深裂し、花弁の内側に白毛が生える。

生育を脅かす要因

森林伐採、土地造成、湿地開発、園芸採取、産地局限。

参考文献 門田裕一ほか（2013）、福井県植物研究会（1997）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○		○							○	○	

オケラ

Atractylodes ovata (Thunb.) DC.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では数箇所に点在するのみで、生育数も少ない。

分布

大野市、あわら市、越前町、鯖江市、敦賀市、美浜町、おおい町。国内では本州、四国、九州に分布する。

種の特徴

山地のやや乾いた草原に生える。茎の高さ 30～80 cm、上部で分岐。葉は長柄があって楕円形～倒披針形、ときに羽裂する。秋に茎頂に白頭花をつけ、淡紅白花もある。総苞は鐘形、苞片は 7～8 列、外片は短い。総苞の外側には魚骨状の苞葉がある。

生育を脅かす要因

里山植物の代表的なものであるが、環境の開発、また食用・薬用等に採取されて、減少している。

参考文献 福井県植物研究会(1998)、佐竹義輔ほか(1981)、林弥栄・平野隆久(2013)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○		○	○						○	○		○	

ミヤマコウゾリナ

Hieracium japonicum Franch. et Sav.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：— 【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地・生育数ともに少ない。

分布

大野市。国内では本州の中部以西と四国の高山に分布する。

種の特徴

コウゾリナの名前がついているが、属はヤナギタンポポ属。カンチコウゾリナに比して全体に軟らかく、剛毛の色も白っぽい。茎や花序には剛毛の他に白短毛が密生する。日本固有種。

生育を脅かす要因

山道の整備と破壊、植生の遷移。

参考文献 福井県植物研究会(1997)、清水建美ほか(2014)、加藤雅啓・海老原淳(2011)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

カセンソウ

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitam.
キク科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧 旧：県域準絶滅危惧 【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の開発、圃場整備等により生育数が減少。

分布

あわら市、福井市、敦賀市、美浜町、若狭町、おおい町、高浜町。国内では北海道～九州に分布する。

種の特徴

日向の湿地や圃場の周辺に生える。茎の高さは 50～80 cm、上部で枝分かれする。葉は長楕円状披針形、長さ 5～8 cm、柄はない。茎の先に径 4 cm ほどの黄花をつける。頭花は外側に舌状花、内側に筒状花が多数ある。総苞は半球形、苞片は 4 列、広披針形で縁毛がある。

生育を脅かす要因

自然環境の変化、湿地の減少、園芸用採取等。

参考文献 福井県植物研究会(1998)、佐竹義輔ほか(1981)、林弥栄・平野隆久(2013)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○					○		○				○

レンプクソウ

Adoxa moschatellina L.
レンプクソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査で新たな生育地が確認されたので、絶滅危惧Ⅱ類から県域準絶滅危惧とした。やや日陰の路傍でも生育するが、その消長が危惧される。

種の特徴

低山のやや湿った林内に生える多年草で、細長い地下茎を引いてふえる。全体にやわらかく、無毛、茎は高さ8～15cmで、根出葉とほぼ同長。根出葉は2回3出複葉。茎葉は小さく1対あって3裂。花期は3～5月。茎の先に径5mmほどの小さな黄緑花を5個付ける。

分布

北海道、本州（近畿以北）に分布する。県内では小浜市、若狭町、越前町、越前市、南越前町、池田町、福井市、勝山市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○		○	○	○			○			○		○

カンボク

Viburnum opulus L. var. *sargentii* (Koehne) Takeda
レンプクソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で確認されている生育地は4地区と限られ、個体数も少ない。今回要注目から県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

落葉広葉樹林内に生える落葉小高木。樹皮は厚く暗灰色であり、縦に裂け目が入る。枝は暗灰色、皮目があり、髄は白い。冬芽は卵形。葉の表面はほぼ無毛。花期は5～7月。花序枝は無毛。核果はやや球形で、濃赤色、液質である。

分布

北海道、本州（中北部）に分布する。県内では鯖江市、福井市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
														○	○	○	○

オトコヨウゾメ

Viburnum phlebotrichum Siebold et Zucc.
レンプクソウ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では4地区で生育が確認されているが、生育地が限られている。個体数も少ないので、今回要注目から県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

高さ1～3mの落葉低木で、密に分枝する。枝は細長く、灰色または灰褐色、皮目が散生し、髄は白く小さい。若い枝は帯赤色、無毛である。花期は4月下旬～6月。散房花序は短い枝の先に1対の葉とともにつき、しばしば垂れる。核果は赤熟して光沢があり、液質。

分布

本州、四国、九州に分布する。県内ではおおい町、敦賀市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○									○	○	

ハクサンオミナエシ

Patrinia triloba (Miq.) Miq. var. *triloba*
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が局限し、個体数が少ない。これまで奥越地方の3山域で確認されているのみである。

種の特徴

山地の岩場に自生する多年生草本。茎の高さは20～60cm。葉は茎に対生し、茎の下方の葉には長い柄がつく。葉の形は広卵形で、幅は3～10cm、掌状に3～5中裂し、裂片は歯牙または欠刻がある。花期は7～8月、花冠が5裂し、黄色の小花を集散花序につける。

分布

本州（北陸地方～東北地方）に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

生育を脅かす要因

産地が局限し、脆弱な生育地に踏み込み、採取等の環境圧を加えると生育環境が壊れやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

タカネマツムシソウ

Scabiosa japonica Miq. var. *alpina* (Takeda) Takeda
スイカズラ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が局限され、個体数が少ない。これまで奥越地方の3山域で確認されているのみである。

種の特徴

高山の風衝の激しい尾根等、やや乾いた草地や砂礫地に生育する。全体の丈は低く長い柄をもった根出葉があり、茎に対生する葉とともに羽状に裂ける。長い花柄の先端に1個の頭花をつける。頭花は径5cmで碧紫色、ときに淡紅色や白色もある。

分布

本州（中部地方以北）、四国に分布する。県内では奥越地方で確認されている。

生育を脅かす要因

産地が局限し、脆弱な生育地に踏み込み等の環境圧を加えると生育環境が壊れやすい。温暖化が生育環境の変化をもたらす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

セリモドキ

Dystaenia ibukiensis (Y.Yabe) Kitag.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は11箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が限られているため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地に生える多年草。根は太い。茎は直立し、高さ30～90cm。節に長毛が出る。葉は2～3回羽状にわかれ、小葉は不規則に切れ込み、縁に短毛が出る。7～9月頃、複散形花序をつける。花は白色。果実は楕円形で、平たく、長さ3.5～8mm。

分布

本州の日本海側に分布。県内では、南越前町、福井市、大野市、勝山市、若狭町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。シカ等の獣害による影響、外来種との競合も新たな脅威となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○							○	○	○

ハマボウフウ

Glehnia littoralis F.Schmidt ex Miq.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は20箇所である。前回調査以降に新たな自生地が確認されているが、県内での生育地は海岸に限られており、生育基盤が脆弱で、食用に採取されることがあるため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

海岸の砂浜に生える多年草。根はゴボウ状で長い。茎は多毛で、高さ5～40cm、稀に1mにもなる。葉は厚く、1～2回3出羽状複葉、小葉や裂片は広くて先は丸く、鋸歯がある。6～7月頃、密な複散形花序をつける。分果は多肉で隆条は太い。

分布

北海道～琉球に分布。県内では、坂井市、あわら市、福井市、越前町、敦賀市、美浜町、高浜町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である海岸の開発。海岸への自動車の侵入による踏みつけ。食用のための採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○		○	○				○		○				○

オオカサモチ

Pleurospermum uralense Hoffm.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は8箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が高山に限られているため、準絶滅危惧とした。

種の特徴

山地に生える大型の多年草。茎は太く、多汁で、高さは1.5mにおよび、上部の枝は対生、または輪生する。葉はやわらかくて大きく、1～3回3出羽状複葉、小葉や最終裂片は鋭く切れ込む。7～8月頃、大型の複散形花序をつける。

分布

北海道、本州（中部以北）に分布。県内では、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である高山・亜高山の植生の変化。温暖化による生育地の減少。登山道整備での注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

カノツメソウ

Spuriopimpinella calycina (Maxim.) Kitag.
セリ科

【福井県カテゴリー】新：県域準絶滅危惧

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は6箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地が限られているため、県域準絶滅危惧とした。

種の特徴

山林下に生える多年草。茎は単一で直立し、高さは50～100cm。根出葉や下部の葉は2回3出複葉、上部の葉は3出葉。8～10月頃に開花する。複散形花序は数が少なく、総苞片や小総苞片は線形で短い。果実は長楕円形で無毛。

分布

北海道～九州に分布。県内では、大野市、福井市、越前市、敦賀市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。シカ等の獣害による影響、外来種との競合も新たな脅威となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○				○	○

ミズスギ

Lycopodium cernuum L.
ヒカゲノカズラ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で多くの生育地が確認されている。水田の畔や水のしたたる崖等に多く生育していたが、水田の乾田化や湿地の開発等で減少している。

種の特徴

地表をほう茎は、ところどころで分岐する。地表をほう茎から直立した茎を出す。直立茎は高さ約 30 cmほどで、分岐して樹木状となる。小枝の先に孢子囊穂をつける。

分布

全国分布は北海道～沖縄。県内分布は若狭町、美浜町、敦賀市、越前市、越前町、福井市、あわら市。

生育を脅かす要因

土地改良、湿地開発。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1990)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○					○	○				○

タチク라마ゴケ

Selaginella nipponica Franch. et Sav.
イワヒバ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で現在知られている生育地は 4 地区であるが、生育地では群生する。管理放棄や自然遷移によって、産地の個体数が減少する可能性がある。生育環境が広いため寺院や神社を探せば見つかる可能性があり、要注目となった。

種の特徴

低地～山地の草地や岩上に生育する常緑性のシダ植物。主茎は匍匐し、長さ 5～20 cm。腹葉は広卵形、長さ 2～2.5 mm、先は尖る。背葉は狭卵形、長さ 1 mm。先は尖り、細かい鋸歯がある。孢子葉をつける枝は直立し、孢子囊穂は区別が難しい。

分布

本州～九州に分布。県内では越前町、永平寺町、福井市、坂井市に分布する。

生育を脅かす要因

産地局限、管理放棄、自然遷移。

参考文献 岩槻邦男 (1992)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○			○	○						○

アカハナワラビ

Botrychium nipponicum Makino
ハナヤスリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られている。山地の林床や林縁に生育。園芸目的の採取圧を受けている。

種の特徴

冬緑性の小型シダ類。フユノハナワラビに似る。栄養葉の下部羽片は上部で急に狭くなり、小羽片、裂片は鋭鋸歯をもつ。冬季には紅葉する。高さ 20～30 cm。共通柄は短く 1.5～6 cm、三出葉の五角形 3 回羽状深裂、孢子葉は栄養葉よりはるかに長い。

分布

全国分布は本州～九州。県内では点在するが、やや稀である。

生育を脅かす要因

森林伐採、採取圧、小型のため踏み倒される。

参考文献 岩槻邦男編 (1992)、中池敏之 (1992)、渡辺定路 (2003) 福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○			○	○				○				○	○	○

ヒメコケシノブ

Hymenophyllum coreanum Nakai
コケシノブ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

亜高山の樹幹や岩石に生育する。日当たりのよい所にあり、乾燥すると縮れやすい。

種の特徴

常緑性で葉は小さく、ホソバコケシノブに似る。葉柄と葉身はほぼ同長で翼があり、3回羽裂する。乾燥すると葉が縮れて裂片が圧縮される。

分布

全国分布は本州、四国、九州。県内分布は大野市、南越前町、越前町。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、中池敏之 (1982)、杉本順一 (1979)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○								○	

オウレンシダ

Dennstaedtia wilfordii (T.Moore) H.Christ ex C.Chr.
コバノイシカグマ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

石灰岩が分布する地域に生育することから、分布が限定されている。

種の特徴

夏緑の小型のシダ。葉柄の長さは5～20cmで、葉身は2回羽状複葉で長さ10～30cm。羽片は広卵形で短い柄がある。孢子嚢群は羽片の先端につき、包膜はコップ状である。イヌシダに似るが、イヌシダより毛が少ない。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は、大野市、福井市。

生育を脅かす要因

石灰岩のすき間に生育するために、道路工事等で減少している。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1987)、中池敏之 (1982)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	○

マツザカシダ

Pteris nipponica W.C.Shieh
イノモトソウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内で知られている生育地は5箇所。個体数は少ないが、採取圧は少ないため絶滅危惧Ⅱ類より要注目種とした。

種の特徴

常緑性のシダ類。オオバノイノモトソウに似るが、側羽片は2対前後と少ない。やや鎌形に曲がる。羽軸を中心に白い斑が入るが入らないものもある。山麓のやや日の当たる崖や林縁に生育。

分布

全国分布は本州（宮城県以西、日本海側で本県は北限）～九州まで。県内では嶺北地方に2箇所、嶺南地方に3箇所生育。

生育を脅かす要因

開発、森林伐採、道路改修。

参考文献 岩槻邦男編 (1992)、中池敏之 (1992)、渡辺定路 (2003)、福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○			○									○

タカネサトメシダ

Athyrium pinetorum Tagawa
イワデングダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

亜高山帯に生育し、県内では嶺北の3箇所に分布している。生育地が少なく、個体数も多くない。森林の林床に極めて稀に生育している。個体数の減少がみられる。

種の特徴

夏緑性のシダ類。葉柄の高さ20～40cm、葉身より少し長く、緑色からわら色、基部は暗褐色。葉身は三角形～広卵状三角形。基部は狭くならず3回羽状深裂～全裂する。無毛。草質。包膜の辺が細裂する。亜高山帯に生育。

分布

全国分布は本州（中部地方以北、奈良県）、四国の亜高山帯。県内分布は嶺北の亜高山帯に生育。

生育を脅かす要因

生育地局限、採取圧、登山道の整備。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○							○	

ヘラシダ

Deparia lancea (Thunb.) Fraser-Jenk.
イワデングダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山地の湿った林床や溪流沿いに生育する。森林が伐採されると、乾燥がすすみ生育が悪くなる。

種の特徴

常緑性で根茎は長くはう。葉柄の長さは3～10cmで、基部に鱗片をつける。葉身は単葉、披針形で鋭尖頭、縁は波をうつ。胞子嚢群は中肋から縁に向かって伸び、線形で多数平行して並ぶ。

分布

全国分布は本州～九州。県内分布は、小浜市、おおい町、美浜町、若狭町、坂井市、福井市。

生育を脅かす要因

森林伐採による生育環境の悪化。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1983）、
中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○						○						○

フモトシケシダ

Deparia pseudoconilii (Seriz.) Seriz.
イワデングダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数とも少ないが、今回生育地が発見されたことから、県域準絶滅危惧から要注目に変更する。

種の特徴

夏緑性のシダ類。葉は二形性、葉の大きさはホソバシケシダに似る。最下羽片が次の羽片より明らかに長い。山地の林床や林縁の日当たりのよい場所に生育する。日本固有種。

分布

全国分布は本州（宮城県以南）から九州。県内分布は嶺北、嶺南地方の3箇所に生育。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、開発。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○										○	○	

シマシロヤマシダ

Diplazium doederleinii (Luerss.) Makino
イワデンダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県が分布の北限。生育地は限られている。近年の調査では個体数も多くなってきたので、県域絶滅危惧Ⅱ類から要注目とする。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉は高さ1m前後、葉身は緑色が濃く、厚い草質、2回羽状。小羽片は中裂～深裂、羽片の辺が波打つ。孢子嚢群は線形で中肋近くに位置する。

分布

全国分布は本州（本県以南）～九州まで。県内分布は嶺北地方に3か所、嶺南の地方に3か所。

生育を脅かす要因

開発、堰堤工事、特に嶺南はシカ食害が見られる。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○			○			○		○		○		

ミヤマノコギリシダ

Diplazium mettenianum (Miq.) C.Chr.
イワデンダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山地の湿った林床に生育する。嶺南に多いが嶺北には少ない。

種の特徴

常緑性で、根茎を長くはわせ、葉を出す。葉柄は長さ20～40cm。葉身は単羽状複生で長楕円形で約40cmの長さ。下部の側羽片は有柄で羽状に浅裂し、羽片の先は円形。孢子嚢群は中肋から縁に伸びる。

分布

全国分布は本州～九州、沖縄県。県内分布はおおい町、美浜町、若狭町、小浜市、坂井市、南越前町。

生育を脅かす要因

湿った林床、溪流沿いに生育することから森林伐採が脅威となる。

参考文献 渡辺定路（2003）、岩槻邦男編（1992）、倉田悟・中池敏夫編（1983）、中池敏之（1982）、福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○			○			○						

ナガバヤブソテツ

Cyrtomium devexiscapulae (Koidz.) Ching
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

知られている生育地は10箇所拡大してきているが、個体数は少ない。また、森林伐採と道路工事等の開発で生育地が脅かされている。近年調査が進むにつれ、新たに生育地が見されたため、県域絶滅危惧Ⅱ類から要注目にする。

種の特徴

常緑性のシダ類。オニヤブソテツに似る。羽片は細長く、基部が広くさび形となる。4倍体のシダで、包膜の中央が黒い。内陸に生育している。

分布

全国分布は本州（岩手県以西）～九州まで。県内分布は嶺北、嶺南地方に広く分布している。

生育を脅かす要因

道路工事、開発。

参考文献 岩槻邦男編（1992）、中池敏之（1992）、渡辺定路（2003）
福井県植物研究会（2000）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○	○	○		○							○

ミサキカグマ

Dryopteris chinensis (Baker) Koidz.
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育確認地は多くなく、里地・里山の林床や山道の斜面等に生育する。あまり群生はしない。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市、敦賀市、南越前町、池田町。

種の特徴

夏緑性で、根茎は短く、葉を出す。葉柄は10～20 cm、葉身は五角形で長さ15～30 cmで幅は長さよりやや小さい。3回羽状深裂し、最下羽片が最大。孢子嚢群は小羽片の縁よりにつく。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1982) 福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○							○	

マルバベニシダ

Dryopteris fuscipes C.Chr.
オシダ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。県内で9地区に散在を確認したが、個体数が少ない上、生育地の岩場付近が道路の拡張や、のり面補強によって脅かされている。

分布

全国分布は、本州（新潟県以南）～九州まで。県内分布は嶺北、嶺南に散在。

種の特徴

常緑性のシダ類。葉柄は高さ20～40 cm。葉身は2回羽状複生、卵状長楕円形～三角状卵形で高さ25～60 cm、幅15～30 cm。羽片は披針形で長く鋭尖頭。葉質は紙質から革質。若芽の時は赤みを帯びる。

生育を脅かす要因

道路工事、特にのり面補強によって岩場が減少している事。開発。

参考文献 岩槻邦男編 (1992)、中池敏之 (1992)、渡辺定路 (2003) 福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○	○	○		○	○				○	○	○

シノブ

Davallia mariesii T.Moore ex Baker
シノブ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

森林伐採等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地の岩上や樹幹上に生える夏緑性のシダ類。根茎は長く匍匐し、密に鱗片がある。鱗片は褐色～灰褐色。葉は広い間隔をおいて付き、葉柄は長さ5～15 cm、葉身は長さ10～20 cm、幅8～15 cm、3～4回羽状深裂する。孢子嚢群は裂片に1個付き、包膜はコップ状。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 岩槻邦男編 (1992)、福井県自然保護課編 (2004) 福井県植物研究会 (2000)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○				○	○						○	○	

ミヤマノキシノブ

Lepisorus ussuriensis (Regel et Maack) Ching var. *distans* (Makino) Tagawa
ウラボシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

深山の樹木や岩石に着生している。近年、着生植物全般が減少しているため注目をしたい。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は大野市、南越前町、池田町、おおい町、小浜市、勝山市。

種の特徴

常緑性で根茎には鱗片がほとんどなく、細長くはう。葉柄は黒褐色で長さ5cm以下。葉身は線状披針形で、長さ8～20cm、幅は5～15mmで先端はとがる。葉は全縁で反曲することがある。孢子嚢群は上部中肋の両側につく。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1981)、中池敏之 (1982)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○			○	○						○	○	

ヒメサジラン

Loxogramme grammitoides (Baker) C.Chr.
ウラボシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

山地のやや湿った樹幹や岩石に着生する。コケに混じって生育する。しかし近年コケが生えた岩石や樹木が減少している。

分布

全国分布は北海道～九州。県内分布は小浜市、池田町、大野市、おおい町、美浜町、南越前町、若狭町、坂井市、越前市、福井市、勝山市。

種の特徴

常緑性で、根茎は長くはう、長さ5～10cm前後の小さい葉を出す。葉柄はほとんどなく、葉身の幅は先ほど広く先端は丸い。孢子嚢群は中肋の両側に棒状で逆八の状態につく。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事。

参考文献 渡辺定路 (2003)、岩槻邦男編 (1992)、倉田悟・中池敏夫編 (1981)、中池敏之 (1982)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○			○	○		○	○			○	○	○

コウヤマキ

Sciadopitys verticillata (Thunb.) Siebold et Zucc.
コウヤマキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

分布

本州（福島県以西）～九州（宮崎県まで）に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地の尾根や岩場に生える常緑高木。幹は直立し、高さ30～40m、径約1mになる。長枝にある鱗片葉は褐色膜質、長さ2mm内外。短枝に付く線状葉は長さ6～12cm、幅2～4mm。3～4月頃、20～30個の雄花が長枝に頂生し、1～2個の雌花が長枝の端に付く。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、山野草マニアによる園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか (1989a)、福井県自然保護課編 (2004)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○														○	○

フタバアオイ

Asarum caulescens Maxim.
ウマノスズクサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地は数地区と限定される。園芸目的の採取によって、個体数が激減することもある。

種の特徴

深山の林内に生える多年生草本。茎は地を這い、節がある。葉は枝先に対生または単生し、卵心形、長さ4～8 cm。花期は4～5月。花は葉柄基部につき、紫褐色、直径約1.5 cm。萼の上部は3裂し、反曲して腕形となる。

分布

北海道から九州に分布。県内では奥越及び、丹南、福井市、嶺南東部に見られる。

生育を脅かす要因

森林伐採、園芸採取、道路工事、産地局限。

参考文献 門田裕一ほか (2013)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○			○						○	○	○

ウスバサイシン

Asarum sieboldii Miq.
ウマノスズクサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越では比較的広く分布しているが、生育地は限られ、個体数も少ない。

種の特徴

山地の湿った場所に生える多年生草本。茎は地を這い、節間は短い。葉は茎の先に2個つき、長柄がある。葉身は円心形、長さ5～8 cm、脈上に毛がある。花期は3～4月。花は淡褐色、葉の間に1個つき、壺形、直径約1 cm。3つの萼裂片は平開する。

分布

北海道～九州に分布。県内では奥越及び丹南、嶺南西部に分布する。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、園芸採取。

参考文献 門田裕一ほか (2013)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○						○						○	○	

ゼニバサイシン

Asarum takaoui F.Maek. var. *hisauchii* (F.Maek.) F.Maek.
ウマノスズクサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られ、採集された標本数も少ない。

種の特徴

山地の林内に生える多年生草本。葉は小さく、円形、幅3～4 cm、先は凹むこともある。花期は2～3月。花は淡紫褐色、直径約15 mm、萼筒は短い鐘形。萼筒内部の縦隆起線は20前後。ヒメカンアオイの変種。

分布

本州中部に分布。県内では奥越及び坂井市に分布する。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○				○	○	

カゴノキ

Litsea coreana H.Lév.
クスノキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

分 布

本州（関東地方・福井県以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

暖地に生える常緑高木。高さ 15mにもなる。幹の樹皮はまだらにはげ落ちる。葉は互生し、枝の先にやや車輪状に集まり、長さ 5～9 cm、幅 1.5～4 cm。9 月、葉腋に無柄の散形花序を付ける。雌雄異株。雄花序は花が大きくやや多く付き、雌花序は花が小さく少ない。

生育を脅かす要因

森林伐採などによる生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）、福井県植物研究会（2001）
福井県樹木誌（2011）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○	○											

ショウブ

Acorus calamus L.
ショウブ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

圃場整備、水路改修などによる生育環境の消失や悪化により減少している。

分 布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

水辺に群生する多年草。根茎は横に這ってよく分枝し、節から多数の根を出す。植物体に芳香がある。葉は長さ 50～100 cm、幅 10～20 mm、中肋が突出する。5～7 月頃、葉より短い花茎を出し、長さ 4～7 cmの花序を付ける。苞は長さ 20～40 cm、幅 5～8 mm。

生育を脅かす要因

圃場整備、水路改修、埋め立て、植生遷移などによる生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○				○	○	○	○		○	○	○

ヒロハテンナンショウ（アシウテンナンショウ型）

Arisaema ovale Nakai var. *ovale*
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布限界とし、生育地が限られ、個体数が少ない。

分 布

本州（中部地方と近畿地方の日本海側）に分布する。県内では嶺南、嶺北、奥越地方で広く確認されている。

種の特徴

山地森林やその林縁に生える多年生草本。植物体の高さ 20～50 cm。葉は普通 1 個。葉身は鳥足状に普通 5 全裂ときに 7 裂。仏炎苞が濃紫色～帯紫色のものはアシウテンナンショウと呼ばれていた。

生育を脅かす要因

森林伐採、林道の拡幅や新設などの開発工事による生育環境の破壊マニアによる園芸用採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県植物研究会（1997）、
福井県植物研究会（1998）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○			○	○	○	○			○	○	○

ミスバショウ

Lysichiton camtschatcense (L.) Schott
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は10か所以下で、生育地、個体数とも限定される。

種の特徴

湿地山地に大きな群落をつくる多年生草本。発芽直後の葉間中央から純白の仏炎苞と呼ばれる苞を開く。仏炎苞の中央にある円柱状の部分に小さな花が多数集まった花序がある。開花時期は低地では4～5月、高地では融雪後の5～7月にかけて。葉は花の後に出る。

分布

北海道～本州（中部地方以北の日本海側）に分布する。県内では大野市、勝山市、福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、湿地の乾燥化、踏みつけ、園芸採取が生育を脅かす大きな要因となる。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	○

ナベクラザゼンソウ

Symplocarpus nabekuraensis Otsuka et K.Inoue
サトイモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

2002年に新種として記載された種で、県内での生育が少ないと判断されるが、情報が不足している。

種の特徴

多雪地帯の水湿地に生育する多年生草本。草丈20～50cm。葉は腎円形で、普通長さより幅のほうが広い。花は葉の展開と同時に咲き、仏炎苞は暗紫色で小型、長さ5～8cm程度。花は葉の展開後成熟する。

分布

本州（岩手県～福井県）に分布。県内では南越前町で自生が確認されている。

生育を脅かす要因

水湿地の乾燥化、温暖化の進行による生育環境の変化が生育を脅かす要因となる。

参考文献 大塚孝一ほか（2002）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○									

ハナゼキショウ

Tofieldia nuda Maxim. var. *nuda*
チシマゼキショウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では3地区で生育が確認されている。

種の特徴

山中の岩場に生える。根出葉は線形で長さ5～25cm、先は長くとがり、縁に細かい突起がない。花茎は高さ10～30cm。7～8月、白色の花が総状花序につく。蒴果は卵状楕円形で花被片よりやや長い。

分布

本州（関東地方以西）、九州に分布する。県内では敦賀市、越前市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、園芸採取、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（2001）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○						○				○	

エビアマモ

Phyllospadix japonicus Makino
アマモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

産地が局限されており、存続の基盤が脆弱である。

分布

本州（茨城県、新潟県以南）、九州に分布。県内では福井市での記録がある。

種の特徴

海産の沈水多年生草本。短い根を多く出し、岩に固着する。長さ25～55cm、幅2～2.5cmの線形の葉を密生する。葉は枯死した後も黒褐色の繊維状に残る。3月頃、地下茎から肉穂花序を出す。雌雄異株。

生育を脅かす要因

海岸開発、改修工事。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

オオアマモ

Zostera asiatica Miki
アマモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

産地が局限されており、存続の基盤が脆弱である。

分布

北海道に分布。県内で越前町での記録がある。

種の特徴

海底の砂地に生える多年草。タチアマモに似ているが、水中茎の上部にも花をつける。

生育を脅かす要因

海岸開発、改修工事。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○										

スゲアマモ

Zostera caespitosa Miki
アマモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

産地が局限されており、存続の基盤が脆弱である。

分布

北海道～本州（宮城県以北の太平洋岸、日本海海岸全域）に分布。県内では坂井市での記録がある。

種の特徴

海底の砂泥に生える多年草。アマモに似るが根茎の節間が伸びず株状になる。葉は長さ50～140cm、幅3～7mmで束生する。

生育を脅かす要因

海岸開発、改修工事。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						

アマモ

Zostera marina L.
アマモ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

埋め立てなどの海岸の改修工事や海水の汚濁により減少している。

種の特徴

海底の砂泥に生える多年草。根茎は径2～5mmで横に這い、先端からは葉と花序をつける枝を出し、節からは根と葉だけをつける枝を出す。葉は長さ50～100cm、幅3～7mmの扁平なりんぼ状。花期は4～5月。水面近くに多数の花序をつける。

分布

北海道～九州に分布。県内ではおおい町、美浜町、敦賀市での記録がある。

生育を脅かす要因

海岸開発、改修工事、海水の汚濁。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○		○											

コバノヒルムシロ

Potamogeton cristatus Regel et Maack
ヒルムシロ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は1箇所のみで、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるが、情報が不足している。

種の特徴

湿地や用水路に生育する多年生草本で、小型の浮葉植物。浮水葉は長楕円形で基部はくさび形。沈水葉は互生し、狭線形。地下茎は横に這い、一節おきに水中茎を出す。花期は5～9月、穂状花序をつける。果実は円形で背面にとさか状の突起がある。

分布

本州に分布する。県内では三方町で確認されている。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川改修工事が生育地、個体数とも減少させている。また自然遷移も進んでいる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982a）、福井県自然保護課編（2004）
福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○																

コバイケイソウ

Veratrum stamineum Maxim.
シュロソウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られ、個体数もそれほど多くない。

種の特徴

亜高山帯の湿った草地に生える多年生草本。茎は高さ0.5～1m。葉は互生し、広楕円形、長さ10～20cm、葉脈が目立つ。花期は6～8月。茎の先に円錐花序をつける。花は白色、花被片は6個。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では奥越、池田町、南越前町に分布する。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 門田裕一ほか（2013）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○	○						○	○	

ホトトギス

Tricyrtis hirta (Thunb.) Hook.
ユリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

細井與三右衛門氏が1934年に越前市で標本を採集しているが、その後は確認されておらず、現状不明である。

分布

北海道南西部、本州（関東地方以西、福井県以南）、四国、九州に分布し、県内では鯖江市（1933年）、越前市（1934年）で採集されている。

種の特徴

山地の半日陰に生える多年草。茎は立つか斜面から下がり、長さ40～80cm、褐色の毛が密生する。葉は互生し、長楕円形～披針形、長さ8～20cm、左右に並ぶ。花期は8～10月。葉腋に2～3個、白地に紫色の斑点が多い花をつける。

生育を脅かす要因

園芸採取。

参考文献 若杉孝生（2008a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
												○		○			

ツチアケビ

Cyrtosia septentrionalis (Rchb.f.) Garay
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が嶺北や嶺南の一部地域に限られており、個体数が少ない状態となっている。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北、嶺南に生育している。

種の特徴

落葉樹林やササ群落に生える。腐生ランで根茎は太く横に長く這う。地上茎は肉質で硬い。高さ50～100cm。鱗片葉をつけるが緑葉はない。花は複総状花序で色は黄褐色。果実はバナナ状で長さ6～10cm、径約3cm赤色に熟す。

生育を脅かす要因

森林開発、登山道工事等による生育環境の悪化等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、大橋広好ほか（2015）、橋本保ほか（1991）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○										○	

カキラン

Epipactis thunbergii A.Gray
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の湿地生育しており、環境の悪化により、個体数が減少傾向である。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北、嶺南の一部の湿地に分布している。

種の特徴

山地の日当たりのよい湿地に生える。根茎は横に伸び、節からひげ根を出す。茎は高さ30～70cm。葉は5～10枚発生し、卵状披針形で基部は鞘となり茎を抱く。長さは7～12cm。花は茎頂に10個程度つける。大きさ10mm。花色は黄褐色。花期は6～8月。

生育を脅かす要因

生育地の湿地付近の開発、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、大橋広好ほか（2015）、橋本保ほか（1991）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○		○	○			○	○	○	○		○	○	○

オニノヤガラ

Gastrodia elata Blume
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数が限られていてあまり多くない。森林開発など生育環境の変化で個体数の減少が考えられる。

種の特徴

山地の森林に生える。腐生植物で地下には楕円形の塊茎がある。花茎は円柱状で高さ 40～100 cm、黄褐色の膜質の長さ 1～2 cm の鱗片葉をつける。花を総状に 20～50 個つける。短い花柄があり、花は黄褐色。花期は 9～10 月。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北の一部の地域に分布している。

生育を脅かす要因

道路工事による森林開発など。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)、遊川知久ほか (2015)、前川文夫 (1971)、大橋広好ほか (2015)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○						○						○	○	

アケボノシュスラン

Goodyera foliosa (Lindl.) Benth. ex C.B.Clarke var. *laevis* Finet
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が限られており、個体数が少ない状態となっている。今回の調査でも、山地での生育地の確認ができたが、登山道の拡張、踏みつけや崩落などにより、個体数は少なくなっている。

種の特徴

山地の林下に生える。茎は地表を這い、上部は立ち上がり、高さ 5～10 cm。葉は卵状楕円形で互生し、長さ 2～4 cm。幅 1～2 cm。先は尖り、基部は左右不相称。縁は波うつ。花茎は穂状花序で 3～7 個の花を持つ。花は淡紅紫色で偏側のにつける。

分布

国内では北海道、本州中北部、四国、九州に分布。県内では嶺北、嶺南に分布している。

生育を脅かす要因

森林開発や道路工事等による。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)、大橋広好ほか (2015)、橋本保ほか (1991)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○			○	○			○	○		○	○	○

クモキリソウ

Liparis kumokiri F.Maek.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が限られており、登山道の拡張、踏みつけや崩落などにより、個体数は少なくなっている。

種の特徴

山地の林下や岩上に生える。葉は基部から出て 2 枚。楕円形で、長さ 5～12 cm。幅 3～5 cm。葉脈が隆起し、葉縁は波うつ。花茎は高さ 10～20 cm、翼状の稜がある。5～15 個の花をつける。

分布

国内では日本全土に分布。県内では主に嶺北に分布している。

生育を脅かす要因

登山道整備、踏圧。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)、大橋広好ほか (2015)、橋本保ほか (1991)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○	○	○	○		○	○	○	○

コケイラン

Oreorchis patens (Lindl.) Lindl.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では環境悪化等により、個体数は少なくなっている。

分布

国内では北海道～九州に分布。県内では嶺北と嶺南に分布している。

種の特徴

山地の林下や谷間のやや湿っぽい場所に生える。偽球茎は卵形で葉は基部から出て2枚。披針形で、長さ20～40cm。幅3～5cm。花茎は高さ30～40cm。多数の花を総状につける。花は黄褐色で唇弁は白色斑点があり、基部近くで3裂する。

生育を脅かす要因

森林開発や道路工事等による。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、大橋広好ほか（2015）、橋本保ほか（1991）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○		○	○	○

ジンバイソウ

Platanthera florentii Franch. et Sav.
ラン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地が嶺北や嶺南の一部地域に限られており、個体数が少ない状態となっている。今回の調査でも、深山の生育地の確認ができたが、登山道の拡張、踏みつけや崩落などにより、生育数は少なくなっている。

分布

国内では北海道、本州中北部、四国、九州に分布。県内では嶺北、嶺南に分布している。

種の特徴

ブナ帯の林下に生える。葉は2個で楕円～狭長楕円形、長さ5cm。巾3～5cm。葉の表面は脈があり光沢がある。花茎は高さ20～40cm。花は径7mm程度の淡緑色で、まばらに5～10数個つける。

生育を脅かす要因

登山道工事等や雪崩等による、生育環境の消失。

参考文献 大橋広好ほか（2015）、橋本保ほか（1991）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○				○	○	○	○			○	○	○

オヒガンギボウシ

Hosta longipes (Franch. et Sav.) Matsum. var. *aequinoctiantha* (Koidz. ex Araki) Kitam.
キジカクシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では3地区で確認されている。個体数も少なく、生育環境の改変で絶滅が危惧されるので、今回要注目とした。

分布

本州（西部）に分布する。県内では若狭町、敦賀市、大野市で確認されている。

種の特徴

山地の湿った樹上または岩上に生え、葉は厚く、卵形で長さ10～13cm。暗緑色で紫黒色の斑点があり、裏面の脈は平滑。葉柄は長い。花茎は高さ30cm内外。花は8～9月に開き、苞は花茎が伸びる時、開出して星状に見える。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、自然遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○					○										○	

イヌノヒゲ

Eriocaulon miquelianum Koern.
ホシクサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内各地区に生育するが、湿原環境の悪化で絶滅が危惧されるため今回新たに要注目とした。

種の特徴

無茎の一年草。葉は線形で長さ6～20 cm、中部の幅は1～3 mm、7～9脈で格子状、先はとがる。花茎は高さ5～10 cm、4～5肋あってねじれる。鞘は長さ4～8 cm。種子は倒卵状楕円形で長さ約1 mm、表面に微小なかぎ毛が多い。

分布

本州～九州に分布する。県内ではおおい町、小浜市、美浜町、敦賀市、越前町、あわら市、越前市、鯖江市、福井市、勝山市、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

湿原開発、自然遷移。

参考文献 若杉孝生 (2008b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○	○	○					○	○	○	○	○	○

ドロイ

Juncus gracillimus (Buchenau) V.I.Krecz. et Gontsch.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

塩性湿地という特殊な環境に生え、生育地が限定される。

種の特徴

海岸の日当たり良い湿地などに生育する多年草。茎は高さ60～70 cm、円筒状。葉は線形で上面は凹む。花期は5～7月。花序は頂生し、大きいものでは長さ15 cmになる。蒴果は褐色～赤褐色で楕円形～倒卵形、やや光沢があり、花被片より長い。

分布

北海道～九州に分布し、県内では坂井市～敦賀市にかけての海岸で見られる。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 福井県植物研究会 (1997)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○		○	○				○						○

クモスズメノヒエ

Luzula arcuata (Wahlenb.) Sw. subsp. *unalaschkensis* (Buchenau) Hultén
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

奥越の深山の一部と亜高山帯にのみ生育する。

種の特徴

高山の草原に生える多年草。茎は高さ15～25 cm。根出葉は多数あり、線形、長さ5～10 cm、幅2～3 mm。花期は7～8月。花序は頂生し、先は垂れ下がる。

分布

北海道（大雪山）、本州中部に分布し、県内では奥越の山地～亜高山帯に見られる。

生育を脅かす要因

産地局限、登山者による踏圧。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

セイタカヌカボシソウ

Luzula elata Satake
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

標本が2点あるのみで、生育地、個体数ともに極めて少ないと考えられる。1973年と1990年に林幸子氏によって採集された標本が、その後、宮本太氏によって同定され、2008年に報告されている。

種の特徴

温帯の森林下に生育する多年草。近縁のミヤマヌカボシソウとは、短い走-out枝があること、蒴果が長さ3.5～4mm、種枕が長さ1.5～2mmと大きいことで区別される。

分布

北海道、本州（中部地方以北）に分布し、県内では勝山市と敦賀市で標本が採集されている。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 若杉孝生（2008b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○									○		

アサギスズメノヒエ

Luzula lutescens (Koidz.) Kirschner et Miyam.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

低山～亜高山で確認されているが、個体数は少ない。

種の特徴

山野に生える多年草。茎は高さ20～40cm。根出葉は多く、長さ6～15cm、幅2～5mm。茎葉は1～2個で長さ5～10cm、縁に白い長毛がある。花期は5～7月。頭花は2～3個で、2～3花からなり、蒴果が黄色を帯びる。

分布

北海道、本州、四国に分布し、県内では嶺北～嶺南にかけて確認されている。

生育を脅かす要因

山地の開発。

参考文献 若杉孝生（2008b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○											○	○	○

ミヤマスズメノヒエ

Luzula nipponica (Satake) Kirschner et Miyam.
イグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の亜高山の一部にのみ分布する。

種の特徴

亜高山に生える多年草。茎は高さ15～20cm。葉は短く、幅2～3mm、縁にまばらに毛がある。花期は4～7月。花穂は黒褐色で1～5個の頭花をつける。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では奥越の亜高山の一部に分布する。

生育を脅かす要因

産地局限、登山者による踏圧。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

イトテンツキ

Bulbostylis densa (Wall.) Hand.-Mazz. var. *capitata* (Miq.) Ohwi
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

既知の生育地は1箇所である。情報が不足しているため、要注目とした。

種の特徴

日当たりの良い草地に生える一年草。小穂は頭状に集まり、鱗片は濃褐色、先は芒とならず反曲しない。

分布

本州(福島県以西)から九州に分布。福井市で確認されている。

生育を脅かす要因

土地造成。道路の舗装。除草剤の散布。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																	○

マツバスケ

Carex biwensis Franch.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は9箇所あるが、圃場整備や用水路の改修で生育環境が狭められているため、要注目とした。

種の特徴

低地の湿地に生える多年草。小穂は1個を頂生し、上部の雄花部は雌花部と同長または少し長い。小穂は他のハリスゲよりも長い。

分布

北海道～九州に分布。嶺北、嶺南で確認されている。

生育を脅かす要因

湿地開発。水路改修。土地造成。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○							○		○		

チャシバスケ

Carex caryophyllea Latour. var. *microtricha* (Franch.) Kük.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は3箇所、どの生育地も個体数が少ないこと、情報も不足しているため、要注目とした。

種の特徴

山地や河川敷の草地に生える多年草。長い匍枝を伸ばし疎生する。葉は有花茎より短く、雌小穂の鱗片は褐色で、果胞が大きい。

分布

北海道～本州(中部地方以北)に分布。県内では嶺北、嶺南で確認されている。

生育を脅かす要因

自然遷移。大規模な河川改修。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○								○						○	

タニガワスゲ

Carex forficula Franch. et Sav.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は8箇所だが、どの生育地も個体数が多くないので、要注目とした。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北で確認されている。

種の特徴

溪流や山地の湿地に生える多年草。叢生して大きい株になる。葉の表面は濃緑色、裏面は粉白色である。果胞の嘴は長く両側がざらつく。

生育を脅かす要因

用水路改修、湿地開発。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○		○			○	○	

イトキンスゲ

Carex hakkodensis Franch.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は1箇所であるが、生育地は開発の心配のない亜高山であるため、要注目とした。

分布

北海道～本州（中部地方以北）。県内では嶺北の亜高山で確認されている。

種の特徴

高山の湿った砂礫草に生える多年草。葉は茎より短く、縁はざらつく。花序は1個で雌雄性、雄部は頂部につき短く、雌部は長く密に花をつける。

生育を脅かす要因

温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハタベスゲ

Carex latisquamea Kom.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

既知の生育地は1か所だが、現在は確認できずに奥越高原牧場造成以前に池ヶ原湿原で採集された標本があるのみ。

分布

北海道、本州（中部地方以北）、九州に分布。県内では池ヶ原湿原で確認された。

種の特徴

湿った草に生える多年草。葉は深緑色で、まばらに毛がある。基部の鞘は赤褐色でまばらに毛がある。

生育を脅かす要因

湿地開発、埋立。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

センダイスゲ

Carex lenta D.Don var. sendaica (Franch.) T.Koyama
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は8箇所だが、各生育地の個体数は減少している
ので、要注目とした。

分 布

本州（岩手県以南）から九州に分布。県内では嶺北、嶺南の
沿岸部で確認されている。

種の特徴

海岸に近い平地から低山地の疎林内に生える多年草。ナキリ
スゲに似るが、小型で、ゆるく叢生し、長い匍匐根茎がある。

生育を脅かす要因

土地造成、森林伐採。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○	○	○	○				○		○				○

タチスゲ

Carex maculata Boott
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は14箇所だが、生育地の個体数は少なく、開
発や環境変化等により容易に減少する恐れがあるので、要注
目とした。

分 布

本州（宮城県以南）から九州に分布。県内では嶺北、嶺南で
確認されている。

種の特徴

湿った草地に生える多年草。葉の下面は乳頭状突起を密布し
粉緑色。果胞は全面に乳頭状突起を密布する。柱頭は3岐す
る。

生育を脅かす要因

土地造成、湿地開発。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○					○	○		○		○

ノゲヌカスゲ

Carex mitrata Franch. var. aristata Ohwi
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は8箇所であるが、情報不足の面もあるので、
要注目とした。

分 布

本州（福島県以南）から九州に分布。県内では嶺北、嶺南で
確認されている。

種の特徴

森林の林縁や路傍に生える多年草。アオスゲ類と間違われる
ことが多いが、基部の鞘が褐色であること、雄小穂が細く糸
状であることで区別される。

生育を脅かす要因

林道拡幅、土地造成。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○					○							○

イトヒキスゲ

Carex remotiuscula Wahlenb.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

既知の生育地は1か所で、1回しか採集されていない。今後情報を集める必要があるために要注目とした。

分布

北海道～本州（長野県、福井県）に分布。大野市五箇地区で採集されている。

種の特徴

山地の林床や細流の脇等に生える多年草。植物全体が繊細で細く、小穂が少なく、果胞の長さ約3mmと小さい。

生育を脅かす要因

土地造成、森林伐採、温暖化による生育環境の変化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒメモエギスゲ

Carex tristachya Thunb. var. *poicilliformis* (Boott) Kük.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は十数箇所であるが、生育地の開発や環境変化等により容易に減少する恐れがあるので、要注目とした。

分布

本州（関東以西）から九州に分布。県内では嶺北、嶺南で確認されている。

種の特徴

林床や林縁に見られる多年草。モエギスゲに似るが、雄鱗片は縁が癒合して筒状（コップ状）になる。

生育を脅かす要因

土地造成、林道拡幅。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○					○		○				○

ヒメガヤツリ

Cyperus tenuispica Steud.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は4箇所だが、近年は確認されていないので、要注目とした。

分布

本州から九州に分布。嶺北、嶺南で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い湿地や水田などに生える多年草。コアゼガヤツリに似るが、匍匐根茎がなく、小穂の鱗片に芒がないことで区別できる。

生育を脅かす要因

水田の圃場整備、土地造成、農薬の散布。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○							○				○					○

オオヌマハリイ

Eleocharis mamillata H.Lindb. var. *cyclocarpa* Kitag.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 19 か所だが、生育地の開発等の環境変化により容易に減少する恐れがあるので、要注目とした。

分布

北海道、本州、九州に分布。嶺南にも分布するが、大部分は嶺北である。

種の特徴

山地の湿地や池の周辺に生える多年草。疎らに生え長い匍匐根茎がある。茎は平滑、黄緑色で軟らかい。刺針状花被片は果実の 2 倍。

生育を脅かす要因

湿地開発、埋立、土地造成等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○	○	○								○	○	

イソヤマテンツキ

Fimbristylis sieboldii Miq. ex Franch. et Sav.
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 16 か所だが、生育地の開発等の環境変化により容易に減少する恐れがあるので、要注目とした。

分布

本州（千葉県、石川県以西）～琉球に分布。県内では、嶺南を中心に海岸で確認されている。

種の特徴

海岸の岩窟や塩性湿地に生える多年草。茎の基部は肥厚し、少数の短い葉をつける。花序は枝分かれせず、4～5 個の小穂をつける。

生育を脅かす要因

海岸開発、土地造成。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○						○						○

イトヌノハナヒゲ

Rhynchospora faberi C.B.Clarke
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育環境は人為的影響を受けやすい所にあるので、要注目とした。

分布

北海道～九州に分布。県内では美浜町、敦賀市、越前町、南越前町、あわら市、勝山市、大野市で確認されている。

種の特徴

湿地に生える小型の多年草。花茎は高さ 20 cm 前後。刺針状花被片は瘦果と同長またはやや長くて太く、下向きにざらつく。

生育を脅かす要因

土地造成、湿地開発、道路拡幅。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○		○	○	○					○		○	○	

イヌノハナヒゲ

Rhynchospora rugosa (Vahl) Gale
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 13 か所だが、湿地環境の消失や生育条件の悪化により減少しているため、要注目とした。

分布

本州（静岡県以西）～九州に分布。県内では嶺北、嶺南で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い湿地に生える多年草。有花茎は高さ 30～100 cm。刺針状花被片は瘦果の 2 倍以上、まばらに上向きにざらつく。

生育を脅かす要因

土地造成、湿地開発、道路拡幅。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○	○					○	○	○	○	○	○

ミヤマホタルイ

Schoenoplectus hondoensis (Ohwi) Soják
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 10 か所だが、湿地環境の消失や、生育条件の悪化により減少傾向にあるため、要注目とした。

分布

北海道～本州に分布。県内では敦賀市、南越前町、勝山市、大野市で確認されている。

種の特徴

山地（ブナ帯から亜高山帯）の湿地に生える多年草。瘦果はホタルイより小さく、刺針状花被片は瘦果より長く、下向きにざらつく。

生育を脅かす要因

湿地開発、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○							○	○	

フトイ

Schoenoplectus tabernaemontani (C.C.Gmel.) Palla
カヤツリグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地は 14 か所だが、生育環境が人為的影響を受けやすいところにあり、個体数が減少しているため、要注目とした。

分布

北海道～南西諸島に分布。嶺北、嶺南の小さい池などで確認されている。

種の特徴

平地や山地の浅い池などに生える大型の多年草。横走る匍匐根茎を持つ。有花茎は高さ 1～2m。刺針状花被片は瘦果とほぼ同長。

生育を脅かす要因

湿地開発、埋立、土地造成。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○			○		○		○			○	○

テンキグサ

Leymus mollis (Trin. ex Spreng.) Pilg.
イネ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られ、生育数が少ない。

分布

国内分布は、北海道、本州、九州の日本海側の海岸。県内分布は、坂井市、あわら市、福井市、南越前町、敦賀市、美浜町、高浜町。

種の特徴

長い地下茎がある。茎は円柱形、高さ1～1.5m。葉は厚く硬く、長さ20～40cm、幅7～15mm。花序は茎の先に穂状につき、長さ15～25mmの無柄の小穂をすき間なくつける。

生育を脅かす要因

海岸の砂浜に生えるため、海岸開発等の自然環境の変化により生育地が減少。

参考文献 福井県植物研究会（1997）、林弥栄・平野隆久（2013）、佐竹義輔ほか（1982a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○	○		○		○			○		○				○

セイタカヨシ

Phragmites karka (Retz.) Trin. ex Steud.
イネ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では生育地が少ない。

分布

国内分布は本州～九州。県内分布は、嶺南、嶺北。

種の特徴

川岸や海岸近くのやや湿っぽいところに生える。アシよりは大きい。茎の高さは2～4m。葉は長さ40～70cm、幅2～4cm、斜上して下垂しない。円錐花序は大きく長さ30～70cm。

生育を脅かす要因

環境の変化、植生の遷移等。

参考文献 福井県植物研究会（1998）、佐竹義輔ほか（1982a）、林弥栄・平野隆久（2013）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○								○	○	○		○		○

ルイヨウショウマ

Actaea asiatica H.Hara
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は11箇所である。県内の生育地は奥越に限られている。

分布

北海道～九州に分布する。県内では奥越の山地～垂高山帯で確認されている。

種の特徴

山地の林中に生える多年草。茎の高さは40～70cmで、分枝しない。根出葉は無く、茎葉は2～3枚で、互生、下部では2～4回3出複葉、小葉は卵形または狭卵形で長さ4～10cm。5～6月頃、茎頂に短い総状花序を出す。花は白色。果実は液果で黒色。

生育を脅かす要因

生育地である森林の伐採。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

アズマイチゲ

Anemone raddeana Regel
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は13箇所である。前回の調査結果からは県域絶滅危惧Ⅰ類とされたが、その後、新たな生育地が6箇所判明したため、要注目とした。

種の特徴

落葉広葉樹林の林縁や林床に生える多年草。地下茎は横にはい、やや芋状にふくらむ。根出葉と茎葉がある。花茎は高さ15～20 cm。茎葉は3枚が輪生し、有柄、3出複葉で、小葉は鋸歯はあっても深く切れ込まない。3～5月頃、直径2～3 cmの花を1個頂生する。

分布

北海道～九州に分布する。県内では、勝山市、大野市、福井市、池田町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林の伐採。植生遷移による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○	○	○

リュウキンカ

Caltha palustris L. var. *nipponica* H.Hara
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は13箇所である。県内の生育地は奥越地方と岐阜県境付近に限られており、生育基盤も脆弱なため、要注目とした。

種の特徴

浅い水中や湿地に生える多年草。根出葉は心円形～腎円形、基部は深くへこむ。5～7月頃、茎頂および茎葉の腋より1個ずつ花をつける。花は直径約2 cm。花茎は花後も直立し、花柄は伸びて5～11 cmになる。

分布

本州、九州に分布する。県内では坂井市、勝山市、大野市、南越前町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の開発。植生遷移で大型の植物が増加すること等による生育環境の悪化。園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○			○				○	○	

コボタンツル

Clematis apiifolia DC. var. *bitemata* Makino
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は13か所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内での生育地は限られているため、要注目とした。

種の特徴

低地林の林縁に生育し、ほかの植物に絡んで生活するつる性の半低木。葉は2回3出複葉。小葉は卵形、先は鋭くとがり、不ぞろいな鋸歯がある。8～9月頃、葉腋より3出集散状に多数の花をつける。花は直径1.5～2 cm。

分布

本州（関東地方、中部地方）に分布する。県内では、勝山市、大野市、敦賀市、おおい町に分布する。

生育を脅かす要因

生育地である森林の伐採。植生遷移による生育環境の悪化。森林の林縁に生えるため、道路の拡幅などの影響を受けやすい。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○									○	○	

トウゴクサバノオ

Dichocarpum trachyspermum (Maxim.) W.T.Wang et P.K.Hsiao
キンポウゲ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2箇所である。県内産の標本も報告例も少なく、判断するための情報が不足しているため、要注目とした。

種の特徴

山地に生える多年草。根茎は発達しない。茎の高さは10～20cm。基部は複数の根出葉を束生する。花は全開せず、やや垂れ下がって咲く。茎の基部に閉鎖花をつける。種子には密に小さな突起がある。

分布

本州（宮城県以南）～九州の暖温帯に分布する。福井県では、池田町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の森林の開発や植生遷移による生育環境の悪化が考えられる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○								

ツゲ

Buxus microphylla Siebold et Zucc. var. *japonica* (Mull.Arg. ex Miq.) Rehder et E.H.Wilson
ツゲ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

種の特徴

山地に生える常緑の低木または小高木で、高さ1～6mになる。小枝には4稜がある。葉は対生し、長さ1～3cm、幅0.6～1.5cm、厚く光沢があり、先端がへこむ。葉縁は全縁、へりはやや裏に巻く。3～4月頃、淡黄色の花を枝先や葉腋に付ける。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採などによる生育環境の消失や悪化のほか、山野草マニアによる園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989b）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○		○			○			○				○	

ヒュウガミズキ

Corylopsis pauciflora Siebold et Zucc.
マンサク科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内での生育地が限られている。

種の特徴

山地に生える低木で、高さ1.2～2mになり、よく分枝して広がる。葉は長さ2～3cm、幅1.5～2.5cm、先はとがり、表面は無毛、裏面はやや白色を帯び、脈上に伏した長毛が散生する。4月、葉に先立って長さ1～2cmの短い穂状花序を下垂し、2～3個の黄色の花を付ける。

分布

石川県、福井県、京都府、兵庫県の日本海側に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採、植生遷移などによる生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○			○	○					○	○				

コマガタケスグリ

Ribes japonicum Maxim.
スグリ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

採集された標本は1点のみ。生育地が限られ、非常に稀な種である。

分布

北海道、本州、四国に分布。県内では奥越の深山で採集記録がある。

種の特徴

亜高山帯に生える落葉低木。葉は互生し、長さ12～25cm、掌状に5中裂、粗い重鋸歯がある。花期は5～6月。総状花序は長さ10～20cm。萼片は5個、花弁は白色、小さい。果実は球形、直径8mm、赤黒色に熟す。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献 茂木透他 (2000b)、福井県植物研究会 (1999)、福井県樹木誌 (2011)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

コガネネコノメソウ

Chrysosplenium pilosum Maxim. var. *sphaerospermum* (Maxim.) H.Hara
ユキノシタ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地が限られ、個体数も多くないと判断されるが、情報不足。

分布

本州（関東以西）～九州に分布する。県内では池田町、大野市で確認されている。

種の特徴

山地の谷沿いの湿った所に生える多年生草本。草丈4～10cm。茎には白毛が少しあり、根元から出る葉は花時には枯れ、扇形～円形。縁には5～10個の丸い鋸歯がある。茎につく葉は小型で1対。花弁はなく、萼片は4個、鮮黄色または黄緑色で直立し、先端は円形。

生育を脅かす要因

森林伐採や道路工事等による生育環境の悪化。

参考文献 佐藤義輔ほか (1982a)、福井県自然保護課編 (2004)、福井県植物研究会 (1997)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○							○	

チツパベンケイ

Hylotelephium sordidum (Maxim.) H.Ohba
ベンケイソウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。本県を分布の西限とする。

分布

本州（中北部）に分布。県内では大野市、池田町、越前市、高浜町に見られる。

種の特徴

山地の樹上や岩上に生える多年生草本。茎と葉は汚赤紫色。茎は斜上し、長さ10～25cm。葉は互生、時に対生し、卵形、長さ2.5～4.5cm、幅1.5～3cm、低い鋸歯がある。花期は9～10月。花序は茎の先に集まる。花弁は淡黄緑色、長さ3.5mm、葯は橙褐色。

生育を脅かす要因

森林伐採、産地局限、道路工事、自然遷移。

参考文献 佐竹義輔ほか (1982b)

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○						○			○				○	

ホザキノフサモ

Myriophyllum spicatum L.
アリノトウグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

河川等の生育環境の消失や水質悪化などにより減少傾向にあるので、要注目とした。

分布

北海道～九州に分布する。県内では小浜市、若狭町、あわら市、永平寺町、坂井市、福井市、勝山市で確認されている。

種の特徴

池や沼に生える多年草。茎は細く伸びて、枝をわけ、長さ30～150 cm。水中にある葉は輪生し、4個、卵形、柄はなく、羽状に深裂。花期は5～10月。頂生する穂状花序は水面より突き出て直立し、上部に雄花、下部に雌花を付ける。果実は4分果で、分果は長楕円形。

生育を脅かす要因

池沼開発、河川開発、水質汚濁。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○					○	○		○		○		○

モメンツル

Astragalus reflexistipulus Miq.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

昭和8年発行の福井県植物目録に吉田郡吉野（現永平寺町）で採集された記録があるが、その後は確認されていない。

分布

北海道～本州に分布。県内では永平寺町で記録がある。

種の特徴

山麓の草地に生える多年草。茎は這って上部は斜上する。小葉は長卵形～長楕円形、長さ2～5 cm。花期は6～8月。長さ2～3 cmの花序に黄色の花を8～15個つける。

生育を脅かす要因

管理放棄、遷移進行。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
										○							

ニワフジ

Indigofera decora Lindl.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内のあちこちで採集記録があるが、個体数は少ない。

分布

本州（中部、近畿地方以北）～九州に分布し、県内一円で記録がある。

種の特徴

山地の川岸の岩場に生える低木で高さ60 cmほどになる。葉は9～13枚の小葉からなる。花期は5～6月。長さ10～20 cmの総状花序に紅紫色の花が密につく。

生育を脅かす要因

園芸用の採取。

参考文献

福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○		○			○		○		○		○	○

ツルフジバカマ

Vicia amoena Fisch. ex Ser.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内のあちこちで採集記録があるが、稀にしかみられない。

分布

北海道～九州に分布し、県内一円で記録されている。

種の特徴

山野の草地にみられるつる性の多年草。葉は長さ 15 cm で先端は巻きひげになり、小葉は 10～16 枚で互生する。花期は 8～10 月、長さ 4～15 cm の総状花序に紅紫色の花が偏ってつく。

生育を脅かす要因

草地の開発、管理放棄。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○					○				○		○	○

オオバクサフジ

Vicia pseudo-orobus Fisch. et C.A.Mey.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越地方で記録があるが、最近 30 年の情報はない。

分布

北海道から九州に分布し、県内では大野市と勝山市で記録がある。

種の特徴

山野の草原に生えるつる性の多年草。葉は長さ 7～20 cm、先端は巻きひげとなる。小葉は互生し、4～10 枚。花期は 8～10 月。長さ 4～7 cm の総状花序に青紫色の花を多数つける。

生育を脅かす要因

草地の開発、管理放棄。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

エビラフジ

Vicia venosa (Willd. ex Link) Maxim. subsp. *cuspidata* (Maxim.) Y.Endo et H.Obashi var. *cuspidata* Maxim.
マメ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

1996 年に 2 箇所まで採集されたが、現状は不明。

分布

本州の日本海側（山形県～京都府）に分布。県内では池田町と福井市で記録されている。

種の特徴

山地に生える多年草。茎は直立し、高さ 80～100 cm。葉は 8～12 枚の小葉をほぼ対生につける。小葉の先は長くとがる。花期は 6～9 月。総状花序に紅紫色または青紫色の花を偏ってつける。

生育を脅かす要因

森林伐採、遷移の進行。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○								○

ミチノクナシ

Pyrus ussuriensis Maxim.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

種の特徴

高さ15mになる落葉高木。樹皮は老木では短冊状にはがれる。長枝と短枝があり、短枝は刺状に残ることがある。葉は卵状楕円形または広卵形で、葉縁は芒状の鋭鋸歯があり、両面は軟毛、のちに無毛となる。5月、開葉と同時に開花する。花は白色。果実は小さな球形で、褐色に熟す。

分布

本州、九州（北部）に分布する。県内ではおおい町、若狭町、越前町、池田町、勝山市、大野市で確認される。

生育を脅かす要因

森林伐採、河川改修が生育を脅かす。

参考文献 池谷祐幸ほか（2003）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○					○		○						○	○	

コジキイチゴ

Rubus sumatranus Miq.
バラ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も少ないと推定されるが、カテゴリーを決めるだけの現在の情報が不足している。

種の特徴

暖地の森林の林縁～林内に生育する。茎は高さ1mほどになり、上部は倒れて他の植物に寄りかかることが多い。全体に腺毛。葉は3～7枚の小葉からなる複葉。裏面脈上には腺毛がある。茎には刺があり、長い腺毛が密生している。花期は5～6月。白色の花を開く。

分布

本州（中部地方以南）～九州に分布する。県内ではおおい町、小浜市、若狭町、南越前町、池田町、勝山市、福井市、大野市で確認される。

生育を脅かす要因

森林伐採、道路工事、自然遷移が生育を脅かす。

参考文献 福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○			○	○						○	○	○

ユキヤナギ

Spiraea thunbergii Siebold ex Blume
バラ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育個体数が限られ、鑑賞用の山野草としての採取により減少していると考えられるが、情報が不足している。

種の特徴

川沿いの岩の上等に生えるが、庭にも植えられる落葉低木。高さ1～2mになり、束生する。葉は互生し無毛。春に新葉がでると同時に数個の白色の小花が枝上に連続してならび、穂状になる。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では、おおい町、福井市、勝山市、大野市で確認される。

生育を脅かす要因

河川工事、園芸のための採取が生育を脅かす。

参考文献 牧野富太郎（1974）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○													○	○	○

ヒメイトビ

Ficus thunbergii Maxim.
クワ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区のみである。

分布

本州（千葉県以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

暖地の林内に生える常緑藤本。茎から根を出して他物によじ登る。葉は厚く、長さ2～6 cm、幅1～3 cm、全縁、表面は無毛、裏面は脈上に毛がある。7～8月頃、葉腋に花囊を1個付ける。花囊は球形で径約1 cm、白色の毛が散生する。雌雄異株。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）、福井県植物研究会（2001）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ツクバネガシ

Quercus sessilifolia Blume
ブナ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

分布

本州（宮城県・富山県以西）～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

沢沿いの急斜面等に生える常緑高木。高さ20m、径60 cmに達する。葉は互生し、ふつう長さ4～12 mmの柄があり、長さ5～12 cm、上半部には少数のやや鋭い低い鋸歯がある。5月、新枝の下部に雄花序が数個付いて下垂し、新枝の上部の葉腋に雌花序が直立する。

生育を脅かす要因

森林伐採などによる生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○											○

シラカンバ

Betula platyphylla Sukaczew var. *japonica* (Miq.) H.Hara
カバノキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県を分布の西限とし、生育地は限定される。

分布

北海道、本州中部以北に分布。県内では奥越にのみ見られる。

種の特徴

日当たりのよい山地に生える落葉高木。樹皮は白色、薄く剥かれる。葉は短枝では1対つき、三角状広卵形、長さ6～11 cm、重鋸歯がある。花期は4月。雌雄同株。雌花序は短枝につき、果穂になると下向きになる。別名シラカバ。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 茂木透他（2000a）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ミゾハコベ (狭義のイヌミゾハコベを除く)

Elatine triandra Schkuhr var. *pedicellata* Krylov
ミゾハコベ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

開発や農業の多用等による生育環境の消失や悪化により減少している。

分布

本州～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

水田や湿地等に生えるやわらかい小型の一年草。茎は円く地に這って分枝し、長さ3～10cm、節から白いひげ根を下ろす。葉は対生し、長さ5～12mm、幅2～3mm、葉柄はごく短いかまたはない。6～8月頃、葉腋に淡紅色の花が1個付く。花は径約1mm、花柄は短い。

生育を脅かす要因

池沼開発、湿地開発、農業汚染、植生遷移等による生育環境の消失や悪化。

参考文献 佐竹義輔ほか(1982b)、福井県自然保護課編(2004)、福井県植物研究会(2001)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○		○		○		○	○	○		○		○

ヒゴスミレ

Viola chaerophylloides (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino
スミレ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともに多くない。

分布

国内分布は、本州～九州。県内分布は大野市、福井市、小浜市、おおい町。

種の特徴

山地の森林の林縁や草原に生える。葉は3裂、2側片はさらに基部より2裂、各裂片はさらに細裂する。花期の葉は長さ3～6cm、開花後は10cmぐらいに伸びる。花は径1.5cm程、エイザンスミレに比して少し小さい。

生育を脅かす要因

植生遷移や開発による生育環境の消失や悪化、園芸採取。

参考文献 福井県植物研究会(1997)、畔上能力ほか(2013)、佐竹義輔ほか(1982b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○											○	○

アカネスミレ

Viola phalaecarpa Maxim.
スミレ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数ともあまり多くない。

分布

国内分布は、日本全土。県内分布は、大野市、福井市、あわら市、南越前町、越前町

種の特徴

日当たりのよい山地に生える。高さはほぼ10cm、全体に短毛がある。葉は卵形～狭卵形、長さ2～4cm、夏期には8cmほどになる。花は濃紅紫色～紅紫色。花弁は1～1.3cm、距の長さ6～8mmでやや細い。茜堇の名があるが変異があるが花色は変異がある。

生育を脅かす要因

植生遷移や開発による生育環境の消失や悪化、園芸採取等。

参考文献 福井県植物研究会(1997)、林弥栄・門田裕一(2009)、佐竹義輔・若杉孝生(1973)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○					○		○	○	○

メタカラコウ

Ligularia stenocephala (Maxim.) Matsum. et Koidz.
キク科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育環境の悪化で減少している。産地が限られる。

分布

本州から九州に分布。県内では奥越に分布する。

種の特徴

深山の沢沿いに生える多年生草本。高さ 0.6 ~ 1m。葉は三角状心形、長さ約 25 cm、長い柄がある。先は短く尖り、基部は左右に少し張り出す。花期は 7 ~ 9 月。頭花は黄色、総状につく。舌状化は 1 ~ 4 個。

生育を脅かす要因

林道工事、森林伐採、産地局限、自然遷移。

参考文献 清水建美ほか (2014)、福井県植物研究会 (1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

ミズキカシグサ

Rotala rosea (Poir.) C.D.K.Cook
ミソハギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

湿地開発や水田の乾田化による生育環境の消失や、農業の多用によって著しく減少した。1964 年以降の採集記録がない。

分布

本州から琉球に分布。県内では若狭町、おおい町、小浜市、南越前町、大野市で 50 年以上前の採集記録がある。

種の特徴

水田や湿地に生える一年生草本。茎は高さ 10 ~ 30 cm、よく分枝する。葉は対生し、披針形、長さ 0.6 ~ 2.5 cm、幅 2 ~ 5 mm。花期は 8 ~ 11 月。花は紅色、葉腋につく。蒴果は球形、直径約 2 mm、紅紫色。

生育を脅かす要因

産地局限、湿地開発、圃場整備、農業汚染。

参考文献 佐竹義輔ほか (1982b)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○			○								○	

ケゴンアカバナ

Epilobium amurense Hausskn.
アカバナ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道、本州（近畿地方以北）、四国に分布。県内では大野市での記録がある。

種の特徴

山地の谷沿いや湿った林床に生える小形の多年草。茎は高さ 20 ~ 30 cm 前後になる。イワアカバナに似るが、茎の 2 列の稜線上の屈毛が顕著である。葉は長楕円形~卵状披針形、脈上と縁に毛がある。7 ~ 9 月、淡紅色の花を咲かせる。

生育を脅かす要因

森林伐採、踏圧、生育地へのシカの分布拡大による食害。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミズユキノシタ

Ludwigia ovalis Miq.
アカバナ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

従来普通にみられたが、水田の乾田化、湿地環境の消失にともない減少した。

分布

本州～琉球に分布。県内ではおおい町、小浜市、若狭町、敦賀市、あわら市、越前市、南越前町、永平寺町、坂井市、福井市、大野市での記録がある。

種の特徴

水田や湿地に生える多年草。茎は大部分が泥の上を這い、長さ20～40cmになる。全体的に毛がなく、いちじるしく分枝する。葉は広卵形～楕円状卵形、薄く全縁。花期は7～10月。花は葉腋に単生し、淡黄緑色、花弁はない。

生育を脅かす要因

生育地の開発、土地造成、管理放棄。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○		○		○	○	○	○			○	○

ムクロジ

Sapindus mukorossi Gaertn.
ムクロジ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

庭園や神社などにしばしば植えられるが、自生のは少ないので要注目とした。

分布

本州（新潟県、茨城県以南）～琉球、小笠原に分布する。県内では高浜町、おおい町、小浜市、若狭町、越前町で確認されている。

種の特徴

落葉高木で、雌雄異株。葉は長さ30～70cm、幅7～20cm、小葉は4～8対あって狭長楕円形、無毛。花期は6月、花は黄緑色。果実は球形、黄色または黄褐色に熟し、径約2cm、基部に発達しない心皮が付く。種子は球形、径1cm内外、黒色でかたい。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○		○		○										

オオバボダイジュ

Tilia maximowicziana Shiras.
アオイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が3地区と限定され個体数も少ないので、今回要注目とした。

分布

北海道～本州（東北、北陸、関東北部）に分布する。県内では越前町、南越前町、池田町で確認されている。

種の特徴

落葉高木。若枝には淡黄褐色のやわらかい星状毛が密生する。葉柄は長さ4.5～7cm、灰白色の星状毛が密生する。6～7月、葉柄の基部側方から長さ6～10cmの花序を伸ばし、十数個の花を付ける。果実は球形または楕円形で、長さ10～15mm、灰白色の短軟毛が密生する。

生育を脅かす要因

産地限定、森林伐採。

参考文献 福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○	○	○								

ヒノキバヤドリギ

Korthalsella japonica (Thunb.) Engl.
ビャクダン科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区のみである。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

一部の常緑広葉樹に寄生する常緑低木。高さ5～20cm。茎は緑色で無毛、扁平で、古いものは両側に翼状に広がり、節が多数あり、節から折れやすい。対生する葉は小さな突起状で輪になって節を取り巻く。春～秋頃、節ごとに数個の小さな花を付ける。花は単性で雌雄同株。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989a）、福井県自然保護課編（2004）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ヒメタデ

Persicaria erectominor (Makino) Nakai
タデ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

生育地、個体数とも極めて少ないと判断されるが現在の分布情報が不足している。

分布

北海道～九州に分布する。県内では1933年に敦賀市で記録がある。

種の特徴

水湿地に生える一年生草本。茎の下部は地をはい、上部は直立して少数枝を分け、無毛で、高さ20～45cmになる。葉は短柄があり、広線形～長披針形、先は鋭形、表面は無毛か短毛があって、裏面は脈上に粗い短毛がある。花期は5～10月。総状花序をつける。

生育を脅かす要因

湿地開発、自然遷移の進行が生育を脅かす。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○											

ホソバノウナギツカミ

Persicaria praetermissa (Hook.f.) H.Hara
タデ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

以前に越前町、あわら市、坂井市で採集記録があるが、現在の生育状況が不明であるので、要注目とした。

分布

本州～九州に分布する。県内では越前町、あわら市、坂井市で記録がある。

種の特徴

池畔や河畔、田の畔等水辺に生える一年草。茎に逆刺があるタデ属の中では花が頭状に集まらず、穂状にまばらにつく特徴がある。地表を這う匍枝をだし、節から発根して広がる。浅い水路中に沈水状態で生育することもある。

生育を脅かす要因

湿地の開発、溜池や農業用水路の改変等による生育地喪失が生育を脅かす主要因と考えられる。

参考文献 北村四郎・村田源（2008）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○				○		○				

ネバリタデ

Persicaria viscofera (Makino) H.Gross var. *viscofera*
タデ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

以前に越前町、越前市、鯖江市、福井市、大野市で採集記録があるが、現在の生育状況が不明であるので、要注目とした。

種の特徴

山野の日当たりのよい場所に生える一年草。茎の上部の節間から粘液をだす。托葉鞘の縁には長い毛がある。花序は長さ3～5 cmで、淡紅色か緑白色の花をまばらにつける。

分 布

北海道～九州に分布する。県内では越前町、福井市、越前市、大野市、鯖江市で記録がある。

生育を脅かす要因

植生遷移の移行、造成工事等による生育環境の悪化。

参考文献 林弥栄・平野隆久（1989）、北村四郎・村田源（2008）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
							○					○		○		○	○

ニオイタデ

Persicaria viscosa (Buch.-Ham. ex D.Don) H. Gross ex T.Mori
タデ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

要注目とされた前回調査では勝山市、あわら市、福井市で生育が確認されたが、今回調査では、生育状況が不明であるので、引き続き要注目とした。

種の特徴

原野に生える大型の一年草で高さ1～1.5 mになる。托葉鞘は筒型で長い毛が多い。茎や葉、葉柄に粗い開出葉の他に黄色の短い線毛が密生し、よい香りがする。

分 布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では福井市、勝山市、大野市で記録がある。

生育を脅かす要因

草地の開発や植生遷移の進行が生息を脅かす主要因である。

参考文献 林弥栄・平野隆久（1989）、北村四郎・村田源（2008）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	○

モウセンゴケ

Drosera rotundifolia L.
モウセンゴケ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

湿地の開発等による生育環境の消失や悪化のほか、園芸採取により減少している。

種の特徴

日当たりの良い湿地に生える多年草。根出葉の葉身は長さ5～10 mm、裏面に長い消化腺毛があり、基部は細くなって柄になり、その基部に縮れた褐色の毛がある。6～8月頃、高さ6～20 cmの花茎が出て、総状花序が付く。花序には数個の花が片側に付く。花弁は白色。

分 布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の開発等による生育環境の消失や悪化。山野草マニアによる園芸目的の採取。

参考文献 佐竹義輔ほか（1982b）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○

フシグロセンノウ

Silene miqueliana (Rohrb.) H. Ohashi et H. Nakai
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

個体数が減少傾向にある。

分布

本州～九州に分布。県内では若狭町、美浜町、越前市、勝山市、大野市での記録がある。

種の特徴

山地の林床に生育する多年草。茎は直立し高さ 50～80 cm、上部で分枝し、節部はややふくらみ黒褐色になる。葉は対生、卵形～長楕円状披針形で長さ 5～14 cm。花期は 7～10 月。花弁は朱赤色、5 枚、ほぼ全縁で長さ 2.5～3 cm。

生育を脅かす要因

園芸採取、シカ食害、森林伐採。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○								○			○	○	

シラオイハコベ

Stellaria fenzlii Regel
ナデシコ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では大野市での記録がある。

種の特徴

亜高山帯の常緑針葉樹林下の岩上に生える多年草。茎は直立し高さ 15～35 cm、節に短い毛があり、上部は分枝する。葉は広披針形～披針形、無柄。6～8 月、直径約 7 mm の花が頂生の集散花序につく。花弁は白色で 2 深裂し萼片よりも短い。

生育を脅かす要因

踏圧。温暖化の進行に伴う生育環境の悪化。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヤナギイノコヅチ

Achyranthes longifolia (Makino) Makino
ヒユ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内 7 地区で生育するが環境の改変で絶滅が危惧される。今回新たに要注目とした。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では敦賀市、あわら市、越前市、永平寺町、坂井市、福井市、大野市で確認されている。

種の特徴

山地の林床に生える多年草。根は塊状で木質になる。茎は四角形で節はしばしば肥大し、まばらに分枝し、高さ 1m ほどで全体に毛は少ない。葉は披針形～広披針形、長さ 10～20 cm、幅 2～5 cm、表面に光沢があり、薄くて柔らかい。花期は 8～9 月。花穂は広く開出。

生育を脅かす要因

山地開発、自然遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○				○	○	○	○			○	○

ホソバハマアカザ

Atriplex patens (Litv.) Iljin
ヒユ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では7地区で確認されているが、生育地の改変等で絶滅が危惧されるので、今回要注目とした。

分布

北海道、本州、四国、に分布する。県内では高浜町、おおい町、小浜市、美浜町、敦賀市、坂井市、福井市で確認されている。

種の特徴

海岸または内陸の砂地に生える一年草。葉は細長く、長披針形～長線形、縁は全縁か多少波状の歯牙があり、深緑色、長さ2～10 cm、幅1.5～15 mm。花期は8～10月。種子は円形、黒色で光沢があり、径1.2～1.5 mm。果期はハマアカザより遅い。

生育を脅かす要因

海岸開発、自然遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○	○	○	○	○					○						○

カワラアカザ

Chenopodium acuminatum Willd. var. *vachelii* (Hook. et Arn.) Moq.
ヒユ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では海岸等に生育し、4地区で確認されている。環境の改変等により絶滅が危惧されるので今回要注目とした。

分布

本州～九州に分布する。県内では高浜町、越前町、坂井市、福井市で確認されている。

種の特徴

海岸や川原に生える一年草。マルバアカザによく似ているが、茎は直立し、枝も上向きで、葉は細く広線形～長卵形。花期は7～10月。花序は細くて、ほとんど枝をわけない。種子は一部が深く湾入して、嘴状となり、長さ1.3～1.5 mm、幅0.9～1.5 mm。

生育を脅かす要因

海岸開発、自然遷移。

参考文献

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○				○				○						○

マルミノヤマゴボウ

Phytolacca japonica Makino
ヤマゴボウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

種の特徴

山地に生える多年草。太い根がある。茎は太く、高さ1m以上になる。葉は無毛で、柄は長さ1.5～3 cm、葉身は長さ15～30 cm、幅5～10 cm。6～9月頃、直立した花序に、径約8 mmの淡紅色を帯びた花が付く。

生育を脅かす要因

森林伐採、植生遷移等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献

佐竹義輔ほか（1982b）、福井県自然保護課編（2004）、北村四郎・村田源（2008）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○			○						○						

リュウキュウマメガキ

Diospyros japonica Siebold et Zucc.
カキノキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は16箇所である。前回の調査では取り上げられなかったが、県内の個々の生育地での個体数は少ないため、要注目とした。

種の特徴

山地に生える落葉高木。葉は裏面が灰白色をおび、若い時に毛があるが、のちに無毛となる。葉身の基部はやや円形。葉柄は1～3cmと長い。果実は球形、直径1.5～2cm、黄色に熟し、霜にあうと黒紫色となる。

分布

本州（関東地方以西）～琉球に分布する。県内では、あわら市、永平寺町、福井市、敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の森林の開発。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○	○	○				○			○				○

クロバイ

Symplocos prunifolia Siebold et Zucc.
ハイノキ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では稀産種で、現在知られている生育地は1地区のみである。

種の特徴

山地に生える常緑高木。葉は革質、濃緑色で光沢があり、長さ4～10cm、幅2～4cm、両面ともに無毛。葉柄は長さ約1cm、ふつう紫褐色を帯びる。4～5月頃、前年枝の上部の葉腋に長さ3～7cmの花序が出て、径約8mmの白色の花が付く。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布。県内では嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

森林伐採等による生育環境の消失や悪化のほか、産地に限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1989b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
				○													

コアブラツツジ

Enkianthus nudipes (Honda) Ohwi
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は5箇所である。主に太平洋側にみられ、県内の生育地は分布の限界と考えられる。生育状況は維持されているが、県内での生育地は限られており、要注目とした。

種の特徴

山地の尾根に生える落葉低木。高さ1～2m。葉は枝先に集まって互生し、葉柄は無毛または少し毛があり、葉身は倒卵形または倒卵状楕円形。5月中旬～6月下旬頃、枝先に総状花序を下垂し、3～9個の花をつける。花冠は緑白色、つぼ形、裂片は反曲する。

分布

本州（静岡県、愛知県、紀伊半島）、四国に分布。県内では、大野市で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の開発。登山道整備への注意が必要である。

参考文献 佐竹義輔（1989b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

オオバツツジ

Rhododendron nipponicum Matsum.
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は9箇所である。県内の生育地は分布の南限と考えられる。県内での生育地は限られているため、要注目とした。

種の特徴

深山の湿った低木林内や湿原に生える落葉低木。高さ1~2m。葉は薄く、大きく、枝先に集まってつき、無柄。7~8月頃、枝先の1個の花芽から5~10個の花をやや散形状に開く。花冠は黄白色で先は赤色を帯び、筒形。雄蕊は10本。

分布

本州（秋田県~福井県の日本海側）に分布。県内では、坂井市、勝山市、大野市、南越前町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地の開発。植生遷移による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔（1989b）、福井県植物研究会（1999）、福井県樹木誌（2011）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
								○			○				○	○	

アラゲナツハゼ

Vaccinium ciliatum Thunb.
ツツジ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

既知の生育地点は2か所である。県内の生育地は分布の北東限と考えられる。前回の調査では取り上げられなかったが、今回、新たな標本が確認された。カテゴリーを判断するための情報が不足しているため、要注目とした。

種の特徴

低地の森林の林縁に生える落葉低木。高さ約2m。葉柄はごく短く、短毛がやや密に生える。葉は広楕円形、裏面全体にあら毛がやや密に生える。5~6月頃、若枝の先に細い総状花序を伸ばし、下向きに多数の花をつける。花冠は鐘形、浅く5裂し、先は反曲する。

分布

本州（福井県以西の日本海側）に分布。県内では、永平寺町、若狭町で確認されている。

生育を脅かす要因

生育地である森林の開発。植生遷移による生育環境の悪化。

参考文献 佐竹義輔（1989b）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○									○							

ナンバンギセル

Aeginetia indica L.
アカネ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

ススキ草原の減少とともに、減少傾向にある。

種の特徴

ススキやミョウガなどの単子葉植物の根に寄生する一年生草本。茎は短く、ほとんど地上に出ず黄褐色。葉腋から長さ5~30cmの花柄を1~8本伸ばし、その先に淡紫紅色の筒状花が横向きに開く。花期は8~9月。

分布

北海道~琉球に分布。県内では若狭町、美浜町、敦賀市、あわら市、鯖江市、福井市、大野市での記録がある。

生育を脅かす要因

草地開発、植生遷移。

参考文献 福井県植物研究会（1997）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○		○							○	○		○	○

オオキヌタソウ

Rubia chinensis Regel et Maack f. *mitis* (Miq.) Kitag.
アカネ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内ではもともと個体数が少ない。

種の特徴

山地の林床に生える高さ 30～60 cm の多年草。匍匐する長い地下茎を持つ。茎は 4 稜があり無毛。葉は狭卵形～広披針形で、4 枚が輪生する。葉脈が目立ち、短い柄がある。5～7 月、茎の先や葉腋に集散花序をつける。花冠は緑白色で径 3～4 mm。液果は黒く熟す。

分 布

北海道～九州に分布。県内では永平寺町、池田町、福井市、勝山市、大野市での記録がある。

生育を脅かす要因

シカ食害、森林伐採。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○	○					○	○	○

オオアカネ

Rubia hexaphylla (Makino) Makino
アカネ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

産地局限。

種の特徴

山地帯を中心として森林の林縁に稀にみられるつる性の多年草。茎は 4 稜があり、稜上に下向きの刺がある。葉は 3 角状卵形で薄く、ふつう主軸に 6～8 枚、枝には 4 枚が輪生する。8 月、葉腋から集散花序を伸ばし、花径約 3 mm の黄緑色の目立たない花をつける。

分 布

本州（中部地方）、九州（北部）に分布。県内では大野市での記録がある。

生育を脅かす要因

森林伐採。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒナギキョウ

Wahlenbergia marginata (Thunb.) A.DC.
アカネ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地は限られ、個体数も少ない。

種の特徴

低山や原野の日当たりの良い草地に生える多年草。茎はやや分枝し、高さ 20～40 cm になる。葉は全縁または波状の鋸歯があり、茎の下部ではへら形または倒披針形、上部では線状披針形。5～8 月、約 20 cm の長い柄の先に淡青色の小さな花を 1 個ずつ上向きにつける。

分 布

本州（関東地方以西）～琉球、小笠原に分布。県内ではおおい町、小浜市、若狭町、美浜町、あわら市、永平寺町、坂井市、福井市での記録がある。

生育を脅かす要因

植生遷移、土地造成。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○					○	○		○				○

イヨカズラ

Vincetoxicum japonicum (C.Morren et Decne.) Decne.
キョウチクトウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内でこれまで確認されている生育地は1か所である。品種のクロバナイヨカズラは県内2か所で確認されている。フナバラソウとの雑種と考えられる集団があり、さらなる調査が必要である。

種の特徴

海岸近い草地や疎林に生える多年生草本。茎は直立し高さ30～80cm。葉は対生し、楕円形で長さ3～10cm。花期は5～7月に葉の脇に散形花序をだし、径8mmくらいの淡い黄色の花をつける。花冠は5つに裂けて平らに開く。

分布

本州～九州に分布する。県内では坂井市で確認されている。また、品種のクロバナイヨカズラは高浜町、坂井市で確認されている。

生育を脅かす要因

海岸開発、土地造成による生育地の消失、また自然遷移の進行が生育地、個体数とも減少させる要因となっている。

参考文献 若杉孝生 (2008a)、佐竹義輔ほか (1981)、福井県自然保護課編 (2004)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
			○								○						

マメダオシ

Cuscuta australis R.Br.
ヒルガオ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠA類

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

種の特徴

日当たりの良い野原や海岸に生えるつる性の寄生植物。茎は細く糸状で寄主からみつき、黄色を帯びる。7～10月頃、無柄の花が数個束生する。花冠は長さ約2mmで、5裂する。

分布

北海道～九州に分布。県内では嶺北地方の一部及び嶺南地方の一部で確認されている。

生育を脅かす要因

土地造成等による生育環境の消失や悪化のほか、産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか (1981)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○										○	

アワゴケ

Callitriche japonica Engelm. ex Hegelm.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

小さな植物で確認記録も少なく、情報が不足している。

種の特徴

日陰の湿気のあるところに生える一年草。茎は長さ1～4cm、根本から分枝して広がり、所々から根を出す。葉は対生し、倒卵形、3本の脈が平行に走り、長さ2～5mm、幅1～3mmと小さい。花期は5～6月。葉腋に1花をつける。

分布

本州（栃木県以西）～琉球に分布し、県内一円で記録がある。

生育を脅かす要因

管理放棄による遷移の進行。

参考文献 福井県植物研究会 (1998)

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○		○			○					○				○	○

トウオオバコ

Plantago japonica Franch. et Sav.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限定されており、個体数も少ない。

分 布

本州～九州に分布し、県内の海岸で確認されている。

種の特徴

海岸の草地に生える多年草。オオバコに比べ全体に大型で、葉身は長さ8～25 cm、幅5～18 cm、葉柄は長さ3～20 cm。花期は7～8月。花茎は長さ40～80 cm、1～5個伸ばす。

生育を脅かす要因

海岸の開発。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
		○				○	○		○		○		○				○

ヒヨクソウ

Veronica laxa Benth.
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。

分 布

北海道（西南部）、本州、四国に分布し、県内一円の低地から亜高山で確認されている。

種の特徴

日当たりのよい草地に生える多年草。茎は高さ25～70 cm、やや密に軟毛がある。葉は対生し、長さ2～4.5 cm、幅1～3 cm、上部のものほど大きく、両面に軟毛がある。花期は6～7月。上部の葉腋から長さ5～20 cmの花序を出し、淡紅紫色～淡青紫色を多くつける。

生育を脅かす要因

生育地となる草地の管理放棄。

参考文献

福井県植物研究会（1997）

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○	○					○				○	○

ミヤマクワガタ

Veronica schmidtiana Regel subsp. *senanensis* (Maxim.) Kitam. et Murata
オオバコ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

奥越の亜高山の一部で記録されているが、ここ50年確認されていない。

分 布

本州中部の高山などに分布する。県内では大野市の三ノ峰で1962年に確認されている。

種の特徴

ブナ帯以上の山地～高山の岩礫地に生える多年草。茎は高さ10～25 cm、まばらに毛がある。葉は対生して下部に集まり、葉身は卵状長楕円形、長さ1～3 cm、幅0.5～1.5 cm。葉柄は長さ1.5～5 cm。花期は7～8月。花冠は深く4裂し、青紫色～紅紫色、濃いすじがある。

生育を脅かす要因

産地局限。

参考文献

市 町 別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒナノウスツボ

Scrophularia duplicatoserrata (Miq.) Makino
ゴマノハグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ないと判断されるが現在の分布情報が不足している。

分布

本州（関東地方以西）～九州に分布する。県内では若狭町、小浜市、敦賀市、福井市、勝山市、大野市で確認される。

種の特徴

山地の林中に生える多年生草本。地下茎は肥大し細い根を出す。高さ0.4～1mになる。葉は対生し、やや翼のある長さ1～3cmの柄があり、卵状楕円形で長さ6～11cm。茎の先の円錐花序にまばらに花をつける。花柄には腺毛が生える。花冠は暗紫色、花期は7～9月。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移の進行。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○				○	○									○	○	○

オオヒナノウスツボ

Scrophularia kakudensis Franch.
ゴマノハグサ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ないと判断されるが現在の分布情報が不足している。

分布

北海道（南部）～九州に分布する。県内では若狭町、越前町、越前市、南越前町、池田町、福井市、大野市で確認される。

種の特徴

日当たりの良い草地や森林の林縁に生える多年生草本。茎は角張った4稜があり、高さ1mほどになる。葉は対生しやや厚く、長卵形、鋸歯がある。花期は8～9月。茎の先によく分枝する円錐花序をつくり、多くの花を開く。

生育を脅かす要因

森林伐採、自然遷移の進行。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○						○	○	○			○				○	○

ミヤマウツボグサ

Prunella vulgaris L. subsp. *asiatica* (Nakai) H.Hara var. *aleutica* Fernald
シソ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

生育地、個体数とも少ない。

分布

北海道～本州（中部地方以北）に分布。県内では嶺北地方の一部で確認されている。

種の特徴

高山の草原に生える多年草。高さ10～30cm。やや小型で走出枝がない。葉柄は長さ1～3cm。7～8月頃、茎頂に短い密な花穂を出し、長さ1.5～2cmの紫色の花が付く。

生育を脅かす要因

産地が限られていることによる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）、清水建美（2002）

市町別生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○						○		

ミヤマコゴメグサ

Euphrasia insignis Wettst. subsp. *insignis* var. *insignis*
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

分布が局限し、生育地、個体数とも極めて少ないと判断されるが、情報不足。

分布

本州（中部地方）に分布する。県内では敦賀市、南越前町、池田町、大野市で確認されている。

種の特徴

高山の草地に生える一年生草本。茎は直立し、高さ6～20cm、白毛がある。葉は倒卵形またはへら状、対生で長さ6～12mm。花期は7～9月、上部の葉腋に1花をつける。花弁は白色で淡紫色を帯びる。

生育を脅かす要因

産地の局限と温暖化、自然遷移の進行が生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○		○	○							○	

シオガマギク

Pedicularis resupinata L. subsp. *oppositifolia* (Miq.) T.Yamaz.
ハマウツボ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

大部分の生育地で生育環境が悪化し、生育地、個体数ともに減少傾向にあると判断されるが、情報不足。

分布

北海道～九州に分布する。県内では嶺南、嶺北、奥越地方で自生が確認されている。

種の特徴

山の日当たり良い草地に生える多年生草本。茎は高さ25～60cm、葉は下部ものは対生、中部以上は互生。花期は8～9月。茎や枝の上部に広卵形で、苞葉状の小さな葉が密につき、その腋に花をつける。花冠は紅紫色で、長さ2cmになり、一方にねじれて2裂した唇形になる。

生育を脅かす要因

人間の生活域の近くに分布するため生育地が土地造成などの開発の対象となりやすい。また自然遷移の進行も生育を脅かす要因となる。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、福井県自然保護課編（2004）、福井県植物研究会（1998）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○		○			○						○	○	○

サワシロギク

Aster rugulosus Maxim.
キク科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では1箇所での確認記録しかない。

分布

本州～九州に分布。県内では勝山市で確認されている。

種の特徴

日当たりの良い湿原に生える多年草。茎は細く、高さ50～60cm。葉は線状披針形、まばらに鋸歯があるか全縁、表面の脈はへこむ。花期は8～10月。長い柄のある頭花を少数つける。舌状花は1列、白色のちに紅紫色を帯びる。

生育を脅かす要因

生育地である湿地の乾燥化、植生遷移。

参考文献

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○		

ホソバムカシヨモギ

Erigeron acer L. var. *linearifolius* (Koidz.) Kitam.
キク科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本の固有種で本県では稀である。

分布

本州、四国に分布する。県内では大野市に分布。

種の特徴

ムカシヨモギの一変種。下部の葉は線状披針形、中部の葉は線形。総苞は長さ 6 cm、片は粉状の細毛がある。

生育を脅かす要因

もともと個体数が少なく、生育環境の変化は県域での絶滅に直結する。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、加藤雅啓・海老原淳（2011）、北村四郎ほか（1957）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ミヤコアザミ

Saussurea maximowiczii Herder
キク科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内では生育地、個体数ともに少ない。

分布

本州～九州に分布する。県内では大野市、勝山市。

種の特徴

山地の森林の林縁や草原に生える。茎は高さ 50～150 cm。茎葉は互生、長楕円形、長さ 10～30 cm、羽状分裂。頭花は紅紫色、総苞は長さ 10～14 mm。片は 8 列。

生育を脅かす要因

登山道の整備等による生育環境の改変。

参考文献 佐竹義輔ほか（1981）、畔上能力ほか（2013）

市町別 生育情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
															○	○	

文献一覧

- 秋山茂雄, 1955. 極東亜産スゲ属植物. 北海道大学.
- 岩槻邦男 (編), 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社.
- 岩槻邦男・D. E. Boufford・大場秀章 (編), 2006. Flora of Japan vol. IIa. 講談社.
- 越前町立福井総合植物園編, 2011. 行幸啓記念 福井の樹木—福井県樹木誌一. 越前町.
- 大場秀章・若杉孝生・松本淳, 2010. 新品種ソメワケキンキマメザクラ. 植物研究雑誌, 85:1-64.
- 大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩 (編), 2015. 改訂新版日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 平凡社.
- 奥田重俊 (編著), 1997. 日本野生植物館. 小学館.
- 奥山春季, 1966. 日本高山植物図譜. 誠文堂新光社.
- 奥山春季, 1982. 原色日本野外植物図譜 1(新訂増補). 誠文堂新光社.
- 奥山春季, 1983. 原色日本野外植物図譜 2(新訂増補). 誠文堂新光社.
- 奥山春季, 1984. 原色日本野外植物図譜 3(新訂増補). 誠文堂新光社.
- 大塚孝一・渡辺隆一・井上健, 2002. 長野県で見いだされたザゼンソウ属 (サトイモ科) の 1 新種. 植物研究雑誌, 77(2): 96-100.
- 勝山輝男, 2005. 日本のスゲ. 文一総合出版.
- 加藤雅啓・海老原淳 (編). 国立科学博物館叢書 11 日本の固有植物. 東海大学出版会.
- Yuichi Kadota, 2004. A New Species of Saussurea (Asteraceae) from Honshu, Japan. 植物研究雑誌, 79:235-240.
- 門田裕一, 2013. 国立科学博物館植物研究部「日本のアザミ」(<https://www.kahaku.go.jp/research/db/botany/azami/>).
- 門田裕一, 2011. 本州産オウレン属 (キンポウゲ科) の 1 新種, キタヤマオウレン. 植物研究雑誌, 86:265-272.
- 門田裕一 (監修)・永田芳男 (写真)・畔上能力 (著), 2013. 山溪ハンディ図鑑 2 山に咲く花増補改訂新版. 山と溪谷社.
- 角野康郎, 1994. 日本水草図鑑. 文一総合出版.
- 北村四郎・村田源, 1961. 原色日本植物図鑑草本編 II. 保育社.
- 北村四郎・村田源, 1971. 原色日本植物図鑑木本編 I. 保育社.
- 北村四郎・村田源, 1979. 原色日本植物図鑑木本編 II. 保育社.
- 北村四郎・村田源・小山鐵夫, 1964. 原色日本植物図鑑草本編 III. 保育社.
- 北村四郎・村田源・堀勝, 1957. 原色日本植物図鑑草本編 I. 保育社.
- 倉田悟・中池敏之, 1979. 日本のシダ植物図鑑第 1 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1981. 日本のシダ植物図鑑第 2 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1983. 日本のシダ植物図鑑第 3 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1985. 日本のシダ植物図鑑第 4 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1987. 日本のシダ植物図鑑第 5 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1990. 日本のシダ植物図鑑第 6 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1994. 日本のシダ植物図鑑第 7 巻. 東京大学出版会.
- 倉田悟・中池敏之, 1997. 日本のシダ植物図鑑第 8 巻. 東京大学出版会.
- 小林幹夫・若杉孝生, 2012. 福井市で発見されたインヨウチク属の 1 新種エチゼンインヨウ (イネ科: タケ亜科). 植物研究雑誌, 87(4):229-235.
- 茂木透・勝山輝男・太田和夫・崎尾均・高橋秀男・石井英美・城川四郎, 2000a. 樹に咲く花離弁花 <1>. 山と溪谷社.
- 茂木透・勝山輝男・太田和夫・城川四郎・高橋秀男・吉山寛・石井英美, 2000b. 樹に咲く花離弁花 <2>. 山と溪谷社.
- 村田源・高原光・本城尚正, 1995. ゼンテイカの分布南限域における新産地. 植物分類・地理, 46:212-213.12.
- 齋藤芳夫・吉村洋子, 2013. タチシノブ (イノモトソウ科) の新品種エチゼンシノブについて. 植物地理・分類研究, 60(2):67-71.

- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1981. 日本の野生植物草本 III 合弁花類. 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物草本 I 単子葉類. 平凡社.
- 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫(編), 1982. 日本の野生植物草本 II 離弁花類. 平凡社.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(編), 1989a. 日本の野生植物木本 I. 平凡社.
- 佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫(編), 1989b. 日本の野生植物木本 II. 平凡社.
- 清水建美(編)・木原浩(写真), 2002. 山溪ハンディ図鑑 8 高山に咲く花. 山と溪谷社.
- 清水建美(編)・門田裕一(監修)・木原浩(写真), 2014. 山溪ハンディ図鑑 8 高山に咲く花増補改訂新版. 山と溪谷社.
- 杉本順一, 1979. 改訂増補日本草本植物総検索誌Ⅲシダ篇. 井上書店.
- 土屋和三, 2006. 三里浜ハマナス公園(福井市)の「絶滅危惧植物」ホソバイヌタデ自生地の保全と復元(予報). 福井総合植物園紀要, 4:67-71. 越前町.
- 中池敏之, 1982. 新日本植物誌シダ篇. 至文堂.
- 永田芳男(写真)・畔上能力(編), 1996. 山溪ハンディ図鑑 2 山に咲く花. 山と溪谷社.
- 鳴橋直弘, 1992. シロミノヤブヘビイチゴ. 植物地理・分類研究, 40:131-132.
- 鳴橋直弘・梅本康二・若杉孝生, 2000. オオユリワサビ, その生活と分類学的位置. 植物地理・分類研究, 48:141-148.
- 日本菌学会(編), 2013. 菌類の事典. 朝倉書店.
- 高橋秀男, 2006. テマリフジアザミー白山産フジアザミの一型. 植物研究雑誌, 81(2):121-123.
- 豊国秀夫(編), 1988. 山溪カラー名鑑日本の高山植物. 山と溪谷社.
- 橋本保, 1991. 野生ランカラー版. 家の光協会.
- 浜島繁隆・須賀英文, 2005. ため池と水田の生き物図鑑植物編. トンボ出版.
- 林弥栄(編), 2009. 山溪カラー名鑑日本の野草増補改訂新版. 山と溪谷社.
- 林弥栄(監修)・平野隆久(写真), 1989. 山溪ハンディ図鑑 1 野に咲く花. 山と溪谷社.
- 林弥栄(監修)・門田裕一(監修)・平野隆久(写真), 2013. 山溪ハンディ図鑑 1 野に咲く花. 山と溪谷社.
- 福井県自然環境保全調査研究会監修, 1999. 福井県のすぐれた自然植物編. 福井県.
- 福井県植物研究会(編著), 1997. 福井県植物図鑑 I 福井の野草(上). 福井県.
- 福井県植物研究会(編著), 1998. 福井県植物図鑑 II 福井の野草(下). 福井県.
- 福井県植物研究会(編著), 1999. 福井県植物図鑑 III 福井の樹木. 福井県.
- 福井県植物研究会(編著), 2000. 福井県植物図鑑 IV 福井のシダと海藻. 福井県.
- 福井県植物研究会(編著), 2001. 福井県植物図鑑 V 福井のコケと地衣・[補遺]. 福井県.
- 福井県福祉環境部自然保護課(編), 2004. 福井県の絶滅のおそれのある野生植物: 福井県レッドデータブック(植物編)2004. 福井県.
- 星野卓二・正木智美・西本真理子, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜. 平凡社.
- 前川文夫, 1971. 原色日本のラン—日本ラン科植物図譜. 誠文堂新光社.
- 矢原徹一(監修)・永田芳男(写真), 2003. レッドデータプランツ. 山と溪谷社.
- 矢原徹一・藤井伸二・伊藤元己・海老原淳(監修)・永田芳男(写真), 2015. 絶滅危惧植物図鑑レッドデータプランツ増補改訂新版. 山と溪谷社.
- 遊川知久(解説)・中山博史・鷹野正次・松岡裕史・山下弘(写真), 2015. 日本のランハンドブック 1 低地・低山編. 文一総合出版.
- 吉岡俊人・青山のぞみ, 2015. アゼオトギリ—絶滅まで 30 年の雑草—. 草と緑, 7: 48-57.
- 米倉浩司, 2003. オオユリワサビ(アブラナ科)の北限産地. 植物研究雑誌, 78:356-358.
- 若杉孝生, 2003. 阿哲地域要素からみた福井県の重要な植物—福井県植物図鑑の編集を終えて—(学会賞受賞記念講演要旨). 植物地理・分類研究, 51(2):103-112
- 若杉孝生, 2008a. 細井コレクションのなかの福井県フローラに寄与するいくつかの重要な資料について. 福井総合植物園紀要, 6:1-11.
- 若杉孝生, 2008b. 福井県越前町立福井総合植物園収蔵標本目録 I. 福井総合植物園紀要, 6:13-41.
- 若杉孝生, 2009. クロヤツシロランの形態と花. プラントピア友の会だより, 13
- 若杉孝生, 2011. 福井県フローラへの新追加 II. 福井総合植物園紀要, 7:49-54.

- 若杉孝生・鳴橋直弘, 1993. 幻の植物マルバクサイチゴを北陸で発見. 植物研究雑誌, 68(3):123-124.
- 若杉孝生・鳴橋直弘, 1993. イセハナビ属の1新種ユキミバナ. 植物地理・分類研究, 41:1-6.
- 若杉孝生, 1992. 新品種シロミノヤブヘビイチゴ(バラ科)足羽三山に産す. 福井市自然史博物館研究報告, 39:89-90.
- 若杉孝生, 1970. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第17号.
- 若杉孝生, 1971. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第18号.
- 若杉孝生, 1973. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第20号.
- 若杉孝生, 1974. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第21号.
- 若杉孝生, 1975. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第22号.
- 若杉孝生, 1977. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第24号.
- 若杉孝生, 1992. 福井市郷土自然科学博物館 植物同好会会報, 第39号.
- 渡辺定路, 2003. 福井県植物誌(改訂増補). 福井新聞社.